

おおあし

# 大芦 I 遺跡発掘調査報告書

ふるさと農道緊急整備事業大芦地区関連発掘調査

# 序

岩手県には縄文時代の遺跡を始めとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があります。これら先人が残した文化遺産を保存し、後世に伝えて行くことは、私達県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実も県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発の調和も、今日的な課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、ふるさと農道大芦線の建設に関連して平成9年度に行われた調査結果をまとめたものであります。

調査の結果、縄文時代晩期の捨て場から県内でも希少な製塩土器をはじめ、土器、石器、土偶などの多種多様な遺物が出土したほか、縄文時代早期の断層、江戸時代後半の製鉄遺構、墓域などが検出され、久慈地方の歴史を解明する上で貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助、ご協力を賜りました岩手県久慈地方振興局、久慈市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成11年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 船越 昭二

## 例 言

1. 本書は、岩手県久慈市夏井町字夏井21に所在する大芦 I 遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
2. 大芦 I 遺跡の岩手県遺跡台帳登録番号は J E 1 8 - 0 1 3 7、調査略号は O A I - 9 7 である。
3. 本遺跡の発掘調査は、ふるさと農道緊急整備事業大芦地区の新設工事に伴い、久慈地方振興局の委託を受け、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した緊急発掘調査である。
4. 野外調査期間、調査面積、担当者は以下の通りである。  
平成9年(1997年)4月10日～9月10日 3,120㎡ 高木 晃・鈴木浩二・中野敦夫
5. 室内整理期間、担当者は以下の通りである。  
平成9年(1997年)10月1日～平成10年(1998年)3月31日 高木 晃・鈴木浩二
6. 野外での遺構写真撮影は調査員、遺物写真撮影は当センター写真技師村田憲鴻・佐々木洋之が担当した。
7. 本書の執筆・編集・校正は高木が担当した。
8. 野外調査にあたり岩手県久慈地方振興局久慈土地改良事業所、久慈市教育委員会の御協力をいただいた。
9. 委託業務は以下の方々、機関に依頼した(敬称略)。  
鉄滓の分析及び付編報告書作成：岡原正明・伊藤俊治(川鉄テクノリサーチ株式会社)  
石器・石製品の石質鑑定：花崗岩研究会 琥珀製品の鑑定・保存処理：佐々木和久(久慈琥珀博物館)  
動物遺存体の鑑定：佐々木務(岩手県教育委員会) 基準点測量：株式会社ハイマーテック  
航空写真：東邦航空株式会社
10. 発掘調査、報告書作成にあたり、次の方々のご指導、御協力をいただいた(順不同、敬称略)。  
熊谷常正(盛岡大学) 小岩直人(富士大学) 会田容弘(鳴瀬町奥松島縄文村歴史資料館)  
佐々木勝・佐藤嘉広(岩手県教育委員会) 面代民義・千葉啓蔵・工藤 仁(久慈市教育委員会)  
鎌田祐二(宮古市教育委員会) 君島武史(北上市埋蔵文化財センター)  
酒井久男(種市町歴史民俗資料館) 玉沢重作(種市町文化財調査委員)  
下嶽岳芳(小久慈焼) 市川 宏(久慈市市川内科医院) 夏井熊太郎・夏井俊勝(久慈市夏井)
11. 野外調査参加者は以下の通りである(五十音順)。  
間 トシ 秋山良子 石宇サツ 石宇妙子 生田松男 大芦サカエ 大芦シラエ 大芦孝子 大芦ツヨ  
大芦トメ 大芦ヨシノ 大渡サタ 奥寺キミエ 川代叶次郎 川代サカエ 川代寿恵子 川代ソヨ  
川代タケ 川代福四 川代正子 倉野和子 小田栄悦 小田弘子 塩倉春枝 関根美智子 夏井キク  
二越カヨ 二越良子 三上隆子 三上ミツ 水堀節子 水堀フユ子 水堀義雄
12. 室内整理参加者は以下の通りである(五十音順)。  
浅沼孝子 浅沼直美 阿部典子 安海浩子 石川幸子 井上登美子 白井輝子 川村静子 才川恵美子  
穴戸君子 白澤真紀子 菅原久美子 高橋和恵 武田美智子 田村圭子 筒井律子 徳田房子  
中野崎真愉美 似内律子 沼田香織 長谷川優子 藤沢祝子 森より子 吉田順子 吉田とみ子  
吉田みさを
13. 本遺跡の出土遺物、記録類は岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。
14. 調査成果は現地公開資料、調査略報、岩手考古学会発表資料ほかに掲載してきたが、調査の内容は本書が優先する。

## 凡 例

### 1. 遺構図の用例は下記による。

- (1) 遺構実測図の縮尺は基本的には掘立柱建物跡が1/80、竪穴住居跡、竪穴状遺構、土坑が1/60、大鍛冶炉が1/40、竪穴住居跡の炉など細部、墓壙が1/30、土器埋設遺構が1/20である。
- (2) 遺構上端、下端等の推定線は破線で表した。
- (3) 層名は基本土層にローマ数字、各遺構埋土にアラビア数字を使用した。
- (4) 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
- (5) 断面図中の礫を「S」の略号で示した。
- (6) 焼土の強弱は熱変色の程度で区分し、スクリーントーンを使い分けた。
- (7) 第1図、第11図は国土地理院発行の20万分の1地勢図「八戸」、2万5千分の1地形図「大川目」、5万分の1地形図「久慈」「陸中大野」を使用して編集した。
- (8) 遺構図に使用したスクリーントーンの用例は下図に示した。

### 2. 遺物実測図の用例は下記による。

- (1) 縮尺は土器・陶磁器・礫石器・石棒類・金属製品・ガラス製品が1/3、剥片石器・土製品・石製品・銭貨が1/2、耳飾など小さい土製品が3/4を基本とした。
- (2) 挿図中の遺物実測図における遺物番号は1からの通し番号である。
- (3) 文様を拓本で表した土器実測図のうち、部位により複数の拓本を併用したものがある。
- (4) 石器におけるアスファルト付着部位は白ヌキの図に黒く範囲を表した。
- (5) 遺物図に使用したスクリーントーンの用例は下図に示した。

### 3. 写真図版の用例は下記による。

- (1) 遺物写真図版における遺物番号は実測図の番号と同一である。ただし、写真のみ掲載したものについては各図版毎にA・B・・・とアルファベットで示した。
- (2) 各遺物は概ね約1/3、銭貨は約2/3になるように編集している。



## 本文目次

序 例言 凡例	
目次 報告書抄録	
I 調査に至る経過 ……………1	3. 近世 ……………136
II 遺跡の立地と環境	(1) 大鍛冶炉 ……………136
1. 地理的環境 ……………10	(2) 集石遺構 ……………139
(1) 立地 ……………10	(3) 竪穴状遺構 ……………139
(2) 大芦地区の地形・地滑り痕 ……………10	(4) 土坑 ……………140
(3) 基本土層 ……………10	(5) 掘立柱建物跡 ……………149
2. 歴史的環境 ……………14	(6) 焼土遺構 ……………150
(1) 周辺の遺跡 ……………14	(7) 墓壙 ……………151
(2) 調査以前の出土遺物 ……………19	(8) 遺構外出土遺物 ……………160
III 調査と整理の方法	4. 近代 ……………167
1. 調査方法 ……………21	(1) 遺構外出土遺物 ……………167
2. 調査経過 ……………21	V 遺構、遺物の検討
3. 整理方法 ……………23	(1) 縄文時代の遺構 ……………170
IV 検出された遺構、遺物	(2) C区捨て場出土土器 ……………171
1. 縄文時代 ……………25	(3) 製塩土器 ……………172
(1) 竪穴住居跡 ……………25	(4) 近世製鉄遺構 ……………174
(2) 土坑 ……………32	(5) 近世掘立柱建物跡 ……………175
(3) 土器埋設遺構 ……………35	(6) 近世墓壙 ……………176
(4) C区捨て場 ……………35	(7) まとめ ……………177
(5) 遺構外出土遺物 ……………122	VI 付編 大芦 I 遺跡出土鉄滓・炉壁の
2. 弥生時代 ……………135	分析・調査 ……………235
(1) 遺構外出土遺物 ……………135	

## 表 目 次

第1表 3号住居跡柱穴規模 ……………27	第13表 遺物観察表(土器) ……………179
第2表 5号住居跡柱穴規模 ……………31	第14表 遺物観察表(製塩土器) ……………210
第3表 土坑付属ピット規模 ……………35	第15表 遺物観察表(石器) ……………211
第4表 C区捨て場包含層註記 ……………39	第16表 遺物観察表(土製品) ……………221
第5表 C区捨て場包含層堆積関係 ……………41	第17表 遺物観察表(石製品) ……………224
第6表 C区捨て場出土土器数量 ……………45	第18表 遺物観察表(陶磁器) ……………226
第7表 C区捨て場出土製塩土器数量 ……………93	第19表 遺物観察表(金属製品) ……………229
第8表 C区捨て場出土土器数量 ……………98	第20表 遺物観察表(銭貨) ……………230
第9表 鉄滓出土数量 ……………142	第21表 遺物観察表(羽口) ……………232
第10表 鍛造剥片出土数量 ……………145	第22表 遺物観察表(ガラス製品) ……………232
第11表 掘立柱建物跡柱穴規模 ……………150	第23表 琥珀観察表 ……………232
第12表 柱穴状ピット一覧表 ……………169	第24表 動物遺存体観察表 ……………233

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 ……………2	第37図 C区捨て場出土土器(15) ……………61
第2図 遺構配置図 ……………3	第38図 C区捨て場出土土器(16) ……………62
第3図 遺構配置図(拡大)① A区……………4	第39図 C区捨て場出土土器(17) ……………63
第4図 遺構配置図(拡大)② C・E区……………5	第40図 C区捨て場出土土器(18) ……………64
第5図 遺構配置図(拡大)③ E・F区……………6	第41図 C区捨て場出土土器(19) ……………65
第6図 遺構配置図(拡大)④ H区……………7	第42図 C区捨て場出土土器(20) ……………66
第7図 遺構配置図(拡大)⑤ J区……………9	第43図 C区捨て場出土土器(21) ……………67
第8図 基本土層 ……………11	第44図 C区捨て場出土土器(22) ……………68
第9図 地滑り痕断面 ……………12	第45図 C区捨て場出土土器(23) ……………69
第10図 周辺の遺跡(1)縄文・弥生……………15	第46図 C区捨て場出土土器(24) ……………70
第11図 周辺の遺跡(2)中・近世……………17	第47図 C区捨て場出土土器(25) ……………71
第12図 周辺出土遺物 ……………19	第48図 C区捨て場出土土器(26) ……………72
第13図 1・2号住居跡 ……………25	第49図 C区捨て場出土土器(27) ……………73
第14図 3・4号住居跡 ……………27	第50図 C区捨て場出土土器(28) ……………74
第15図 5号住居跡 ……………28	第51図 C区捨て場出土土器(29) ……………75
第16図 1・2・3号住出土遺物 ……………29	第52図 C区捨て場出土土器(30) ……………76
第17図 4・5号住出土遺物 ……………30	第53図 C区捨て場出土土器(31) ……………77
第18図 5号住出土遺物 ……………31	第54図 C区捨て場出土土器(32) ……………78
第19図 1～13号土坑 ……………33	第55図 C区捨て場出土土器(33) ……………79
第20図 土坑出土遺物 ……………34	第56図 C区捨て場出土土器(34) ……………80
第21図 1号土器埋設遺構 ……………35	第57図 C区捨て場出土土器(35) ……………81
第22図 C区捨て場平・断面図 ……………37	第58図 C区捨て場出土土器(36) ……………82
第23図 C区捨て場出土土器(1) ……………47	第59図 C区捨て場出土土器(37) ……………83
第24図 C区捨て場出土土器(2) ……………48	第60図 C区捨て場出土土器(38) ……………84
第25図 C区捨て場出土土器(3) ……………49	第61図 C区捨て場出土土器(39) ……………85
第26図 C区捨て場出土土器(4) ……………50	第62図 C区捨て場出土土器(40) ……………86
第27図 C区捨て場出土土器(5) ……………51	第63図 C区捨て場出土土器(41) ……………87
第28図 C区捨て場出土土器(6) ……………52	第64図 C区捨て場出土土器(42) ……………88
第29図 C区捨て場出土土器(7) ……………53	第65図 C区捨て場出土土器(43) ……………89
第30図 C区捨て場出土土器(8) ……………54	第66図 C区捨て場出土土器(44) ……………90
第31図 C区捨て場出土土器(9) ……………55	第67図 C区捨て場出土土器(45) ……………91
第32図 C区捨て場出土土器(10) ……………56	第68図 C区捨て場出土土器(46) ……………92
第33図 C区捨て場出土土器(11) ……………57	第69図 C区捨て場出土製塩土器(1) ……………94
第34図 C区捨て場出土土器(12) ……………58	第70図 C区捨て場出土製塩土器(2) ……………95
第35図 C区捨て場出土土器(13) ……………59	第71図 C区捨て場出土石器(1) ……………101
第36図 C区捨て場出土土器(14) ……………60	第72図 C区捨て場出土石器(2) ……………102

第73図	C区捨て場出土石器(3)	103	第99図	遺構外出土弥生土器	135
第74図	C区捨て場出土石器(4)	104	第100図	1・2号炉跡	136
第75図	C区捨て場出土石器(5)	105	第101図	3号炉跡	137
第76図	C区捨て場出土石器(6)	106	第102図	1・2号集石	139
第77図	C区捨て場出土石器(7)	107	第103図	1号竪穴状遺構・10号土坑	140
第78図	C区捨て場出土土製品(1)	110	第104図	炉・竪穴状遺構出土遺物	141
第79図	C区捨て場出土土製品(2)	111	第105図	鉄滓出土状況(1)A区	145
第80図	C区捨て場出土土製品(3)	112	第106図	鉄滓出土状況(2)C・E区①	146
第81図	C区捨て場出土土製品(4)	113	第107図	鉄滓出土状況(3)C・E区②	147
第82図	C区捨て場出土土製品(5)	114	第108図	鉄滓出土状況(4)H区	148
第83図	C区捨て場出土土製品(6)	115	第109図	1号掘立柱建物跡	149
第84図	C区捨て場出土土製品(7)	116	第110図	1号掘立柱建物跡出土遺物	149
第85図	C区捨て場出土土製品(8)	117	第111図	2・3号掘立柱建物跡	150
第86図	C区捨て場出土土製品(1)	119	第112図	焼土遺構	151
第87図	C区捨て場出土土製品(2)	120	第113図	墓壇(1)	153
第88図	C区捨て場出土土製品(3)	121	第114図	墓壇(2)	154
第89図	遺構外出土縄文土器(1)A区	124	第115図	墓壇出土遺物(1)	156
第90図	遺構外出土縄文土器(2)E・H区①	125	第116図	墓壇出土遺物(2)	157
第91図	遺構外出土縄文土器(3)H区②	126	第117図	遺構外出土陶器(1)	161
第92図	遺構外出土縄文土器(4)H区③	127	第118図	遺構外出土陶器(2)	162
第93図	遺構外出土縄文土器(5)H区④	128	第119図	遺構外出土磁器(1)	163
第94図	遺構外出土縄文土器(6)J区	129	第120図	遺構外出土磁器(2)	164
第95図	遺構外出土石器	131	第121図	遺構外出土金属製品(1)	165
第96図	遺構外出土土製品(1)	132	第122図	遺構外出土金属製品(2)	166
第97図	遺構外出土土製品(2)	133	第123図	遺構外出土ガラス製品	168
第98図	遺構外出土土製品	134			

## 写真図版目次

カラー写真図版 1	C区捨て場	259
カラー写真図版 2	近世製鉄遺構	260
カラー写真図版 3	捨て場出土縄文晩期土器	261
カラー写真図版 4	捨て場出土縄文晩期土器、土製品	262
カラー写真図版 5	製塩土器	263
カラー写真図版 6	近世陶器	264
カラー写真図版 7	近世陶器	265
カラー写真図版 8	近世磁器	266

写真図版1	空撮	267	写真図版33	C区捨て場出土土器(13)	299
写真図版2	土層断面(1)	268	写真図版34	C区捨て場出土土器(14)	300
写真図版3	土層断面(2)	269	写真図版35	C区捨て場出土土器(15)	301
写真図版4	1号住居跡	270	写真図版36	C区捨て場出土土器(16)	302
写真図版5	2・3号住居跡	271	写真図版37	C区捨て場出土土器(17)	303
写真図版6	3・4号住居跡	272	写真図版38	C区捨て場出土土器(18)	304
写真図版7	5号住居跡	273	写真図版39	C区捨て場出土土器(19)	305
写真図版8	土坑(1)	274	写真図版40	C区捨て場出土土器(20)	306
写真図版9	土坑(2)・土器埋設遺構	275	写真図版41	C区捨て場出土土器(21)	307
写真図版10	C区捨て場	276	写真図版42	C区捨て場出土土器(22)	
写真図版11	C区捨て場遺物出土状況(1)	277		・製塩土器(1)	308
写真図版12	C区捨て場遺物出土状況(2)		写真図版43	C区捨て場出土製塩土器(2)	309
	・土層断面	278	写真図版44	C区捨て場出土製塩土器(3)	310
写真図版13	遺構外遺物出土状況		写真図版45	C区捨て場出土製塩土器(4)	311
	・掘立柱建物跡	279	写真図版46	C区捨て場出土石器(1)	312
写真図版14	1・2号炉	280	写真図版47	C区捨て場出土石器(2)	313
写真図版15	3号炉・1・2号集石	<b>281</b>	写真図版48	C区捨て場出土土製品(1)	314
写真図版16	竪穴状遺構・墓壙(1)	282	写真図版49	C区捨て場出土土製品(2)	315
写真図版17	墓壙(2)	283	写真図版50	C区捨て場出土土製品(3)	316
写真図版18	墓壙(3)・焼土遺構		写真図版51	C区捨て場出土石製品	317
	・各区終了状況	<b>284</b>	写真図版52	遺構外出土縄文土器(1)	318
写真図版19	各区終了状況	285	写真図版53	遺構外出土縄文土器(2)	319
写真図版20	1・3・5号住居跡出土遺物	286	写真図版54	遺構外出土縄文土器(3)	320
写真図版21	5号住居跡・土坑		写真図版55	遺構外出土石器・土製品	321
	・土器埋設遺構出土遺物		写真図版56	遺構外出土石製品・弥生土器	322
	・C区捨て場出土土器(1)	287	写真図版57	鍛冶炉・竪穴状遺構	
写真図版22	C区捨て場出土土器(2)	288		・掘立柱建物跡出土遺物	323
写真図版23	C区捨て場出土土器(3)	289	写真図版58	墓壙出土遺物	324
写真図版24	C区捨て場出土土器(4)	290	写真図版59	遺構外出土陶器(1)	325
写真図版25	C区捨て場出土土器(5)	291	写真図版60	遺構外出土陶器(2)	326
写真図版26	C区捨て場出土土器(6)	292	写真図版61	遺構外出土磁器(1)	327
写真図版27	C区捨て場出土土器(7)	293	写真図版62	遺構外出土磁器(2)	
写真図版28	C区捨て場出土土器(8)	294		・銭貨・羽口	328
写真図版29	C区捨て場出土土器(9)	295	写真図版63	遺構外出土金属製品	329
写真図版30	C区捨て場出土土器(10)	296	写真図版64	墓壙・遺構外出土銭貨	330
写真図版31	C区捨て場出土土器(11)	297	写真図版65	遺構外出土ガラス製品	331
写真図版32	C区捨て場出土土器(12)	298	写真図版66	琥珀・炭化材・炭化種実	
				・アスファルト・粘土塊	332



報告書抄録

ふりがな	おおあしいちいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	大芦 I 遺跡発掘調査報告書							
副書名	ふるさと農道緊急整備事業大芦地区関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第306集							
編著者名	高木 晃							
編集機関	財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL(019)638-9001							
発行年月日	平成11年3月20日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
おおあしいち いせき 大芦 I 遺跡	いわてけん くじしなつ ちょうなつ 岩手県久慈市 夏井町夏井21		J E 1 8 -0137	40° 14'	141° 41'	19970410~ 19970910	3,120㎡	ふるさと 農道大芦 線新設工 事に伴う 緊急調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
大芦 I 遺跡	集落 跡	縄文時代	竪穴住居跡 5 棟 土坑 1 2 基 土器埋設遺構 1 基 捨て場 1 ヶ所	縄文時代早・前・中 ・後・晩期土器 (晩期前半主体) 土偶・土製品 石器・石製品	晩期捨て場の調査 製塩土器出土 早期以前の地滑り痕 確認			
		弥生時代		土器				
		近世 ～近代	大鍛冶炉 3 基 集石遺構 2 基 竪穴状遺構 1 基 土坑 1 基 掘立柱建物跡 3 棟 焼土遺構 4 基 墓壇 1 3 基	陶磁器・金属製品 鉄滓・羽口・琥珀 ガラス製品	大鍛冶炉の検出 近世小久慈焼出土			

## I 調査に至る経過

久慈市夏井町大芦地区から富原地区へ通じる農道は、農業用資材の搬出入、農産物の運搬道路として、また夏井町地区から大野村帯島地区へ通じる路線としての利用が増加している。しかし未舗装の路面、狭小な幅員、急カーブ、急勾配など未整備の現状で特に大型車の通行に著しく支障をきたしていた。このため路線延長1,359mを幅員5.0mに拡幅改良し地域の幹線道路として整備し、農作業の効率化、並びに生産性の向上を図るという目的で、「ふるさと農道緊急整備事業大芦地区」が施行された。

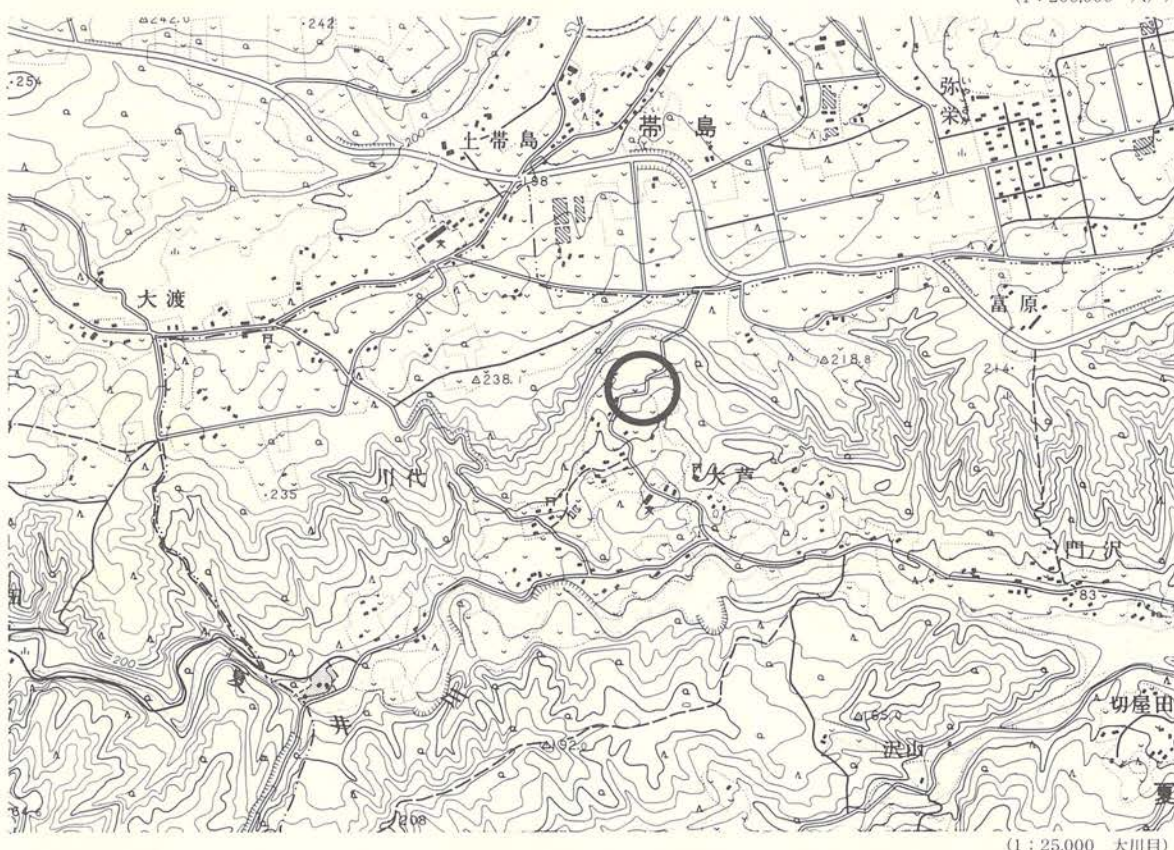
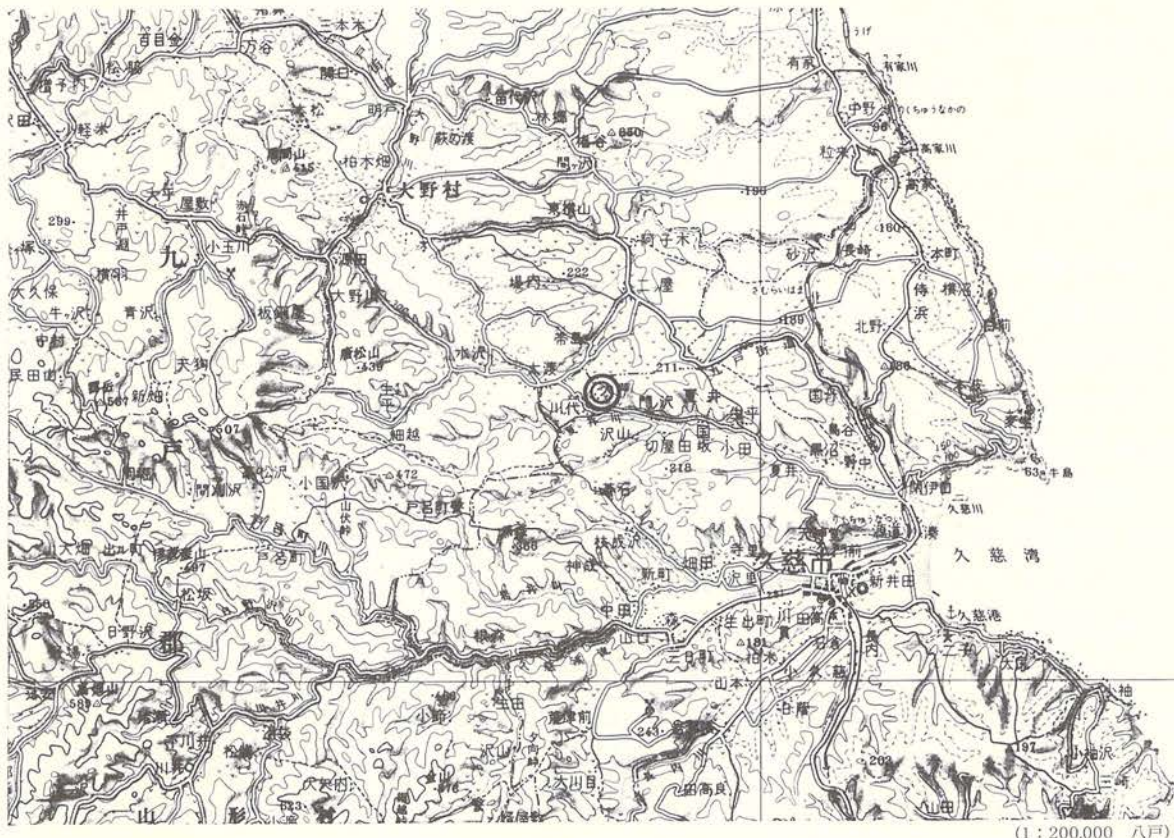
当事業の施行に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、調査担当公所である岩手県久慈地方振興局久慈土地改良事業所が岩手県教育委員会に対し、文化財保護法の規定により関係書類を添付して通知した（平成8年6月19日付け久土地第81号「埋蔵文化財発掘の通知について」）。

大芦集落の北側に位置する大芦Ⅰ遺跡では、昭和59年に久慈市教育委員会が実施した道路復旧工事に伴う確認調査の結果、縄文時代晩期の遺物包含層が良好な状態で残っていることが報告されていたが、当事業の工事施行範囲は遺跡内を縦断する設計となった。そのため、県教育委員会では工事施行前に確認調査（試掘調査）を実施すること、及び調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存について別途協議することを回答した（平成8年9月6日付け教文第7-108号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」）。

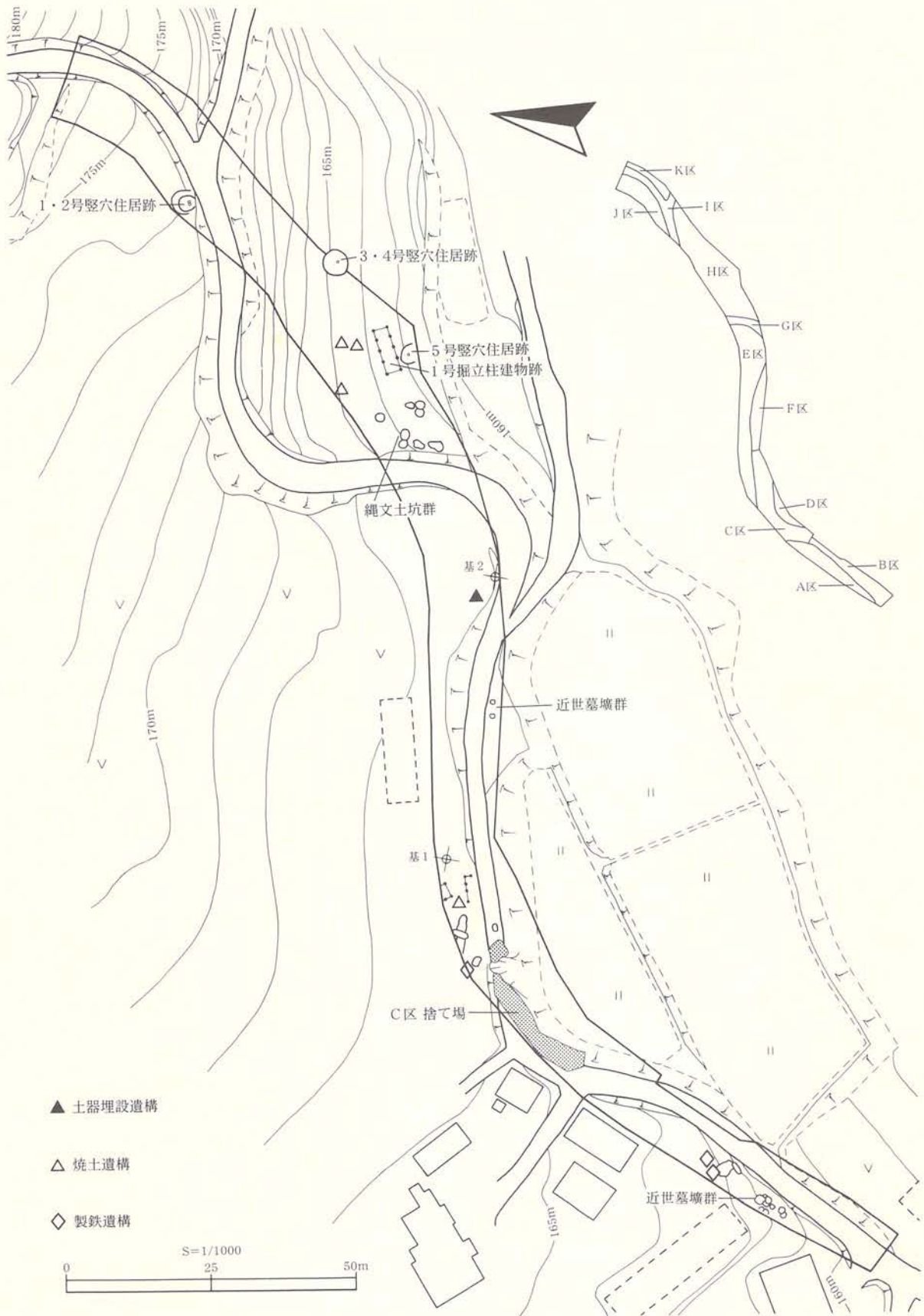
この回答を受けて久慈土地改良事業所では平成8年10月に県教育委員会に対し試掘調査の依頼を行った（久土地第81号「埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」）。平成8年10月21日～23日に行われた試掘調査により市教委調査地点の他にも埋蔵文化財の所在が確認され、施工区間のうち3,120㎡についての本調査が必要である旨が県教育委員会より回答された（平成8年10月31日付け教文第639号「ふるさと農道緊急整備事業大芦地区にかかる埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」）。

これを受けて久慈土地改良事業所では県教育委員会に対し発掘調査を依頼した。県教育委員会の調整により実際の調査は(財)岩手県文化振興事業団の平成9年度受託事業として行うことになった。久慈土地改良事業所と事業団の両者は平成9年3月に発掘調査に係る事前協議を行い、平成9年4月1日に岩手県久慈地方振興局長と(財)岩手県文化振興事業団理事長の間で契約を締結した。

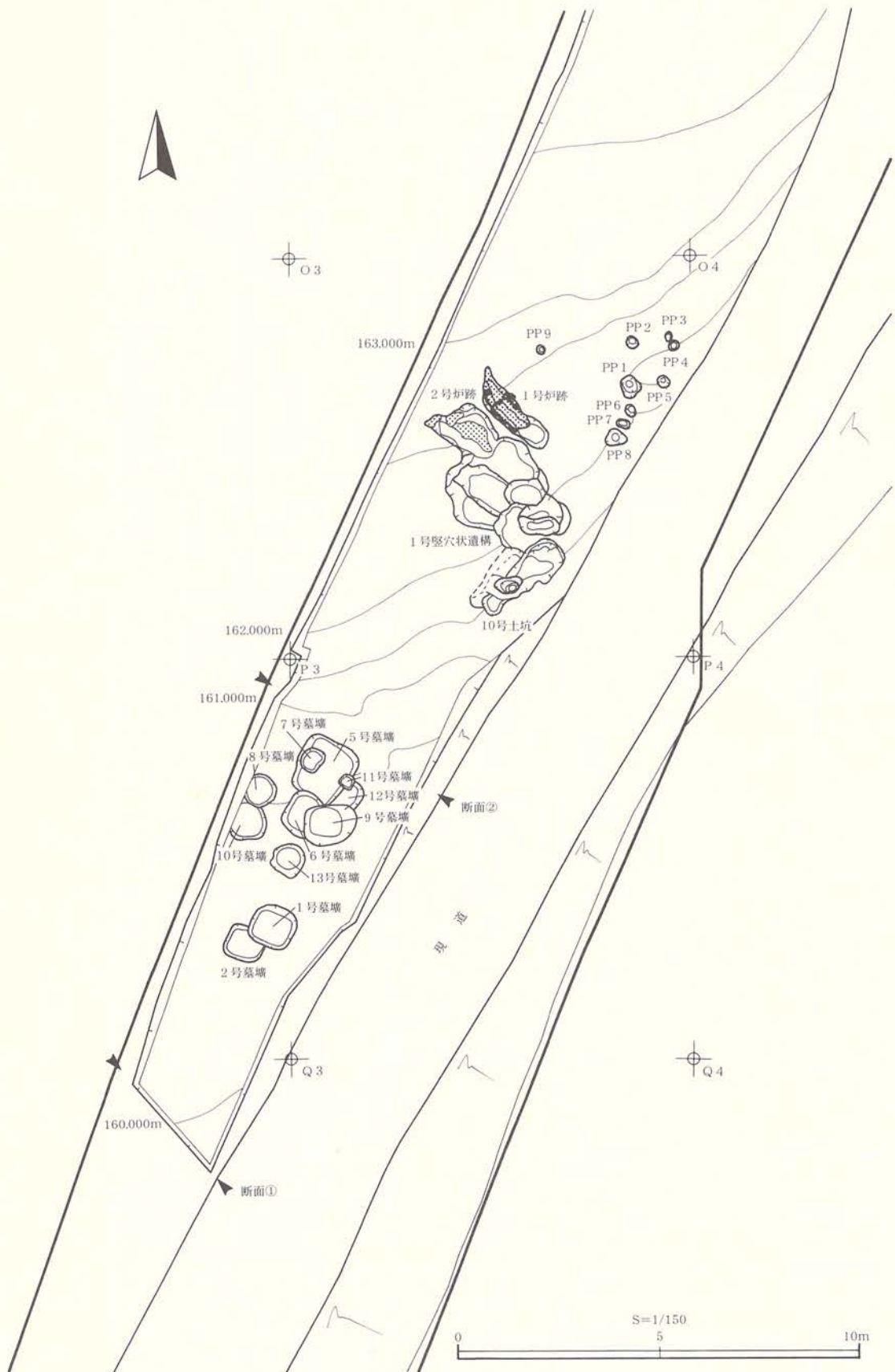
野外での発掘調査は平成9年4月10日～同年9月10日、報告書の作成に係る室内整理は発掘調査が終了後、同年10月1日～平成10年3月31日の間の6カ月間実施した。



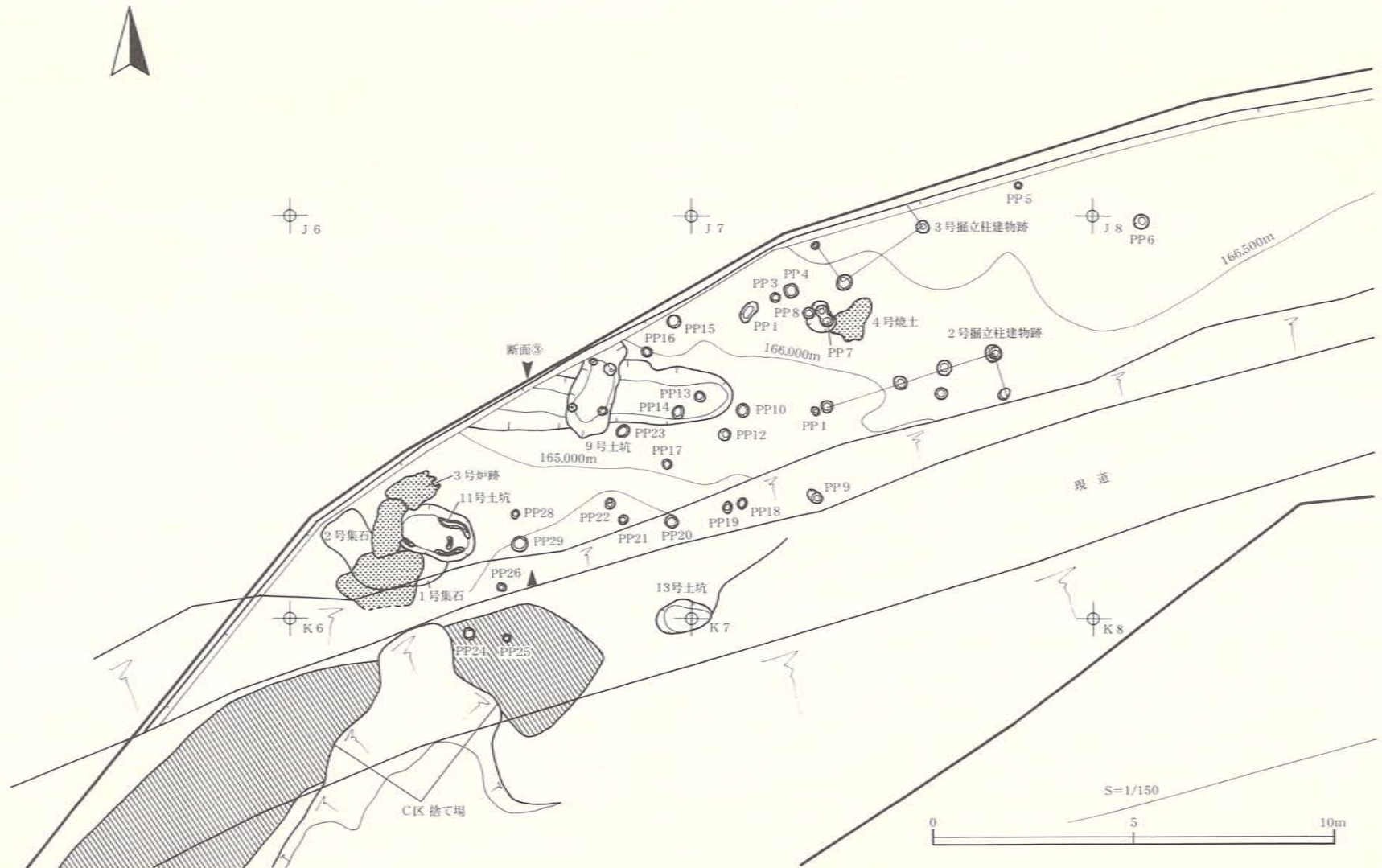
第1図 遺跡位置図



第2図 遺構配置図

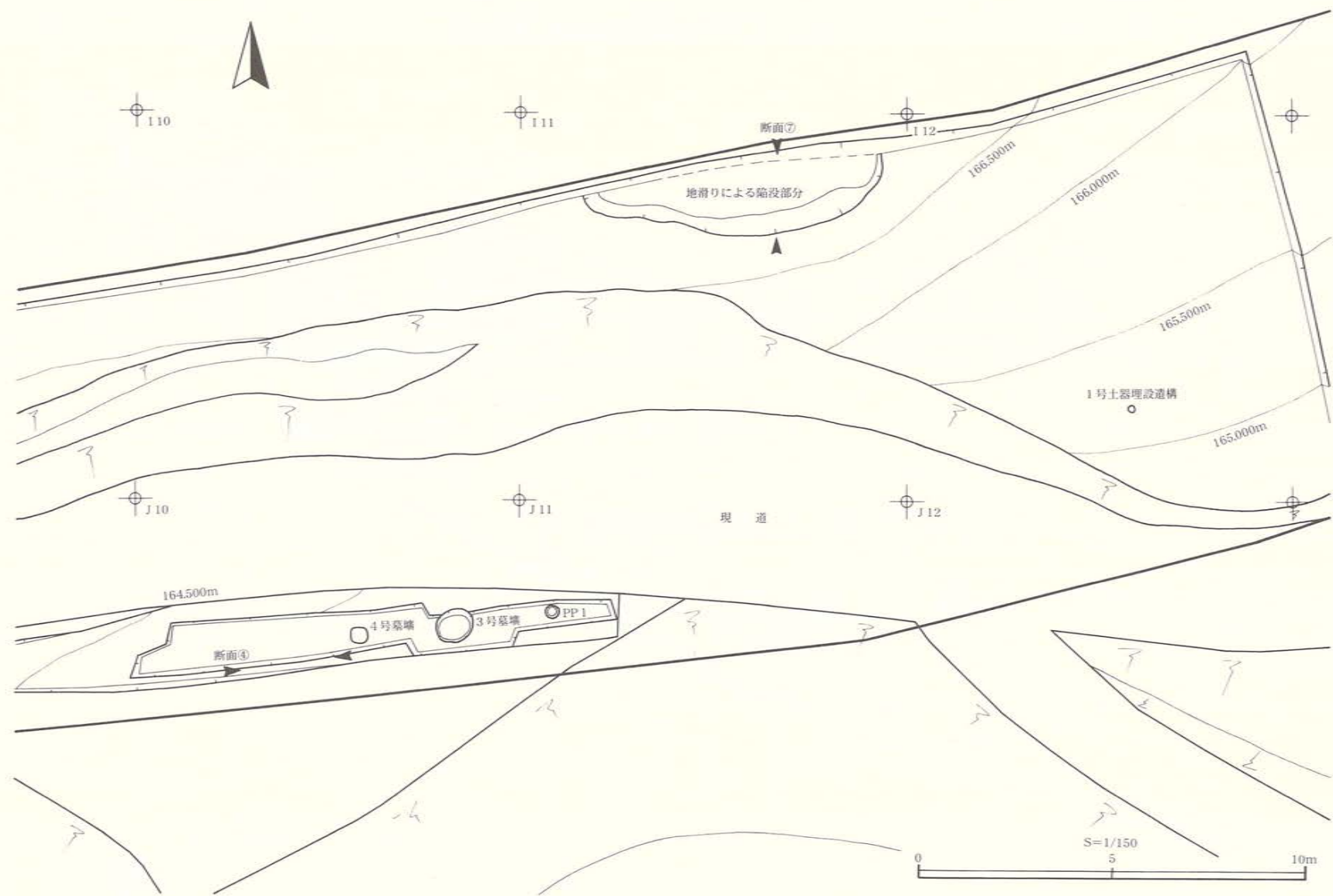


第3图 遺構配置图(扩大) A区



— 5 —

第4図 遺構配置図(拡大)② C・E区

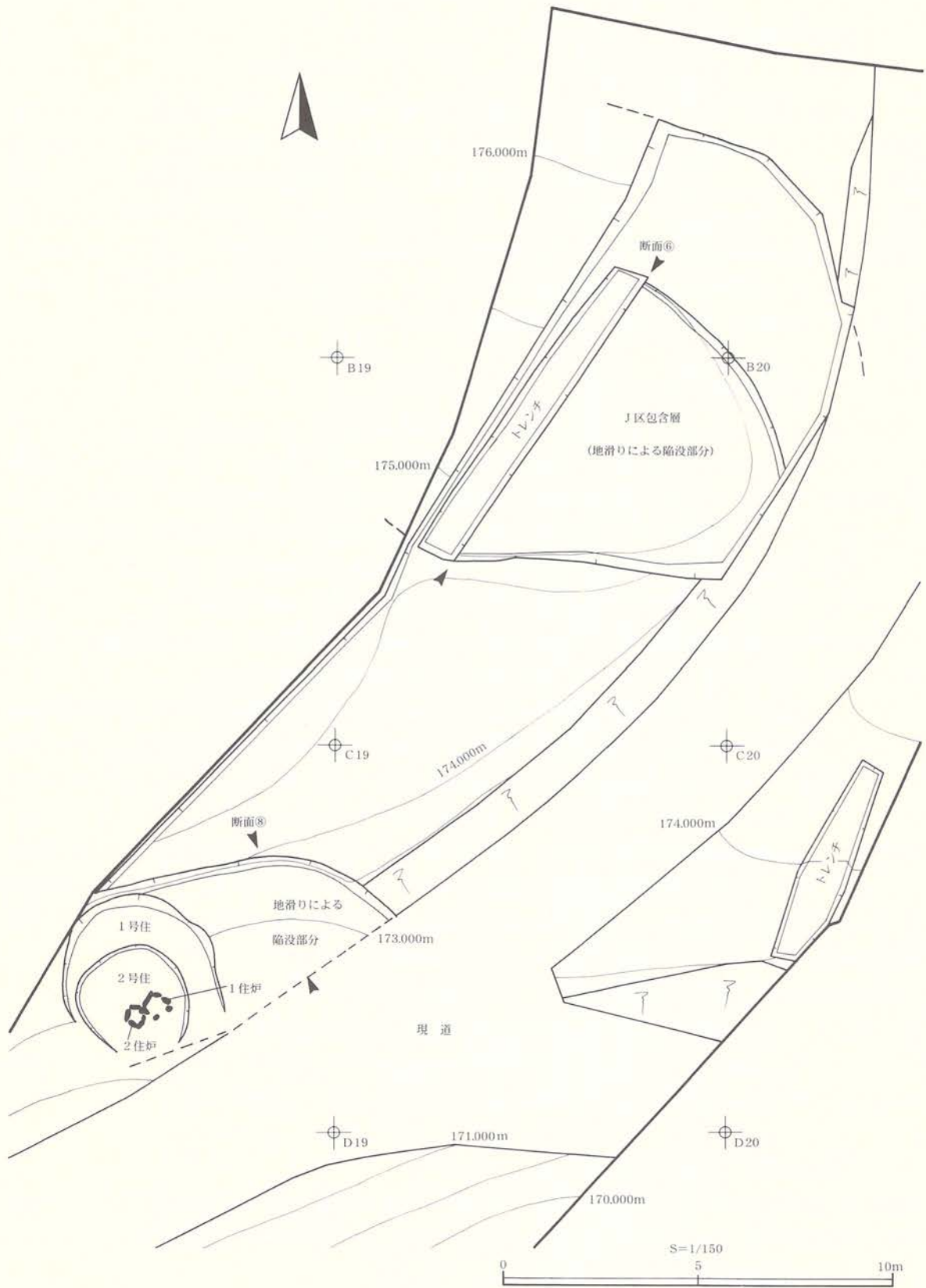


第5図 遺構配置図(拡大)③ E・F区



第6図 遺構配置図(拡大)④ H区





第7図 遺構配置図 (拡大) ⑤ J区

## II 遺跡の立地と環境

### 1. 地理的環境

#### (1) 立地

大芦 I 遺跡は北緯40° 14′ 東経141° 41′、岩手県久慈市夏井町に所在し、JR久慈駅から北東に約8 km、九戸郡大野村との境界付近に位置する。久慈市は北上山地の北東部、太平洋沿岸にあり種市町、大野村、山形村、野田村と接する。久慈市周辺の地形は発達した海岸段丘と、北上山地周縁部の丘陵地帯を開析し久慈湾に注ぐ鳥谷川、夏井川、久慈川、長内川などにより形成された谷底平野からなる。大芦 I 遺跡が流域に含まれる夏井川は大野村南部の山地に端を発し、狭い谷底平野を形成しながら東流して河口付近で鳥谷川、久慈川と合流する。本遺跡は中流部の北側斜面に位置している。この斜面の北側に標高230m前後の分水界を越えると高家川中流部となり九戸段丘の広い平坦面が広がる。

#### (2) 大芦地区の地形・地滑り痕

夏井川中流域では左岸に目立つ支流はなく、標高100～200mの段丘崖となる急斜面に小規模な谷地形が入り込む地形が連続しているが、遺跡が立地する大芦集落付近は例外で標高90～190m付近まで緩い斜面が連なり上部が比高差30～60mの急崖に囲まれた地形となる。斜面の幅は東西約300mで、東西を平行して南流する小規模な谷に区切られている。斜面下部には旧川代小学校がある標高140m強の微高地がありここから夏井川河床に向かって中斜度の南向き斜面となるが、微高地北側の標高140～190mにかけては斜度が一様ではなく平坦面に近い緩斜面と比高差数m程度の急斜面が階段状に連続する地形となる。こうした大芦地区の緩斜面の成因は典型的な地滑り地形によるもので、斜面上部の崩落による堆積物が斜面下部の微高地を形成したと推測される。なおこの一帯は現在地すべり防止区域に指定されている。

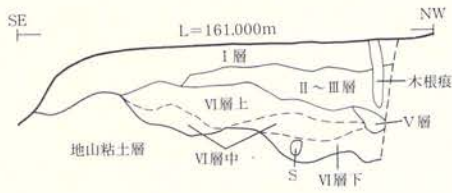
今回の調査範囲もこのような階段状の地形にまたがって設定されており、標高175m付近と165m付近に緩斜面がありその間が斜度を増している状況が確認できる（第2図）。緩斜面部分では土層断面から正断層状のずれが認められる地点が複数ある（第9図、写真図版3）。このうちH区⑨、⑩の断面では十和田八戸火山灰層以下がずれしており、結果として生じた東西方向の凹地下部に十和田南部浮石層が認められることから完新統初期における地形変動を示している。また、調査区外北側施工区間の法面においても同様の土層のずれを確認できる（写真図版19）。今回の調査では十和田八戸火山灰層以下、並びに急斜面部分での深掘りを実施していないため、確認した小規模な断層が斜面全体の地滑り地形の形成時点を示すものかどうかは判断できないが、少なくとも完新統初期までは不安定な地形変動が生じていたことを指摘できる。

遺跡付近の現在の土地利用は畑地、水田、林である。第三章で後述する調査区割りのA・E・J区は畑地、B・C・F・G・I区は現道の未舗装路、D区は斜面を造成して新規に切り開いた水田、H・K区は林となっている（第2図参照）。C区の北西側、H区の東側には飲料水として利用できる湧水がある。また遺跡全体が南向き斜面で日当たりが良好で、北～西の急崖により季節風を避け得る環境にある。

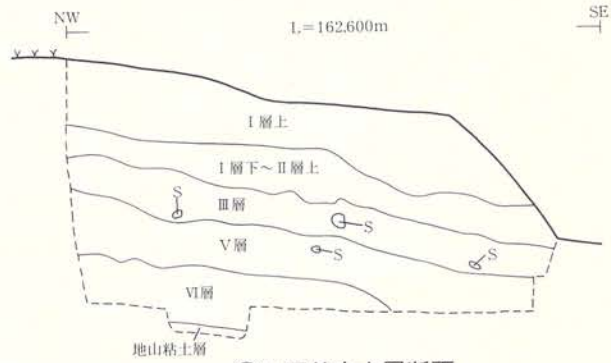
#### (3) 基本土層

遺跡内の土層は基本的にはローマ数字で表しているが、場所により異なった状況であり以下に示す土層断面の④、⑥は他の地区と対応させることができずアラビア数字で表現している。①～⑧の断面を記録した位置は第3～7図の遺構配置図に示している。

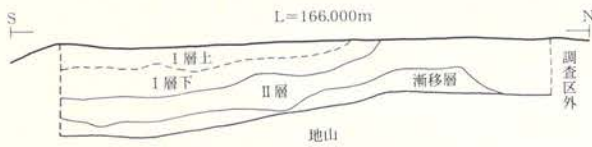
① A区基本土層断面(1)



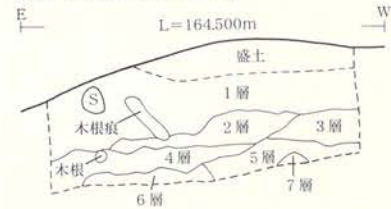
② A区基本土層断面(2)



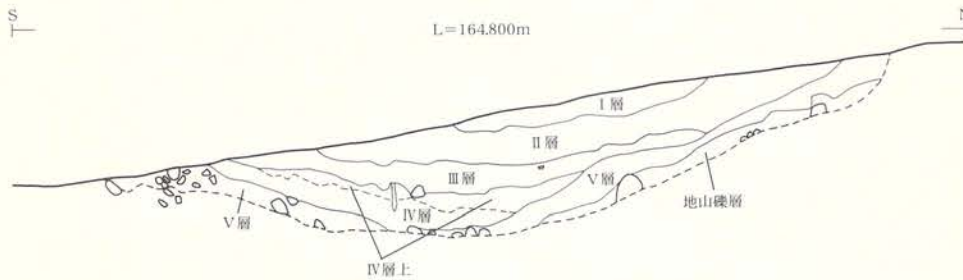
③ E区基本土層断面



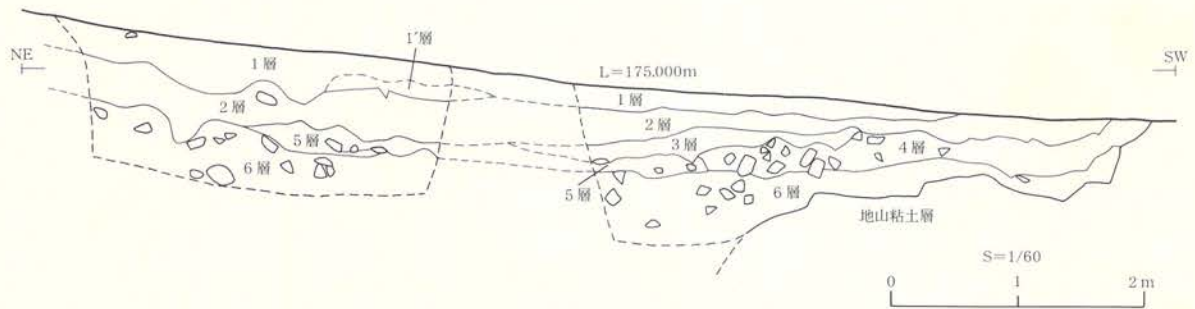
④ F区基本土層断面



⑤ H区基本土層断面



⑥ J区基本土層断面

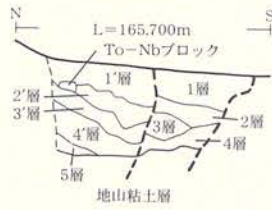


第8図 基本土層

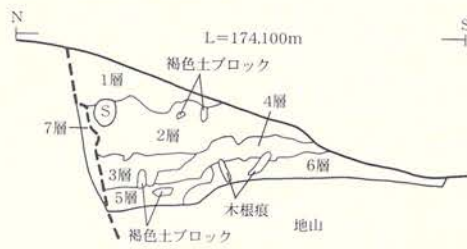
① A区基本土層断面(1)

I層	10YR2/2黒褐色土	シルト	粘性なし	しまり弱	草木根多	耕作土
II~III層	10YR2/1黒褐色土	シルト	粘性なし	しまり中	挟雑物なし	均質
V層	10YR7/6~6/6明黄褐色土	砂質シルトのブロックと黒・黒褐色土混在				To-Cu
VI層上部	10YR3/3暗褐色土	シルト	粘性なし	しまり弱	炭化材細片3%混	
VI層中部	10YR3/4暗褐色土	シルト	粘性弱	しまり中	均質	
VI層下部	7.5YR3/3暗褐色土	シルト	粘性弱	しまり中	To-Nb1~2%混	

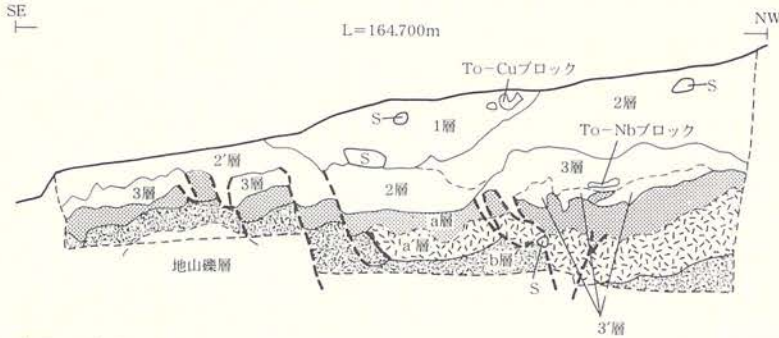
⑦ E区地滑り痕断面



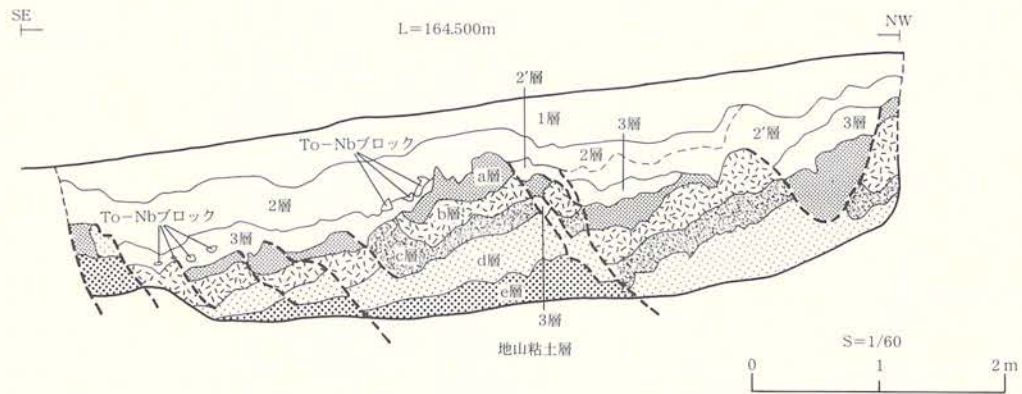
⑧ J区地滑り痕断面



⑨ H区地滑り痕断面(1)



⑩ H区地滑り痕断面(2)



第9図 地滑り痕断面

② A区基本土層断面(2)

I層上部 10YR2/3黒褐色土 砂質シルト 粘性なし しまり中 礫10~20%混 乾きやすい  
 I層下部~II層上部 10YR2/3黒褐色土 (I上よりやや暗褐色) 礫5~10%混 晩期遺物出土  
 III~VI層 A区断面(1)に同じ

③ E区基本土層断面

I層 10YR2/2黒褐色土 砂質シルト 粘性なし しまり強 乾燥しやすい 下部やや暗褐色土  
 鉄滓・陶磁器片含  
 II層 10YR2/2黒褐色土 砂質ベルト 粘性なし しまり強 I層より均質  
 漸移層 II層と地山褐色土粒の混在層

④ F区基本土層断面

1層 10YR3/4暗褐色土 シルト 粘性なし しまり中 草木根含む I層相当  
 2層 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 II層相当

- 3層 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 Ⅲ層相当
- 4層 3層と同様
- 5層 10YR2/3黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱
- 6層 5層と同様 To-Cu (2.5YR6/8明黄褐色 シルト 粘性なし) 50%混 IV層相当
- 7層 5層と同様 To-Cu30%混 IV層相当

⑤ H区基本土層断面

- I層 10YR2/1 シルト 粘性なし しまり弱 細～中粒礫 (径5～20mm) 多量 木根多い
- Ⅱ層 7.5YR2/1 シルト 粘性弱 しまり中 後・晩期土器片少量含む
- Ⅲ層 7.5YR1.7/1 シルト 粘性弱 しまり中 均質 遺物僅少
- Ⅳ層上部 7.5YR3/3暗褐色土 砂質シルト 粘性弱 しまり中 Ⅲ層とⅣ層テフラの混在層
- Ⅳ層下部 10YR5/6黄褐色土 砂質シルト (To-Cuテフラ) 粘性なし しまり中 Ⅳ層上部の暗褐色土 30%混
- V層 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性弱～中 しまり中 径50～100mm礫集中 前期初頭遺物含む
- 地山礫層 10YR3/3～3/4暗褐色土 砂質シルト しまり強 礫50%混

⑥ J区基本土層断面

- 1層 7.5YR2/1黒褐色土 シルト 粘性なし しまり中 粗砂～礫10～20%混
- 1'層 10YR4/4褐色土 シルト 粘性なし しまり中 橙色細粒浮石 (To-Nb?) 10%混
- 2層 7.5YR1.7/1黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 均質 礫含まず
- 3層 10YR3/3暗褐色土ブロック 10%混 2層と同質
- 4層 10YR2/2黒褐色土 粘性なし しまり中 6層の礫層と連続 礫 (径10～20cm) 30%混
- 5層 10YR2/1黒褐色土 砂質シルト 10YR3/3暗褐色土ブロック30%混 10YR6/6明黄褐色土ブロック10%混 遺物なし
- 6層 7.5YR2/2黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり強 礫 (径20～30cm) 50%混 礫 (径5～20cm) 20%混

⑦ E区地滑り痕断面

- 1層 7.5YR2/1黒色土 砂質シルト 粘性なし しまり中 To-Nb10～20%混 1'層も同様
- 2層 7.5YR2/2黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 To-Nb20～30%混 一部ブロック状に集中 2'層も同様
- 3層 10YR2/3黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 To-Nb5%混 3'層も同様
- 4層 10YR3/4暗褐色～4/4褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 To-Nb3%混 4'層も同様
- 5層 10YR4/6褐色土 ブロック しまり強

⑧ J区地滑り痕断面

- 1層 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱
- 2層 10YR2/3黒褐色土 シルト 粘性なし しまり弱 褐色土ブロック混 To-Nb1～3%混
- 3層 10YR2/1黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 均質 To-Nb3%
- 4層 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 均質 To-Nb3%
- 5層 7.5YR4/4褐色土 砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック混 To-Nb5%混 炭化材片混
- 6層 10YR4/6褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 (地山よりしまりない) 黒褐色土～暗褐色土ブロッ

ク混

7層 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック混

#### ⑨ H区地滑り痕断面(1)

1層 7.5YR2/1黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 均質 中振ブロック混 To-Nb1%混 Ⅲ層相当

2層 10YR2/1黒褐色土 シルト 粘性なし しまり中 均質 To-Nb3~5%混

2'層 10YR2/1黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 均質 To-Nb5~7%混

3層 10YR2/2黒褐色土 砂質シルト 粘性なし しまり中 均質 To-Nb20~30%混 (一部ブロック状に含む)

3'層 3層にaの暗褐色土ブロックが50%混

a層 7.5YR3/3暗褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 均質 いわゆるブラックバンド

a'層 .5YR4/4褐色土 シルト~粘土 粘性中 しまり中~弱 均質

b層 10YR4/6褐色土 粘土 (To-Hp) 粘性強 しまり強 均質

#### ⑩ H区地滑り痕断面(2)

1層 7.5YR2/1黒褐色土 シルト 粘性なし しまり中 均質 挟雑物少い 上部にTo-Cuブロック若干混

2層 7.5YR2/1黒褐色土 シルト 粘性なし しまり中 均質 To-Nb3~5%混 (下部程多い)

2'層 2層と同質でTo-Nb5~10%と多くなる

3層 10YR2/2/黒褐色土 砂質シルト 粘性なし しまり中 To-Nb20~30%混(下部にブロック径5~10cm

a層 7.5YR3/3暗褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 均質

b層 7.5YR4/4~4/6褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱

c層 7.5YR4/4褐色土 シルト 粘性弱~中 しまり中

d層 10YR4/6褐色土 シルト 粘性弱~中 しまり中

e層 7.5YR5/6明褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱

以上の層の内、⑤H区基本土層断面のように十和田中振テフラが明瞭に確認される場所はA区、C区、H区、J区のいずれも地滑りが成因と考えられる凹地部分である。更に、凹地の底部付近には⑨、⑩断面のように十和田南部浮石が少量ながら堆積している。地山となる褐色粘土質シルト層は十和田八戸テフラ起源である。

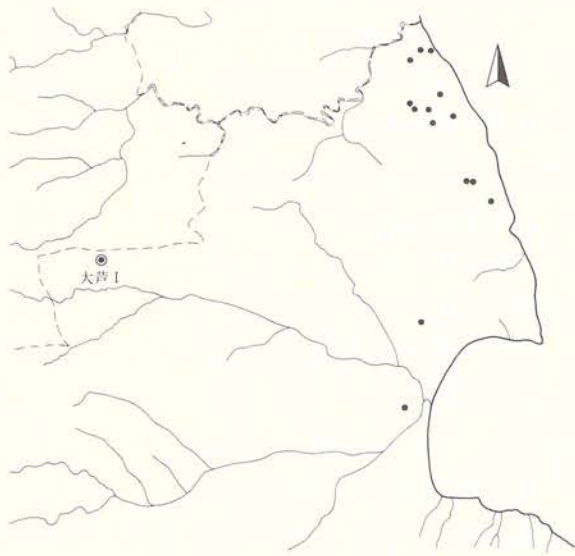
## 2. 歴史的環境

### (1) 周辺の遺跡

久慈市内では市教育委員会により全域の遺跡分布調査が実施されている(千葉1990~96)。また、市教委、県埋蔵文化財センターによる発掘調査報告書が刊行されている。各遺跡の詳細はそれらに譲りここでは本遺跡と時期的に関連する遺跡の分布傾向について概観する。

#### ① 縄文~弥生時代(第10図)

大芦I遺跡の調査は今回が2回目である。1回目は昭和59年(1984年)に道路補修に伴う確認調査がなされ後述するC区の縄文時代晩期捨て場の概要が明らかになっている(面代1985)。今回の調査では同じ地点の本調査を行っており、前回調査の概要については「第IV章1.(4)」で触れる。大芦I遺跡では今回の



縄文時代早期



縄文時代前期



縄文時代中期



縄文時代後期



縄文時代晩期



弥生時代後期

第10図 周辺の遺跡 (1) 縄文・弥生

調査により縄文時代早期～晩期まで断続的ながら各時期の遺物が出土しているが、本遺跡が位置する夏井川流域（千葉1996）では段丘面の平地が発達していないこと、本格的な発掘調査が行われていないことなどから縄文時代を通じて把握されている遺跡数が少ない。特に早期、前期の明確な遺跡は分布調査では確認されていない。中期では下流約3kmに位置する国坂Ⅰ遺跡から大量の遺物が表採され集落跡の存在が予測されている。図示されている資料は中期中葉が主体である。後期に至ると本遺跡の南側に位置する大芦地区の緩斜面に大芦Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ遺跡、また北側段丘上に富原Ⅰ・Ⅱ遺跡が確認されている。また前述の国坂Ⅰ遺跡周辺や夏井川対岸の段丘上にある広野地区（千葉1992）においても後期を中心とした遺跡が分布している。晩期では国坂遺跡の対岸にある切屋田遺跡が挙げられる。このほか門ノ沢地区在住の方が耕作中に発見したという縄文時代晩期中葉～後葉の小形中実土偶、および同時に出土した土器片を所有されており、調査中に拝見した。市教委分布調査（千葉1996）による門ノ沢遺跡の位置である。

対象を久慈市全域に向けてと侍浜地区と久慈湾周辺の海岸段丘上における遺跡分布の密度が濃い。これらの地区では表採の容易な畑地が土地利用の主体であること、開発が進行している地域であることも要因として挙げられる。中でも半崎・麦生地区（千葉1990）、侍浜地区（千葉1995）では特に前期、後期の遺跡が数多く分布している。

発掘調査された遺跡を中心に時期毎の状況を見ると、早期では平沢Ⅰ遺跡（千葉1994）で中葉の貝殻文土器がまとまって出土している。侍浜地区でも貝殻文期の遺跡が確認されている。前期では平沢Ⅰ遺跡（三浦ほか1988）、中長内遺跡（千葉ほか1988）で前葉の竪穴住居跡が複数検出されている。麦生Ⅰ遺跡の試掘調査（千葉1990）では前期初頭の竪穴住居跡が検出された。大尻遺跡（面代ほか1987）では中葉～後葉、さらに中期前葉に至る円筒下層～上層段階の包含層が検出され、琥珀原石、動物遺存体を伴っている。三崎（Ⅲ）遺跡（千田1978）では中期中葉の円筒上層式と大木式の両者が出土している。後期では平沢Ⅰ遺跡（金子1997）で初頭段階の竪穴住居跡が13棟検出され、集落構造の分析が行われている（金子1997）。上野山遺跡（佐々木1983）では前葉段階の竪穴住居跡が4棟検出されている。晩期では上野山（Ⅱ）遺跡（面代1984）で後葉の竪穴住居跡が1棟、二子貝塚（千葉1993）で後期～晩期の貝層、墓壇、埋設土器が検出されている。これらの他、源道遺跡（佐々木1989）、鼻館跡（濱田ほか1992）、中長内遺跡など丘陵、段丘上の各遺跡で細別時期不明のいわゆるTピットに分類される陥し穴状遺構が多数検出されている。

弥生時代後期の遺跡は中長内遺跡、平沢Ⅰ遺跡、侍浜地区の遺跡で土器片が出土しているが、明確な遺構は確認されていない。

## ② 近世（第11図）

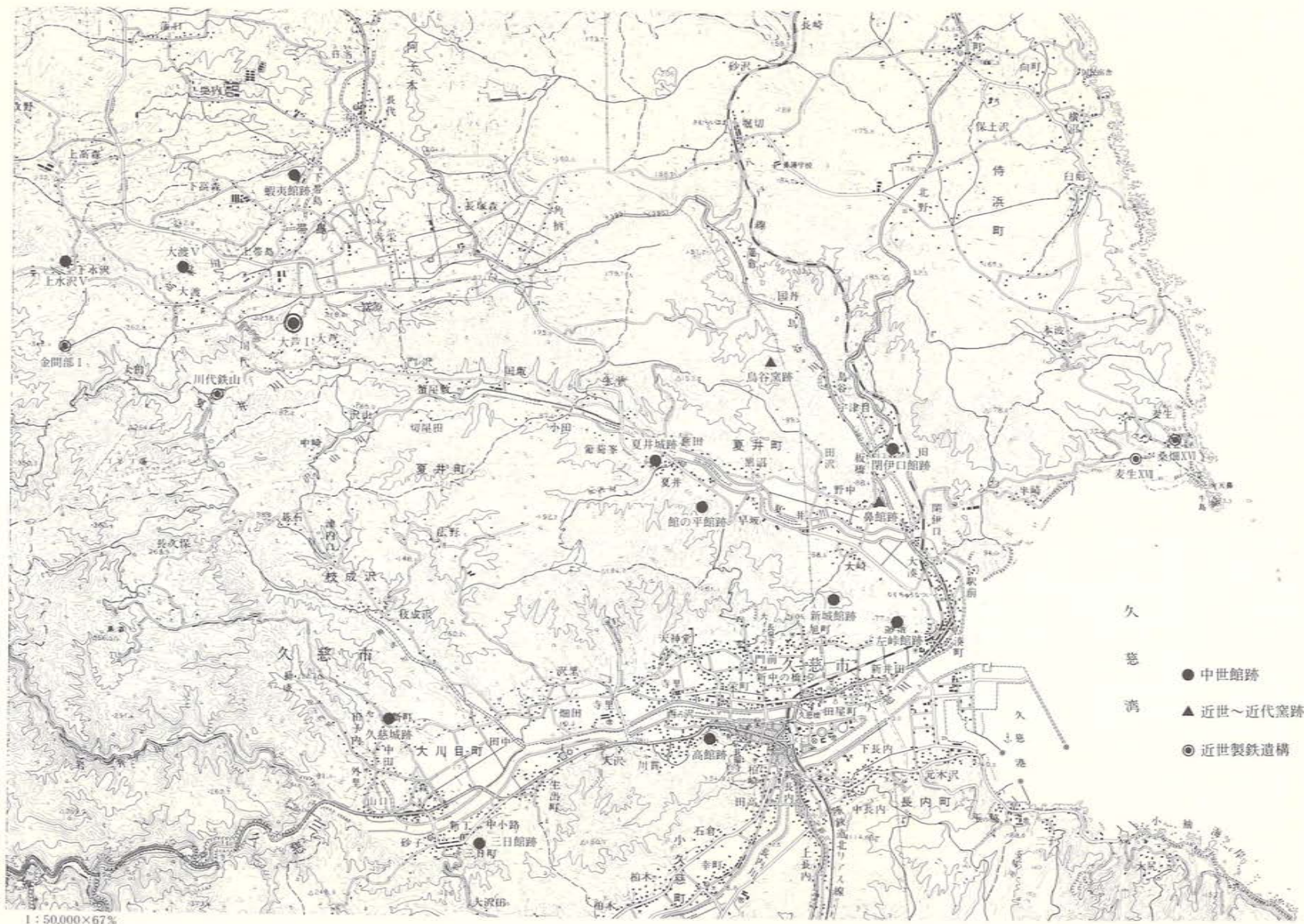
第11図には大芦Ⅰ遺跡検出の中・近世遺構と関連する周辺の遺跡を示した。分布調査、試掘調査により中世館跡、近世製鉄遺構、近世～近代窯跡として遺跡の性格が把握されている場所である。

夏井川の下流約5kmにある夏井城跡（千葉1996）は丘陵突端部を切る空堀跡が認められている。城主は南部信直、利直に仕えた夏井勘解由と伝えられている。

久慈川流域の久慈城跡（千葉1992）は丘陵突端部が切金川と濠跡に区画された山城で、主郭と四段の帯郭から成る。報告書によると城主は久慈氏で文明年間（1469～1486年）に築かれ、天正19年（1591年）の九戸の乱で久慈氏嫡系が滅亡し破却された。

これらの他城主、時期不明の城館跡には鳥谷川下流、夏井川下流に閉伊口館跡、館の平館跡、新城館跡、左峠館跡（千葉1990、1996）があり、他に岩手県教委作成の遺跡分布図によると大野村帯島地区に蝦夷館跡、大渡Ⅴ遺跡、上水沢Ⅴ遺跡が確認されている。





第11図 周辺の遺跡 (2) 中・近世

近世製鉄遺跡については田村栄一郎氏による「たたら遺跡の踏査図」の成果があり、本遺跡に関連する久慈市、大野村地域でも実地踏査によりその分布が明らかにされている（田村1987）。収録された遺跡分布図から正確な位置を読み取れなかったため第11図には示していないが、夏井川上流部では大野村大田地区に4地点の大田鉄山、高家川上流部では水沢地区から帯島地区にかけて上水沢鉄山、沢山鉄山、水沢鉄山、金間部鉄山、大渡鉄山、下高森鉄山の存在が把握されている（田村前掲）。

製鉄遺跡で明確なものには上流川代地区に所在する川代鉄山（千葉1996）がある。分布調査の結果多量の鉄滓の堆積、人工的な凹地が確認されている。田村栄一郎氏によれば1670年代の操業期間が与えられている（田村前掲）。

近世～近代の窯業遺跡は第11図からはずれるが小久慈町下日当地区の天田内Ⅰ・Ⅱ遺跡（千葉1991）があり、文化10年（1813年）に操業が開始された小久慈焼（天田内焼）の窯跡が確認されている。

鼻館跡（千葉1990、濱田ほか1992）、鳥谷窯跡（千葉1996）では登窯が確認されており、明治期以降と思われる陶器片、窯道具が多数採集されている。

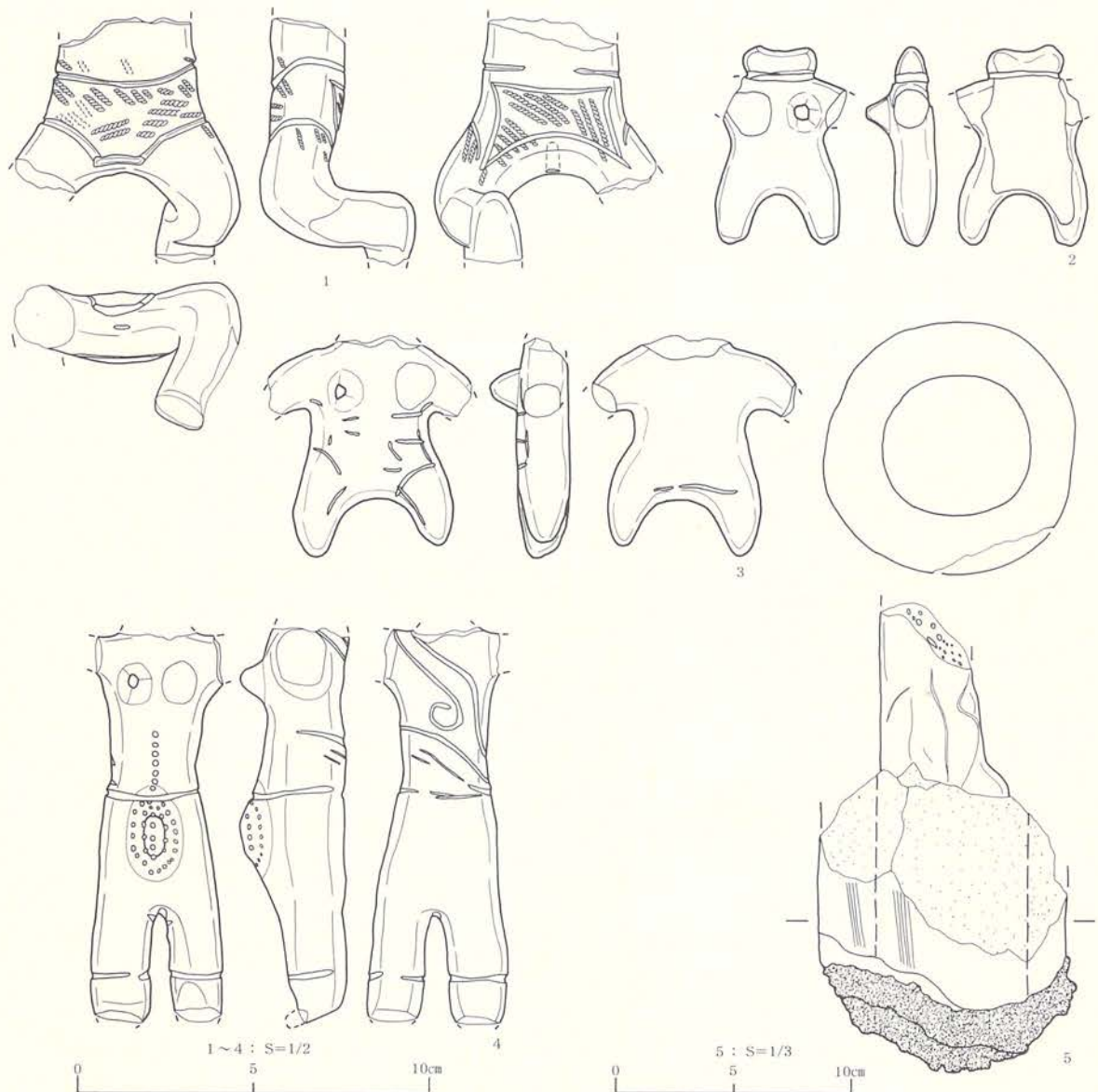
## 第Ⅱ章に関する引用・参考文献（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書→岩埋文 久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書→久慈市埋文と省略）

- 千田和文 1978 『三崎（Ⅲ）遺跡発掘調査報告書』久慈市埋文第2集  
佐々木清文ほか 1983 『上野山遺跡発掘調査報告書』岩埋文第67集  
面代民義 1984 『上野山（Ⅱ）遺跡発掘調査報告書』久慈市埋文第4集  
田鎖寿夫 1984 『小屋畑遺跡発掘調査報告書』岩埋文第80集  
面代民義 1985 『大芦遺跡発掘調査報告書』久慈市埋文第5集  
千葉啓蔵 1987 『小袖Ⅱ遺跡発掘調査報告書』久慈市埋文第6集  
面代民義ほか 1987 『大尻遺跡発掘調査報告書』久慈市埋文第7集  
玉川英喜 1987 『田中Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩埋文第117集  
田村栄一郎 1987 『みちのくの砂鉄・いまいずこ』久慈郷土史刊行会  
千葉啓蔵ほか 1988 『中長内遺跡』久慈市埋文第8集  
三浦謙一ほか 1988 『平沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩埋文第125集  
千葉啓蔵ほか 1989 『滝合遺跡』久慈市埋文第9集  
千葉啓蔵ほか 1989 『中長内遺跡（Ⅱ）』久慈市埋文第10集  
佐々木嘉直 1989 『源道遺跡発掘調査報告書』岩埋文第138集  
千葉啓蔵 1990 『久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』久慈市埋文第12集  
千葉啓蔵 1991 『久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』久慈市埋文第13集  
高橋義介ほか 1991 『明神遺跡発掘調査報告書』岩埋文第150集  
千葉啓蔵 1992 『久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』久慈市埋文第14集  
濱田 宏ほか 1992 『鼻館跡発掘調査報告書』岩埋文第171集  
千葉啓蔵 1993 『久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』久慈市埋文第15集  
千葉啓蔵 1993 『二子貝塚』久慈市埋文第16集  
千葉啓蔵 1994 『久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅴ』久慈市埋文第17集  
千葉啓蔵 1994 『平沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書Ⅱ』久慈市埋文第18集

- 千葉啓蔵 1995 『久慈市内遺跡詳細分布調査報告書VI』久慈市埋文第19集  
 千葉啓蔵 1996 『久慈市内遺跡詳細分布調査報告書VII』久慈市埋文第20集  
 金子昭彦 1997 『平沢I遺跡発掘調査報告書III』岩埋文第264集  
 金子昭彦 1997 「岩手県平沢I遺跡における蛭沢式期の集落構造 —東北地方北部における縄文時代後  
 期初頭の集落—」『紀要XVII』岩埋文  
 菊池人見 1998 『麦生III・IX遺跡発掘調査報告書』岩埋文第274集

## (2) 調査以前の出土遺物

第12図に掲載した資料は、調査区の隣接地に在住の夏井熊太郎氏所蔵品を拝借し図化したものである。氏の許可を戴いてここに掲載した。夏井氏の御教示によると、第12図1～4の土偶は調査区C区の北西側にある畑で耕作中に出土したもの、第12図5の羽口はH区東側で採集したものとのことである。他に完形ないし半完形の精製土器約30点をはじめ磨製石斧、剥片石器類を収集しておられたが、今回は時間的制約により実測し得た土偶と羽口のみを紹介とする。なおこれらの資料のうち1～3は久慈市教委調査時の報告



第12図 周辺出土遺物

書（面代1985）において、「参考資料、調査以前の出土遺物」として土器と共に写真により紹介されている。  
土偶（第12図1～4）

1は中実土偶の下半身で右脚、及び左足先を欠損している。腰の部分両面にパンツを履いたように細い沈線が施文され、区画内にLR縄文が充填されている。へその表現は見当たらないが、股の中央に産道とも考えられる盲孔が穿たれている。腹部、及び下肢の無文部分は雑なナデ調整となる。注目されるのは左脚の形状で、大腿部が胴部の延長線上に若干開脚して伸び、膝が90°曲がり膝立ちの状態になる。右脚がないので確実ではないが、ガニマタ気味の膝立ちしている姿形か、もしくは仰向けで腰を浮かせ開脚した姿形になると考えられる。本資料は腰の沈線区画と充填縄文の手法から縄文後期後葉の中実土偶に比定される。

2と3は簡略な表現の中実土偶である。両者とも両腕、乳房の片方を欠く。2の頭部表現は頭頂部が若干くぼんだ突起として表され、首に沈線が巡る。3の欠損した頭部も同様と考えられる。3では胴部から脚部にかけて細い沈線表現が見られる。形状から縄文晩期中葉の土偶に比定される。

4も中実土偶で頭部、両腕、両爪先、乳房の片方を欠損している。焼成、調整とも良好である。腹部は妊娠状態に膨らみ刺突が加えられ、更に胴部の中軸線上に列点が施される。腰上と膝付近には水平に沈線が巡る。背面にはやや崩れた入組文状のモチーフが施文されている。これらの特徴から縄文後期後葉の中実土偶に比定される。

#### フィゴ羽口（第12図5）

直径11cm、内径6.5cmの羽口で先端部が溶解してガラス化した部分を持つ。塊状の滓分の付着も著しい。溶解部分から装着角度は65°と推定される。孔内部には送風停止時点で炉の内圧により逆流した流動滓が固結した状態で棒状に充填されている。胎土は白色砂粒を含み、外面は縦方向のナデ、ミガキが見られる。孔内面は観察できない。

この羽口が表採された場所は「II 1. (2) 大芦地区の地形・地滑り痕」で述べた斜面の東側を区切る沢沿い標高160m付近の林間で、やや開けた平坦地に鉄滓の集積が見られる。確認できなかったが斜面上部に鉄生産遺構が存在する可能性が高い。

### Ⅲ 調査・整理の方法

#### 1. 調査方法

##### (1) 調査区の地区割 (第2図)

調査範囲は新設道路の路線敷部分で現道と重なったり跨いだりする部分が多く、調査の進行上現道との位置関係から全体をA～K区に区分けした。なお現道路線敷は南からB区、C区、F区、G区、I区としている。実際に調査範囲全体の道路路盤を除去して調査を行ったのはC区のみである。その他は包含層、遺構検出の可能性のあるG区、I区の一部について仮設道路に切り替えて下位の検出を行った。

##### (2) グリッド設定

グリッドは国土座標第X系に合わせ調査範囲をカバーする10m×10mの大グリッドを設定した。原点とした基準点の国土座標は基準点1で第X系X=26502、Y=73680、基準点2でX=26502、Y=73640である。グリッドの名称は北から南に向かってA～Qのアルファベット、西から東に向かって1～20のアラビア数字をつけその組み合わせによりA1グリッド、B2グリッドのように呼称した。また大グリッド内部を25分割した2m×2mの小グリッドを設定し、北西隅から北東隅に向かいア・イ・ウ・エ・オ、南側列に移動してカ・キ・・・ノのカタカナで呼称した。これらにより小グリッド名称はA1アといった名称になる。

##### (3) 粗掘、検出、精査

表土はH区を重機で、H区以外は人力で除去した。B・D・K区およびH区の北半斜面部については試掘トレンチにより遺構、遺物検出の可能性がないことを確認し終了とした。検出は基本的には表土を除去した面で行い、遺構の有無に応じて順次掘り下げた。精査は遺構の性格に応じ断面を設定している。ただし、土坑の一部については手違いにより断面を記録していない。遺構内の遺物は床面、底面のものは平面位置を記録した取り上げ、埋土中の遺物はできるだけ層位毎に取り上げたが徹底していない。遺構外遺物については基本的に小グリッド単位で層位毎の取り上げとした。なお、C区捨て場の調査方法、遺物の取り上げについては第IV章1.(4)で説明する。遺構の名称は種別毎に検出順の番号を付けた。建物跡を構成しない柱穴状ピットについては区域毎にPP1・2・・・という呼称にした。

##### (4) 実測、写真撮影

実測は簡易遣り方、平板を併用し基本的には1/20で行った。写真撮影は中判カメラ1台(白黒)、35mmカメラ2台(白黒、カラーリバーサル)を使用した。航空写真は調査の中盤段階で委託業務として行った。

#### 2. 調査経過

4月10日 機材を搬入し調査を開始する。

4月11日～18日 調査区全域の試掘。予め委託者から示されていた優先引き渡し区域の指定により、北半のH・I・J・K区から表土除去を開始する。この結果、H区斜面部、K区は遺構・遺物確認できずトレンチのみで終了とする。

4月18日 J区南端で石囲炉を持つ竪穴住居跡検出(1号住)。

- 4月21日～22日 重機稼働によりH区の表土除去。
- 4月23日 委託者、道路工事業者、埋文センターによる現地協議。優先区域の確認、現道切り替えの手順について打合せ。同日センター所長視察。なおこの日からH区とJ区に分かれて検出、包含層精査に着手。当初H区では表土除去後の検出作業において、黒色土が帯状に広がり複数の竪穴住居跡等大形の遺構が重複しているものと判断した。J区でも北半が遺構プラン状に検出され、縄文晩期住居跡の可能性を考慮に入れ精査を進める。
- 4月28日 J区の北半は地滑りによる地山落ち込みに形成された包含層であることが判明し、トレンチ断面の記録を行う。
- 5月6日 E区東端の粗掘、検出作業を開始する。
- 5月8日 E区東半、半円状の住居跡らしき落ち込みを精査するが、埋土の検討から地滑りによる落ち込みと判明する（縄文早期土器片出土）。
- 5月9日 J区1号住の下位に旧期竪穴住居跡検出（2号住）。H区で住居跡状としていた部分は地滑りによる落ち込みにII層黒色土が厚く堆積した部分と判明。
- 5月13日 H区東端で石囲炉検出。調査区境を若干拡張して遺構全体を検出（3・4号住）。
- 5月19日 H区南端で石囲炉検出（5号住）。
- 5月29日 E区西端で鍛冶炉の上部構造を検出した。
- 6月4日 部分終了確認（E・G・H・I・J・K区）。I・G区の現道下位を確認すること、E区全面の表土を除去すること、の2点指摘を受ける。
- 6月6日 遺跡空撮。
- 6月9日 A区北半で地権者夏井氏が調査区内に植えていた樹木を移転したが、その際作業に立会し地山まで削平を受けた場所であることを確認し、調査不要区域とする。
- 6月10日 委託者、道路工事業者とC区現道の切り替え工事手順と日程について現地協議。D区、E区中央部を先に終了させ、仮設道路に切り替えてC区擁壁撤去という工程を確認。H区では地山粘土層面での精査結果、掘立柱建物跡を検出。周辺からの出土遺物より中世末の遺構と判断。A区では底面が焼成を受ける楕円形掘り込みを検出。製鉄炉の可能性を考慮に入れて精査を進める。
- 6月16日 中野敦夫本日より長谷堂貝塚調査現場へ移動。
- 6月17日 A区南半で近世墓壙群を検出。被葬者人骨が残存しており、地権者の夏井俊勝氏に依頼して全基完掘後引き取っていただくことになる。人骨は現場で簡略な部位、性別、年齢などの判定を行う。
- 6月23日 F区でも近世墓壙検出。人骨残存する。
- 7月8日 道路工事業者と切り替え工事日程の打合せ。7月12日に着手することになる。
- 7月22日 仮設道路完成、C区包含層部分に丁張を設置する。H区精査終了し工事業者に引き渡す。包含層部分の調査着手に伴い、久慈市教育委員会に了解を取り史跡標柱を撤去する。
- 7月23日 C区盛土除去、および擁壁撤去を開始する。
- 7月29日 擁壁撤去がほぼ終了し包含層の精査に着手する。精査はI～XIブロックに区分し2ブロックおきにトレンチを入れる作業から開始する。
- 7月30日 午前中、夏井公民館主催「夏休み子供遺跡見学会」を開催。参加者：小学生5名、大人6名。
- 8月1日 擁壁撤去、搬出終了。包含層の掘り下げに着手する。1日平均大コンテナ5～10箱の遺物出土があり平行して遺物水洗を行う。同時に鉄滓の外観選別と磁着、メタルチェッカーによる選別、重量測定

を行い、主体を占める鍛冶滓については記録後C区の擁壁を撤去した掘削部分に廃棄する作業に着手する。

- 8月8日 久慈琥珀博物館館長佐々木和久氏来跡。出土琥珀の応急保存処理に付いて指導いただく。
- 8月22日 作業員5名新規採用、遺物水洗を担当する。
- 8月25日 近世墓壙人骨夏井氏へ引き渡し、埋葬する。
- 8月28日 事業団橋田純一副理事長現場視察。
- 8月29日 遺跡現地公開。参加者19名。デイリー東北久慈支局の取材あり。
- 9月1日 久慈市議一行（6名）現場視察。
- 9月3日 終了確認
- 9月6日 （土曜日）午後遺跡見学会開催。参加者93名。
- 9月8～9日 精査（C区ダメ押し）と平行し、機材点検、梱包を行う。
- 9月10日 午前中で撤収完了し調査を終了する。

### 3. 整理方法

#### (1) 遺構図面

室内整理においては現場で記録した遺構の平面図、断面図を照合、合成し遺構図版原稿とした。また、必要に応じエレベーション図の作成も行った。その際、平・断面にずれが生じた場合も特に修正はしていない。近世製鉄関連遺構、ならびに鉄滓集中区については鉄滓種類別の重量分布図を併せて作成した。

#### (2) 遺物整理

遺物は水洗→仕分け・接合→掲載遺物の選別、重量・数量などの基礎的なデータ作成→注記→実測→トレース→写真撮影→図版原稿作成→収納といった手順で整理を行った。遺物量に比して整理期間が限定されているため、掲載遺物点数は相当縮小したものとなっている。特に土器破片、剥片石器は各器種分類における典型的なものの選択掲載とした。

#### (3) 遺物の掲載基準

出土した遺物は縄文～弥生時代では土器、石器、土製品、石製品、琥珀、炭化種実・動物遺存体などの自然遺物、中・近世～近代では陶磁器、金属製品、鉄滓、羽口、琥珀、ガラス製品、炭化材・動物遺存体などの自然遺物がある。

**土器** 出土土器は大コンテナ約130箱にのぼるが、8割程はC区捨て場から出土した晩期前葉～中葉土器である。他にはA・E・H・Jの各区で一定量の出土がある。時期的には早期中葉、前期初頭、中期後葉、後期、晩期、弥生時代中・後期に属するものがあり、以下のように大別時期毎に群を設定する。

- 第I群 縄文時代早期中葉の土器
- 第II群 縄文時代前期初頭の土器
- 第III群 縄文時代中期前葉の土器
- 第IV群 縄文時代中期後葉の土器
- 第V群 縄文時代後期初頭～中葉の土器
- 第VI群 縄文時代後期後葉の土器
- 第VII群 縄文時代晩期の土器

## 第Ⅷ群 弥生時代後期の土器

第Ⅶ群土器のうち大洞B C式～大洞C 1式については「第Ⅳ章1. (4) C区捨て場」の項で述べる。

**石器** 石器器種として石鎌、尖頭器、石錐、石匙、ピエス・エスキュー、不定形石器、Uフレイク、石核、剥片、磨製石斧、凹石、磨石・敲石類、礫器、台石、石皿の各種が出土している。Uフレイク、剥片は図示していない。分類基準は「第Ⅳ章1. (4) C区捨て場」の項で述べる。

**土製品** 土偶、円盤状土製品他があり、図示可能なものは極力掲載した。

**石製品** 岩版、石棒他がある。石棒類の破損品を除き土製品同様に図示可能なものは極力掲載した。

**自然遺物** 動物遺存体、炭化材、炭化種実、アスファルト塊、赤色顔料、琥珀原石、粘土ブロックがある。写真図版、表で掲載している。

**陶器** 中世末～近・現代の製品で産地は肥前、瀬戸・美濃、相馬、小久慈焼、不明在地産がある。近世以前の製品で図示可能なものを掲載した。

**磁器** 中世末～近・現代の製品で産地は中国産、肥前、瀬戸、平清水、不明在地産がある。近世以前の製品は図示可能なものを掲載した。なお肥前産陶磁器の編年は大橋康二によるⅠ～Ⅴ期の編年（大橋1989）に従っている。

**金属製品** 近世墓壙などから刃物、工具類、釘、銭貨他がある。遺構内出土品を中心に掲載した。

**ガラス製品** 近代の瓶類を掲載した。

**鉄滓** 遺跡全体で1.5 tの出土がある。前述のように現場である程度の選別、仕分けを行っており、種類毎に重量分布図を作成した。うち6点を選抜し成分分析を委託した（付編）。

**羽口** 製鉄遺構周辺他から出土しており、図示可能なものを掲載した。



## IV 検出された遺構、遺物

### 1. 縄文時代

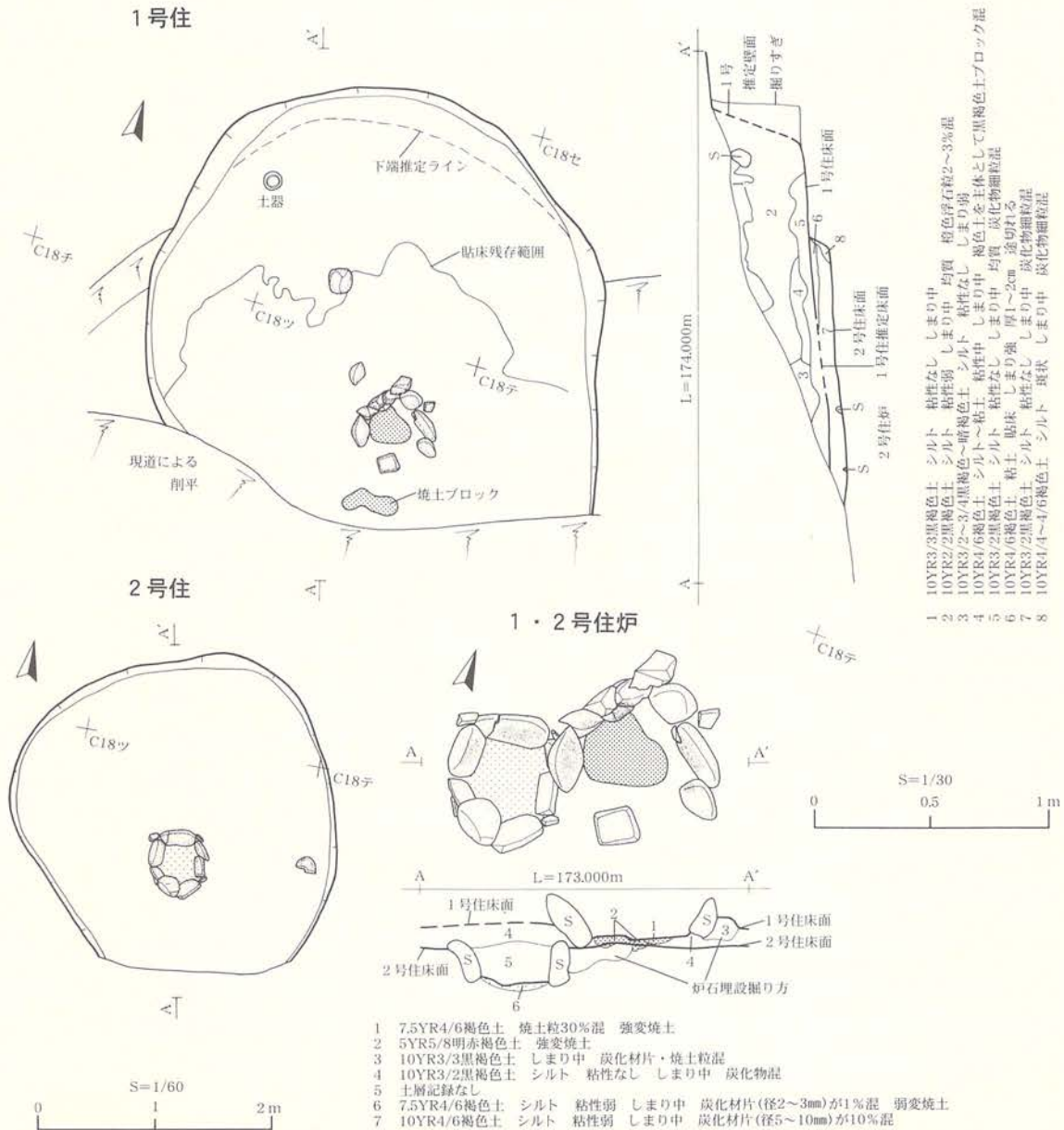
#### (1) 竪穴住居跡

##### 1号住居跡

[遺構] (第13図、写真図版4)

調査区北端J区の南側C18グリッドに位置する。遺構検出面はII層下部～地山粘土層上面で、現道の法面盛土除去中に黒褐色土埋土を検出した。南半は現道による削平を受け南壁は検出時点で認められなかった。重複は下位の2号住居跡を切る関係にある。

平面形状は残存部分から円形ないし楕円形と推定される。規模は東西3.94m、南北残存長3.8m、検出面からの深さは最大102cmである。埋土は2、5層の黒褐色土が主体で4層の褐色土が挟まる。下位の2号住



第13図 1・2号住居跡

埋土7層と5層の差は明確ではない。床面は北側から南に向かって若干傾斜しており、北半には6層の褐色粘土を用いて2号住埋土上に貼床を施している。精査時点での確認ミスにより、当初貼床の南側に気付かず一部除去してしまったが、褐色粘土層は全体に広がらず南半はわずかに硬化する程度である。壁面は残りが良い北壁側では外傾している状況を断面で確認した。

住居中央からやや南寄りに石囲炉を検出した。円礫、亜角礫を用いて方形に組んでいるが、南側の礫が抜き取られた痕跡がある。また、断面観察では礫を埋設した際の掘り方が見られる。内部の焼成は強く径35cm程の範囲に広がる。焼土の厚さは最大6cmである。礫の内側が火熱で赤変色しているものがある。

本住居跡では床面を除去し下位の精査を行ったが柱穴の検出ができなかった。

[遺物] (第16図、写真図版20)

住居北西側の床面に倒立した状態で1の底部が欠損した略完形深鉢が出土している。口縁部は床面に食い込む状態となる。3単位の突起を持ち口縁部に粗雑な刺突列が巡る。頸部の沈線以下は地文のみの施文である。2は細く深い沈線とC字状隆起線によるJ字状の文様が展開する破片で磨消縄文手法が用いられる。3は中期～後期土器片利用の円盤状土製品である。側面が研磨されている。他に頁岩製の不定形石器が1点、2層から出土した。

## 2号住居跡

[遺構] (第13図、写真図版5)

1号住居跡の下位に重複する状態で検出した。ほぼ全体が1号住の内部に収まり、南端が現道の削平を受けている。

平面形状は残存部分から北側、西側がやや張り出す不整形を呈する。規模は東西2.74m、南北残存長2.66mである。1号住床面と2号住床面の比高差は15～20cmになる。埋土は1号住埋土下部5層と同様の7層黒褐色土が主体となる。床面は全体が硬く締まり、北側から南に向かってやや傾斜している。

住居中央からやや南寄りに石囲炉を検出した。円礫、亜角礫を用いて円形に組んでおり、礫同士が密着した構造となる。内部は床面から20cm近く掘り込まれ底面全体が弱い焼成を受ける。焼土の厚さは最大6cmである。1号住と同様に北半の礫の内側が火熱で赤変色している。柱穴は検出できなかった。

本住居跡からの出土遺物は摩滅した土器細片が数点と床面東壁際に使用痕の見られない角礫がある。

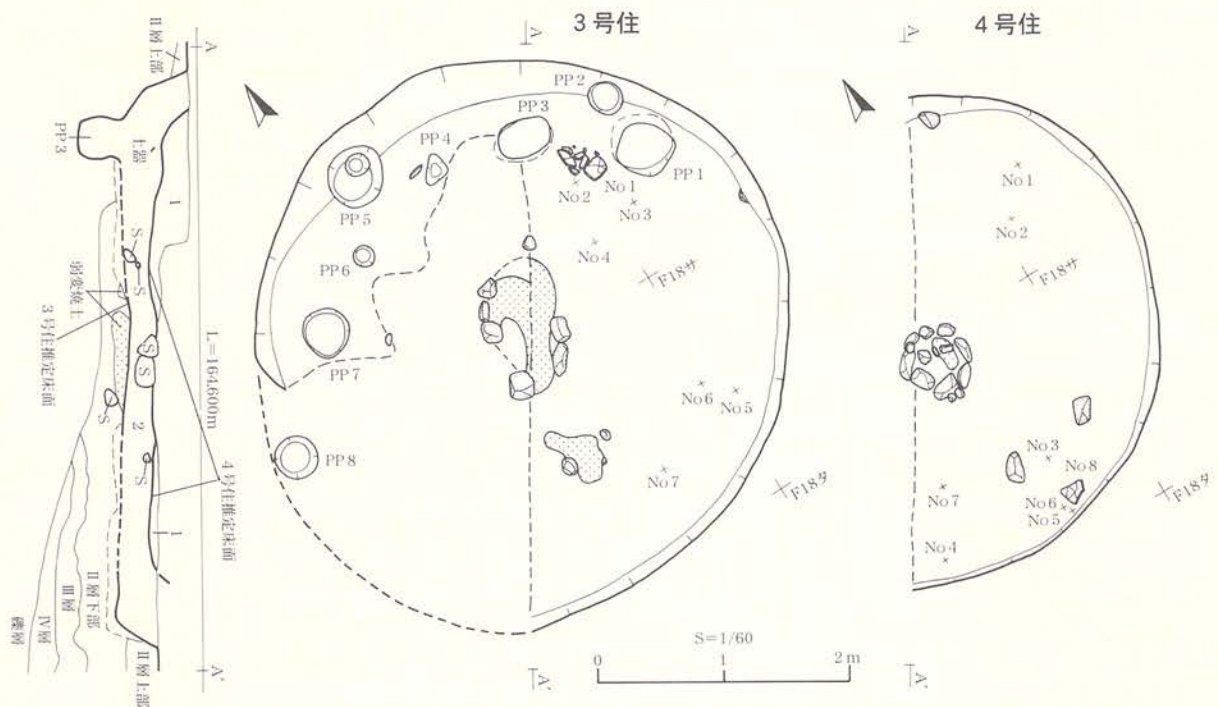
## 3号住居跡

[遺構] (第14図、写真図版5、6)

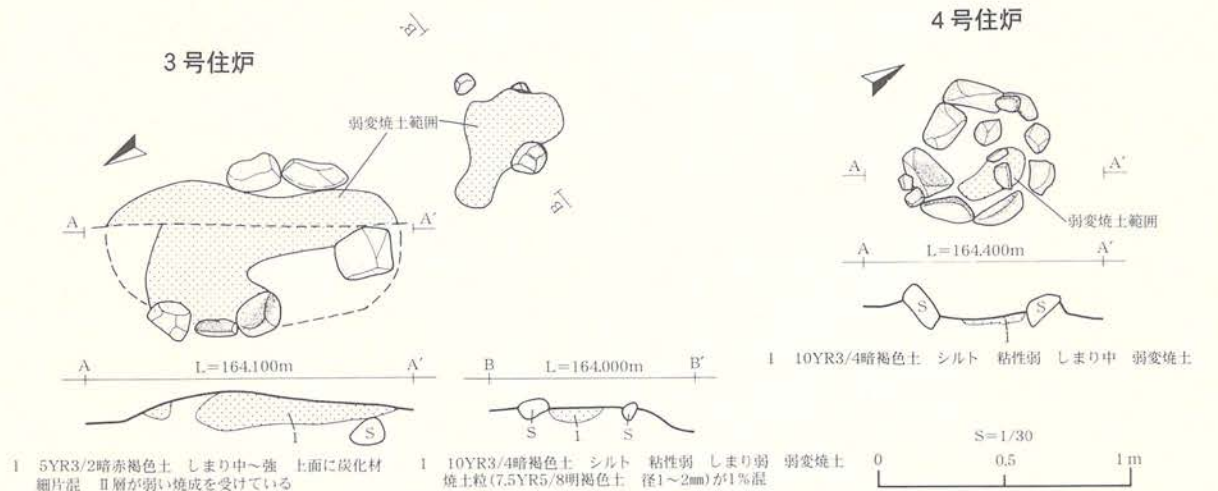
H区の東側調査区境F17・18グリッドに位置する。当初は竪穴住居跡としての把握ができずⅡ層包含層扱いで掘り下げたが、石囲炉が露出する段階になり調査区境の断面を検討してプランを確認したものである。南東側は調査区外に伸びるが地権者の了解を得て調査区を拡張し全体を検出した。しかし北西側の南半は包含層扱いで既に床面下位まで掘り下げていたため西壁側のプランは推定である。検出面は断面から判断するとⅡ層上部になる。また、ほぼ同位置で上位に4号住居跡が重複しているが、拡張時点で上位に4号住の石囲炉が検出されて判明した。

平面形状は残存部分から円形ないし楕円形と捉えられる。規模は北東-南西方向で4.54m、直交する方向で4.22m、北東壁側で深さ最大62cmである。埋土は礫混じりの黒色土で本来のⅡ層、上位の4号住埋土に比較しわずかに明るい色調を呈するが区別は困難である。床面はⅡ層中の構築で締まりがなく、硬化や貼床等の現象は見られない。壁面も同様で斜面上部で地山礫層を掘り込んでいる北壁側以外は明瞭な壁ではない。

柱穴は床面が地山礫層に達する北壁側でPP1～8を検出した。壁から一定の間隔で1・3・4・6・7・



- 1 10YR2/1黒色土 砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化材細片多い(4号住埋土)
- 2 10YR2/1黒色土(1層よりわずかに明色) 砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化材細片1層より少ない 細〜粗礫10%混(3号住埋土)



- 1 5YR3/2暗赤褐色土 しまり中〜強 上面に炭化材細片混 II層が弱い焼成を受けている
- 1 10YR3/4暗褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 弱変焼土 焼土粒(7.5YR5/8明褐色土 径1~2mm)が1%混

第14図 3・4号住居跡

第1表 3号住居跡柱穴規模

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
開口部径(cm)	48×44	28×23	43×33	22×18	50×45	17×17	47×37	35×33
深さ(cm)	29	20.5	35	13	88.5	6	29.5	53.5

8が配列することから、南側にも同様の柱穴列があった可能性がある。

石囲炉は住居中央に位置する。角礫を用いて疎らな配列に組んでおり内部が弱い焼成を受ける。図示した焼成範囲の北西半は当初の包含層掘り下げ段階で焼土を誤って掘り進めてから石囲炉と認識したため、推定の焼成範囲を破線で示した。焼土の厚さは最大15cmに達する。西側の礫には火熱で変色したものがある。また、炉の南側にも小さい範囲の現地性焼土が認められ礫を伴っている。焼成面が中央の炉より10cm以上

下がるため、中央の炉と一体のものかどうかは不明である。

[遺物] (第16・17図、写真図版20)

第16図4～12、第17図13～20の土器が出土している。4は大形粗製深鉢に復元された。破片は3・4号住の両者から出土している。5は器面が丁寧に磨かれた無文壺形土器(第VI群)である。6～8は同一個体で6の左肩が大波状口縁の端部になる。体部文様は磨消縄文で整然とした施文である。13は器面の荒れで明確でないが第V群後期初頭の土器であろう。16は無文の壺形土器口縁部である。

#### 4号住居跡

[遺構] (第14図、写真図版6)

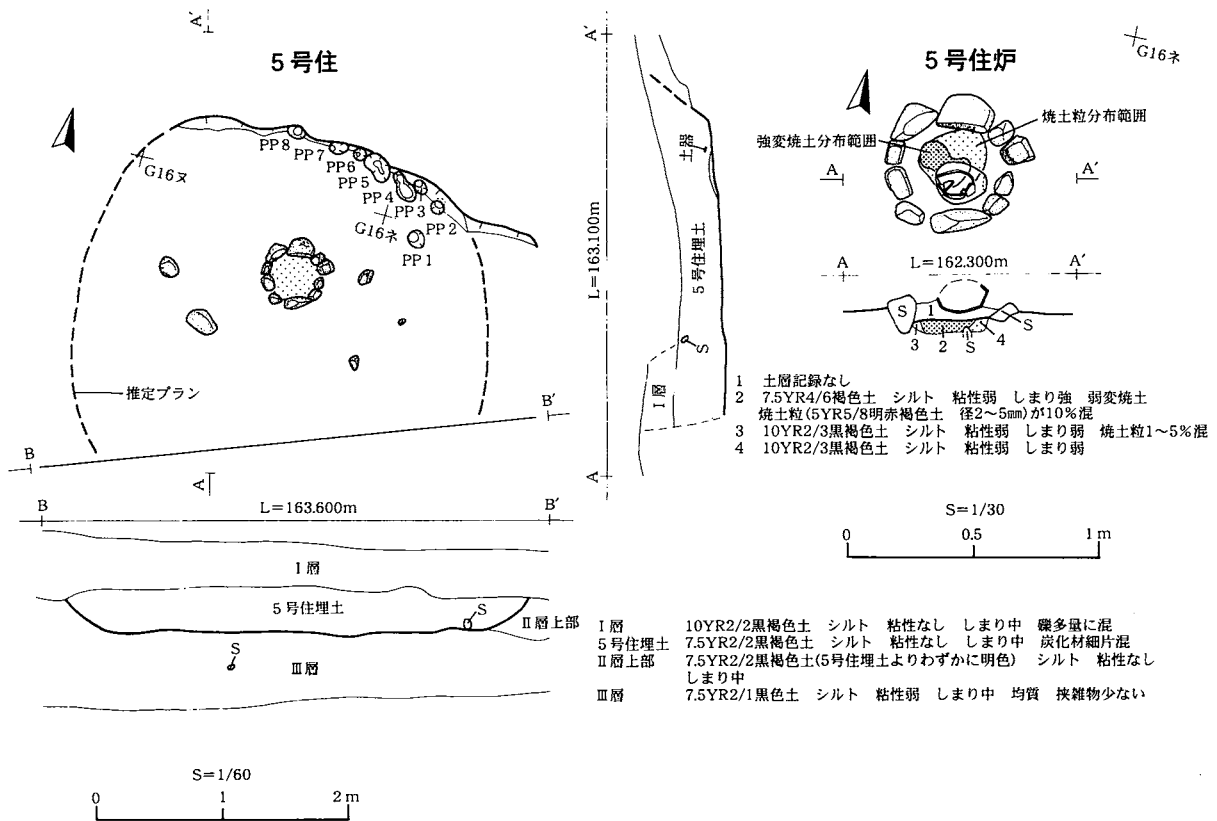
3号住居跡の精査時点で調査区外に拡張したところ、3号住床面から20cm上位に石囲炉を検出して住居跡と認識した。北西側は既に掘り下げた後で、辛うじて南東側のプランを把握することができた。位置は3号住とほぼ同位置でF17・18グリッドに位置する。

平面形状は残存部分から円形ないし楕円形と捉えられる。規模は北東-南西方向で3.9m、壁高は最大32cmになる。埋土は炭化材を多量に含む黒色土で本来のII層とほとんど差がない。下位の3号住埋土に比較しやや暗い色調を呈するが区別は困難である。床面は3号住埋土中の構築で締まりがなく、硬化や貼床等の現象は見られない。壁面も同様である。柱穴は検出できなかった。

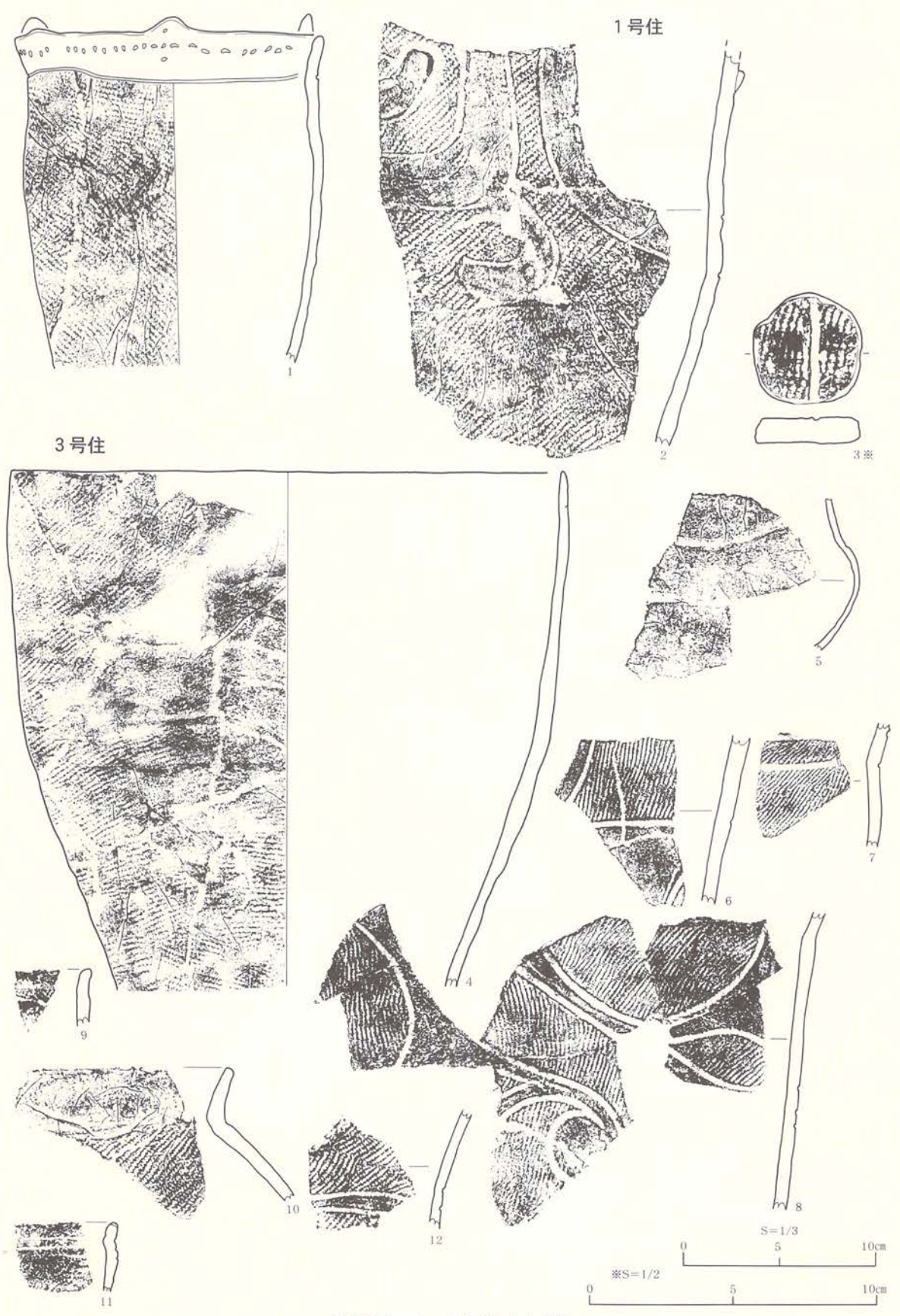
石囲炉は住居中央に位置する。垂角礫、垂円礫を用いて円形に組んだ石囲炉で内部が弱い焼成を受ける。焼土の厚さは最大5cmである。南側の礫には火熱で変色したものがある。

[遺物] (第17図、写真図版20)

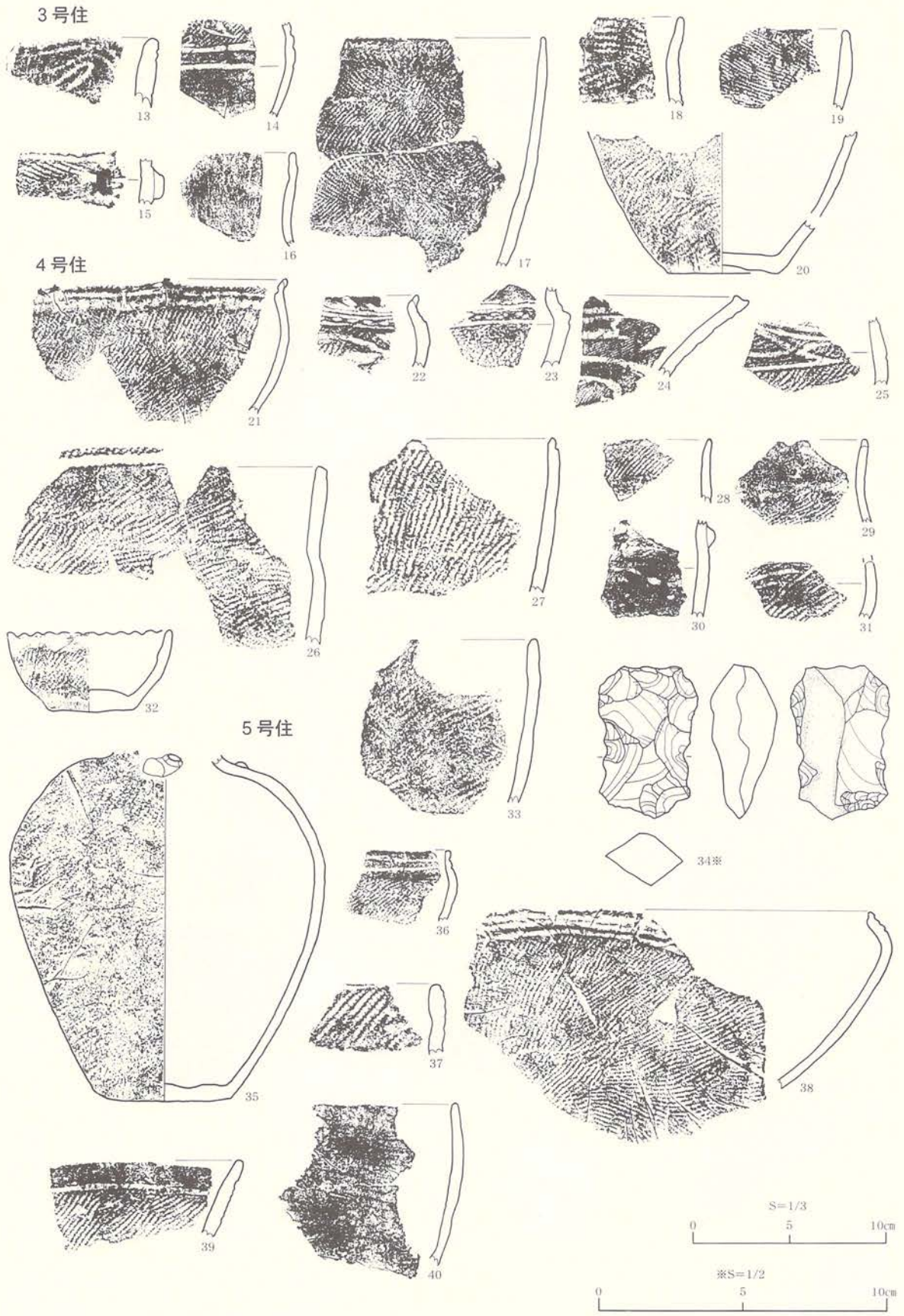
21～33の土器、34の石器が出土している。27、31～33が床面出土である。21は推定5単位のB突起が



第15図 5号住居跡



第16图 1・3号住出土遺物



第17图 3·4·5号住出土遺物

付く。口縁部に明確な沈線はなく輪積痕を沈線状に消去せず残している。32は雑な作りの小形浅鉢で、口唇部の連続する刻みも不規則になる。34は側縁に二次加工を施した不定形石器である。

### 5号住居跡

[遺構] (第15図、写真図版7)

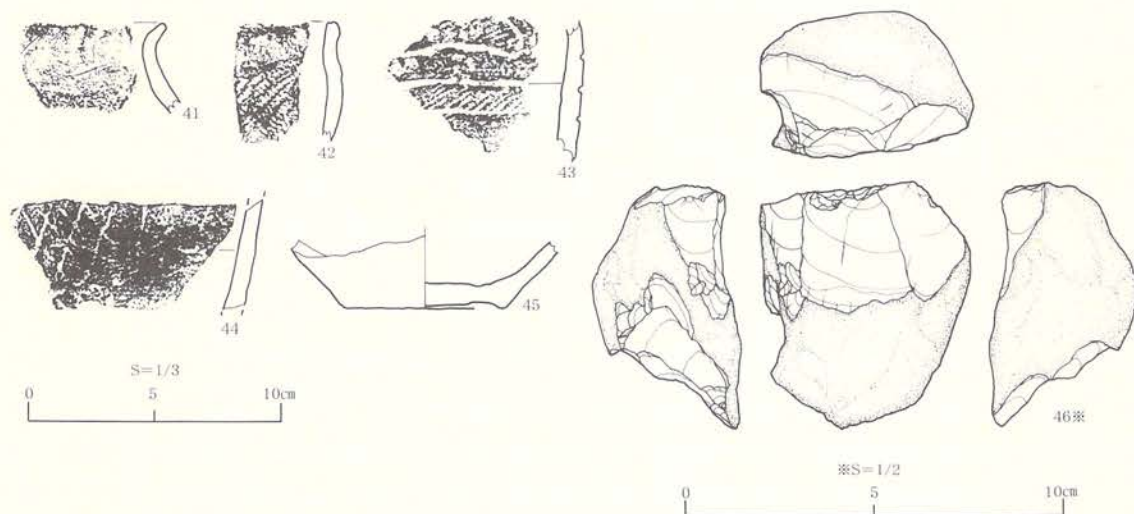
H区の南端調査区境G16グリッドに位置する。当初は竪穴住居跡としての把握ができずⅡ層包含層扱いで掘り下げていたが、石囲炉が検出され周辺を精査したところ北壁側の立ち上がりが残存し、また南側調査区境の断面観察から東西の立ち上がりを確認しプランを推定した。

平面形状は残存部分から円形基調か、もしくは北壁側が直線的に伸びるため隅丸方形になると考えられる。ただし検出した北壁はH区で各所に見られる地滑りによる地山の断層である可能性も否定できない。この点は壁際の断ち割りを行っていないため判断がつかない。石囲炉の位置がやや北に偏している点も疑問である。取りあえず図示したプランとすると規模は東西方向で推定4m弱、壁高は最大42cmになる。埋土は炭化材が混ざる黒褐色土で基本土層Ⅱ層よりわずかに暗い色調だが区別は困難である。床面は北半が地山粘土層中、南半がⅢ層中で北から南に向かい傾斜している。Ⅲ層中の部分は特に硬化、貼床などは見られない。壁面は調査区境断面では緩い立ち上がりとなる。柱穴は北壁際に小規模なPP1～8が配列する。

石囲炉は住居中央からやや北寄りに位置する。垂角礫、垂円礫を用いて円形に組んだ石囲炉で内部は床面から10cm弱ほど低く掘り込まれる。中央部に強い焼成を受ける部分がありその周辺に焼土粒が分布する。焼土の厚さは最大6cmである。石囲の礫には内側が火熱で変色したものがある。炉の焼成面から5cmほど上位から第17図35の壺形土器体部が横転の状態出土した。土器は口縁部と肩の一部が欠損している。恐らく口縁部を欠いた状態で横転させて設置してから、上部にあたる肩の一部が破損したものと推測される。炉に埋設したことによる二次被熱の痕跡は見られず、炉の廃絶後に何らかの目的で置かれたものと考えられる。

[遺物] (第17・18図、写真図版20、21)

35～45の土器、46の石器が出土している。38の鉢形土器は口縁部内外面に炭化物の付着がある。39の外傾する口縁部破片は第V～VI群土器の可能性が高い。46は石核で原石の表皮を残す粗割り段階のものである。



第18図 5号住出土遺物

第2表 5号住居跡柱穴規模

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
開口部径(cm)	14×14	13×10	13×12	26×15	24×14	10×10	16×10	15×10
深さ(cm)	7.5	5	2.5	3	3.5	4.5	6	4.5

## (2) 土坑

以下に述べる各土坑は検出面、埋土、出土遺物から明らかに縄文時代の土坑と確認できた訳ではないが、縄文時代に属する可能性が高いものという意味でここに掲載する。10号土坑はA区1号竪穴状遺構に付随する施設の可能性があるため「4. 近世(4)土坑」の項で述べる

### 1号土坑(第19・20図、写真図版8)

H区G15・H15グリッドにまたがり地山褐色土層面で検出した。西側で12号土坑を切っている。平面形状はやや東西方向に長い楕円形を呈し壁面は外傾して立ち上がる。底面には南側が低くなる段差が見られる。開口部の規模は205×170cm、深さは最大73cm。埋土は締まりが弱い黒色土で実際に崩落した褐色土ブロックがある。遺物は第20図47の近～現代陶器片が埋土上部から出土している。

### 2号土坑(第19図、写真図版8)

H区G15グリッドに位置し地山褐色土層面で検出した。平面形状は円形を呈し壁面は急傾斜で立ち上がる。底面は平坦に近いが断面図に表れない不規則な凹凸がある。開口部の規模は155×136cm、深さは最大50cm。埋土は細粒の十和田南部浮石が含まれる黒褐色土で下部が褐色土に漸移的に変化する。遺物は出土していない。この土坑埋土の堆積状況は付近で検出した地滑り痕の凹地下部堆積状況と類似しており、自然の要因による凹地を誤認している可能性もある。

### 3号土坑(第19図、写真図版8)

H区H14・15グリッドにまたがり地山褐色土層面で検出した。南北方向に長い茄子形のような平面形状を呈し底面は緩い舟底状に凹む。開口部の規模は277×140cm、深さは最大40cm。埋土は手違いにより断面記録を欠くが締まりの弱い黒褐色土が主体となる。遺物は出土していない。

### 4号土坑(第19図、写真図版8)

H区H14・15グリッドにまたがり地山褐色土層面で検出した。南北方向に長い茄子形のような平面形状を呈し底面は緩い舟底状に凹む。南側に隣接する3号土坑と形状が類似し長軸方向も一致する。開口部の規模は217×111cm、深さは最大61cm。埋土は手違いにより断面記録を欠くが締まりの弱い黒褐色土が主体となる。この点も3号土坑と同様である。東側底面にPP1、2がある。遺物は出土していない。

### 5号土坑(第19図、写真図版8)

H区H15グリッドに位置しⅢ層上面で検出した。隣接する7号土坑と同時に精査したため上部は重複するが新旧関係を把握していない。また地滑りによる地山褐色土層上面の段差を切る。平面形状は円形で深く掘り込まれ底面は八戸火山灰層下部の白色粘土層に達する。壁面の下部は急傾斜で立ち上がる。開口部の規模は150×142cm、深さは最大139cm。手違いにより断面記録を欠くが埋土は概ね締まりが弱い暗褐色土である。遺物は出土していない。

### 6号土坑(第19図、写真図版8)

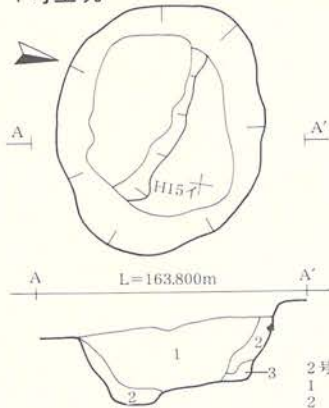
H区H15グリッドに位置しⅢ層上面で検出した。7号土坑との新旧関係は把握していない。5号土坑と同様に地山褐色土層上面の段差を切る。平面形状はいびつな楕円形で深く掘り込まれ底面は八戸火山灰層下部の白色粘土層に達する。壁面の下部は垂直に立ち上がる。開口部の規模は152×120cm、深さは最大133cm。手違いにより断面記録を欠くが埋土は概ね5号土坑同様の締まりが弱い暗褐色土である。遺物は出土していない。

### 7号土坑(第19図、写真図版8)

H区H15・G15グリッドにまたがりⅢ層上面で検出した。平面形状はいびつな円形で深く掘り込まれ

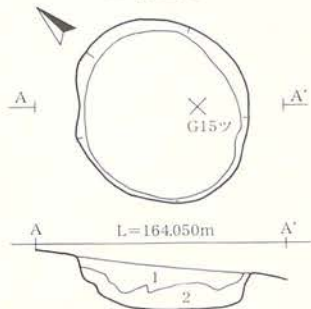


1号土坑



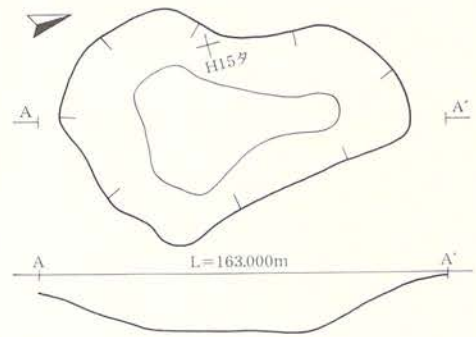
1号土坑  
 10YR2/1黒色土 シルト 粘性なし しまり弱 橙色浮石粒が1~2%混 木根多い  
 地山褐色土ブロックと1層の混在  
 10YR4/4褐色土 崩落地山ブロック

2号土坑

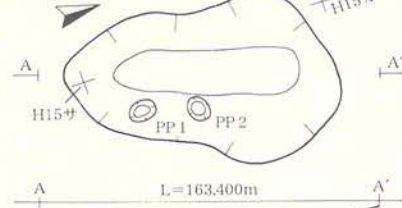


2号土坑  
 1 10YR3/3暗褐色土~10YR2/3黒褐色土 黄色浮石粒が5%混  
 2 10YR3/3暗褐色土~10YR4/4褐色土 黄色浮石粒が3~5%混

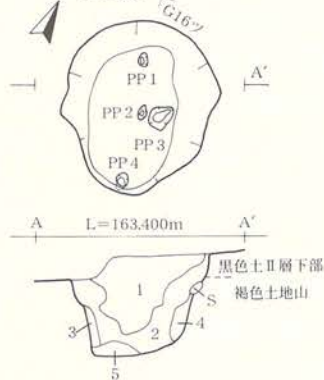
3号土坑



4号土坑

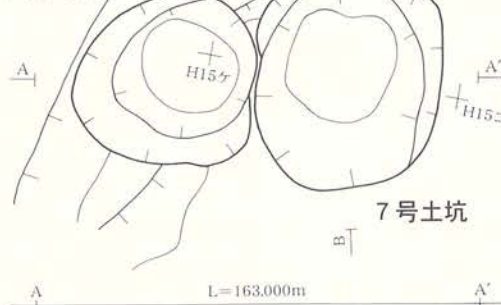


8号土坑



1 7.5YR2/1黒色土 シルト 粘性弱 しまり中 To-Nb2~3%混  
 2 10YR3/2黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 To-Nb3%混  
 3 10YR4/4褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 崩落地山ブロック  
 4 10YR3/3暗褐色土~10YR4/4褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 崩落地山ブロック  
 5 7.5YR2/1黒色土 シルト 粘性弱 しまり中

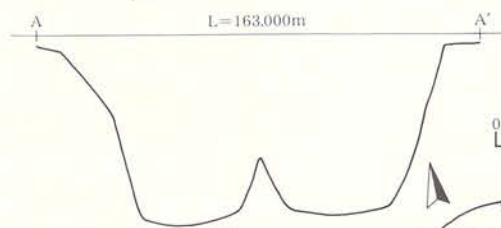
5号土坑



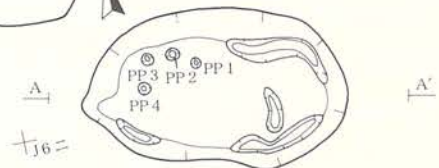
6号土坑



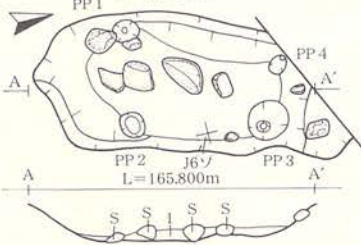
7号土坑



11号土坑

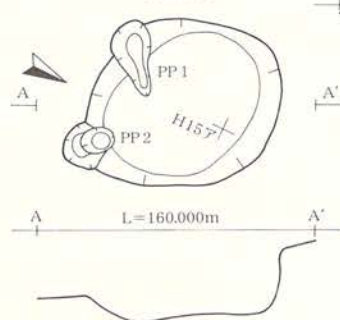


9号土坑

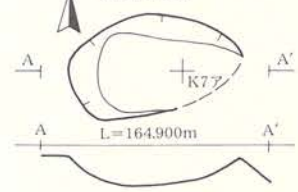


1 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり中

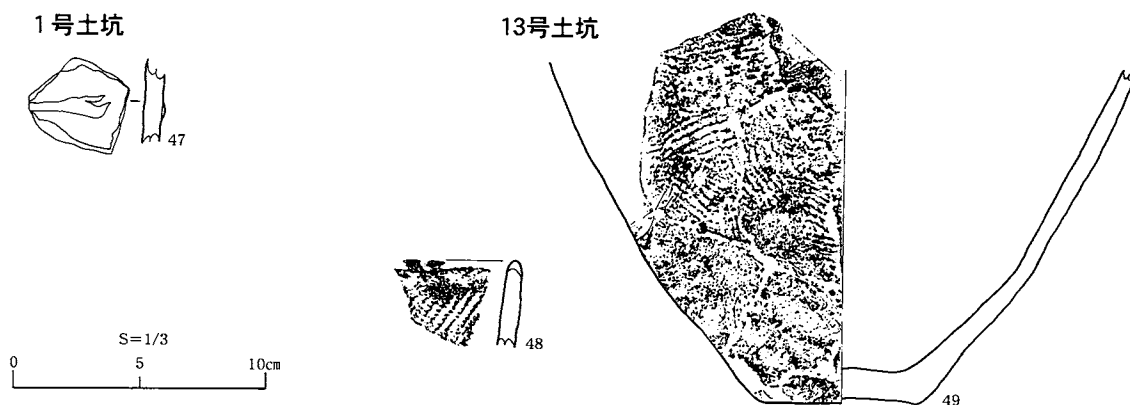
12号土坑



13号土坑



第19図 土坑



第20図 土坑出土遺物

底面は八戸火山灰層下部の白色粘土層に達する。壁面は急傾斜で立ち上がる。開口部の規模は160×150cm、深さは最大137cm。手違いにより断面記録を欠くが埋土は概ね5号土坑同様の締まりが弱い暗褐色土である。遺物は出土していない。

**8号土坑 (第19図、写真図版8)**

H区G16グリッドに位置しⅡ層上部で検出した。やや南北方向に長い楕円形の平面形状を呈し底面は若干西側が低くなる。開口部の規模は138×114cm、深さは最大83cm。埋土は壁際に崩落褐色土ブロックがあり、その上に十和田南部浮石を含む黒褐色土～黒色土が堆積する。底面に小規模なPP1～4が中軸線沿いに並ぶ。遺物は出土していない。

**9号土坑 (第19図、写真図版9)**

E区J6グリッドに位置しⅡ層下部で検出した。北側が調査区外に伸びる。南北方向に長い楕円形、もしくは南側が角張るため細長い六角形とも捉えられる平面形状を呈し、底面は緩く凹み全体に舟底状となる。開口部の規模は長軸の残存長227cm、幅110cm、深さは最大28cm。埋土下部は黒褐色土が堆積し、30～40cm大の垂角礫が中軸線沿い底面付近に並ぶ。礫には使用痕などは見られなかった。底面立ち上がり際の四隅にPP1～4がある。下部が細くなる円錐状の穴で開口部がやや中心に向かっていてる。遺物は出土していない。

**11号土坑 (第19図、写真図版9)**

E区J6グリッドに位置し3号炉跡の下部、地山褐色土層上面で検出した。ほぼ東西方向に細長い楕円形の平面形状を呈し底面は平坦になる。開口部の規模は207×123cm、深さは最大19cm。手違いにより断面記録を欠くが埋土は褐色土ブロックを含む黒褐色土である。北西側に小規模なPP1～4があるが、木の根などの攪乱の恐れがある。また東半の壁際に幅10～20cm、深さ5cm程の浅い溝が見られる。遺物は出土していない。

**12号土坑 (第19図、写真図版9)**

H区G14・15、H14・15グリッドにまたがり地山褐色土層上面で検出した。東側で1号土坑に切られる。平面形状は楕円形で壁面は外傾、底面は平坦になる。開口部の規模は184×137cm、深さは最大46cm。手違いにより断面記録を欠くが埋土は1号土坑と同様の締まりが弱い黒色土である。南壁際に細長いPP1と2がある。遺物は出土していない。

**13号土坑 (第19・20図、写真図版9)**

E区J6・7、K6・7グリッドにまたがり地山褐色土層上面で検出した。南東側が耕作による削平を受

けている。平面形状は楕円形で底面は緩い舟底状に凹む。開口部の規模は135×80cm、深さは最大23cm。手違いにより断面記録を欠くが埋土は暗褐色～黒褐色土である。遺物は第20図48、49の第Ⅶ群縄文土器が出土している。49は粗製深鉢底部で外面が二次被熱で変色している。

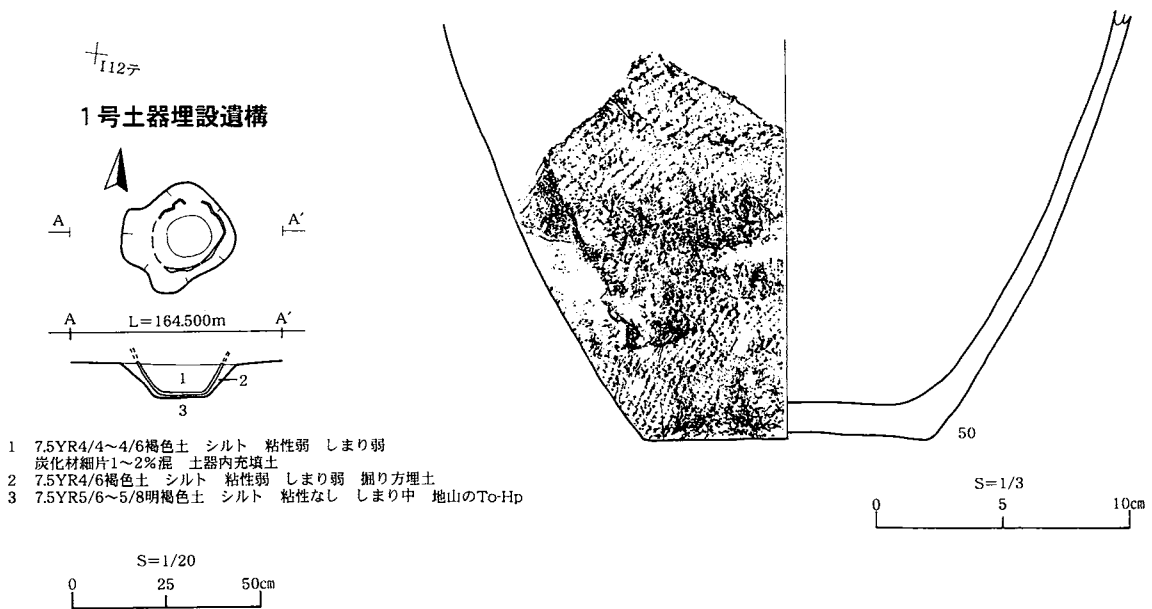
第3表 土坑付属ピット規模

遺構名	4号土坑		8号土坑				9号土坑			
No.	1	2	1	2	3	4	1	2	3	4
開口部径(cm)	22×15	20×16	12×7	12×7	23×16	12×10	24×19	20×18	32×30	17×13
深さ(cm)	—	—	—	—	—	—	5	28.5	13	12.5
遺構名	11号土坑				12号土坑					
No.	1	2	3	4	1	2				
開口部径(cm)	8×7	11×9	11×10	9×9	60×30	52×37				
深さ(cm)	2	4.5	4.5	6	—	—				

(3) 土器埋設遺構

1号土器埋設遺構 (第21図、写真図版9、21)

E区東端のI12グリッドに位置し、地山明褐色土層上面で検出した。粗製深鉢下半が正立の状態に埋設されている。畑地の耕作で一帯が削平された場所にあたり、上部は削平を受けて欠損した可能性がある。埋設坑の掘り方規模は31×30cmの不整形で深さは最大9cm。土器内部、掘り方埋土とも締まりの弱い褐色土が堆積する。土器内部からは炭化材の細片が少量出土した。土器(第21図50)は地文LR縄文の第Ⅶ群深鉢で非常に脆く器面も荒れている。二次的な熱変色等は見られない。



第21図 土器埋設遺構

(4) C区捨て場 (第22図、写真図版10~12)

① 捨て場の概要

C区の現道下で検出した地滑りに寄って生じた幅20mの凹地に、大量の縄文時代晩期の遺物を含む層が厚さ最大2mで堆積している「捨て場」を検出した。捨て場の現状は南東側が以前の開田工事により掘削され、残存する北西側の包含層前面に約1mの厚さで盛土がなされ現道下の法面となっている。今回の調査対象範囲は法面を含む最大幅5mの部分で曲線を描いて捨て場を横断する状態になり、調査した包含層の土量

は約60立米である。捨て場全体の規模は不明だが、北西～南東方向に延びる細長い凹地と考えられる。

この地点は昭和59年に道路補修の事前調査の際、既に良好な縄文時代晩期の遺物包含層として確認されていた部分である（面代民義1985『大芦遺跡発掘調査報告書』久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第5集）。この時の調査は大雨による路肩損壊を要因とする道路法面補強工事に伴うもので、調査目的は法面上の遺物取り上げと遺物包含層の観察及び遺構の有無の確認とされている（前掲書 I 調査に至る経過より）。調査方法は工事予定区域内を崩壊した東半（IX・X区）と西半（I～VIII区）に区分し、西半の比較的削土されておらず遺物堆積の顕著なII区～VIII区（2mで区切った）について、区域内法面を生きている面まで下げ土層観察図を作成している。この際、VI区東半に断面観察、断面図補正用のトレンチが設定されている。

報告によると遺物包含層はA層：黒色土層、B層：黒褐色土層、C層：粘性のある黒色土層、D層：やや粘りのある黒色土層、E層：大小礫の多い粘土質の黄褐色土層（地山）に大別され、更にその細分により最大12層が把握されている。このうちB3層、B4層に二次的な焼土ブロックが介在する。遺物はA～D層まで出土するが、焼土ブロックの周囲をはじめとしたB層に遺物が集中しており、遺物量は全体で30箱にのぼっている。

## ② 調査方法

今回の調査では道路復旧工事による盛土を除去し前回調査時の包含層を露出させ前回把握された層位との対比に務めたが、報告されているような堆積状況は確認できなかった。調査後の道路工事において更に掘削などの攪乱を受けた可能性がある。

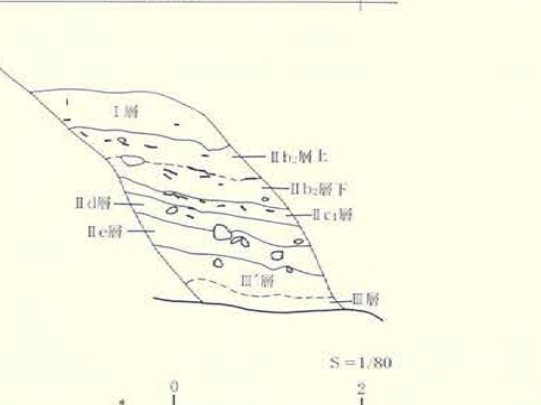
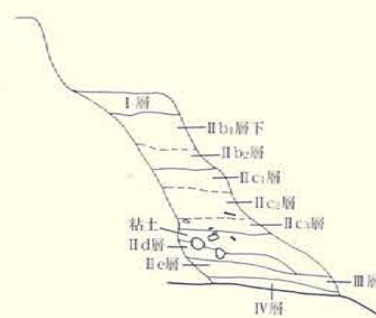
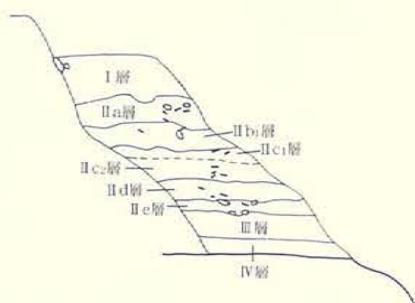
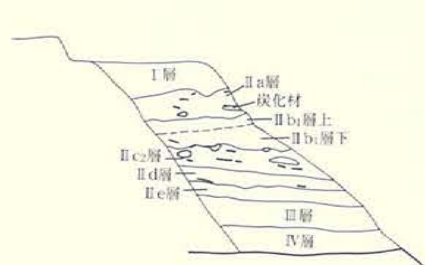
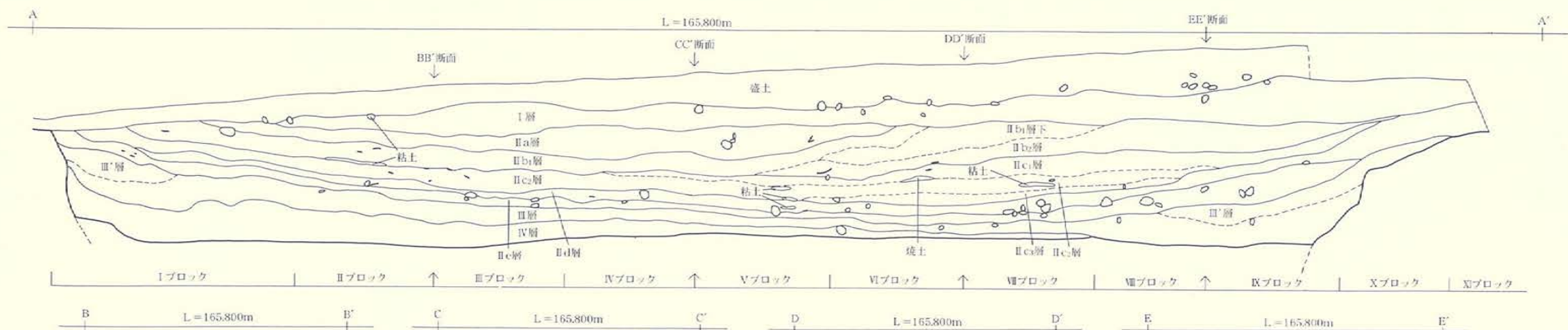
調査手順としては対象範囲の奥行きが2m程度と狭いため、まず露出させた包含層を上端幅2m毎にI～XIブロックに11等分した。ブロックの設定については、前回調査においてVI区北東端に設けられた層序観察用のトレンチが検出されたため、そのトレンチ北東壁（前回のVI区～VII区境界）を基準とし今回のVI～VIIブロック境界とした。今回のI～VIIIブロックはほぼ前回のI～VIII区に該当するが、今回のIX～XIブロックは前回のIX区を細分した状態になる。

次いでII～IIIブロック間、IV～Vブロック間、VI～VIIブロック間、VIII～IXブロック間、X～XIブロック間に4m間隔になるように幅50cmのトレンチを合計5本入れ、包含層前面とトレンチ両側壁において層序の観察を行った。これにより各ブロックについては3方向から層序区分を行うことが可能となり、まず偶数ブロックを層位毎に順次掘り下げた。次に奇数ブロックの南西端を断面実測用のベルトに幅50cm残し掘り下げた。最後にベルトの断面記録を行いベルト除去後、法面の堆積状況を記録した。遺物の取り上げはブロック、層位毎に行っている。当初設定した5本のトレンチは50cmという一定の深さ毎に遺物取り上げを行ったため、トレンチ内の遺物は複数の層にまたがった所属層位を持つ場合がある。層位毎に取り上げた部分は計算上全体の87.5%である。

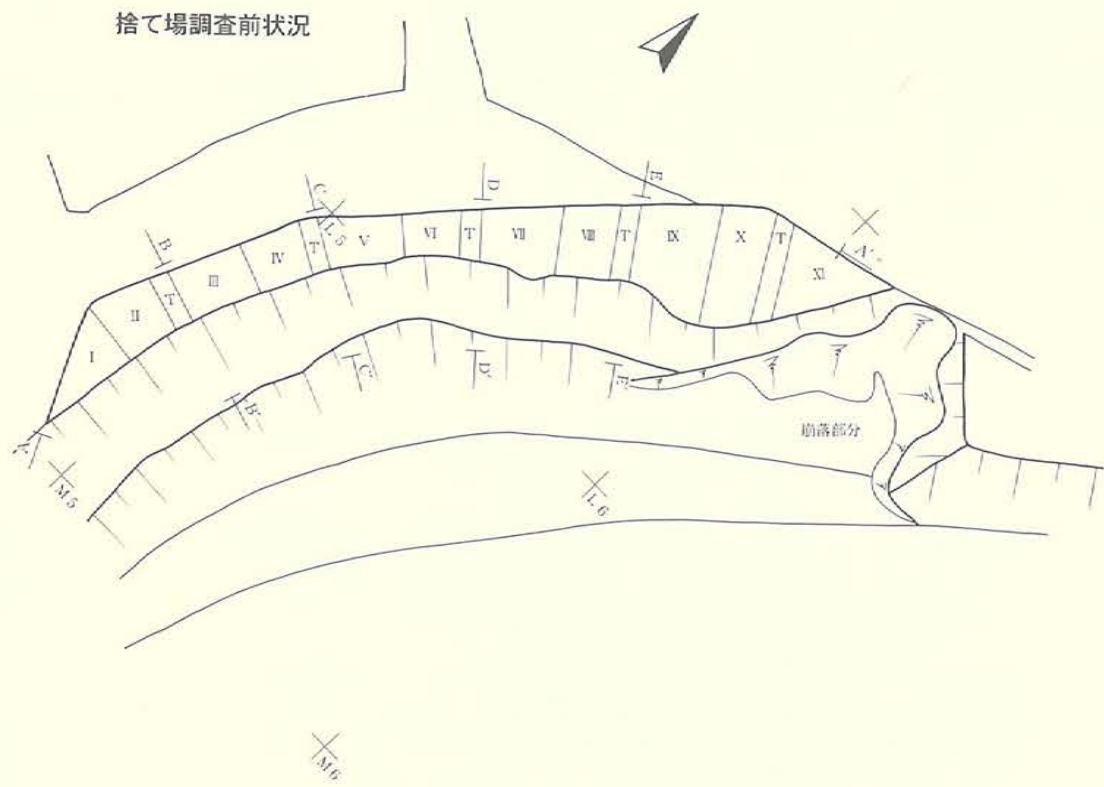
## ③ 包含層の内容

包含層は色調や炭化物、焼土の混入具合により区分した。最上部に道路敷設に伴う砂利を含む盛土整地層があり、その下位にあたるI層は下位の縄文時代包含層上部との区別が判断しづらいが、陶磁器他の近・現代遺物を含むことから包含層が攪乱を受けている部分と判断した。

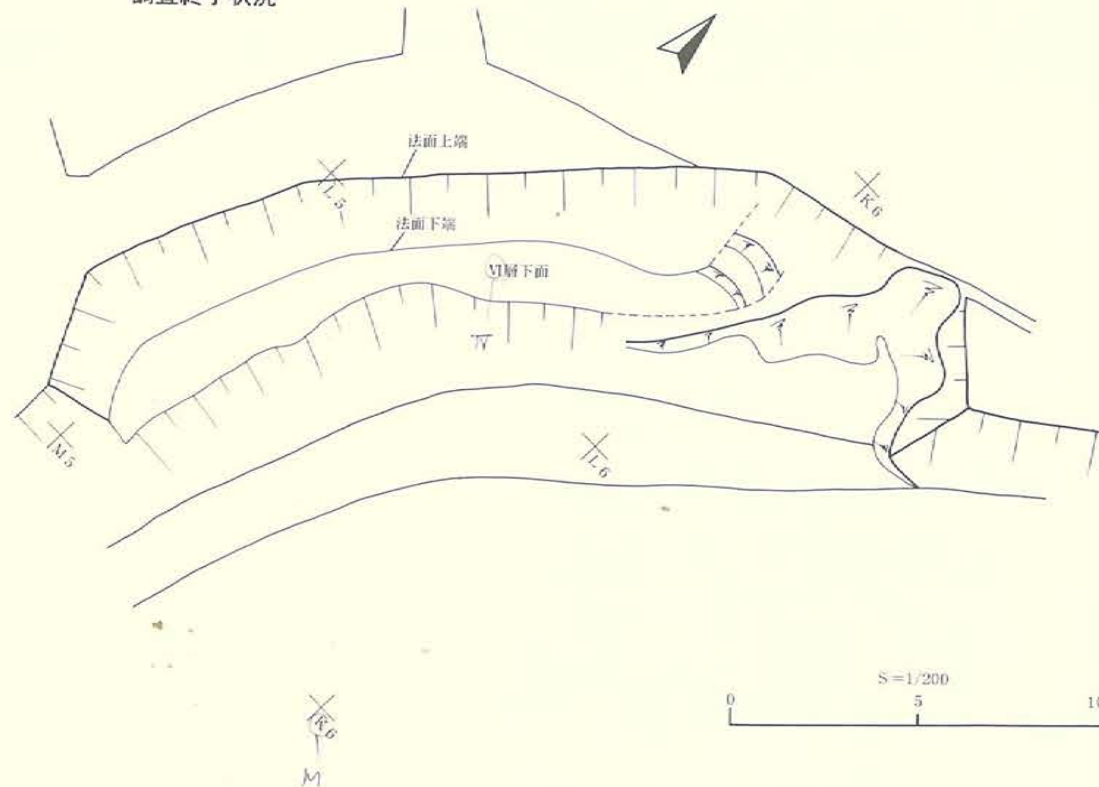
縄文時代晩期の包含層（II層）はIIa～IIe層の5層に大別できる。IIb・IIc層は焼土ブロック、炭化材集中層などが介在し、IIb1・2層、IIc1～3層等に区分できる。断面観察の結果、これらが更に細分可能な地点があるが、層厚1～2cm程度となり遺物取り上げに反映させることが実際には困難であるため、断面での記録のみ行っている。III層はほとんど遺物を含まない黒色土層、IV層は十和田中振テフラと推測さ



捨て場調査前状況



調査終了状況



第22図 C区捨て場

第4表 C区捨て場包含層注記

I 附

ブロック	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX
色調	7.5YR2/1 黒色土	7.5YR2/1 黒色土	7.5YR2/1 黒色土	7.5YR2/1 黒色土	7.5YR2/1 黒色土	7.5YR2/1~10YR2/1黒 色土	7.5YR2/1 黒色土	注記もれ
粘性	なし	なし	なし~弱	弱	なし	弱	なし	
土質	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト	
含有物(炭化物)						10%(下部に集中)		
含有物(礫)						5~10%		
備考	均質	均質	均質		均質			

I 附上部

ブロック	X	X I
色調	7.5YR2/1 黒色土	注記もれ
粘性	なし	
土質	シルト	
含有物(焼土粒)	若干	

I 附下部

ブロック	X	X I
色調	7.5YR2/1黒色土	注記もれ
粘性	なし	
土質	シルト	
含有物(焼土ブロック)	層下部に二次堆積焼土ブロック(5YR5/8明褐色土)径1m以上	

II a 附

ブロック	I	II	III	IV	V
色調	7.5YR2/1黒色土	10YR2/1黒色土	10YR2/1黒色土~10YR2/2黒褐色土	10YR2/2黒褐色土	10YR2/1黒色土~10YR2/2黒褐色土
粘性	なし	弱	弱	なし	なし
土質	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト
含有物(炭化材)		若干	層底面炭化材層(50×50cm)混		
含有物(焼土粒)		若干			
含有物(焼土ブロック)		焼土ブロック混	二次堆積焼土ブロック(5YR4/6赤褐色土)混		
含有物(礫)				大小礫5~10%	若干

II b 1 附

ブロック	I	II	III	IV	V	VI
色調	7.5YR2/1黒色土	7.5YR2/2黒褐色土	7.5YR3/3~3/4暗褐色土	7.5YR3/3~3/4暗褐色土	7.5YR2/1黒色土~7.5YR2/2黒褐色土	10YR2/2~2/3黒褐色土
粘性	なし	弱	中	弱	弱	なし
土質	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト
含有物(炭化材)	若干	集中ブロック有り		層下部集中ブロック(径10~20mm)	層状に含む	若干
含有物(焼土粒)	若干			若干	層状に含む	
含有物(焼土ブロック)		二次堆積焼土ブロック(5YR5/8明赤褐色土)混	二次堆積ブロック複数枚レンズ状に含む			
含有物(礫)	大小礫若干	小礫若干	若干			10~20%
備考		粘土ブロック(2.5YR8/3淡黄色)径40~50cm厚3~4cm含む			焼土層と炭化材層の互層状堆積	

II b 1 附 下部

ブロック	VII
色調	7.5YR2/2~10YR2/2黒褐色土
粘性	弱
土質	シルト
含有物(炭化材)	10%
含有物(礫)	10~20%

II b 2 附

ブロック	VI	VII	VIII	IX	X	X I
色調	7.5YR3/3暗褐色土	7.5YR2/3極暗褐色土	7.5YR2/2~10YR2/2黒褐色土	注記もれ	7.5YR2/1黒色土	注記もれ
粘性	弱	弱	なし~弱		弱	
土質	シルト	シルト	シルト		シルト	
含有物(炭化材)	多量	若干	若干			
含有物(焼土粒)	多量	若干	若干		若干	
含有物(焼土ブロック)	層底面二次堆積焼土ブロック(5YR4/6赤褐色土)径90×7cm厚2~3cm					
含有物(礫)						
備考	薄い黒色土が複数枚挟まる	2層に細分可	底面に褐色土ブロック(7.5YR4/6)厚1~2cm			

II c 1 層

ブロック	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI
色調	注記もれ	7.5YR2/1黒色土	7.5YR2/1黒色土～10YR2/2黒色土	7.5YR3黒褐色土	注記もれ	7.5YR2/1黒色土	注記もれ
粘性		弱～中	弱	弱		弱	
土質		シルト	シルト	砂質シルト		シルト	
含有物(炭化材)		II B 2 層より多い	II B 2 層より多い	B 2 層より多い		若干	
含有物(焼土粒)		II B 2 層より少ない	若干	若干			
含有物(礫)				大小礫含む			
備考		含水多い	4層に細分可				

II c 2 層

ブロック	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
色調	7.5YR3/1黒褐色土	7.5YR2/1黒色土	7.5YR2/2黒褐色土	7.5YR2/2黒褐色土	注記もれ	7.5YR2/1黒色土	7.5YR2/1黒色土 部7.5YR暗褐色土	10YR2/1黒色土
粘性	なし	弱～中	中	中		中	中	中
土質	シルト	シルト	シルト	シルト		シルト	シルト	シルト
含有物(炭化材)				10%		II c 1 層より少ない	多量	II c 1 層より少ない
含有物(焼土粒)	若干		多量	多量		II c 1 層より少ない	多量	
含有物(礫)	大小礫含む		大小礫含む	大小礫含む		大小礫含む		大小礫含む (II c 1 層より多い)
備考		獣骨出土	含水多い 層下部に 白色粘土ブロック径 30×20cm厚3cm含む	含水多い 白色粘土 ブロック径20厚3cm 含む		II c 1 層よりやや暗 褐色	最大8層に細分可	含水多い

II c 3 層

ブロック	VI	VII	VIII
色調	10YR3/2黒褐色土～10YR3/3 暗褐色土	7.5YR2/1黒色土	10YR2/1黒色土
粘性	中	中	中
土質	シルト	シルト	シルト
含有物(炭化材)	多量	多量	II c 1 層より少ない
含有物(焼土粒)	多量	多量	
含有物(礫)			大小礫含む (II c 1 層より多い)
備考	含水多い	含水多い	含水多い

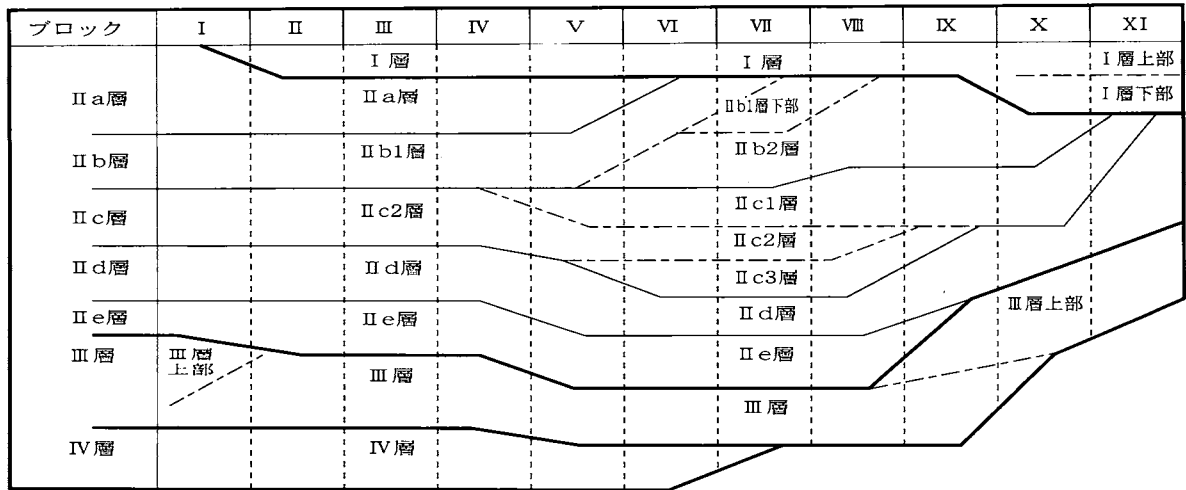
II d 層

ブロック	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI
色調	10YR2/1黒色土	7.5YR2/1黒色土	7.5YR2/1黒色土	7.5YR2/1黒色土	注記もれ	7.5YR1.7/1～2/1黒色土	7.5YR2/1黒色土	10YR2/1黒色土 ～10YR2/2黒褐色土	注記もれ	注記もれ	注記もれ
粘性	弱	弱～中	中	中		中	中	中			
土質	シルト	シルト	シルト	シルト		シルト	シルト	シルト			
含有物(炭化材)	多量	層下部に集中	多量	10～20%		多量		若干			
含有物(焼土粒)	層状に集中	若干				多量					
含有物(礫)	大小礫含む (II c 2 層より多い)		大小礫含む	大小礫含む				大礫20～30%			
備考	焼土粒集中層と黒色土層の互層状堆積	粘土ブロック含む		含水多い 粘土ブロック含む		含水多い	シカ頭骨出土	含水多い			

II e 層

ブロック	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
色調	10YR2/2黒褐色土	10YR2/2黒褐色土	注記もれ	7.5YR2/2黒褐色土	注記もれ	7.5YR1.7/1～2/1黒色土	注記もれ	10YR2/1黒色土～10YR2/2黒褐色土
粘性	中	中		中		中		中
土質	シルト	シルト		シルト～粘土質シルト		シルト		シルト
含有物(炭化材)	微量	微量						若干
含有物(焼土粒)	若干	若干		2～3%				
含有物(礫)	大小礫含む	大小礫含む		大小礫含む		大小礫20～30% (径10～15mm)		大礫20～30%
備考				含水多い 獣骨片出土		含水多い 獣骨片 (下顎一部他)		含水多い

第5表 C区捨て場包含層堆積関係



れる黄褐色の火山灰層である。堆積状況は全体的な傾向として北東-南西方向断面では中央部が若干凹む。各層は厚さ10~30cm程度で北東-南西方向では両端まで平均的に伸びるのが特徴的である。直交する方向(縦断面)では北西側から南東側に向かってやや低くなる傾斜を示す。またレンズ状を呈する二次的な焼土ブロック、白色粘土ブロックが散在する。

④ 出土遺物の概要

遺物の密度は高く1立米当たり土器・石器類が平均約50kgの出土量である。層位、ブロック毎の土器出土量は第6表、石器出土量は第8表に示した。なお全体ではコンテナ110箱強の遺物量になる。

全体的な傾向として概観すると土器は包含層の上部II a層では大洞C 1~C 2式、II b、II c層では大洞C 1式、下部II d、II e層では大洞BC式が主体となる。器種は深鉢、鉢形が中心で、浅鉢・皿形、注口土器、壺が見られる。一般的な土器の他に薄手無文の尖底土器の一群があり、特徴から製塩土器と判断している。石器は土器量に比較すると全体に少ない印象があるが中でも剥片類を主体としており、礫石器類は極めて少ない。土製品、石製品では遮光器土偶、X字形土偶、人面付中空土製品(カメ形土製品)、内面渦状土製品(イモガイ形土製品)、スプーン状土製品、耳飾、岩版、石棒等がある。人工遺物以外には動物遺存体、炭化材、炭化種実、琥珀原石、赤色顔料塊、アスファルト塊、粘土ブロックが出土している。自然遺物として後述する。

⑤ 土器(第23~68図、写真図版21~42)

捨て場から出土した土器の総量は盛土出土のものを含めると1,059,420gである。個体数の目安としては口縁部破片の合計が12,400点余りである。掲載はある程度接合が進み形状が判明したものを中心に任意に抽出し、891点を図示している。掲載順は層位、ブロックの順番としており必ずしも同一分類のものをまとめてはいない。また時間的制約により拓本を多用したため見づらいものが多い点は御了承いただきたい。特に記したものの以外に個々の説明は第13表に替える。

時期的には第VII群晩期前葉~中葉、特に大洞BC式~C 1式のもの为主体で、他に前後の大洞B式、大洞C 2式が出土する。これらの他、晩期の異系統土器群と捉え得る1郡が含まれる。晩期以外では早期中葉、前期初頭、中期前葉、後期前葉~後葉、弥生時代中期が少量出土する。早期~中期のみ第68図にまとめた。早期~中期(第68図919~936) 第I~III群に相当する。図示した破片でほとんど全てである。919は第I群早期中葉の貝殻腹縁文を施す体部破片である。920~931は第II群前期初頭の単節縄文、綾絡文、網目



状燃糸文、木目状燃糸文を施文する破片。いずれも繊維の含有が多い。932～936は第Ⅲ群中期前葉の円筒上層 a～b 式に位置づけられる隆帯に縄文原体圧痕を加えた文様要素を主とする破片である。出土層位は下部に集中するという状況ではないが、Ⅲ層出土のものが含まれる。なおこの C 区捨て場では十和田中振テフラ相当のⅣ層下位からは遺物出土がない。

**中期末** 第Ⅳ群に相当する土器で563の1点が該当する。沈線区画内に縦位回転の縄文が施文される。

**後期初頭～中葉** 第Ⅴ群に相当する土器で、初頭～前葉段階のものとして789、917、918が該当し、中葉段階のものとしては773、787、788、790、797、809、810の7点がある。刻目帯や充填縄文による入組文が発達する。ほとんどがⅡ e 層出土である。

**後期後葉** 第Ⅵ群に相当する土器で、87、121、199、276、548、561、610、715、798、860、861、887、888、916が該当する。Ⅱ d～e 層出土が多い(610～888)。磨消、充填縄文による入組文、粘土瘤の貼付が目立つ。

**大洞 B 式** 第Ⅶ群晩期土器のうち三叉文を特徴とする大洞 B 式に比定されるものがある。161、281、655、679、681、711、776、801が該当する。鉢、ないし深鉢形土器の口縁部に施文されたものが主になる。出土はⅡ d～e 層が多い(655～801)。分類は下記の大洞 BC～C 1 式土器に準じる。

**大洞 BC 式～大洞 C 1 式** 捨て場出土土器の主体である。器種としては深鉢、鉢、浅鉢、台付深鉢、台付鉢、台付浅鉢、片口鉢、壺、注口、香炉があり、各器種毎に器形、文様帯構成から以下のように分類する。台付鉢、台付浅鉢は底部以下が遺存しないものが多いため特に分離はせず、上半の鉢部の状況について台を持たない深鉢、鉢、浅鉢と共通の分類とする。

**深鉢 1** : 体部上半が内湾する器形で a : 文様が施文されるもの、b : 施文の縄文のみを施文するもの、c : 無文のものに細分される。a 類の文様は口縁部文様帯に施文される平行沈線や列点文などで、a、b 類共に口縁端部内面側が肥厚したり、貼付により角張るものがある。

2 : 口縁部が内面に屈曲、または外反する器形で a : 文様が施文されるもの、b : 無文の口縁部となるもの、c : 地文の縄文のみを施文するものに細分される。a 類の文様は口縁のくびれ部分に平行沈線、列点文、雲形文、突起が施文される。b 類はくびれ部上位が無文となる。

1、2 類共に口縁部に連続する刻目や小突起、一定の単位を取る突起が加えられるものが多い。器台を持つ台付深鉢も認められる(345、356)。口唇部の装飾は指頭圧痕の連続などで小波状となるもの、複数単位の突起を持つもの、刻みを連続させるものと様々である。施文縄文は他器種にも共通するが LR 単節縄文が圧倒的に多い。使用痕で特徴的な点として外面のみに炭化物が付着している個体が一定割合を占める。

**鉢 1** : 口縁部から体部上半が内湾して立ち上がる器形で a : 口縁部文様帯を持つもの、b : 地文の縄文のみを施文するもの、c : 無文のものに細分される。

2 : 口縁上部が内面に屈曲し端部が外傾、体部上半が張り出す器形で a : 口縁部と体部に文様帯を持つもの、b : 口縁部に文様帯を持つものに細分される。

3 : 口縁部が外傾しくびれる頸部以下が内湾する器形で a : 口縁部と体部に文様帯を持つもの、b : 口縁部に文様帯を持つものに細分される。

4 : 口縁部が外面に屈曲して端部が内傾する器形で、屈曲上位に文様が施文される。

5 : 体部が球形で口縁部が直立気味になる器形で a : 口縁部、体部文様帯を持つもの、b : 無文のものに細分される。

量的には1～3類が非常に多い。また台付鉢となるものが恐らく過半数に達する。1～4類に比較すると5類は壺との中間的な器形で精選された個体が目立つ。文様は口縁部～頸部の列点、羊歯状文、体部の雲形文、K字状文が一般的である。使用痕は内外面に炭化物の付着が著しい。

**浅鉢 1**：口縁部から底部まで内湾する器形で a：口縁部、体部に文様が施文されるもの、b：口縁部に沈線が巡り体部は地文縄文が施文される、もしくは無文のもの、c：全体に地文縄文が施文されるもの、d：無文のものがある。

- 2：体部が直線的、ないしやや外反して外傾する器形で、通常は口縁部、体部に文様が施文される。
- 3：口縁部から体部上半が外反し、底部直上が張り出す器形で a：体部上半と下半に文様が施文されるもの、b：体部上半に文様が施文され下半が地文縄文となるものに細分される。
- 4：口縁部が外傾し頸部がくびれ体部が内湾する器形で、通常は体部上半から口縁部に文様が施文される。
- 5：底部が偏平で体部が直立気味になる器形で、a：体部に地文縄文が施されるもの、b：体部が無文となるものに細分される。

1類を主体としており、口唇部への加飾が三角形の彫去と突起を組み合わせたものが連続する個体が過半数になる。3類では底面にかけて文様の展開が見られる。

**片口鉢**：全体の器形は鉢形で口縁部の一部が受け口状に突出する。無文口縁部の一部が受け口になるものがほとんどである。

- 壺 1**：口縁部が内湾気味に外傾し頸部が内傾、もしくは直立し体部は球形となる器形で a：体部に文様が施文されるもの、b：体部に地文縄文が施されるもの、c：体部が無文のものに細分される。
- 2：口縁部が外傾し屈曲して球形の体部に至る器形で a：体部に文様が施文されるもの、b：体部に地文縄文が施されるもの、c：体部が無文のものに細分される。
  - 3：頸部が細く伸び球形の体部となる器形で、頸部下から体部に文様が施文される。小型のものが多い。
  - 4：口縁部が内湾気味に外傾し体部上半が直線的で徳利形の体部となる器形で a：体部に文様が施文されるもの、b：体部に地文縄文が施されるもの、c：体部が無文のものに細分される。
  - 5：外反する口縁部から体部上半がS字状を呈し体部下半が膨らむ器形で、無文のものが主である。
  - 6：口縁部から体部下半まで外反して底部直上が膨らみ口径が最大径となる器形で、ほぼ全面に文様が展開する。

1・2類が主体で3～6類は少数の出土である。1・3・4類には各種文様が展開するものが多い。対照的に2類にはbの体部が地文のみとなるものがほとんどである。6類は口径が大きく鉢形のバリエーションと捉え得る。壺形は他器種に比較し赤色塗彩が目立つ。

**注口 1**：口縁部が皿状に広がり頸部が内傾し体部が算盤形に張り出す。

- 2：口縁部が直線的に内傾し体部が算盤形に張り出す。
- 3：口縁部から体部上半が外反し体部が張り出す。
- 4：口縁部が短く外傾し球形の体部となる。

1・2類が主体である。ほとんどの個体で体部上半に羊歯状文、雲形文が展開する。施文文様、無文部の調整では他器種より概して丁寧である。

**香炉**：420の1点がある。天井部が欠損しており詳細は不明である。

**大洞C 2式** 偏平な雲形文、C字文など大洞C 2式の特徴を持つ土器がI層に集中する。特に北東側のⅩ・Ⅹブロック(80~123)では大多数を占める。ⅩブロックⅡd層の765、766、768は上部からの混入の可能性が高い。器種は深鉢、鉢形が主体で、精選された胎土、赤褐色の色調が特徴である。分類は上記に準じる。

**異系統土器** 上記の大洞B式~大洞C 2式と類似するモチーフを持つにはいるが、個々の単位文様が一般的な大洞系土器群の中に見られない、もしくは単位文様の繰り返しが大きく崩れているものがある。また、焼成や器面調整、口縁部の装飾などから晩期の可能性が高いが施文文様では判断し兼ねるものもある。用語としてあまり適切ではないが一括して異系統土器群とした。これらの施文手法は沈線の引き方が粗雑であったりナゾリ工程の省略により浮き彫り状とならず、非常にラフな印象を与える。器種には、深鉢、鉢、浅鉢、壺、注口があり、組成は大洞系土器群と基本的には共通する。文様モチーフには以下の種類がある。

a: 横長の弧線を連続、または交互に入り組ませるもの。鉢(479、480、625、638、639、728、745)の口縁部ないし頸部に展開する。464、678、803の鉢?口縁部、も同様のモチーフが施文される。横長の列点文とセットになるものが多い。

b: 入組S字状文が連続するもの。深鉢(680)、壺(834)の口縁部に見られる。S字の頂部から刺が出ている。710の注口体部上半、800の片口鉢口縁部文様も崩れてはいるがこれに類似する。

c: 横位C字状文の末端が渦巻になるもの。222の深鉢体部、736の片口体部上半が該当する。

d: 弧線や渦巻文を組み合わせた不規則なモチーフが施文されるもの。浅鉢、鉢(355、423、615、624、647、658、699)、壺?(651)に見られる。単位間で文様の構成が異なる、あるいは699の如く単位が捉えられないといった状況である。

e: 下描き状に細く不規則な沈線文が施文されるもの。577の注口土器、615、663、733の浅鉢、851の鉢に見られる。無文の器面や縄文に重ねられた細い沈線で雑な構成は取っている。

これらの文様には該当しないが、503の注口土器も体部の最大径が底部付近まで下がり特徴的な器形となっており、異系統土器と捉えた。異系統土器の出土層位はⅡb~e層まで含まれるがⅡd層が多いのが目立つ。これらに共通する状況としては色調が灰白色、にぶい黄橙色を呈するものが多く、通常の晩期精製土器に多い黒褐色とはならない。また外面の文様周辺にはミガキ調整が加えられていない。

上記の他、特殊な装飾や使用方法が考えられるものとして、次の2点を挙げる。

**人面状装飾付土器** 444の鉢は体部上部の内傾する箇所1単位だけ隆起線と突起を組み合わせた文様が施される。突起は破損しているが上方に突き出たもので両側に2本の隆起線を入り組ませた横長の渦巻文があり、更に外側に小突起がある。突起が鼻、渦巻文が眼の表現と見れば人面状のモチーフと捉えられる可能性がある。ただし体部の磨消縄文には口の表現は見当たらない。

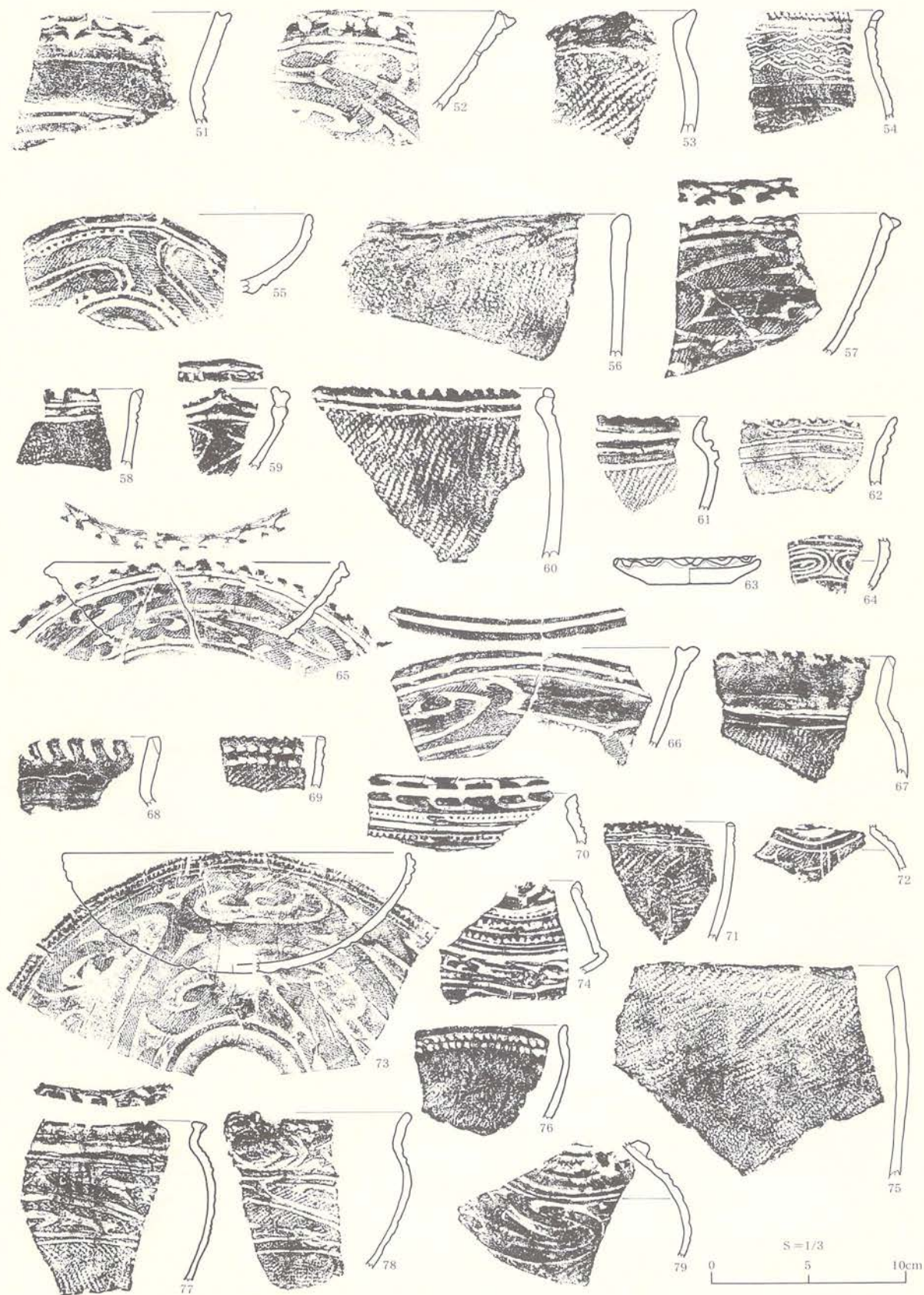
**穿孔土器** 667の長胴形の壺は底部のやや上に下向きの穿孔が1箇所なされている。破損しておらず補修孔でないことは確実である。貫通孔は楕円形で孔径は8×6mm、主に内面から穿孔を加えており内面側の孔周辺が若干剥離している。また孔周辺に炭化物の付着が見られる。

**弥生時代中期** 弥生時代は「第IV章2.(1)」で遺構外出土遺物について述べているが、C区捨て場出土土器の中にも54、120の2点の弥生時代土器が含まれており、便宜上ここに掲載した。54は緩く外反する頸部に平行する鋸歯状の沈線が施文される。口縁端部は外向きに屈曲し刻目が施される。また120は若干厚みを持つ口縁部の上端に鋸歯状の沈線が1本引かれる。鋸歯状の沈線の特徴から両者とも中期段階に位置づけられる。

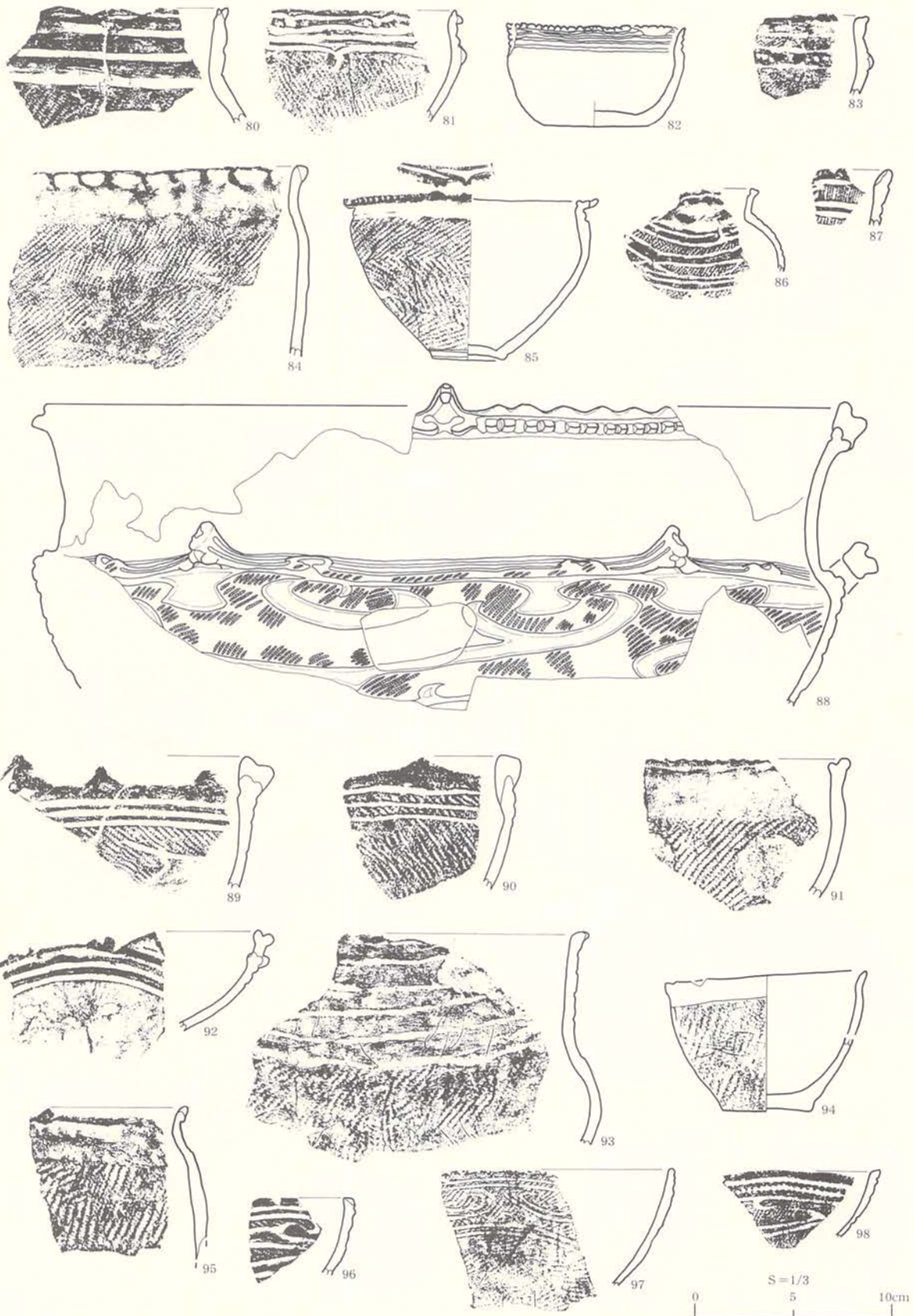
第6表 C区捨て場土器数量

ブロック	層位	総重量(g)	口縁部数	口縁部重量	底部数	底部重量	完形数	完形重量	掲載点数
	盛土	117490							14
I	II a層	25660	60	1210	26	660	1	360	3
I	II b 1層	24080	89	1710	30	1030	4		8
I	II c 2層	20690	259	3880	21	1610	5	1150	15
I	II d層	30680	175	2580	48	1980		1630	14
I	II e層	3280	16	220	3	60			3
II	I・II a層	8410	30	370					0
II	I～II e層	1640	74	840					0
II	I層	16510	93	1960	28	540			6
II	II a層	6140	180	3280	33	1100	9	1360	10
II	II b 1・II c 2層	23455	129	2880	21	710	5	1430	0
II	II b 1層	42720	221	5720	34	1680	19	5680	45
II	II c 2層	24395	168	2710	28	1060	9	2410	20
II	II d・II e層	28105	137	4600	25	1440			16
II	II d層	51350	110	2460	38	1470	5	1810	14
II	II e層	3220	24	220					2
III	I～II e層	1970	153	1970					0
III	I層								3
III	II a層	33430	217	2600	47	1020	1	1050	11
III	II b 1層	58910	434	11510	88	2950	10	1960	22
III	II c 2層	59535	342	9730	56	3825	14	5790	33
III	II d層	59340	316	5150	58	3680	23	6690	40
III	II e層	14220	83	3270	23	1040	2	1900	10
IV	I層	61860	336	6670	48	2480	1	60	7
IV	II a・II b 1層	27750	143	1810	29	850	5	1520	3
IV	II a層	71210	288	5420	59	1820	1	40	10
IV	II b 1層	20170	211	4780	40	1230			7
IV	II c 1・II c 2・II d層	24015	91	2760	25	1200	22	1055	9
IV	II c 2・II d層	4620	3	510			26	3760	0
IV	II c 2層	30345	185	2990	52	1110			5
IV	II d層	34790	141	4720	48	3130	3	650	13
IV	II e層	11145	67	3020	21	1440	2	75	9
V	I層	33900	180	3110	46	1640			9
V	II a層	91580	385	8690	76	3760	5	1180	30
V	II b 1層	63375	376	8400	80	5405	10	1810	36
V	II c 1・II c 2層	61095	304	6840	63	5320	11	3320	38
V	II c 2層	10065	202	5310	30	1840	13	2260	0
V	II d層	19345	127	3705	42	2050	6	820	16
V	II e層	31280	1	720	28	1050	3	600	31
VI	I・II b 1層	11195	54	1795	17	850	2	320	2
VI	I～III層	21725	117	2570	37	1310	1	40	3
VI	I層	11490	57	1830	19	990			2
VI	II b 1・II b 2層	32775					9	890	0
VI	II b 1・II c 1・II c 2層	575	44	540	2	15			0

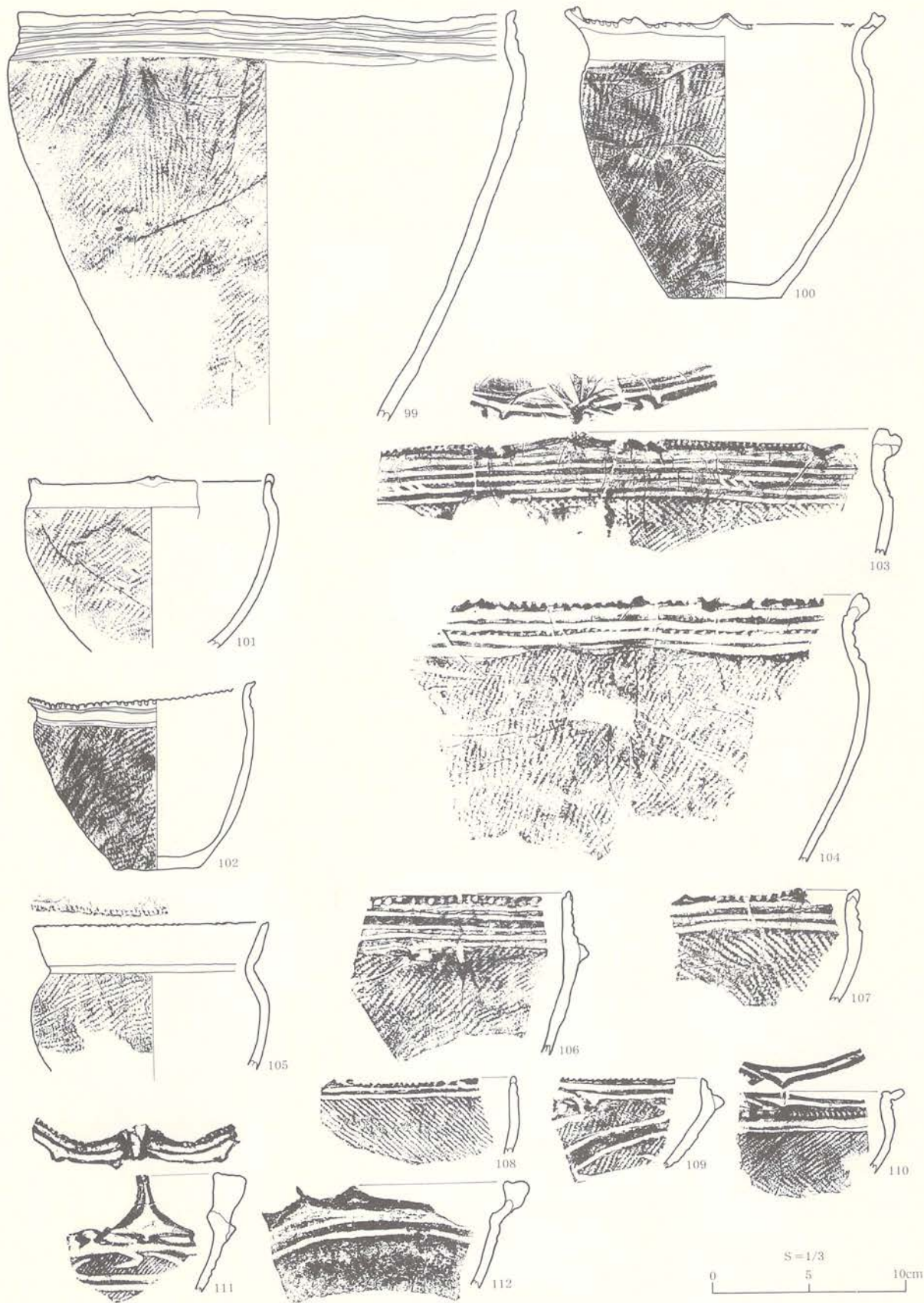
ブロック	層位	総重量(g)	口縁部数	口縁部重量	底部数	底部重量	完形数	完形重量	掲載点数
VI	II b 1層	6350	189	4320	40	1480			7
VI	II b 2層	2810	108	1770	20	670			11
VI	II c 1層	15505	111	2770	29	1420	4	205	9
VI	II c 2・II c 3層	15720	79	2285	30	1500	1	585	4
VI	II c 2層	10610	97	1460	12	750	5	1550	14
VI	II d・II e層	6220							0
VI	II e層	25265	158	3890	28	850	7	2080	20
VII	I層	5655	164	3445	24	1120	5	635	0
VII	II b 1下層	1010			28	1010			0
VII	II b 1層	2885	140	2440					0
VII	II b 2層	6610	235	4400	36	1270	6	520	0
VII	II c 1・II c 2・II c 3層	1305	1	1040			4	265	0
VII	II c 1層	6535	257	4130	52	1465			0
VII	II c 2・II c 3・II d層	1150					10	1150	0
VII	II c 2層	3655	115	1750	26	555	2	1100	0
VII	II c 3層	2475	72	1130	27	1110			0
VII	II d層	15360	233	5100	82	4210	25	5470	0
VII	II e層	620	24	220			6	200	0
VII・VIII	I～III層	5065	119	3780	18	835	2	185	0
VIII	I層	4795	157	2815	29	1530			2
VIII	II b 2層	21685	596	12425	133	5025	10	1985	33
VIII	II c 1・II c 2・II d層	2980	79	1670	20	1010	1	125	8
VIII	II c 2・II c 3層	2635	42	1640	6	390			2
VIII	II d・II e層	8295	138	3690	35	1170	7	2655	20
VIII	II e層	4185	81	2595	19	680	3	565	6
IX	I～III層	525	21	390	3	80			0
IX	I層	7340	200	4195	56	2365	3	290	15
IX	II b 2層	30830	604	17390	121	7550	13	4420	58
IX	II c 1層	11075	221	6660	46	2365	8	960	29
IX	II d・II e層	860					3	860	0
IX	II d層	5935	150	2335	45	1710	1	900	21
IX	II e層	1500	90	1255					12
IX	III層	200	8	110	2	80			0
X	I層	2275	58	1565	14	380	2	230	0
X	I層下	12105	240	6750	46	2915	4	2180	19
X	I層上	1495	68	1050	14	370			4
X	II b 2・II c 1層	18165	356	10075	90	4135	12	3290	23
X	II d層	1350	69	800	24	460			5
X I	I層下	1430	1	1430					0
X I	I層上	775	24	445	12	310			4
X I	II b 2・II c 1層								1
X I	II d層	2935	127	2610	11	215			7



第23図 C区捨て場出土土器 (1)



第24図 C区捨て場出土土器(2)

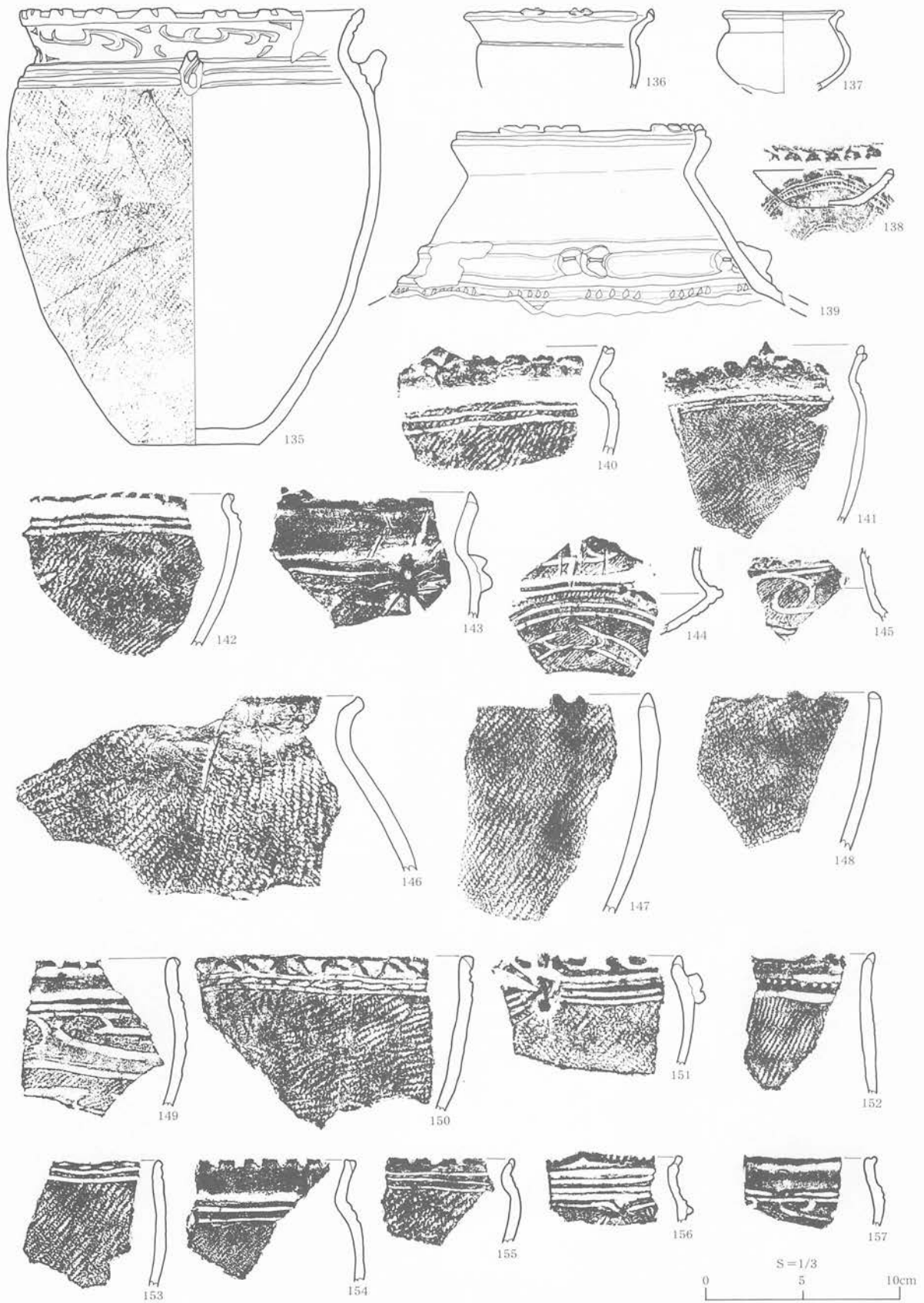


第25図 C区捨て場出土土器(3)

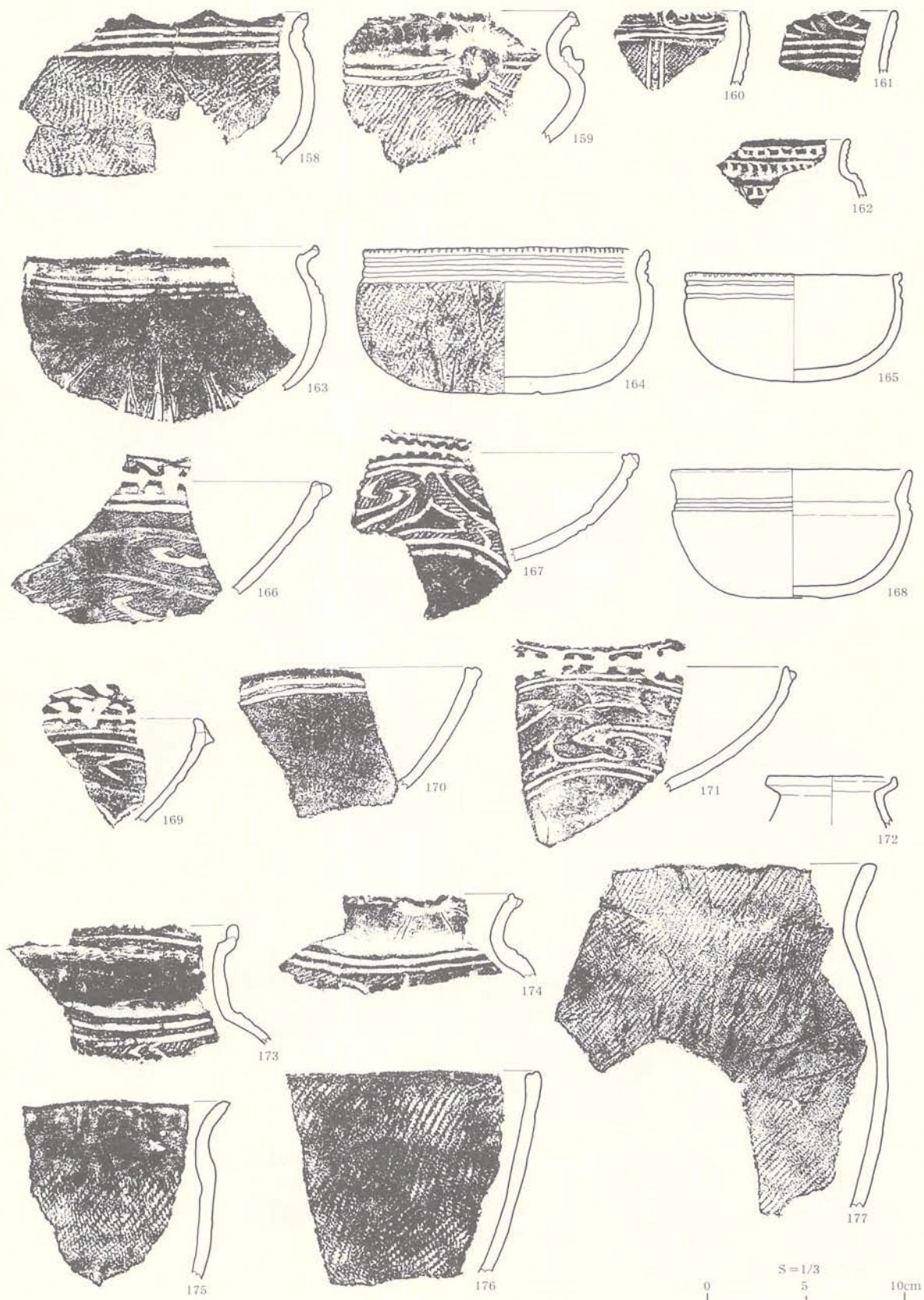




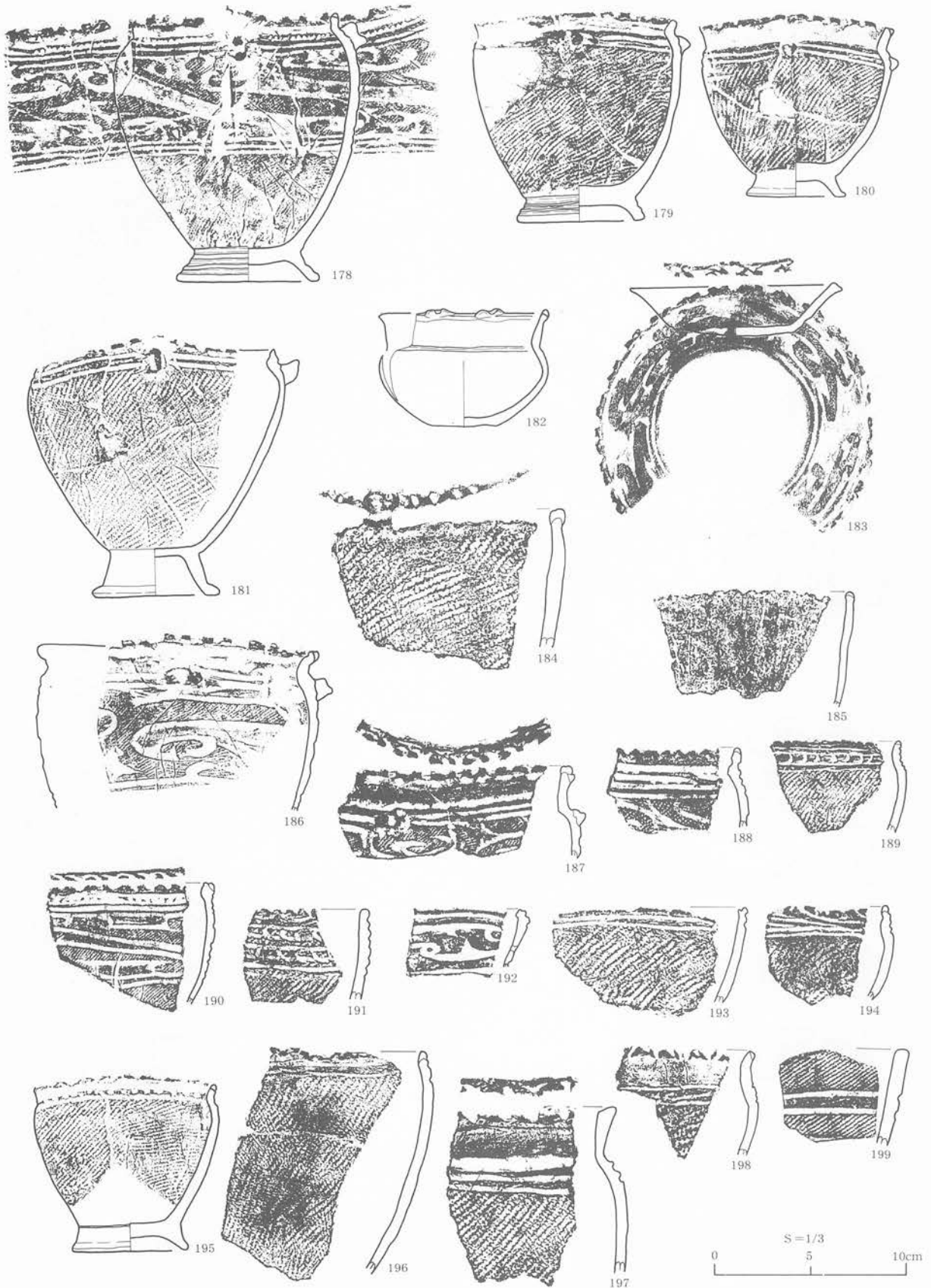
第26図 C区捨て場出土土器(4)



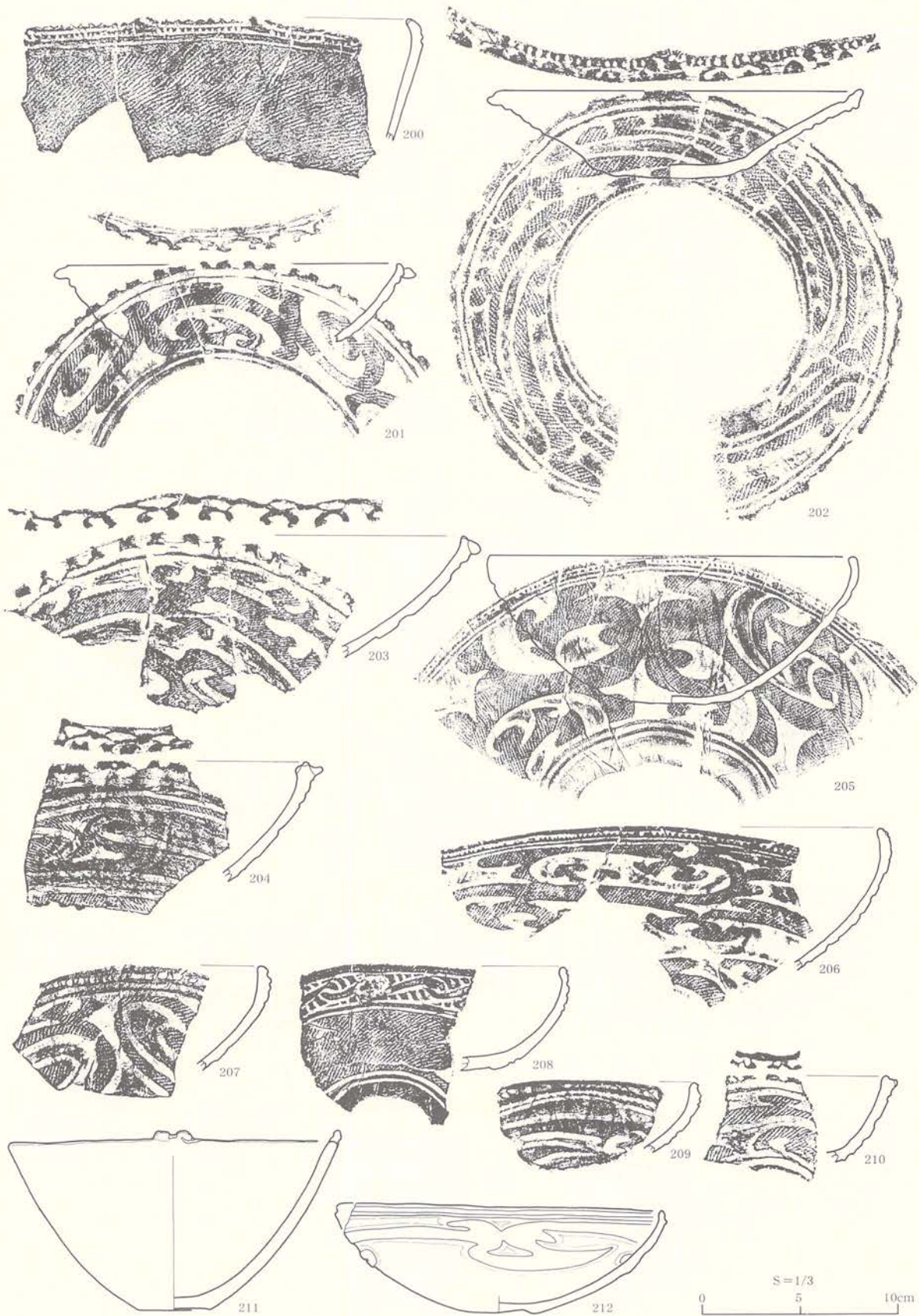
第27图 C区捨て場出土土器 (5)



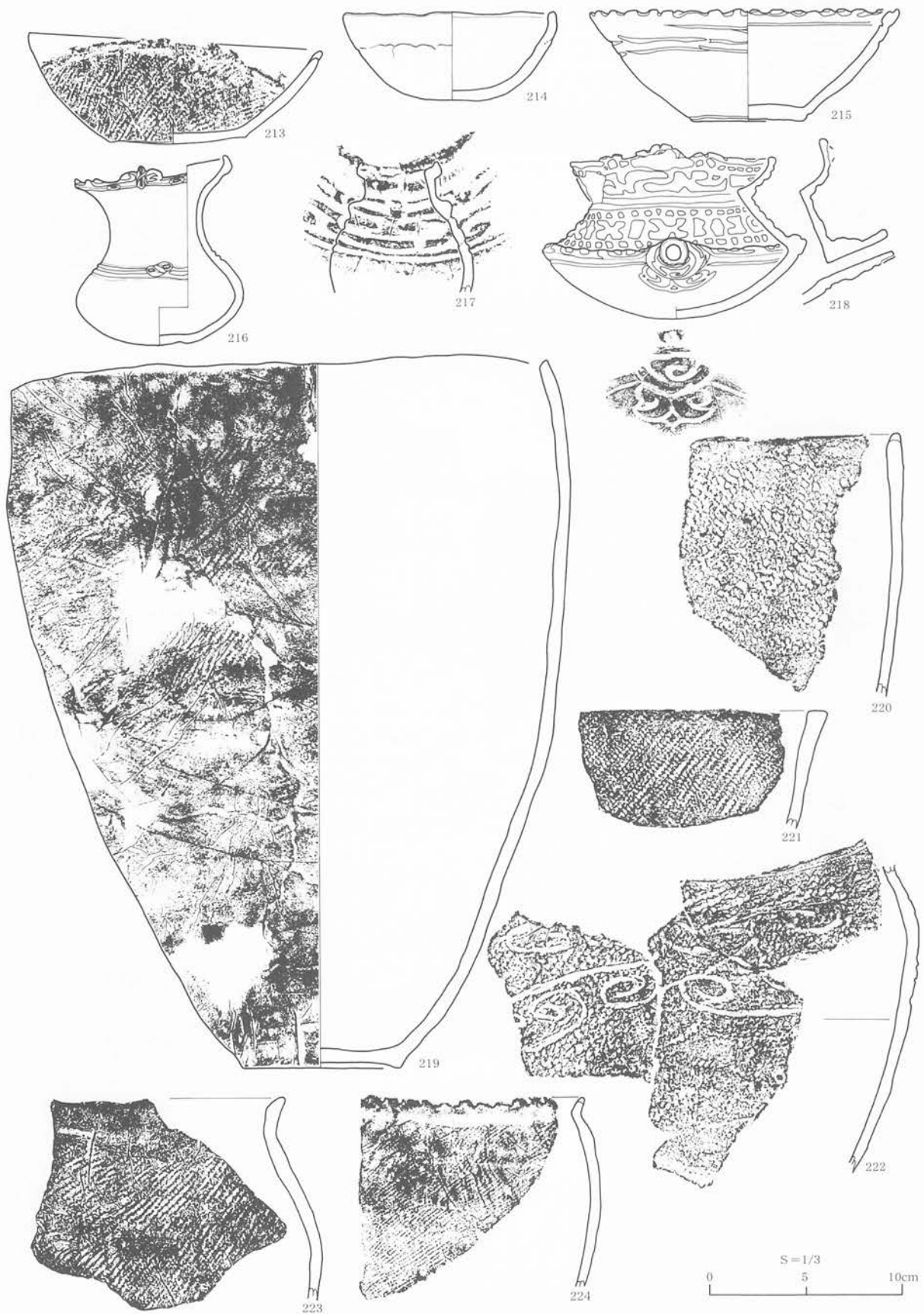
第28図 C区捨て場出土土器(6)



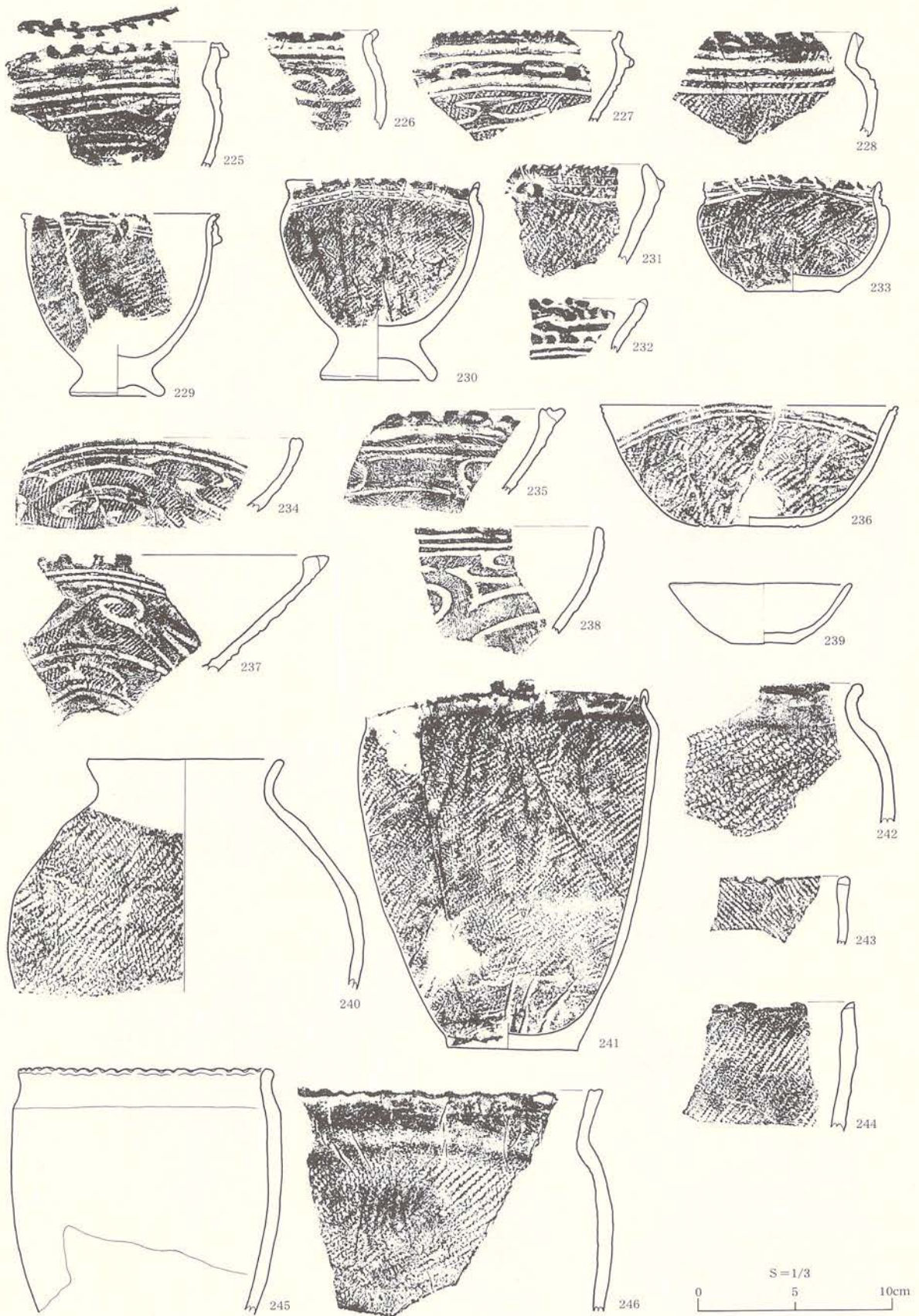
第29図 C区捨て場出土土器(7)



第30图 C区捨て場出土土器(8)



第31図 C区捨て場出土土器 (9)



第32図 C区捨て場出土土器 (10)

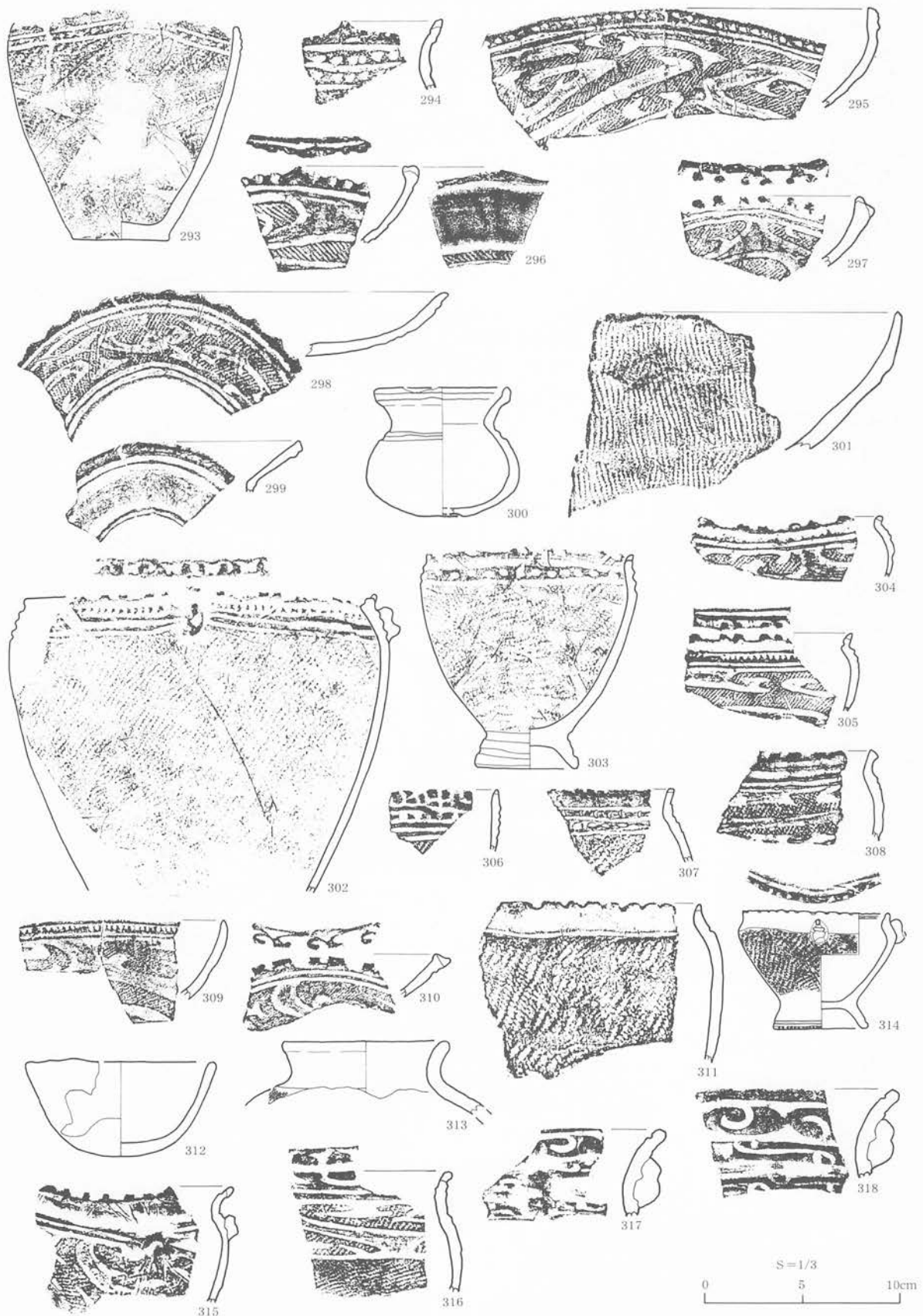


第33图 C区捨て場出土土器(11)

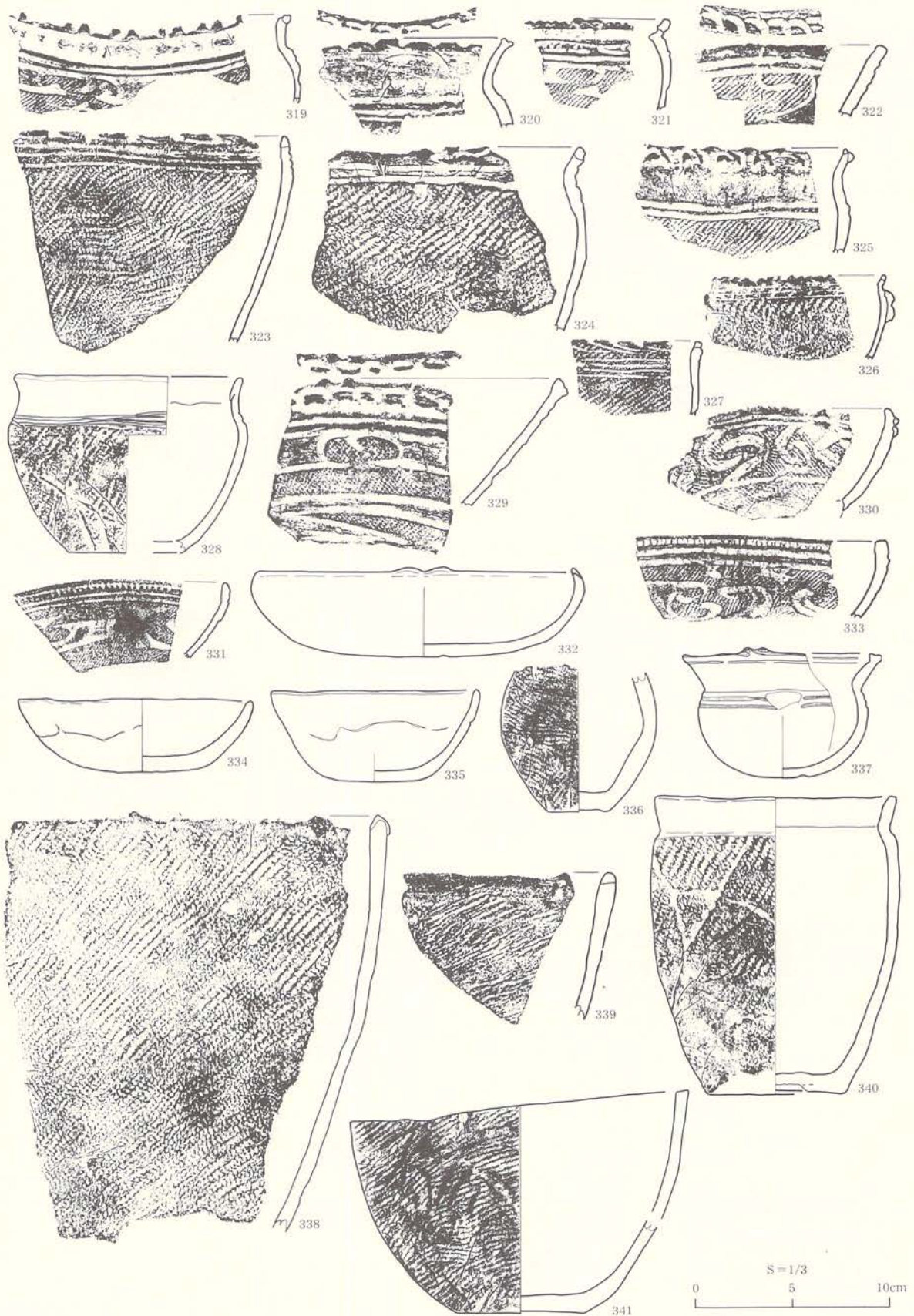




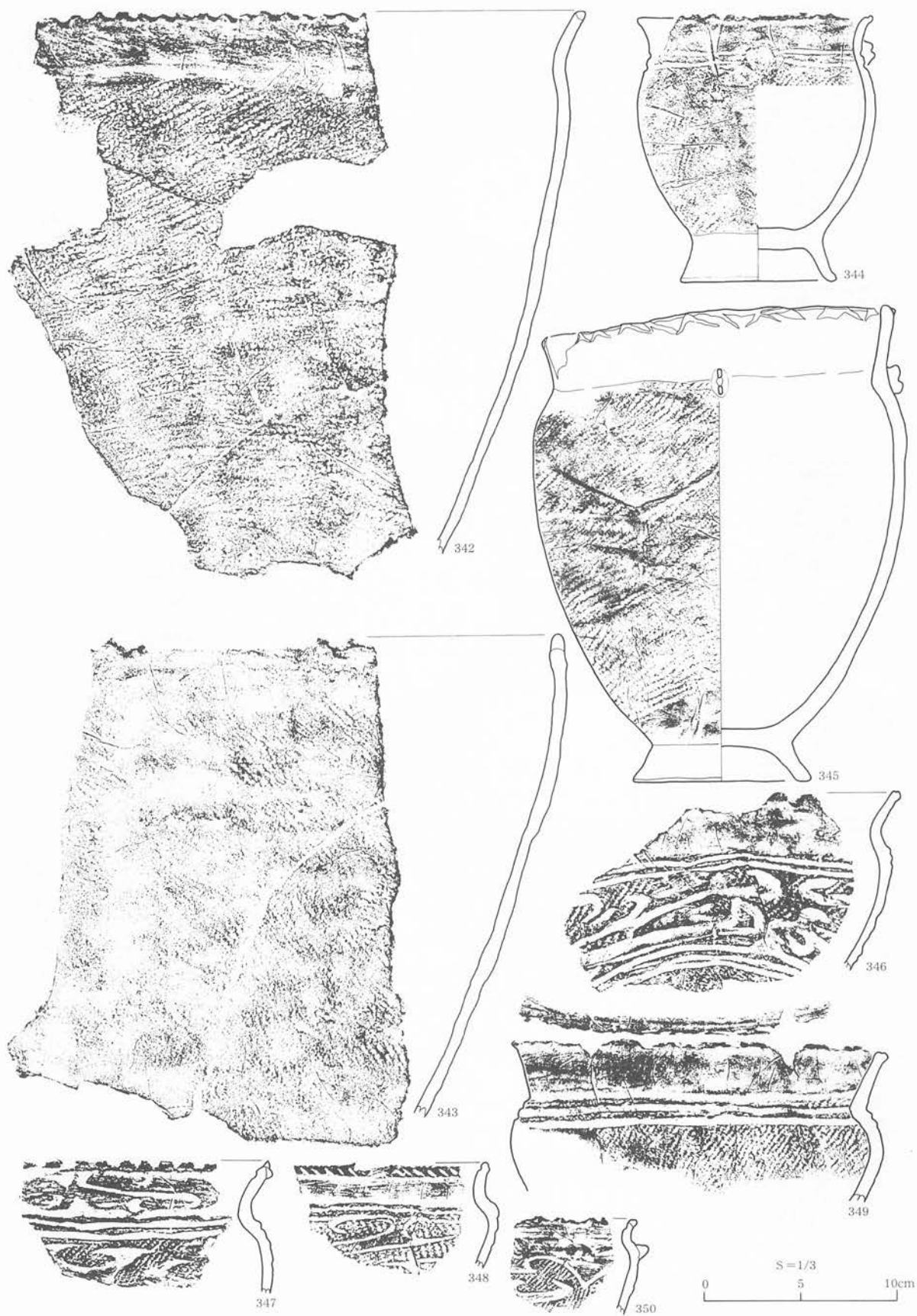
第34図 C区捨て場出土土器 (12)



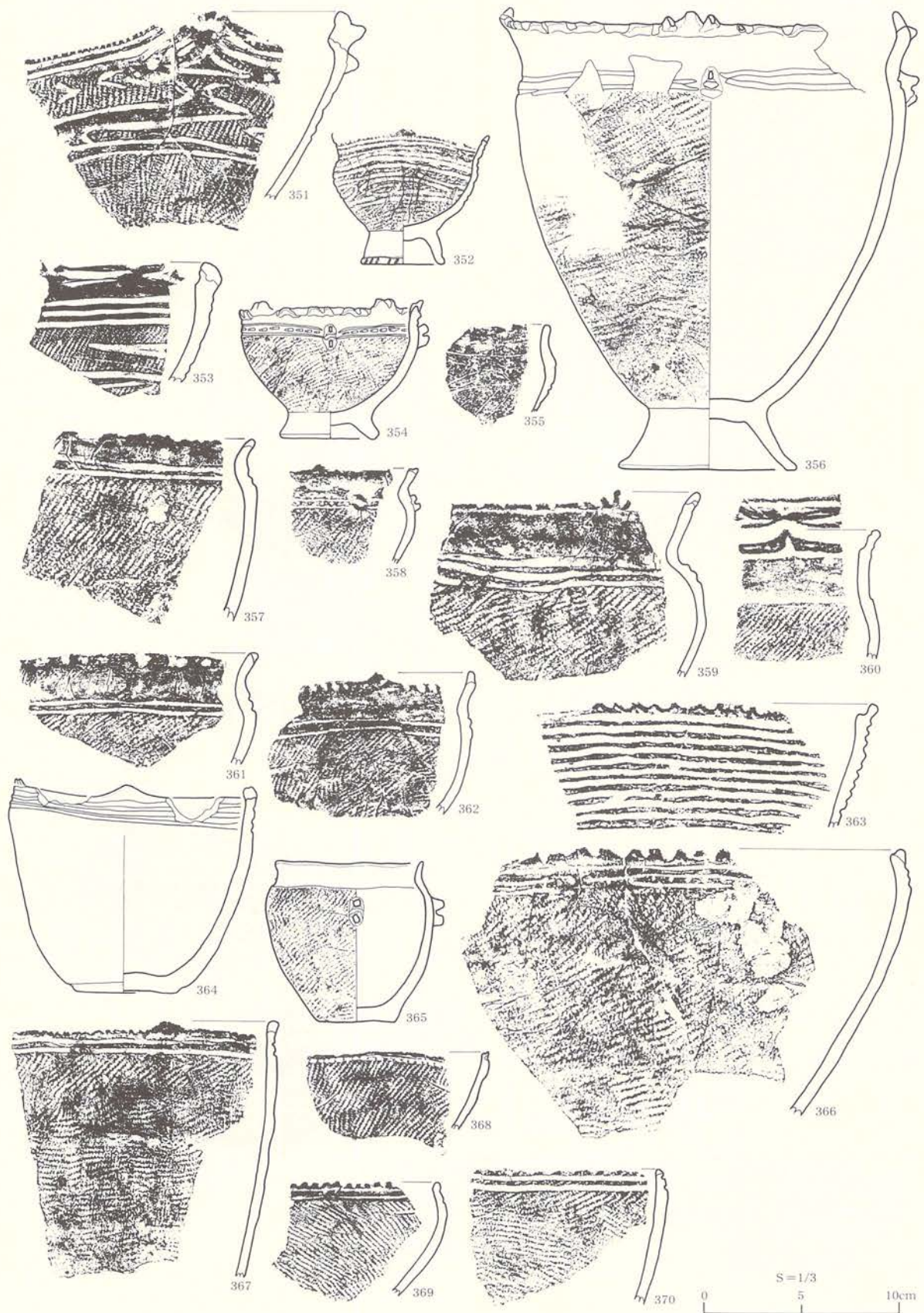
第35図 C区捨て場出土土器 (13)



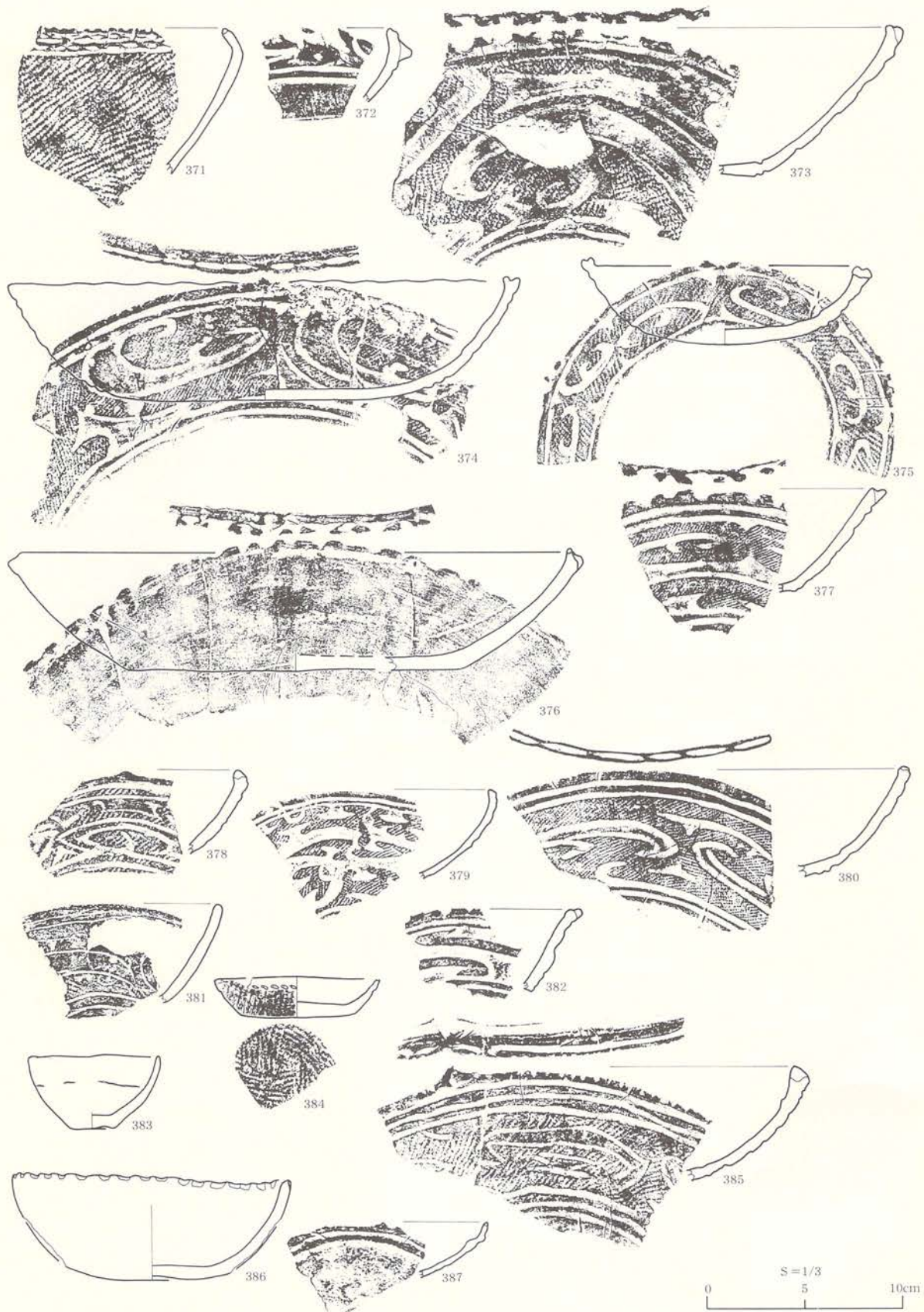
第36図 C区捨て場出土土器 (14)



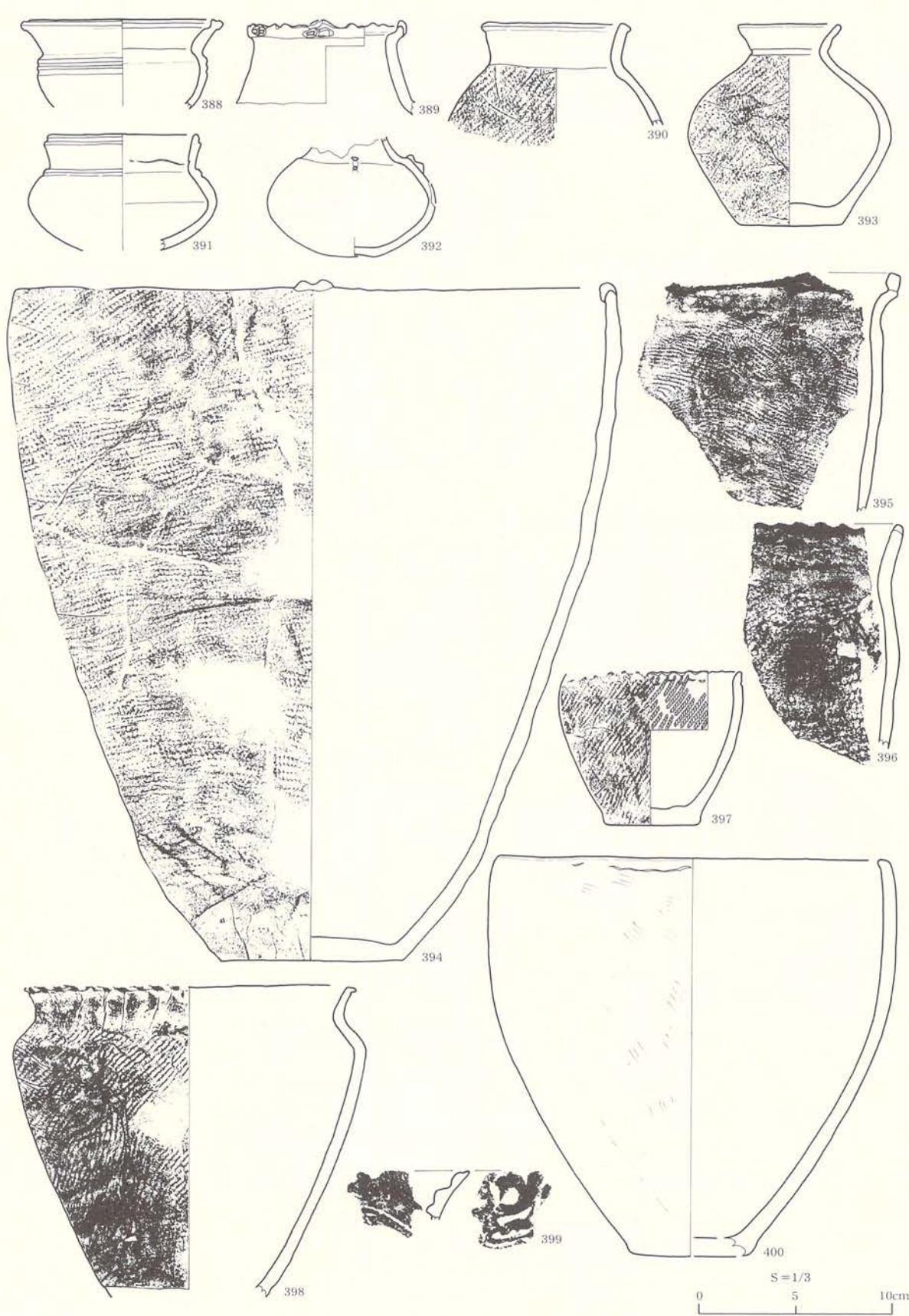
第37図 C区捨て場出土土器 (15)



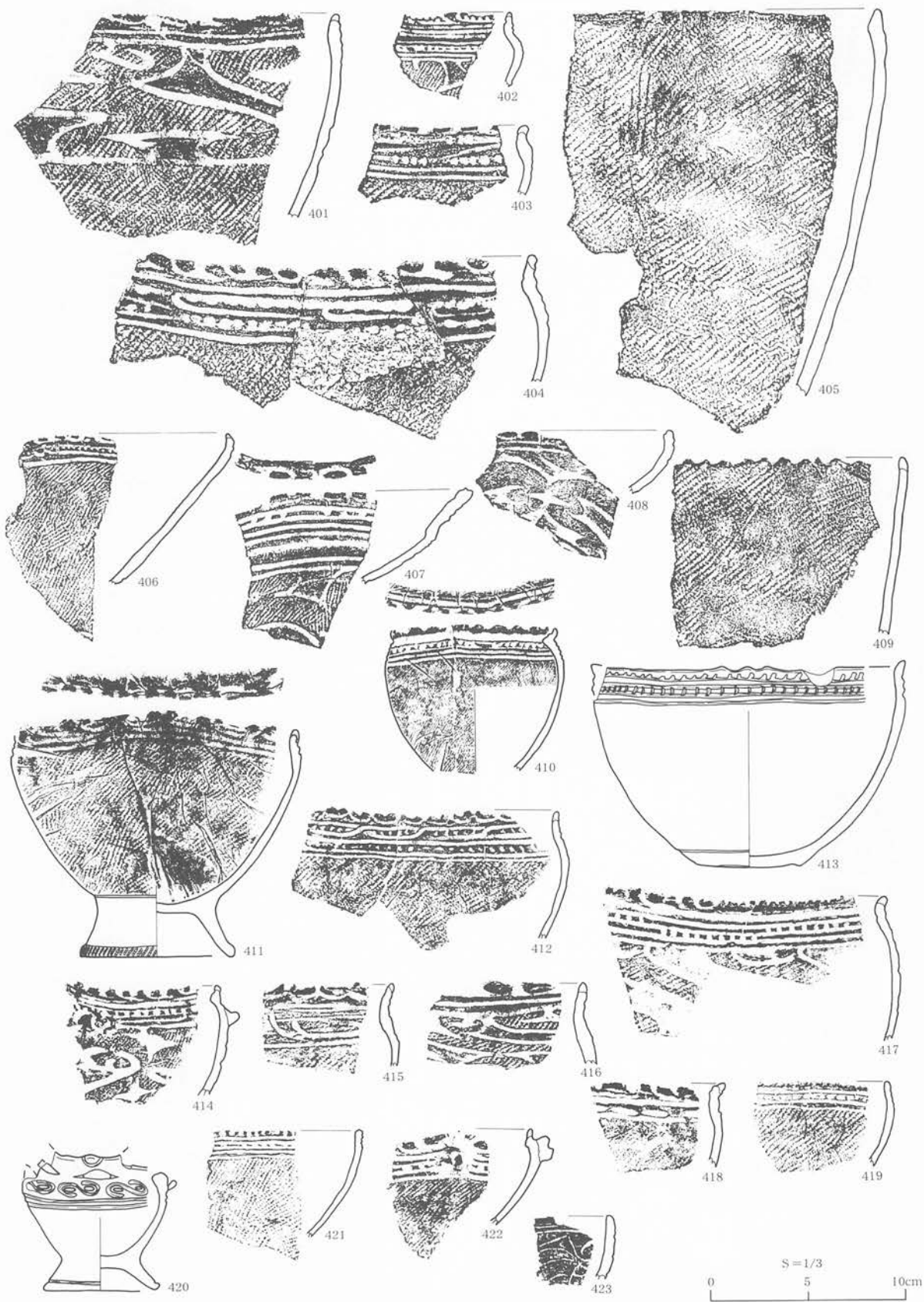
第38図 C区捨て場出土土器 (16)



第39図 C区捨て場出土土器 (17)

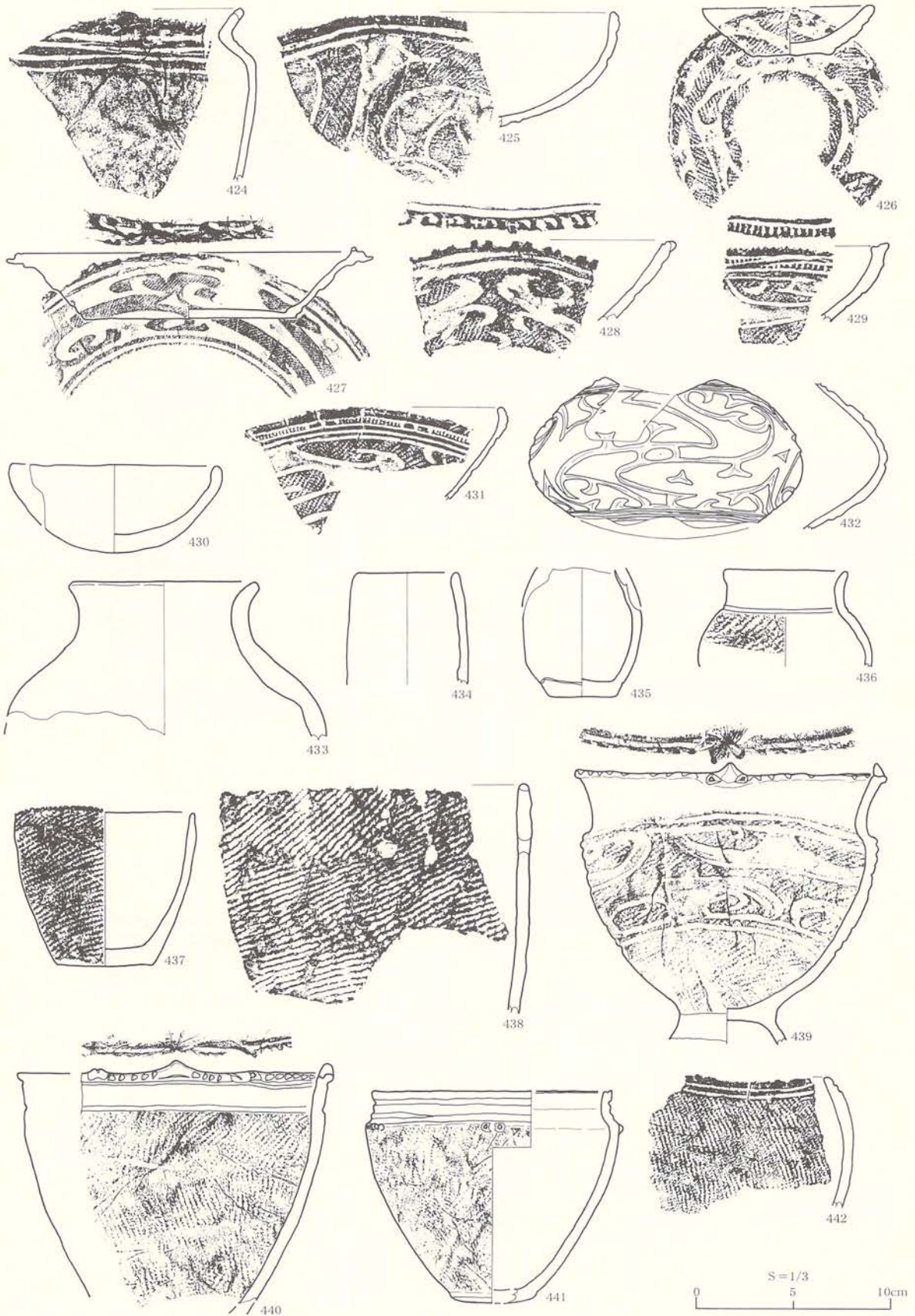


第40図 C区捨て場出土土器 (18)

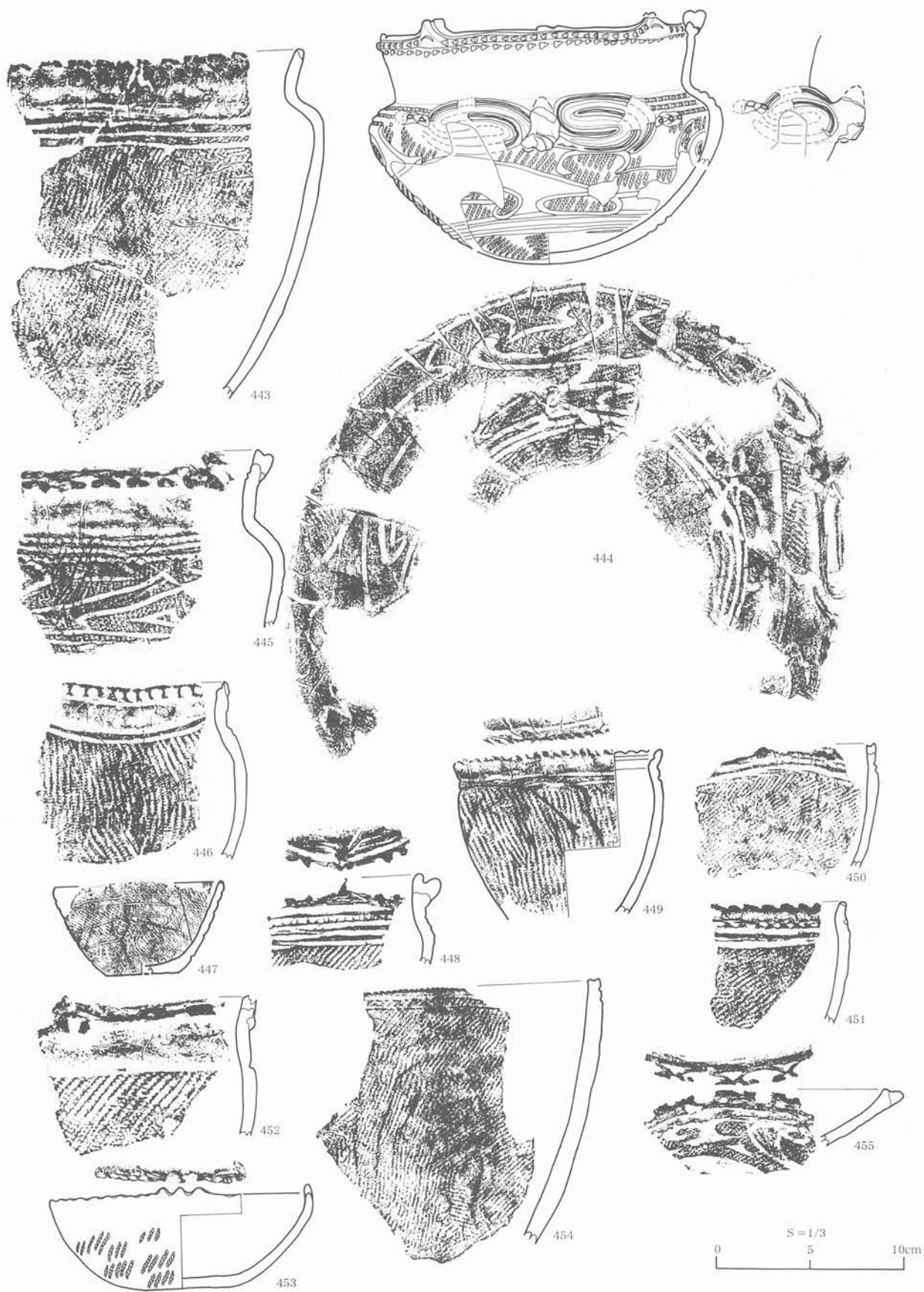


第41図 C区捨て場出土土器 (19)

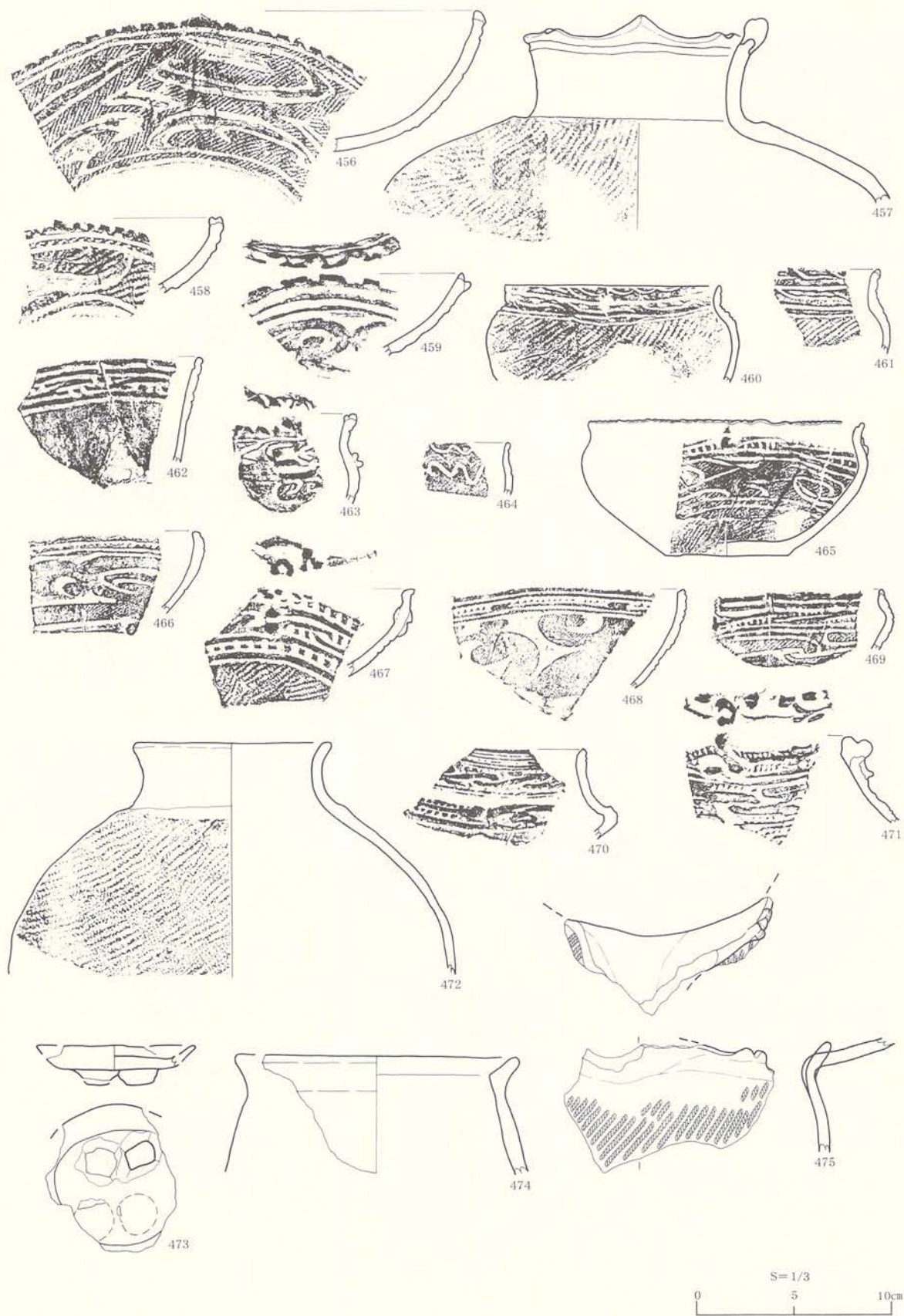




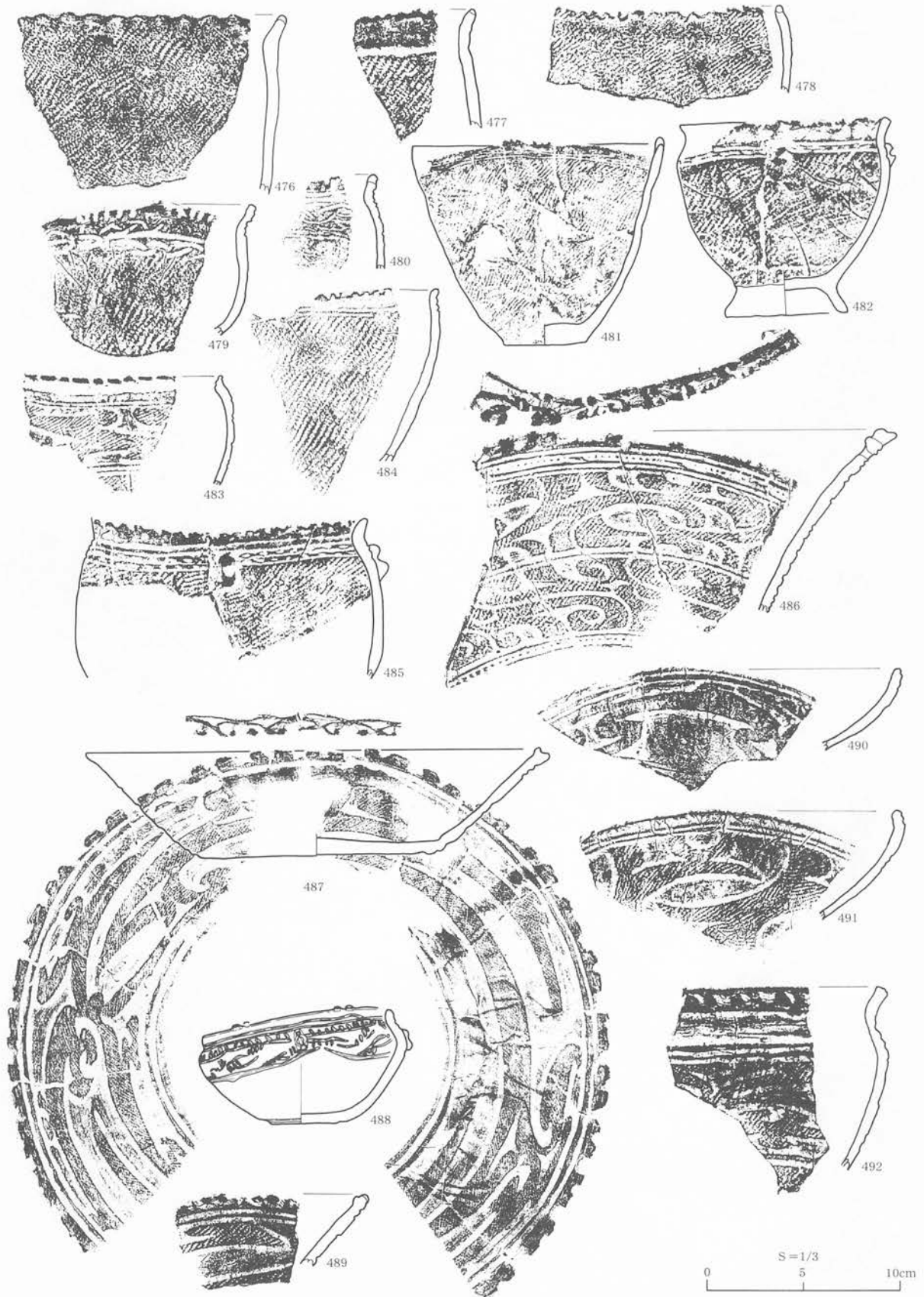
第42図 C区捨て場出土土器 (20)



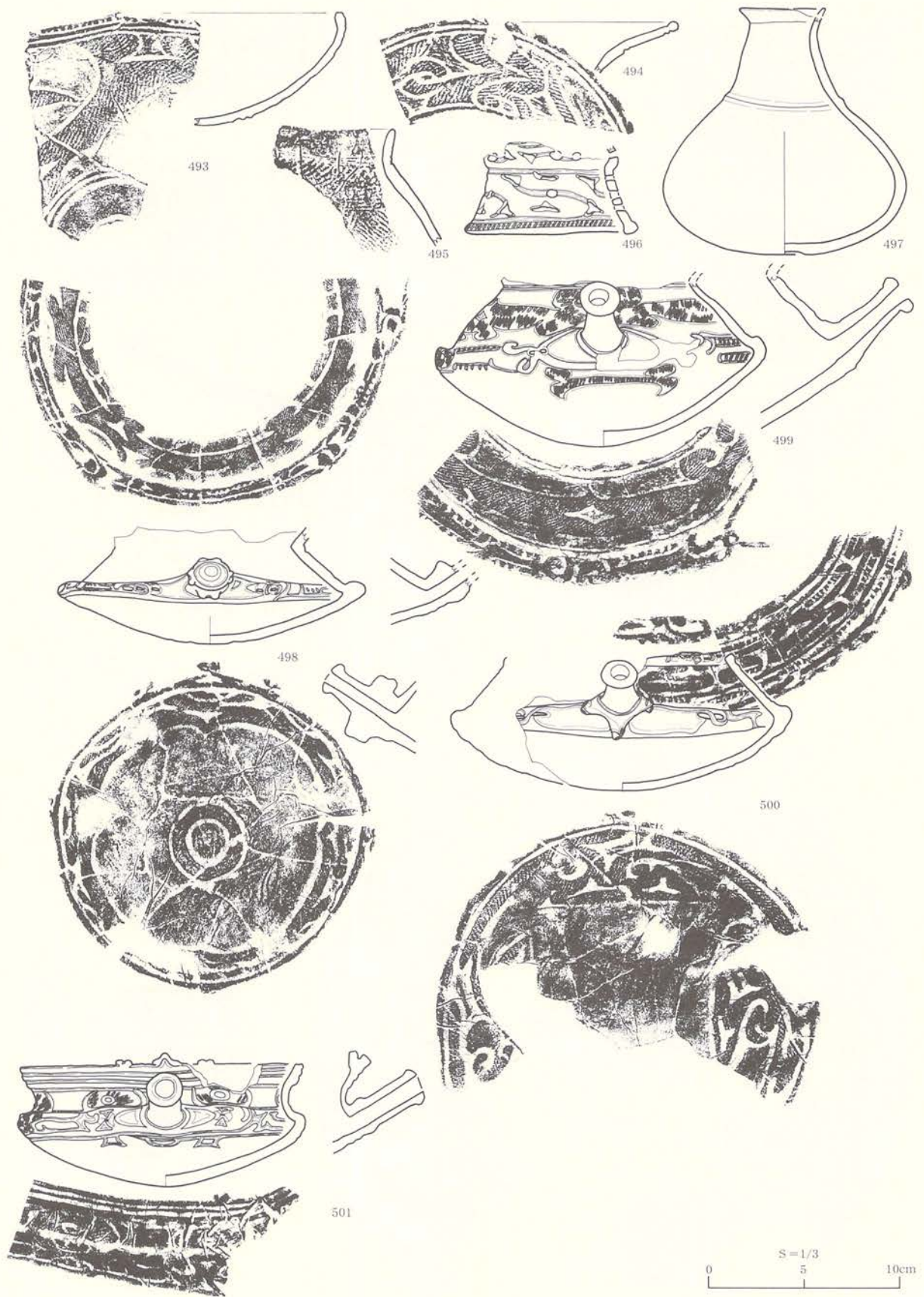
第43図 C区捨て場出土土器 (21)



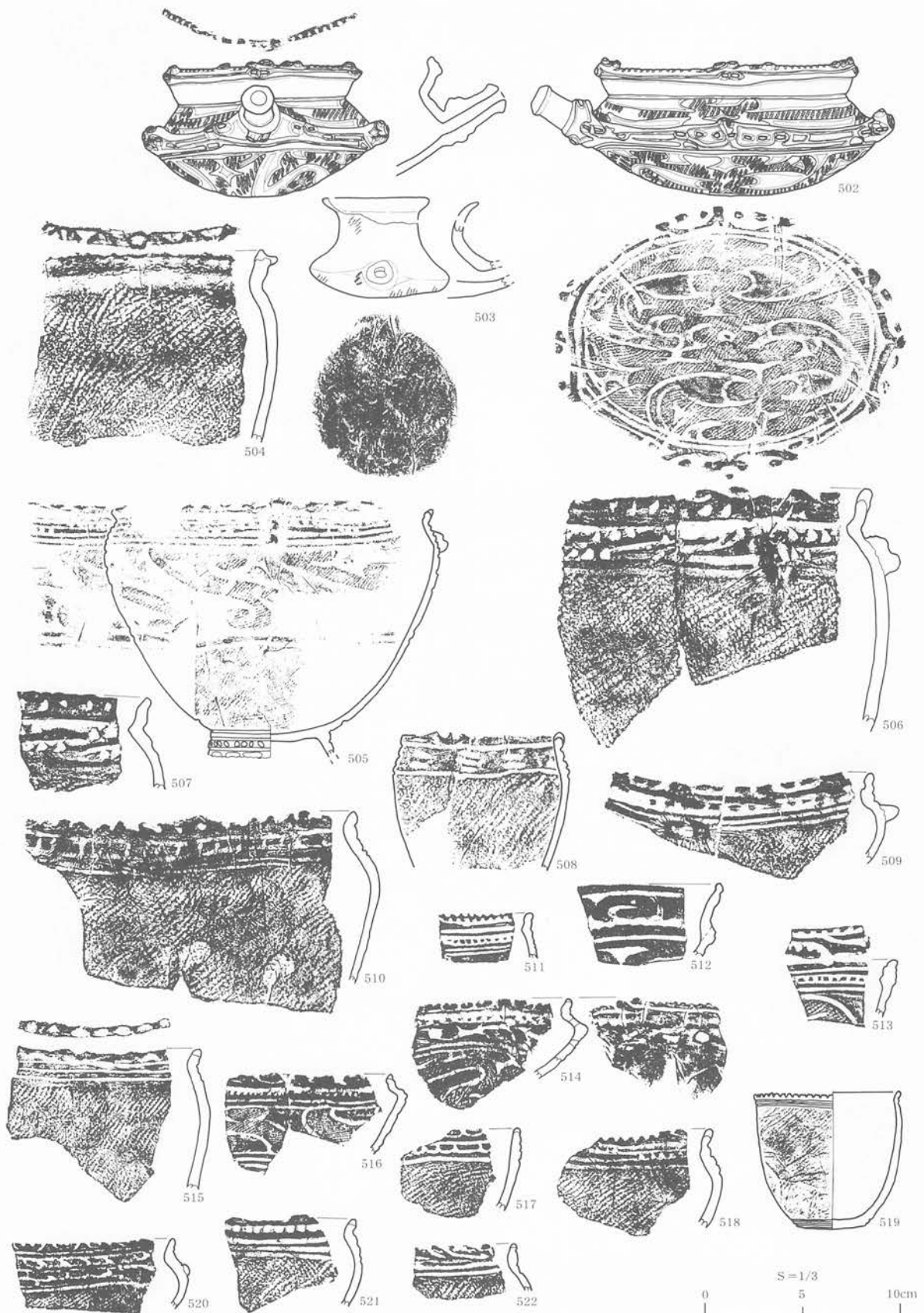
第44図 C区捨て場出土土器 (22)



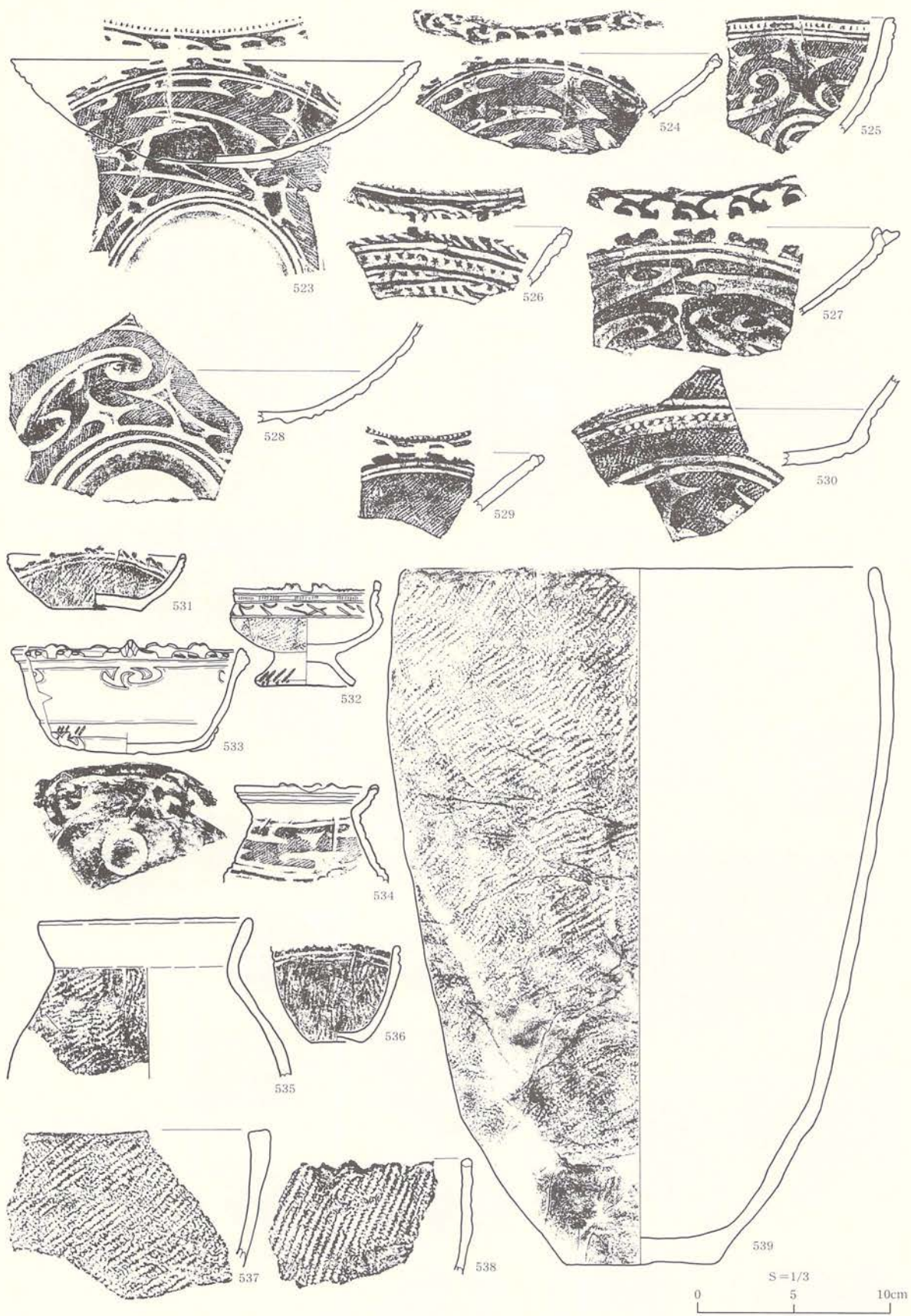
第45図 C区捨て場出土土器(23)



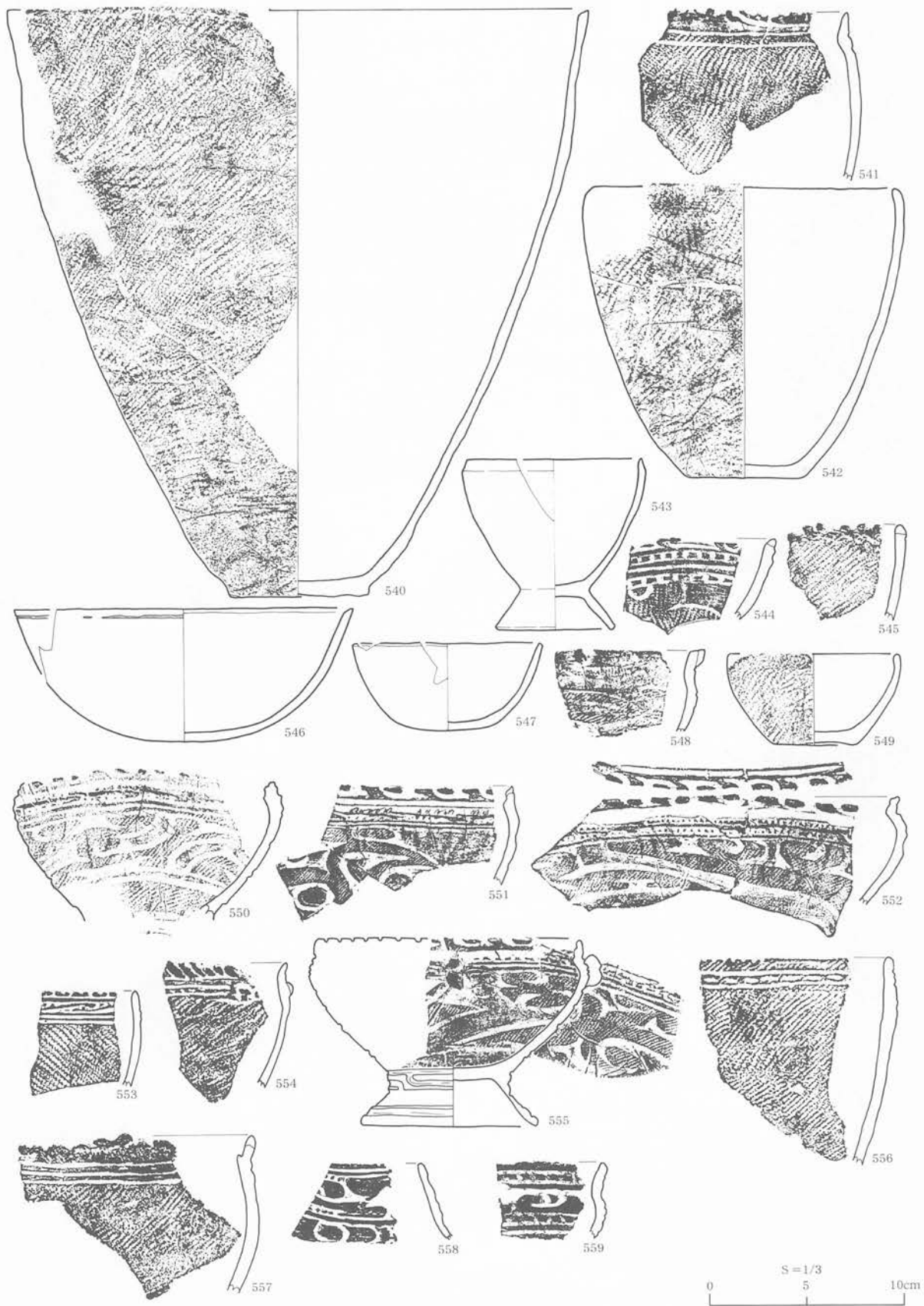
第46図 C区捨て場出土土器 (24)



第47図 C区捨て場出土土器 (25)



第48図 C区捨て場出土土器 (26)



第49図 C区捨て場出土土器 (27)

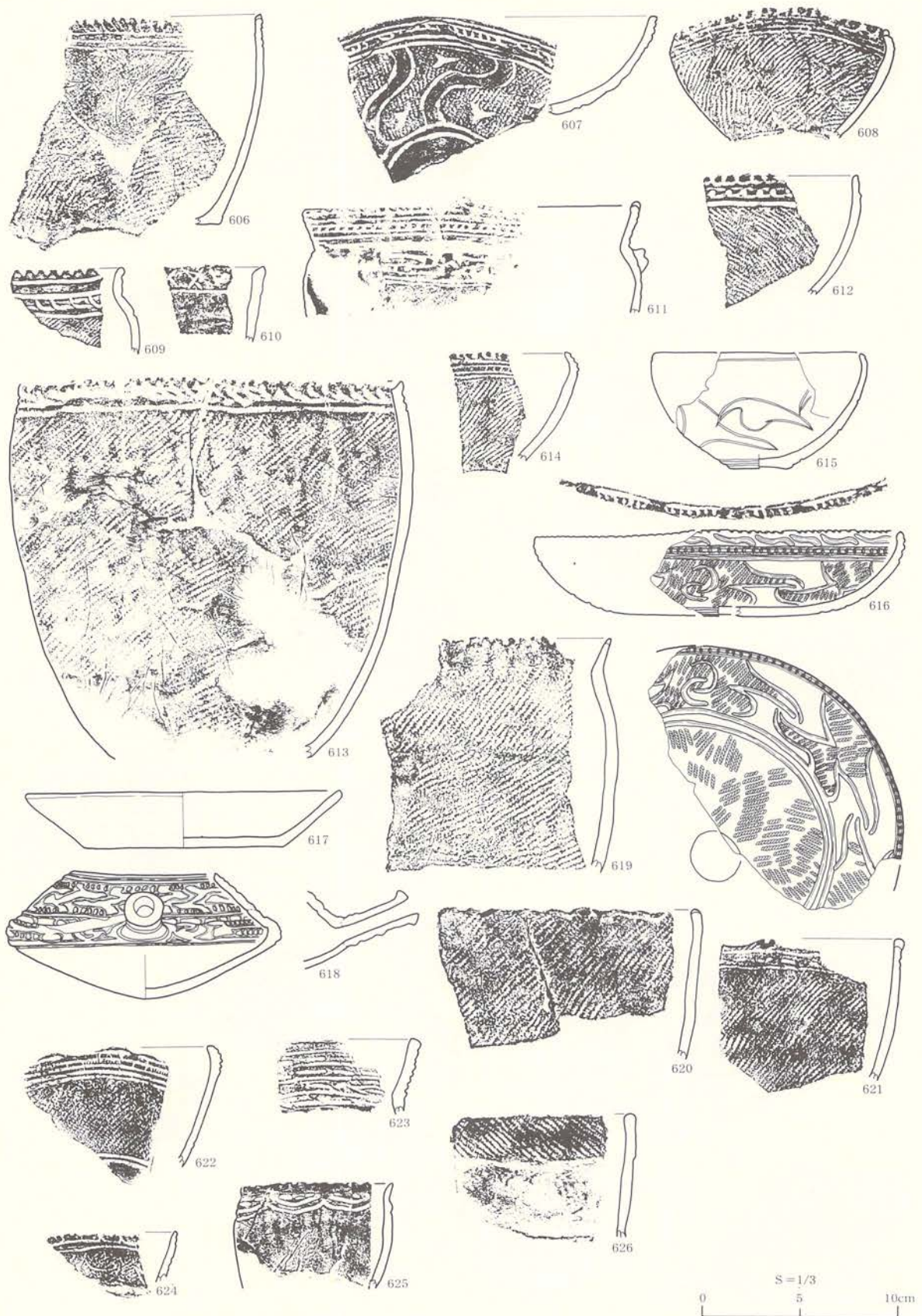




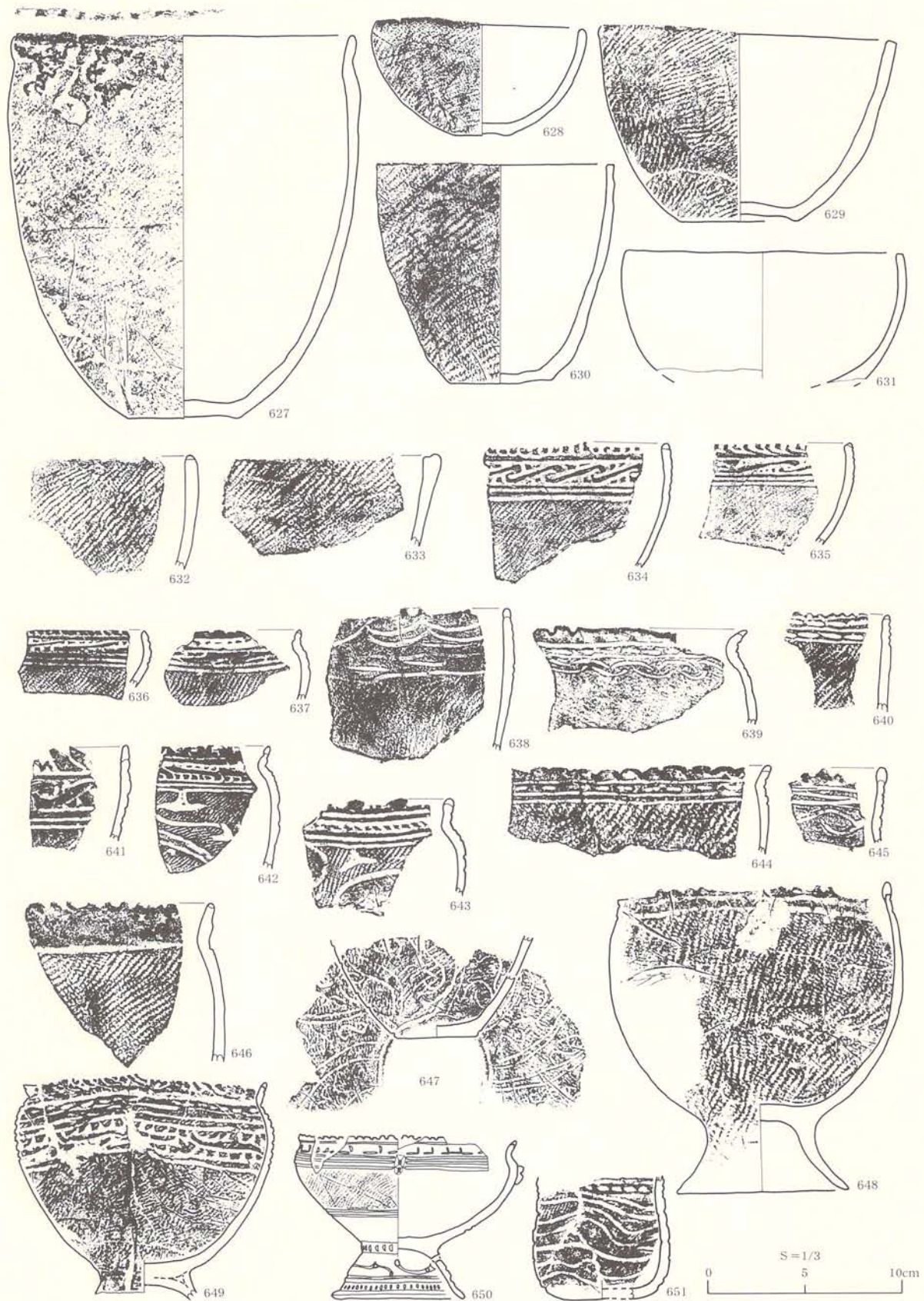
第50図 C区捨て場出土土器 (28)



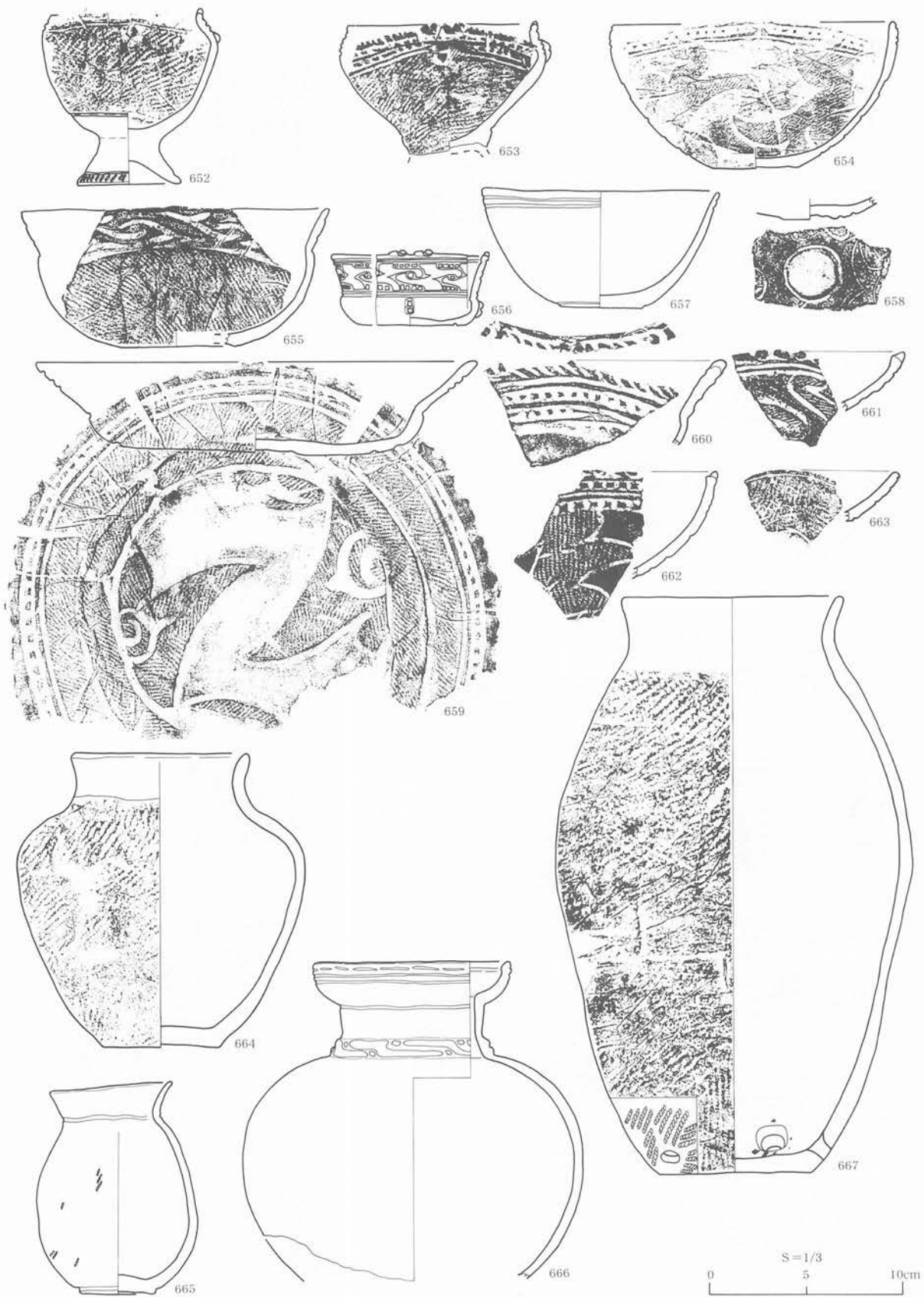
第51図 C区捨て場出土土器 (29)



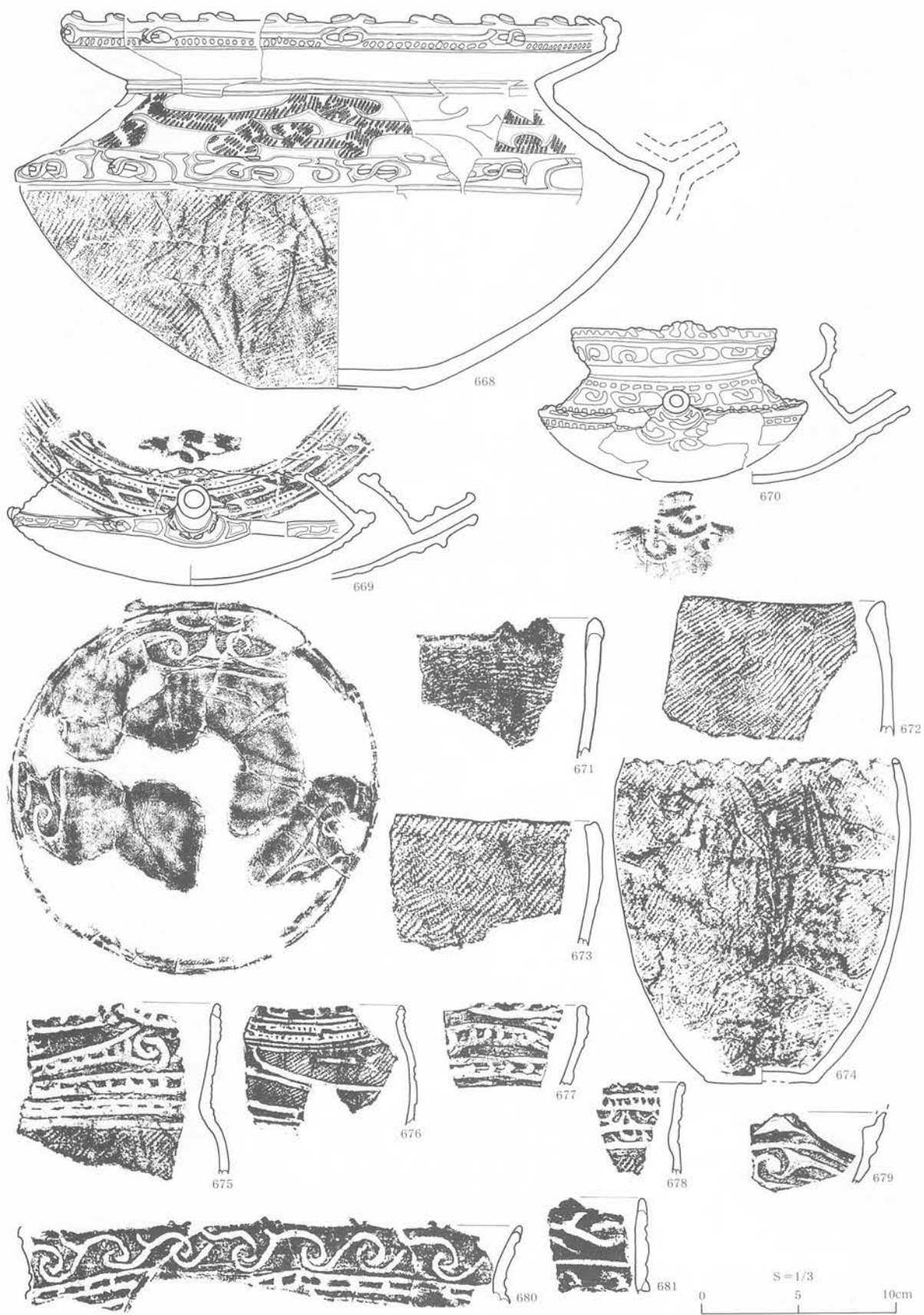
第52図 C区捨て場出土土器 (30)



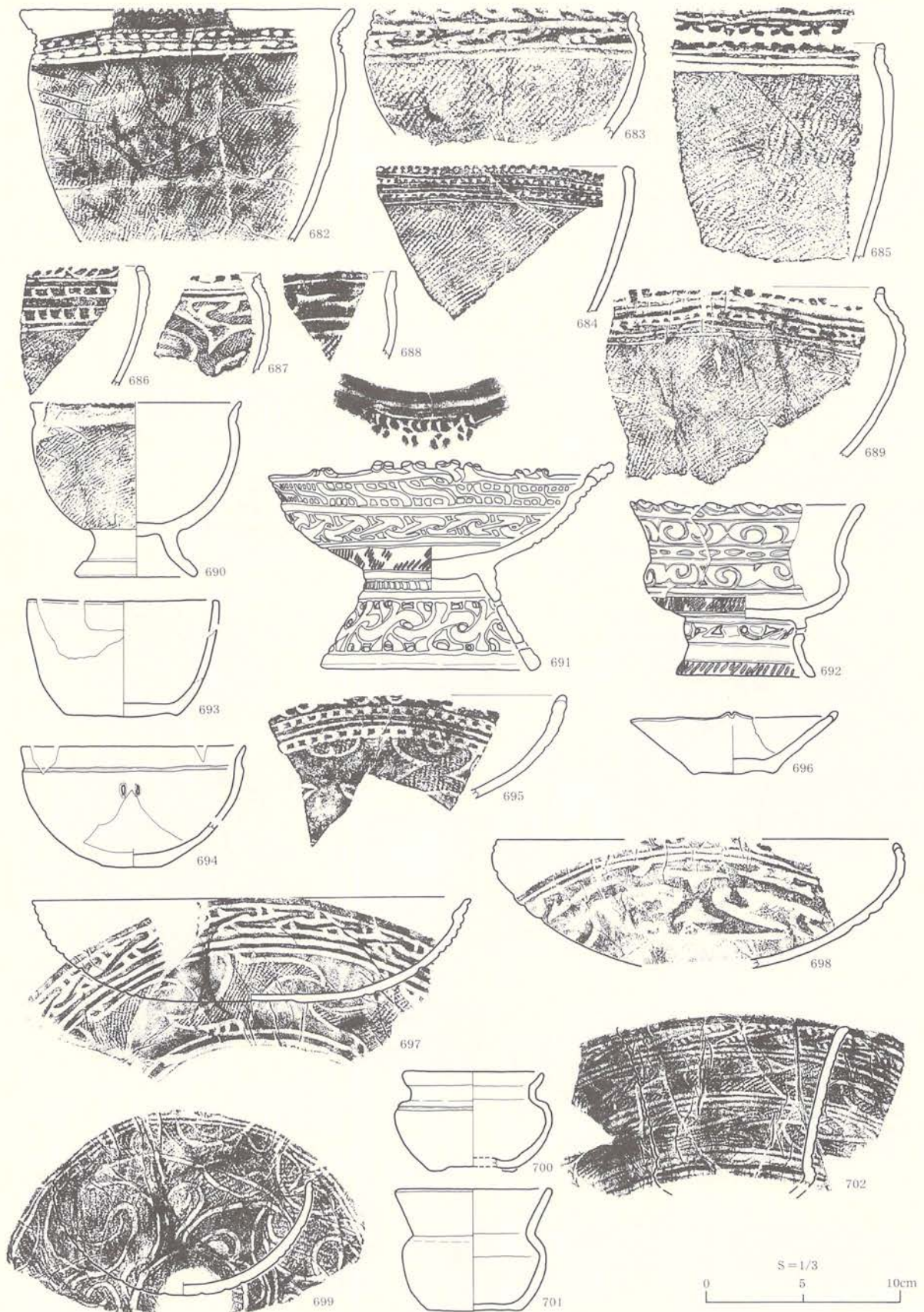
第53図 C区捨て場出土土器 (31)



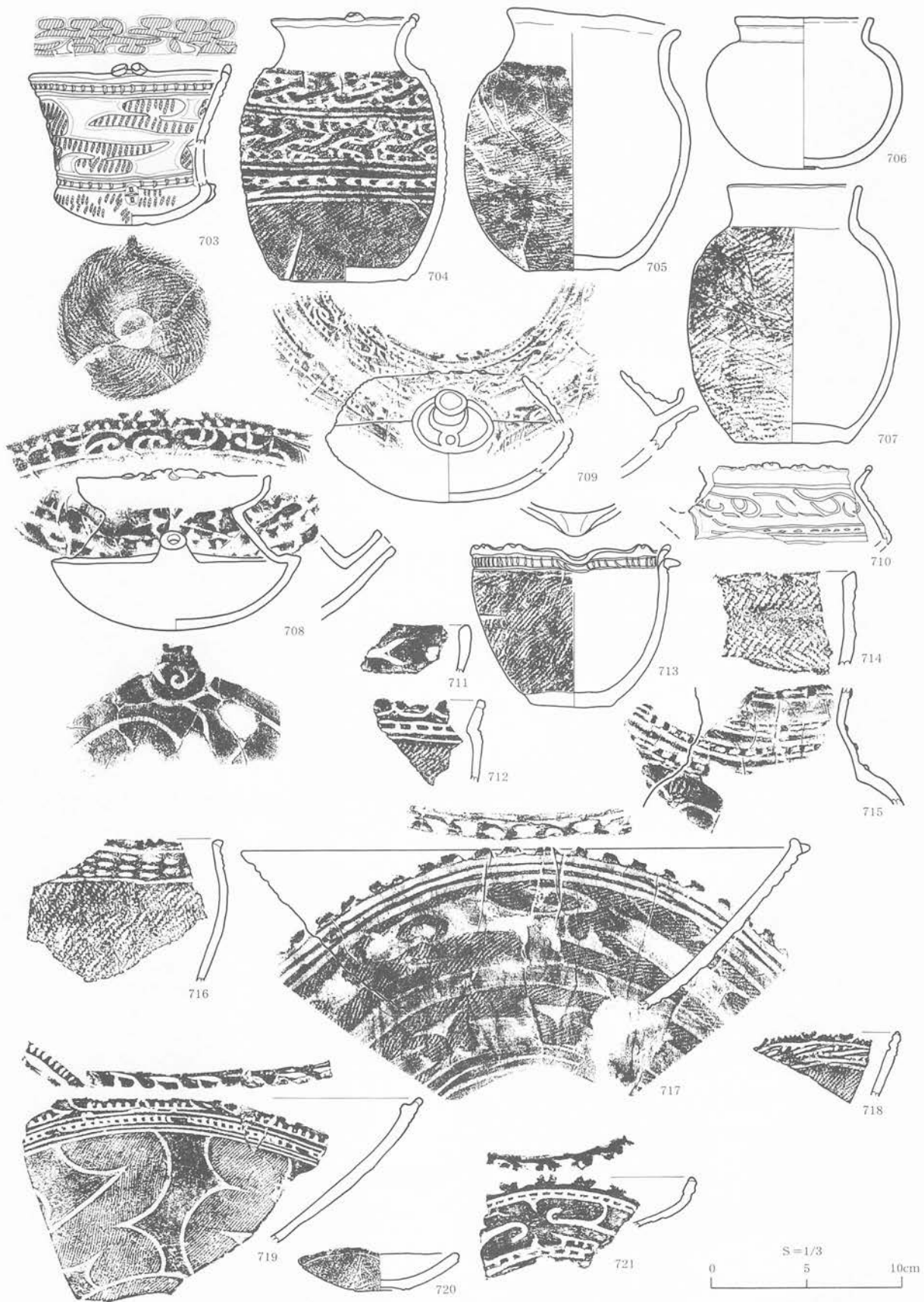
第54図 C区捨て場出土土器 (32)



第55図 C区捨て場出土土器 (33)

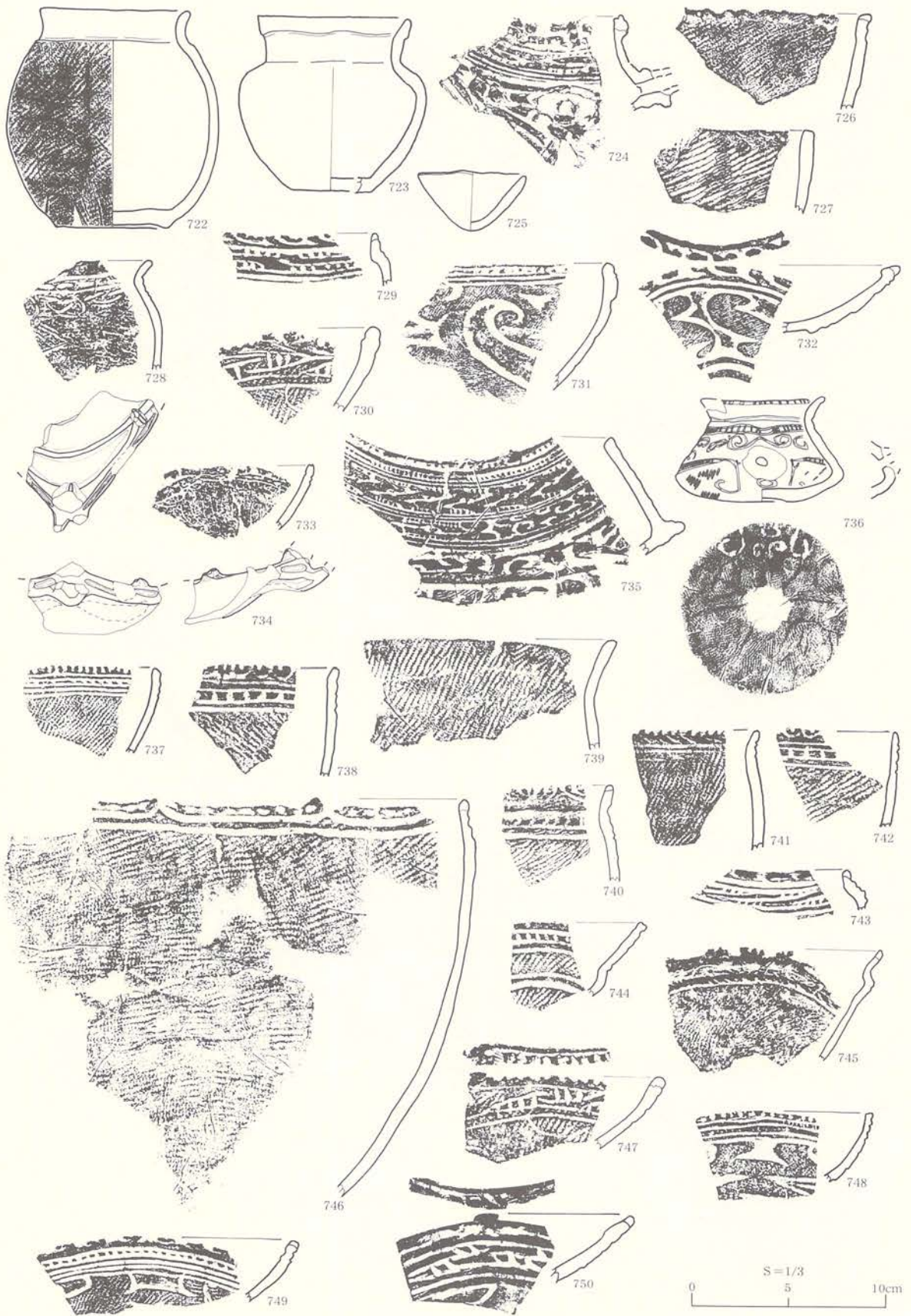


第56図 C区捨て場出土土器 (34)

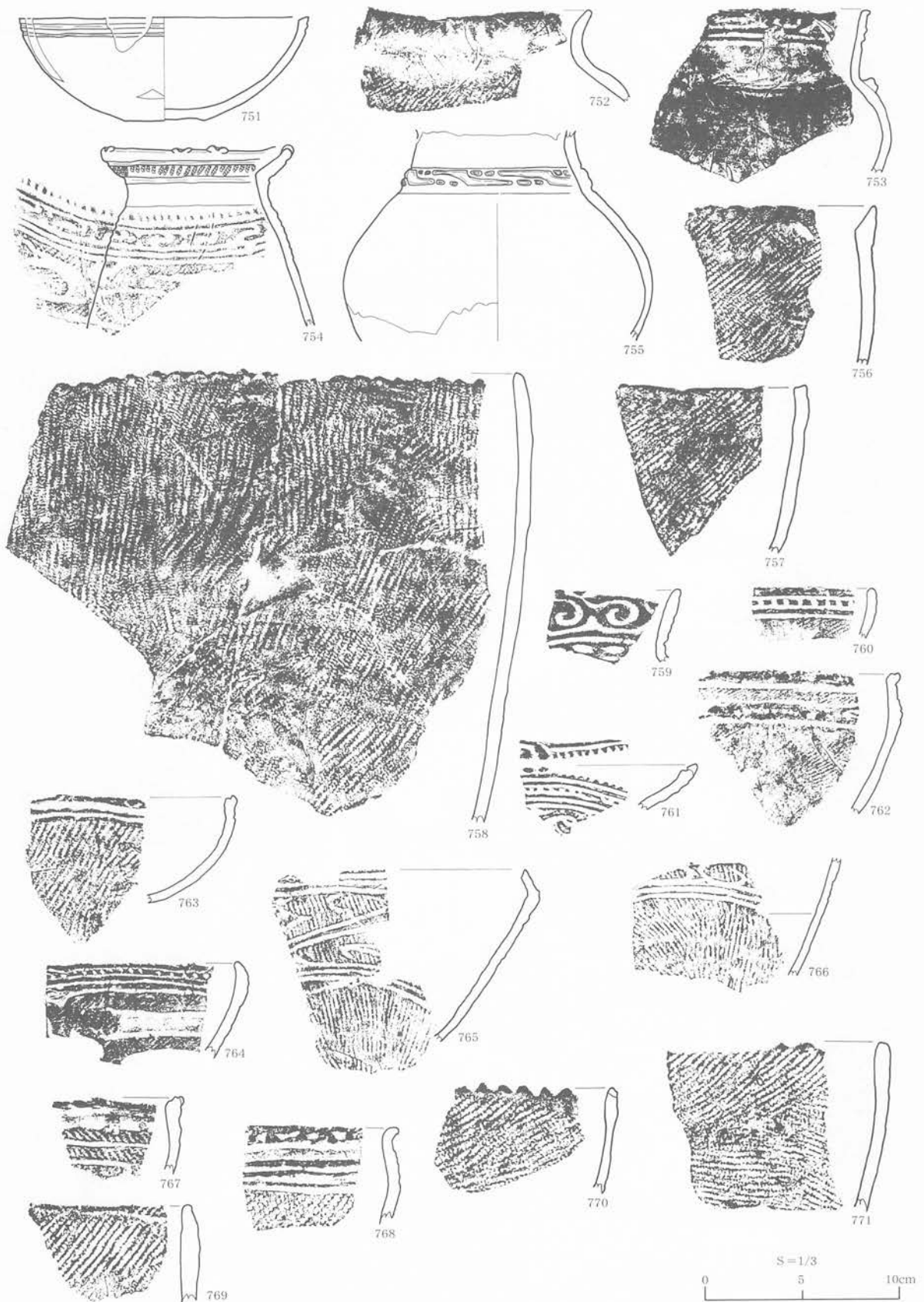


第57図 C区捨て場出土土器 (35)

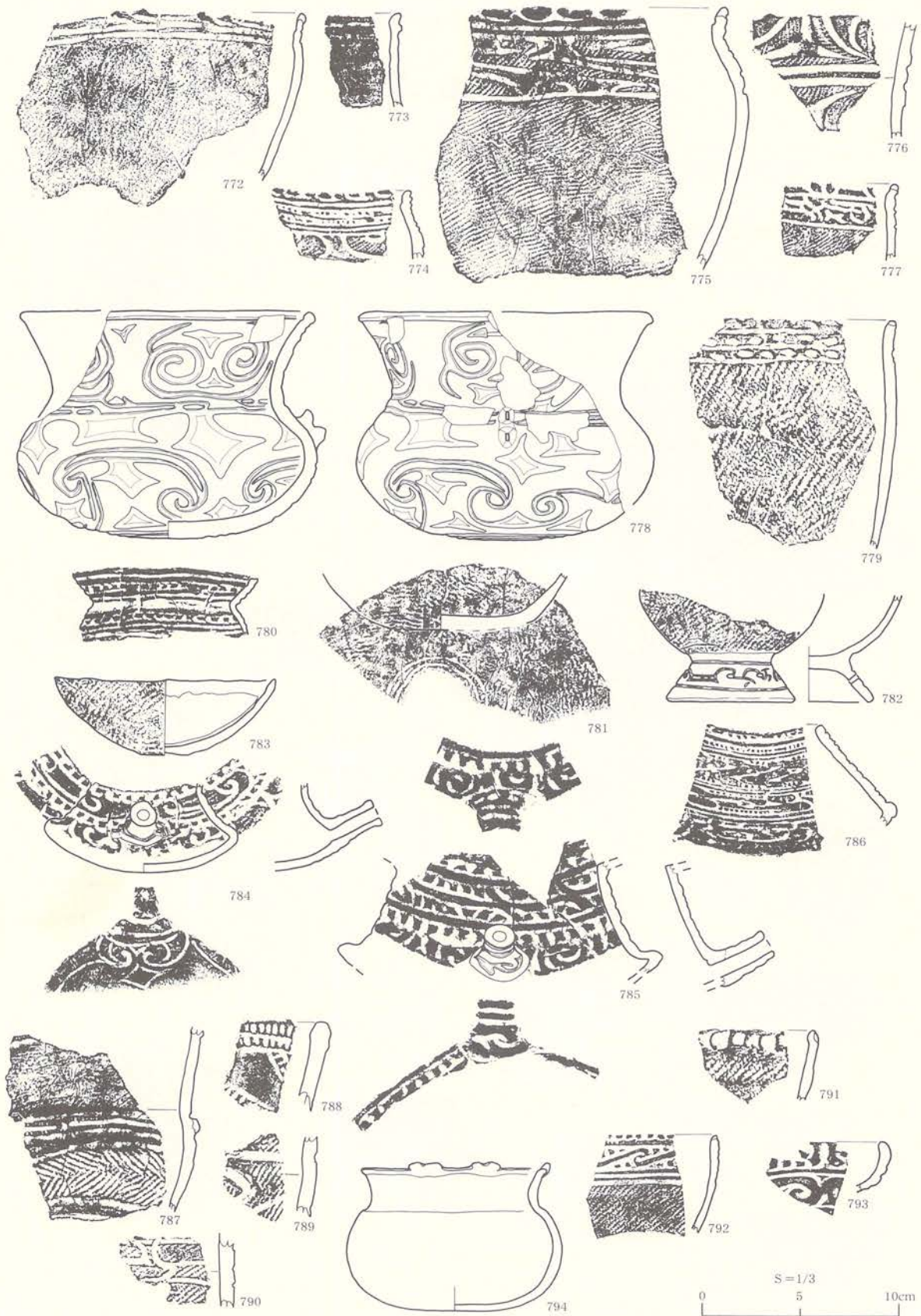




第58図 C区捨て場出土土器 (36)



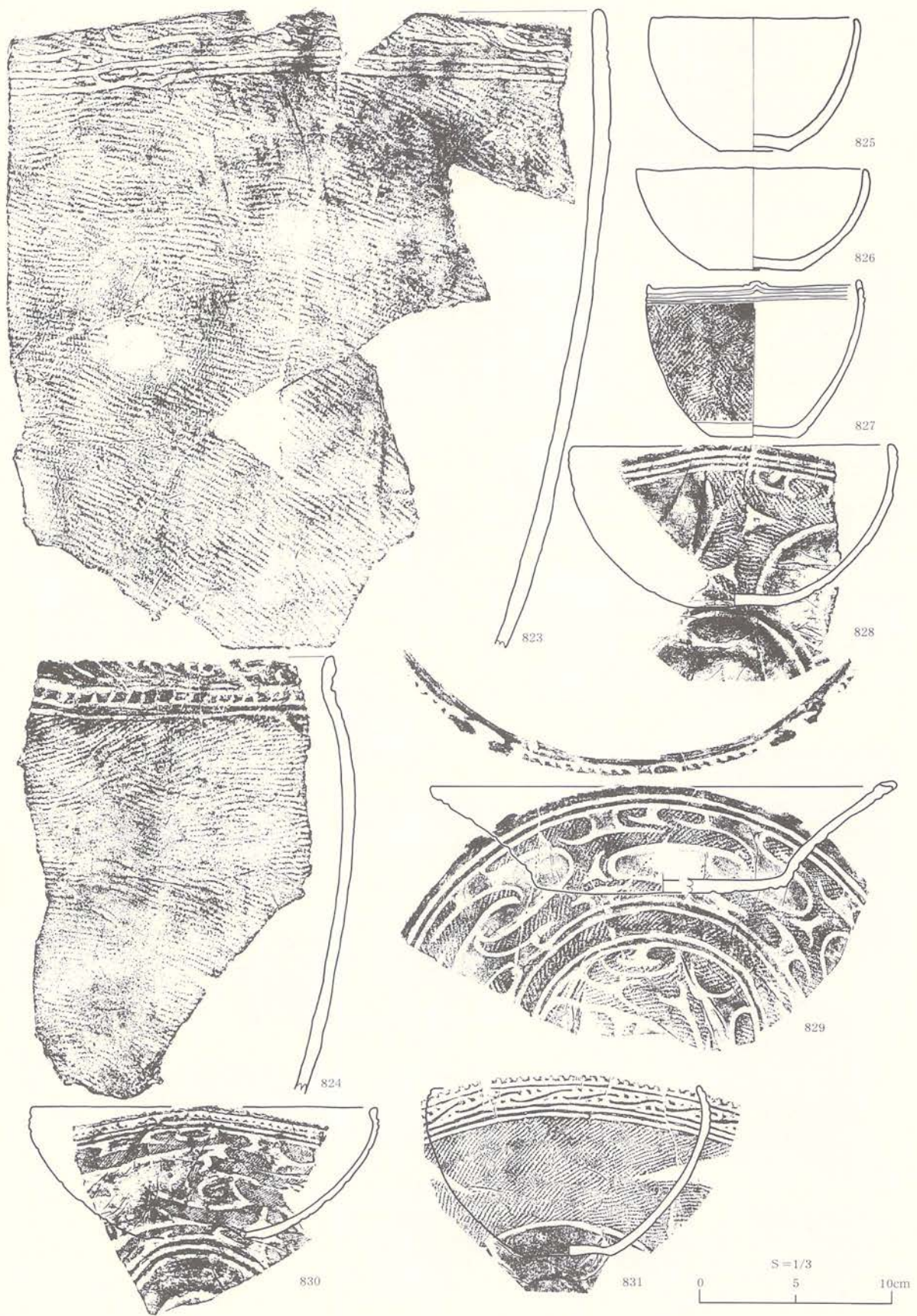
第59図 C区捨て場出土土器 (37)



第60図 C区捨て場出土土器 (38)



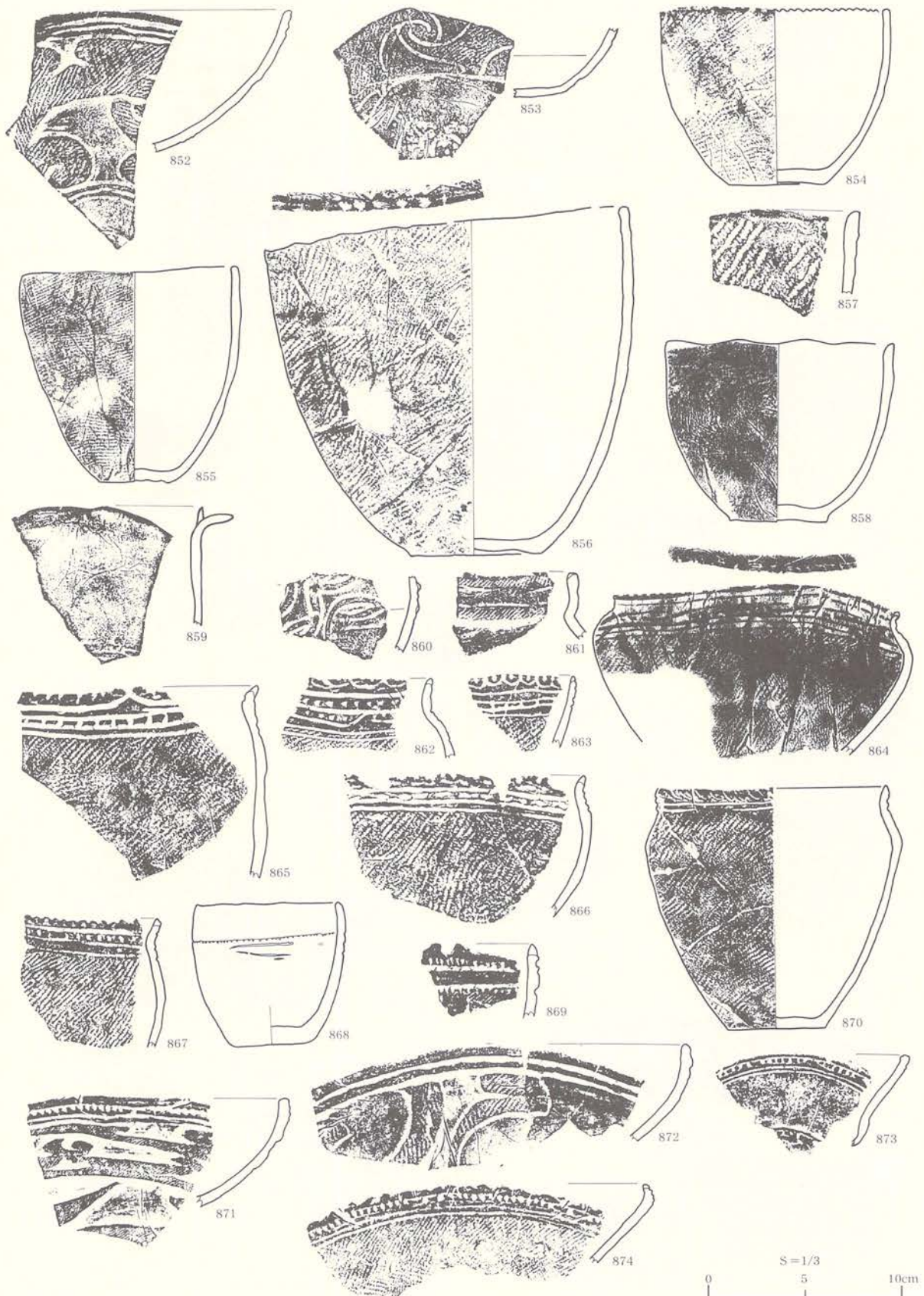
第61図 C区捨て場出土土器 (39)



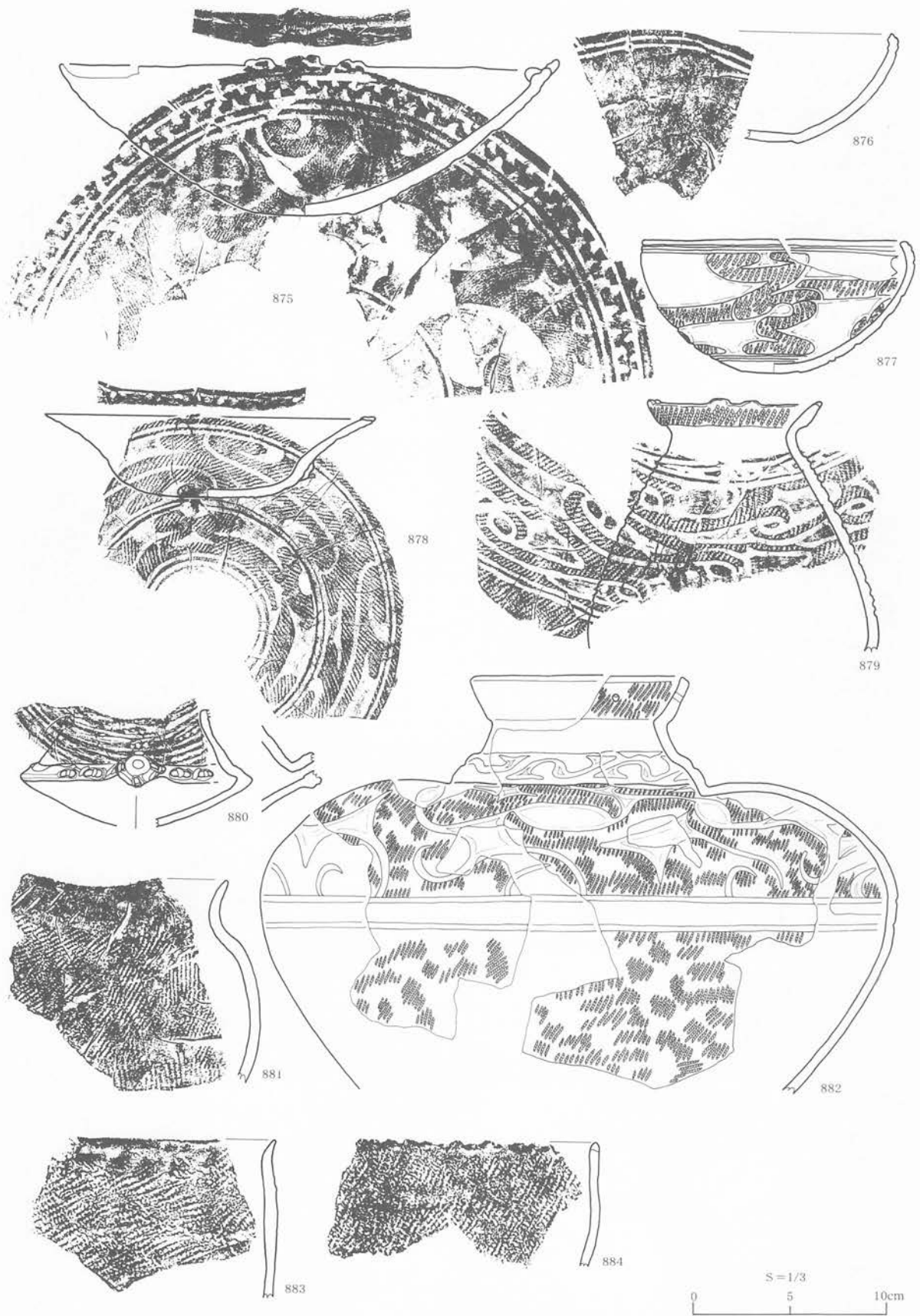
第62図 C区捨て場出土土器 (40)



第63図 C区捨て場出土土器 (41)

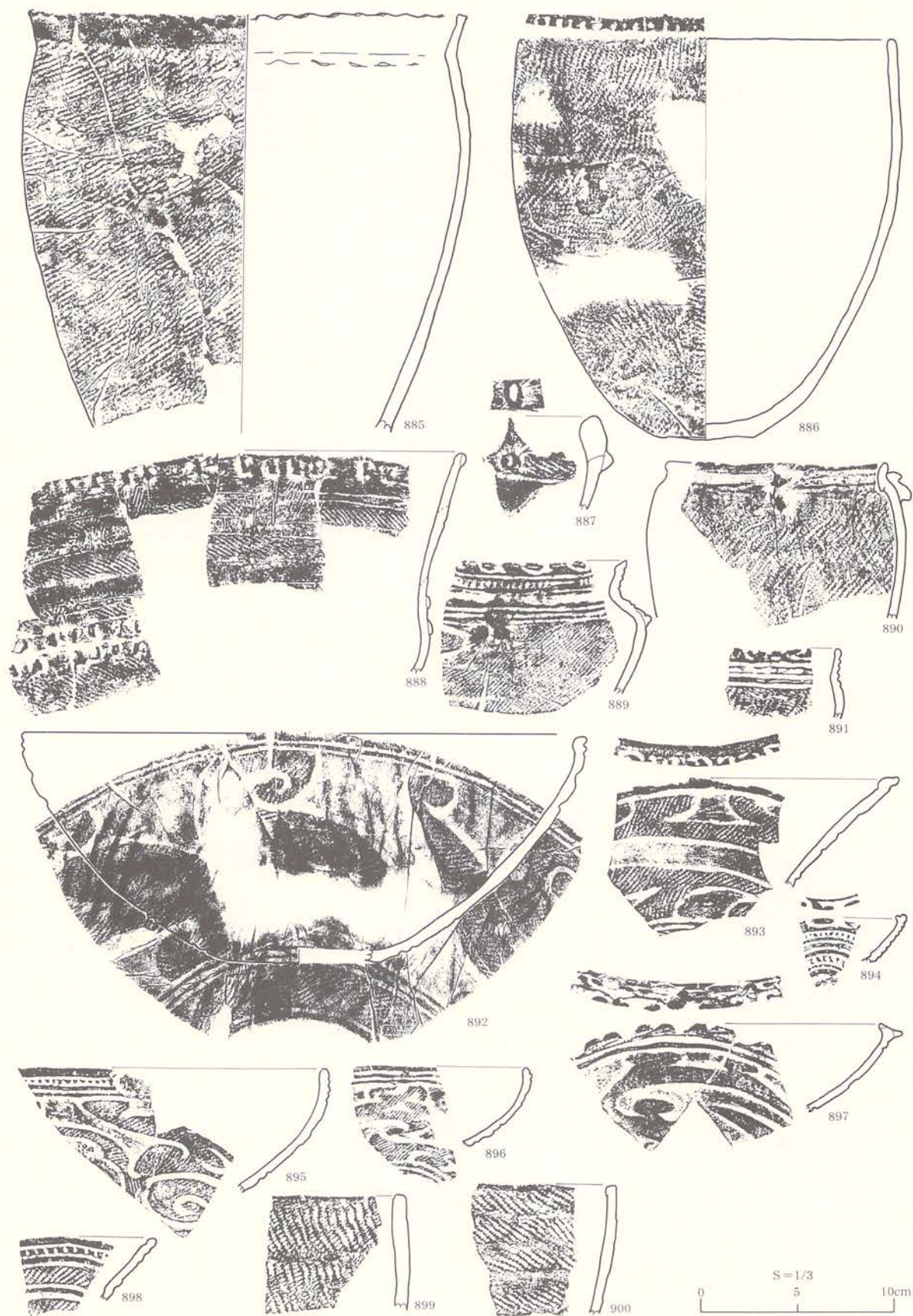


第64図 C区捨て場出土土器(42)



第65図 C区捨て場出土土器(43)

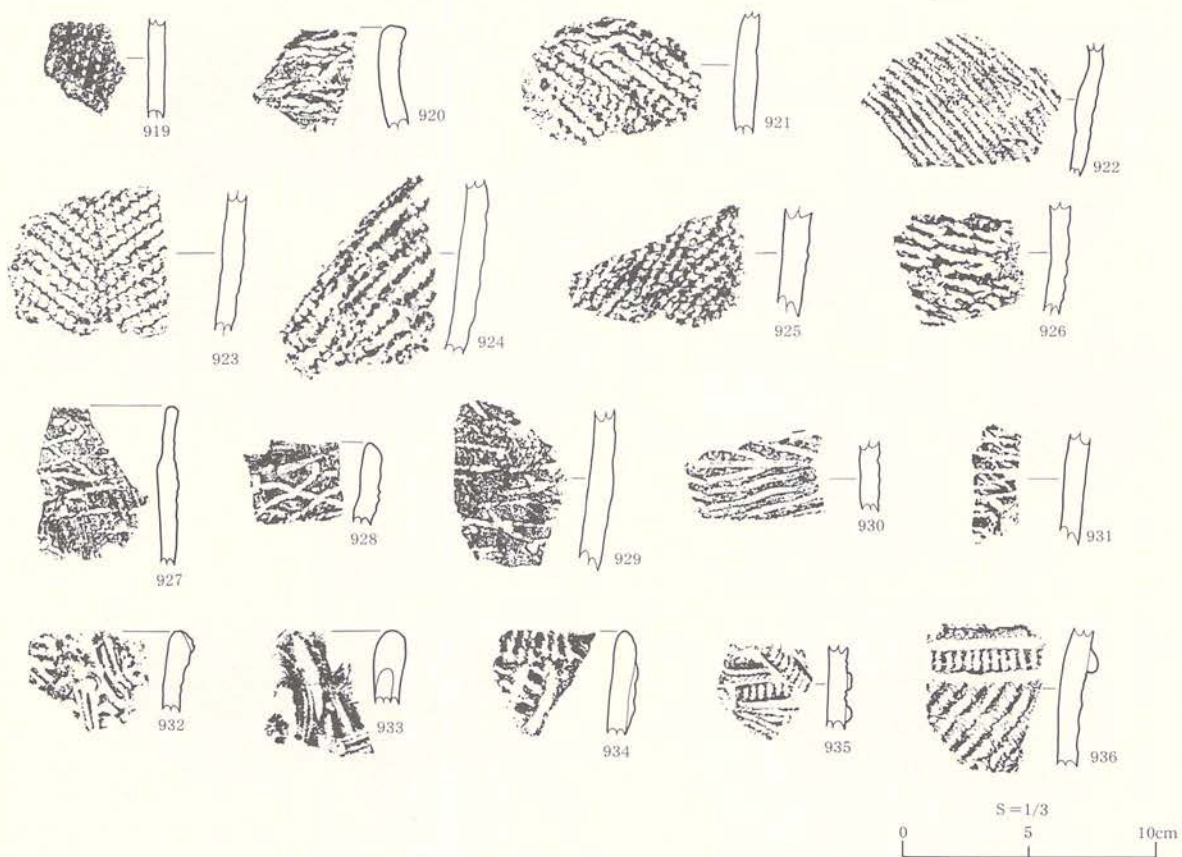




第66図 C区捨て場出土土器 (44)



第67図 C区捨て場出土土器(45)



第68図 C区捨て場出土土器(46)

⑥ 製塩土器(第69、70図、カラー写真図版5、写真図版42~45)

一般的な後・晩期に見られる粗製土器と異なりア：完全に無文である、イ：器厚5mm前後と薄手である、ウ：外面の調整が極めて粗雑である、エ：二次焼成が顕著で橙色を呈するものがある、オ：器面が薄く剥落するものが多い、カ：口唇部は薄く断面が尖り正面形状が水平にならず不規則である、キ：底部は丸底もしくは小径の平底になる、ク：全体の器形は砲弾形を呈する、の特徴を有するグループが確認された。

これらは近藤義郎氏によりまとめられた茨城県広畑遺跡出土製塩土器の特徴である(A)：日常の煮沸に使用する粗製縄文土器と区別される形態的特徴を持つ、(B)：一定のタイプへの集中度が徹底しており、装飾的要素は全く見られない、という2点で共通する。またより詳細な観察に基づく(a)：大形破片が口縁部付近に集中し、体部～底部が細片化している、(b)：うすい膜状ないし粒状の銩色または灰白色の付着物(CaCO<sub>3</sub>)が内外面、割れ口に認められる、(c)：器壁に沿って剥離する破片が多い、の3点については、本遺跡では底部と口縁部の破片の大きさに違いがないという点を除き共通している。特に(c)の器面剥離現象は顕著で、かつ他の精製・粗製土器にほとんど見られないことも特徴として挙げられる。近藤氏はCaCO<sub>3</sub>付着、剥離現象の要因から製塩の煎熬過程に使用されたことを証明された(近藤1984)。本遺跡におけるア～クの特徴に該当する土器も製塩土器であると結論づけて問題のないものと判断できる。

製塩土器の出土量は第7表製塩土器数量に示した。同一個体の確認は一般の土器に比較し困難で、確実なものを1点として計数したため本来より個体数が増えている恐れはある。これによれば破片数は合計223点、個体数は合計91点、口縁部個体数は42点、底部個体数は17点、総重量は6,265gである。製塩土器を

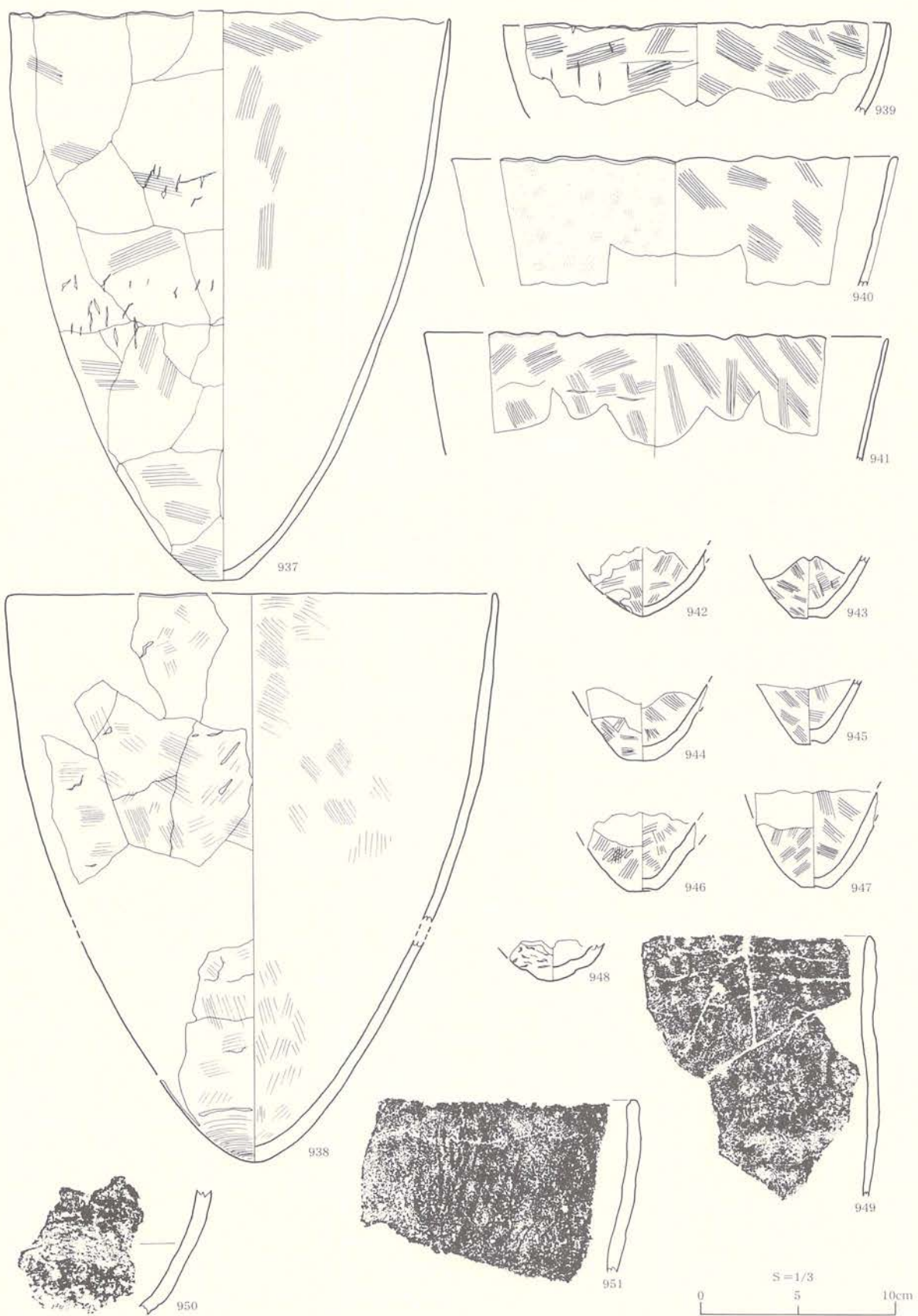
含めたC区捨て場から出土した土器の総重量が1,059,420gであり、製塩土器の占める割合は重量で約0.6%である。

出土地点は捨て場各ブロックのⅡa層～Ⅱe層まで全体的に含まれている。特にどの層に集中するといった状況ではないが、ⅧブロックⅡb2層、ⅦブロックⅡd層などに個体数が多い。口縁部、底部個体を中心に選択して掲載した。製塩土器はC区以外ではA区P3グリッドⅡ層から口縁～底部までの全体形を推定復元できるものが1点出土している(938)のみで、他に破片等も見当たらない。

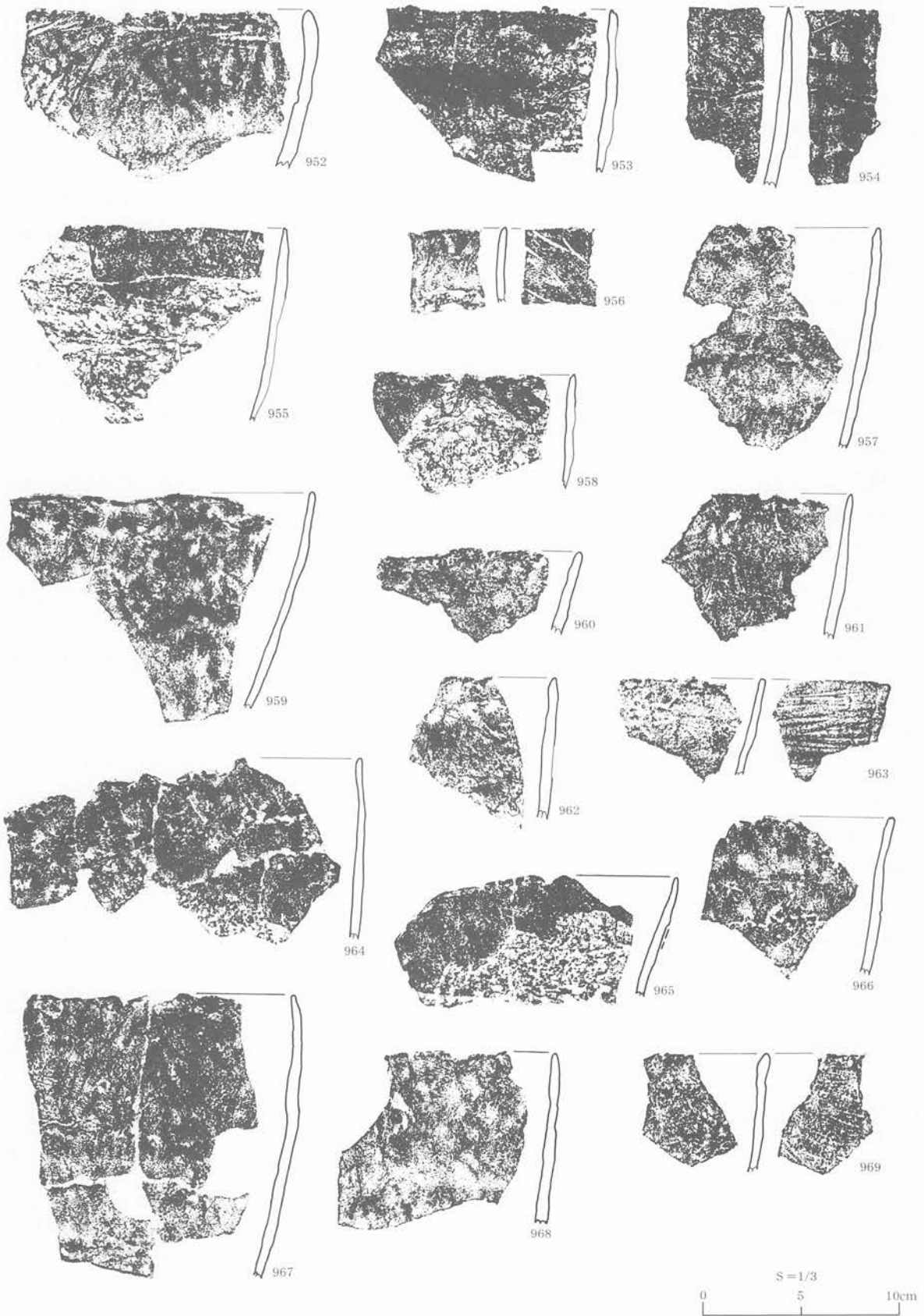
全体を知り得る937は欠損部がわずかしかない状態に復元された。破片は1箇所からまとまった出土である。破片の大きさは5cm以上の大きめの破片で細片化していない。小径の平底となる砲弾形を呈し、口唇部はつまみ上げた状態そのまま不規則な凹凸が残る。外面は粗いナデ調整で所々に乾燥収縮時についたと思われる器表面の「しわ」がある。内面は外面に比較すると平滑にナデ調整が施される。底部の成形は割れ口でみれば限りは粘土板を貼り付けたような状態ではなく、小径の底縁がやや外側に厚みを持ち平坦面を作り出して

第7表 C区捨て場出土製塩土器数量

ブロック	層位	土器総重量(g)	破片数	個体数	口縁部数	底部数	重量(g)
	盛土	58790		3	2	1	90
I	Ⅱa層	14160	30	1	1	1	410
II	Ⅱb1層	28720		1	1	1	1050
II	Ⅱc2層	15395	1	1		1	45
II	Ⅱd・Ⅱe層	17105	1	1	1		25
II	Ⅱd層	28850	2	1	1		70
III	Ⅱb1層	38410	1	1	1		30
III	Ⅱc2層	40535		1		1	50
IV	Ⅱb1層	13670	60				330
IV	Ⅱc2層	17405		1		1	15
IV	Ⅱd層	22140		1		1	60
V	Ⅱa層	53050	1	1			50
V	Ⅱb1層	40285					390
V	Ⅱc1・Ⅱc2層	39005	4	2	1	1	150
V	Ⅱd層	13195			1	2	60
V	Ⅱe層	16840		2	2		30
VI	I～Ⅲ層	13075	2	2		2	40
VI	Ⅱc1層	10355	50		5		430
VI	Ⅱe層	16515					45
VII	Ⅱd層	15360	12	12			120
VII・VIII	I～Ⅲ層	5065	1	1			5
VIII	Ⅱb2層	21685	34	31	3	2	580
VIII	Ⅱc2・Ⅱc3層	2635	24	9	2		220
VIII	Ⅱd・Ⅱe層	8295			7	2	650
VIII	Ⅱe層	4185		2	2		160
IX	Ⅱb2層	30830		4	3		200
IX	Ⅱc1層	11075		6	2		70
IX	Ⅱd層	5935		6	6		340
A区	遺構外	550		1	1	1	550



第69図 C区捨て場出土製塩土器(1)



第70図 C区捨て場出土製塩土器 (2)

いる。内外面には帯状の範囲に煤が付着するが、これとは別に部分的に黒褐色物質の付着も見られる。前述した飴状の付着物（ $\text{CaCO}_3$ ）とは異なり炭化物様のものである。

938は口縁部～体部上半と底部があり器形を復元図化した。砲弾形という点では937に共通し器高もほぼ等しいが、体部下半の内湾が若干強まり口径が大きくなる。底部は先端が欠損しているため明確ではないが平坦面を持たない丸底になる。外面は粗いナデ調整で底部付近は横方向の調整が加えられる。また、底部付近は器面の荒れが目立つ。外面は凹凸を残すが内面は比較的丁寧な調整で平滑に仕上げられている。一部分だが内外面に黒褐色物質の付着がある。

939～941は口径を復元した口縁部破片である。いずれも口縁部が最大径を取る砲弾形の器形と推測される。939は口縁部破片の内湾度が高い。940は口唇部が他に比較し厚みを持つ破片で、外面は被熱で赤化しており非常に荒れた器面となる。外面全面が器表面を剥落した状態の可能性が高い。941は対称的に被熱痕跡は薄く外面の残り具合は良い。器面の凹凸が残り、凹部に指紋が見える。

942～948は実測し得た底部破片である。平坦面を持つ943～947と丸底状の942、948に区別される。942は外面、底面が剥落する。平坦面は見当たらず乳房状の底部形状である。943は底面の荒れが外面の他部分と比較し著しい。944、946、947は破片上端が極端に内傾する接合痕である。外面と底面の境界は緩く屈曲し底面が平坦、もしくは若干へこんだ状態になる。945は他に比較し底部からの立ち上がりは急角度の直線的で、底面は全体が凹みになる。946は底部破片と上位の体部破片で焼成が異なる。底部破片は表面から内部まで被熱で橙色になるが、接合面から上の体部を形成する粘土帯の熱変色は弱い。こうした現象がどういう過程で生じるのか不明である。947は外面に黒褐色物質の付着があるが、体部破片との接合面にも見られる。948は不整形な丸底で、内面側と外面側の粘土板が2枚貼り合わせている状況である。内面側の粘土板は底部を塞いだように見える。外面のしわも顕著である。

949～第70図969の採択した破片は捨て場のⅡa層→Ⅱe層の順に層位順に掲載している。949は口縁端部の断面形状が尖らず丸くなる。外面上部に1cm幅程度で輪積痕が見える。950は出土地点、砂粒が多い胎土の特徴、焼成の状況から949と同一個体と判断した。底部付近の破片で、断面形状は中程で若干くびれる。外面は口縁部の949と異なり被熱で赤化する。951は緩く内湾する口縁部破片で外面にしわが目立つ。内面は平滑に調整を受ける。

952は口縁部がやや厚くなり内湾する。外面に口縁部から吹きこぼれたような状態で黒褐色付着物が残る。953の外面は帯状に1mm程の厚さで器表面が剥落している。口縁部の整形、仕上げはほとんどなされていない状態である。954は比較的厚めで口縁部の内側を削ぎ落としたように口唇部断面形状が尖る。955も広い範囲で器表面が剥落しており、残った部分に輪積痕が明瞭である。内面が平滑にミガキ調整を受け黒褐色物質が付着する。

958は外面表面が剥落して露出した面に褐色の物質が付着している。959の内傾度は他に比較し高いが破片のため確実でない。内外面に褐色の物質の付着がある。961は口縁部から外面に吹きこぼれたように黒色炭化物が付着する。内面は非常に丁寧な調整を施す。963は恐らく口径が他より小さくなり口唇部に平坦面が作り出される点で特徴があり、一般的な無文の粗製土器と共通する。内面調整は単位が深く出るミガキが施されている。外面の状況から製塩土器と判断した。964は口唇部が不規則につまみ上げた状態をそのまま残す。

965は広い範囲で外面が剥落する。口縁部の下がわずかに外反気味で上部がやや内湾する。966は逆に口縁部が外反気味となる。967は内外面の被熱変色が著しい。外面に吹きこぼれ状の付着物が見られる。969

は口唇部の内面側が削ぎ落とされたような状態で口唇部が尖る。

掲載しない破片も同様に薄手で無文、口唇部の整形がなされない、外面調整の粗雑さに対し内面が平滑に調整される、外面に剥落やしわが多く見られる、黒褐色や褐色の付着物がある、といった特徴は共通する。

#### ⑦ 石器 (第71~77図、写真図版46、47)

C区捨て場から出土した石器の集計は第8表にまとめている。掲載にあたっては出土地点と無関係に器種→細別器種の順に並べている。

**石鏃** (970~986) 捨て場全体では122点の出土である。形態から以下のように分類する。

1類：有茎鏃 (明瞭な茎部を有するもの) 更に基部の形状から細分する。

A類：凹基 B類：平基 C類：凸基 (かえしあり) D類：凸基 (側縁丸い) E類：凸基 (十字形)

2類：菱形 (茎部が直線的に尖るもの)

3類：柳葉形 (側縁が丸みを帯びるもの)

4類：無茎鏃 基部の形状から細分する。

A類：円基 B類：平基 C類：凹基 (広い抉り) D類：凹基 (小形半円状の抉り)

これらのうち最も多いのが1C類、次いで1D類で、逆に1A類、1E類、4A類は図示した1点のみしかない。細分類と出土層位との関係では4類が1類に比較しⅡd層など下位のものがやや多くなると言えるが、他に明確な傾向は把握できない。破損の状況は基部欠損が53点、先端欠損が18点、先端に槌状の剥離痕が見られるものが4点である。また、未製品と思われる細部調整剥離が完全でないものが2点ある。基部にアスファルトが付着するものは28点認められる。ほとんどが1類有茎鏃の基部に付着したもので、4類無茎鏃には器体の中央部を柄で挟んだ状態に付着しているものがあるが、図示したものを含め3点のみと少ない。計測値は平均で全長が34mm、全幅が15mm、厚さが5mm、重量が1.9gである。

**尖頭器** (987~990) 二次加工による尖頭部を持つ左右対称な石器のうち石鏃、石錐以外を尖頭器として一括する。捨て場全体では12点の出土である。987はサイズが石鏃と等しいことから、細部加工中途段階の石鏃である可能性がある。988は雁又状の基部を持つが、二つの摘み部を有する石匙のバリエーションとして捉えられるかも知れない。989、990は二次加工が中央まで及ぶか否かの差はあるが、石鏃より鈍角な尖頭部を持つ点で共通する。いずれにしても槍先程の大型になるものは見られない。

**石錐** (991~998) 明かな錐部を持つもの以外は除外した。捨て場全体では24点の出土である。形態から以下のように分類する。

1類：棒状で両端が錐部となるもの。

2類：摘みが付くもの。錐部の形状から細分する。

A類：細長い棒状の錐部となるもの。B類：円錐形の錐部となるもの。

3類：剥片の一端を利用するもの。

多いのは2A類の12点で他は3~5点見られる。991は中央部の側面稜線が使用により摩滅している。994は錐部先端が同様に摩滅している。他には顕著な使用の痕跡は見当たらない。

**石匙** (999~1012) 両側からのノッチ状剥離によって作出された摘み部と刃部を持つものを石匙として一括した。捨て場全体では51点の出土である。摘み部の軸線と主要刃部のなす角度から以下のように細分する。

1類：摘み部軸線と主要刃部が平行するいわゆる縦型石匙。刃部の辺数から更に細分する。

A類：摘み部と対になる端部が尖り刃部が2辺のもの。



第8表 C区捨て場出土石器数量

ブロック	層位	稜形器	石鏃	尖頭器	ドリル	石匙	ヒメス エスキュー	Uフレイク	石核	剥片	磨製石斧	他礫石器
I	II a層	3	1		2		1	1	1	5		
I	II b 1層	21				1		3		43		
I	II c 2層	3	2		1		1	4		21		1
I	II d層	4	2			1		2		17	2	1
I	II e層						1			2		2
II	I層	2	1			1		3		10		
II	II a層	7	1					2		15		
II	II b 1層	4	5		1		1	8		27		
II	II c 2層	5	5		1	1		4	1	30		1
II	II d層	2	1		1	1		2		6		
II	II e層	1							1	1		
II	II b 1・II c 2層	2	3			1	1	6		12	1	3
II	II d・II e層	3	2	1		2		1		15		1
III	I層				1			1		3		
III	II a層		2	1				2		4		
III	II b 1層	10	5			1	1	11		66		3
III	II c 2層	17	10	2	1	1		11		57		
III	II d層	10	1			2		7		32		
III	II e層							1		3		
III	III層									1		
IV	I層	3				1	1	5		13		2
IV	II a層	2	1		2			3		10		
IV	II b 1層	8	2	1		3	3	7		25		
IV	II c 2層	10			3			13		17		
IV	II d層	11						1		15		1
IV	II e層	1										
IV	II a・II b 1層	2					1	2		5		
IV	II c 1・II c 2・II d層	2				3		1		9		
V	I層	3	1					1		11		1
V	II a層	10	5	1	1	1	1	4		35		
V	II b 1層	16	2		1	2	2	13		37		4
V	II c 1・II c 2層	8	1		2	1		6	1	16		1
V	II d層	6	2			2		6		13		
V	II e層	6						3		9	1	2
V・VI	I～III層	3						2		4		1
VI	I層	1	1									
VI	II b 1層	2	9			1	1	6		8		
VI	II b 2層	6	3			1		4		14		
VI	II c 1層	4			1			3		11		
VI	II c 2層	4	1					3		6		
VI	II c 3層	2				1	1	2		6		
VI	II c 3・II d・II e層										1	
VI	II e層							1			1	1
VI	I～III層	5	2			2		4		8		
VI	II a・II b 1層						1					
VI	II c 2・II c 3層	2			1			1		6		
VII	I層	2	1					1		3		1
VII	II b 1層	4						7		21		

ブロック	層位	不発石器	石鏃	尖頭器	ドリル	石匙	ヒエスキース ヒエスキース	Uフレイク	石核	剥片	磨製石斧	他礫石器
VII	II b 1 下層	4	2				1	1		3		
VII	II b 2 層	15	6		1	1	1	11		52		
VII	II c 1 層	15	2			2	1	9		19		
VII	II c 2 層	4	6					3	1	11		
VII	II c 3 層	2				1		3		9		
VII	II d 層	3						1		3	1	
VII	II e 層		1				1					
VII	I ~ III 層							1				
VII・VIII	I ~ III 層	2						3		6		
VIII	I 層	4	2					1		6		1
VIII	II b 2 層	36	12	3	2	3	4	43		105	1	2
VIII	II c 1 層	8	5			1		8		21	1	
VIII	II c 1・II c 2 層							1				
VIII	II c 2・II c 3 層	3	1					3		4		2
VIII	II d・II e 層	1	1			1		3		3		
VIII	II e 層	1								3		
VIII	II c 1・II c 2 層	2						3		7		
IX	I 層	8		1		2	1	4		7		3
IX	II a 層							4		3		
IX	II b 2 層	11	1			2	1	14		29	1	4
IX	II c 1 層	11		1		4	1	9		2		
IX	II c 2 層									16		
IX	II d 層	3								4		1
IX	II e 層											
IX	I ~ III 層	2						3		2		
IX・X	I ~ III 層	3								2	1	
X	I 層	2						1		4		
X	I 上層	1		1				2		11		
X	I 下層	3								5		
X	II b 2・II c 1 層	2	1					2		16		
X	II d 層									1		
X	III 層									1		
XI	I 上層						1			7		
XI	I 下層											
XI	II d 層	3					1			12		
	盛土	34	9		2	3	1	14	1	71	2	7
K6ア	II 層											
K6ア	II c 層							1				
K6イ	II 層	1										1
K6ウ	I ~ II 層						1			2		
K6ウ	II 上層	2									1	
K6ウ	II a 層	1										
K6エ	II 上層		1							1		
K6ア・K5オ	II 下層	1										
J6ニチ	II 層							2				
J6ネ	I 層									1		

B類：摘み部の対が短い刃部となり合計3辺の刃部を持つもの。

2類：摘み部軸線と主要刃部が斜行するいわゆる斜位型石匙。摘み部の位置により更に細分する。

A類：三角形をなす器体の1頂点に摘み部を持つもの。

B類：三角形をなす器体の1辺に摘み部を持つもの。

3類：摘み部軸線と主要刃部が直交するいわゆる横型石匙。摘み部の位置により更に細分する。

A類：三角形をなす器体の一頂点に摘み部を持つもの。

B類：三角形、柳葉形をなす器体の一辺に摘み部を持つもの。

これらのうちでは1B、2B、3B類が比較的多い。1B類の1001では末端にエンドスクレイパー状の鈍角な刃部が形成されている。1002は素材剥片の打面、バルブをそのまま残した台形の形状となる。1004と1008の摘み部にはアスファルトの付着が認められる。アスファルトが付着するものは4点出土している。1010のように摘み部を2箇所有する石匙は他に見当たらない。1012は主要刃部の反対側に素材剥片の剥離面が残りを打面とした剥離も見られる。2B類の未製品である可能性がある。

**ピース・エスキュー** (1013~1017) 両極剥離痕を有する剥片で、1対もしくは2対の対向する2辺に刃部として使用された痕跡を有するものを一括した。捨て場全体で32点の出土である。図示したものを含めほとんどの側面に剪断面が形成されている。1014は対向する辺が90°捻れた状態にある。1015~1017は図の下辺が短く潰れた部分が点状になる。計測値は平均で全長が32mm、全幅が24mm、重量が8.3gである。

**不定形石器** (1018~1034) 二次加工を加えている剥片石器のうち上記の定形石器に該当しないものを一括して不定形石器とする。二次加工は側縁の一部に加えているもの、全周に加えているものなど多種多様であり、形態に応じた使用法の異なる石器を一括しているものと思われるが、ここでは特に細分は行わなかった。捨て場全体では397点の出土である。1018、1020は薄緑色の砂岩を素材とした剥片周縁に二次加工を加えたもので板状礫を使用した礫器(1053、1054)との区別が微妙である。1019、1028、1033は細かい剥離を連続させており刃部は急角度である。このタイプのものが最も多い。1021、1022、1031は大きめのサイズで側縁にスクレイパーエッジ状の刃部加工が加えられる。1023~1027、1029、1032は概ね小形でほぼ側縁全周に両面からの二次加工を加えており、楕円形、尖頭部を持つ滴形等の形状に仕上げられる。全体の中では少数のグループである。1030は基部側にノッチを有する。1034は左右対称の尖頭器状、もしくは石錐状に作られている。

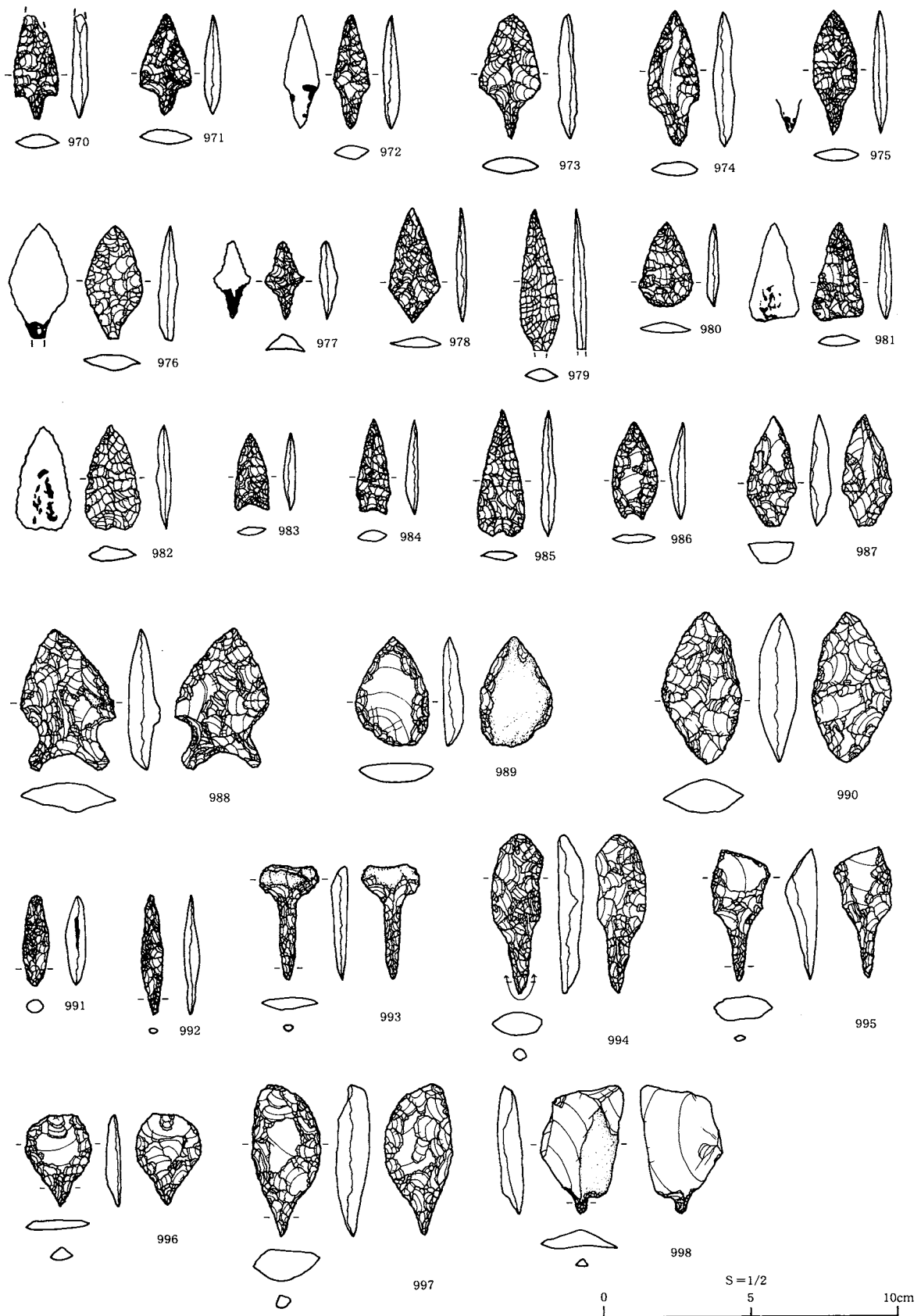
**U・フレイク** 特に二次加工を加えていない剥片で側縁などに顕著な使用痕が認められるものを一括した。捨て場全体では318点の出土である。図示はしていない。

**石核** (1035、1036) 捨て場全体では合計6点の出土である。

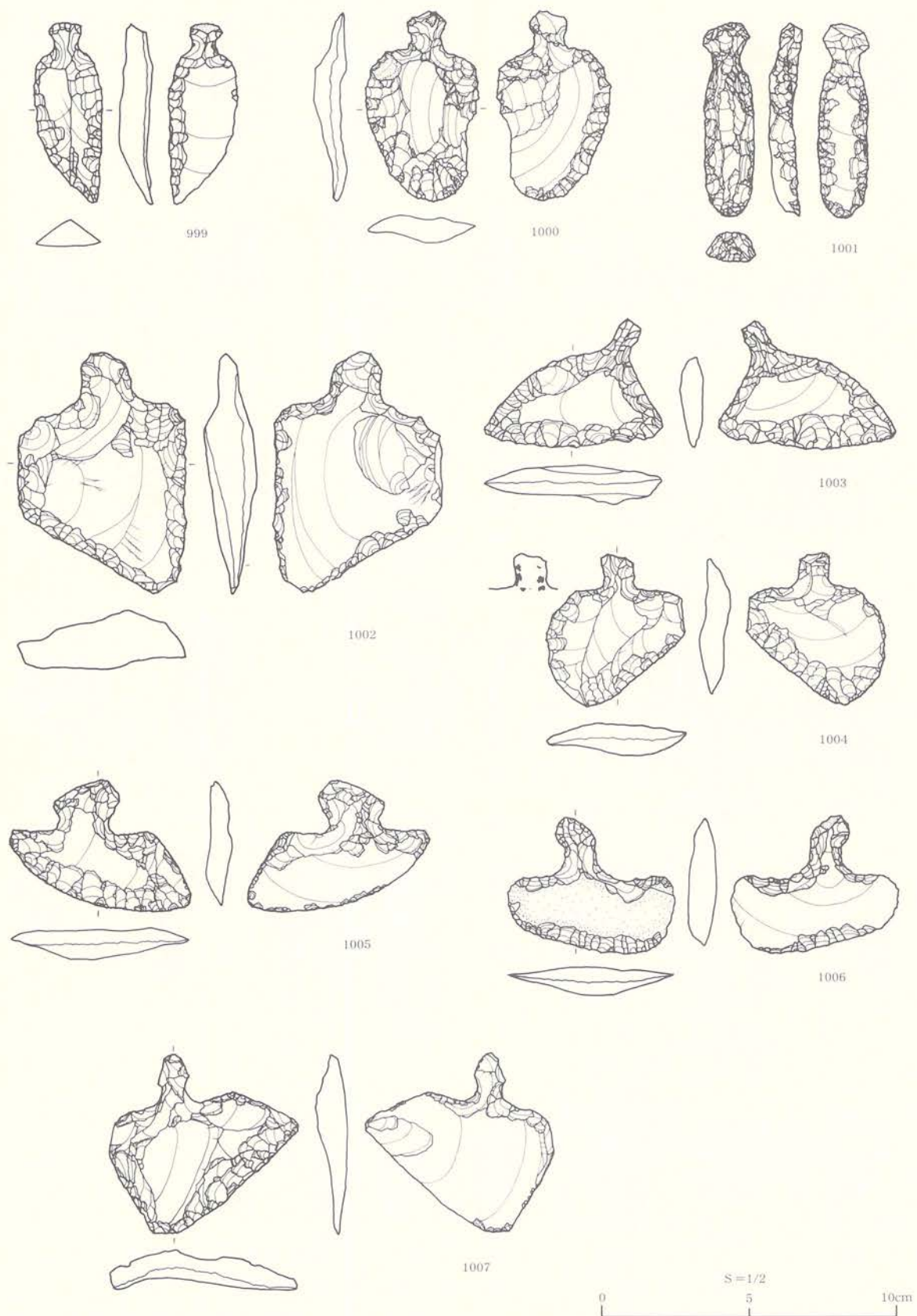
**剥片** 剥片は捨て場全体で1141点の出土である。石質は珪質頁岩が大部分を占め砂岩、黒曜石、チャートが混じる。個々の詳しい観察、計測を行っておらず図示、表の掲載は行えなかった。

**磨製石斧** (1037~1041) 通常のサイズの磨製石斧の他に小形のノミ状石斧とも言えるようなものがある。ここでは一括して磨製石斧とした。捨て場全体で16点の出土である。破損品が多く15点は基部か刃部のいずれかを欠損していることが特徴となる。基部の形状は尖るもの(1039)、平坦面を持つもの(1040、1041)があるが石質、破損の状況等との関連は見いだせない。全長が65mm以下のものが4点あり(1037、1038ほか)これらは形状については通常のものとは大きな差はないが、薄手で刃部の幅も小さい。

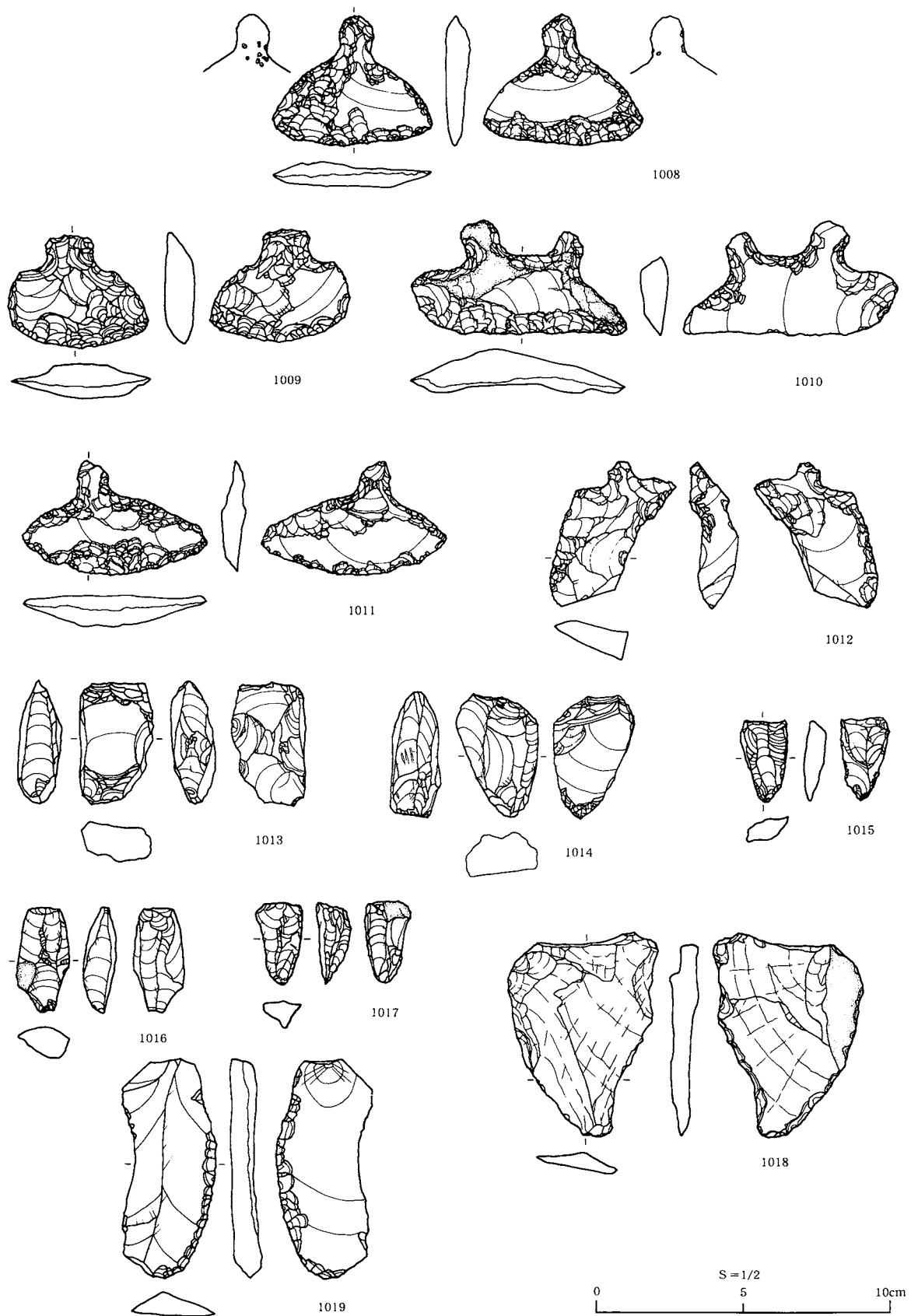
**凹石** (1042~1045) 捨て場では4点出土している。1042、1043は表裏の同じ位置に凹痕が対になっている。1044、1045は片面のみの凹痕である。1045は石皿の破損品を転用しており、凹痕の周辺と裏面に



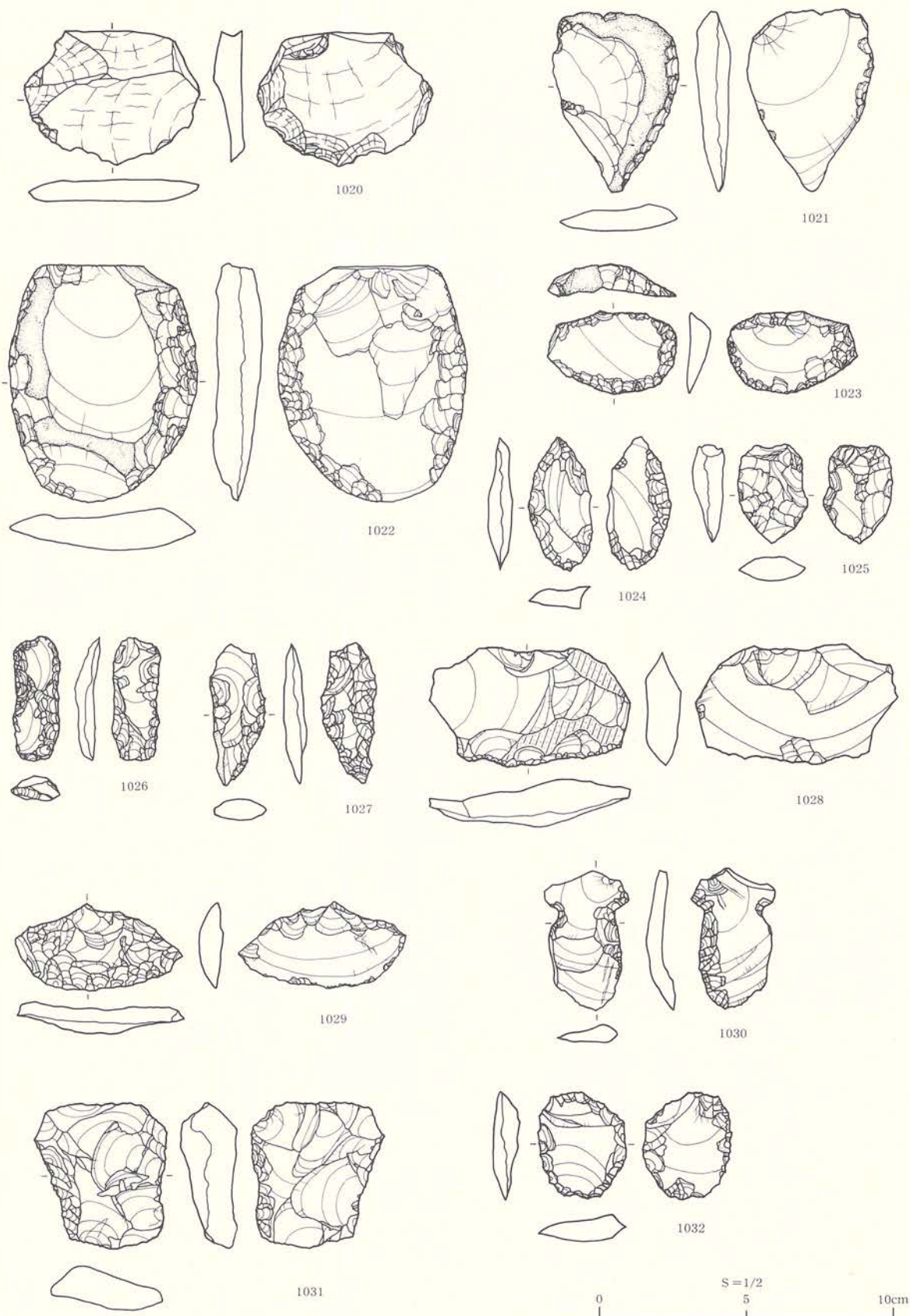
第71图 C区捨て場出土石器(1)



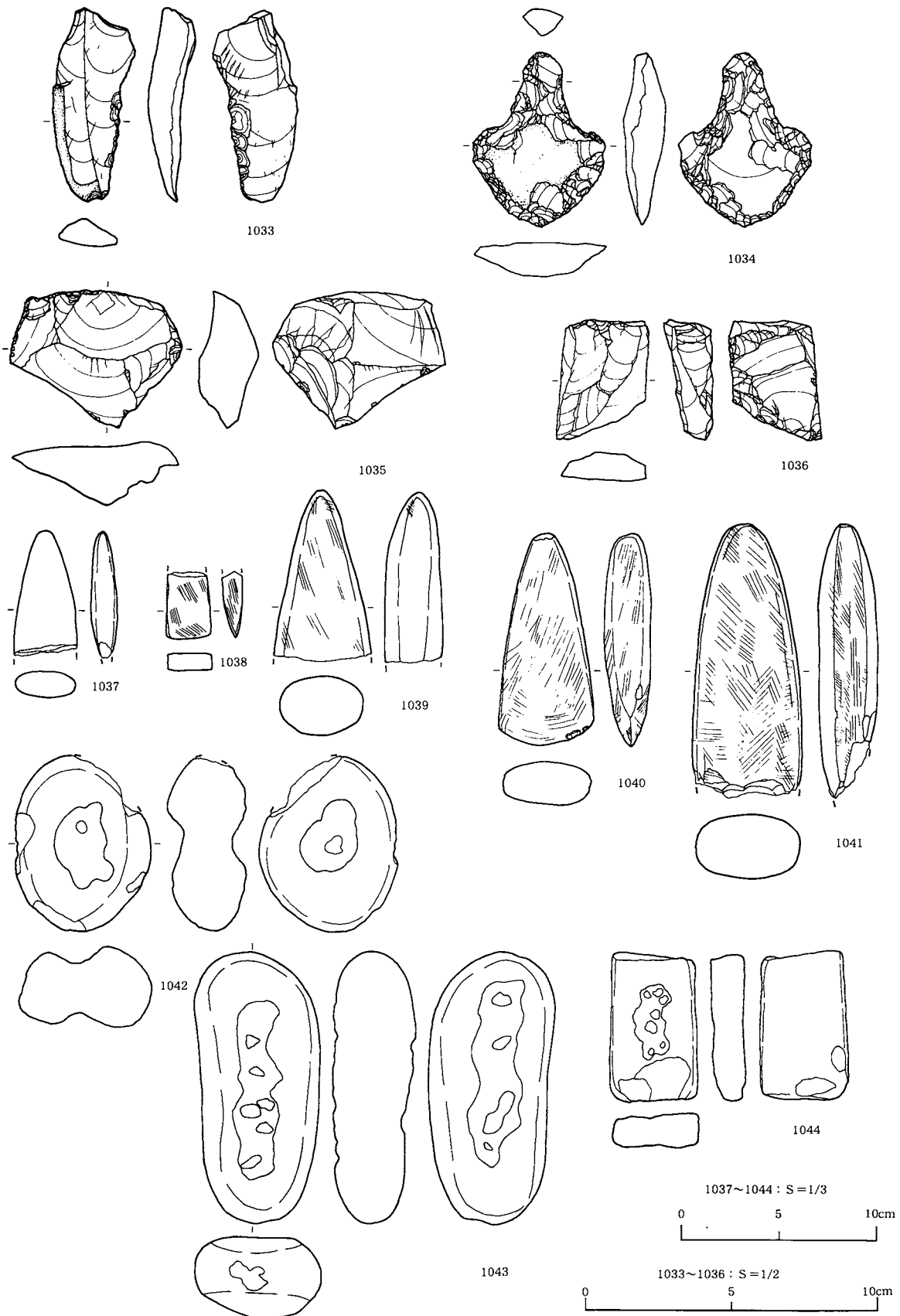
第72図 C区捨て場出土石器(2)



第73図 C区捨て場出土石器(3)

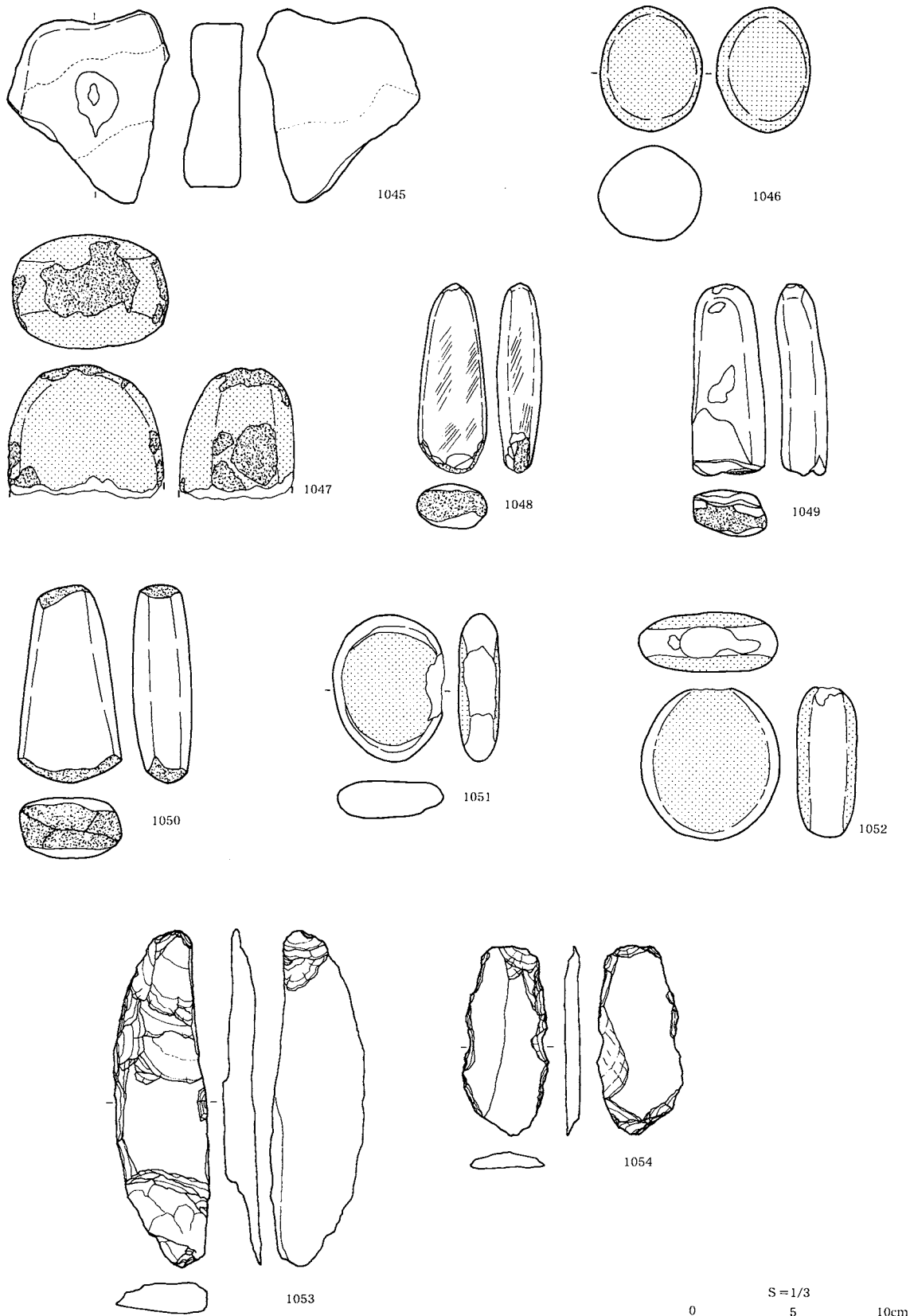


第74図 C区捨て場出土石器(4)

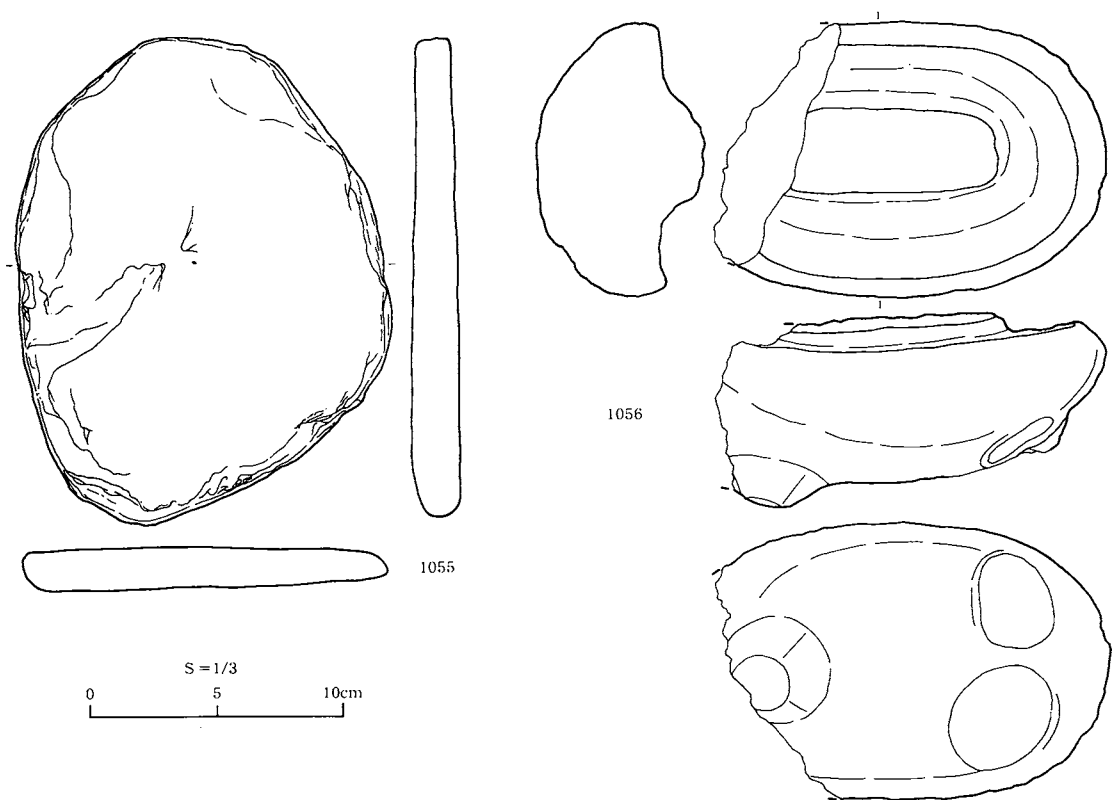


第75図 C区捨て場出土石器(5)





第76図 C区捨て場出土石器(6)



第77図 C区捨て場出土石器 (7)

黒色の炭化物が付着する。

**敲石・磨石類** (1046~1052) 敲打痕、摩滅面を有する礫石器を一括した。捨て場では23点の出土である。1046は円礫で全体に摩滅しており更に敲打痕が重なって散在する。1047は側縁、頂端に敲打痕、平坦面が摩滅となる。図示しなかったものもこのパターンが多い。1048、1050は磨製石斧の刃部欠損品を転用したもので、破損面が敲打痕で覆われる。基部側にも敲打痕が見られる点から、ハンマーとしての用途が考えられる。1049も素材は棒状礫だが同様の使用法が考えられる。1051、1052は偏平な礫の平坦面が摩滅、側縁に敲打痕を有する。

**礫器** (1053、1054) 板状の礫を素材として側縁に成形の剥離を加えたものを礫器とした。3点の出土である。1053は形状からいわゆる半円状偏平打製石器に相当する。片面からの調整のみ加えられる。1054は薄い粘板岩質の頁岩を素材とし打製石斧状に成形している。

**台石** (1055) 図示した1点のみの出土である。偏平な礫で両面に微細な敲打痕が散在するが範囲を示すほどではない。

**石皿** (1056) 捨て場では2点の出土である。1056は安山岩製の3脚?石皿で、うち2脚は欠損している。使用面は中央に舟状の高まりを残し、周囲の溝部分に顕著な摩滅痕が見られる。

⑧ 土製品 (第78～85図、写真図版48～50)

土偶 (1057～1104) 合計55点の出土である。掲載は中空遮光器土偶 (1057～1078) →中実遮光器土偶 (1079～1081) →X字形土偶 (1082～1084) →その他 (1085～1104) の順とする。1057は上半身右側前面で4mm程と薄く精選された粘土を用い、内面に粘土帯接合痕が残る。1058は眼部分の破片である。赤色顔料が付着する。1059は大型中空遮光器土偶頭部で成形、施文、無文部の調整などは丁寧な作りとなる。首の割れ口にはアスファルトの付着がある。頭部の飾りには4箇所の透かしがあり宝冠形を呈する。顔面は口が貫通孔となる。頭部飾りや背面側に赤色顔料が見られ、本来は全体が塗られていたと考えられる。1060は浅黄橙色を呈する上半身右側で肩、背面、正中線の割れ口はいずれも粘土帯の接合面である。腕外側を中心にアスファルト状の黒色物質付着が見られる。1061は肩の破片で前後は不明。1062は左脇の部分で肉彫状の文様が施文されている。1063は左腹部全面で大型と思われる。沈線に刺突を伴って渦巻文が描かれている。1064は脇腹部分の破片で前後は不明。無文部は極めて丁寧なミガキ調整が施される。

1065は大型土偶の胴部、左脚で3～4mmと薄手である。表面は黒褐色を呈し精選された粘土が使用されている。胴上部の割れ口にはアスファルトが付着する。腹部の隆起部分にはへそを含め3箇所の透かしが開けられており、肛門に相当する位置にも穿孔がある。1066は下半身左側の残存で割れ口は粘土塊の接合面である。腹部には透かしが開けられる。脚部は器面の表面が薄く(厚さ1～2mm)剥落している。1067は大股開きの下半身で股の部分が1枚板からなり、脚部との接合部分に穴を開けてドーム状の脚を付けている状況が観察できる。脚の先端は欠損しているが芯材を通したような穿孔が残る。陰部(肛門?)にも貫通孔がある。1068はかなり大型の脚部で左右の判断は付かない。股の付け根には三叉文が施される。1069の腕は海綿骨針が混入している。

1070はかなり大型になるとと思われる股部分破片で陰部に貫通孔がある。1071は無文部の幅からみて首の破片、1072は胸部の破片、1073は首部の破片と推測される。1074は部位不明だが中空土偶の一部と判断される。1075は頭部飾りの一部であろう。赤色顔料が付着する。1076は肩部、1077、1078は下腹部～脚部の可能性がある。

1079は右腕先、頭部飾りの一部を欠損する。要所に刻目帯を用いた施文がなされ、頭部に赤色顔料が付着する。1080はやや大きく背面文様が簡略化される。左脚割れ口にはアスファルトが付着する。1081は正中線で左右を接着した痕跡が残る。下半身との割れ口にはアスファルトが付着する。乳房が大きく下向きに垂れている。1082は頭部、右脚を欠損したX字形土偶で表裏が接合面から2枚に分かれる。両面中央が盛り上がりその上から沈線で三叉文が施される。1083は非常に小型で頭部を欠損しているがそれ以外は完形である。1084は小型X字形土偶上半身で、頭部に目を表したような沈線が引かれる。背面は偏平である。1085は小型中実土偶上半身?で頭部は上が凹んだ突起状に省略されている。乳房の上にある浅い半月形の凹みが口かも知れない。

1086は偏平横長の頭部で眉と頬に縄文を施している。裏面は不規則な渦巻状、入組状の沈線文が展開する。1087は頭部左右が突出しており、耳タブに貫通孔が開けられる。1088は偏平な頭部で顔面の表現は粗雑である。首廻りに刺突を加えた隆起線が巡る。1089は顎を鋭く前に突き出した頭部で動物形の可能性も考えられる。髪型は捻った表現がなされる。1090は頭部から剥落した顔面で本来どういった形状の頭部なのか分からない。土器器面に貼り付けられた装飾の一部かも知れない。鼻孔、口は円形の貫通孔が開けられる。1091は中実小型土偶の下半身で腰廻りに粗雑な刺突が加えられる。1092の胴部は正中線に縦の隆起線がある。1093は両面に異なった文様が展開しており、どちらが腹面か判断できかねる。1094は膨れた腹部

の破片で下部に鋸歯状の沈線がある。1095の胴部は腹～腰に貼り付けた痕跡が残る。1096～1098は腕部の破片と考えられる。1099は二股になっており下半身の可能性があるが確実ではない。1100はヒトデ形をした小型品で大きく突出する部分を頭部として見ると土偶に含めて良いかと思われる。両面に細い沈線による不規則な文様が展開する。頭部以外の突起頂部が刻み状に凹む。1101は右胸部の破片である。1102は脚部で割れ口から見て中空土偶の可能性が高い。1103は肩に小さい突起が付いた腕の一部、1104は指先を表現した足と判断したが踵の張り出しが大きすぎるため確実ではない。

**中空土製品（亀形土製品）（1105～1107）** 1105は人面が表現された中空土製品で表側の左下が欠損している。残存部分も2箇所から分かれて出土した。厚さ5～7mm程度の粘土板を2枚貼り合わせた構造で、断面、側面図に見える割れ口が接合面となる。内面は指で抑えた痕跡が顕著である。顔面は隆起線を用いた表現で口が空気抜きの貫通孔を兼ねている。貫通孔は尻側端部にも開けられる。顔面の下には縦位の剥落した隆起線の痕跡があり、下部で左右に伸びる。剥落面には刺突痕が見える。側面も帯状に剥落しているが隆起帯かどうか定かではない。表面下部と裏面には2本1組の沈線と充填のL縄文による入組文などの文様が展開する。裏面を中心に赤色顔料付着の痕跡がある。1106は大型になる中空土製品の一部で、突起と三叉文を加えた隆起線は正中線ではなく角になり左側の面に雲形文が描かれる。右側は直角に折れ曲がる無文部で、図の上方の割れ口から見て再び外側に張り出すようである。縦位断面では緩く湾曲している。全体形状として箱状になる製品の一部と推定される。1107は右側の折れ曲がる角から断面紡錘形の中空土製品と判断した。剣菱状の文様が施されている。

**動物形土製品（1108）** 小型の中実土製品で完形である。首が前方に突き出した形で正中線に刺突と沈線があり、尻にあたる位置にも穿孔がなされる。側面は刻みを持つ突起が連続し鱗状を表現する。亀形土製品に相当するが、形状は女性性器を模したものとも言える。

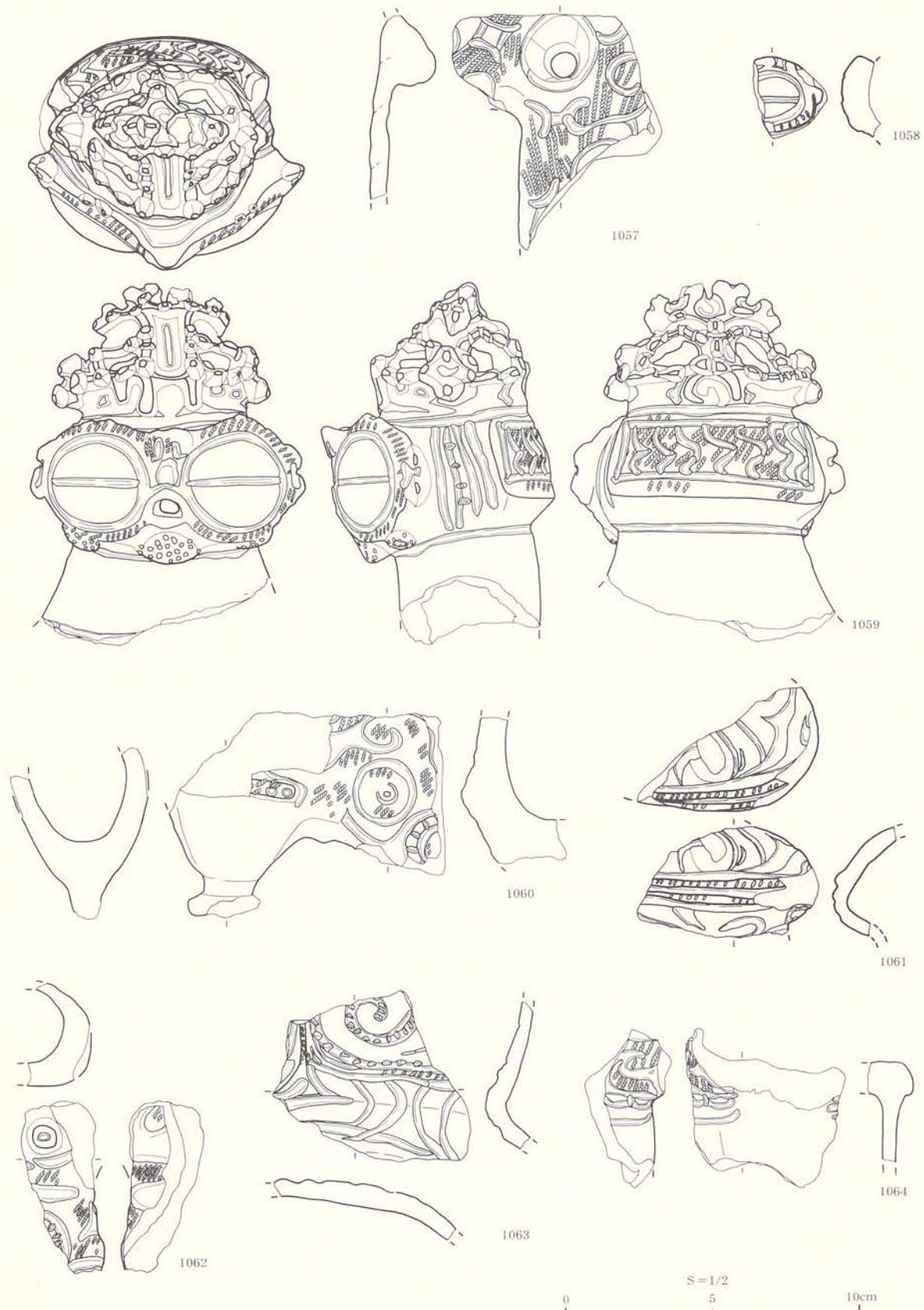
**内面渦状土製品（イモガイ形土製品）（1109～1111）** 図示したものを含め4点の出土である。1109は左巻き、1111は右巻きと2パターンが存在する。1109は外面が粗いケズリ状の調整痕を残す。渦巻沈線側は丁寧に磨かれている。1110はより大型で立体的になる。恐らく右巻きと思われる。1111は扁平で周縁が欠損する。

**耳飾（1112～1120）** 環状で断面方形になり刺突等の文様を持つもの（1112～1114）、環状で断面三角形になる無文のもの（1115、1116）、小型の鼓状の製品（1117～1120）がある。1112は内面に文様があり赤色顔料の付着も内面のみである。刺突が施されるのは側面のうち1面だけのようである。鼓形の耳飾はほぼ同一形状、同サイズで赤色顔料が塗られる。1端に細かい刻みの装飾を持つ。

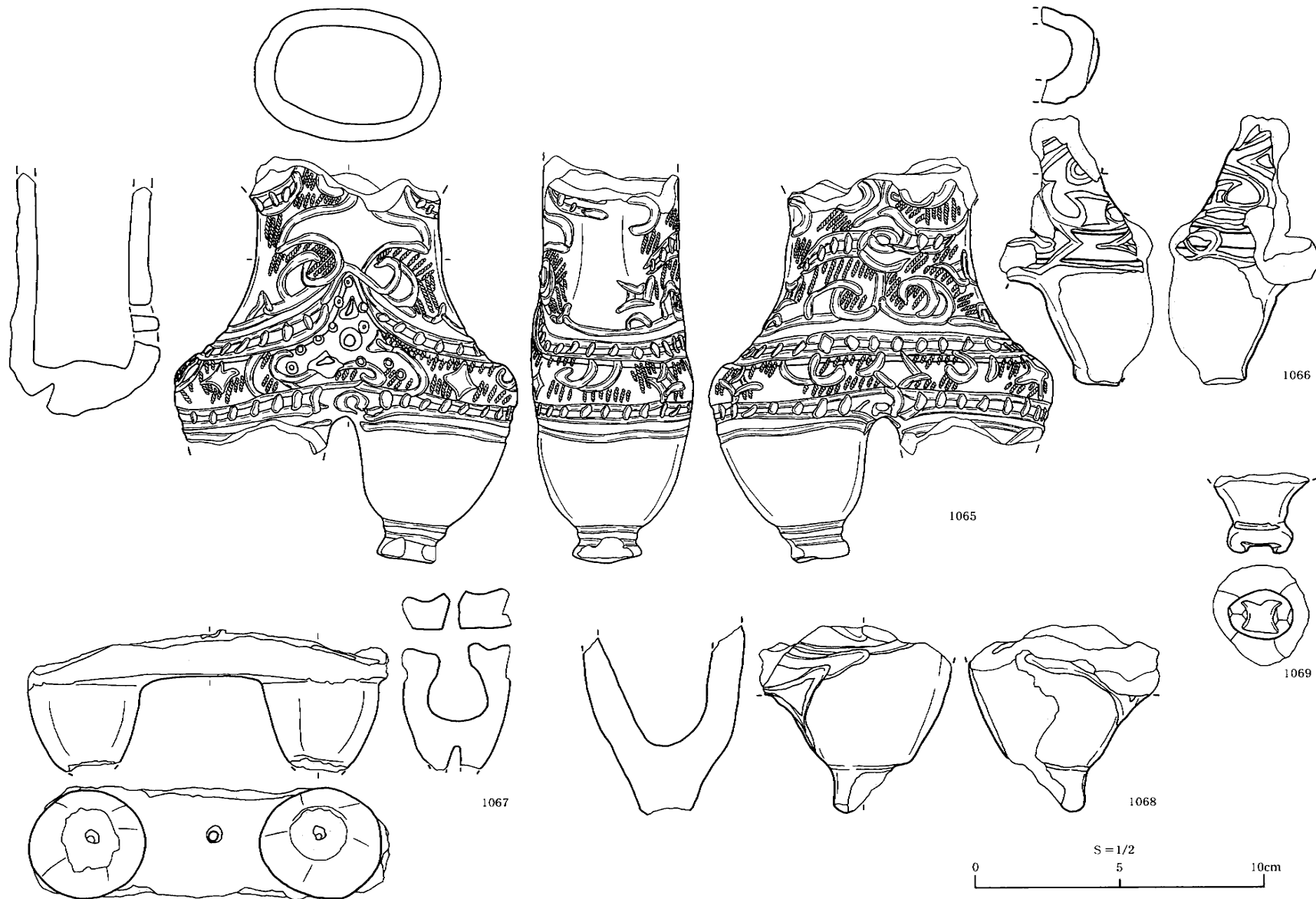
**玉類（1121、1122）** 1121は子持勾玉の形状になる。頭部に貫通孔が開き顔料の痕跡はない。1122はC字形で全体に赤色顔料が塗られる。

**スプーン形土製品（1123～1126）** 4点の出土である。1123は柄部と匙部分の先端を欠損する。柄部の匙側を盛り上げており、柄部の割れ口には接合面の凹みが見える。1124は基部が短く半円形の張り出しに過ぎない。匙部との接点に沈線がある。1125は棒状の柄部に沈線が沿う。1126は舟状の匙部になりやや歪むためスプーン形土製品に含めて良いか疑問もある。

**不明土製品（1127～1141）** 種類不明のものを一括した。1127は細長い袋状の破損品で3～5mmの粘土板で作られる。内面の方が調整が丁寧に施され、黒褐色の付着物が見える。1128は乳首のような形状で装飾は持たない。1129は土偶足の爪先かも知れない。1130は中空の円筒状で底面に孔がある。1131～1133は土偶腕、もしくは土器突起部のようだが破損品で判断が付かない。1134は沈線に赤色顔料が付着してい



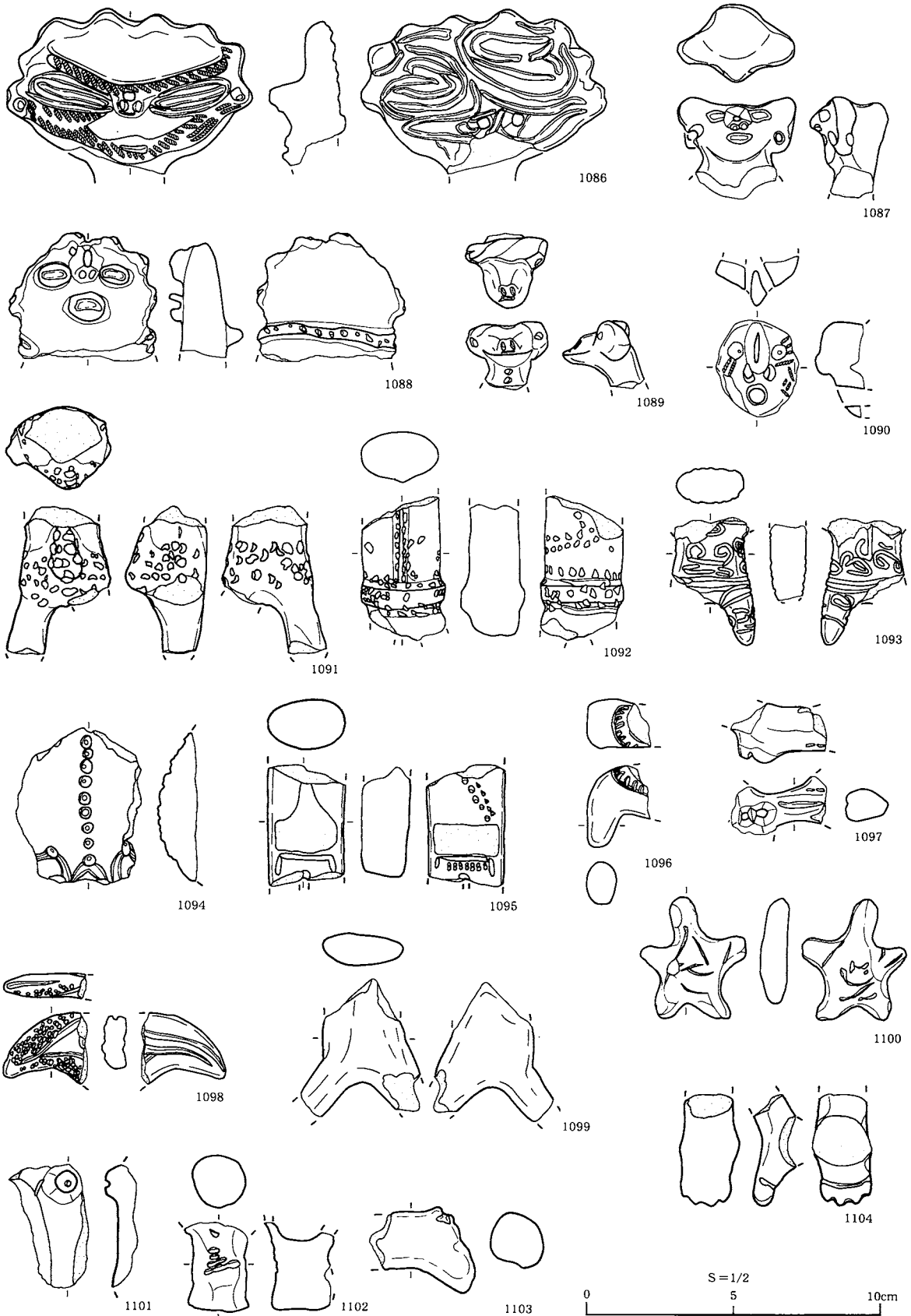
第78図 C区捨て場出土土製品(1)



第79図 C区捨て場出土土製品(2)

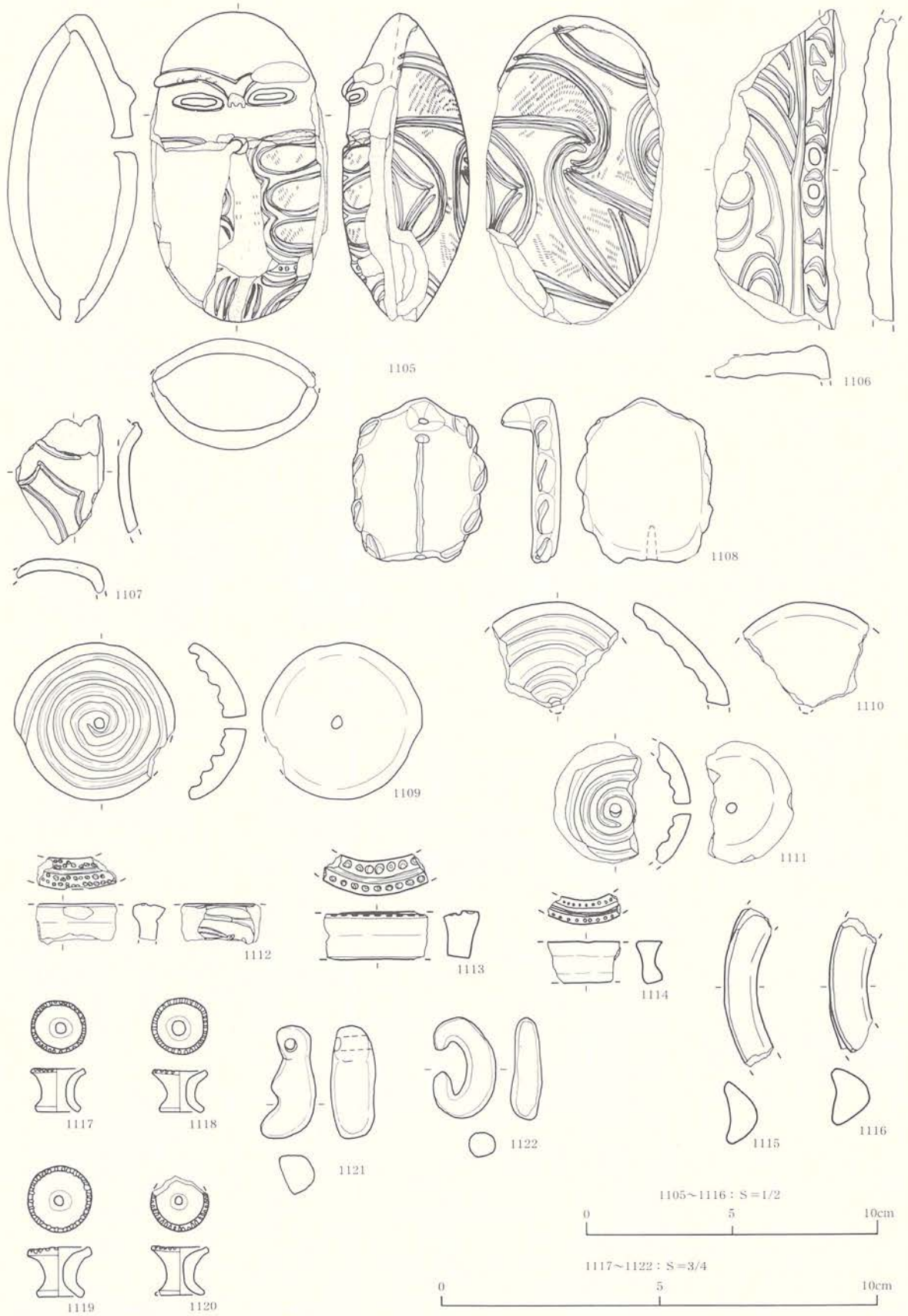


第80図 C区捨て場出土土製品 (3)

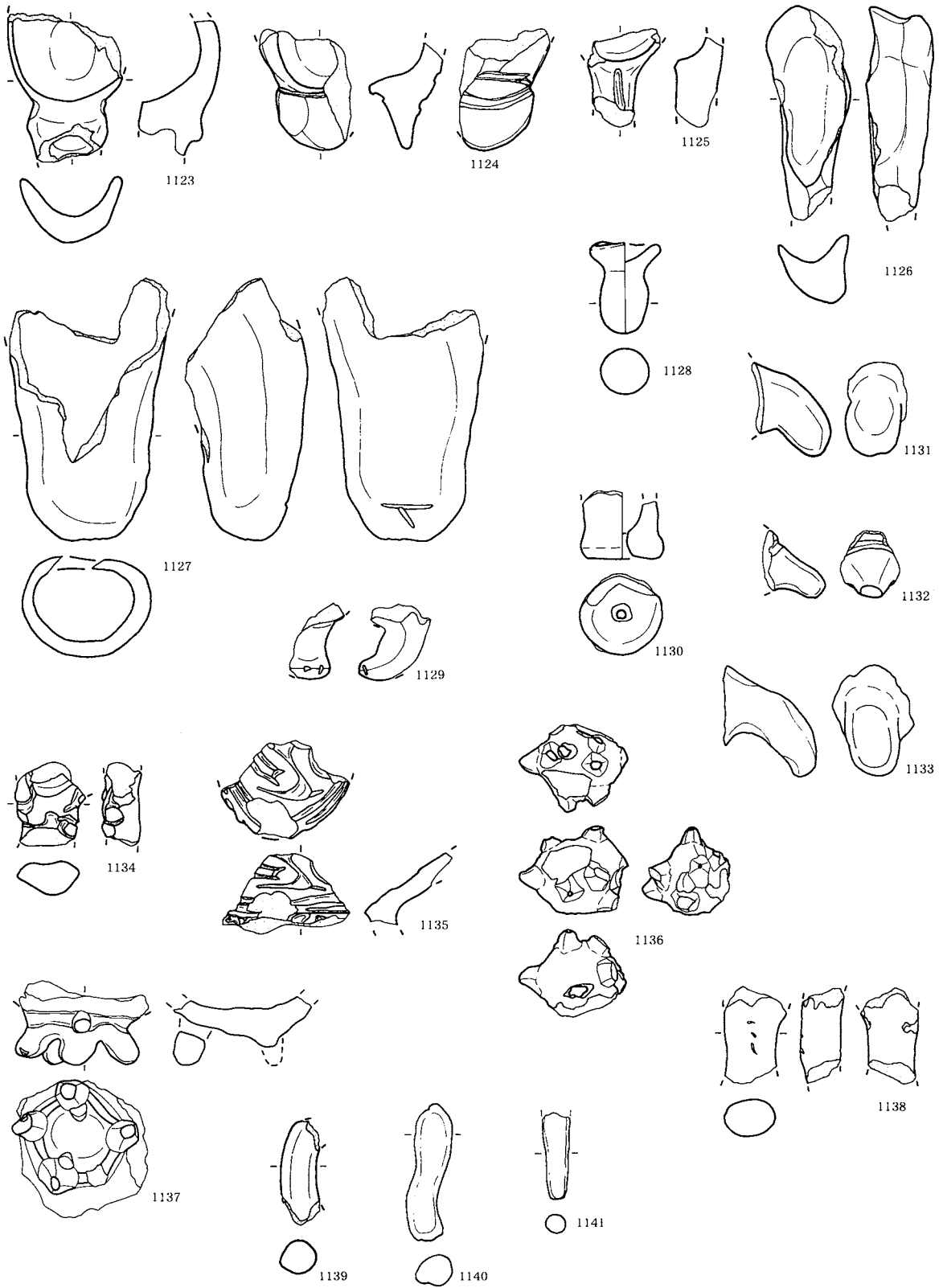


第81図 C区捨て場出土土製品(4)

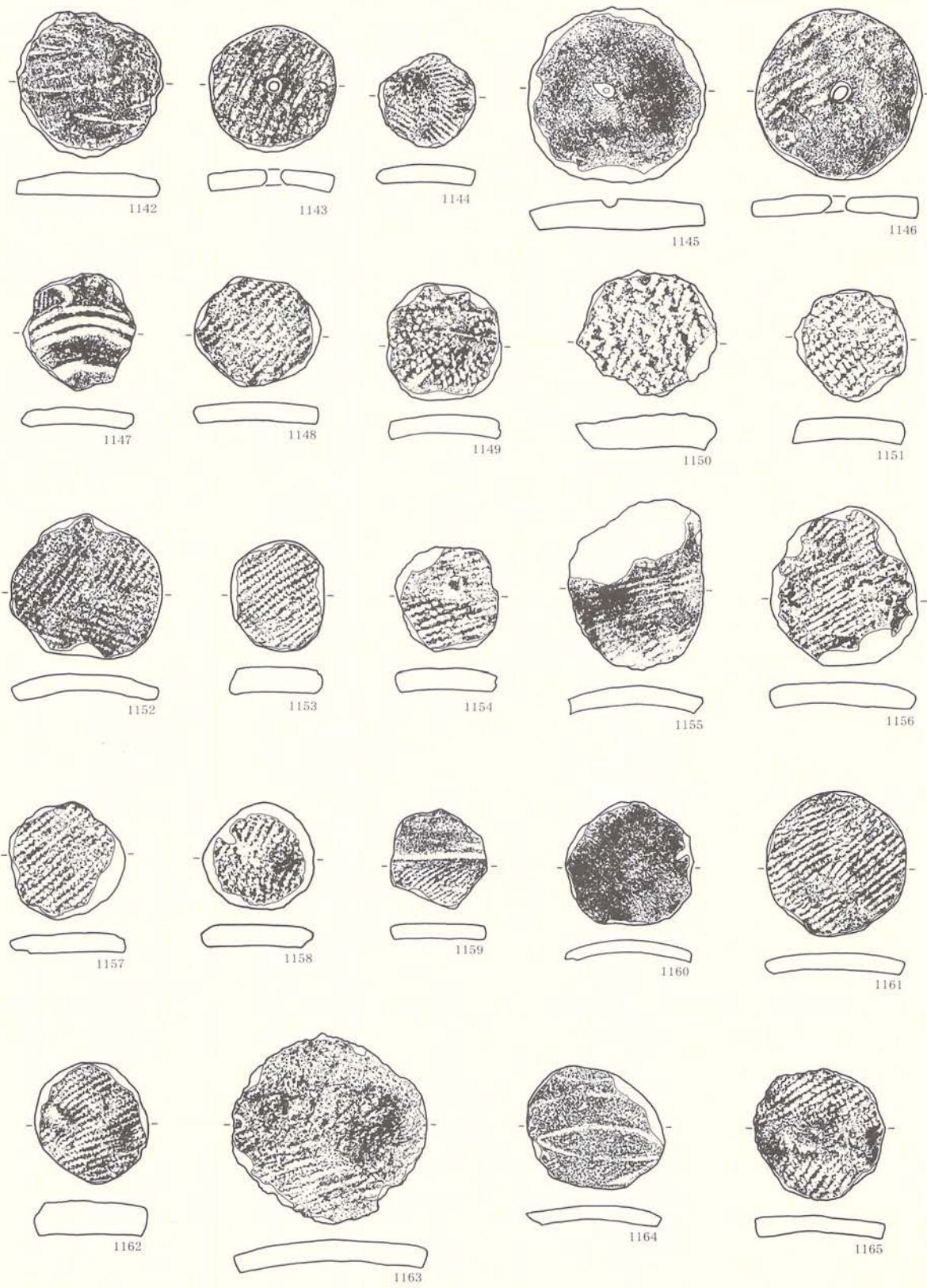




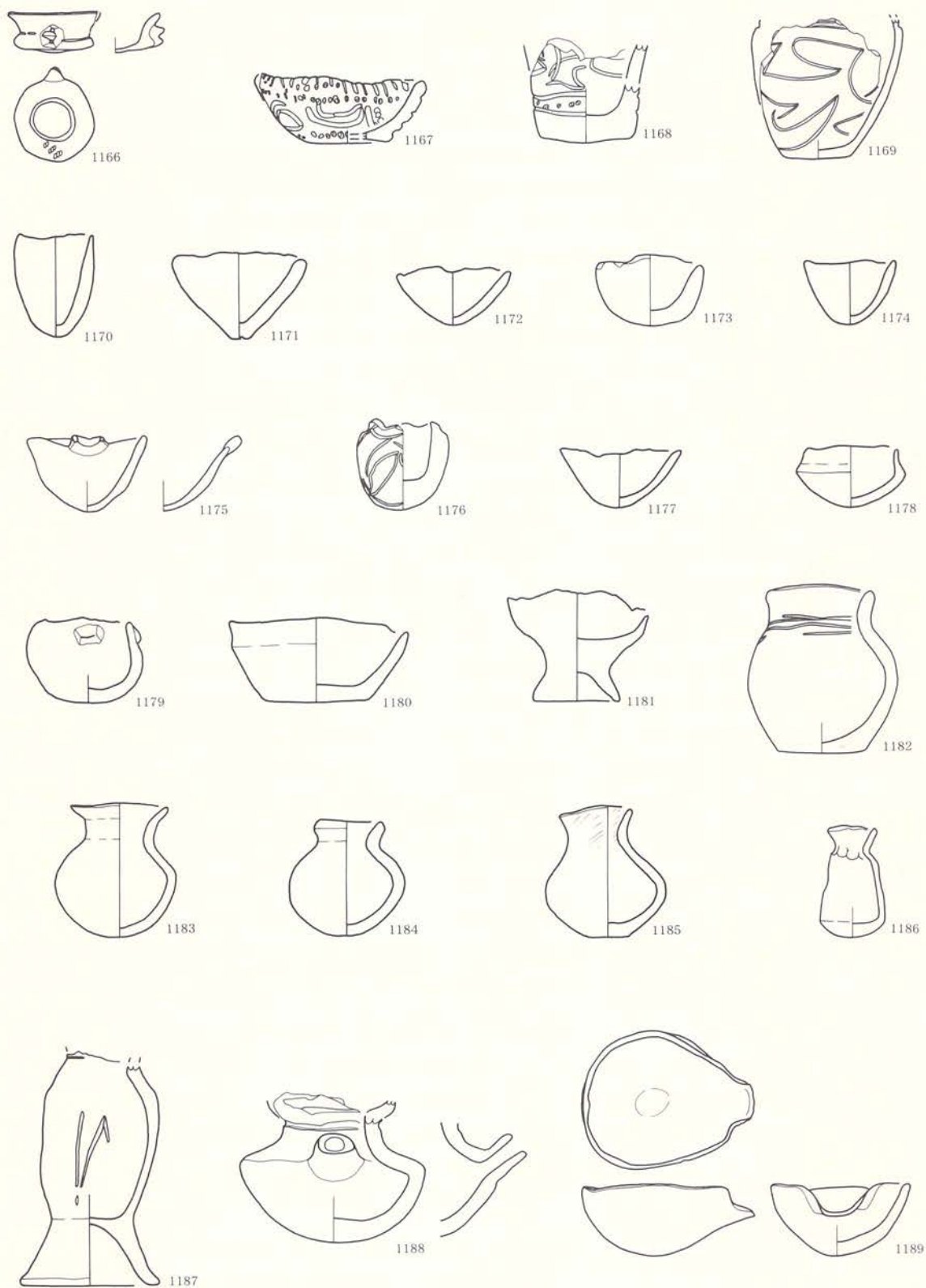
第82図 C区捨て場出土土製品 (5)



第83図 C区捨て場出土土製品 (6)



第84図 C区捨て場出土土製品 (7)



第85図 C区捨て場出土土製品 (8)

る。1135は円錐形の製品で三叉文が見える。1136は貫通孔が開き、四方に不規則な10本以上の刺が出ている。ウニ状土製品と呼ばれるグループに該当すると思われる。1137は袖珍土器の底部の可能性があるが内面側の調整が土器としては粗雑であり確実ではない。5本の突起のうち、2本の基部を通した孔がある。1138～1141は棒状で完形品と何かの一部となるものを含めている。

**円盤状土製品** (1142～1165) 合計58点の出土である。晩期の粗製土器片を利用したものが多い。1150は前期初頭土器片利用である。側縁の調整は打欠段階のものと研磨調整まで行っているものが半々である。貫通孔は1143、1146に見られる。1145の穿孔は貫通していない。

**ミニチュア土器** (1166～1189) 便宜的に口径ないし最大径が5cm以下のものをミニチュア土器とした。合計71点の出土である。1166は1単位の突起を持つ浅鉢形で底面に円形沈線がある。1167は刺突、沈線を持つ浅鉢形、1168、1169は深鉢形下半で沈線文が展開する。1170～1175、1177は逆円錐形の鉢で図示しないものも含めこのタイプのものが多い。1182～1185は壺形、1186は小さい長胴形、1187は広い台が付く長胴の壺形である。1188は精巧な作りの注口、1189は片口の浅鉢になる。

#### ⑨ 石製品 (第86～88図、写真図版51)

**岩版** (1190～1195) 未製品と思われるものも含め合計6点の出土である。1190は唯一彫刻的な文様が施される。正中線の末端に円形の刺突を持ち左右に入組文が展開する。側面には沈線が連続して巡る。裏面は細い刻線で下描き段階のような図を描いている。これで見る限り裏面文様には正中線を入れない構成とする予定だったと思われる。1191は極く薄く仕上げており両面に正中線、片面に弧線による文様を持つ。しかしこれも下描き段階で放棄したような状態である。1192～1195は施文されていない。1192、1194のようにある程度のサイズになるものは、面の調整まで行った岩版未製品と捉えて良いかと思われる。他に掲載はしていないが、同一の白色を呈する凝灰岩質泥岩を粗割りしたのみの段階に留まるものが複数認められる。サイズも同定度で未製品の初期段階と考えられるかと思う。1193、1195の小型品は素材、研磨調整は同一だが形状、サイズが異なり岩版に含められるか確実ではない。

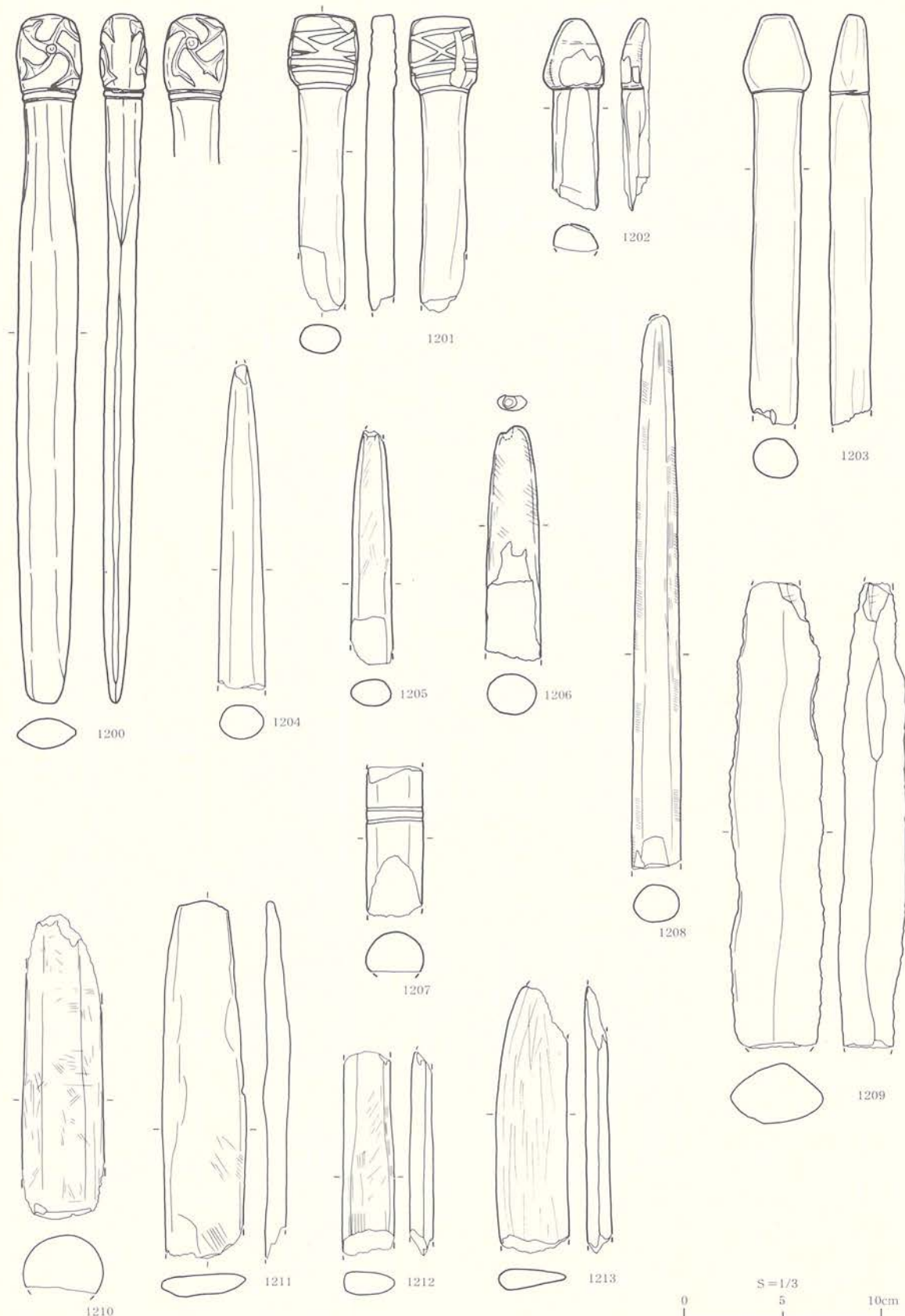
**線刻製品** (1196～1198) 形態が一定でないものを便宜的に線刻製品とした。1196は直方体で岩版と同一素材である。極めて細い線刻が両面に施される。1197は球形になる製品の一部で入組文状の線刻がある。1198は人間の足のような形状で1面と1側縁に施文がある。

**石棒類** (1200～1213) 粘板岩の素材を用いて製作された石棒、石剣、石刀等を一括して石棒類とした。合計24点の出土である。断面形状では石刀、あるいは石剣状に偏平になるものと、円形の断面になる石棒の両者が認められるが、その変化は漸移的で一定の基準で分類することは困難になる。頭部(柄部)に彫刻を施すものが1200、1201の2点、中程に線刻があるものが1点(1207)ある。1202、1203は亀頭状の柄部になる。1204～1206、1208は先端であろう。1200の柄部に施された文様は表裏逆巻きのS字状入組文になる。この文様は渡島、津軽地方に多く南部地方には希少と位置づけられている(稲野1979)。刃部は両刃で石剣に分類され得る。1201は単純なX字状文である。1206の先端には小径の穿孔がなされる。1209は同素材の粗割段階のもので側縁には敲打剥離痕が断続的に加えられる。未製品として良いかと思われる。1211～1213は断面形が偏平で刀の形状になる。特に1213は背が湾曲する内反り形で刃が他に比べ鋭い。

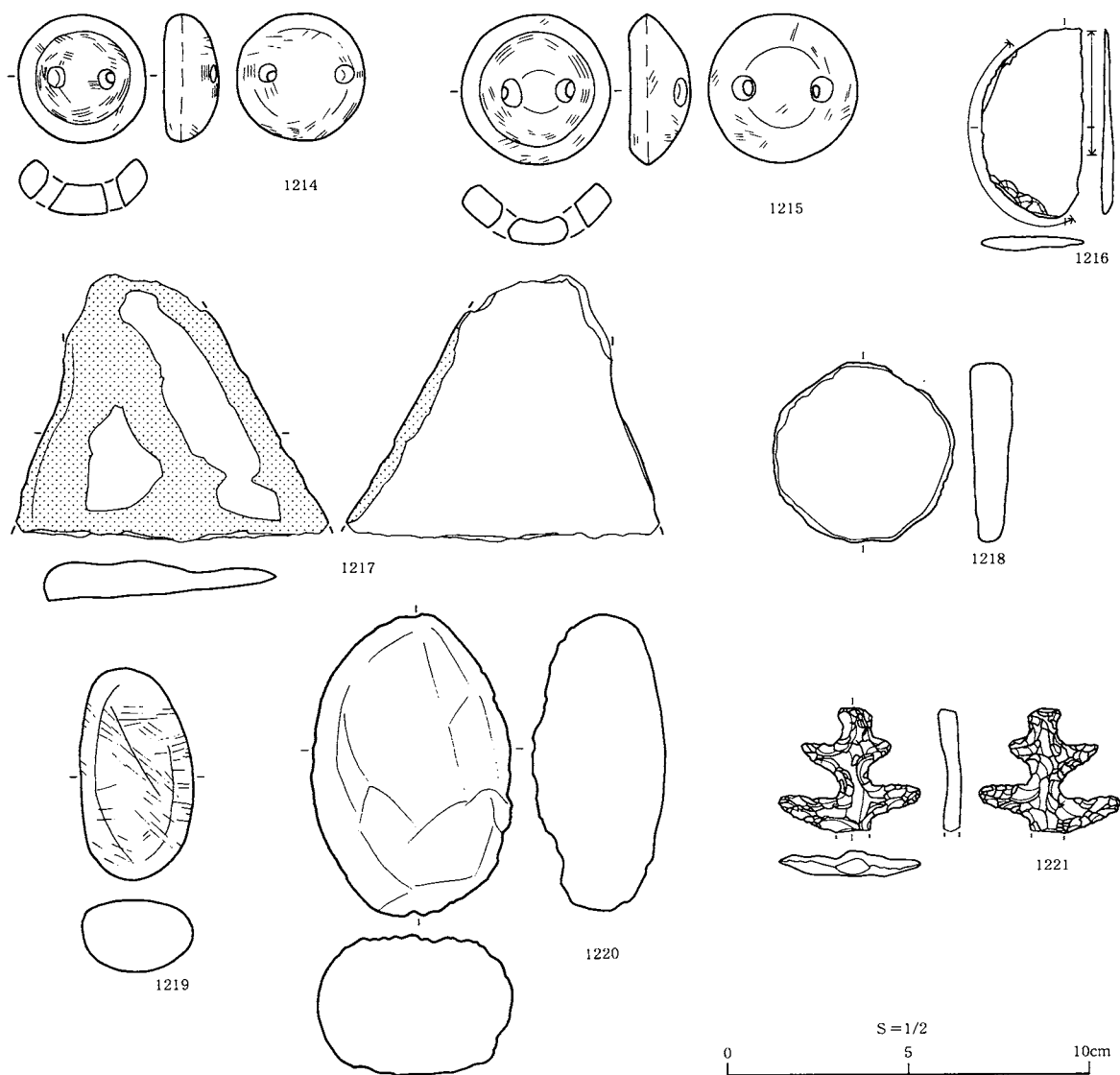
**ボタン状石製品** (1214、1215) 図示した2点の出土である。同一素材で極めて丁寧に研磨調整を行い、2対の穿孔を加えている。やや厚手で小振りな1214と若干薄く大きめの1215の違いだが、形状は同一と言って良い。



第86図 C区捨て場出土石製品 (1)



第87図 C区捨て場出土石製品(2)



第88図 C区捨て場出土石製品(3)

**石製円盤 (1218)** 1点のみの出土である。側縁は一部が研磨調整を受ける。

**不明石製品 (1199、1216～1220)** その他の石製品を一括した。1199は軽石製で三角形に整形し穿孔を施す。垂飾品の一種であろう。1216は半月形に薄く粘板岩の剥片を整形したもので弧状の側縁が研磨調整を受けている。1217はスクリーントーンの範囲が摩滅を受ける砥石状の製品である。右側の側縁は両面の調整により急角度の刃部となる。実用品として機能していたかも知れない。1219は通常の河川礫だが自然作用とは異なる人為的な擦痕が一部に見受けられる。1220は軽石を紡錘形に整形研磨している。

**異形石器 (1221)** 図示した1点のみの出土である。先端を欠損するが左右互い違いに刺を伸ばした形状となる。

⑩ 自然遺物 (写真図版66)

自然遺物ではVI、VII、VIIIブロックのII d、II e層を中心に動物遺存体の出土がある。しかし、一部を除き極めて脆弱で原形を保ったままの取り上げは不可能であった。このため種名、部位の同定、出土量の把握は



一部を除きほとんど行っていない。調査中、露出した状態で確認したものには鹿角、シカ下顎骨がある。焼成を受けた微細な骨片は全体に含まれる。これも層位毎の点数を集計した訳ではないので確実ではないが特に焼土ブロックの周辺に多い傾向が見受けられる。

粘土ブロックは灰白色を呈するものが包含層中に含まれており、3点のサンプルを採取した（写真図版L・M）。重量は1点20kg前後のものである。いずれも非常に精選された粘土塊で砂粒は含まれていない。恐らく土器他の土製品の素材として保管していたものと考えられる。

アスファルト塊はⅡd、Ⅱe層から合計4点出土している。最大のもは重量29gになる（写真図版J）。

炭化材は一定の層に集中する他に細片が万遍なく含まれるが、加工痕を有するものは確認していない（写真図版E・F）。炭化種実にはクルミが3点の出土である（写真図版G・H）。

琥珀は加工の見られない原石がⅡa、Ⅱd、Ⅱe層から各1点出土している。透明感の少ない原石で明確な加工痕は見られない。1点は無文の鉢形土器破片内面に付着した状態で出土した（写真図版A）。

## （5）遺構外出土遺物

縄文時代の各遺構、およびC区捨て場以外から出土した縄文時代に属する遺物を遺構外出土遺物として以下に述べる。掲載の順番は土器→石器→土製品→石製品で、土器は区域毎に時代の古いものから順に掲載した。石器、土製品、石製品は出土数が限られることもありそれぞれの中で細分できる種類毎に掲載した。

### ① 土器

#### A区（第89～90図、写真図版52）

P2・3グリッドⅡ層を中心に大コンテナ2箱の出土がある。1222は縦位燃糸文が施文された第Ⅱ群土器で口唇端部が外反する。非常に繊維の含有が多い。1223～1230は第Ⅲ群土器破片で円筒上層a～b式に該当する。1224は突起から垂下する縦位の隆起線が剥落している。口縁部には原体を丸めてC字状にした圧痕を連続させている。1228は台形の突起頂部に鉢巻状の貼り付けがなされ、中央が凹む。1230は底面にも縄文が施文され底縁の張り出し、繊維の多さといった特徴から前期中葉の可能性がある。1231～1234は第Ⅵ群の後期後葉瘤付き土器の段階である。A区で出土量の主体を占めるのは第Ⅶ群土器で1235～1244のような精製土器破片の他、図示しなかった粗製深鉢破片も多い。1238は体部の張り出しから注口の可能性が高い。1240も同様である。1240～1245、1247、1248は晩期中葉大洞C2式～後葉大洞A式にまたがる時期のもので、C区より後出するものの割合が大きい。

この他、A区では第Ⅶ群土器に伴い第69図938の製塩土器復元個体が出土している。

#### E区（第90図、写真図版52）

J6グリッドⅡ層を中心に大コンテナ1箱の出土がある。1250は東側の地滑り痕と見られる凹地から出土した第Ⅰ群貝殻文土器で粘土瘤を伴う楕円形の刺突が並ぶ。1251～1253は第Ⅱ群土器破片で繊維を多量に含む。1251、1252は多段の綾絡文が施文され、口唇部は平坦に調整される。1253は1段の綾絡文を持つRL縄文が施される。1254は第Ⅴ群、1255、1256は第Ⅵ群の後期土器である。1254は突起片方が袋状になる。1257～1267は第Ⅶ群晩期土器で、A区同様にE区における出土量の主体となる。1258は完形浅鉢で浮き彫りによる文様が4単位展開する。

#### H区（第90～93図、写真図版52～54）

北側斜面部を除き万遍なく出土するが、F17・H15・H16グリッドなど地滑りによる凹地にⅡ層包含層が堆積した部分、竪穴住居跡の周辺などの密度が濃くなる。中期以降の土器は層位的に分かれるような

状況は確認できない。合計で大コンテナ5箱程の出土である。

1268～1274は単節縄文を施文する第Ⅱ群前期初頭の土器である。略完形に復元された土器のうち1268、1269、1274はいずれもF15～17グリッドにかけての凹地の十和田中礫火山灰層下位にあたるV層出土、1273は中礫浮石直上のⅢ層下部出土である。1268は口縁端部が外反し鋭い刻目が加えられる。地文は末端ループ状になり、一定の幅の多段施文となる。1269は直線的に伸びる体部上半で節の大きいRL縄文が施される。胎土には多量かつ大粒の砂粒、繊維が混入されている。1272は第Ⅱ群土器ではこの1点のみ0段多条原体を使用する。

1273は口縁から頸部にかけて緩く外反し体部が内湾する器形で、外側を向く口唇部には連続する刻み(指頭圧痕)が施され口縁部は一定の幅の無文部となる。地文はL、R縄文による非結束羽状縄文である。1274は直線的に開く器形で浅くLR縄文が施文される。口縁部に装飾は持たない。

1275～1282は第Ⅳ群中期末に比定される。1276は円形の刺突が口縁部を充填するように加えられる。1281は突起から2本の平行する隆起線が垂下し、円形の刺突が隆起線に沿う。底部資料のうち1280、1282は底面に網代痕が見られる。

1283～1292は第Ⅴ群後期初頭～前葉で時期的には幅を持つものである。細い沈線と磨消縄文手法、2本1組の沈線による文様展開、口縁部折り返し手法などが見られる。

1293～1301、1303、1304は第Ⅵ群後期中葉～後葉土器群のうち中葉に相当すると考えられる。同一原体による羽状縄文、入組文の展開、刻目帯が見られる。1300の壺は推定2～3単位、1301の鉢は3単位の文様展開である。1296、1297、1301は同一原体の施文方向を変えて羽状縄文を表出する。1303、1304は同一個体の突起部分で本来は上に円錐状の装飾があるタイプだが、台になる部分から上位を欠損している。

1302、1305～1308は後期後葉に相当する瘤付き土器段階のものである。1308は拓本の右側欠損部に注口が取り付け。地文無文で細い沈線の交点に瘤が配される。

1309～1314は第Ⅵ群に伴うと考えられる粗製土器である。1310は幅広の口縁部無文帯と体部を沈線で区画する。0段多条の原体を使用している。1312は頸部がくびれる器形で同様に0段多条原体である。

1315～1328は第Ⅶ群晩期土器で、大洞BC式～大洞C1式に相当するものが主体となる。1327は晩期後葉の台付鉢高台部分で三角形を充填する斜位の平行沈線による文様が施される。1328は無文の小形壺で体部は算盤玉状に屈曲する。

#### J区(第94図、写真図版54)

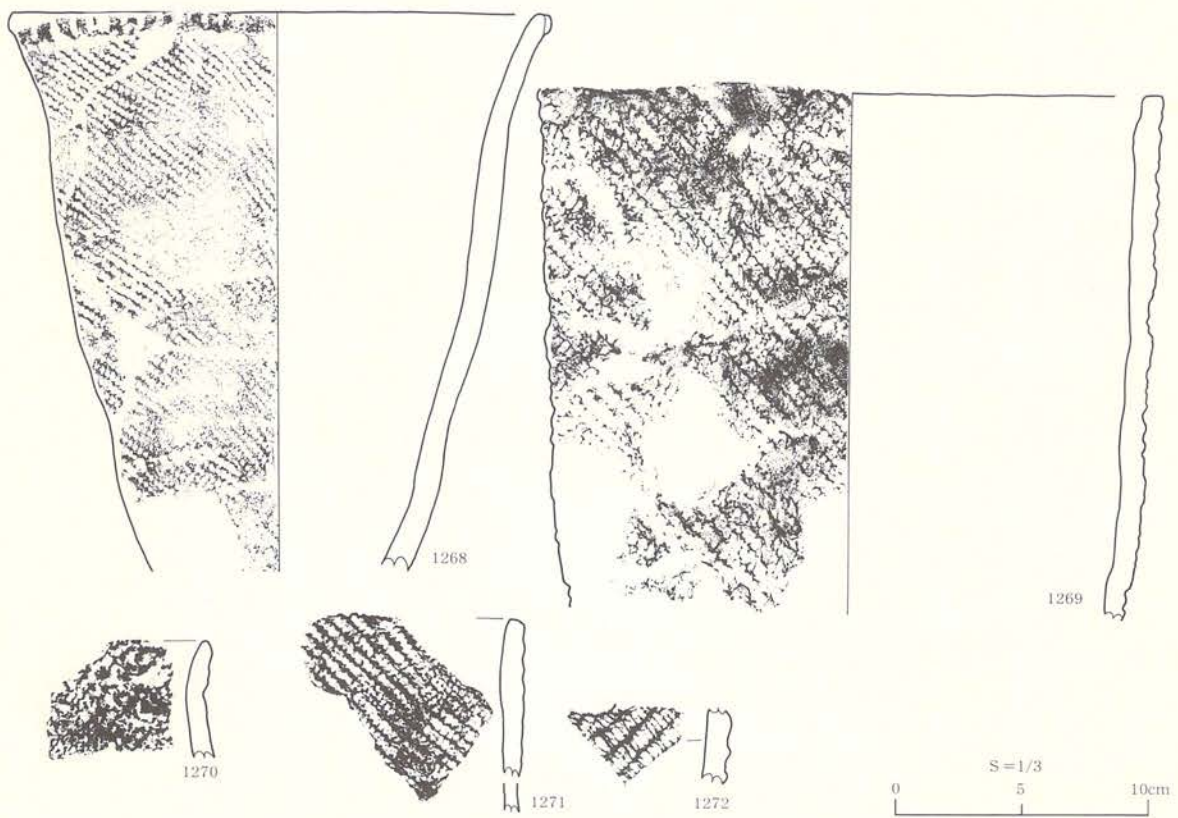
大部分は北半の地滑りに伴う凹地に形成された包含層からの出土で大コンテナ2箱程である。H区同様に各時期のものが混在している。

1329は楕円形で粘土瘤を伴う刺突が多段に連続する早期中葉土器片である。口唇には貝殻腹縁による刻みを連続させる。早期に属する土器は1点のみである。1330～1342は中期末～後期の土器。1330は鋭い沈線による格子状の文様が見られる。1331、1332は同一個体で上半の外傾する部分が1331、くびれ部下位の内傾する部分が1332になる。沈線による方形区画に刺突を充填しており、口縁には連続する突起と横長の凹みが見られる。中期末～後期前葉の可能性が高いが確実ではない。1338、1339は同一個体で充填手法による帯縄文にコブが付される。1340は南側包含層出土でほぼ完形の台付壺。頸部の盛り上がり部分には横位のミガキが顕著である。1341、1342等、頸部の膨らみに同様の特徴を持つ無文壺が出土している。

1343、1344は接合しないが同一個体である。台部には透かしを加えた三叉文が施される。体部下半～台部上半の内外面に炭化物が付着する。1347は無文の注口土器片で注口部下に2つに分かれた膨らみがある。



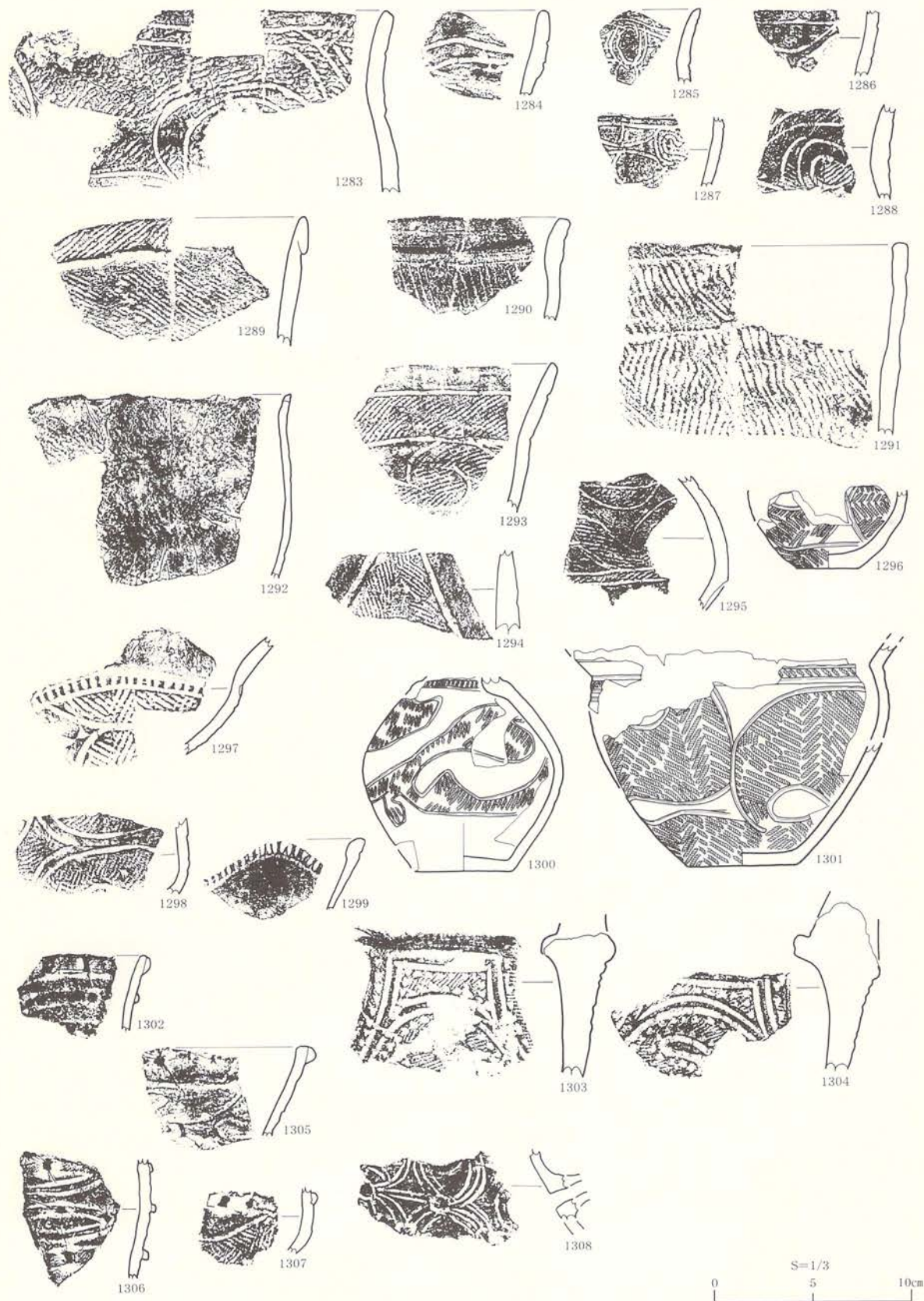
第89圖 遺構外出土繩文土器 (1) A区



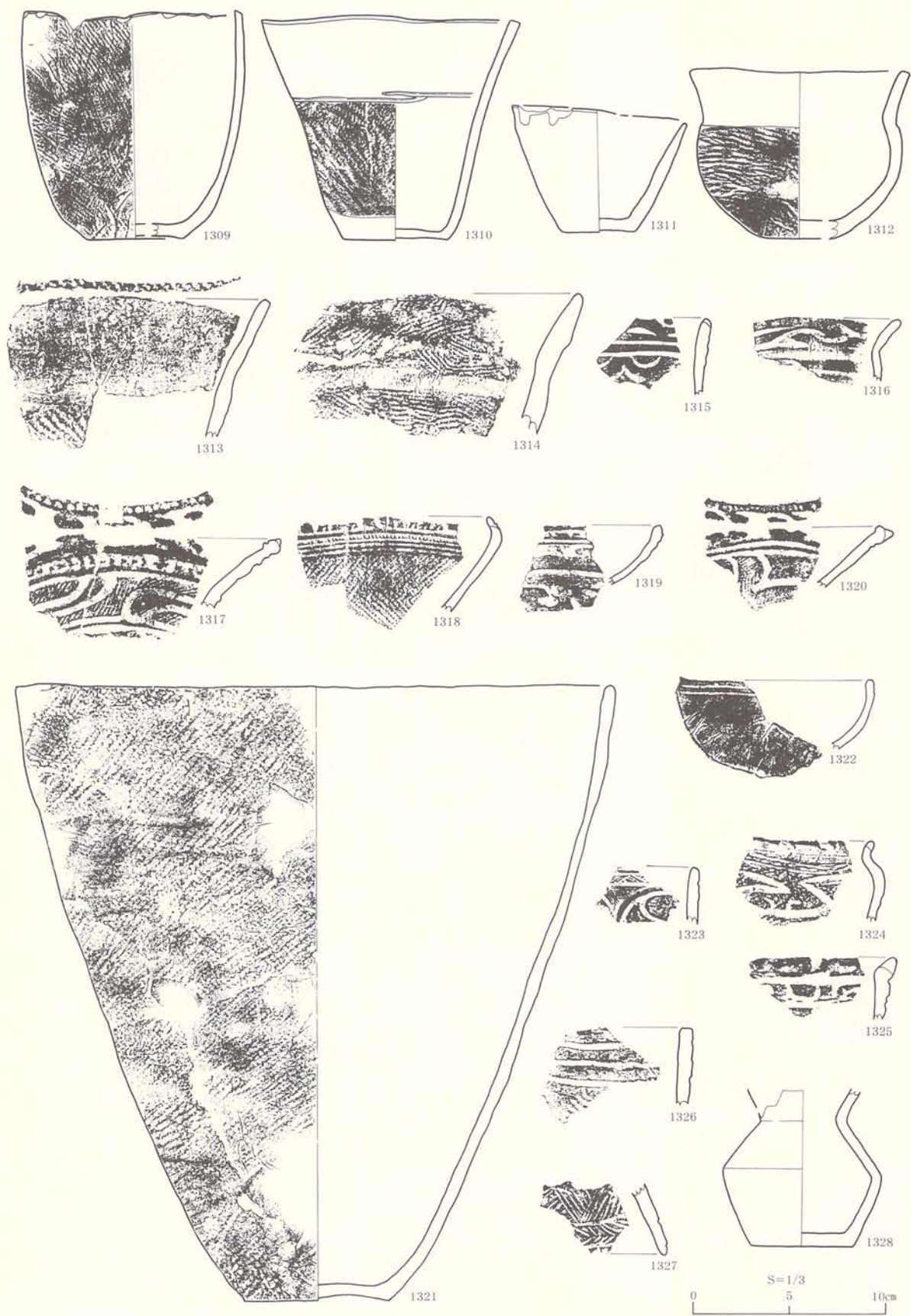
第90図 遺構外出土縄文土器 (2) E・H区①



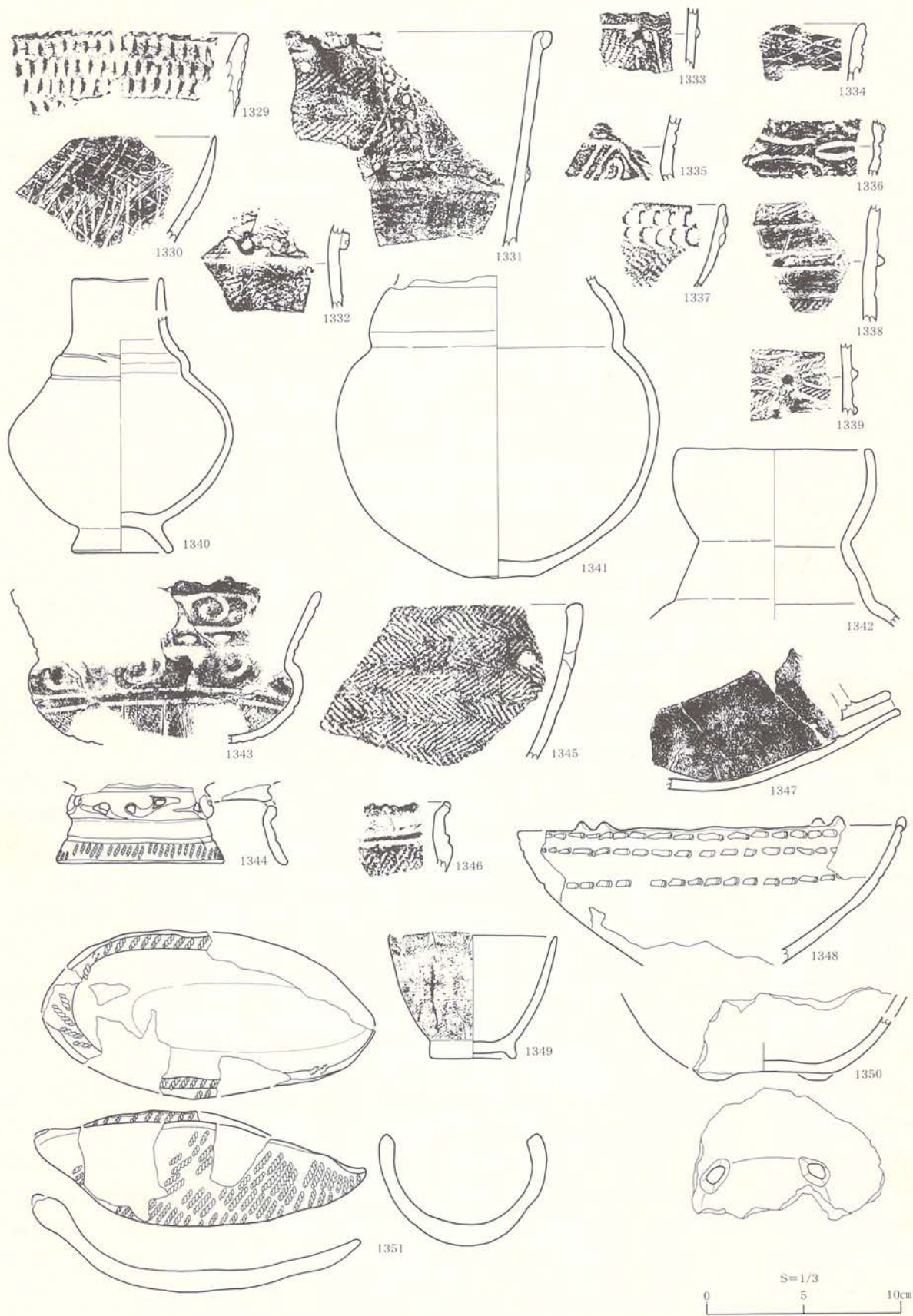
第91図 遺構外出土縄文土器 (3) H区②



第92図 遺構外出土縄文土器 (4) H区③



第93図 遺構外出土縄文土器 (5) H区④



第94图 遺構外出土縄文土器 (6) J区



1348は口縁部に2列、やや間隔を開けて体部に1列の刺突列（短沈線の連続）を施文する。施文手法は左から右に工具を移動し寄せ集めた粘土を小さく盛り上げている。1350は推定四脚が付く無文の底部破片で外面は非常に丁寧なミガキ調整、内面は粗いナデ調整であり、壺形の可能性が高い。1351は上面観紡錘形、横断面形U字状の異形浅鉢で、口縁部は水平ではなく中程が高まる、もしくは右側を削ぎ落とした形状になる。口唇部は図の右側で薄くなり、底部に平坦面はない。全体として左側を基部としたシャベル状の形状を呈する。施文は底面から口唇部までの外面全体と口縁部の内面に縄文が施文され沈線等は持たない。内面の調整はケズリ後に粗いミガキを施しており、二次的な被熱等の変色は見られない。

## ② 石器（第95図、写真図版55）

遺構外出土石器は土器に比較し出土量が少ない。各区毎の出土点数は次のようになる（遺構内外含めて）。A区：剥片石器6点、磨製石斧3点、礫石器3点、E区：剥片石器15点、F区：不定形石器1点、H区：剥片石器10点、磨製石斧1点、J区：剥片石器6点、出土地点不明：剥片石器7点（整理過程で不明になったもの）。第95図には各区遺構外出土石器の内から選択して掲載した。

1352～1355は石鏃である。石鏃は合計9点の出土。1355は黒曜石製で基部に小さい抉りがある。1356は石鏃2A類で鏃部断面は三角形になる。他に出土地点不明の石鏃が1点ある。1357は破損しているが柳葉形に整形した不定形石器と捉えた。もしくは尖頭器になる可能性もある。1358は素材円礫の自然面を打面とした剥離調整を加えた不定形石器である。他に28点の出土がある。1359は黒曜石製のピエス・エスキューで刃の潰れは顕著である。

1360は小形の磨製石斧で完形品である。二等辺三角形に近い形状で刃部が幅広い。1361は基部、刃部とも欠損した磨製石斧破損品で出土地点が近世遺構の1号竪穴状遺構埋土である。他に1364の敲石・磨石も出土している。1362は有縁石皿破損品で脚が付くかどうかは不明。

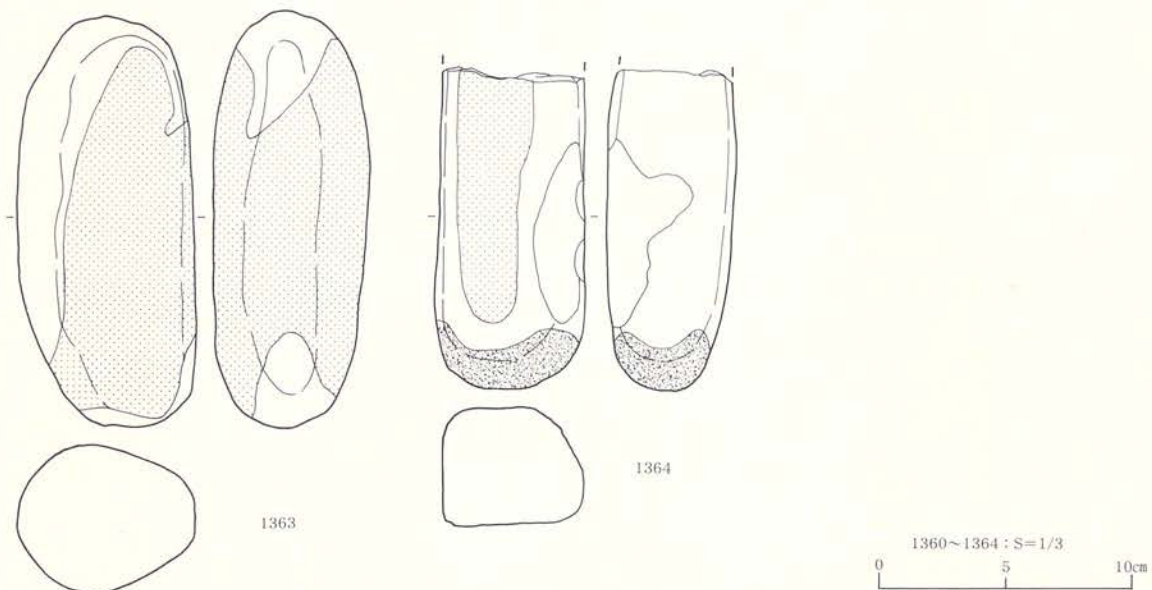
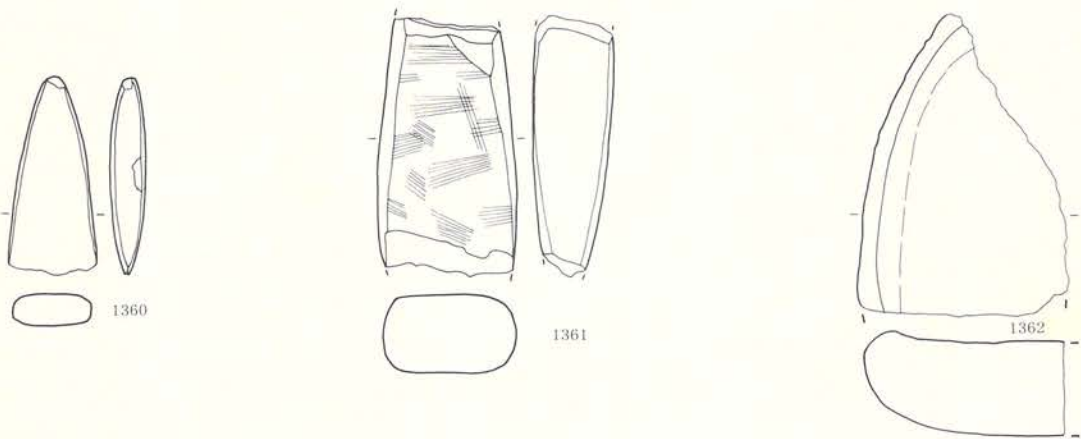
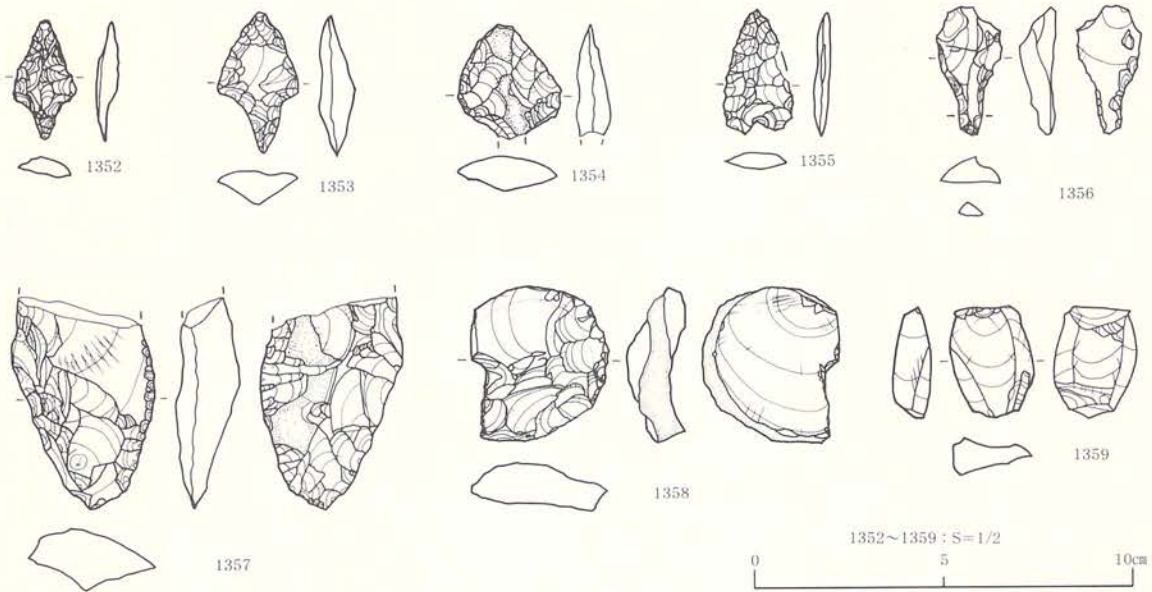
## ③ 土製品（第96～97図、写真図版55）

遺構外土製品はA・H区からの出土が主である。内訳は土偶が3点、動物形土製品1点、円盤状土製品11点、ミニチュア土器1点、その他11点となる。

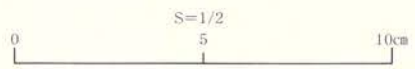
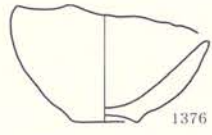
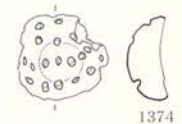
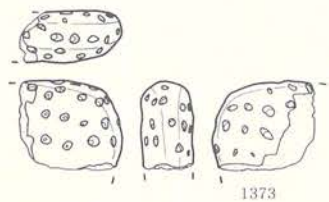
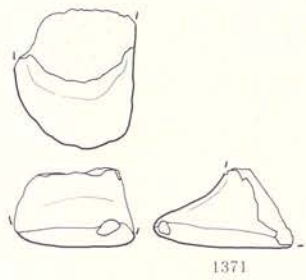
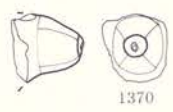
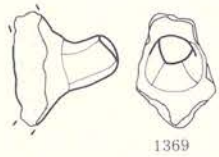
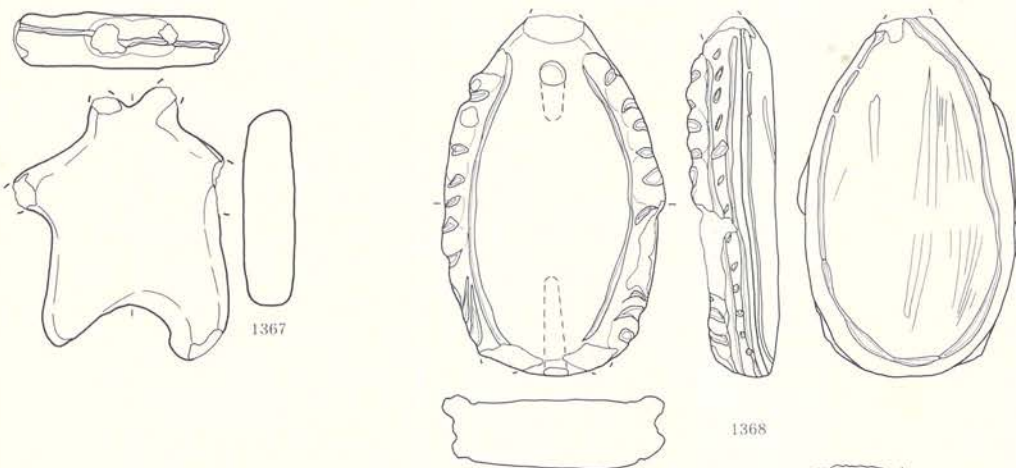
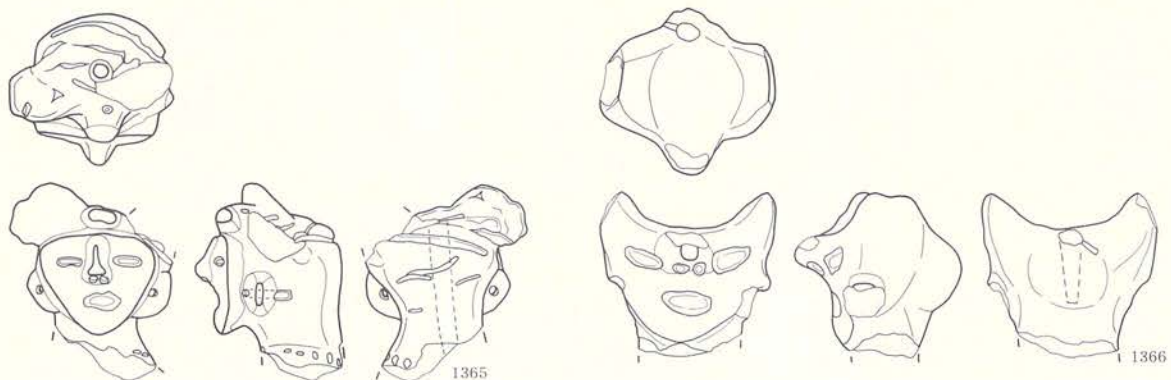
**土偶（1365～1367）** 1365は面を被ったように三角形の顔面となる土偶頭部で、大柄な髪飾り、耳たぶへの穿孔を持つ。後頭部から穿孔があり首の下に抜けている。1366は左右が上方に突出する髪型の土偶頭部で目、鼻、口は単純な凹みで表現される。後頭部に穿孔がなされる。1367は装飾を排した土偶で片腕を欠損する。頭部は2つの突起に単純化されている。頭部から肩を通り腕先まで上面から沈線が加えられる。

**動物形土製品？（1368）** 中実の土製品で、動物形と見た場合には首にあたる部分が欠損している。首の下から斜めに、尻側からは直に穿孔がなされるが貫通はしていない。両側には刻みを加えた鱗状の高まりが連続し裾が沈線で囲まれる。高まりは尻側の末端部分が欠損しているが、脚か鱗のようなものが付いていた可能性もある。側面には斜めの刺突と沈線が加えられる。背面側は周縁を細い沈線が囲む。両面とも沈線区画内は丁寧に調整されているが、その上から上下方向の擦痕が見られる。一般的に亀形と言われるものに該当するが欠損部の形状によっては海獣、アワビ、女性性器など、モチーフとしたものは複数考えられる。

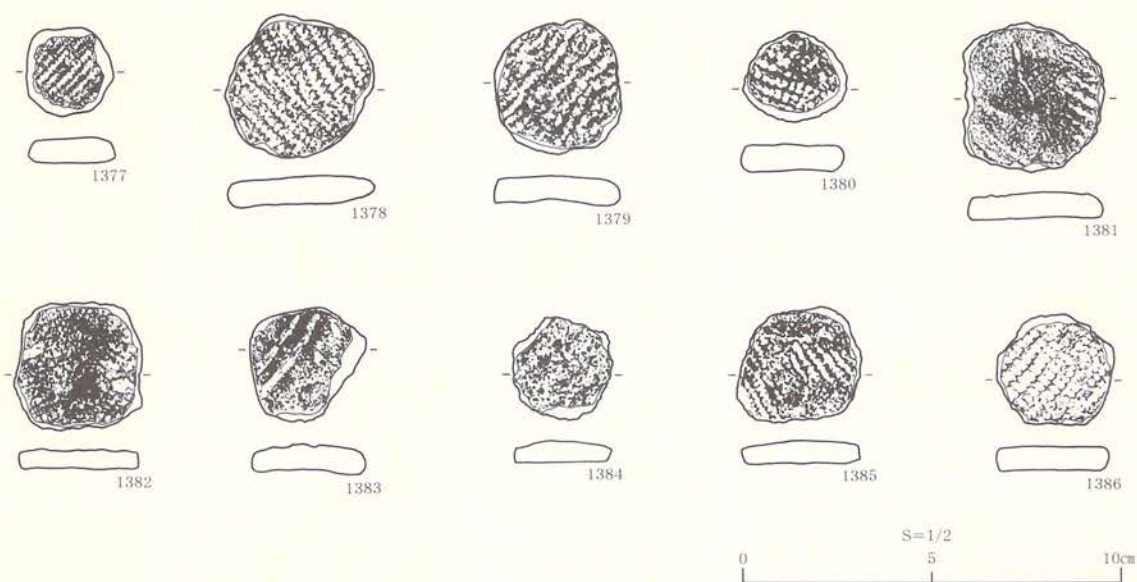
**その他の土製品（1369～1375）** 1369は土器突起部かも知れない。1370は土偶乳房部分の可能性が高い。頂点に小さい刺突が加えられる。1371は大きめの土偶片足の一部と思われる。1372は球形を呈する土製品の一部で多条沈線による入組文が施文されている。内部に貫通孔の痕跡がある。1373、1374は胎土、色調、刺突の形状が等しく、刺突文を有する1個体の土偶から剥落した肩と腹部と見ることができる。1375は棒状で完形品である。



第95図 遺構外出土石器



第96圖 遺構外出土土製品 (1)



第97図 遺構外出土土製品 (2)

ミニチュア土器 (1376) 無文の鉢形土器で高台がある。

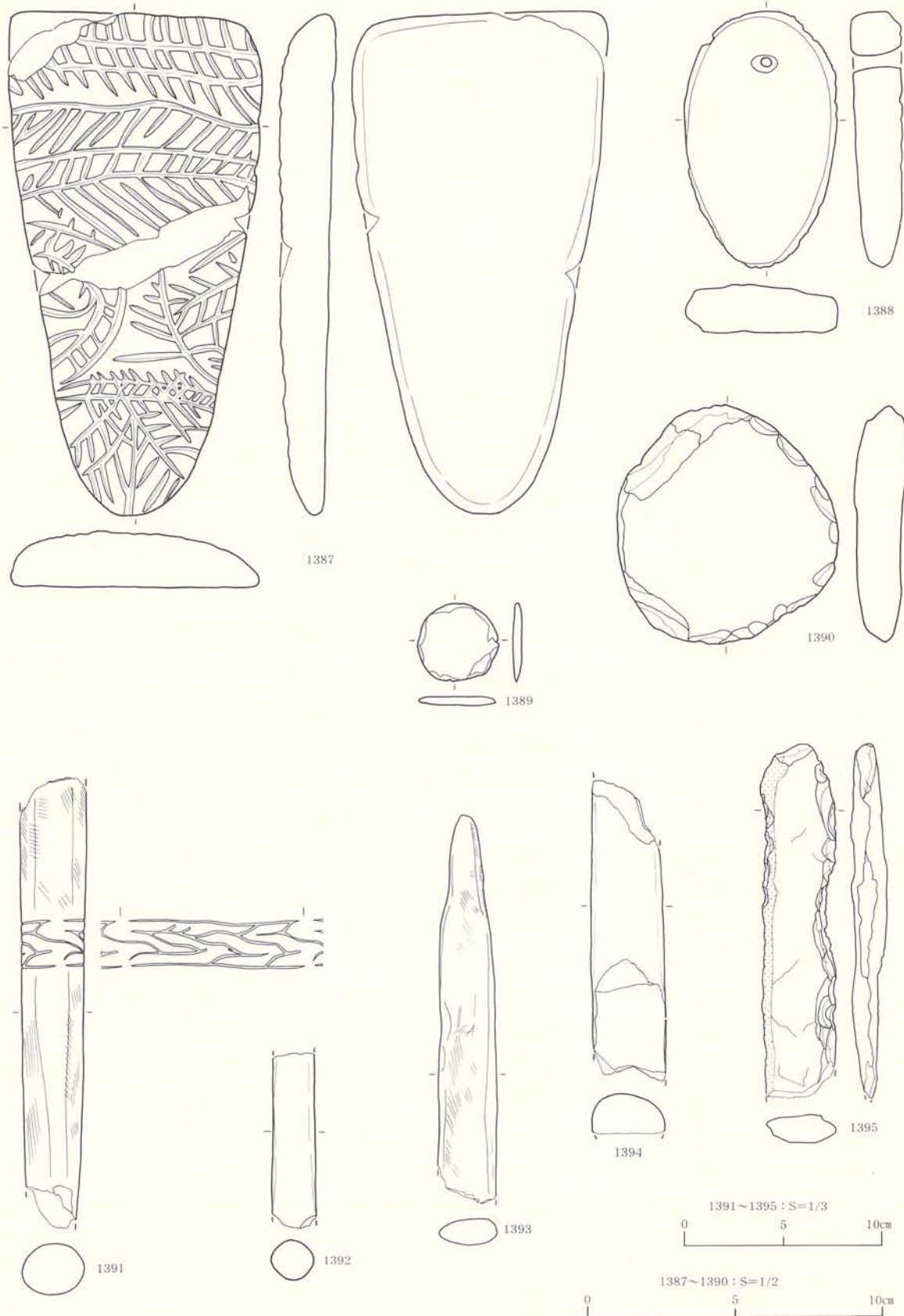
円盤状土製品 (1377~1386) 1381は中期、1383は後期、それ以外は晩期土器片利用である。1382は四角形に整形している。側縁の調整は打欠段階までのものと研磨まで行うものがC区捨て場と同様半々になる。

#### ④ 石製品 (第98図、写真図版56)

遺構外石製品はA区からの出土が主で線刻石製品1点、石製円盤1点、石棒5点、石刀1点、その他2点で合計10点がある。

1387は脆い砂岩を扁平な三角形に整形した製品で、2つに割れているが1 m程距離を置いて出土した。片面を平坦に仕上げもう一面はやや丸みを残し線刻による文様を展開させている。線刻は断面広いV字状で幅3 mm程である。線同士の切り合いは器面の荒れにより観察できなかった。文様は平行する幹線に短い枝線を組み合わせた樹木状のモチーフにより器面が埋まる。全体の図形は上部、中部、下部と3つの部位に分けて捉えることが可能である。図の上部は5本の幹線が平行し羽状を構成する。最上部は左上がりの枝線が先端に達する。右上がりの枝線は平行する幹線をまたがず1本毎に描き直している。破損部付近は対向する弧線とそれを埋める枝線が左右非対称の図形を構成する。下部はT字状の縦横線+斜線といった構成でこちらが先端になるのかも知れない。各枝線は間隔をほぼ揃えた丁寧な線刻である。裏面には全く線刻は見られない。中央部の弧線、下部の斜線に枝線を組み合わせた文様は後期後葉段階の土器文様との共通性を窺わせる。側縁付近は摩滅、欠損が目立つが使用時点でのものかどうかは判断できない。また、下部が被熱で一部黒色化している。

1388は軽石製の垂飾品?で1端に貫通孔がありもう1端が若干尖る紡錘形を呈する。全面丁寧に研磨される。1389はごく薄い円盤状で側縁の一部が研磨調整を受ける。1390は打製の円盤状石製品である。石棒類は6点の出土である。1391は中央部に細い刻線により羊歯状文様の文様が描かれる。1393は1側縁に刃がある石刀タイプに該当する。1395は1側縁が顕著な研磨調整を受けている一方、反対側は敲打剥離段階に留まっている。未製品と判断される。



第98図 遺構外出土石製品

## 2. 弥生時代

弥生時代に比定される遺構は確認できなかったが、後期～終末期段階の土器がH区から出土している。

### (1) 遺構外出土遺物 (第99図、写真図版56)

6点を図示したがこのうち1397と1398、1400と1401は同一個体であり、個体数にすると4個体ということになる。1396は口縁部文様帯に2段の斜位からの交互刺突文、平行して横走る複数の沈線が施文され、その上下に左上がりの、また体部には縦走るL燃糸文の回転圧痕が見られる。口唇端部にも同様の原体回転圧痕が加えられる。横走沈線は図の左側で菱形を形成すると思われる。1397、1398は恐らく波状口縁となる小形の土器で2段の斜位からの交互刺突文と鋸歯状の沈線が展開する。1399は小形の底部で内外面、底面とも丁寧なナデ調整でL燃糸文が施文されている。1400、1401は小片のため器形、全体の文様は不明であるが、多重沈線による矩形、もしくは雷文状の文様が展開すると思われる。器形は1400がやや内湾、1401がわずかに外反気味になることからくびれの弱い壺形の可能性がある。

1396～1398に見られる交互刺突文は斜位からの刺突手法が採られ、斉藤邦雄氏の分類(斉藤1993)による退化交互刺突文段階(赤六式前半段階)に相当するものである。1399の底部資料も燃糸文の1396との共通性と出土地点が近接していることからこれらと同一段階のものとして理解できる。1400、1401は多重沈線手法という点では1396～1398に共通しており上記の段階に含まれる可能性があるが、モチーフとしては従来知られている在弥生土器に類例を見いだせず確実な時期は不明である。



第99図 遺構外出土弥生土器

### 3. 近世

#### (1) 大鍛冶炉

##### 1号炉

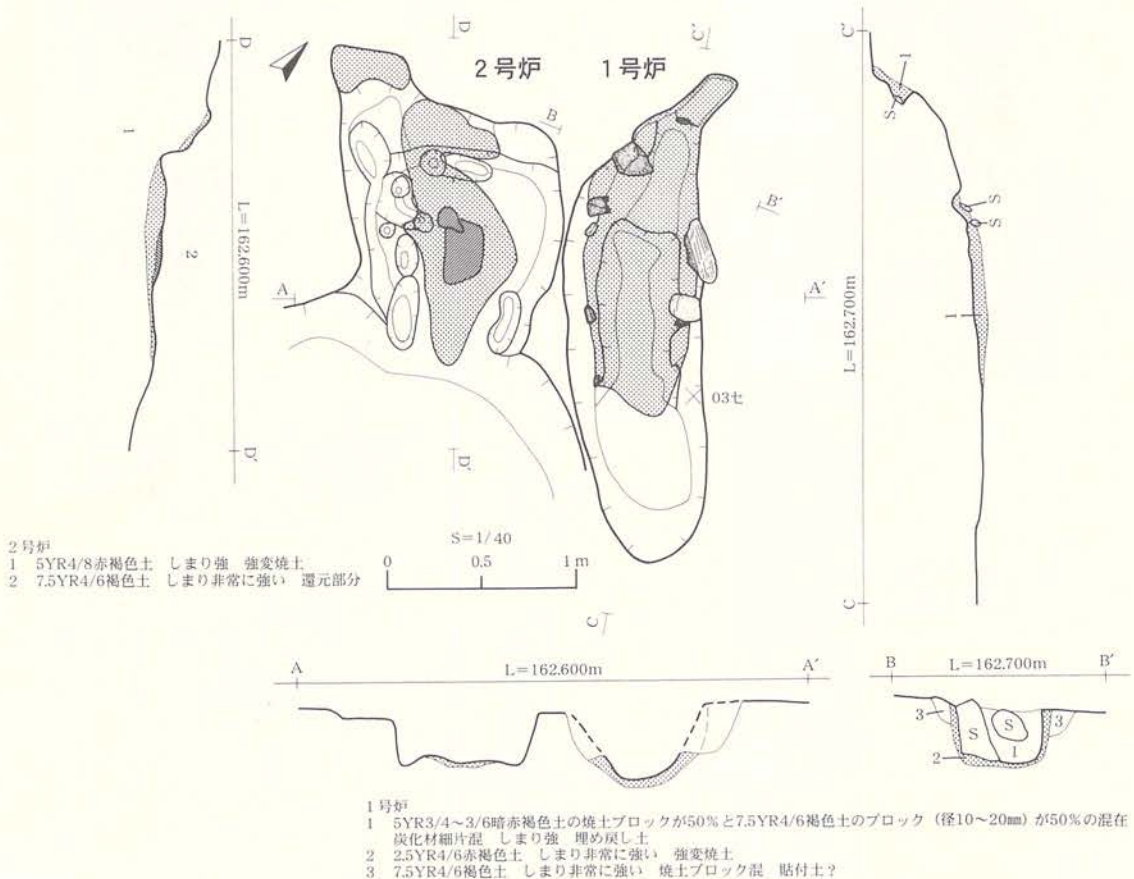
[遺構] (第100図、カラー写真図版2、写真図版14)

A区O3グリッドの緩斜面に位置する。南西側が2号炉と接しているが新旧関係は把握できなかった。一帯は表土黒褐色土の下位が直接地山褐色粘土層になる部分で、表土除去後に焼土粒の分布から確認した。北西-南東に中軸線を持つ楕円形の掘り込みで、斜面上部側に浅く北方向に曲がる部分が付属する。掘り込みの規模は上端で長径260cm、幅75cm、深さは最大60cmになる。掘り込みの断面形状は舟底状で、側壁は北側ほど急傾斜である。中程に段差があり南側が一段深い。南端は削平により自然地形、並びに1号竪穴状遺構に連続する。底面を通じて中軸線方向での傾斜はわずかに南側が下がる。

側壁には角礫が断続的に埋め込まれており、強い焼成を受けるものが多い。南側1/3を除き底面~側壁にかけてが非常に強い焼成を受け赤変している。還元面は見られない。埋土は焼土ブロック、焼土粒が50%ほど混じる褐色土で埋め戻された状態である。締まりは強く炭化材の細片が若干含まれる。側壁の一部(B-B'断面付近)は上部を一度掘り広げた後に褐色土を貼り付け補強している。

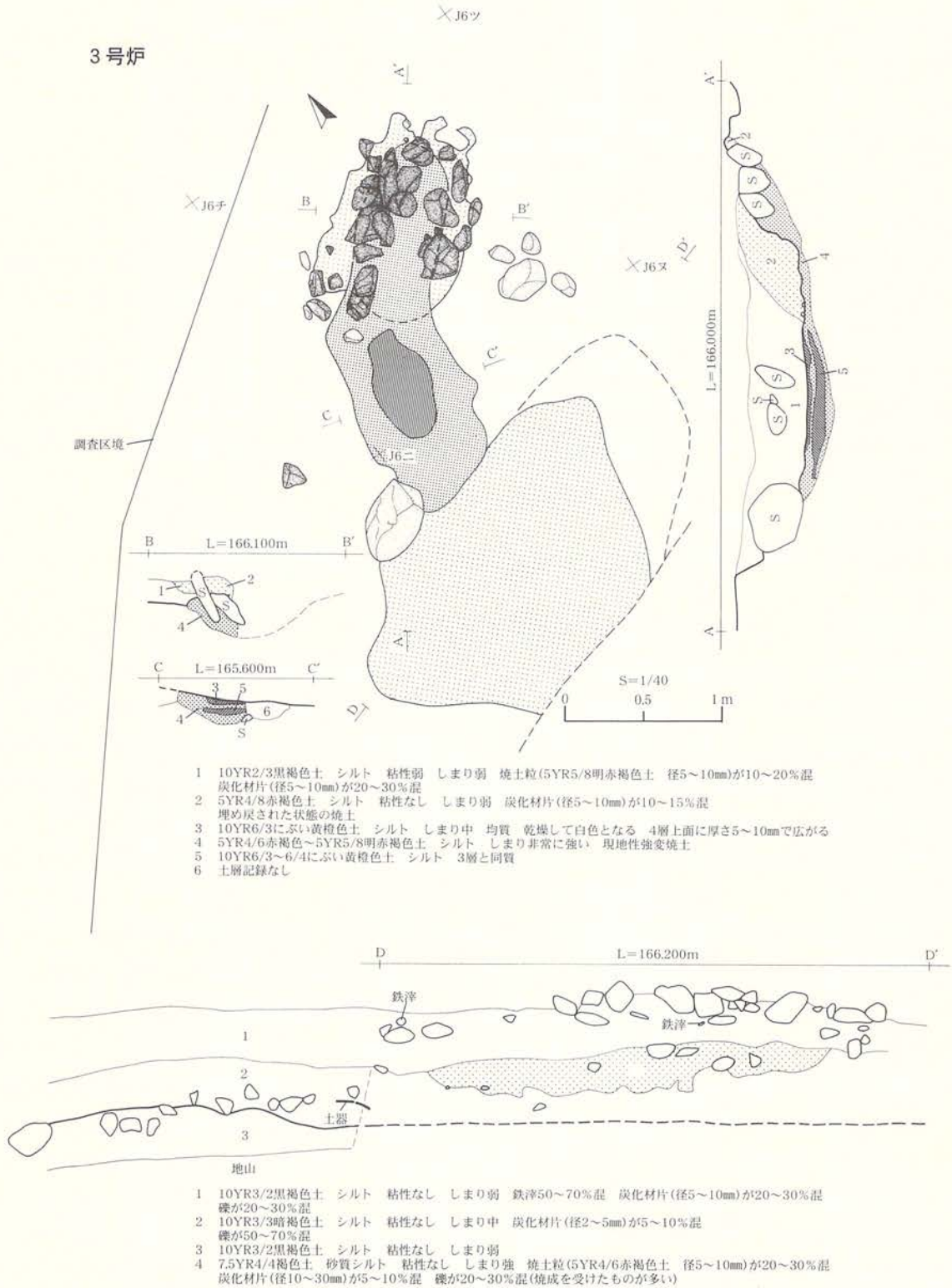
[遺物] (第104図、写真図版57)

1402の磁器破片が1・2号炉埋土から(どちらに伴うものか整理過程で不明になる)、1403~1405のフイゴ羽口片が周辺I層から、種別不明動物の肩甲骨が炉南端から出土している。1402は内面無釉の瓶破片で肥前産18世紀の製品である。羽口は1403、1404の肉厚な破片と1405の薄手で熔着滓が付着する破片が



第100図 1・2号炉

3号炉



第101図 3号炉



ある。鉄滓は埋土中から数点出土しており、うち1点は分析により砂鉄を鉄源とした精錬鍛冶滓という結果を得ている（付編資料No.1）。鍛造剥片は埋土中からの出土はない。周辺遺構外も含めた鉄滓出土状況（第105図）は1号炉が位置するO3グリッド付近で鍛冶滓を主体に分布するが合計で3kg余りと量的には多くない。

## 2号炉

[遺構]（第100図、カラー写真図版2、写真図版14）

1号炉の南西隣、O3グリッドに位置する。1号炉と同様に表土除去後に焼土粒の分布から確認した。北西-南東に中軸線を持ち南側が狭くなる方形の掘り込みで、西端に張り出し部分が付属する。掘り込みの規模は上端で長径170cm、幅130cm、深さは最大35cmになる。掘り込みの断面形状は平坦な底面を持ち側壁は急傾斜である。南東側の側壁に楕円形のPitがあり、側壁の礫を埋め込んだ掘り方の痕跡である可能性が高い。同様に南西壁、北西壁にも小規模なPitがある。底面は緩い傾斜で南に下がる。

焼成は中央部底面から北西壁にかけてと西端張り出し部分に見られる。中央部底面の焼成は非常に強く中心部分が青白い還元色になる。またPit部分を除き底面全体の硬化が進んでいる。北東、南西の両側壁、及び壁際は焼成を受けていない。埋土は若干の焼土粒が混じる褐色～暗褐色土で埋め戻されており締まりが強い。

[遺物]（第104図、写真図版57）

埋土中からごく少量の鉄滓が出土している。また埋土中に3kg余りの砂鉄がある（表10）。

## 3号炉

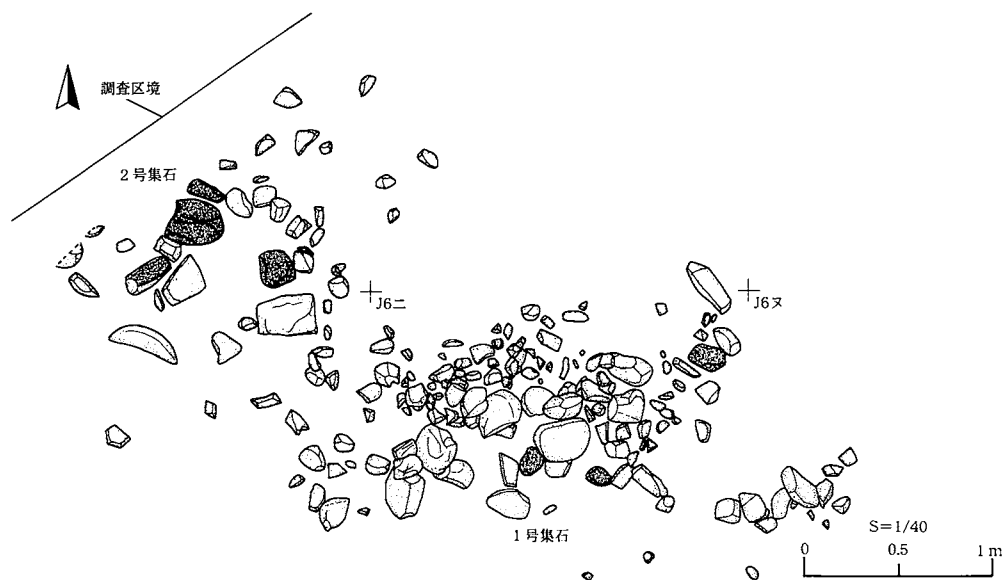
[遺構]（第102、103図、カラー写真図版2、写真図版15）

E区J6グリッドに位置する。当初は上位に広がる3基の集石遺構を確認し、強い焼成を受けた礫、鉄滓の混在が見られたため、下位に炉跡の存在を想定し掘り下げた結果火床面を検出した。集石遺構のうち1基は炉の北東端部分の直上にあたり、火床面を囲むように設置された礫群の上部が確認面に露出していたものである。火床面を囲む炉の主体部は北東～南西に主軸を持つ長楕円形を呈し、北半の側壁を礫で囲んだ部分と南半の還元面を囲む火床面部分に分かれ、くの字状に屈曲する状態である。北半の軸方位はN49°E、南半はN14°Eになる。更に南に接して東西約2.3m、南北約1.5mの範囲で鉄滓、焼土粒、礫が混在する廃棄層が見られる。

主体部は下位の縄文時代晩期遺物包含層を切って構築されており、舟形に掘りくぼめた長軸約2.5m、幅約0.5～0.7mの掘り込み底面が非常に強い焼成を受けている。調査時点では火床面上位の堆積土と側壁の区別ができず、礫を伴わない南半の側壁は検出していない。一方北半は火床面が急傾斜で立ち上がり周囲に角礫を配置した構造になる。礫は側壁を構成するもの他に、火床面が立ち上がる北東端においては中央に埋め込んだものが並ぶ。礫はほとんどが熱変色により著しく赤化を示す。火床面上位は炭化材細片を含み締まりが弱い二次的な焼土（2層）で埋め戻されている。火床面は中央部70×40cmの範囲に白色化した3層還元面が見られる。断面観察ではこの下位に焼土（4層）を挟み同様の還元層（5層）がほぼ同範囲で広がる。

[遺物]（第104図、写真図版57）

1406～1408の陶器、1409～1411の磁器、1412～1414の鉄製品、1415・1416の羽口片が主体部及び南側廃棄焼土中から出土している。1406は唐津産皿で17世紀の製品、1407と1408は瀬戸・美濃産碗で18世紀代の製品である。磁器は肥前産染付で1409がⅡ期後半の皿、1410・1411がⅣ期に編年される製品である。鉄製品には分銅（1412）、鍋底部破片（1413）、刀子（1414）がある。羽口は薄手で1・2号炉出



第102図 1・2号集石

土のものに比較し孔径が小さい。

鉄滓は南側焼土中からC区捨て場上部の盛土を中心として、周辺から万遍なく出土している。特にJ6ナ、二、K5オ、K6ア～エグリッドに集中しており、この付近が排滓場の様相を呈する。4点について分析を依頼した結果（付編）、製練滓と精練滓の両者が見られる。第106、107図において鍛冶滓、未選別とした鉄滓はほとんどが精練鍛冶滓に相当する。また主体部の火床面上位と南側焼土中で採取した土壌364,900ccから鍛造剥片、砂鉄が合計で28,980cc選別されている（表10）。この他火床面直上に炭化種実がまとまっている。

## (2) 集石遺構

### 1・2号集石（第102図、写真図版15）

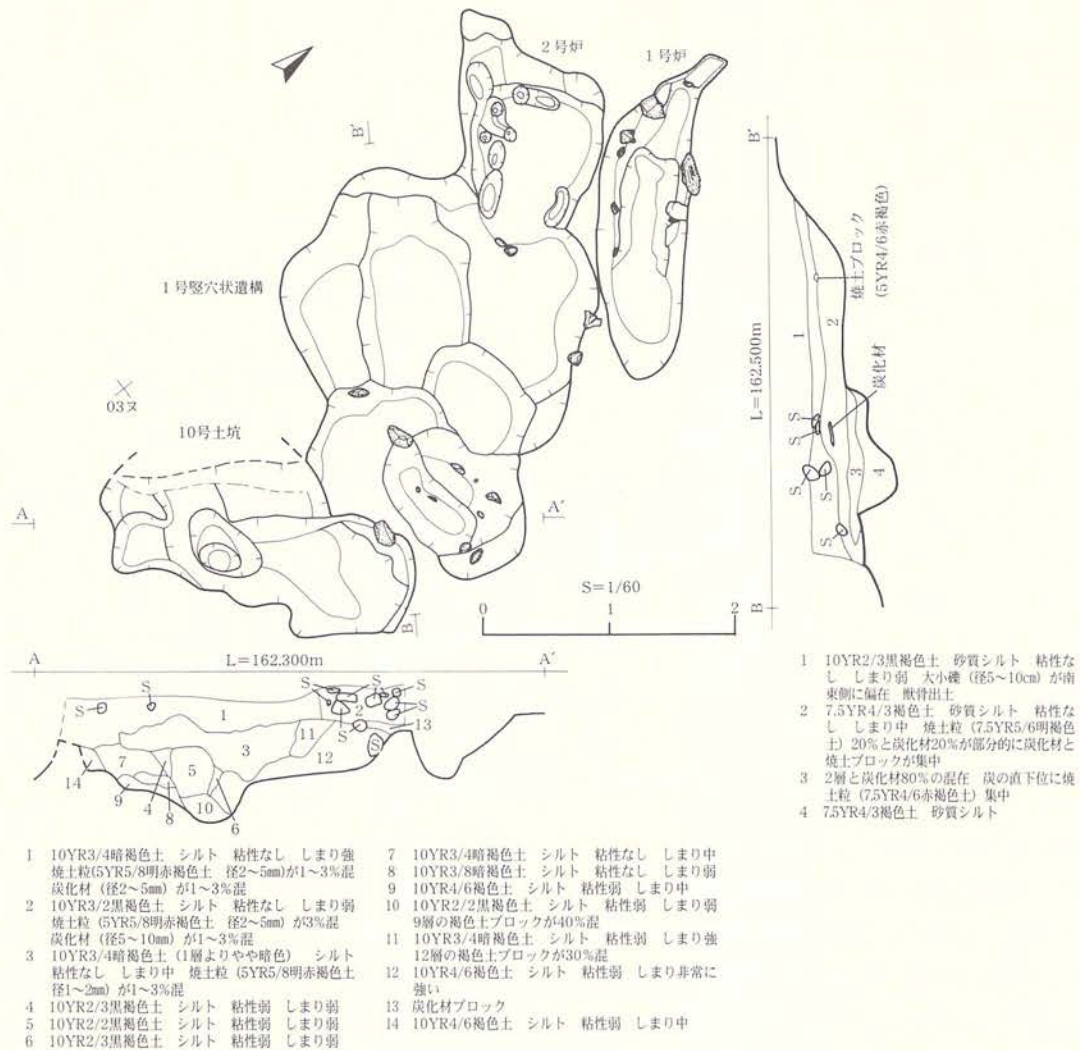
E区3号炉の周辺上位J6グリッドに分布するもので、集中の度合いから2基の集石遺構としているが一連のものと思われる。検出はI層除去後で3号炉の北半にある礫の集中と同一レベルに広がる。1号集石は2.5m×1mの細長い範囲に小さい礫が密集する。2号集石は比較的散漫で1.5×1mの範囲になる。焼成を受けた礫が両者に含まれるが多くはない。集石直下には掘り込み等の関連する遺構は検出していない。

## (3) 竪穴状遺構

### 1号竪穴状遺構

[遺構]（第103図、写真図版16）

A区O3グリッドに位置する。隣接する1・2号炉と同様に表土除去後に黒褐色土の埋土の落ち込みを検出した。五角形に近い不整形を呈し北側は2号炉南東端に連続する。南側は10号土坑に続く部分と削平によりプランが判然としない。規模は北西～南東方向で3.35m、直交方向で2.5m、深さは中央部で平均約50cm。底面は北側から数段の段差があり南側が深くなる。埋土は大きくは1層の黒褐色土と2層の焼土粒、炭化材片が混じる褐色土に分かれる。南東部に円形に掘り込まれた深さ約90cmのPitがあり、埋土上部に厚さ10～15cmで炭化材層が形成されている。



第103図 1号竪穴状遺構・10号土坑

[遺物] (第104図、写真図版57、64)

1417、1418の陶器、1419~1421の磁器、1422~1424の鉄製品、1425の銭貨が出土している。1417は瀬戸・美濃産皿底部破片で18世紀代の製品。見込みに流水と菊花文が描かれる。体部との接合面である割れ口に釉が掛かる。磁器は肥前産染付碗・皿で二重網目文を持つIV期の製品である。1422は捻れた棒状製品で器種は不明、1423、1424は角釘である。1425は鉄銭寛永通寶である。

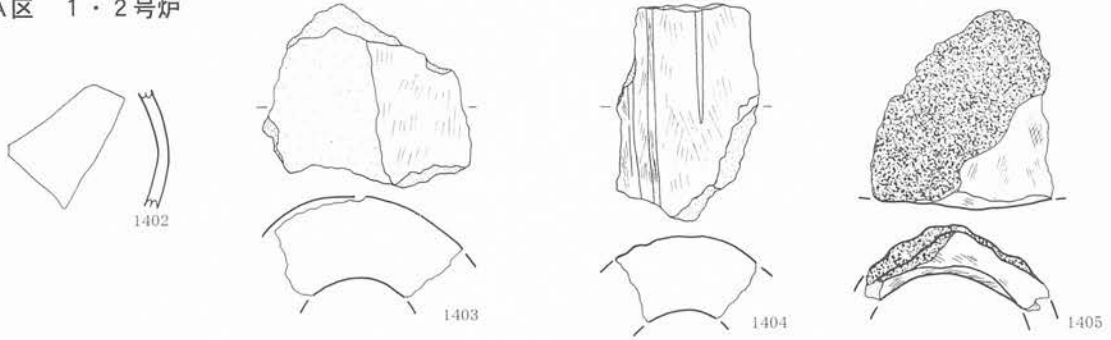
鉄滓は埋土中から少量の出土があり、1点について分析を依頼した結果、精錬鍛冶滓との結果を得ている(付編資料No.2)。また、埋土2層の土壌49,800cc中から鍛造剥片、砂鉄合計3,250ccが選別された(表10)。自然遺物ではシカ(下顎骨、角破片、中足骨)イノシシ(下顎骨)が出土する。3層に集中する炭化材にはスギ、クリ等複数の樹種が確認された。

#### (4) 土坑

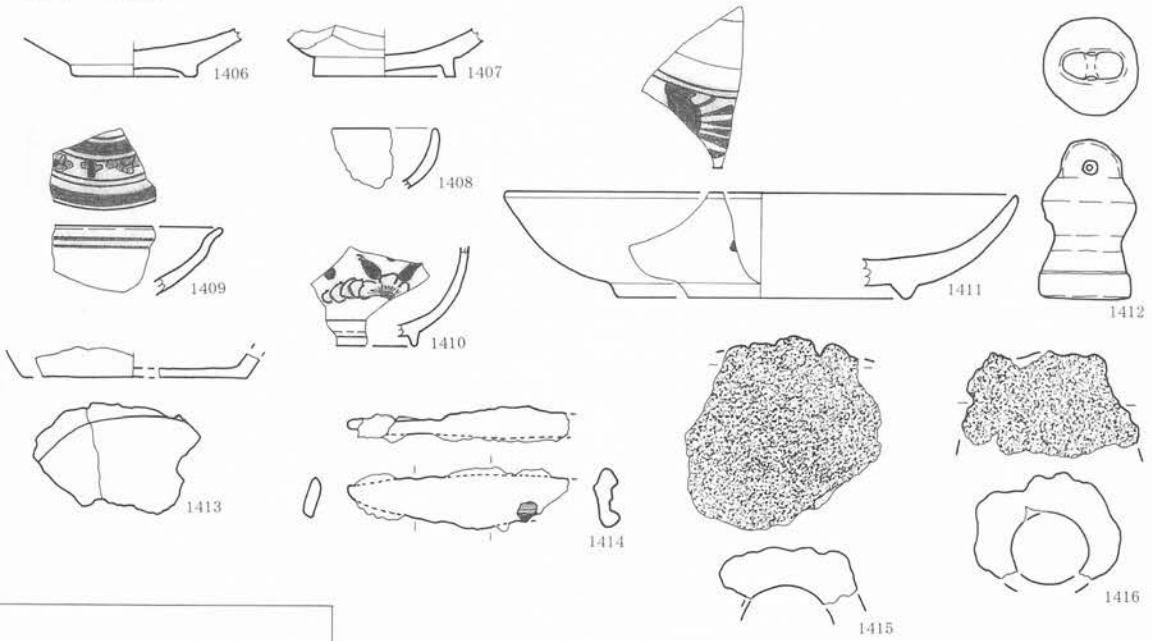
10号土坑(第103図、写真図版9)

A区O3グリッドに位置する。表土除去後の地山褐色土層面で検出した。1号竪穴状遺構の南端から連続する不整形の平面形状を呈し、1号竪穴状遺構と同様に複数の段差が底面に見られる。中央部が一段深い掘り込みになる。規模は北東~南西方向で2.6m、深さは平均60cm前後で中央部は1m余りの数値を示す。埋土は上半が1号竪穴状遺構2層と同様の焼土粒を含む黒褐色土、下部は黒褐色土が柱痕跡状に中央部に落ち込む。遺物は鉄滓が埋土上部から少量出土している。

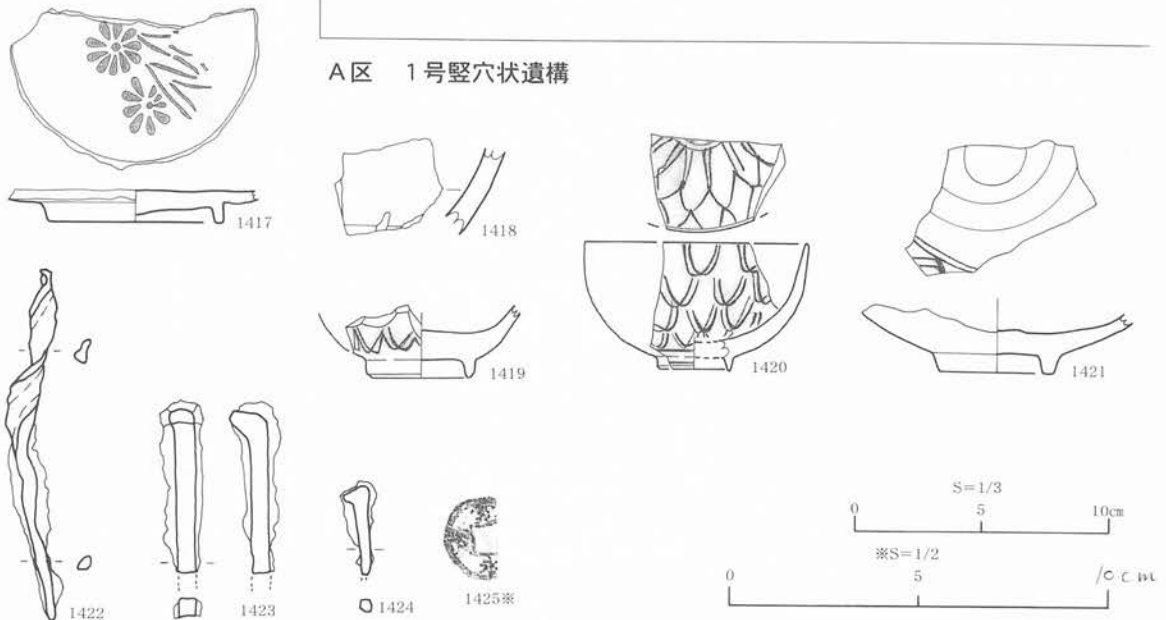
A区 1・2号炉



E区 3号炉



A区 1号竖穴状遺構



第104图 炉・竖穴状遺構出土遺物

第9表 鉄滓出土数量

単位：グラム

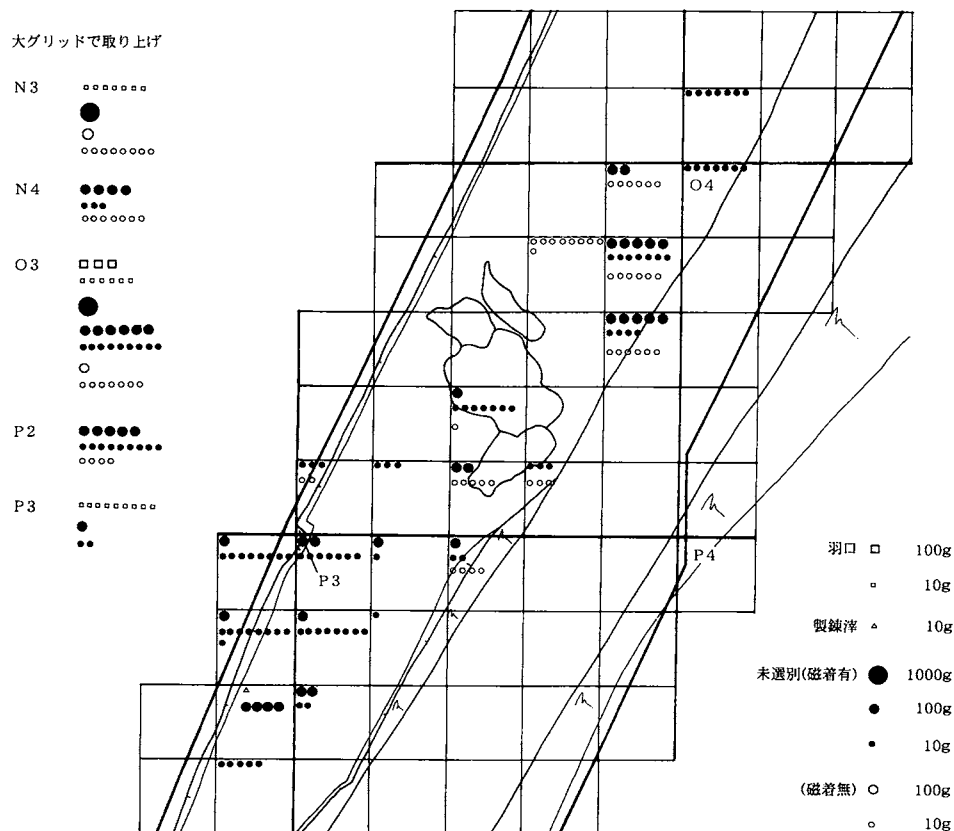
グリッド	羽口	炉壁	鍛冶滓			製錬滓			椀形滓			未選別			鉄滓合計		
			磁着	磁着なし	合計	磁着	磁着なし	合計	磁着	磁着なし	合計	磁着	磁着なし	合計	磁着	磁着なし	合計
C.E区盛土	1340	8500	93500	166500	260000	29800	17000	46800	16000	19500	35500				139300	20300	342300
C区I～Ⅷブロック	150								20		20	4130	180	4310	4150	180	4330
C区盛土	30								1720	540	2260	2230	3090	5320	3950	3630	7580
C区法面												320	160	480	320	160	480
E区I7												10		10	10		10
E区I8												160		160	160		160
E区I10ネ												100		100	100		100
E区J5ノ	10		1740	9200	10940					840	840	1325	1875	3200	3065	11915	14980
E区J6	545	2620	31000	39000	70000	1520	12010	13230	4785	10580	15365	4700	6000	10700	42005	67590	109595
E区J6ケ													85	85		85	85
E区J6コ												60		60	60		60
E区J6シ												445	210	655	445	210	655
E区J6ス	335					605	9450	10055	146.6		146.6	1938.4	431.3	2369.7	2690	9881.3	12571.3
E区J6セ												1760	85	1845	1760	85	1845
E区J6ソ												120	140	260	120	140	260
E区J6タ	182.5	332.5		5875	5875				137.5	102.5	240	935	692.5	1627.5	1072.5	6670	7742.5
E区J6チ	192.5	322.5		5875	5875				137.5	102.5	240	865	435	1300	1002.5	6412.5	7415
E区J6ツ	335					605	9450	10055	146.6		146.6	1868.4	431.3	2299.7	2620	9881.3	12501.3
E区J6テ	530								200	450	650	5720	2117.5	7837.5	5920	2567.5	8487.5
E区J6ト	60											440	247.5	687.5	440	247.5	687.5
E区J6ナ	1082.5	2577.5	43005	76195	119200	1512.5	6152.5	7665	2125	3000	5125	3000	8462.5	11462.5	49642.5	93810	143452.5
E区J6ニ	1092.5	2577.5	41915	66715	108630	1512.5	6152.5	7665	2125	3000	5125	1870	10190	12060	47422.5	86057.5	133480
E区J6ヌ	330								66.6		66.6	1640	396.3	2036.3	1706.6	396.3	2102.9
E区J6ネ	62											560.6	80	640.6	560.6	80	640.6
E区J6ノ	12											550.6	80	630.6	550.6	80	630.6
E区J7カ												36.6	73.3	109.9	36.6	73.3	109.9
E区J7サ												361.6	128.3	489.9	361.6	128.3	489.9
E区J7タ												361.6	128.3	489.9	361.6	128.3	489.9
E区J8												50	20	70	50	20	70

グリッド	羽口	炉壁	鍛冶滓			製錬滓			椀形滓			未選別			鉄滓合計					
			磁着	磁着なし	合計	磁着	磁着なし	合計	磁着	磁着なし	合計	磁着	磁着なし	合計	磁着	磁着なし	合計			
E区K5オ	605								4953.3	7895	12848.3	13611.6	6376.7	19988.3	18564.9	14271.7	32836.6			
E区K5ケ	215									4430	4430	2995	220	3215	2995	4650	7645			
E区K5コ	575								4840	8058.3	12898.3	31240	16454.1	47694.1	36080	24512.4	60592.4			
E区K5ス	5											30201.6	10776.7	40978.3	30201.6	10776.7	40978.3			
E区K5セ	20									4430	4430					4430	4430			
E区K5ソ	215									3166.7	3166.7	13611.6	6709.2	20320.8	13611.6	9875.9	23487.5			
E区K6	415								1645	690	2335	24570	19730	44300	26215	20420	46635			
E区K6ア	500								1813.3	3250	5063.3	27370	19899.4	47269.4	29183.3	23149.4	52332.7			
E区K6イ	230								113.3	1100	1213.3	6600	7896.6	14496.6	6713.3	8996.6	15709.9			
E区K6ウ	155.3											11367.3	5508.3	16875.6	11367.3	5508.3	16875.6			
E区K6エ	315.3									2440	2440	28747.3	15443	44190.3	28747.3	17883	46630.3			
E区K6オ	25.3									720	720	12297.3	4008.3	16305.6	12297.3	4728.3	17025.6			
E区K6カ	10								200		200	40	20	60	240	20	260			
E区出土地点不明													220	220	3260	3860	7120	3260	4080	7340
E区表採													60	60			60	60		
A区N3	70											1000	180	1180	1000	180	1180			
A区N4												430	70	500	430	70	500			
A区O3	360											1690	170	1860	1690	170	1860			
A区O3ケ													90	90			90	90		
A区O3コ												576.7	60	636.7	576.7	60	636.7			
A区O3ソ												546.7	60	606.7	546.7	60	606.7			
A区O3ツ												170	15	185	170	15	185			
A区O3ナ												38.6	22.9	61.5	38.6	22.9	61.5			
A区O3ニ												35.8		35.8	35.8		35.8			
A区O3ヌ												208.3	52.5	260.8	208.3	52.5	260.8			
A区O3ネ												35	37.5	72.5	35	37.5	72.5			
A区O4ア												75		75	75		75			
A区P2												590	40	630	590	40	630			
A区P2オ												183.3		183.3	183.3		183.3			
A区P2コ												193.3		193.3	193.3		193.3			
A区P2ソ												403.3		403.3	403.3	10	413.3			

グリッド	羽口	炉壁	鍛冶滓			製錬滓			碗形滓			未選別			鉄滓合計		
			磁着	磁着なし	合計	磁着	磁着なし	合計	磁着	磁着なし	合計	磁着	磁着なし	合計	磁着	磁着なし	合計
A区P2ト												50		50	50		50
A区P2ネ												5	5	10	5	5	10
A区P2ノ												5	5	10	5	5	10
A区P3	90											120		120	120		120
A区P3ア												272.5		272.5	272.5		272.5
A区P3イ												117.5	5	122.5	117.5	5	122.5
A区P3ウ												120	42.5	162.5	120	42.5	162.5
A区P3カ												180		180	180		180
A区P3キ												18.3	5	23.3	18.3	5	23.3
A区P3ク												5		5	5		5
A区P3サ												223.3		223.3	223.3		223.3
A区P3シ													3.3	3.3	0	3.3	3.3
A区Q2エ												5	5	10	5	5	10
A区Q2オ												5	5	10	5	5	10
F区J10カ	104											246		246	246		246
F区J10キ	104											246		246	246		246
F区J10ク	104											246		246	246		246
F区J9ケ	104											246		246	246		246
F区J9コ	104											246		246	246		246
H区F16												40		40	40		40
H区F17												230	230	460	230	230	460
H区G14H14	8110		40000	148000	188000	460	30000	30460				200	10000	10200	40660	188000	228660
H区G15	120											1720		1720	1720		1720
H区G16												6130	1570	7700	6130	1570	7700
H区H15												8770	2430	11200	8770	2430	11200
H区H16	30									120	120	4450	810	5260	4450	930	5380
J区A19												7.5	32.5	40	7.5	32.5	40
J区A20												78.5	32.5	111	78.5	32.5	111
J区B19												7.5	32.5	40	7.5	32.5	40
J区B20												7.5	32.5	40	7.5	32.5	40
合計	18874.9	16930	251160	517360	768520	36015	90225	126240	41174.7	74635	115809.7	271643.1	168744.8	440387.9	599992.8	850964.8	1450957.6

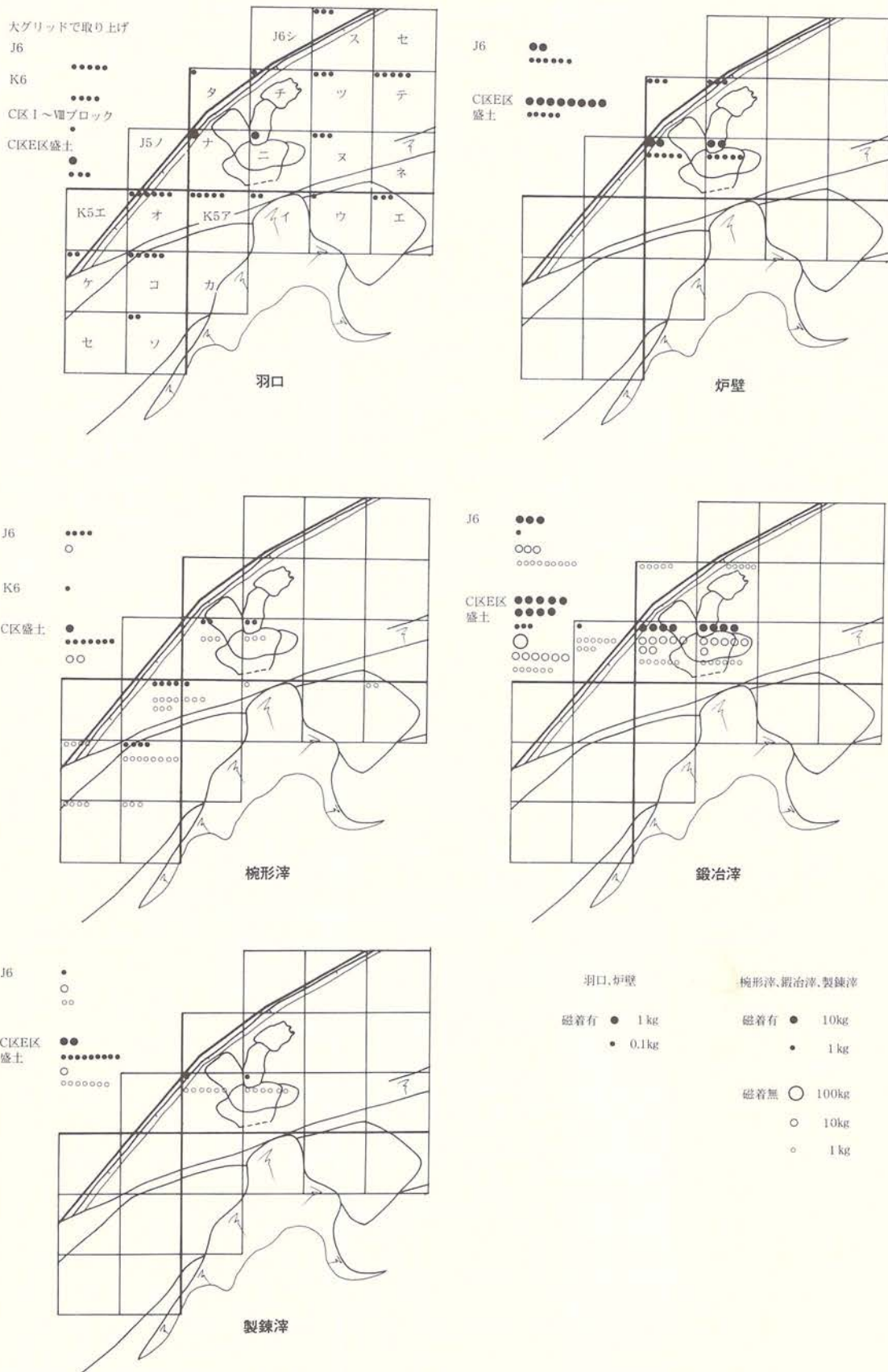
第10表 鑄造剥片出土数量

資料番号	区域	出土地点	鑄造剥片・砂鉄重量(g)	鑄造剥片・砂鉄重量(cc)	鉄滓重量(g)	鉄滓容量(cc)	残土重量(g)	残土容量(cc)
1	E区	1号集石南侧	17250	14550	7650	5900	175000	143500
2	E区	3号炉周边					23000	18000
3	E区	3号炉南	3650	3350	410	300	40000	31000
4	E区	3号炉西	500	400	570	400	16000	9600
5	E区	3号炉東	550	500	260	300	39000	30000
6	E区	3号炉北	350	280	50	40	20500	15500
7	E区	3号炉南侧焼土上位	8950	7800	3610	2900	85000	77100
8	E区	3号炉南					11200	7300
9	E区	2号集石西侧	1120	1000	610	500	22000	16800
10	E区	J 6 テトII層上	820	900	15		12000	7300
11	E区	4号焼土上部					9000	6000
12	A区	2号炉埋土	3140	2800			53500	46100
13	E区	3号炉南侧焼土	1220	1100	140	100	17000	16100
14	A区	1号竪穴状遺構埋土	3310	3250			55500	49800



第105図 鉄滓出土状況 A区





第106図 鉄滓出土状況 C・E区

大グリッドで取り上げ

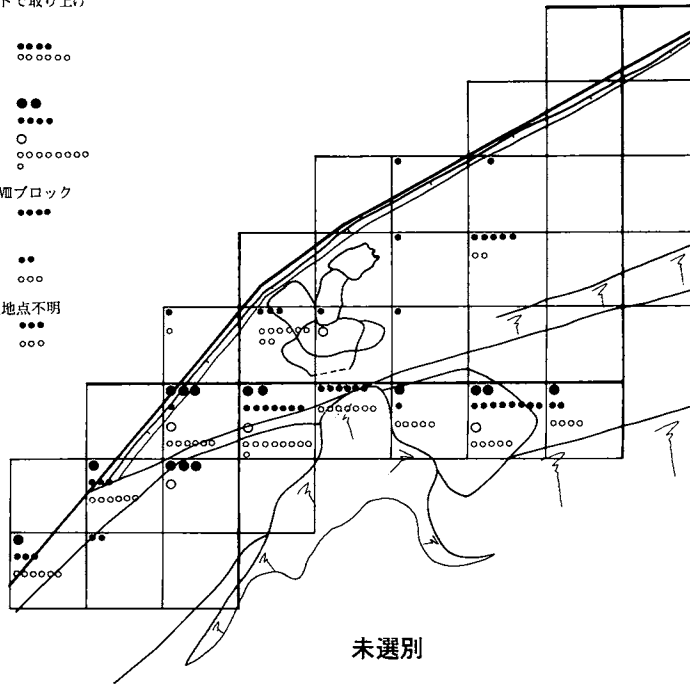
J6 ●●●●  
○○○○○

K6 ●●  
●●●●  
○  
○○○○○○○  
○

C区I～Ⅶブロック ●●●●

C区盛土 ●●  
○○○

E区出土地点不明 ●●●●  
○○○



未選別

大グリッドで取り上げ

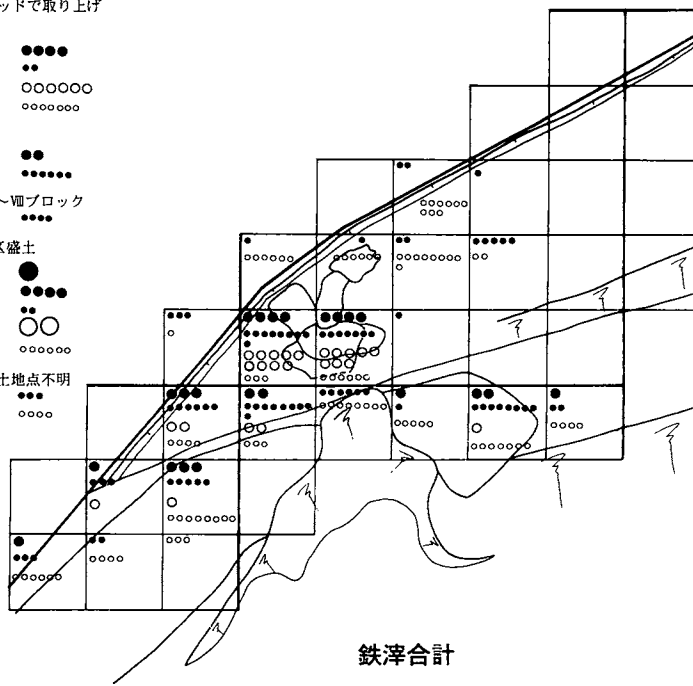
J6 ●●●●  
●●  
○○○○○  
○○○○○

K6 ●●  
●●●●

C区I～Ⅶブロック ●●●●  
●●●●

C区E区盛土 ●●●●  
●●●●  
○

E区出土地点不明 ●●●●  
○○○



鉄滓合計

磁着有 ● 100kg

● 10kg

● 1kg

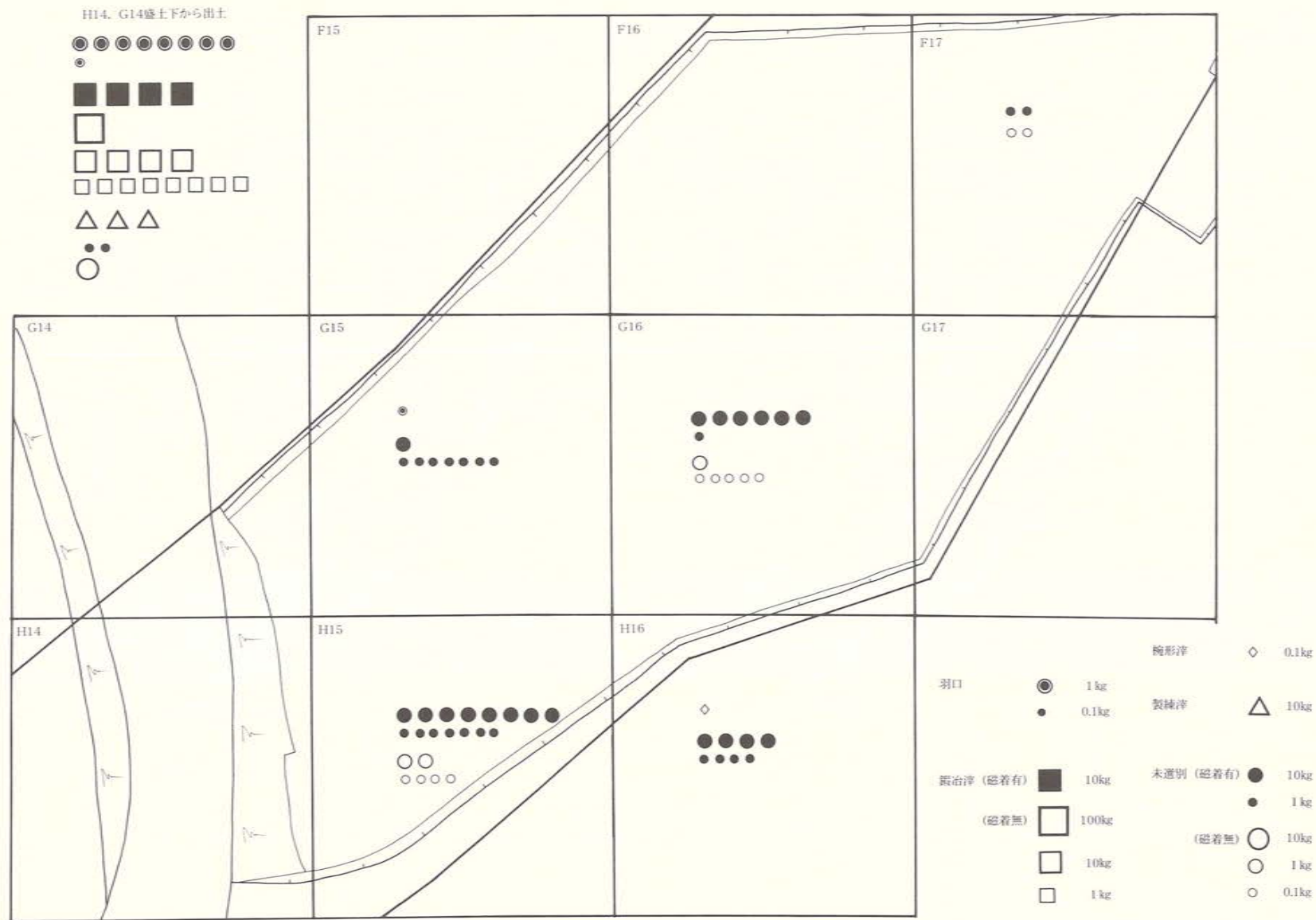
磁着無 ○ 100kg

○ 10kg

○ 1kg

第107図 鉄滓出土状況 C・E区

第108図 鉄滓出土状況 H区



(5) 掘立柱建物跡

E区で2棟、H区で1棟を確認した。検出したE区西半J6、J7グリッド、H区中央部G16グリッド、およびA区北側O3グリッドでは建物に組み込まなかった柱穴状ピットが複数検出されており、3棟の他にも掘立柱建物跡が存在していた可能性がある。柱穴状ピットは区域毎にPP1・2・・・の番号を付し遺構配置図(第3～6図)に位置を示している。柱穴状ピット個々の規模は第12表(169ページ)に掲載した。

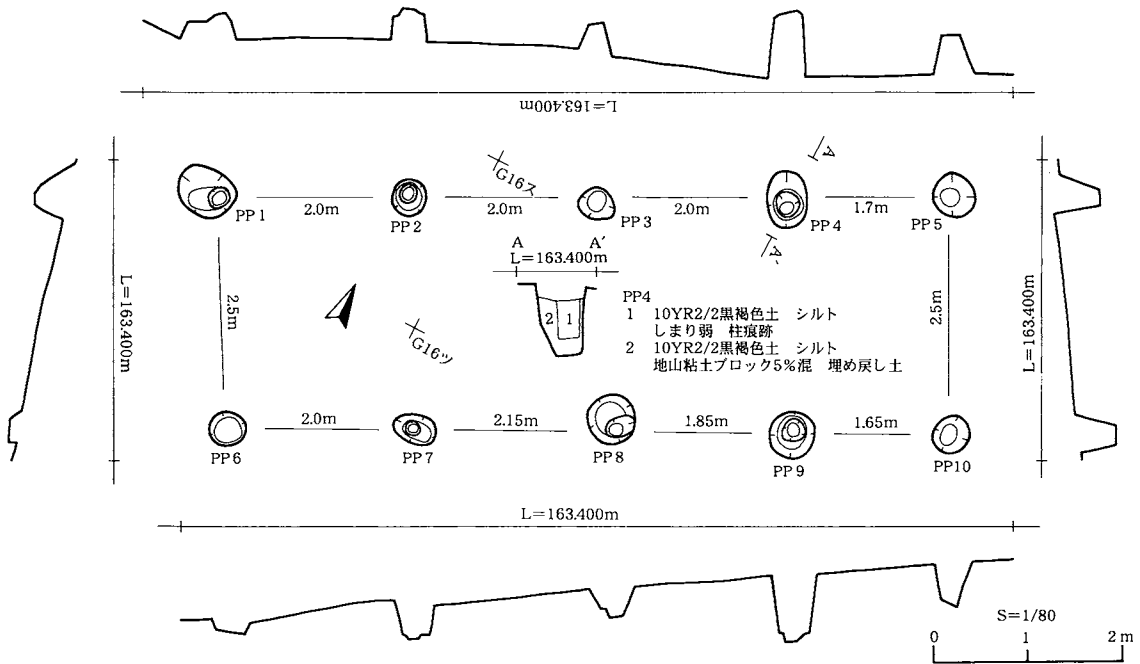
1号掘立柱建物跡

[遺構] (第109図、写真図版13)

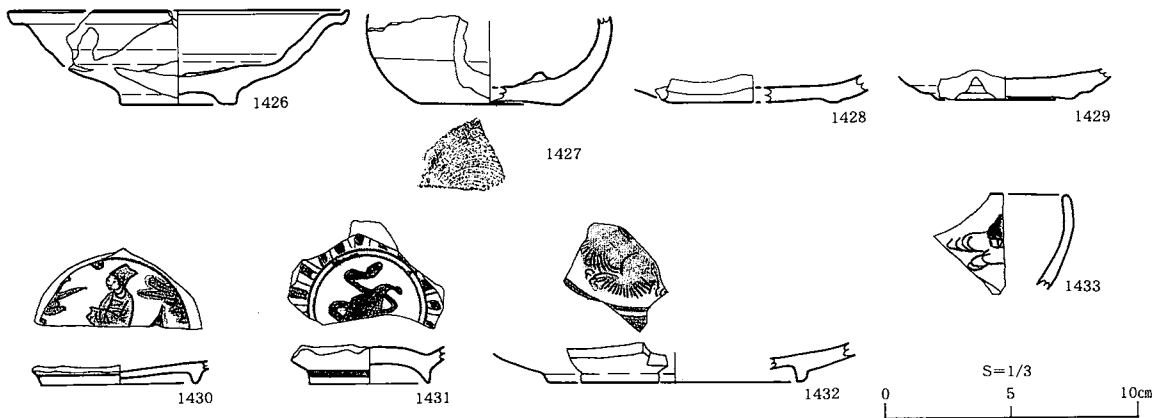
H区G16グリッド地山褐色粘土層上面で検出した。桁行4間、梁行1間の長方形プランである。規模は桁行総長が7.7m、梁間が2.5m、軸方位はN64°Eになる。柱穴は直径50cm前後の円形となり、深さは40cm程である。PP4、9の柱穴掘り方が他より一段深い。柱痕は円形の直径25cm前後が多い。

[遺物] (第110図、写真図版57)

柱穴内部から出土した遺物は一切ないが、1426～1433の陶磁器が建物内部、および周辺からの出土であ



第109図 1号掘立柱建物跡



第110図 1号掘立柱建物跡出土遺物

り、恐らくこの遺構に伴うものと考えられるためここに掲載した。陶器4点(1426~1429)、磁器4点(1430~1433)がある。1426は唐津産溝縁皿で外面は一部に灰釉が掛かる。砂目積みになる17世紀初頭の製品である。1427は瀬戸・美濃産茶入で外面下半まで鉄釉が掛かる。大窯後半期の製品と思われる。1428、1429は志野焼の皿底部破片である。1430、1431は中国産染付皿で釉が厚く掛かり畳付きに砂が付着する。1432は肥前産染付皿で動物意匠の一部が見える。Ⅲ期製品である。1433は肥前Ⅳ期染付碗である

### 2号掘立柱建物跡

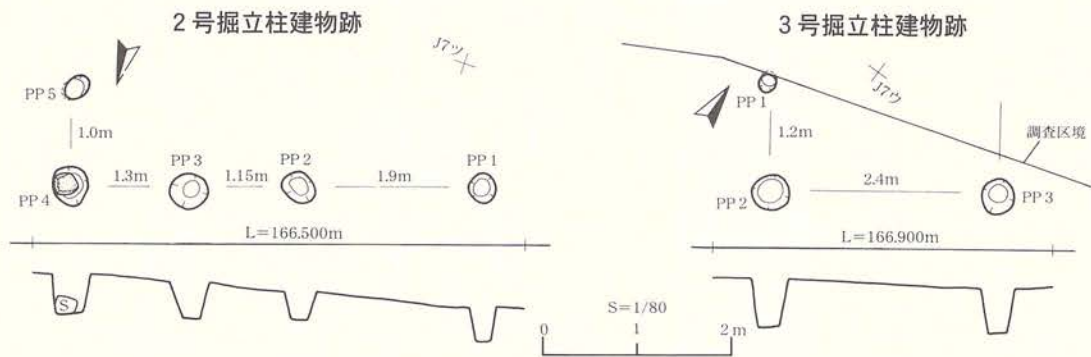
[遺構] (第111図、写真図版13)

E区J7グリッド地山褐色粘土層上面で検出した。南側が現道により削平されており全体は把握していない。残存範囲から桁行3間以上(4.35m)、梁行1間以上(1.0m)の建物跡と推定される。軸方位はPP1~4列でN78°Eになる。柱穴は直径40cm程の円形で深さは30cm前後、柱痕は明確にできなかった。PP4の底面に根固め石がある。出土遺物はない。

### 3号掘立柱建物跡

[遺構] (第111図、写真図版13)

E区J7グリッド地山褐色粘土層上面で検出した。北側が調査範囲外に伸び全体は把握していない。検出範囲から1間以上×1間以上の建物跡と推定される。規模は2.4×1.2m、軸方位はPP2~3列でN37°Eになる。柱穴はPP1が小さく他は直径40cm弱の円形で深さは50cm前後、柱痕は明確にできなかった。出土遺物はない。



第111図 2・3号掘立柱建物跡

第11表 掘立柱建物跡柱穴規模

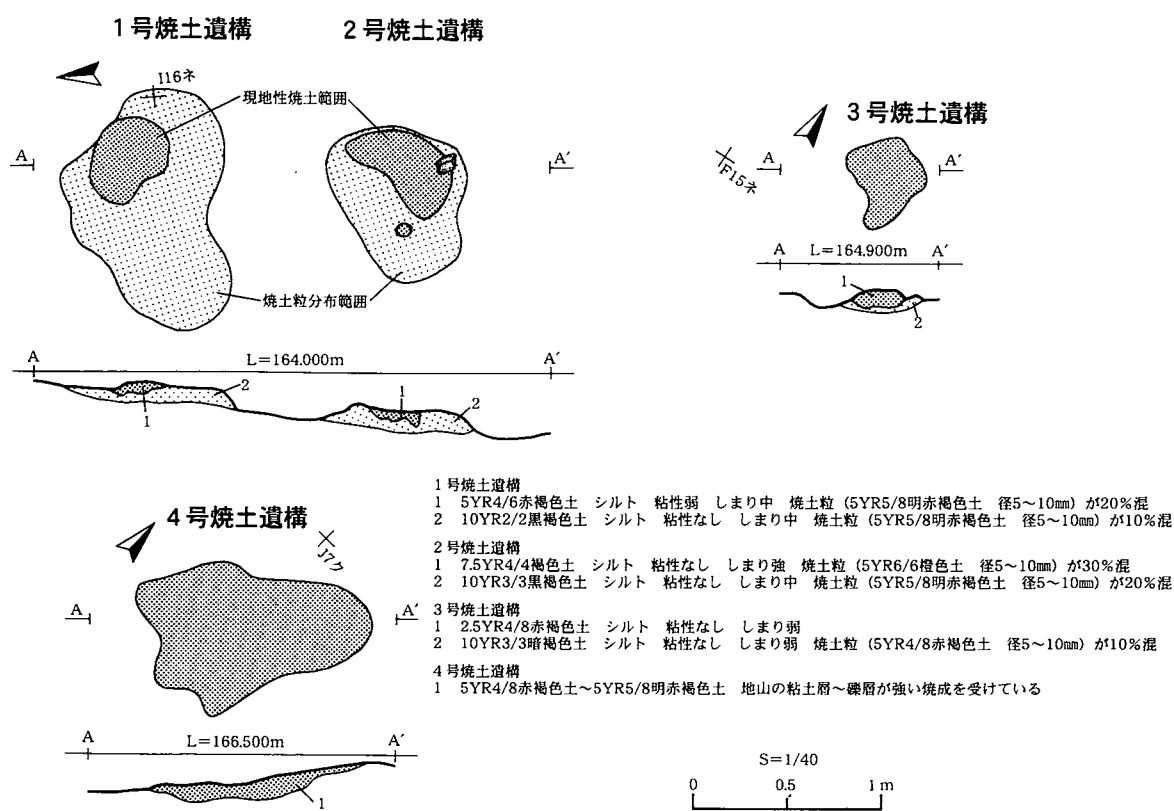
遺構名	1号掘立柱建物跡									
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
開口部径(cm)	65×50	40×35	40×34	60×45	50×45	45×45	47×30	50×50	50×50	40×38
深さ(cm)	45	34.5	35	77.5	49.5	14	45	33	108.5	44
遺構名	2号掘立柱建物跡					3号掘立柱建物跡				
No.	1	2	3	4	5	1	2	3		
開口部径(cm)	35×30	40×35	43×37	42×40	32×23	20×20	40×38	37×36		
深さ(cm)	35	28	37.5	23.5	58.5	21	45.5	56		

## (6) 焼土遺構

E区で1基、H区で3基の検出である。時代はいずれも不明だが、検出面から近世の遺構と考えられる。

### 1号焼土遺構 (第112図、写真図版18)

H区I16グリッドⅡ層上面で検出した。50×40cmの楕円形の焼成面があり、その周囲に焼土粒の分布



第112図 焼土遺構

が130×90cmの範囲に広がっている。焼土の厚さは最大7cm。伴出遺物はない。

2号焼土遺構 (第112図、写真図版18)

H区I 16グリッドII層上面で検出した。1号焼土遺構に隣接しており焼成面は離れるが一連のものと思われる。焼成面は62×37cmの不整形で、その周囲に焼土粒の分布が88×70cmの範囲に広がっている。焼土の厚さは最大10cm。伴出遺物はない。

3号焼土遺構 (第112図、写真図版18)

H区F 15グリッドII層上面で検出した。53×45cmの不整形の焼成面がある。熱変色が著しい。焼土の厚さは最大10cm。伴出遺物はない。

4号焼土遺構 (第112図、写真図版18)

E区J 7グリッド地山粘土層上面で検出した。130×83cmの不整形の焼成面がある。熱変色が著しい。焼土の厚さは最大13cm。伴出遺物はない。2、3号掘立柱建物跡に挟まれる位置にあり、何らかの関連を持つ可能性がある。

(7) 墓墳

A区で11基 (1・2・5~13号墓墳)、F区で2基 (3・4号墓墳) を検出している。地権者の方の話では両地区とも調査着手前に改葬を行った場所であるとのことで、現地表下が攪乱を受けていたが下部が残存している墓墳が検出された。墓墳埋土と掘り込まれているII層包含層、攪乱の埋め戻し土の区別が困難で、人骨、副葬品が検出されて墓墳と認識したものが多い。そのため平・断面形状、規模は正確でないものを含

んでいる。墓石はいずれも改葬時、あるいはそれ以前に移転されており墓壙との対応は不明である。

### 1号墓壙

[遺構] (第113図、写真図版16)

A区P2グリッドII層上面で検出した。長方形を呈し四隅はほぼ直角に曲がる。四辺とも壁面が垂直に近く掘り込まれている。規模は開口部110×100cm、深さ70cm。埋土は埋め戻された締まりのない黒褐色土単層となる。底面から5～10cmほど上位の中央部に人骨と副葬銭、それらを囲む四隅に近い位置で釘が出土した。埋葬姿勢は不明。

[遺物] (第115図、写真図版58、64)

副葬品として火打金(1434)、煙管吸口(1435)、銭貨(1441～1445)がある。1434は断面を取った位置に紐通し穴があり紐の断片が残存する。穴の右側には編物状の繊維製品が付着する。1441は鉄銭90枚前後が密着した縞の状態出土した。錆化が著しく正確な枚数はカウントできない。片方に棺箱の木材が付着する。1442～1445の鉄銭10枚、図示しなかった6枚の鉄銭破片と合計すると106枚前後となる。釘(1436～1440)は図示したものを含め合計34点出土した。ほとんどに棺箱の木材が付着する。

[人骨] 胸椎・頸椎の一部(10個程)・鎖骨の一部が残存する。保存状況は中程度。リップングは見られない。年齢・性別不明である。

### 2号墓壙

[遺構] (第113図、写真図版16)

A区P2グリッドII層上面で検出した。1号墓壙に切られる。長方形を呈し四隅はほぼ直角に曲がる。底面はやや傾斜しており北側が深くなる。規模は開口部100×85cm、深さ31cm。埋土は締まりのない黒褐色土単層である。人骨の出土はないが1号墓壙と類似した埋土、規模から墓壙と判断した。

[遺物] (第113図、写真図版58)

埋土中から1446の釘、1447の石製品(温石)が出土した。1447は凝灰岩製で6面とも整形の擦痕がある。

[人骨] 人骨残存なし。

### 3号墓壙

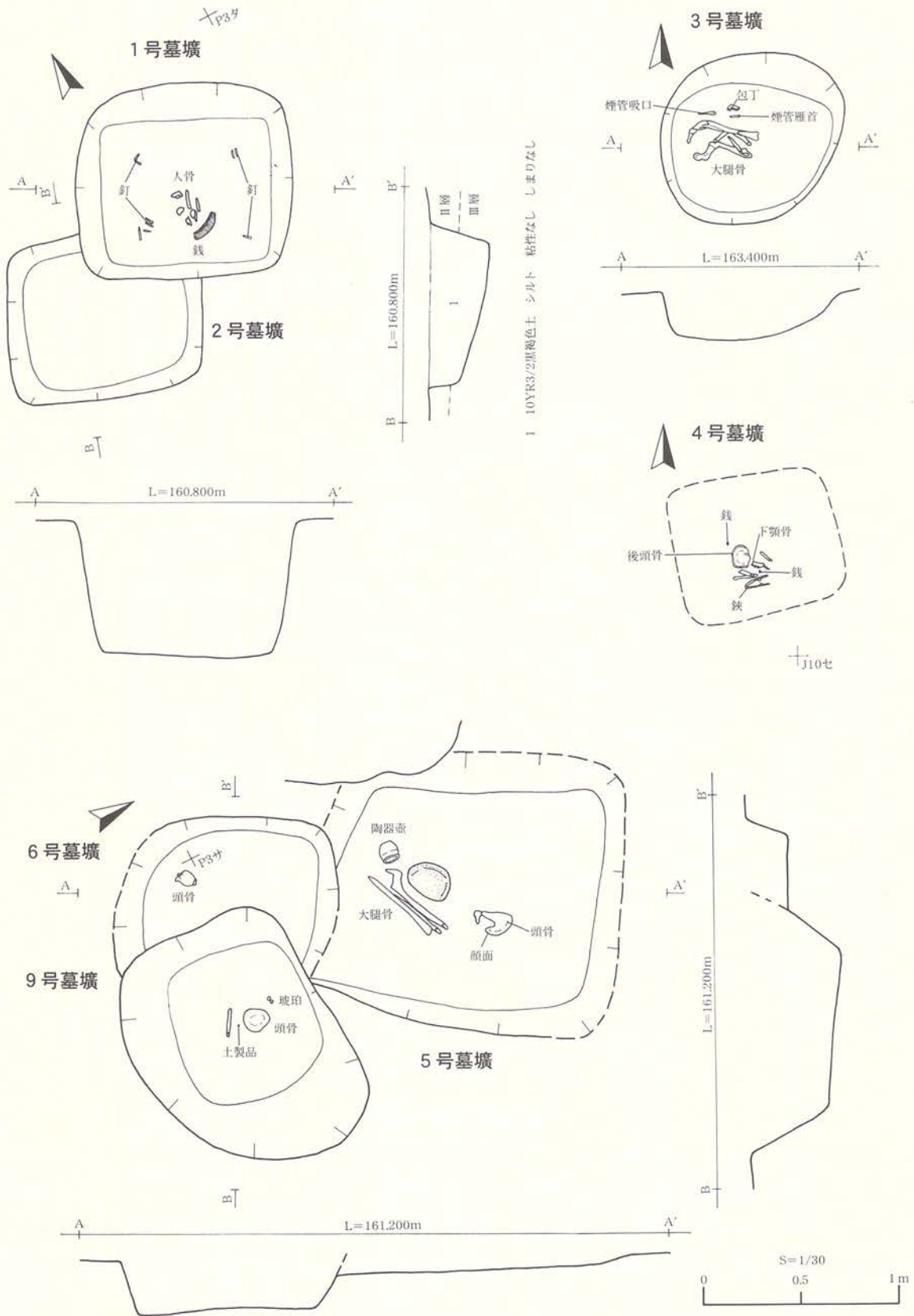
[遺構] (第113図、写真図版17)

F区J10グリッド地山褐色粘土層上面で検出した。方形ないし楕円形を呈する。底面は中央が若干凹む。規模は開口部が90×87cm、深さ24cm。上部が攪乱を受けており本来の深さはより大きい数値であったと推測される。底面から10cm以上上位の中央部に人骨と副葬品がまとまって出土している。埋葬姿勢は不明。

[遺物] (第115図、写真図版58)

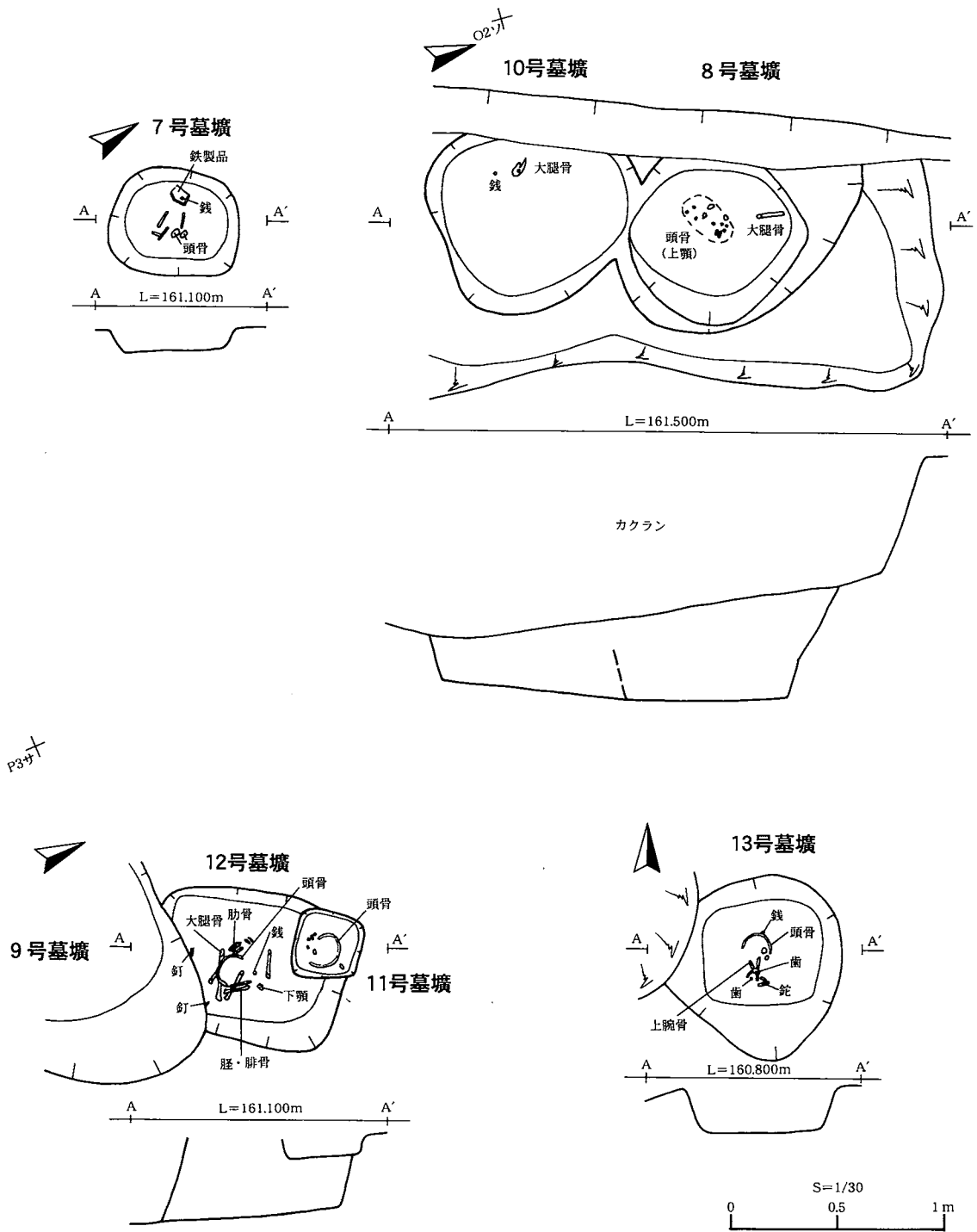
副葬品として包丁(1449)、煙管雁首(1451)、煙管吸口(1450)がある。1448の鎌は墓壙上部からの出土である。1449の包丁は刃がすり減っている。1450と1451の煙管は直列していたことから一体のもので羅字が遺失したと思われる。脂返しの湾曲はきつ小泉弘氏の編年(小泉1987)によれば第4段階(18世紀前半)の製品である。

[人骨] 下顎骨・左右側頭骨・後頭骨の一部・腰椎の一部・左寛骨・左右大腿骨・左右脛骨・腓骨の一部が残存する。保存状況は中程度。左寛骨の大坐骨切痕は約60°で男性と思われる。大腿骨最大長は不明である。歯は上顎左I1・下顎右(I2・P1・P2・M1)・下顎左(P1・P2・M1・M3)が残存する。下顎左M3の咬耗が概ねBrocaの2°に達しており壮年と判断される。



第113図 墓墳 (1)





第114図 墓墳 (2)

4号墓墳

[遺構] (第113図、写真図版17)

F区J10グリッドで検出した。当初は遺構と認識できず、人骨、副葬品の出土で墓墳と確認できたものでプラン、規模は推定である。底面の縮まり具合から80×70cm程の方形になると思われる。中央部で人骨

と副葬品がまとまって出土した。埋葬姿勢は不明。

[遺物] (第115図、写真図版58、64)

副葬品として鉄 (1452)、煙管吸口 (1453)、銭貨 (1454～1459) が出土した。1454は鉄線1枚と銅銭2枚が密着しており紐が通っている。1455は古寛永、1456～1459は新寛永である。

[人骨] 頭頂骨の一部・右側頭骨・下顎骨右側・頸椎・胸椎の一部・肋骨の一部・寛骨の一部・左右大腿骨の一部が残存する。保存状況は中程度。側頭骨の乳様突起が小振りである点、大坐骨切痕が約90°に開く点から女性と思われる。歯は下顎右(P2・M1・M2)、及び萌出前の下顎右M3があり思春期の可能性が高い。

#### 5号墓壙

[遺構] (第113図、写真図版17)

P3グリッドII層上面で検出した。南側で6号墓壙に切られ、7・11号墓壙を切る。西側は現代の攪乱を受けている。やや歪んだ方形を呈し底面は平坦になる。規模は推定145×145cm、深さは残存高で8cm。底面中央部から人骨、副葬品が出土している。頭骨と大腿骨の位置関係から座葬と考えられる。

[遺物] (第115、116図、写真図版58、64)

副葬品として陶器壺 (1460)、煙管吸口2点 (1462、1463)、銭貨2点 (1465、1466) がある。他に釘3点 (1464)、埋土上部から鎌 (1461) の出土がある。1460の壺は胎土、釉薬の特徴から近世小久慈焼と推定される。下嶽岳芳氏 (小久慈焼七代窯元) の御教示によれば、底面のヘラ切りが非常に丁寧で金属ではなく木のヘラを使用している点、器厚が薄く一定している点、露胎部分が橙色を呈しており焼成温度はあまり高くない点で、初代の頃 (19世紀初頭) の製品と特徴が一致することである。1466は新寛永。煙管雁首は出土していない。

[人骨] 頭蓋が右側顔面を除き下顎骨を含め残存する。他に上腕骨の一部がある。頭蓋は圧迫変形を受けるが頭長は190mm。乳様突起が小振りで薄い点、外後頭隆起の発達弱い点から女性と思われる。歯は下顎左(P2・M1)が残存する。P2は象牙質が露出し始めており咬耗はBrocaの2°に達することから壮年であろう。

#### 6号墓壙

[遺構] (第113図、写真図版17)

P2、P3グリッドII層上面で検出した。南東側で9号墓壙に切られ、5号墓壙を切る。残存範囲の平面形状は不整形で底面は平坦である。規模は長軸が114cm、深さは最大27cm。底面西側から人骨、副葬品が出土している。埋葬姿勢は不明。

[遺物] (第116図、写真図版64)

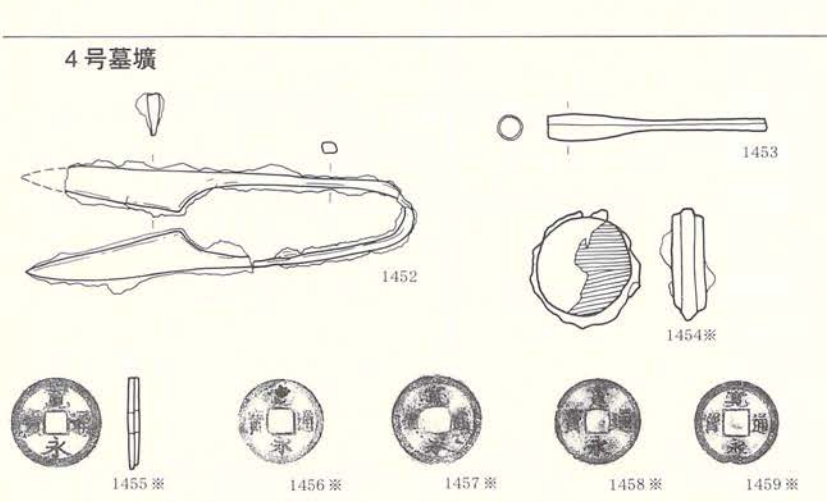
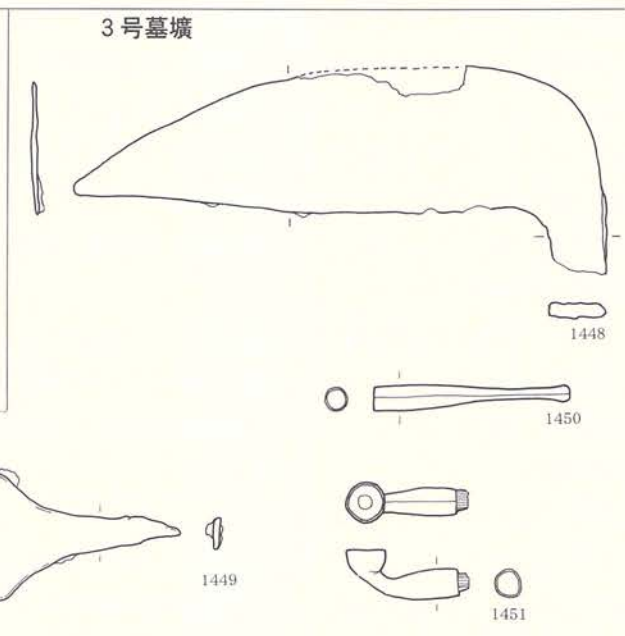
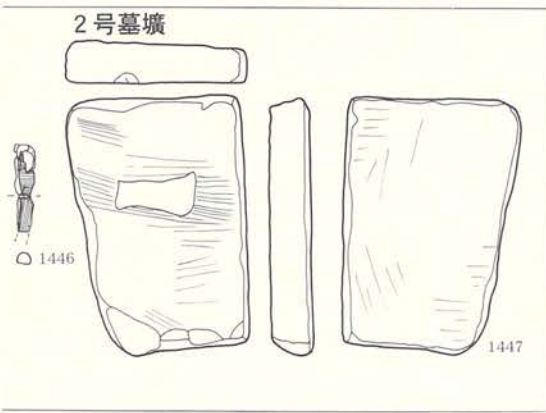
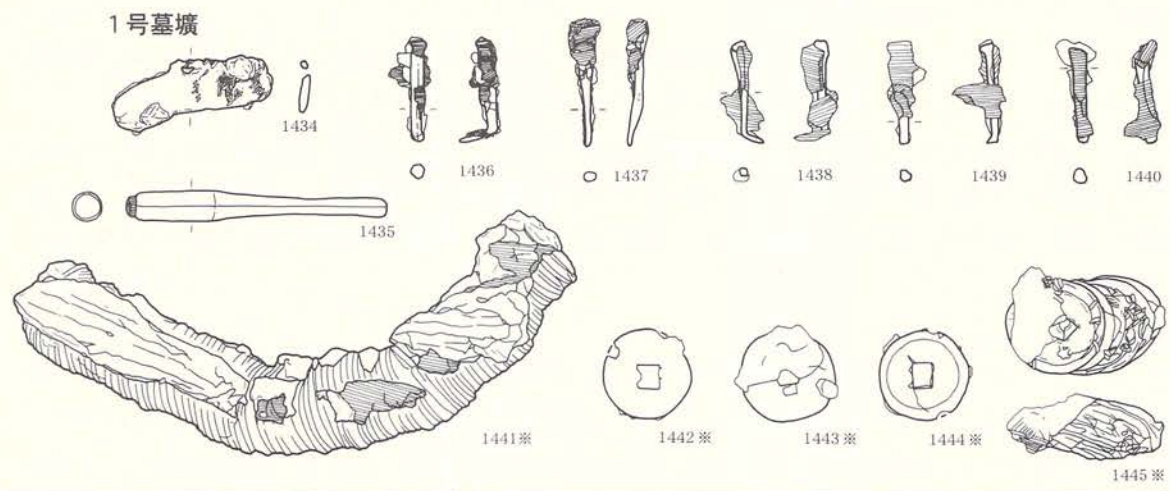
副葬品として銭貨 (1468～1472) が出土している。1468は新寛永が6枚密着したもの、1469は銭銘不明の銅銭、1470は銅銭と鉄銭が3枚密着、1471は鉄銭破片、1472は鉄銭で1469～1471は布と菱形の種実が付着した痕跡がある (写真図版64参照)。種実の種類は形状からソバの可能性が高い。他に釘1点 (1467) がある。

[人骨] 頭頂骨・側頭骨・下顎骨右側が残存する。歯は残存しない。頭蓋が全体に小さく薄い。また鋸歯状縫合が顕著に見られ、乳児と思われる。

#### 7号墓壙

[遺構] (第114図、写真図版17)

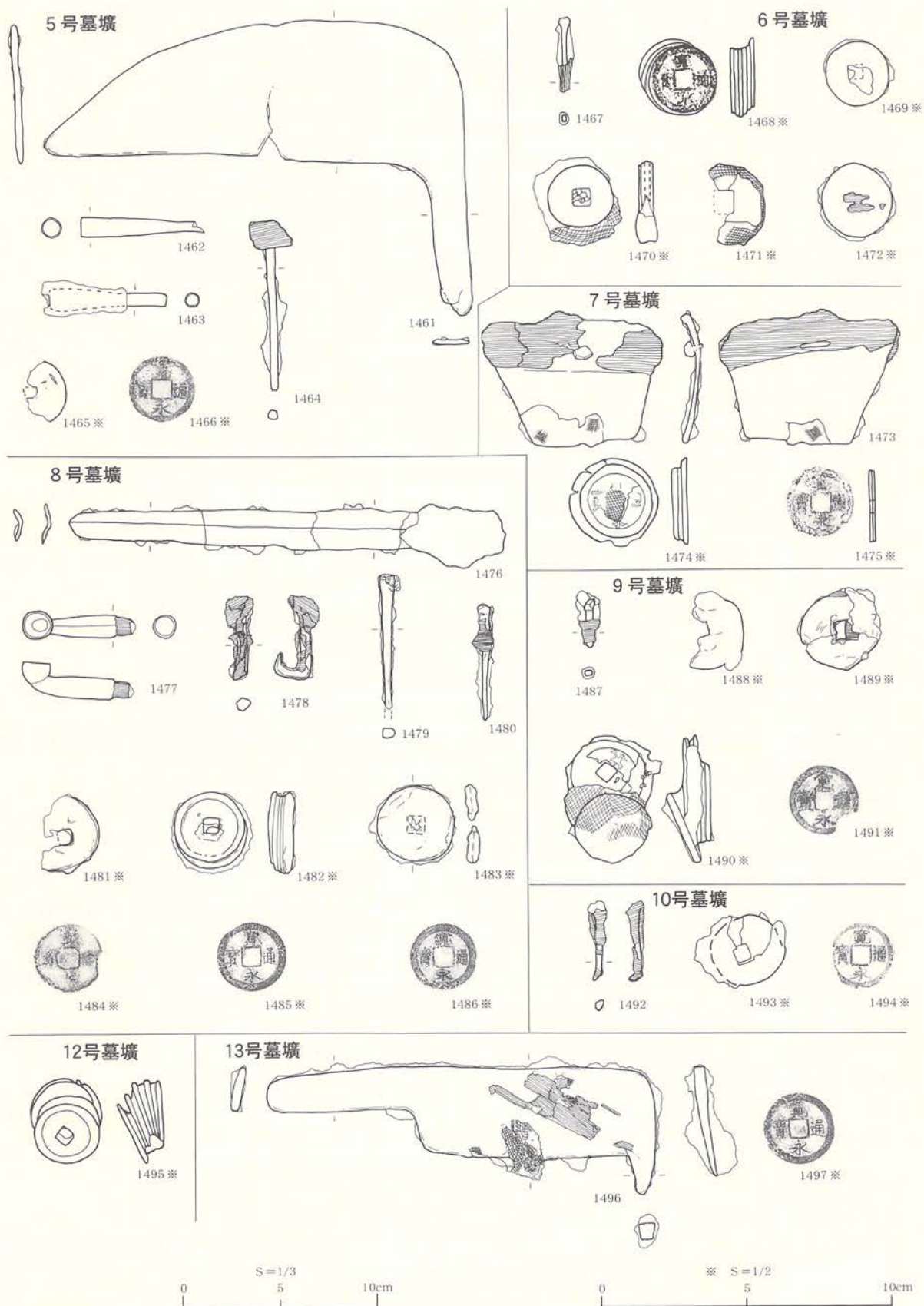
P3グリッドに位置し5号墓壙底面から検出した。小規模な楕円～方形を呈し底面は平坦である。規模は62×50cm、深さは最大12cm。底面中央部から人骨、副葬品が出土している。埋葬姿勢は不明。



S=1/3  
0 5 10cm

※ S=1/2  
0 5 10cm

第115图 墓壙出土遺物 (1)



第116图 墓坑出土遗物(2)

[遺物] (第116図、写真図版58、64)

副葬品として錢貨(1474、1475)がある。1473の緩く湾曲した板状鉄製品は木棺の一部と思われる。釘が通っており両面の一部に木質の付着がある。1474は銅錢1枚と鉄錢1枚、1475は新寛永2枚が密着している。

[人骨] 頭頂骨・側頭骨・下顎骨・頸椎の一部・寛骨の一部・大腿骨の一部が残存する。保存状況は良好である。頭蓋は鋸歯状縫合が見られる。大腿骨の骨頭は残存しない。歯は上顎右(d p 1・d c・d m 1・d m 2)・上顎左(d c・d m 1・d m 2)・下顎右(d p 1・d p 2・d c・d m 1・d m 2)・下顎左(d p 1・d p 2・d c・d m 1・d m 2)、及び萌出前の下顎右(I 1・M 1)が残存する。永久歯の萌出状況から3～5才と思われる。性別は不明。

#### 8号墓壙

[遺構] (第114図、写真図版17)

P 2グリッドに位置し改葬の攪乱底面で検出した。南西側で10号墓壙を切る。方形を呈し底面は平坦である。規模は残存部分の東西で88cm、深さは最大54cm。底面中央部と北東隅から人骨が出土している。埋葬姿勢は不明。

[遺物] (第116図、写真図版58、64)

副葬品として煙管雁首(1477)、錢貨(1481～1486)、不明鉄製品(1476)がある。1476は断面くの字状に折れ曲がる細長い板状を呈する。1477は脂返しの湾曲が小さく小泉編年(小泉1987)第5段階(18世紀後半)と考えられる。1483は布が付着している。1484～1486は新寛永である。

[人骨] 右側頭骨・上顎右側の一部・上腕骨の一部が残存する。保存状況は中程度。乳様突起は大きく発達し男性であろう。歯は上顎右P 1が残存しBrocaの咬耗1°の状態である。壮年と思われる。

#### 9号墓壙

[遺構] (第113図、写真図版17)

P 3グリッドII層上面で検出した。西側で6号墓壙を切る。開口部は崩落で歪んだ形状になるが、底面では方形を呈し平坦である。規模は133×100cm、深さは最大46cm。底面中央部から人骨と副葬品が出土している。図示できなかったが頭骨と大腿骨の位置関係から座葬と思われる。

[遺物] (第116図、写真図版58、64、66)

副葬品として錢貨(1488～1491)、土製人形、骨製筥状製品、琥珀原石がある。釘は1487他合計3点の出土がある。1490は銅錢新寛永1枚と鉄錢5枚の密着で布が付着する。琥珀原石は未加工で21gと大形である。

[人骨] 頭頂骨・側頭骨・頸椎・胸椎・肋骨・寛骨・左右大腿骨・左右脛骨・腓骨が残存。保存状態は良好である。歯は上顎右(d c・d m 1・d m 2)・上顎左d m 2・下顎右(d p 2・d c・d m 1・d m 2)・下顎左(d c・d m 1・d m 2)、及び萌出前の上下M 1歯冠4本が残存する。永久歯の萌出状況から3～5才と思われる。性別は不明。

#### 10号墓壙

[遺構] (第114図、写真図版17)

P 2グリッドに位置し改葬の攪乱底面で検出した。北東隅が8号墓壙に切られる。方形を呈し底面は平坦である。規模は残存部分の南北で94cm、深さは最大31cm。底面西側から人骨と副葬品が出土している。埋葬姿勢は不明。

[遺物] (第116図、写真図版58、64)

副葬品として錢貨(1493、1494)がある。1493は鉄錢2枚が密着したもの、1494は新寛永である。釘

は1492の他4点出土している。

[人骨] 頭頂骨の一部・上腕骨の一部が残存する。きゃしゃで小振りな骨で小児骨の可能性が高いが詳細は不明である。

#### 11号墓壙

[遺構] (第114図、写真図版17)

P3グリッドに位置し5号墓壙の南西側壁面で検出した。5号墓壙に切られ、12号墓壙を切る。小形の方形を呈し、規模は33×30cm、深さは最大11cm。内部から人骨のみ出土しており、副葬品他の遺物はない。埋葬姿勢は不明。

[人骨] 頭頂骨・側頭骨頸椎の一部・肋骨の一部・上腕骨(?)の一部が残存する。保存状況は良好である。歯は下顎左(dc・dp・dm1)、及び萌出前の下顎左M1歯冠が残存する。萌出状況から2～3才の個体と思われる。性別は不明。

#### 12号墓壙

[遺構] (第114図、写真図版18)

P3グリッドⅡ層上面で検出した。南隅が9号墓壙に、北隅が11号墓壙に切られる。残存部分は長方形を呈し底面は平坦である。規模は95×70cm、深さは最大32cm。底面中央部から人骨と副葬品が出土している。人骨は上から頭骨、肋骨、大腿骨、脛骨・腓骨が折り重なった状態となっており、座葬と考えられる。

[遺物] (第116図、写真図版64)

副葬品として銭貨(1495)、漆器片がある。1495は銅銭3枚、鉄線2枚が密着しており種実が付着している。小粒でアワ、ヒエの類と思われる。銭銘は読み取れない。漆器は下地の赤い漆膜が遺存しており木胎は失われている。他にヘアピンの類と思われる針金状の銅製品が毛髪と絡まって出土している。釘は2点の出土がある。

[人骨] 頭頂骨・右側頭骨の一部・頸椎の一部・肋骨・指骨・右尺骨・左右大腿骨・右脛骨・右腓骨が残存する。頭蓋には鋸歯状縫合が残る。保存状況は良好である。歯は上顎右(dc・dm1・dm2)・上顎左(dm1・dm2)・下顎右(dp1・dp2・dc・dm1・dm2)・下顎左(dm1・dm2)、及び萌出前の上顎右(I1・P1・M1)・上顎左(I1・P1・M1)・下顎右(I1・M1)・下顎左I1が残存する。永久歯の萌出状況から5才前後の個体と思われる。性別は不明。なお頭骨に接して短い毛髪が残存している。

#### 13号墓壙

[遺構] (第114図、写真図版18)

P2、P3グリッドⅡ層上面で検出した。西側が改葬時の攪乱を受けている。開口部は歪んだ楕円形だが底面は方形を呈し平坦である。規模は残存部分の南北が85cm、深さは最大21cm。底面中央部から人骨と副葬品が出土している。埋葬姿勢は不明。

[遺物] (第116図、写真図版58、64)

副葬品として鉞(1496)、銭貨(1497)がある。1496は底面に柄を上直立して出土した。刃部に鞘の木質が付着する。1497は新寛永である。

[人骨] 頭頂骨の一部・左右側頭骨の一部・下顎骨右側・右脛骨・部位不明の上下肢の一部が残存する。保存状況は良好である。歯は上顎右(dc・dm2)・上顎左(dc・dm2)・下顎右(dp2・dc・dm1・dm2)・下顎左(dc・dm2)、及び萌出前の下顎左右M1歯冠が残存する。また下顎のdm2は完全には萌出していない。これらの点から2～3才の個体と思われる。性別は不明。

## (6) 遺構外出土遺物

近世に属する遺物で遺構に伴わないものについて記述する。出土はA・E区の製鉄遺構、墓壇周辺I層から出土したものが多。なお金属製品などそれ自体で製作年代を特定できないものは、近代まで年代が降る可能性がある製品も含めて一括した。

### ① 陶器 (第117、118図、カラー写真図版6、7、写真図版59、60)

**碗** (1498~1524) 肥前産、瀬戸・美濃産、大堀相馬、小久慈焼の18世紀~19世紀代の製品がある。1498は白化粧土を施した肥前産18世紀前半の製品。1499は京焼写しの碗で底部付近の内面に稜があり外面が若干外反する。外面下半を除き透明釉が施される。1500、1501は陶胎染付である。1501は筒形碗で菊散らし文を描く。瀬戸産18世紀代の製品である。瀬戸・美濃産の1502、1504、1505はいわゆる腰鏝碗で外面下半に鉄釉が掛かる。1510、1511は胎土、釉の特徴から大堀相馬製品と思われる。1510は貫入が入る。1512~1524は内外面灰釉を施し胎土が灰色、黄褐色ないし暗褐色のグループで、天田内遺跡出土陶器(千葉1991)と酷似しており、小久慈焼19世紀代の製品に該当する。本遺跡出土近世陶器中で量的に最も多い。釉の色調は淡い黄色味を帯びており、大堀相馬と類似する。器形は小振り以外傾する単純なものが主体だが、口唇部内削ぎ(1514)、口唇部外反(1516)となるものがある。底部は高台内に施釉するもの、しないものの両者がある。

**皿** (1525~1533) 肥前産、瀬戸・美濃産、小久慈焼がある。1525は唐津産溝縁皿で内面に鉄釉が掛かる。16世紀末~17世紀初頭段階の製品である。1527、1528は大橋編年IV期併行の陶胎染付で唐草文を描く。1529、1530は瀬戸・美濃産大窯期の製品である。1530は鉄絵を施した志野皿である。1531~1533は灰釉が掛かる小久慈焼(1)である。

**鉢** (1534~1537、1541) 肥前産、小久慈焼他がある。1534は内面に白化粧土を刷毛目で施したもので18世紀前半代の製品である。1536は外面上半と内面に灰釉、外面下半に鉄釉が施され、口縁部が大きく外反する。1537は口縁部が外に屈曲し鉄釉が掛かる。両者とも小久慈焼と思われる。

**瓶** (1538~1540) 肥前産と小久慈焼がある。1538、1539は透明釉が掛かる18世紀代の製品、1540は底部回転糸切り痕を残す。

**甕** (1542) 底部破片で明治以降の在産地と思われる。

**播鉢** (1543~1547) 17~18世紀代の製品として肥前産(1543、1544)、瀬戸産(1545、1546)がある。1543は胎土の特徴から唐津産と思われる。1546、1547は鉄釉が掛かる。いずれも小片で卸し目の単位は不明である。他に産地不明の近代製品(1547)がある。

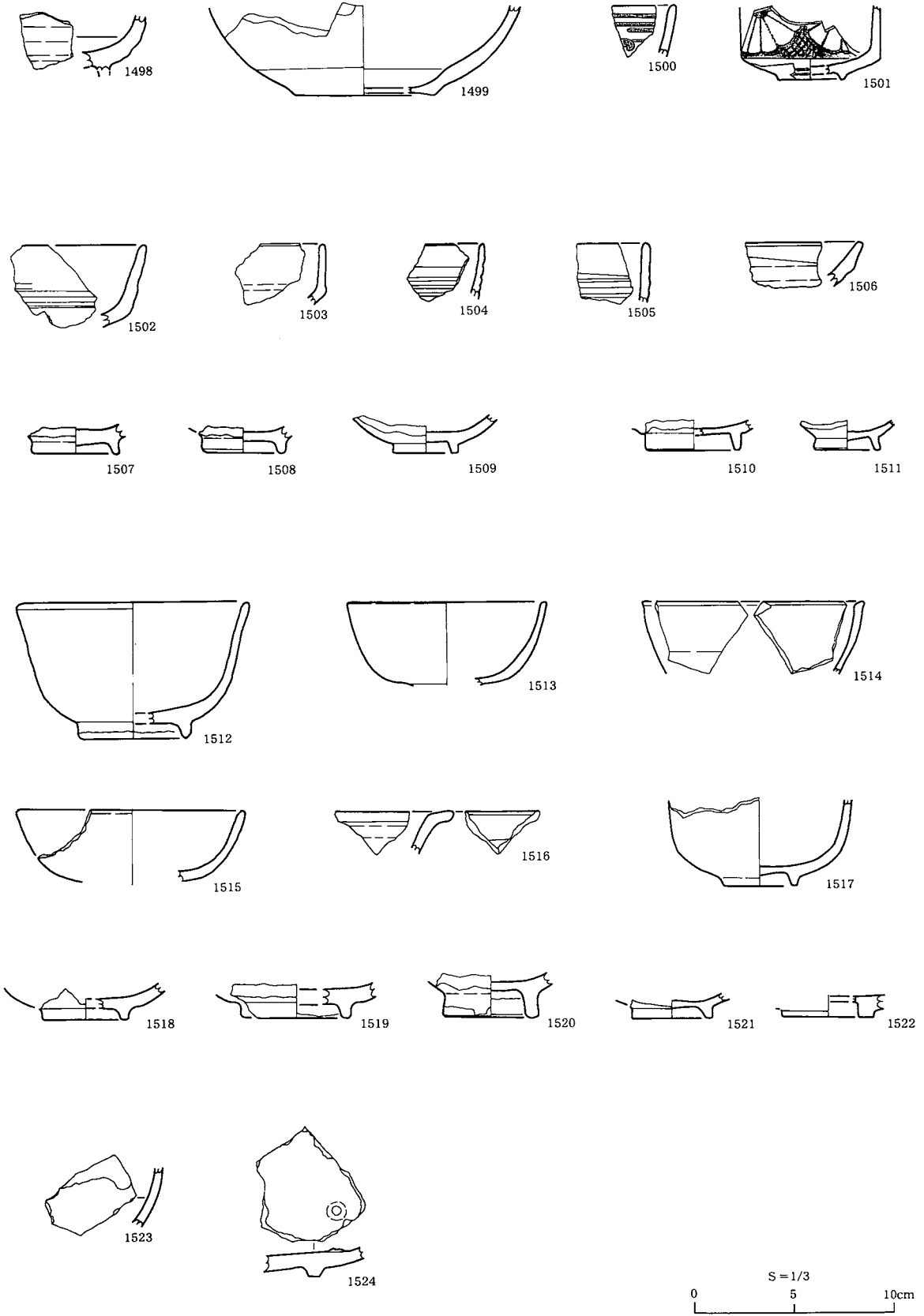
### ② 磁器 (第119、120図、カラー写真図版8、写真図版61、62)

大きくは中国産、近世肥前産ないし肥前系、在産近代製品に分かれる。

(a)中国製品 (1548、1549) 明の16世紀代染付皿である。釉が厚く掛かり染付の発色が濃い。1548は鶴のような動物が描かれる。

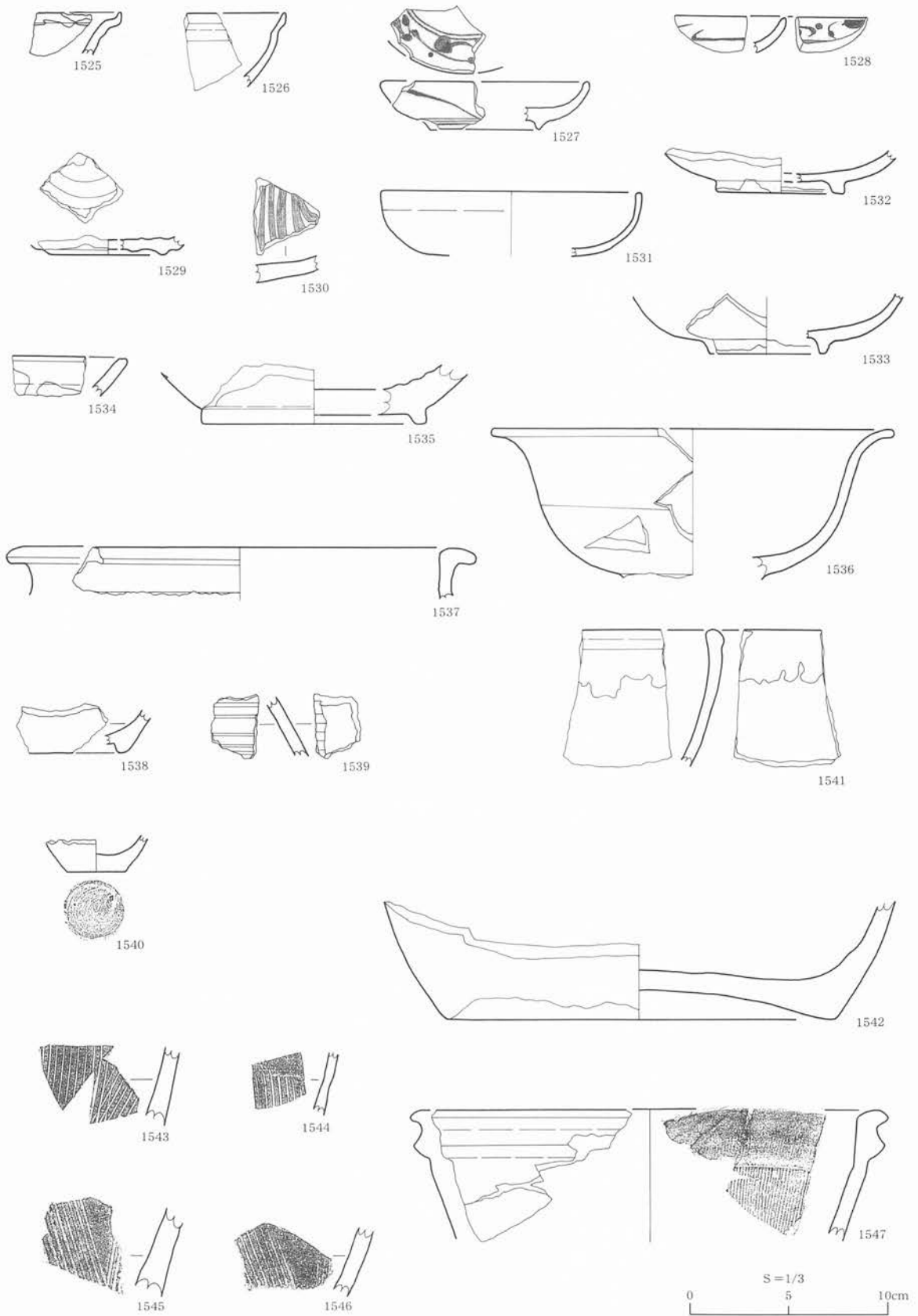
(b)国産近世製品 器種別に記載する。

**碗** (1550~1568) 肥前(1550~1559)、瀬戸(1560、1561)、平清水(1566~1568)、不明(1562~1565)がある。肥前産染付碗は大部分がIV期(1690~1780年代)に該当するもので、二重網目文、梅樹文を描くくらわんか碗が主体である。1550は外面唐草文が描かれるもので皿かも知れない。1559は青磁碗の口縁部である。1560、1561は瀬戸産19世紀代の製品で端反りの小碗である。1562~1565は肥前系19世紀代の製品と考えられるが産地は不明である。1566~1568は呉須の発色が濃い平清水19世紀代の製

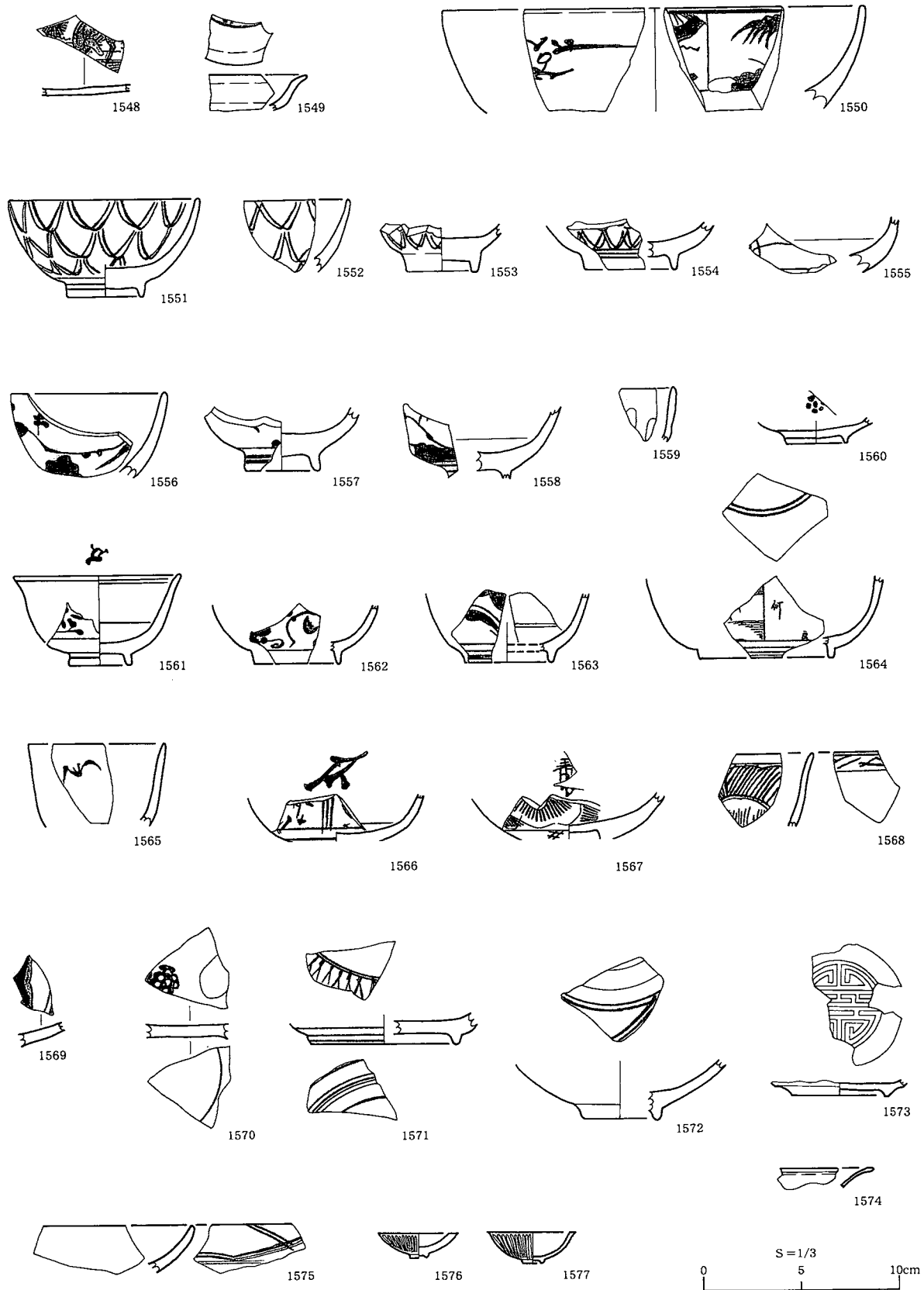


第117圖 遺構外出土陶器 (1)





第118图 遺構外出土陶器 (2)



第119图 遺構外出土磁器 (1)



第120図 遺構外出土磁器 (2)

品である。

**皿 (1569~1575)** 1569は小破片だが大皿の一部となる可能性がある。1570~1572、1575は肥前IV期に相当する。1572は見込蛇ノ目釉剥ぎである。1573はいわゆる壽文皿、1574も同じ製品の口縁部であろう。

**紅皿 (1576、1577)** 型打ち成形で口唇部が平らになる19世紀代の製品である。

**瓶 (1578~1582)** 内面無釉、もしくは一部無釉の袋物類を一括した。1578~1580は肥前産III期製品、1581~1582は時期不明で18~19世紀のものと思われる。

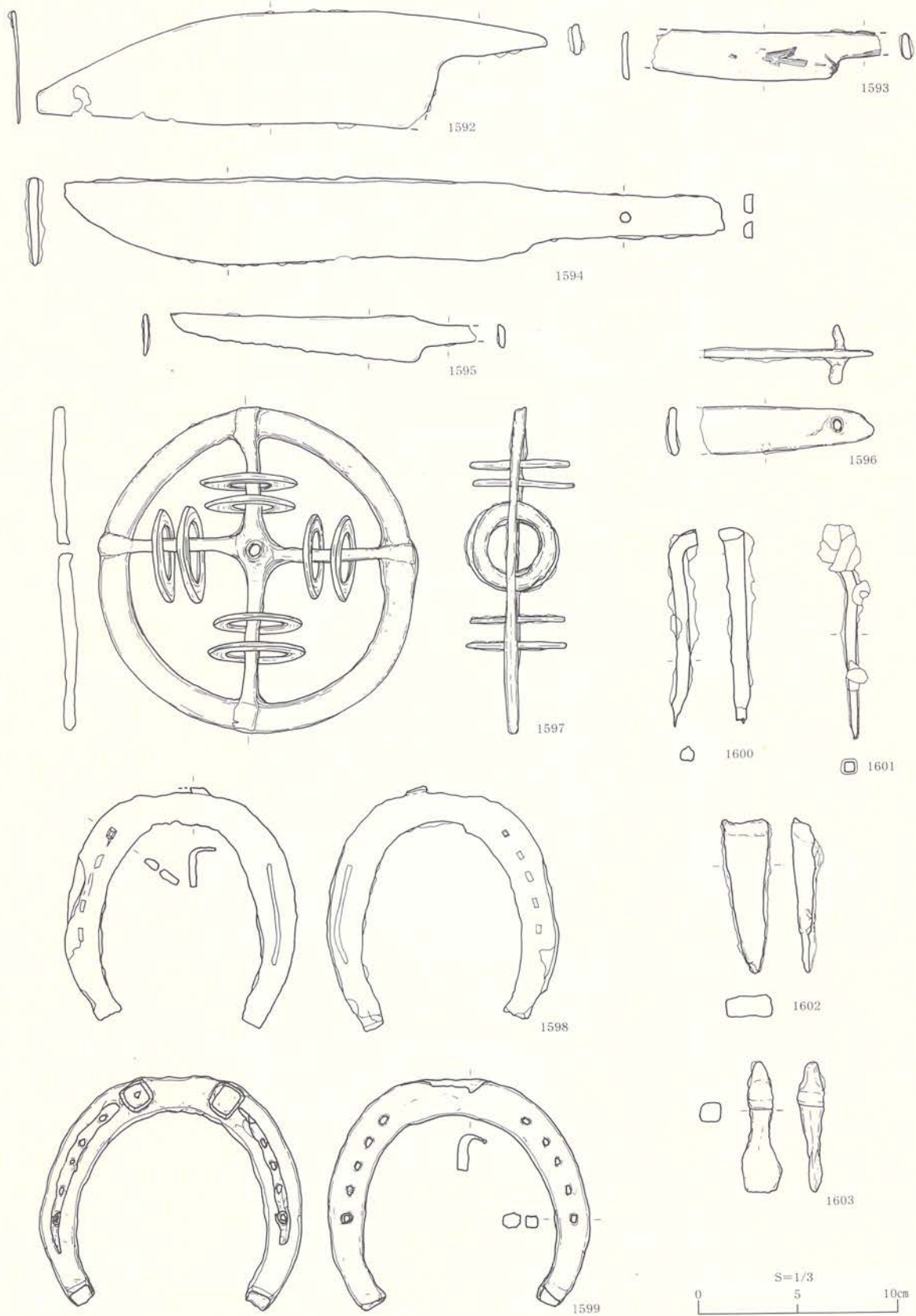
**火入れ (1583)** 筒形を呈し内面は口縁部のみ施釉されている。肥前産IV期製品である。

**蕎麦猪口 (1584)** 外側に開く底部破片で見込にコンニャク印判が施される。これも肥前産IV期製品である。

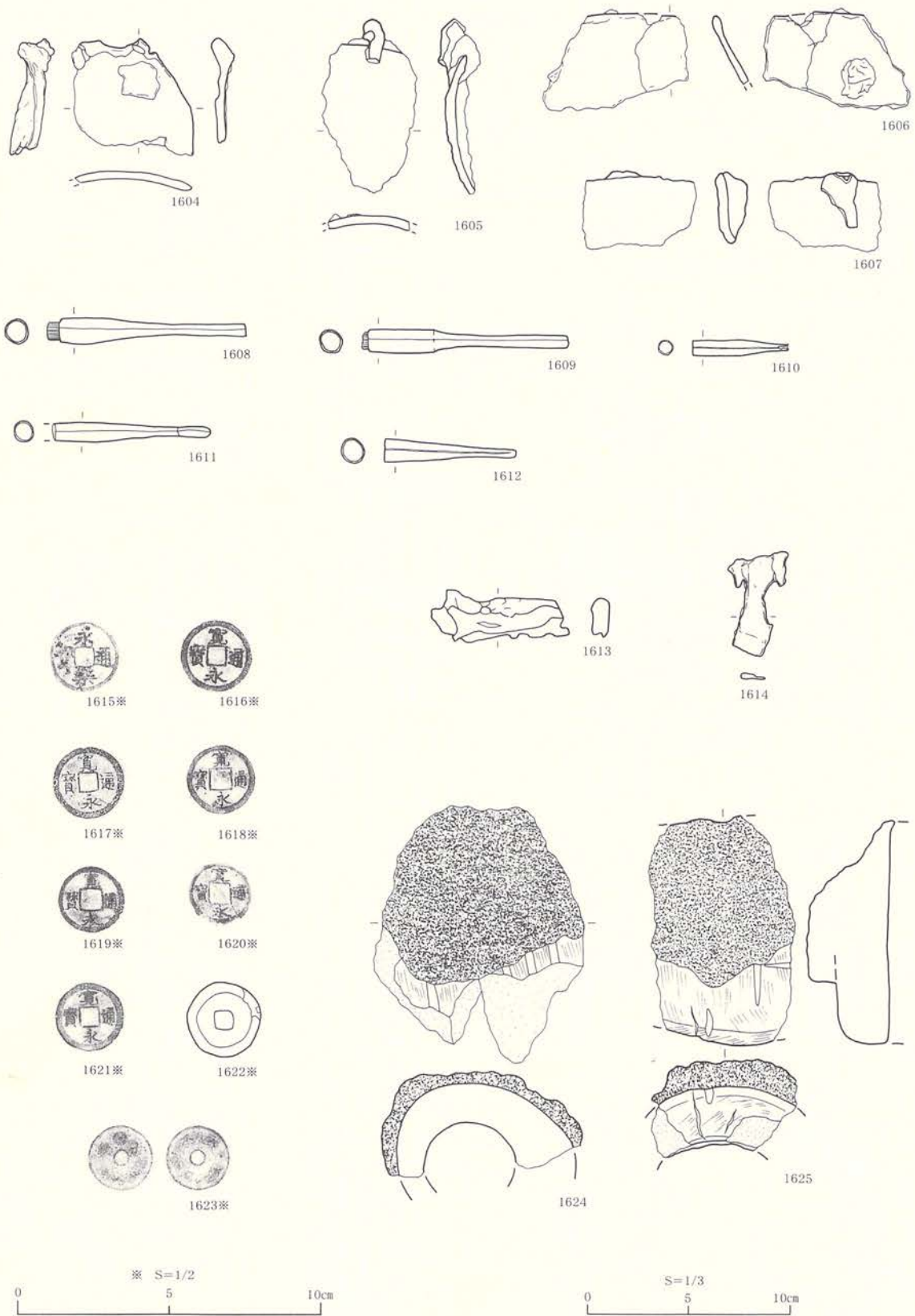
**蓋 (1585)** 産地不明で19世紀代の製品と考えられる。

**(c)明治以降製品 (1586~1591)** 蓋、鉢、碗、皿がある。いずれも産地不明で濃い発色の染付が施されている。1589、1590は蛇ノ目凹高台である。

③ 金属製品 (第121図1592~第122図1614、写真図版63)



第121圖 遺構外出土金屬製品 (1)



第122図 遺構外出土金属製品 (2)

1592は切先が尖る柳葉包丁。柄の先端も尖る。1593～1596は刀子で大小の別がある。1593は刀身に鞘の木質が付着している。1594は山刀と呼ばれるやや大振りの刃物で目釘穴があり刃の中央部がすり減ってやや湾曲する。1595は規則的な刃こぼれが見られる。1596は柄部のみが残存で目釘が残る。1597は百万遍と呼ばれる葬具で外環に十文字を取り付け2枚づつ、計8枚の遊動小環を通して。中心孔を軸に通し念仏を唱えながら廻して使用するものである。当地方では戦後まで使用されていたという。1598、1599は蹄鉄で両者とも片側に5ヶの釘穴が開けられている。1600、1601は断面方形の角釘である。1602はたがね、1603は鑿の先端と思われる。

1604～1607は5mm程度の一定の厚さで湾曲する板状鉄製品で、鉄鍋の破片と思われる。1604、1607は口縁内面側に突起断片が残ることから内耳鍋破片と考えられる。また1605は外面側に環状の吊手が取り付く。いずれも一部分のみの残存で全体形状は不明である。1608～1612は煙管吸口である。1608と1609は羅字の一部が残存している。1613と1614は不整形な薄い銅片で鑄造時点で生じたバリ、もしくは流出した湯の一部と考えられる。

#### ④ 銭貨 (第122図1615～1623、写真図版64)

遺構外では図示した9点の出土である。1615の永楽通宝(1408年初鑄)、1616の古寛永一文銭(1636年初鑄)、1617～1621の新寛永一文銭5点(1697年初鑄)、1622の鉄銭(1739年初鑄)、1623の十銭銅貨(大正十一年)がある。出土地点は近世遺構が所在するA・E区その他、C・H区I～II層から出土する。

#### ⑤ 羽口 (第122図1624、1625、写真図版62)

図示したものはH区H14・G14グリッドの表土下位で検出された鉄滓が集中する層から出土した2点である。1～3号炉及びその周辺から出土したものと比較し胎土、色調が異なり灰色で風化が進んでいる状態である。1625は先端の溶解が進んでおり残存長が11.5cm程まで短くなっている。

#### ⑥ 鉄滓

H区の羽口の項で記した部分から集中的な出土がある(第108図)。A・E区と異なり灰色を呈しスポンジ状の破断面を見せる鍛冶滓が主体で、本遺跡には他に見られないものである。鉄滓の層は現道の路盤下に広がっており、道路敷設工事の際に砂利の替わりとして他所から運搬されたものである可能性が高い。これより斜面上部の道路北西側では鉄滓は表採できず製鉄関連遺構も確認できない。

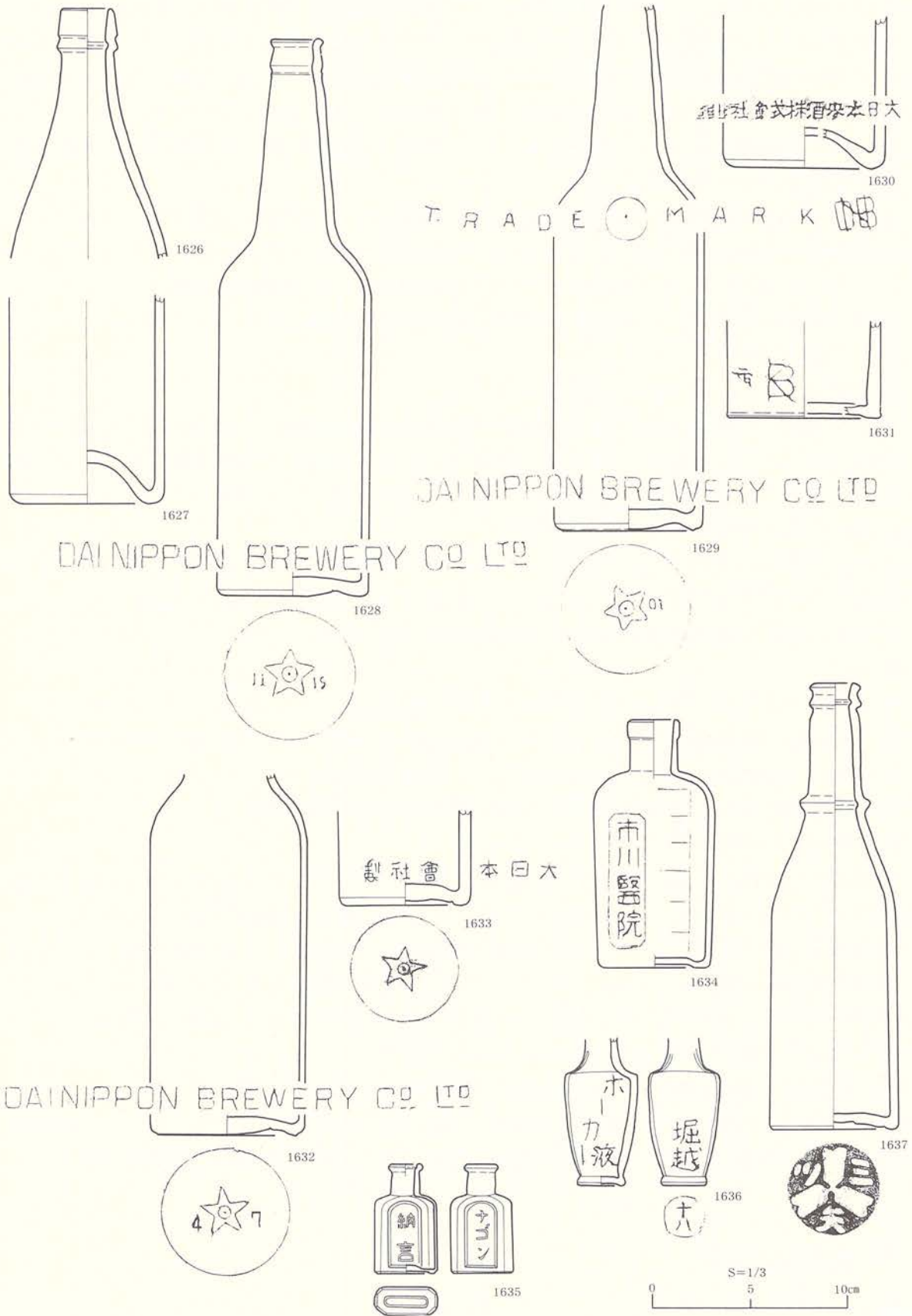
#### ⑦ 自然遺物 (写真図版66)

**動物遺存体** (第24表) 近世遺物が主体となるA区O3・P2グリッドI層～II層上部を中心として哺乳類遺存体が出土している。近世のものであるという直接的な証拠はないが、出土層位とC区捨て場から出土した縄文晩期の遺存体と比較して骨の残存状況が非常に良好な点から近世後半～近代に属するものとしてここに記載する。哺乳類遺体はイノシシ、ニホンジカ、ウシ、ウマがある。主体はシカで角、下顎骨、四肢骨他の破片が見られる。次いでイノシシの頭骨(上下顎骨)が多い。いずれも残存状況は良好で齧歯類による傷が見られるが人為的な解体痕(カットマーク)は確認できない。

**琥珀** (第23表) 確実に縄文期のものである捨て場下部出土の2点以外に5点の原石と1点の玉製品破片が出土している。縄文のものに比較し透明度が高い。玉に加工している1点(写真D)は破損品で表面は面取り加工がなされる。直径推定11mm、孔径は4mmである。また1点(写真C)は9号墓壙の副葬品である。

## 5. 近代

### (1) 遺構外出土遺物



第123図 遺構外出土ガラス製品

A・E区を中心に陶磁器、金属製品、ガラス製品などが出土している。陶磁器は銅版、型紙摺りの磁器染付碗皿類、在地産と思われる陶器鉢類などがある。金属製品では前項に示した時期不明の製品の中に近代以降の製品も含まれると思われる。ガラス製品はA・E区などから戦前の瓶類が出土しており一部を掲載した。

① ガラス製品 (第123図1626～1637、写真図版65)

ビール瓶 (1626～1633)、薬瓶 (1634)、化粧水瓶 (1635、1636)、サイダー瓶 (1637) がある。ビール瓶はA区P2グリッドで集中して出土した。1626、1627はコルク栓、揚底の瓶である。王冠の使用が開始された明治40年 (1907年) 以前のもと思われる。1628～1632は大日本麦酒株式会社に関わる刻印が見られる。1628、1629、1632の「DAI NIPPON BREWERY CO LTD」の文字は類似するが同一の型ではない。1630、1631、1633は第2次大戦中に漢字を使用した年代のものであろう。1634の薬瓶は「市川内科醫院」の陽刻がある。久慈市内の市川内科医院院長市川宏氏の御教示によれば、氏の祖父が明治40年頃久慈市内で開業しており、戦後は物資不足によりガラス瓶はほとんど使用できなかったとのことで、「醫」の旧字体から見て明治40年～昭和初期に使用された薬瓶である。1635は「ナゴン」、1636は「ホーカー液」の陽刻がある。戦前に使用された化粧水の容器である。1637は底面に「三ツ矢」と商標の矢の絵が陰刻されるサイダー瓶である。

出土した瓶類には破損していないものも相当含まれており、A区で検出した墓所に花を供える等の用途に使われた可能性がある。

第12表 柱穴状ピット一覧表

A区										F区
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1
開口部径(cm)	56×50	33×30	20×18	25×23	33×30	28×25	34×24	50×45	21×21	15×13
深さ(cm)	52	42.5	22	6.5	28.5	44.5	33.5	35	16	24

E区

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
開口部径(cm)	20×16	31×30	25×23	40×40	20×18	39×37	75×63	28×26	40×38	35×32
深さ(cm)	41	38	16	27	73	23	49.5	17.5	15.5	23.5
No.	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
開口部径(cm)	57×30	32×28	27×25	32×30	35×33	25×23	25×25	25×25	27×22	30×29
深さ(cm)	18	16.5	11.5	14.5	16.5	15.5	114.5	17	15	18.5
No.	21	22	23	24	25	26	27	28		
開口部径(cm)	26×21	27×23	35×28	30×29	22×20	20×20	36×35	20×20		
深さ(cm)	16.5	32.5	16.5	21	19	13.5	10.5	10.5		

H区

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
開口部径(cm)	30×25	70×60	35×35	34×33	45×37	32×32	53×47	37×35	42×40	43×33
深さ(cm)	14	23	43.5	13	18.5	22.8	18.5	19.5	14.5	19
No.	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
開口部径(cm)	41×34	28×28	18×17	37×35	50×50	45×40	38×35	40×33	32×20	33×20
深さ(cm)	15	16	43	39	41.5	30	12	16.5	18	8.5
No.	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
開口部径(cm)	49×37	53×43	28×27	43×33	50×45	53×44	37×34	46×33	40×37	
深さ(cm)	26	37.5	12	13.5	31	28.5	40.5	25	10	



## V 遺構、遺物の検討

### (1) 縄文時代の遺構

#### ① 住居跡

H・J区で検出された5棟の竪穴住居跡がある。出土土器、新旧関係から推定される時期は1号住居跡が床面に倒立していた土器(第16図1)から中期末、2号住居跡は1号住居跡に切られるが同一地点での拡張の可能性が高く、時間差はあまり大きくないものと推定される。3・4号住居跡も同一地点で重複している状況で、出土土器から晩期中葉の遺構と捉えられる。5号住居跡は炉の上部に置かれていた土器(第17図35)他から晩期中葉～後葉と考えられる。

中期末の1・2号住は方形、ないし円形の石囲炉を有している。両者とも付属施設を持たない単独の炉で、位置は住居中央から斜面下方の南側に若干寄っていることが指摘できる。岩手県中部～北部では該期の住居跡の炉としては、石囲炉に前庭部が伴う広義の意味での複式炉が一般的とされている(中村1982)。この場合、前庭部には石囲を伴う掘り込みや単なる掘り込みなどが相当するが、本遺跡の2例とも該当する付属施設はない。こうした構造が岩手県北部以北の複式炉分布圏周縁地域の特徴と言えるかどうか検討の余地がある。

晩期中葉～後葉の3～5号住は中央部に石囲炉を持つ円形の住居跡である。このうち3号住では壁際に柱穴が配置されているが、片寄りがあり支柱穴配置は不明である。晩期の住居跡は県北を中心に近年検出例が増加しており、規模や炉の位置はこれらと同様の特徴を示す。5号住の炉上部から出土した壺形土器は、炉廃絶後に設置されたものと判断できるが、どういった意図によるものかは不明である。

検出された住居跡は上記の5棟であるが、C区捨て場からの多量の遺物出土や、A区からの遺物出土がH区と同程度であることを考えれば、A～C区周辺の調査区外に居住域が存在していた可能性が高い。

#### ② 土坑

E区西端で長楕円形と捉えられる9・11・13号土坑がある。分布はE区J6グリッドの10m四方の範囲にある。9・11号は長軸2mを超え、底面に小穴や立ち上がり際の周溝を伴う。13号土坑はやや小規模で付属施設はない。遺物は13号土坑から晩期中葉～後葉に比定される土器が出土している。9・11号土坑は出土遺物がなく断定できないが、検出面から同時期か近い時期の遺構と思われる。

11号土坑のように底面に周溝を持つ楕円形の土坑は八戸市風張(1)遺跡(坂川1994)の例などから見て土壙墓であると思われる。また9号土坑は四隅に柱穴状のPitを有しており、蓋のような上屋構造の存在を窺わせる。この特徴も貯蔵穴などとは異なる遺構の機能を示唆しており、11号土坑との形態、規模の類似から9号土坑も土壙墓であった可能性が考えられる。推測を重ねることになるが、13号土坑を含めこれら3基の土坑は土壙墓であり、晩期中葉～後葉の墓域がE区周辺に存在した可能性がある。

H区で検出した土坑は1m以上の深さを持つ5～7号土坑や、深さ1m未満でも円形で壁面が直立するものが多く、時期は不明であるが貯蔵穴としての性格が考えられる。

#### ③ 土器埋設遺構

E区東端で検出した晩期後半の土器を埋設したものが1基ある。底部付近のみの残存で土器の時期、埋設方法など不明な点が多いが、一般的な晩期の埋設土器から考えてこの例も胎児か新生児の埋葬用であると思われる。調査区内では1基のみの検出だが、削平の状況や調査区の制約から周辺に同様の遺構が存在していた可能性が考えられる。縄文時代晩期では墓域が居住域と隔絶されて設定される構造が指摘されており(斎

藤・酒井1994)、前述のE区西端土坑群が土壙墓であると仮定した上でだが、この土器埋設遺構と併せてE区を中心とした部分が本遺跡晩期集落における墓域の一端を示すと思われる。

#### ④ 捨て場

広い意味では遺物が出土する包含層は捨て場に含まれるであろうが、ここでは集中的に遺物が出土したC区捨て場について取り上げる。捨て場が形成された凹地は、完掘後の地山面観察結果から北西～南東方向に延びる地滑りによって生じた凹地と判断できる。南東側は水田造成工事により消滅しているが、北西側は西側の急崖下からの湧水付近まで延びる(延長100mほど)と考えられる。調査区外の北西側からの表採遺物が豊富である点、現在の地表面に見られる傾斜変換線が捨て場の延長線と重なる点からも窺える。

捨て場の時期は出土土器から晩期前葉後半～中葉前半が中心と把握される。同時期もしくは後続する時期の住居跡がH区から見つかっているが、多量の出土遺物を生じた集落の居住域は、捨て場の形状、位置から見てその北側ないし南側の平坦地に存在していた可能性が高いと言える。

捨て場出土土器は大部分が破片の状態であるが、少数ながら全く完形の土器を含んでいる。完形土器にはミニチュア土器を含め比較的破損しにくいと思われる小型の土器が多いことも事実である。土器以外の遺物では、石器は小型の石鎌、石匙は破損していないものが多い。土製品では土偶は全て破損しているが破損しにくい小型の土製品では完形のものを含む。こうした点から遺物の種類による破損しやすさかどうかが要因となるであろうが、捨て場が日常生活に伴う廃棄物の処理場であるとすれば使用可能な完形土器の出土は疑問とせざるを得ない。単なる廃棄活動とは異なる行動、意識が働いていたとも受け取れる。

II b～II c層では非現地性の焼土ブロックが介在している。縄文時代後・晩期の捨て場でこのような焼土ブロックを伴う例は多い。C区捨て場では焼土中に焼成を受けた微細な動物の骨片が見られるが、焼土の形成過程について検討する材料は乏しい。想像を逞しくすれば、何らかの火を使った祭祀、もしくは葬送儀礼が行われ、生じた焼土を特別な存在として集めた後に廃棄した、或いは家屋の焼失や意図的な放火による廃屋化の片付けに際して、焼土を廃棄したなどが考えられよう。

前述したように完形土器が出土する状況も含めれば、捨て場の性格としては廃棄の場所であると同時に何らかの祭祀的活動の場であるという可能性を考慮に入れる必要がある。

### (2) C区捨て場出土土器

層位的な変化については本書に掲載した任意抽出資料では数量的傾向を押さえる事はできず大まかな状況しか指摘できないが、主体となる大洞BC式～C1式に相当する土器の層位的出土状況を見ると、大きく上層のII b・II c層と下層のII d・II e層とで両者の割合が逆転しているように取れる。すなわち鉢1～3類などの口縁部文様に典型的な羊歯状文を有する土器は下層で主体を占めており、鉢形体部上半文様帯や浅鉢形土器に展開する雲形文は上層出土資料に目立つ。更にI～II a層では大洞C2式段階の土器が比率を増している。層を超えた接合関係は上下の隣接する層間以外にはわずかで、包含層堆積以降の攪乱は少ないと考えられる。すなわち資料の分析次第では大洞BC式～大洞C2式に至る変遷を具体的に論及できる好資料である。捨て場中央部に位置し包含層の細分が可能なVIIブロックについては、全ての口縁部個体と有文体部個体を抽出しており(本書不掲載)数量分析が可能であるが、報告者の怠慢により本書では果たせなかった。

異系統土器としたグループは突起や口縁部装飾の状態、出土状況から見て晩期前葉～中葉段階の土器とせざるを得ない。しかし既述のように大洞系精製土器には含め難い非常に崩れた文様を展開させるものが多い。在地の晩期前半土器群の中には文様の類例を見出す事も困難である。他の属性でも明るい色調の土器がほ

とんどで、器外面のミガキが希少である点が異なる。こうした胎土、製作技法の違いは他地域からの搬入品である可能性を示唆すると思われる。あるいは相当の広範囲で規格性を保っている大洞系土器、中でも精製土器における他遺跡との共通性を見れば、それらが生産の拠点であった集落からの搬入品であり、異系統土器としたものが実は在地集落の製品であるという「逆の可能性」も少々飛躍が過ぎるが完全には否定できない。いずれにせよ胎土分析を行っておらず確証はない。

前者であるとした場合、大洞式土器分布圏以外のどの系統、地域と関係するものかが問題である。a文様とした横長の弧線を入り組ませるモチーフ、b文様とした入組S字状文が連続するモチーフは、松前町高野遺跡（峰山ほか1974）V群土器などの北海道道南に分布する晩期前葉段階の土器（野村1984）との共通点があるという印象を受ける。c～e文様に類似するものは不明であり、また道南の粗製土器に特有の爪形文は本遺跡では見当たらないといった差異もあるが、本遺跡異系統土器と何らかの影響関係を想定して差し支えないものと思われる。こうした北海道系の土器は青森県陸奥湾沿岸～津軽地域では大洞系土器群に伴って少量出土する遺跡が散見されるが、太平洋側、特に岩手県域での出土例は不明である。北海道系土器が一定量まとまって出土したとなれば、遺跡の性格はもとより大洞式土器群とその外縁地帯との関係に問題が及ぶため、今後より詳細な検討が必要である。

### （3）製塩土器

#### ① 製塩土器の特徴

C区捨て場、及びA区遺構外から製塩土器が出土している。「第IV章1.（4）⑥製塩土器」で個々の特徴については既に述べたが、時期、地域による変異を持つと考えられる法量、器形、口縁部と底部の状態は次のようにまとめられる。

法量：復元できた資料数が少ないが口径は20～28cm、器高は30cm程度になる。極端に小型や大型となるものは見られない。

器形：砲弾形で体部上半～口縁部は直立に近いが、外傾のまま口縁部に至るものとやや内湾して口縁部に至るものの両者がある。

口縁部：不規則に摘み上げただけの状態をとどめているものが多数である。平坦に整形しているものは希で、波状口縁や刻み等の装飾は全く見られない。

底部：小径（2cm前後）の底面を持つものが多数である。底面が平坦面になるものと、中央部が若干凹む揚底風のものがある。少数ではあるが丸底になるものが存在する。木葉痕は見られない。

これらの点を含め、個体による差が目立つ状況で、下層Ⅱe層から上層Ⅱa層出土の間で一定の方向性で変化するといった傾向は窺えない。ただし、A区出土の丸底になる復元個体（第69図938）があり、A区遺構外出土土器（第89図）がC区捨て場より後出する大洞C2式～A式のものが多いことから、大洞C1式からC2式の間では小径の平底から尖底風丸底への変化が有り得る。

上記の特徴を他遺跡例と比較してみる。

まず岩手県では種市町ホックリ貝塚から出土した製塩土器が著名である（近藤1984）。紹介されている資料には直線的に外傾する口縁部破片、尖底ないし丸底で粘土帯の積み上げ痕を残す底部と、小径の底面を有する底部資料が混在している。後者は大芦Ⅰ遺跡出土の底部破片とほぼ同様の特徴を持つ。相伴土器は明確ではないが大洞C2式～大洞A式段階と思われる。また、同町ゴッソー遺跡（千葉1996）では輪積痕が顕著な薄手無文の口縁部片があり製塩土器と推定されている。伴出土器は不明である。他に同町内の晩期遺跡

出土製塩土器が種市町立歴史民俗資料館所蔵の資料中にあり、本遺跡出土のものと同様の特徴を有しているが、遺跡名が不詳となっている。これらの三陸地方北部における製塩土器の特徴としては、大洞BC式～C1式段階が本遺跡C区捨て場のものを代表させることができる。また大洞C2式～A式段階では丸底ないし尖底風丸底になるホックリ貝塚や本遺跡A区出土の形態が一般的になると思われる。

青森県域では南部地方の例として八戸市八幡遺跡（藤田ほか1988）がある。ここでは無文製塩土器の他に縄文地文の製塩土器が報告されている。口縁部は緩い波状を呈するものが多く、底部は縄文地文の土器で平底のものが存在する。出土は大洞B式～大洞BC式を多数出土した捨て場からのものである。

更に陸奥湾沿岸では複数箇所の製塩土器出土遺跡が報告されている（北林1972、1973）。捨て場から大洞C2式に伴い多数の製塩土器が出土した平館村今津遺跡（岡田1986）を例に取り上げれば、推定口径が40～50cm、底径が10～15cmの平底の深鉢形であり、法量の個体差が小さい規格的な土器群とされている。また全てが波状口縁である点が特徴的である。この地域では青森市大浦貝塚（北林1972）や横峰貝塚（福田1985）などでも全てではないが波状口縁主体となっている。

一方東北南部では、仙台湾周辺において松島湾を中心に多数の製塩土器出土遺跡が集中する。同地域における製塩土器について集約した加藤道男氏の研究（加藤1989）では、大洞C2式段階の特徴として20～30cm前後の口径を持つ単純な深鉢形で、5～6cm前後の底径となる平底のものが圧倒的に多い。底面には木葉痕・網代痕が多いという点が挙げられている。大洞A式段階では尖底あるいは尖底風の丸底が特徴とされている。底部の変化については、大洞C2式段階の製塩遺跡である里浜貝塚西畑北地点（小井川・加藤1988）、大洞C2式～大洞A式段階の製塩土器が層的に出土した同西畑地点の検討から、底部が漸移的に平底から尖底に移行している状況が捉えられている（会田1997）。

本遺跡C区捨て場出土の製塩土器は共伴遺物より大洞BC式～大洞C1式にかけてのものであることは確実であり、上記の陸奥湾沿岸地域や松島湾地域で主体となる土器群よりやや先行し、八戸市八幡遺跡の製塩土器に後続する時期のものである。両地域との比較では陸奥湾地域の波状口縁や八幡遺跡にある緩い波状口縁、縄文地文の製塩土器は本遺跡では全く見られない。また底部は今津遺跡などでの10cmを超える平底に比較すると、本遺跡の底部はむしろ尖底に近いと言える。

松島湾周辺とでは法量や器形、口縁部形状は同一と言って良い。底部は平底から尖底への変化の中で大洞C2式後半段階に2～3cm程度となり、本遺跡の底部と類似する。こうした点から見れば、本遺跡は陸奥湾地域に近い位置にあるものの、製塩土器の特徴では仙台湾地域との共通点が多い状況と取れる。

また、前述したように本遺跡を含めた三陸北部地方では大洞C1式～C2式にかけて尖底化が生じたとすれば、仙台湾周辺地域での変化を先取りした様相が考えられる。ただし、両地域の間隙を埋める三陸地方南部地域の実態が不明であり、また底部形態の変化と製塩炉の構造との関係が明確に把握されていないため、それぞれの地域で個別に変化しているのか、何らかの連動があるのかなどについては今後の課題である。

## ② 製塩土器出土の背景

問題となるのはこれらの製塩土器が本遺跡で出土するに至った経緯である。本遺跡は現在の海岸線から直線距離で約9kmの位置にある。三陸海岸における縄文時代の海岸線は早期以降後退し、晩期には現在とそれほど変化がないとされており（松本1988）、かつ夏井川沖積平野は急勾配のため海岸線が侵入しにくい。加えて遺跡の標高は160～180m前後であり、海水利用の作業を行っていたとは考えられない。

製塩工程のうち製塩土器を使用した作業としては煎熬と焼き塩が想定されている（近藤1984）。煎熬は海水もしくは鹹水を煮沸する工程であり、海岸で行われる作業である。本遺跡の地理的環境から遺跡内で煎熬

作業を行ったとは考えにくい。焼き塩は古墳時代以降に内陸遺跡でも行われていることが明らかになっているが、縄文時代の実態は不明である。

煎熬の過程では塩水を長時間煮沸することにより、器壁の剥離・亀裂、その結果としての土器片の細片化、金属イオンや化合物の析出による器面の変色が顕著に現れる（近藤前掲）。本遺跡出土の製塩土器は破片の大きさについて見ると極端な細片化は見られない。言い替えるとその他一般の精製土器、粗製土器と比較し細片化が著しい、或いは接合率が極端に低いといった現象は、データの集計に基づくものではなくサンプリングエラーも有り得るためあくまで感覚的なものだが、指摘できない。また、器面の剥離現象は多いが、全ての製塩土器で顕著に見られるといった状況ではない。剥離部分を含まない破片も存在する。こうした点は実際に煎熬作業に使用された海岸部に位置する製塩遺跡出土の土器と比較して異なる。

以上から見て、本遺跡捨て場に製塩土器が廃棄されるまでのプロセスとしては、海岸で海水、鹹水を利用した煎熬作業を行った際に、偶然にも破損しなかったか破損が軽度で済んだ、或いはそもそも製塩作業に使用しなかった製塩土器が、精製した塩や塩加工品の容器に転用され本遺跡に運ばれた、という経過が想定される。これらの製塩土器の製作地、製作者、製塩作業の従事者については、本遺跡の住民が必要に応じて遺跡で製作した製塩土器を海岸に持ち込み製塩作業を行ったいわゆる「出作り」の可能性と、海岸部の住民が製作、使用した製塩土器を製品の容器として本遺跡に持ち込んだ「交易」である可能性の2通りが考えられる。この点についてはホックリ貝塚より先行する時期の製塩遺跡が沿岸部に未発見であること、及び胎土、製作手法から土器の製作地を推定可能かどうかといった検討を行っていないためこれ以上は言及できない。

他遺跡における内陸部での製塩土器発見例としては、東北地方では宮城県大和町摺萩遺跡（阿部ほか1990）、同県田尻町中沢目貝塚（須藤1984）、山形県村山市宮の前遺跡（山口ほか1995）、同県尾花沢市漆坊遺跡（岡村1997）などがある。いずれも土器の胎土他の特徴から松島湾周辺の製塩土器が内陸に運搬されたものと推定されており、移動距離は30km～60kmに達する。摺萩遺跡では完形に復元された個体があり剥離現象などが見られないことから、実際には製塩工程に使用しない土器を製品としての塩の運搬に使用し、その後煮沸用に転用されたものという想定がなされている。

また関東地方では、内陸での製塩土器出土遺跡の分布が東北地方と異なり顕著に見られる。塩そのものや魚介類などの塩蔵物としてかなり普遍的に流通していた状況が把握されており、遺跡の立地条件、製塩遺構のあり方から、生産地としての海浜部の製塩遺跡と消費地としての内陸部の製塩土器出土集落との間に想定される製塩土器を媒介とした流通システムの構造が捉えられている（寺門1986、高橋1996）。

以上のように海岸以外の遺跡で発見される製塩土器の位置づけには、塩や塩加工品の運搬用という性格が想定されており、本遺跡の例もこれに含まれると判断される。今後は当地方での晩期前葉に遡る土器製塩生産拠点となり得る遺跡の発見が課題となろう。

#### （4）近世製鉄遺構

A区で検出された1・2号炉、及びE区の3号炉がある。いずれも楕円形に掘りくぼめた土坑の底面が強く焼成を受けた遺構で、2・3号炉の火床面中央には還元面が生じている。規模も同程度で長軸2.6～1.7m、幅1.3～0.7m程になる。焼成の強さと周辺に排滓層が形成されていることから製鉄関連遺構であることは間違いない。遺構の時期は1号炉埋土中から18世紀代肥前産磁器、3号炉埋土中から17世紀～18世紀代の肥前、瀬戸・美濃産陶磁器が出土しており、両者の操業時期はおよそ18世紀代と捉えて差し支えないと見られる。2号炉についても1号炉の作り替えないし先行する炉の可能性が高くほぼ同時期のものと考えられる。

北上山地北部で調査されている該期の製鉄炉は、炉床の除湿を目的として大舟と呼ばれる楕円形の地下施設を築き繰り返し内部で火を焚いた後に木炭を充填している（佐々木ほか1992）。地下構造の規模は玉川鉄山では長軸6 mに達する。本遺跡検出遺構と比較すると規模、木炭充填の点で異なっており、上部が削平された製鉄炉の地下構造と捉えるのであれば簡略化した極めて小規模なものである。

鉄滓の分析結果（付編）によれば1・3号炉とも精錬鍛冶滓（大鍛冶滓）が主体で、選別した大部分の鉄滓も外観が同様に精錬鍛冶滓が出土鉄滓の大部分と言って良い状況である。また鍛造剥片も3号炉南側、2号炉埋土中などで一定量検出されている（第10表）。江川鉄山（羽柴ほか1996）で検出された大鍛冶炉（1号鍛冶炉）では長軸1 m余りの隅丸長方形を呈する地下構造を伴っており、底面が焼かれローム土、焼土、炭化物で埋め戻されている。本遺跡では焼成が入念である点が異なるが構造、埋土の状況は同様である。これらの点から検出した3基の炉は大鍛冶炉地下構造の可能性が高いものと思われる。

1・2号炉周辺ではO3グリッド北東部、P3グリッド北西部など排滓場としては若干離れた場所から、また3号炉周辺では、より斜面上部に近いJ6ス・ターグリッドなどからも相当量の鉄滓、羽口が出土しており（第105～107図）、調査区外に未検出の製鉄遺構が存在するものと思われる。3号炉では製練滓（付編資料No.5・6）も検出されており製鉄炉が上部に構築されていた可能性が高い。また1・2号炉の南には隣接して1号竪穴状遺構、10号土坑が検出されている。炉との位置関係から斜面下部に鉄滓をかき出す作業等のスペースであった可能性がある。A・E区I層を中心に出土する陶磁器も該期のものが主体であり、製鉄、精錬作業に関連する施設、居住施設等が周辺一帯に展開していたものと思われる。

三陸北部地域では洪積世段丘砂鉄資源が非常に豊富で近世製鉄遺跡の分布が集中する。特に大野村、軽米町を中心とした砂鉄産地である丘陵地においては製鉄遺跡の分布密度が高い（佐々木ほか1992）。本遺跡が含まれる夏井川上流域も集中地帯の一角をなす。

田村栄一郎氏の鉄山分布踏査図によれば「大芦銭吹」なる遺跡名が見られる（田村1987）。詳細については述べられておらず本遺跡で検出した製鉄関連遺構が該当するのかどうかは不明だが、第二章（2）で紹介したH区東側で表採された羽口の存在、表採地点で排滓場を確認していることなどから、検出遺構以外にも大芦地区の集落外縁部に展開して鉄山が営まれていたと考えられる。18世紀後半に横行していた密銭製造と関わりがあるかも知れない。

#### （5）近世掘立柱建物跡

H区で検出した1号掘立柱建物跡は1間4間の長方形建物である。第6図H区遺構配置図に示したように建物跡の付近で同程度の柱穴状ピットが集中しており、他にも建物跡が存在したと推定される。構造は、柱間寸法が桁行が2 m（6.6尺）を基調とし、梁行は2.5 m（8.2尺）である。建物面積は約19.3㎡となる。遺構の時期は柱穴に伴う遺物はないが、第110図に示したような16世紀後半ないし末～17世紀初頭を中心とした時期の陶磁器が建物跡内部を含む周辺区域から出土しており、遺跡内では目立って多い状況にある。また、16世紀末以降増加する6.5尺の柱間寸法にもほぼ合致しており、根拠は弱い但遺構の年代については16世紀末～17世紀初頭と考えたい。該期の遺構が他にないため遺跡全体の中での位置づけや、山間におけるこのような小規模な建物の性格は不明である。一般的な集落に付随する小屋的な建物か、あるいは戦闘、防御に関連した機能を持つ施設であったかも知れない。中国産磁器の出土は後者を支持しているように思われる。

E区で検出した2・3号掘立柱建物跡は、どちらも一部分のみの検出で柱間も不均等であり建物全体の構造は不明である。また遺物の出土がなく年代も確定できない。西側に3号炉跡が所在することを考慮に入れ

れば、同時期の鍛冶関連作業に付随する作業小屋、倉庫的な性格が与えられる可能性を持つ。

## (6) 近世墓壇

### ① 墓壇の分布、形状

A区、F区から2箇所の墓壇集中域が検出された。後者は調査区の制約で2基のみの検出だが、地元の方の話から調査区外の南側に複数の墓が残っているとこのことでA区同様に近世屋敷墓の一部と捉えて良いものと思われる。またA区も調査区西側に墓域が延びていることが明かである。

遺構の形状は方形基調が主体である。人骨の出土状態からは埋葬姿勢を判断できるものが少ないが、規模から見て座葬によるものと思われる。また出土遺物のうち埋葬用具に関わる遺物として釘（1・2・5・6・8・9・10号墓壇）、木棺部材（7号墓壇）がある。これらの出土がない墓壇については棺を使用せず、桶や蓆包みによる葬法が取られた可能性もあるが、後述のように遺構の時期が近接していることから木棺座葬がほとんどであると思われる。

### ② 被葬者

出土人骨から推定される被葬者の年齢・性別は以下のようになる。

1号墓壇(110×100cm)年齢不明	性別不明	8号墓壇(88×?cm)	壮年	男性	
2号墓壇(100×85cm)	人骨なし	9号墓壇(133×100cm)	3～5才	性別不明	
3号墓壇(90×87cm)	壮年	男性	10号墓壇(94×?cm)	小児?	性別不明
4号墓壇(80×70cm)	思春期	女性	11号墓壇(33×30cm)	2～3才	性別不明
5号墓壇(145×145cm)	壮年	女性	12号墓壇(95×70cm)	5才前後	性別不明
6号墓壇(114×?cm)	乳児	性別不明	13号墓壇(85×?cm)	2～3才	性別不明
7号墓壇(62×50cm)	3～5才	性別不明			

検出した13基のうち半数以上が乳幼児の遺体が葬られた墓である。乳幼児墓の規模は極端に小さい11号墓壇や7号墓壇を除くと壮年墓の規模と明確な差はない。むしろ9号墓壇のように壮年墓を凌ぐものも見られる。埋葬姿勢が同一であると仮定した上で墓壇の規模が単に遺体の大小によるものではないことが窺える。

### ③ 副葬品

墓壇出土遺物のうち副葬品としては銭貨、煙管、陶器、刃物類（鋏、包丁、鉈）、火打金、温石、土製人形、骨製品、漆器、琥珀他がある。このうち被葬者の年齢や性別と関連があるものは煙管、火打金が1・3・4・5・8号墓壇の壮年ないし思春期の被葬者に、また土製人形が9号墓壇の幼児に供えられている。銭貨の有無、枚数は被葬者の年齢と関連しないようである。

銭貨は銅銭寛永通寶一文銭（古寛永・新寛永）と錆により銭銘不明のもの、鉄銭があり、それらの組み合わせはA：古寛永・新寛永・鉄銭（4・9号墓壇）、B：新寛永・鉄銭（5・6・7・8・10・12号墓壇）、C：新寛永のみ（13号墓壇）、D：鉄銭のみ（1号墓壇）の4パターンがある。銭銘不明の銅銭は鉄銭に伴っており新寛永と捉えて差し支えないと思われる。ほとんどが鉄銭を含むA、B、Dパターンであり、鉄銭が流通の主体となった18世紀後半の状況、とりわけ密銭の鑄造が盛行した当地方の状況（佐々木ほか1990）を反映していると考えられる。枚数は特異なものとして1号墓壇が挙げられる。破片を含め106枚の鉄銭があり、90枚近くが密着した緋の状態をとどめていた。恐らくは煩惱の数である108枚が当初の枚数ではなかったかと推測される。この他には12枚から1枚まで様々な枚数になるが、基本的な六道銭のセット（鈴木1989）である6枚の墓壇は見当たらない。また鉄銭には布やソバ、ヒエ等の種実痕跡が付着するものが

多く（写真図版64）、食料やその他の副葬品と共に頭陀袋に入れられた状態を想定できる。

副葬品の他には3・5号墓壇の埋土上部からは鎌が1点ずつ出土している。他の副葬品が出土するレベルよりは明らかに上位であり、死者がさまよい出るのを防ぐ意味で埋葬後に土盛りした塚に突き立てた鎌である可能性が高い。棺の腐食に伴い下に落ち込んだものと推測される。

#### ④ 墓壇の時期

各墓壇から出土した副葬品の中で銭貨、煙管、陶器の製造年代を遺構時期の上限としてまとめると以下のようになる。

新寛永一文銭（1697年初鋳）：13号墓壇

鉄銭（1739年初鋳）：1・4・6・7・9・10・12号墓壇

小久慈焼壺（19世紀初頭）：5号墓壇

煙管第4段階（18世紀前半）：3号墓壇

煙管第5段階（18世紀後半）：8号墓壇

更に遺構相互の切り合いは12号墓壇→11号墓壇→5号墓壇→6号墓壇→9号墓壇、7号墓壇→5号墓壇、2号墓壇→1号墓壇の関係がある。以上より、遡るもので13号墓壇が17世紀末～18世紀初頭、5・6・9号墓壇が確実に19世紀代になる。総じて18世紀後半～19世紀前半にかけて継続して営まれた墓域と捉えることができる。

#### (7) まとめ

大芦I遺跡の今回の調査により、縄文早期～近世・近代に至る時期の遺構・遺物が出土した。判明した主な点を列挙する。

- ・縄文早期の十和田南部テフラ降下以前に生じた地滑りによる断層を複数箇所で見出した。本遺跡が立地する斜面全体の形成に関わる痕跡と捉えられる。
- ・縄文前期初頭の土器が十和田中掘テフラ直下層から一定量出土した。
- ・縄文中期末の竪穴住居跡が遺跡北端J区で見出された。単独の石囲炉を持つものが建て替えられている。
- ・縄文晩期中葉～後葉の住居跡が遺跡北東部H区で見出された。遺物の出土分布から見て本遺跡では北西部にも同時期の居住域があったと思われる。
- ・土壇墓の可能性が高い長楕円形の土坑、土器埋設遺構が遺跡中央部E区で見出され、縄文晩期に設定された墓域の一部である可能性が考えられる。
- ・縄文晩期前半の遺物包含層を層位的に調査し、多量の土器（大洞BC式～C1式主体）、石器、土製品、石製品、自然遺物が出土している。土器には異系統のもの（北海道系か？）が含まれる。また製塩土器が相伴しており、三陸北部において晩期前葉から土器製塩が開始されていたことが明らかになった。製塩土器は特徴、遺跡の立地から容器として持ち込まれたものと判断できる。
- ・弥生後期、天王山式～赤穴式段階の土器が遺跡北東部H区の狭い範囲から出土した。
- ・近世初頭の掘立柱建物跡が1棟、遺跡北東部H区で見出された。周辺から中国産磁器などが出土している。
- ・近世後半（18世紀）の大鍛冶炉地下構造が遺跡南西部（A区、E区）で見出された。関連施設が調査区外に展開していた可能性が高い。
- ・近世後半（18世紀後半～19世紀前半）の墓域が遺跡南端A区と中央部E区で見出された。乳幼児墓が半数を占める。副葬品としては鉄銭が含まれる墓壇が大部分である。



・小久慈焼創業期の製品が遺構内外から一定量出土した。

最後に、本書では担当者の能力不足により資料の提示にとどまったが、当地方の歴史資料として役立つ部分があれば幸いである。

## 引用・参考文献

- 会田容弘 1997 『里浜貝塚平成8年度発掘調査概報』鳴瀬町文化財調査報告書第2集  
阿部博志ほか 1990 『摺萩遺跡』宮城県文化財調査報告書第132集  
稲野彰子 1983 「岩版」『縄文文化の研究』第9巻 雄山閣出版  
稲野祐介 1979 「亀ヶ岡文化における石剣類の研究 一文様に基く分類」『北奥古代文化』第11号  
稲野祐介 1982 「亀ヶ岡文化における内面渦状土(石)製品とその分布」『史学』第52巻 第2号  
稲野祐介 1998 「「イモガイ形土製品」の名称はなぜ不適切か」『岩手考古学』第10号  
大橋康二 1989 『肥前陶磁』考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社  
岡田康博 1986 『今津遺跡・間沢遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第95集  
岡村道雄 1988 「東北地方の縄文時代における塩の生産 ー松島湾の土器製塩ー」『考古学ジャーナル』298  
岡村道雄 1997 「塩の生産と交易」『ここまでわかった日本の先史時代』角川書店  
加藤道彦 1989 「仙台湾周辺の製塩遺跡」『東北歴史資料館研究紀要』第15巻  
金子昭彦 1991 「いわゆる遮光器土偶の編年について(2) ー大形の土偶ー」『北奥古代文化』第21号  
北林八洲晴 1972 「青森県陸奥湾沿岸の製塩土器」『考古学研究』第18巻 第4号  
北林八洲晴 1973 「陸奥湾沿岸における土器製塩」『北奥古代文化』第5号  
小井川和夫・加藤道彦 1988 『里浜貝塚Ⅶ』東北歴史資料館資料集22  
小泉 弘 1987 『江戸の考古学』考古学ライブラリー48 ニュー・サイエンス社  
後藤和民 1988 「縄文時代の塩の生産」『考古学ジャーナル』298  
近藤義郎 1984 『土器製塩の研究』青木書店  
斎藤邦雄 1993 「岩手県にみられる後北式土器と在地弥生土器について」『岩手考古学』第5号  
斎藤邦雄・酒井宗孝 1994 「岩手県の縄文期葬送遺構について」『北奥古代文化』第23号  
坂川 進 1994 「縄文時代後期の風張(1)遺跡土壙墓群について」『北奥古代文化』第23号  
佐々木清文・鈴木 宏ほか 1990 『北の鉄文化』岩手県立博物館  
佐々木清文ほか 1992 『玉川鉄山 ー第二期発掘調査報告書ー』軽米町教育委員会  
鈴木公雄 1989 「出土六道銭枚数と墓の保存状態」『考古学の世界』慶応義塾大学民族学考古学研究室編  
鈴木正博 1992 「土器製塩と貝塚」『季刊考古学』41  
須藤 隆 1984 「北上川流域における晩期前葉の縄文土器」『考古学雑誌』第69巻 第3号  
須藤 隆 1992 「東北地方における晩期縄文土器の成立過程」『東北文化論のための先史学歴史学論集』  
高田和徳・中村明央・林 謙作 1995 『山井遺跡』一戸町文化財調査報告書第36集  
高橋 満 1996 「土器製塩の工程と集団 ー製塩土器分布圏の成り立ちー」『季刊考古学』第55号  
田村栄一郎 1989 「ルーツ小久慈焼」『北三陸史窓』第7号  
千葉啓蔵・面代民義 1988 『中長内遺跡発掘調査報告書』久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第8集  
千葉啓蔵 1991 『久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』久慈市埋蔵文化財調査報告書第13集  
千葉啓蔵 1993 『二子貝塚』久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第16集  
千葉孝雄 1996 『ゴッソー遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集  
寺門義範 1986 「製塩」『縄文文化の研究』第2巻 雄山閣出版  
戸沢充則・半田純子 1966 「茨城県法堂遺跡の調査 ー「製塩址」をもつ縄文時代晩期の遺跡ー」『駿台史学』第18号  
中村良幸 1982 「「複式炉」について」『考古風土記』第7号  
野村 崇 1983 「石剣・石刀」『縄文文化の研究』第9巻 雄山閣出版  
野村 崇 1984 「北海道の亀ヶ岡文化」『北海道の研究』1 考古編 I  
羽柴直人 1994 「東北地方北部における近世陶磁器の様相 ー1690～1780年代の消費状況の集成ー」『紀要』XIV岩手埋文  
羽柴直人ほか 1996 『江川鉄山発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第237集  
林 謙作 1993 「曲田 I と八幡 ー東北北部晩期前葉の土器ー」『論苑考古学』天山舎  
福田友之 1985 「青森県平内町横峰貝塚発見の遺物 ー陸奥湾沿岸の縄文時代晩期製塩土器に関するメモー」『遺址』第5号  
松本秀明 1988 「三陸海岸の沖積層とリアスの堆積過程」『東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター報告』第14号  
藤田亮一ほか 1988 『八幡遺跡発掘調査報告書』八戸市埋蔵文化財調査報告書第26集  
峰山 巖ほか 1974 『松前町高野遺跡発掘報告』松前町教育委員会  
面代民義 1985 『大芦遺跡発掘調査報告書』久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第5集  
谷地 薫・柴田陽一郎 1992 『家ノ後遺跡』秋田県文化財調査報告書第229集  
山口博之ほか 1995 『宮の前遺跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第19集

第13表 遺物観察表(土器)

分類 ◇:大洞B式 \* :大洞C2式 ▲:異系統

単位:cm

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
1	J	1号住床面	IV	深鉢		口縁~体部	沈線、刺突	LR(縦位)	突起(3単位)	ナデ	16.2			外面炭化物付着
2	J	1号住東壁際床面	IV	深鉢		体部	磨消縄文、沈線、C字状隆線	RL		ナデ				外面炭化物付着
4	H	3号住No.1-4, 4号住No.2-5-6-8	VI・VII	深鉢		口縁~体部		LR	小波状	ナデ	28.9			外面炭化物付着
5	H	3号住埋土下部~床下II層上部	VI	壺		体部	無文			ナデ				
6	H	3号住床面, F17II層上部	V	深鉢		口縁	磨消縄文、沈線	LR	大波状	ミガキ				6、7、8同一個体
7	H	3号住床面, F17II層上部	V	深鉢		体部	磨消縄文、沈線	LR		ミガキ				内面屈曲
8	H	3号住床面, F17II層上部	V	深鉢		体部	磨消縄文、沈線	LR		ミガキ				
9	H	3号住No.5	VI	鉢		口縁		RL		ナデ				
10	H	3号住西側埋土	VII	壺	2b	口縁	沈線	LR		ナデ				
11	H	3号住No.7	VII	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ナデ				外面荒れ、内面炭化物付着
12	H	3号住埋土下部~床下II層上部	V	深鉢		体部	充填縄文、沈線	LR		ミガキ				
13	H	3号住北側壁際床面下位	V	深鉢		口縁	沈線	LR	波状口縁	不明				器面荒れ
14	H	3号住西側埋土	VII	壺?		体部	磨消縄文、沈線	LR		ナデ				
15	H	3号住埋土上部	VI	鉢		体部	沈線、粘土瘤	RL		ミガキ				
16	H	3号住No.2	VI	壺		口縁	無文			ナデ				
17	H	3号住No.6、西側埋土	VI・VII	深鉢		口縁		非結束羽状(LR・RL)		ミガキ				外面炭化物付着
18	H	3号住埋土上部	VII	深鉢	2c	口縁		LR	縄文	ミガキ				
19	H	3号住No.3	VII	深鉢	1c	口縁		RL		ミガキ				
20	H	3号住北~北西壁際床面下位	VII	深鉢		底部		LR		ナデ	5.7			揚底
21	H	4号住埋土, F17I~II層	VII	鉢	2b	口縁	沈線	LR	突起	ミガキ				
22	H	4号住埋土	VII	鉢	2a	口縁	磨消縄文、列点	LR	刻み	ミガキ				
23	H	4号住埋土下部	VII	鉢	3b	体部	沈線、列点	LR		ミガキ				
24	H	4号住埋土	VII	浅鉢	2	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	刻み	ミガキ				
25	H	4号住埋土下部	VII	鉢		体部	磨消縄文	LR		ミガキ				
26	H	4号住埋土	VII	深鉢	2c	口縁		LR	縄文	ナデ				頸部内面屈曲
27	H	4号住No.3	VII	深鉢	1a	口縁	沈線	LR		ナデ				
28	H	4号住埋土	VII	深鉢	2c	口縁		LR		ナデ				
29	H	4号住埋土	VII	深鉢	2b	口縁		LR	小波状	ナデ				
30	H	4号住埋土	VII	鉢		体部	突起	LR		ナデ				
31	H	4号住No.4	VII	壺?		体部	沈線	LR		ナデ				海綿骨針混
32	H	4号住No.7	VII	浅鉢	1c	略完形		LR	小波状	ナデ	8.7	4.8	3.5	雑な作り
33	H	4号住No.1	VII	深鉢	1b	口縁		LR		ナデ				
35	H	5号住炉内上部	VII	壺	2b	体部~底部	突起(肩)	LR		ナデ		7		外面荒れ
36	H	5号住埋土	VII	鉢	2b	口縁	沈線	LR		ナデ				
37	H	5号住埋土	VII	深鉢	1b	口縁		LR		ナデ				口縁内面肥厚
38	H	G16又II層下部(5住床下)	VII	鉢	4	口縁	沈線	LR		ナデ				内面炭化物
39	H	G16又II層下部(5住床下)	V・VI	深鉢		口縁	沈線	LR		ナデ				
40	H	5号住埋土	VI	鉢		口縁	無文			ナデ				

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
41	H	5号住埋土	VI	壺	2b	口縁		LR		ナデ				
42	H	5号住埋土	VI	深鉢	2b	口縁	磨消縄文・沈線	LR		ナデ				
43	H	G16Ⅱ層下部(5住床下)	VI	深鉢		体部		LR		ミガキ				
44	H	5号住埋土	VI	深鉢		体部		単軸絡条体5類		ナデ				底縁高台状
45	H	5号住床面	VI	鉢		底部				ミガキ		6.3		
48	E	13号土坑埋土上部	VI	深鉢	1b	口縁		LR	突起	ナデ				
49	E	13号土坑埋土上部	VI	深鉢		底部		LR		ナデ		6		
50	E	1号土器埋設遺構	VI	深鉢		底部	沈線	LR		ナデ		11.1		
51	C	ⅡブロックⅠ層	VI	深鉢	2a *	口縁	磨消縄文(浮彫)		刻み	ナデ				補修孔
52	C	ⅡブロックⅠ層	VI	浅鉢	2	口縁		LR	突起	ミガキ				
53	C	ⅡブロックⅠ層	VI	深鉢	2b	口縁	沈線(鋸歯文)	LR	刻み	ナデ				補修孔、内面稜線
54	C	ⅡブロックⅠ層	VII	深鉢		口縁	磨消縄文	RL	刻み	ナデ				
55	C	ⅡブロックⅠ層	VI	浅鉢	1a	口縁~底部		LR		ミガキ				口唇内削ぎ
56	C	ⅡブロックⅠ層	VI	深鉢	1b	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR		ナデ				
57	C	ⅢブロックⅠ層	VI	浅鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	突起	ミガキ				
58	C	ⅢブロックⅠ層	VI	鉢	1a	口縁	磨消縄文突起内面三角形沈線	LR	刻み	ミガキ				
59	C	ⅢブロックⅠ層	VI	鉢	*	口縁	沈線、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				
60	C	ⅣブロックⅠ層	VI	深鉢	2a	口縁	沈線	LR	刻み	ミガキ				内面炭化物付着
61	C	ⅣブロックⅠ層	VI	鉢	2b	口縁	沈線	LR	小波状	ナデ				外面炭化物付着
62	C	ⅣブロックⅠ層	VI	鉢	3b	口縁	無文	LR	刻み	ナデ				ミニチュア皿
63	C	ⅣブロックⅠ層	VI	浅鉢	1d	完形	沈線		刻み	ミガキ	7.5	4.2	1.4	ミニチュア?
64	C	ⅣブロックⅠ層	VI	鉢		体部	磨消縄文(浮彫)			ナデ				内面底縁に段
65	C	ⅣブロックⅠ層	VI	浅鉢	1a	口縁~底部 直上	磨消縄文	LR	突起	ミガキ	14.9			
66	C	ⅣブロックⅠ層	VI	浅鉢	1a *	口縁	沈線	LR	沈線	ミガキ				
67	C	ⅤブロックⅠ層	VI	深鉢	2a *	口縁		LR	刻み	ナデ				
68	C	ⅤブロックⅠ層	VI	深鉢	2b	口縁	列点		刻み	ナデ				
69	C	ⅤブロックⅠ層	VI	鉢	1a	口縁	沈線、口縁内面沈線	LR	刻み	ナデ				内外面炭化物付着
70	C	ⅤブロックⅠ層	VI	鉢	2	口縁	沈線		刻み、沈線	ミガキ				
71	C	ⅤブロックⅠ層	VI	鉢	1a ▲	口縁	磨消縄文、沈線	LR	刻み	ナデ				
72	C	ⅤブロックⅠ層	VI	壺	2a *	体部	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ナデ				
73	C	ⅤブロックⅠ層	VI	浅鉢	1a	略完形	沈線、列点	LR		ミガキ	17.6	3.1	6.3	
74	C	ⅤブロックⅠ層	VI	注口	2	口縁~体部			突起	ミガキ				口唇内削ぎ
75	C	ⅤブロックⅠ層	VI	深鉢	1b	口縁	列点	LR		ナデ				
76	C	ⅥブロックⅠ層	VI	鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR		ナデ				内面炭化物付着
77	C	ⅥブロックⅠ層	VI	鉢	3a *	口縁	磨消縄文	RL	刻み	ミガキ				
78	C	ⅦブロックⅠ層	VI	鉢	*	口縁	浮彫、隆線、突起	LR	刻み	ミガキ				
79	C	ⅦブロックⅠ層	VI	壺	3	体部	沈線			ナデ				
80	C	ⅨブロックⅠ層下部	VI	深鉢	2a *	口縁	沈線、突起、口縁内面沈線	LR	波状、沈線	ミガキ				
81	C	ⅨブロックⅠ層下部	VI	鉢	2b *	口縁	沈線	RL		ミガキ				
82	C	ⅨブロックⅠ層	VI	鉢	5b *	略完形	沈線、列点、突起		刻み	ナデ	9.1	5.1	5	

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
83	C	IXブロックI層下部	Ⅶ	深鉢	2b *	口縁	沈線、列点、突起	LR	沈線	ナデ				摩滅
84	C	IXブロックI層下部	Ⅶ	鉢	2b *	口縁		LR	波状	ナデ				
85	C	IXブロックI層	Ⅶ	鉢	2b *	略完形	沈線	非結束羽状(L・R・RL)	刻み、突起	ミガキ	12.5	3.6	8.2	やや揚底
86	C	IXブロックI層下部	Ⅶ	壺	2a *	口縁～体部	磨消縄文、口縁内面沈線	LR	沈線	頸部ミガキ、体部ナデ				
87	C	IXブロックI層下部	Ⅵ	鉢		口縁	沈線、刻み充填		波状口縁	ミガキ				
88	C	IXブロックI層下部	Ⅶ	鉢	3a *	口縁～体部	磨消縄文、突起、沈線、口縁内面沈線	LR	突起、小波状	ミガキ	40.2			
89	C	IXブロックI層下部	Ⅶ	鉢	*	口縁	磨消縄文、口縁内面沈線	RL	突起、沈線	ミガキ				
90	C	IXブロックI層下部	Ⅶ	深鉢	1a *	口縁	沈線	RL	突起	ナデ				
91	C	IXブロックI層下部	Ⅶ	深鉢	2b *	口縁		LR	刻み、沈線	ナデ				
92	C	IXブロックI層下部	Ⅶ	浅鉢	1a *	口縁	沈線、口縁内面沈線		突起、沈線	ミガキ				赤色顔料付着
93	C	XブロックI層上部	Ⅶ	深鉢	2a *	口縁	沈線	LR	突起	ミガキ				
94	C	XブロックI層下部	Ⅶ	鉢	1b *	略完形		LR	緩い波状?	ミガキ	10.2	4.4	7.2	内面炭化物付着
95	C	XブロックI層上部	Ⅶ	深鉢	2b *	口縁		LR	突起、刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
96	C	XブロックI層上部	Ⅶ	浅鉢	1a *	口縁	磨消縄文(浮彫)	RL	刻み	ミガキ				
97	C	XブロックI層上部	Ⅶ	浅鉢	1a *	口縁～底部直上	磨消縄文	LR	刻み	ミガキ				
98	C	XブロックI層上部	Ⅶ	浅鉢	1a *	口縁	磨消縄文、列点	LR		ミガキ				
99	C	XブロックI層下部	Ⅶ	深鉢	2a *	口縁～体部	沈線	LR		ミガキ	25.8			口唇内削ぎ
100	C	XブロックI層下部	Ⅶ	深鉢	2b *	完形	沈線	LR(縦走)	突起(大小)、刻み	ナデ	16.6	5.8	15	
101	C	XブロックI層下部	Ⅶ	鉢	2b *	口縁～体部		LR	突起	ナデ	12.5			口唇内削ぎ
102	C	XブロックI層下部	Ⅶ	鉢	2b *	略完形	沈線	LR	刻み	ナデ	11.8	4.5	9.7	
103	C	XブロックI層下部	Ⅶ	鉢	2b *	口縁	沈線、列点	非結束羽状(L・R・RL)	突起、沈線、刻み	ミガキ				
104	C	XブロックI層下部	Ⅶ	鉢	2b *	口縁～体部	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				
105	C	XブロックI層下部	Ⅶ	鉢	3b *	口縁～体部		LR	刻み、沈線	ミガキ	12.8			外面炭化物付着
106	C	XブロックI層下部	Ⅶ	鉢	2b *	口縁	沈線、突起	LR	突起、沈線、刻み	ミガキ				口唇内削ぎ
107	C	XブロックI層下部	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線	RL	突起、刻み	ナデ				
108	C	XブロックI層下部	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、口縁内面沈線	RL	刻み	ミガキ				
109	C	XブロックI層下部	Ⅶ	鉢	4	口縁	磨消縄文、突起	LR	突起、沈線、刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
110	C	XブロックI層下部	Ⅶ	鉢	*	口縁	沈線	非結束羽状(L・R・RL)	突起、沈線、刻み	ミガキ				内面炭化物付着
111	C	XブロックI層下部	Ⅶ	鉢	*	口縁	磨消縄文、突起	LR	突起	ミガキ				内面炭化物付着
112	C	XブロックI層下部	Ⅶ	浅鉢	*	口縁	沈線、口縁内面沈線		突起、沈線、刻み	ミガキ				上部赤色顔料付着
113	C	XブロックI層下部	Ⅶ	浅鉢	1a *	略完形	磨消縄文、口縁内面沈線	LR	沈線	ナデ	16.6	6.5	4.8	
114	C	XブロックI層下部	Ⅶ	壺	2b *	口縁～体部	頸部沈線	LR	突起、沈線	ナデ	9.5			
115	C	XブロックI層下部	Ⅶ	壺	2c *	口縁～底部直上	頸部沈線			ミガキ				

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
116	C	XブロックI層下部	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	小波状	ナデ				口唇内削ぎ
117	C	XブロックI層下部	Ⅶ	深鉢	2b	口縁		LR	刻み	ナデ				口縁内面隆起帯
118	C	XブロックI層下部	Ⅶ	深鉢	2a	口縁	沈線、口縁内面沈線	RL		ナデ				
119	C	XブロックI層下部	Ⅶ	壺	2	口縁	口縁内面沈線		沈線	ミガキ				
120	C	XブロックI層上部	Ⅶ	鉢		口縁	沈線(鋸歯状)	LR		ナデ				
121	C	XブロックI層上部	Ⅵ	鉢		口縁	隆線、突起(頂部刺突)	LR	突起	ミガキ				赤色顔料付着
122	C	XブロックI層上部	Ⅶ	壺?	2	口縁	沈線		突起、沈線	ミガキ				赤色顔料付着
123	C	XブロックI層上部	Ⅶ	鉢	3a	口縁	沈線		突起、刻み	ミガキ				内面炭化物付着
124	C	ⅡブロックⅡa層	Ⅶ	鉢	3a *	口縁	磨消縄文、頸部列点	LR	突起	ミガキ	14.7			内面炭化物付着
125	C	ⅡブロックⅡa層	Ⅶ	浅鉢	1b *	口縁~底部直上	沈線	LR	沈線	ミガキ		5.4 4.5	11.8 6.8	
126	C	ⅡブロックⅡa層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	RL	刻み	ミガキ			4.9	
127	C	ⅡブロックⅡa層	Ⅶ	台付鉢	3b *	完形	隆帯+沈線、突起(10単位)	LR	突起、刻み	ナデ	12.4			
128	C	ⅡブロックⅡa層	Ⅶ	浅鉢	1b	完形	沈線(口縁、底縁)			ナデ	16.5			砂粒多い
129	C	ⅡブロックⅡa層	Ⅶ	壺	2c	完形	無文			ナデ	5.7			ミニチュア、雑なつくり
130	C	ⅡブロックⅡa層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR		ナデ			10.3	口縁内面肥厚
131	C	ⅢブロックⅡa層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	間隔を開けた小波状	ナデ				
132	C	ⅢブロックⅡa層	Ⅶ	壺	2b	略完形	口縁内面沈線	LR	突起(2単位)	ナデ	11.6	6.6	22.3	
133	C	ⅢブロックⅡa層	Ⅶ	浅鉢	2	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				口唇部炭化物付着
134	C	ⅢブロックⅡa層	Ⅶ	鉢	3b *	口縁	沈線、突起(剥落)	LR	突起、刻み	ナデ				
135	C	ⅢブロックⅡa層	Ⅶ	深鉢	2a *	略完形	沈線、突起、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ	17.9			外面炭化物付着
136	C	ⅢブロックⅡa層	Ⅶ	鉢	5b	口縁	無文		突起(2単位)	ミガキ	9.6	2.9	2.2	内外面赤色顔料付着
137	C	ⅢブロックⅡa層	Ⅶ	壺	2c	略完形	無文			ミガキ	6			口唇両面肥厚、ミニチュア
138	C	ⅢブロックⅡa層	Ⅶ	浅鉢	1c	略完形	沈線(口縁、底縁)、列点		刻み	ナデ	7.3			ミニチュア
139	C	ⅢブロックⅡa層	Ⅶ	壺	1	口縁~体部	隆帯、突起、列点		突起(4単位)、沈線	口縁ミガキ、体部ナデ	12.8			
140	C	ⅣブロックⅡa層	Ⅶ	鉢	3b *	口縁	沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				内面炭化物付着
141	C	ⅣブロックⅡa層	Ⅶ	鉢	3b *	口縁	沈線	LR	突起、刻み	ナデ				
142	C	ⅣブロックⅡa層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線	LR	刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
143	C	ⅣブロックⅡa層	Ⅶ	鉢	3a *	口縁	沈線、突起	LR	突起	ミガキ				
144	C	ⅣブロックⅡa層	Ⅶ	注口	1 *	体部	磨消縄文	LR		ミガキ				145と同一個体
145	C	ⅣブロックⅡa層	Ⅶ	注口	1	体部		LR		ミガキ				
146	C	ⅣブロックⅡa層	Ⅶ	壺	2b	口縁		LR		ナデ				
147	C	ⅣブロックⅡa層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	突起	ミガキ				
148	C	ⅣブロックⅡa層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	小波状	ナデ				
149	C	ⅤブロックⅡa層	Ⅶ	鉢	2a *	口縁	磨消縄文	LR	刻み	ミガキ				内面炭化物付着
150	C	ⅤブロックⅡa層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ナデ				内面炭化物付着
151	C	ⅤブロックⅡa層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、突起、列点	LR	突起	ナデ				内外面炭化物付着

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
152	C	VブロックIIa層	VI	鉢	3b	口縁	沈線、列点	LR	突起	ミガキ				
153	C	VブロックIIa層	VI	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR		ミガキ				内外面炭化物付着
154	C	VブロックIIa層	VI	鉢	3b	口縁	沈線	LR	刻み	ナデ				
155	C	VブロックIIa層	VI	鉢	2b	口縁	沈線	LR	刻み	ナデ				内面輪積痕
156	C	VブロックIIa層	VI	鉢	3b *	口縁	沈線、突起、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				
157	C	VブロックIIa層	VI	鉢	3b *	口縁	沈線、突起		沈線	ミガキ				
158	C	VブロックIIa層	VI	鉢	3b	口縁~底部直上	沈線、口縁内面沈線	LR	突起、沈線	ナデ				
159	C	VブロックIIa層	VI	鉢	3b	口縁	沈線、突起、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ナデ				
160	C	VブロックIIa層	VI	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				
161	C	VブロックIIa層	VI	鉢		◇口縁	沈線	LR	突起	ミガキ	14.3	4	7.3	
162	C	VブロックIIa層	VI	鉢	3a	口縁	沈線、列点			ミガキ				
163	C	VブロックIIa層	VI	壺	2c	口縁~底部直上	沈線		突起	ナデ	10.8		5.4	
164	C	VブロックIIa層	VI	浅鉢	5a	略完形	沈線、底面環状沈線内無文、口縁内面沈線	LR	刻み	ミガキ	12.1	3.5	6.5	
165	C	VブロックIIa層	VI	浅鉢	5b	略完形	沈線		刻み、沈線	ナデ				
166	C	VブロックIIa層	VI	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文	LR	突起	ミガキ				
167	C	VブロックIIa層	VI	浅鉢	1a	口縁	充填縄文	LR	刻み、沈線	ミガキ				内面中程に段
168	C	VブロックIIa層	VI	浅鉢	5b	略完形	沈線			ナデ				やや揚底
169	C	VブロックIIa層	VI	浅鉢	1a	口縁	沈線		突起	ミガキ	6.3			
170	C	VブロックIIa層	VI	浅鉢	1b	口縁	沈線		沈線	ミガキ				
171	C	VブロックIIa層	VI	浅鉢	1a	口縁~底部直上	浮彫		突起	ミガキ				
172	C	VブロックIIa層	VI	壺	1	口縁	無文			ミガキ				内面赤色顔料付着
173	C	VブロックIIa層	VI	壺	2a *	口縁~体部	沈線	LR	突起、刻み、沈線	頸部ミガキ				
174	C	VブロックIIa層	VI	壺	2a	口縁~体部	磨消縄文、沈線、口縁内面沈線	LR	突起	頸部ミガキ	10.8	5.5	14.1	
175	C	VブロックIIa層	VI	深鉢	2b	口縁		LR	わずかに波状	ミガキ				口唇内削ぎ
176	C	VブロックIIa層	VI	深鉢	1b	口縁		LR	沈線	ミガキ	10.6	5.8	10.4	
177	C	VブロックIIa層	VI	深鉢	2c	口縁~体部		LR	わずかに波状	ミガキ	9.9	4.1	8.9	
178	C	IブロックIIb1層	VI	台付鉢	2a	完形	磨消縄文(浮彫)、列点、突起、台部・口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ	12.8	4.7	12.8	
179	C	IブロックIIb1層	VI	台付鉢	3b	略完形	沈線、突起、台部沈線	LR	突起	ナデ	8.9	3.4	6.1	
180	C	IブロックIIb1層	VI	台付鉢	3b	略完形	沈線、突起	LR	突起	ミガキ	11.2	6.1	2.8	
181	C	IブロックIIb1層	VI	台付鉢	2a	完形	沈線、突起(1単位)、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ				
182	C	IブロックIIb1層	VI	鉢	5b	完形	無文		突起(2単位)	ナデ	14.4			内外面赤色顔料付着
183	C	IブロックIIb1層	VI	浅鉢	2	完形	磨消縄文(浮彫)、内面沈線	LR	突起	ミガキ				
184	C	IブロックIIb1層	VI	深鉢	1b	口縁		LR	突起、刻み	ナデ				
185	C	IブロックIIb1層	VI	鉢	1b	口縁	無文		刻み	ナデ				擦痕

図録番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
186	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	充填縄文(浮彫)、突起、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ	14.4			
187	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	充填縄文(浮彫)、突起	LR	突起	ミガキ				内面炭化物付着
188	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線(羊歯状文)、内面沈線	LR	刻み	ミガキ				内面炭化物付着
189	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				
190	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文、列点、口縁内面沈線	LR	突起	ナデ				
191	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	1a ▲	口縁	沈線	LR	刻み	ナデ				
192	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	沈線(浮彫)			ナデ				補修孔、赤色顔料付着
193	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線	LR	沈線	ナデ				砂粒多い
194	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、内面沈線	LR	突起	ナデ				内面炭化物付着
195	C	I・ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	台付鉢	2b	略完形	沈線、沈線間列点	LR	突起	ミガキ	9.6	5.4	8.7	
196	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線	LR	突起、刻み	ナデ				
197	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線	LR	刻み、縄文(LR)	ナデ				
198	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線、列点(沈線間)	LR	突起	ナデ				
199	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢		口縁	沈線	LR		ミガキ				
200	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	4	口縁	沈線、列点	LR	突起	ミガキ				内面炭化物付着
201	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁～底部直上	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ	17	10.9	3.9	内面底縁に段
202	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	2	完形	磨消縄文(浮彫)	LR	突起、上方に出る突起6単位	ミガキ	18.8	5.7	4.8	
203	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				
204	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)	RL	突起	ミガキ				
205	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁～底部	充填縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ	18.5	3.4	7.5	
206	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ				
207	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ				
208	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁～底部	沈線	LR		ミガキ				揚底
209	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				
210	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				内面底縁に段
211	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1d	略完形	無文		突起(1単位)	ミガキ	16.4	3.8	9.2	
212	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	沈線(浮彫)			ミガキ	16.6	3.4	5.4	内面赤色顔料付着、揚底
213	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1c	略完形		LR	突起	ナデ	15.2	7.1	5.8	
214	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1d ▲	略完形	無文			ナデ	11	3	4.5	外面輪積痕
215	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1b ▲	略完形	内外面沈線		刻み	ナデ	15.9	5.6	5.8	揚底、沈線粗雑
216	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	壺	5	完形	沈線、突起		突起	ナデ	7.9	2.3	9.9	内外面赤色顔料付着、揚底
217	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	壺	4	口縁～体部	沈線(浮彫)、突起			ナデ	4			
218	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	注口	1	略完形	沈線(浮彫)			ナデ	10.5		9.1	
219	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	完形		LR		ナデ	27.7	8.1	36.9	外面炭化物付着

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
220	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	突起	ナデ				砂粒多い
221	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR		ミガキ				口唇部平坦
222	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	▲	体部	沈線(c文様)、頸部沈線一周	LR		ナデ				
223	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	壺	2b	口縁		LR		ナデ				
224	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁		LR	刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
225	C	ⅡブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				内面炭化物付着
226	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点、口縁内面沈線	LR	突起	ナデ				
227	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	*	口縁	磨消縄文(浮彫)、隆帯+突起(沈線付加)口縁内面沈線	LR	刻み	ミガキ				
228	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線	LR	刻み	ナデ				
229	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	台付鉢	2b	略完形	沈線、突起(1単位)	LR	刻み	ナデ		3.6	9.3	
230	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	台付鉢	2b	完形	沈線、突起(1単位剥落)、沈線間列点	LR	刻み	ナデ	10 9.9	4.2	10.2	
231	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	4	口縁	沈線、突起	LR	刻み	ナデ				
232	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	4	口縁	沈線		突起	ミガキ				
233	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	5b	略完形	沈線	LR	刻み	ナデ		4.6	5.5	やや揚底
234	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	沈線	ミガキ	9			
235	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)	RL	突起	ミガキ				
236	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1b	略完形	沈線、底面環状沈線内無文	LR	沈線	ナデ		4	6.1	
237	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	2	口縁~底部直上	磨消縄文(浮彫)	LR	突起、刻み	ミガキ	15.3			内面底縁に段
238	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)	LR		ミガキ				
239	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1d	略完形	無文			ナデ		3.3	3.1	やや揚底
240	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	壺	2b	口縁~体部		LR		ナデ	9.4			
241	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	2b	完形		LR	突起(1単位)	ミガキ	9.9	6.6	18.8	内外面炭化物付着
242	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	壺	2b	口縁~体部		LR		ミガキ	14.3			
243	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		R	刻み	ナデ				
244	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	突起	ナデ				内外面炭化物付着
245	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁~体部	無文		小波状	ナデ				
246	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁		LR	小波状(外向き)	ミガキ	12.8			内外面炭化物付着
247	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ				内外面炭化物付着
248	C	ⅣブロックⅡa-b1層	Ⅶ	鉢	5	口縁	沈線(口縁肥厚部、口縁内面2条平行)		刻み	ミガキ				内外面非常に丁寧な調整、大径の個体
249	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	2	完形	磨消縄文(浮彫)変則3単位	LR	突起	ミガキ				底面無文
250	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁~体部	磨消縄文(浮彫)、列点、底面環状沈線3条	LR		ミガキ	18.6 15	9.2	5.2 6	やや揚底
251	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	突起、刻み	ミガキ				漆膜付着
252	C	ⅣブロックⅡa-b1層	Ⅶ	浅鉢	1a	*口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	突起、沈線	ミガキ				
253	C	ⅣブロックⅡa-b1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				



図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
254	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				外面炭化物付着
255	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	浮彫、列点		浅い刻み状	ミガキ				
256	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	台付浅鉢?		底部～台部	沈線(3単位)			ミガキ		4.8		外面赤色顔料付着
257	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	壺	2b	口縁～体部		LR		ナデ	9.2			
258	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁～体部	無文		小波状	ナデ				被熱赤化
259	C	ⅢブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁～体部		LR		ナデ				内外面炭化物付着
260	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	台付鉢	2a	口縁～底部	充填縄文(浮彫)3単位、突起(1単位)列点、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ	13.6	5.6		内外面炭化物付着
261	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	沈線、浮彫		突起	ミガキ		4.8		内外面赤色顔料付着
262	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ	9.2			内面炭化物付着
263	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	磨消縄文、突起、列点	LR	突起	ナデ				雑な施文
264	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	台付鉢	2b	完形	沈線、突起(1単位)	LR	突起	ナデ				内外面炭化物付着
265	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ		5	12.7	
266	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	3b *	口縁	沈線、隆帯(沈線、突起)	R	突起	ナデ				雑な施文
267	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	4	口縁	沈線、列点	LR	突起	ミガキ				
268	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	台付鉢	2b	口縁～底部直上	沈線、列点	LR	突起	ナデ	10.4			
269	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	2b	口縁～体部	沈線、列点、突起(1単位)、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ				内外面炭化物付着
270	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	2a	口縁	沈線	LR	刻み、突起	ナデ				内外面炭化物付着
271	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線	LR	刻み	ミガキ	10.9			内外面炭化物付着
272	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	2b	口縁～体部	沈線	LR	刻み	ナデ				内外面炭化物付着
273	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1a	口縁	沈線、口縁内面沈線	LR	突起	ナデ	9.7			内外面炭化物付着
274	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	突起	ミガキ				
275	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1a	口縁	列点(爪形)	LR		ミガキ				
276	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢		口縁	磨消縄文、突起	RL		ミガキ				
277	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	5b	略完形	無文			ナデ	5.5	2.5	3.2	ミニチュア、内外面赤色顔料付着
278	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁～底部直上	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ナデ				大径個体
279	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	2	略完形	磨消縄文(浮彫)推定2単位	LR	突起	ミガキ	16.4	10	4.2	無文部、内面非常に丁寧な調整
280	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR		ミガキ				
281	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a ◇	口縁	沈線	LR		ミガキ				補修孔
282	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	充填縄文(浮彫)	LR		ミガキ	17.5		6.2	
283	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1b	略完形	沈線			ミガキ	12.9			内外面赤色顔料付着
284	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	壺	5	頸部～底部	沈線			ナデ		2.4		やや揚底
285	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	壺	2b	口縁		LR		ナデ				
286	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		R		ナデ				外面輪積痕、炭化物付着
287	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	突起	ミガキ				

図録番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
288	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	略完形		LR		ミガキ	12.9			口唇部平坦
289	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁	無文		小波状	ナデ				
290	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		非結束羽状(LR・RL)		ナデ				口唇内削ぎ
291	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		RL		ナデ				原体の回転方向を変えた羽状縄文
292	C	VブロックⅡb1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LLR	突起	ナデ				
293	C	ⅥブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	1a	略完形	沈線、沈線間列点	LR	刻み	ミガキ	11.5	5	11	
294	C	ⅥブロックⅡb1層	Ⅶ	鉢	3	口縁	沈線、沈線間列点、口縁内面沈線		突起、刻み	ミガキ				
295	C	ⅥブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				
296	C	ⅥブロックⅠ・Ⅱb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	内外面磨消縄文(浮彫)	RL	突起、刻み	ミガキ				内外面漆膜
297	C	ⅥブロックⅠ・Ⅱb1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文	LR	突起	ナデ				
298	C	ⅥブロックⅡb1層	Ⅶ	浅鉢	1a *	略完形	磨消縄文(浮彫)、口縁内面沈線	LR	小波状	ミガキ				内面底縁に段
299	C	ⅥブロックⅡb1層	Ⅶ	壺	1	口縁	沈線			ミガキ				内外面赤色顔料付着
300	C	ⅥブロックⅡb1層	Ⅶ	壺	2c	略完形	沈線			ミガキ	6.7	2.3	6.6	内外面赤色顔料付着、揚底
301	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	浅鉢	1c	口縁～底部直上		LR	沈線	ナデ				大径個体
302	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁～体部	沈線、列点(刻み状)、突起、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ	18			海綿骨針混
303	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	台付鉢	2b	略完形	沈線、列点、台部沈線	LR	突起	ナデ	10.5	4.2	10.9	
304	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ				内外面炭化物付着
305	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ				内外面炭化物付着
306	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線(浮彫)	LR	突起	ミガキ				
307	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ナデ				
308	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				
309	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				内外面漆膜付着
310	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				
311	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線	LR	刻み	ナデ				外面炭化物付着
312	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	浅鉢	1d	略完形	無文			ナデ	9.8		5	
313	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	壺	2b	口縁		LR		ナデ	8.3			
314	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	台付鉢	2b	完形	突起、台部沈線、口縁内面沈線	LR	刻み	ナデ	7.6	3.9	6.1	台部端縄文施文
315	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	磨消縄文(浮彫)、突起、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ				内外面炭化物付着
316	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	3a *	口縁	磨消縄文(浮彫)、口縁内面沈線	LR	突起	ナデ				
317	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	5	口縁	沈線(浮彫)、突起、口縁内面沈線			ミガキ				318と同一個体、外面赤色顔料付着
318	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	5	口縁	沈線(浮彫)、口縁内面沈線			ミガキ				
319	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	磨消縄文(浮彫)、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ				内外面炭化物付着
320	C	ⅥブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線		刻み	ミガキ				内面炭化物付着

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
321	C	VIブロックIIb2層	VI	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				内面炭化物付着
322	C	VIブロックIIb2層	VI	浅鉢	2	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	刻み	ミガキ				
323	C	VIブロックIIb2層	VI	深鉢	1a	口縁	沈線	LR	突起	ナデ				
324	C	VIブロックIIb2層	VI	鉢	2b	口縁	沈線	LR	突起	ナデ				内面炭化物付着
325	C	VIブロックIIb2層	VI	鉢	3b	口縁	沈線	LR	突起	ナデ				
326	C		VI	鉢	2b	口縁	沈線、列点、突起	LR	刻み	ミガキ				
327	C	VIブロックIIb2層	VI	鉢	2b	口縁	沈線	LR	刻み	ナデ				
328	C	VIIブロックIIb2層	VI	鉢	3b	口縁~底部直上	沈線	LR		ナデ	11.7	6	9.1	口縁内面輪積痕
329	C	VIIブロックIIb2層	VI	浅鉢	2	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				
330	C	VIIブロックIIb2層	VI	浅鉢	1a ▲	口縁~底部直上	沈線、突起	R	刻み	ナデ				雑な施文
331	C	VIIブロックIIb2層	VI	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				
332	C	VIIブロックIIb2層	VI	浅鉢	1c	略完形	底面環状沈線		突起(1単位)	ミガキ	16.3	4	4.5	内外面赤色顔料付着
333	C	VIIブロックIIb2層	VI	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				内外面赤色顔料付着 (外面列点部に帯状に付着)
334	C	VIIブロックIIb2層	VI	浅鉢	1d	完形	無文			ナデ	12		3.8	外面輪積痕
335	C	VIIブロックIIb2層	VI	浅鉢	1d	完形	無文			ナデ	10.6	4	4.7	外面輪積痕
336	C	VIIブロックIIb2層	VI	壺	2	体部~底部		LR				3		内面漆付着 (容器?)
337	C	VIIブロックIIb2層	VI	鉢	5b	略完形	沈線、突起(剥落)、底面環状沈線		突起、沈線	ミガキ	10.3	2.5	6.7	内外面赤色顔料付着
338	C	VIIブロックIIb2層	VI	深鉢	1b	口縁~体部		LR	突起	ナデ				外面炭化物付着
339	C	VIIブロックIIb2層	VI	深鉢	1b	口縁		L	突起	ナデ				口唇平坦
340	C	VIIブロックIIb2層	VI	深鉢	2b	完形		LR		ナデ	12.2	7	15.4	外面頸部に段
341	C	VIIブロックIIb2層	VI	鉢	1b	略完形		L		ナデ	17.5	6.4	11.5	
342	C	VIIブロックIIb2層	VI	深鉢	2b	口縁~体部		LR	小波状	ナデ				
343	C	VIIブロックIIb2層	VI	深鉢	1b	口縁~体部		R	突起	ミガキ				口縁内面肥厚
344	C	VIIブロックIIb2層	VI	台付鉢	3b	略完形	沈線、突起(剥落)	LR	刻み	ミガキ	12.2	6.8	13.7	内面炭化物付着
345	C	VIIブロックIIb2層	VI	台付深鉢	2a	略完形	突起(1単位)	LR	刻み	ナデ	17.7	7.3	19.6	内外面炭化物付着
346	C	VIIブロックIIb2層	VI	鉢	3a	口縁~体部	磨消縄文(浮彫)、沈線	LR	刻み	ナデ				内外面炭化物付着、 雑な施文
347	C	VIIブロックIIb2層	VI	鉢	3a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				内面炭化物付着
348	C	VIIブロックIIb2層	VI	鉢	3a *	口縁	磨消縄文、列点、口縁内面沈線	RL	突起、刻み	ミガキ				
349	C	VIIブロックIIb2層	VI	鉢	2a	口縁	沈線	LR	突起	ナデ	19			
350	C	VIIブロックIIb2層	VI	深鉢	2a	口縁	充填縄文(浮彫)、突起、口縁内面沈線	LR	刻み	ナデ				
351	C	VIIブロックIIb2層	VI	鉢	4	口縁~体部	磨消縄文、突起	LR	突起、刻み	ミガキ				内面炭化物付着
352	C	VIIブロックIIb2層	VI	台付鉢	3a	略完形	沈線、列点、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ	8	3.5	6.7	

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
353	C	VIIブロック II b2層	VII	鉢	1a *	口縁	磨消縄文、口縁内面沈線	LR	小波状+沈線	ミガキ				
354	C	VIIブロック II b2層	VII	台付鉢	2b	完形	沈線間列点、突起	LR	突起、刻み	ナデ	9.2	7		外面炭化物付着
355	C	VIIブロック II b2層	VII	鉢	3a ▲	口縁	沈線(下描き状)		突起	ナデ			10.6	
356	C	VIIブロック II b2層	VII	台付深鉢	2a	略完形	沈線、突起	LR	突起、刻み	ナデ	21	23.6	8.2	
357	C	VIIブロック II b2層	VII	鉢	3b	口縁	沈線	LR	刻み	ナデ				外面炭化物付着
358	C	VIIブロック II b2層	VII	鉢	2b	口縁	沈線間列点、突起	LR	突起、刻み	ナデ				内外面炭化物付着
359	C	VIIブロック II b2層	VII	鉢	3b	口縁	沈線、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ナデ				内外面炭化物付着
360	C	VIIブロック II b2層	VII	鉢	3b	口縁	沈線、口縁内面沈線	LR	突起、沈線	ナデ				
361	C	VIIブロック II b2層	VII	鉢	3b	口縁	沈線	LR	刻み	ナデ				内面炭化物付着
362	C	IXブロック II b2層	VII	鉢	3b	口縁	沈線	LR	突起、刻み	ナデ				
363	C	IXブロック II b2層	VII	深鉢	2a	口縁	沈線、口縁内面沈線		小波状	ナデ				
364	C	IXブロック II b2層	VII	鉢	1a	略完形	沈線		突起(4単位?)	ミガキ	12.5	5		内外面炭化物付着
365	C	IXブロック II b2層	VII	鉢	2b	完形	突起(1単位)	LR		ナデ	7.5	4		内外面炭化物付着
366	C	IXブロック II b2層	VII	鉢	2b	口縁~体部	突起(剥落)	LR	刻み	ナデ				
367	C	IXブロック II b2層	VII	深鉢	2a	口縁~体部	沈線	LR	突起、刻み	ナデ				
368	C	IXブロック II b2層	VII	鉢	1a	口縁	列点	LR	沈線	ミガキ				
369	C	IXブロック II b2層	VII	鉢	2b	口縁	沈線	RL	刻み	ミガキ				
370	C	IXブロック II b2層	VII	鉢	1a	口縁	沈線	LR	刻み	ミガキ				
371	C	IXブロック II b2層	VII	鉢	4	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ナデ				
372	C	IXブロック II b2層	VII	鉢	4?	口縁	沈線、突起		突起	ミガキ				内外面丁寧な調整
373	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	2	口縁~底部	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				内面底縁に沈線
374	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1a *	略完形	磨消縄文(浮彫)	LR	突起、沈線、小波状	ミガキ	26.2	11	6.2	内面底縁に段、内外面一部に漆膜付着
375	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1a *	略完形	沈線	LR	突起、沈線	ミガキ	14.6			内面底縁に段、丸底
376	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1d	略完形	無文		突起	ミガキ	27.8	16.8	6.2	
377	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1a	口縁~底部	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				内面底縁に段
378	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1a *	口縁~底部	磨消縄文	LR	突起、沈線	ミガキ				内面底縁に段
379	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1a	口縁~底部	磨消縄文(浮彫)	LR		ミガキ				
380	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1a	口縁~底部	磨消縄文(浮彫)、口縁内面沈線	LR	沈線、小波状	ミガキ				口唇部炭化物付着、内面底縁に段
381	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1a	口縁~底部 直上	磨消縄文	RL		ミガキ				細い沈線
382	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	2	口縁~底部	浮彫		突起	ミガキ				
383	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1d	略完形	無文			ミガキ	6.7	2.2	3.7	揚底、外面輪積痕
384	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1c	略完形	列点	LR	刻み	ナデ	8.5	5.6	2.1	底面縄文施文
385	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1a	口縁~底部 直上	磨消縄文、口縁内面沈線	LR	突起、刻み、沈線	ナデ				
386	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1d	完形	無文		刻み	ナデ	14.2	4	5.6	外面剥落顕著
387	C	IXブロック II b2層	VII	浅鉢	1b	口縁	沈線		突起	ナデ				口縁内面肥厚(稜線状)
388	C	IXブロック II b2層	VII	鉢	5b	口縁	沈線		沈線	ミガキ	10.6			内外面赤色顔料付着
389	C	IXブロック II b2層	VII	壺	4	口縁	口縁内面沈線		突起	ミガキ	8			

図録番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
390	C	IXブロックⅡb2層	Ⅶ	壺	2b	口縁		LR		ナデ	7.1			
391	C	IXブロックⅡb2層	Ⅶ	壺	2c	口縁～底部 直上	沈線			ミガキ	7.7			内外面赤色顔料付着
392	C	IXブロックⅡb2層	Ⅶ	壺	5	体部～底部	突起			ナデ		2		内面赤色顔料付着、 揚底
393	C	IXブロックⅡb2層	Ⅶ	壺	2c	略完形	沈線	LR		ナデ	5.2	5.2	10.5	
394	C	IXブロックⅡb2層	Ⅶ	深鉢	1b	完形		LR	突起	ナデ	30.5	9.2	35.2	外面炭化物付着
395	C	IXブロックⅡb2層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁		RL	突起	ナデ				内外面炭化物付着
396	C	IXブロックⅡb2層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁		LR	小波状	ミガキ				
397	C	IXブロックⅡb2層	Ⅶ	鉢	1b	完形	列点(爪形)	LR	刻み	ミガキ	9.1	4.8	8	
398	C	IXブロックⅡb2層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁～底部 直上		LR	刻み	ナデ	17.1			
399	C	IXブロックⅡb2層	Ⅶ	浅鉢		口縁								口縁突起部 (内面側に文様)
400	C	IXブロックⅡb2層	Ⅶ	深鉢	1c	口縁～底部 直上	無文			ナデ	20	6.2	21.6	外面ケズリ痕顕著
401	C	ⅥブロックⅡc1層	Ⅶ	深鉢	1a	口縁	磨消縄文	LR	突起	ナデ				
402	C	ⅥブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文	LR	突起、刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
403	C	ⅥブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
404	C	ⅥブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ				
405	C	ⅥブロックⅡc1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁～体部		LR、綾縄文		ナデ				口縁内面肥厚稜線形成
406	C	ⅥブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	4	口縁～体部	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				
407	C	ⅥブロックⅡc1層	Ⅶ	浅鉢	3	口縁～体部	磨消縄文、列点	LR	突起	ミガキ				体部中程に段
408	C	ⅥブロックⅡc1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文	LR	突起	ミガキ				
409	C	ⅥブロックⅡc1層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	小波状	ナデ				
410	C	IXブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	2b	口縁～体部	沈線、列点、口縁内面沈線	LR	小波状	ミガキ	8.5			
411	C	IXブロックⅡc1層	Ⅶ	台付鉢	2b	略完形	沈線	LR	突起	ミガキ	14.6	6.1	11.7	
412	C	IXブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ナデ				内外面炭化物付着
413	C	IXブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	1a	完形	沈線、列点		突起(4単位)	ミガキ	16.2	5.5	10.6	
414	C	IXブロックⅡc1層 IXブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、突起、列点、 口縁内面沈線	LR	刻み	ミガキ				
415	C	IXブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線	LR	突起	ミガキ				内外面炭化物付着
416	C	IXブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	磨消縄文	LR	突起	ナデ				
417	C	IXブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
418	C	IXブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	突起	ナデ				
419	C	IXブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ナデ				
420	C	IXブロックⅡc1層	Ⅶ	台付鉢 (香炉?)	2b	略完形	突起、沈線、透し孔			ナデ		4.1	7.2	上半部欠損
421	C	IXブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				
422	C	IXブロックⅡc1層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点、突起	LR	突起	ミガキ				内外面炭化物付着 (アスファルト状)

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
423	C	IXブロックIIc1層	VI	鉢	1a ▲	口縁	沈線			ナデ				雑な施文
424	C	IXブロックIIc1層	VI	鉢	3b	口縁	沈線		突起	ミガキ				内面炭化物付着
425	C	IXブロックIIc1層	VI	浅鉢	1a	口縁~底部直上	充填縄文(浮彫)	LR		ミガキ				
426	C	IXブロックIIc1層	VI	浅鉢	1a	完形	磨消縄文(浮彫)	LR		ミガキ	8.9	4	2.5	分厚い
427	C	IXブロックIIc1層	VI	浅鉢	2	略完形	磨消縄文(浮彫)	LR	突起、刻み	ミガキ	19	11	3.6	内面底縁に段
428	C	IXブロックIIc1層	VI	浅鉢	1a	口縁~底部直上	磨消縄文(浮彫)	LR	突起、沈線	ミガキ				
429	C	IXブロックIIc1層	VI	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文、列点	LR	沈線、刻み	ナデ				口唇部内面側肥厚
430	C	IXブロックIIc1層	VI	浅鉢	1d	略完形	無文			ナデ	10.8		4.5	口縁内面に段、丸底
431	C	IXブロックIIc1層	VI	鉢	4	口縁	磨消縄文、列点	LR		ミガキ				海綿骨針混
432	C	IXブロックIIc1層	VI	壺	3	体部	浮彫(3単位)			ナデ				丁寧な施文
433	C	IXブロックIIc1層	VI	壺	2c	口縁	無文			ナデ	9.5	3.5		
434	C	IXブロックIIc1層	VI	壺	3	口縁	無文			ナデ	5.2			
435	C	IXブロックIIc1層	VI	壺	2?	体部	底縁沈線			ナデ		5	7.9	
436	C	IXブロックIIc1層	VI	壺	2b	口縁	頸部沈線	LR	突起(剥落)	ナデ	6.3			
437	C	IXブロックIIc1層	VI	鉢	1b	略完形		LR	刻み	ナデ	9.3	5		内外面炭化物付着
438	C	IXブロックIIc1層	VI	深鉢	2b	口縁		L	小波状	ナデ				補修孔
439	C	XブロックIIb2-c1層	VI	台付鉢	3a	略完形	磨消縄文	LR	突起、刻み、沈線	ナデ	16.2			内外面上半炭化物付着、雑な施文
440	C	XブロックIIb2-c1層	VI	鉢	2b	口縁~底部直上	沈線	LR	突起(1単位)、刻み、沈線	ミガキ	16.2			内面条痕状
441	C	XブロックIIb2-c1層	VI	鉢	2b	略完形	沈線、突起	LR	沈線	ナデ	12.3	4.4	10.9	
442	C	XブロックIIb2-c1層	VI	鉢	1a	口縁	沈線	RL	突起	ミガキ				
443	C	XブロックIIb2-c1層	VI	深鉢	2a	口縁~体部	沈線	LR	刻み	ナデ				
444	C	XブロックIIb2-c1層	VI	鉢	3a	略完形	磨消縄文、隆線、突起、列点	LR	突起(大小4単位)、刻み、沈線	ナデ	16.6		13.2	人面状モチーフ、内面炭化物付着
445	C	XブロックIIb2-c1層	VI	鉢	3a	口縁~体部	磨消縄文、列点	LR	突起	ミガキ				
446	C	XブロックIIb2-c1層	VI	鉢	3b	口縁~体部	沈線	RL	沈線、外面側貼付文	ナデ				外面炭化物付着
447	C	XブロックIIb2-c1層	VI	鉢	1a	略完形	下描き状沈線	R	刻み	ナデ	9	4	4.7	
448	C	XブロックIIb2-c1層	VI	鉢	3b	口縁	沈線、列点	LR		ミガキ				精選粘土
449	C	XブロックIIb2-c1層	VI	鉢	2b	口縁~底部直上	沈線、口縁内面沈線	RL	突起、沈線	ナデ	11.2			内面炭化物付着
450	C	XブロックIIb2-c1層	VI	鉢	1a	口縁~底部直上	沈線	LR	刻み突起、沈線	ナデ				
451	C	XブロックIIb2-c1層	VI	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	突起、列点	ナデ				内外面炭化物付着
452	C	XブロックIIb2-c1層	VI	鉢	3b	口縁	沈線	LR	刻み、沈線	ナデ				内外面炭化物付着
453	C	XブロックIIb2-c1層	VI	浅鉢	1c	略完形		LR	突起	ナデ	14	4.2	5.5	
454	C	XブロックIIb2-c1層	VI	深鉢	1b	口縁~体部	沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				外面炭化物付着
455	C	XブロックIIb2-c1層	VI	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	突起、沈線	ミガキ				

調査番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
456	C	XブロックⅡb2-c1層	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	磨消縄文	LR	突起、刻み、沈線	ナデ				
457	C	XブロックⅡb2-c1層	Ⅶ	壺	2b	口縁~体部	沈線	LR		ナデ	11.9			
458	C	XブロックⅡb2-c1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁~底部直上	磨消縄文	LR	突起 刻み	ナデ				
459	C	XブロックⅡb2-c1層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	浮彫、口縁内面沈線		突起	ミガキ				
460	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR		ナデ	11.1			外面炭化物付着
461	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ナデ				
462	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	壺	6	口縁	沈線			ミガキ				
463	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	3a *	口縁	沈線、隆帯	LR	刻み、沈線	ナデ				
464	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	3b ▲	口縁	沈線	LR		ミガキ				
465	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	4	略完形	磨消縄文、列点、突起	LR		ナデ	14.2	6.3	6.9	
466	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				
467	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	沈線、列点、突起	LR	突起(内面側)	ミガキ				
468	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				
469	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文、列点	LR	突起	ミガキ				
470	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	注口	2	口縁	沈線、列点			ミガキ				
471	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	注口	2	口縁	浮彫、列点		突起、刻み	ナデ				
472	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	壺	2b	口縁~体部		LR		ナデ	10.2			
473	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢		略完形	無文			ミガキ	8.1	5.8	2	四本脚
474	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	壺	4	口縁	無文		突起(剥落)	ミガキ	14.7			
475	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	片口鉢		口縁		LR	口の脇に突起	ナデ				内外面炭化物付着
476	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	深鉢	2c	口縁		LR	小波状	ミガキ				
477	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁		LR	刻み	ミガキ				
478	C	IブロックⅡc2層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		L	刻み	ナデ				内外面炭化物付着
479	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	3b ▲	口縁	沈線	LR	突起、刻み	ナデ				
480	C	ⅡブロックⅡb1-c2層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線、列点		刻み	ナデ				
481	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	1a	略完形	沈線	L	突起	ナデ	13.1	4.3	10.5	内面炭化物付着
482	C	ⅡブロックⅡb1-c2層	Ⅶ	台付鉢	3b	完形	沈線、沈線間列点、突起	LR	刻み	ナデ	10.6	15.2	9.9	
483	C	ⅡブロックⅡb1-c2層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点、口縁内面沈線	LR	刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
484	C	ⅡブロックⅡb1-c2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線	LR	刻み	ミガキ				
485	C	ⅡブロックⅡb1-c2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁~体部	沈線、沈線間列点、突起	LR	突起	ナデ	14.3			
486	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	2	口縁~底部直上	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				補修孔、精選粘土
487	C	ⅡブロックⅡb1-c2層	Ⅶ	浅鉢	2	完形	磨消縄文(浮彫) 2単位	LR	突起	ミガキ	23.4	12.1	6.2	口縁部に焼成後の貫通孔
488	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	4	完形	沈線、列点、突起		突起(5単位)	ミガキ	10.1	3.4	6.1	底縁環状沈線
489	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	2	口縁	磨消縄文	LR	突起、刻み	ミガキ				
490	C	ⅡブロックⅡb1-c2層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	浮彫			ミガキ				外面赤色顔料付着
491	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)	LR		ミガキ				
492	C	ⅡブロックⅡb1-c2層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	磨消縄文(浮彫)、口縁内面沈線	LR	刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
493	C	ⅡブロックⅡb1-c2層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁~底部	充填縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
494	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	2	口縁~底部直上	充填縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				
495	C	ⅡブロックⅡb1・c2層	Ⅶ	壺	2b	口縁	頸部沈線	LR		ナデ				
496	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	台付		台部	沈線、透かし孔(5単位)	LR		ナデ				外面赤色顔料付着
497	C	ⅡブロックⅡb1・c2層	Ⅶ	壺	5	完形	頸部隆線			ナデ	4.5	2.4	12.9	内外面赤色顔料付着、小径揚底
498	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	注口	1	頸部~底部	磨消縄文(浮彫)、突起	LR		ナデ				
499	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	注口	1	頸部~底部	充填縄文(浮彫)、隆線、突起	LR		ナデ				丸底
500	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	注口	2	略完形	磨消縄文(浮彫)、突起、列点	LR	突起	ナデ				丸底
501	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	注口	3	完形	充填縄文、沈線	LR	突起	ナデ	14.9		7	丸底
502	C	ⅡブロックⅡc2層	Ⅶ	注口	1	完形	充填縄文(浮彫)	LR	突起、刻み	ミガキ	12.6		6.9	上面楕円形(口径12.6×9.6cm)
503	C	ⅡブロックⅡb1・c2層	Ⅶ	注口	▲	略完形		LR		ナデ	5.5		5.1	雑な調整
504	C	ⅡブロックⅡb1・c2層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁		LR	突起、刻み	ナデ				
505	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	台付鉢	2a	略完形	磨消縄文(浮彫)、列点、突起、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ	16.2	6.1		
506	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	深鉢	2a	口縁	沈線、列点、突起	LR	突起、小波状	ミガキ				507と同一個体
507	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	深鉢	2a	口縁	沈線、列点	LR	小波状	ミガキ				
508	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	突起	ナデ	8.2			内外面赤色顔料付着
509	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点、突起、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ				
510	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	深鉢	2a	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ナデ				内外面炭化物付着
511	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	沈線、列点、口縁内面沈線		刻み	ミガキ				
512	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	沈線、浮彫、口縁内面沈線			ミガキ				外面赤色顔料付着
513	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点		沈線	ミガキ				
514	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	磨消縄文(浮彫)、透かし(突起の上下と三叉文の中心)、突起、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				
515	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線	LR	小波状	ナデ				
516	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	充填縄文、沈線、列点	LR	突起	ミガキ				
517	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線	LR	突起	ナデ				
518	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				内面炭化物付着
519	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2b	完形	沈線(口縁、底縁)	LR	刻み	ミガキ	7.5	3.5	7.1	外面炭化物付着
520	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点、突起	LR	刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
521	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				
522	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線	LR	突起	ミガキ				
523	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	充填縄文(浮彫)	LR	突起、刻み	ミガキ	21.1		5.2	
524	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	2	口縁	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				
525	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				
526	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	3	口縁	沈線、列点		突起、刻み	ミガキ				660と同一個体
527	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	浮彫		突起	ミガキ				内外面赤色顔料付着
528	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1a	体部~底部	充填縄文(浮彫)	LR		ミガキ				非常に丁寧な調整
529	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	2	口縁	沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				



図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
530	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	3	体部~底部	充填縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				非常に丁寧な調整
531	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1b	略完形	沈線	LR	突起	ナデ	9.2	4.6	3	外面赤色顔料付着
532	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	台付浅鉢	4	完形	沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ	7.5	3.2	5.3	体部文様下描き状
533	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1b	略完形	沈線(浮彫状)		突起	ナデ	11.4		5.9	内外面赤色顔料付着、底面四角形
534	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	壺	4	口縁~体部	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ	7.5			非常に丁寧な調整
535	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	壺	2b	口縁~体部		LR		ナデ	11			
536	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	1a	略完形	沈線	L	刻み	ナデ	6.7	2.5	5	揚底
537	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1b	口縁		LR		ナデ				口縁内面肥厚
538	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1b	口縁		LR	小波状	ナデ				
839	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1b	口縁		LR		ナデ	24.3	7.5	36.4	外面炭化物付着
540	C	ⅢブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1b	口縁~底部		LR		ナデ	30	7.1	30.4	口唇内削ぎ、やや揚底
541	C	ⅣブロックⅡc2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線	LR	突起、刻み	ナデ				
542	C	ⅣブロックⅡc2層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁~底部		LR		ナデ	15.8	6	15	外面炭化物付着
543	C	ⅣブロックⅡc2層	Ⅶ	台付鉢	1c	略完形	無文			ナデ	9	3.6	8.8	口縁外面に段
544	C	ⅣブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文、列点	LR	突起	ミガキ				
545	C	ⅣブロックⅡc2層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR、綾線文	突起、刻み	ナデ				
546	C	ⅣブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1b	略完形	沈線			ナデ	17.6		6.8	口唇内削ぎ
547	C	ⅣブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1d	略完形	無文			ナデ	9.6		4.5	
548	C	ⅣブロックⅡc2層	Ⅵ	鉢		口縁	充填縄文、突起	L		ナデ				
549	C	ⅣブロックⅡc2層	Ⅶ	浅鉢	1c	略完形		LR		ナデ	8.7	4	4.6	揚底
550	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	台付鉢	2a	口縁~底部直上	磨消縄文、列点、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ	12.9			内外面炭化物付着
551	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ				内面炭化物付着
552	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ				
553	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	RL	刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
554	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点、突起	LR	刻み	ナデ				
555	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	台付鉢	2a	略完形	磨消縄文(浮彫)、列点、突起、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ	13.6	6.3	9.7	
556	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	深鉢	1a	口縁	沈線、沈線間列点	LR	刻み	ナデ				
557	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ナデ				外面炭化物付着
558	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	注口	2	口縁	浮彫			ミガキ				
559	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	沈線、列点、口縁内面沈線			ミガキ				
560	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ナデ				
561	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅵ	鉢		口縁	沈線、瘤	LR		ミガキ				
562	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	鉢		口縁	沈線、列点		突起	ナデ				
563	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅳ	深鉢		口縁	沈線	L		ナデ				
564	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁	縄文原体圧痕(L)	L		ナデ				
565	C	VブロックⅡc1-c2層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線	LR	刻み	ミガキ				

図録番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
566	C	VブロックIIc1・c2層	VI	鉢	2a	口縁	突起	L	突起	ナデ				
567	C	VブロックIIc1・c2層	VI	台付鉢	4	完形	沈線、列点、突起	LR	突起、刻み	ミガキ	18.3	8.4	9.2	
568	C	VブロックIIc1・c2層	VI	浅鉢	1a	口縁～底部直上	磨消縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ	12.8			
569	C	VブロックIIc1・c2層	VI	浅鉢	3	口縁～底部	沈線、列点、突起	LR	突起	ミガキ				底部小径揚底
570	C	VブロックIIc1・c2層	VI	浅鉢	1a	口縁～底部直上	浮彫			ミガキ				内外面赤色顔料付着、698と同一個体
571	C	VブロックIIc1・c2層	VI	浅鉢	1a	略完形	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				
572	C	VブロックIIc1・c2層	VI	浅鉢	1a	口縁	浮彫			ミガキ				
573	C	VブロックIIc1・c2層	VI	浅鉢	2	口縁～底部	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				底面文様展開
574	C	VブロックIIc1・c2層	VI	浅鉢	1a	略完形	磨消縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ	14.6	5	6.8	
575	C	VブロックIIc1・c2層	VI	浅鉢	1b	略完形	沈線、底面環状沈線			ミガキ	18		7.1	
576	C	VブロックIIc1・c2層	VI	浅鉢	1c	略完形		LR		ナデ	15.5	5.5	7	揚底
577	C	VブロックIIc1・c2層	VI	注口	▲	略完形	1箇所に下描き状沈線		突起	ナデ	6.9		7.3	
578	C	VブロックIIc1・c2層	VI	注口	3	体部～底部	充填縄文(浮彫)	LR		ナデ				
579	C	VブロックIIc1・c2層	VI	壺	2b	口縁		LR		ナデ	10			
580	C	VブロックIIc1・c2層	VI	壺	3	頸部～底部	磨消縄文(浮彫)3単位、列点、突起	LR		ナデ		3		内外面赤色顔料付着
581	C	VブロックIIc1・c2層	VI	壺	4	口縁～体部	沈線、突起		突起(1単位?)	ナデ	8			
582	C	VブロックIIc1・c2層	VI	深鉢	2b	口縁		LR		ナデ				外面炭化物付着
583	C	VブロックIIc1・c2層	VI	深鉢	1b	口縁		LR		ナデ				外面炭化物付着
584	C	VブロックIIc1・c2層	VI	深鉢	1b	略完形		LR	突起、小波状	ナデ	16.5	4.9	16.6	内面炭化物付着
585	C	VブロックIIc1・c2層	VI	片口鉢		口縁	無文			ナデ				外面しわ顕著
586	C	VブロックIIc1・c2層	VI	深鉢	1b	口縁		LR	小波状	ナデ				
587	C	VブロックIIc1・c2層	VI	鉢	1b	完形		R		ナデ	6.2	3.6	5.5	
588	C	VIブロックIIc2層	VI	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				
589	C	VIブロックIIc2層	VI	鉢	2a	口縁	沈線		突起	ミガキ				
590	C	VIブロックIIc2層	VI	鉢	2b	口縁	沈線、列点、口縁内面沈線	LR	刻み	ミガキ				
591	C	VIブロックIIc1・c2層	VI	鉢	1a	口縁～体部	沈線	LR	刻み	ナデ	10			
592	C	VIブロックIIc2層	VI	鉢	2b	口縁	沈線	LR	小波状	ナデ				内面炭化物付着
593	C	VIブロックIIc2層	VI	浅鉢	1a	底部	充填縄文(浮彫)	LR		ミガキ				
594	C	VIブロックIIc2層	VI	浅鉢	2	口縁～底部直上	充填縄文	RL	突起	ミガキ				
595	C	VIブロックIIc2層	VI	浅鉢	1a	口縁	充填縄文、沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				
596	C	VIブロックIIc2層	VI	浅鉢	1a	口縁～底部直上	浮彫		突起	ナデ				
597	C	VIブロックIIc2層	VI	浅鉢	1d	完形	無文			ナデ	13	5.7		外面ケズリ痕
598	C	VIブロックIIc2層	VI	壺	4b	口縁～体部		LR	突起	ナデ	6		6.1	
599	C	VIブロックIIc2層	VI	壺	3	頸部～底部	充填縄文(浮彫)3単位	LR		ナデ		3.7		外面無文部丁寧なミガキ
600	C	VIブロックIIc2層	VI	注口	2	完形	沈線、列点		突起	ナデ	12			下半無文、丸底
601	C	VIブロックIIc2層	VI	注口	2	口縁	沈線、列点		突起	ナデ			7.8	外面赤色顔料付着

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
602	C	ⅥブロックⅡc2・c3層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ				
603	C	ⅥブロックⅡc2・c3層	Ⅶ	壺	1a	口縁～頸部	浮彫	LR		ミガキ				内外面赤色顔料付着
604	C	ⅥブロックⅡc2・c3層	Ⅶ	鉢	2b	口縁～体部	沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				
605	C	ⅥブロックⅡc2・c3層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁～体部	充填縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ				
606	C	ⅦブロックⅡc2・c3層	Ⅶ	鉢	1a	口縁～底部	沈線、列点	LR	刻み	ナデ				口唇内削ぎ、やや掲底
607	C	ⅦブロックⅡc2・c3層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁～底部 直上	充填縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ				
608	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1a	口縁～底部 直上	沈線、列点	LR	突起、刻み	ナデ	10.9			
609	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ナデ				
610	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	鉢		口縁	沈線			ナデ				
611	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線、列点、突起	LR	突起、刻み	ミガキ	17.2			
612	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	RL	刻み	ミガキ				
613	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	1a	口縁～体部	沈線	LR	刻み	ナデ	19.4			内外面炭化物付着
614	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	4	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ナデ				
615	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢		▲略完形	沈線			ナデ	10.7	3	5.8	
616	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	磨消縄文、列点	LR	突起、刻み、沈線	ナデ	18.6	7.5	4.4	上面観楕円形
617	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	2	略完形	無文			ナデ	16.2	10	2.8	
618	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	注口	2	略完形	沈線(浮彫)			ミガキ	7.5		6.5	丸底
619	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁		LR	刻み	ナデ				外面炭化物付着
620	C	IブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	小波状	ナデ				外面炭化物付着
621	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	突起	ミガキ				
622	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	4	口縁～底部 直上	沈線、列点	LR	突起	ミガキ				外面炭化物付着
623	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	沈線、列点			ナデ				片口鉢?
624	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1a	▲口縁	沈線	LR	刻み	ナデ				
625	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	2a	▲口縁～体部	沈線、列点		刻み	ナデ	7.7			
626	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	壺	2	口縁	沈線	RL		ナデ				
627	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	2b	略完形		LR	刻み、小波状	ナデ	17.5	5.6	19.8	内外面炭化物付着
628	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1c	完形		LR		ナデ	10.7	2.8	5.9	小径掲底
629	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1b	略完形		L		ナデ	15.4	6	10	掲底
630	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	1b	略完形		LR		ミガキ	12.3	5.2	11.3	内外面炭化物付着
631	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1d	口縁～底部 直上	無文			ミガキ	14.3			
632	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	小波状	ミガキ				内外面炭化物付着
633	C	ⅡブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	沈線	ナデ				口唇内面側肥厚
634	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				外面炭化物付着
635	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
636	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
637	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				
638	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1a	▲口縁	沈線	LR	突起	ナデ				

図録番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
639	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	3a	▲口縁	沈線、列点	R	刻み	ナデ				
640	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				外面炭化物付着
641	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				内面炭化物付着
642	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点	LR	突起	ミガキ				
643	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				
644	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				外面炭化物付着
645	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	沈線		突起	ナデ				
646	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁		LR	刻み	ナデ				
647	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢		▲体部~底部	沈線(8単位)	L		ナデ		4.1		
648	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	台付鉢	1a	略完形	沈線、刻み	LR	突起	ミガキ	14.1	5.7	15.7	内外面炭化物付着
649	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	台付鉢	2a	略完形	沈線、列点	L	突起、刻み	ミガキ	12.6	4.6		内外面炭化物付着
650	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	台付鉢	2a	略完形	沈線、列点、台部透かし	LR	突起、刻み	ミガキ	10.6	4	8.4	
650	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	壺?		体部~底部	沈線、隆帯、列点	LR		ナデ		4		
652	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	台付鉢	2a	完形	沈線、突起(1単位)	LR	突起、刻み	ナデ	7.9	3.1	9.2	外面炭化物付着
653	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	台付鉢	2a	口縁~底部	沈線、突起(1単位)、列点	LR	突起、刻み	ミガキ	9.8	4.6		
654	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	磨消縄文、沈線、列点	LR		ミガキ	14.8	4.4	7.5	
655	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	4	◇略完形	沈線	RL	突起	ミガキ				
656	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	5a	略完形	沈線、突起(1単位)、底面環状沈線		突起(1単位)	ミガキ	8.1	5.2	3.8	内外面赤色顔料付着
657	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1b	完形	沈線			ナデ	12.4	4.3	6.1	
658	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢		▲底部	沈線			ナデ				揚底
659	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	3	略完形	底面充填縄文(浮彫)、沈線、列点	LR	突起	ナデ	22.9	12.5	5.1	
660	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	3	口縁	沈線、列点		突起、刻み	ミガキ				526と同一個体
661	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)	LR	突起	ミガキ				
662	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁~底部直上	磨消縄文、沈線、列点	LR	突起	ミガキ				
663	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1a	▲口縁~底部	下描き状沈線	LR		ミガキ				
664	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	壺	2b	略完形		LR		ナデ	9	6	15.2	
665	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	壺	4c	略完形	頸部、底縁に沈線	LR(磨り消される)		ナデ	6.4	3.9	11	
666	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	壺	1	口縁~体部	沈線			ナデ	10.1			内外面赤色顔料付着、器面剥落顕著
667	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	壺	4b	略完形		LR		ナデ	11.8	7.8	30	底部直上穿孔
668	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	注口	1	略完形	充填縄文(浮彫)、沈線、列点、突起、底面環状沈線	LR	突起	ミガキ	27.8	8	19.3	注口部欠損
669	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	注口	2	完形	沈線、列点、突起、下半磨消縄文	LR	突起(1単位)	ミガキ、ナデ	12.5		6	丸底
670	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	注口	1	完形	沈線、列点		突起(1単位)	ミガキ、ナデ	10.6			丸底
671	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		L	突起	ナデ				
672	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR		ナデ				口縁内面肥厚(稜線形成)

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
673	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	沈線	ナデ				外面炭化物付着
674	C	ⅢブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	1b	略完形		LR	小波状	ナデ	14.4	5.4	16.7	内外面褐色物質付着
675	C	ⅣブロックⅡc1・c2・d層	Ⅶ	深鉢	3a	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				外面炭化物付着、 677と同一個体
676	C	ⅣブロックⅡc1・c2・d層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文（浮彫）、列点、口縁内面沈線	LR	刻み	ミガキ				
677	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	3a	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				
678	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	3a	▲口縁	沈線、列点	LR	刻み	ナデ				
679	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	鉢		◇口縁	磨消縄文（浮彫）	LR	突起	ミガキ				
680	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	深鉢	3a	▲口縁	沈線、列点		突起	ミガキ	25.8			
681	C	ⅣブロックⅡc1・c2・d層	Ⅶ	鉢	3a	◇口縁	沈線、粘土瘤		突起	ナデ				
682	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	3b	口縁～体部	沈線、沈線間列点	LR	刻み	ナデ	17.3			内外面炭化物付着
683	C	ⅣブロックⅡc1・c2・d層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	突起	ミガキ	13.6			内外面炭化物付着
684	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
685	C	ⅣブロックⅡc1・c2・d層	Ⅶ	深鉢	2a	口縁	沈線、口縁内面沈線	LR	突起	ナデ				
686	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				
687	C	ⅣブロックⅡc1・c2・d層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	充填縄文（浮彫）、列点	LR	突起	ミガキ				内面炭化物付着
688	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線	LR		ミガキ				
689	C	ⅣブロックⅡc1・c2・d層	Ⅶ	鉢	2b	口縁～体部	沈線、列点、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
690	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	台付鉢	2b	略完形		L	刻み	ミガキ	10.7	4.4	8.9	台端部肥厚
691	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	台付浅鉢	4	完形	沈線、台部透かし	LR	突起（1単位）	ナデ	17	6.9	10.5	口縁内面稜線
692	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	台付鉢	5a	略完形	沈線、台部透かし	LR	突起	ミガキ	12.1	6.3	8.8	内面一部炭化物付着
693	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1d	略完形	無文			ナデ	9.9	5.8	5.8	やや揚底
694	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1c	略完形	突起（1単位）			ナデ	11.6	3	6.1	口縁外面に段
695	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文、沈線、列点	LR	突起	ミガキ				
696	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	2	略完形	無文		突起（1単位）	ミガキ	10.1	4.1	3.2	
697	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	充填縄文、沈線、列点	LR		ミガキ	22.5	8	5.3	口縁内面稜線形成
698	C	ⅣブロックⅡc1・c2・d層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁～体部	浮彫、沈線		突起	ミガキ	21			外面赤色顔料付着、 570と同一個体
699	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	浅鉢	1a	▲略完形	磨消縄文（単位不明）	LR		ミガキ	13.3			極めて不規則な文 様モチーフ
700	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	壺	1c	略完形	沈線			ナデ	7.2	4.5	5.1	内外面赤色顔料付 着、四脚
701	C	ⅣブロックⅡc1・c2・d層	Ⅶ	鉢	5c	略完形	無文			ナデ	7.8	4.8	6.3	
702	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	壺	6	口縁～体部	磨消縄文、沈線、列点	LR		ミガキ	11.9			
703	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	壺	6	略完形	磨消縄文（浮彫）、沈線、列点、 突起（1単位）	LR	突起	ミガキ	10.4	2.2	8.4	小径揚底
704	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	壺	2a	完形	磨消縄文（浮彫）、沈線、列点、 底面環状沈線	LR	突起（1個剥落）	ナデ	7.4	6.8	14	
705	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	壺	2b	完形		LR		ナデ	11.6	4.6	12.8	
706	C	ⅣブロックⅡd層	Ⅶ	壺	2c	略完形	無文		外面側肥厚	ナデ	7.4	1.4	7.9	内外面赤色顔料付 着、小径揚底

図録番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
707	C	IVブロック II d層	Ⅶ	壺	2b	完形		LR		ナデ	7.4	6	13.5	
708	C	IVブロック II d層	Ⅶ	注口	1	完形	沈線		突起	ミガキ、ナデ	10.1		8.3	丸底
709	C	IVブロック II d層	Ⅶ	注口	2	完形	沈線		突起	ミガキ、ナデ	8.1		6.8	丸底
710	C	IVブロック II d層	Ⅶ	注口	1 ▲	口縁~体部	沈線		突起	ナデ	9			
711	C	IVブロック II d層	Ⅶ	鉢	1 ◇	口縁	沈線			ミガキ				
712	C	IVブロック II d層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	沈線、列点	LR	突起	ミガキ				
713	C	IVブロック II d層	Ⅶ	片口鉢	2b	完形	沈線、列点	LR	突起	ミガキ	10.4	4.2	8.5	内面黒色処理？
714	C	IVブロック II d層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		非結束羽状 (LR・RL)		ミガキ				口唇内削ぎ
715	C	IVブロック II c1・c2-d層	Ⅵ	壺		頸部~体部	沈線、隆帯、粘土瘤			ナデ				
716	C	Vブロック II d層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	突起	ミガキ				内面赤色顔料付着
717	C	Vブロック II d層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁~底部直上	充填縄文 (浮彫)	LR	突起	ミガキ	28.3			
718	C	Vブロック II d層	Ⅶ	浅鉢	2	口縁	沈線、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				
719	C	Vブロック II d層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁~底部直上	磨消縄文、沈線、列点	LR	隆帯、刻み	ミガキ				
720	C	Vブロック II d層	Ⅶ	浅鉢	1b	略完形	沈線	LR		ミガキ	8.3	2.8	1.9	揚底
721	C	Vブロック II d層	Ⅶ	注口	1	口縁	沈線、列点		突起	ミガキ				
722	C	Vブロック II d層	Ⅶ	壺	2b	完形		LR		ナデ	7.7	6.7	11.3	揚底、内面漆膜付着
723	C	Vブロック II d層	Ⅶ	壺	2c	略完形	無文			ナデ	7.8	4	6.9	口縁外面肥厚
724	C	Vブロック II d層	Ⅶ	注口	2	口縁	沈線、列点、突起、下半磨消縄文	LR	突起	ミガキ				注口部剥落面にアスファルト？付着
725	C	Vブロック II d層	Ⅶ	鉢		完形	無文			ナデ	5.6		3	ミニチュア、尖底
726	C	Vブロック II d層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	小波状	ナデ				
727	C	Vブロック II d層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		L		ナデ				
728	C	Ⅷブロック II c1・c2-d層	Ⅶ	鉢	3b ▲	口縁	沈線、列点	R		ナデ				
729	C	Ⅷブロック II c1・c2-d層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	沈線、列点		突起	ミガキ				口縁内面稜線形成
730	C	Ⅷブロック II c1・c2-d層	Ⅶ	浅鉢	1a ▲	口縁	磨消縄文、沈線、列点	LR	突起、刻み、沈線	ミガキ				747と同一個体
731	C	Ⅷブロック II c1・c2-d層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文 (浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ				
732	C	Ⅷブロック II c1・c2-d層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁~底部	充填縄文 (浮彫)	LR	突起	ミガキ				
733	C	Ⅷブロック II c1・c2-d層	Ⅶ	浅鉢	1b ▲	口縁	沈線、列点		刺突	ナデ				雑な施文
734	C	Ⅷブロック II c1・c2-d層	Ⅶ	鉢		口縁	隆線、突起			ミガキ				透かしのある大柄な突起
735	C	Ⅷブロック II c1・c2-d層	Ⅶ	注口	2	口縁	沈線、列点、突起、下半磨消縄文	LR		ミガキ				
736	C	Ⅷブロック II c1・c2-d層	Ⅶ	注口	3	略完形	沈線、列点	LR	刻み	ナデ	6.6	3.3		雑な施文、不規則な単位
737	C	Ⅸブロック II d層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				
738	C	Ⅸブロック II d層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	R	刻み	ナデ				外面炭化物付着
739	C	Ⅸブロック II d層	Ⅶ	深鉢	2c	口縁		LR		ミガキ				外面炭化物付着
740	C	Ⅸブロック II d層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線	L	刻み	ナデ				

図録番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
741	C	IXブロックII d層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線	LR	刻み	ナデ				外面炭化物付着
742	C	IXブロックII d層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線	LR	刻み	ナデ				
743	C	IXブロックII d層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	沈線、列点		突起	ミガキ				内外面丁寧な調整
744	C	IXブロックII d層	Ⅶ	浅鉢	3	口縁～体部	沈線、列点、口縁内面沈線			ミガキ				
745	C	IXブロックII d層	Ⅶ	浅鉢	4 ▲	口縁～体部	隆帯(刻み)、沈線	L	突起	ナデ				沈線文不規則な単位
746	C	IXブロックII d層	Ⅶ	深鉢	1a	口縁～体部	沈線、列点	LR	突起	ナデ				外面炭化物付着
747	C	IXブロックII d層	Ⅶ	浅鉢	1a ▲	口縁	磨消縄文、沈線、列点	LR	突起、刻み、沈線	ミガキ				730と同一個体
748	C	IXブロックII d層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ				
749	C	IXブロックII d層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				
750	C	IXブロックII d層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	沈線、列点		突起、刻み	ミガキ				口縁内面肥厚
751	C	IXブロックII d層	Ⅶ	浅鉢	1b	完形	沈線			ミガキ	15	4	5.3	内外面赤色顔料付着、揚底
752	C	IXブロックII d層	Ⅶ	壺	2b	口縁		LR		ナデ				
753	C	IXブロックII d層	Ⅶ	壺	2a	口縁～体部	沈線、突起			ミガキ				内外面赤色顔料付着
754	C	IXブロックII d層	Ⅶ	壺	4	口縁～体部	磨消縄文、沈線、列点	LR	突起(4単位)	ナデ	9.9			
755	C	IXブロックII d層	Ⅶ	壺	1	頸部～体部	隆帯、沈線			ナデ				内外面赤色顔料付着
756	C	IXブロックII d層	Ⅶ	深鉢	2c	口縁		LR		ナデ				口縁内面内削ぎ、稜線形成
757	C	IXブロックII d層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR		ナデ				口唇部平坦
758	C	IXブロックII d層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁～体部		LR	小波状	ナデ				外面炭化物付着
759	C	XブロックII d層	Ⅶ	鉢	5	口縁	沈線、列点		突起	ミガキ				
760	C	XブロックII d層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文、沈線、列点	LR		ミガキ				
761	C	XブロックII d層	Ⅶ	浅鉢	3	口縁	沈線、列点		突起、刻み、沈線	ミガキ				
762	C	XブロックII d層	Ⅶ	鉢	2b	口縁～体部	隆帯(突起、列点)、沈線	LR	沈線	ナデ				海綿骨針混
763	C	XブロックII d層	Ⅶ	浅鉢	1b	口縁～体部	沈線	LR	突起、沈線	ミガキ				
764	C	XブロックII d層	Ⅶ	鉢	4	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ				外面炭化物付着
765	C	XブロックII d層	Ⅶ	鉢	4 *	口縁～底部直上	沈線、列点	RL(0段3条)	突起、沈線	ミガキ				内外面炭化物付着、766と同一個体
766	C	XブロックII d層	Ⅶ	鉢	4 *	体部	沈線	RL(0段3条)		ミガキ				
767	C	XブロックII d層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文、沈線	RL	突起、沈線	ミガキ				内外面炭化物付着
768	C	XブロックII d層	Ⅶ	鉢	2b *	口縁	沈線	LR	突起	ミガキ				内外面炭化物付着
769	C	XブロックII d層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR		ナデ				外面炭化物付着
770	C	XブロックII d層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	小波状	ナデ				外面炭化物付着
771	C	XブロックII d層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	突起	ナデ				外面炭化物付着
772	C	IブロックII e層	Ⅶ	鉢	2b	口縁～体部	沈線、口縁内面沈線	LR	突起	ナデ				内外面炭化物付着
773	C	IブロックII e層	V	鉢		口縁	隆線(刻目帯)			ミガキ				口縁内面稜線形成、787と同一個体
774	C	IIブロックII d-e層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点、口縁内面沈線	LR	刻み	ミガキ				812と同一個体
775	C	IIブロックII d-e層	Ⅶ	鉢	3b	口縁～体部	磨消縄文(浮彫)、沈線、口縁内面沈線	LR	突起	ナデ				

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
776	C	ⅡブロックⅡd-e層	Ⅶ	鉢	◇	口縁	充填縄文(浮彫)	LR	大波状	ミガキ				
777	C	ⅡブロックⅡd-e層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線	LR	突起	ナデ				
778	C	ⅡブロックⅡd-e層	Ⅶ	鉢	5a	略完形	沈線(浮彫)、隆帯、突起			ミガキ	13.5	3.5	11.4	内外面赤色顔料付着、丁寧な調整
779	C	ⅡブロックⅡd-e層	Ⅶ	深鉢	2a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				
780	C	ⅡブロックⅡd-e層	Ⅶ	鉢	4	口縁	沈線、列点			ナデ	9.4			内外面赤色顔料付着
781	C	ⅡブロックⅡd-e層	Ⅶ	浅鉢		底部	底面環状沈線	R		ナデ		4		
782	C	ⅡブロックⅡd-e層	Ⅶ	台付鉢		体部~台部	沈線、透かし	LR		ミガキ		4.1		
783	C	ⅡブロックⅡd-e層	Ⅶ	浅鉢	1c	略完形		LR		ナデ	11.2	2.1	3.9	内面下半アスファルト付着、揚底
784	C	ⅡブロックⅡd-e層	Ⅶ	注口	1	頸部~底部	沈線、列点、突起(剥落)			ナデ				丸底
785	C	ⅡブロックⅡe層	Ⅶ	注口	1	頸部~体部	沈線(浮彫)、列点			ナデ				
786	C	ⅡブロックⅡd-e層	Ⅶ	注口	2	口縁	沈線、列点			ミガキ				
787	C	ⅡブロックⅡd-e層	V	鉢		体部	充填縄文、刻目帯、突起	LR・RL(0段3条)		ミガキ				内面炭化物付着、773と同一個体
788	C	ⅡブロックⅡe層	V	鉢		口縁	刻目帯		大波状	ナデ				口縁内面肥厚
789	C	ⅡブロックⅡe層	V	深鉢		体部	沈線	L		ナデ				
790	C	ⅡブロックⅡd-e層	V	深鉢		体部	沈線	LR		ナデ				
791	C	ⅢブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1b	口縁	突き起こし状刺突	LR		ナデ				
792	C	ⅢブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				内面丁寧な調整
793	C	ⅢブロックⅡe層	Ⅶ	注口	1	口縁	沈線		突起	ミガキ				正面突起部分
794	C	ⅢブロックⅡe層	Ⅶ	壺	2c	略完形	無文		突起	ミガキ	8.5		7.5	
795	C	ⅢブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	充填縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ	18.5	3.2	7	外面体部下半に段
796	C	ⅢブロックⅡe層	Ⅶ	注口	1	口縁	沈線(浮彫)、隆帯(刻み)、突起		突起	ミガキ	14.3			
797	C	ⅢブロックⅡe層	V	鉢		体部	充填縄文	LR・RL(0段4条)		ナデ				809と同一個体
798	C	ⅢブロックⅡe層	Ⅶ	鉢		口縁~体部	口縁無文	LR		ミガキ	14			
799	C	ⅢブロックⅡe層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	小波状	ナデ				
800	C	Ⅲ・ⅤブロックⅡe層	Ⅶ	片口鉢	▲	口縁	磨消縄文、沈線	LR	突起	ナデ				
801	C	ⅣブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1a	◇	口縁	沈線	LR	突起	ミガキ			
802	C	ⅣブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	RL	突起	ミガキ				内外面炭化物付着
803	C	ⅣブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1a	▲	口縁			ナデ				雑な施文、調整
804	C	ⅣブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ミガキ				
805	C	ⅣブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1a	▲	口縁			ミガキ				
806	C	ⅣブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ				口縁内面稜線
807	C	ⅣブロックⅡe層	Ⅶ	壺	1	口縁	沈線(浮彫)、突起(6単位)	LR		口縁ミガキ、体部ナデ	13.1			
808	C	ⅣブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ	16.5			
809	C	ⅣブロックⅡe層	V	鉢		体部	充填縄文	LR・RL(0段4条)		ナデ				797と同一個体



図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
810	C	VブロックⅡe層	V	鉢		口縁	刻目帯		大波状	ナデ				口縁内面肥厚
811	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	深鉢	2a	口縁	沈線、刻み	LR	突起、刻み	ナデ				外面炭化物付着
812	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点、 口縁内面沈線	LR	刻み	ミガキ				774と同一個体
813	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、突起、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				
814	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線	非結束羽状 (LR・RL)	突起	ミガキ				内面炭化物付着
815	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
816	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	小波状	ナデ				
817	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1a	口縁～底部 直上	沈線、列点	RL	突起	ミガキ				
818	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	沈線、列点		突起、刻み	ナデ				
819	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁～底部 直上	充填縄文、沈線、列点、口縁内面 沈線	LR	刻み	ミガキ				
820	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	3	口縁	充填縄文(浮彫)、沈線	LR	突起、刻み、沈線	ミガキ				
821	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点	LR	刻み、沈線	ミガキ				
822	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	2	口縁～底部 直上	沈線、列点、突起	LR	突起、刻み、沈線	ミガキ				
823	C	VブロックⅡd-e層	Ⅶ	深鉢	1a	口縁～体部	沈線、列点	RL		ナデ				外面炭化物付着
824	C	VブロックⅡd-e層	Ⅶ	深鉢	2a	口縁～体部	沈線、列点	LR	突起、刻み	ナデ				外面炭化物付着
825	C	VブロックⅡd-e層	Ⅶ	鉢	1c	完形	無文			ナデ	10.6	3.6	6.9	内外面褐色物質付着、 揚底
826	C	VブロックⅡd-e層	Ⅶ	浅鉢	1d	完形	無文			ミガキ	12	4.8	5.3	
827	C	VブロックⅡd-e層	Ⅶ	鉢	1a	完形	沈線	LR(回転方向 不規則)	突起(5単位)	ナデ	11.1	4.5	8.1	内外面炭化物付着
828	C	VブロックⅡd-e層	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	充填縄文(浮彫)	RL		ミガキ	16.5	4.5	8.4	
829	C	VブロックⅡd-e層	Ⅶ	浅鉢	2	略完形	磨消縄文(浮彫)、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ	24	12.8	5.7	丁寧な調整
830	C	VブロックⅡd-e層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁～底部	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ	17.9	6	6.8	丁寧な調整、揚底
831	C	VブロックⅡd-e層	Ⅶ	鉢	1a	完形	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ	13.9	4.4	8.8	
832	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	壺	1b	口縁～体部	頸部無文	LR		ナデ	9.5			
833	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	壺	2a	頸部～体部	沈線(浮彫)			ナデ				内外面赤色顔料付着
834	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	壺	2a ▲	略完形	沈線	LR		ナデ	9	5.3	19.1	外面肩部炭化物付着
835	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	壺	1a?	体部	磨消縄文	LR		ナデ				
836	C	VブロックⅡd-e層	Ⅶ	壺	6	略完形	磨消縄文、列点、突起、口縁内面 沈線	LR	突起(1単位)	ナデ	11.8	5	9	
837	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	壺	2	口縁		LR		ミガキ				外面炭化物付着
838	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	壺	2	完形	沈線、列点			ナデ	4		5.2	ミニチュア
839	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	注口	1	体部	沈線、列点			ナデ				
840	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	注口	1	口縁	沈線、列点		突起	ミガキ				
841	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、突起		突起(中央部透かし)	ナデ				内外面炭化物付着
842	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	深鉢	1b	略完形		LR		ナデ	16	6.6	14.3	底面木葉痕

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
843	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR		ナデ				
844	C	VブロックⅡe層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	小波状					外面炭化物付着
845	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	深鉢	1a	口縁～底部直上	沈線、列点	LR	突起	ミガキ	20			外面炭化物付着
846	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文、沈線、列点	LR	突起	ミガキ	16.5			海綿骨針混
847	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				内外面炭化物付着
848	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	5a	口縁	沈線、突起			ミガキ				
849	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	台付鉢	2a	完形	沈線、列点	LR	刻み、緩い波状口縁	ミガキ	15	5.1	12.4	内外面炭化物付着
850	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ミガキ				
851	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1 ▲	口縁	沈線			ナデ				雑な施文
852	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁～底部直上	充填縄文(浮彫)、沈線	LR		ミガキ				外面褐色物質付着
853	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	壺		底部	充填縄文	LR		ナデ				四脚
854	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1b	略完形		LR	刻み	ナデ	11.9	5	9.1	
855	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	深鉢	1b	略完形		L		ナデ	11.2	4.7	11.2	
856	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	深鉢	1b	完形		LR	小波状(4単位)	ナデ	19	6.6	17.8	
857	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR		ナデ				口唇内削ぎ
858	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1b	完形	無文			ナデ	11.8	5	9.5	口縁部斜位調整痕
859	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	片口鉢		口縁	無文			ナデ				
860	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅵ	鉢		体部	浮彫、粘土瘤	RL		ナデ				
861	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅵ	壺		口縁	充填縄文(浮彫)	LR	突起	ナデ				
862	C	ⅦブロックⅡd・e層	Ⅶ	鉢	3a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ナデ				内外面炭化物付着
863	C	ⅦブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1a	口縁	沈線、列点	LR	刻み	ナデ				
864	C	ⅦブロックⅡd・e層	Ⅶ	鉢	2b	口縁～体部	沈線、列点	LR	突起(4単位)、刻み	ミガキ	14.7	3.5	7.4	丁寧な調整
865	C	ⅦブロックⅡd・e層	Ⅶ	深鉢	2a	口縁	沈線、列点、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ナデ				
866	C	ⅦブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	2b	口縁～体部	沈線、列点	LR	突起、刻み	ナデ				内面炭化物付着
867	C	ⅦブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点	LR	突起、刻み	ナデ				
868	C	ⅦブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1b	完形	粘土帯接合痕を利用した沈線			ナデ	7.3			粘土帯接合痕の刻み露出
869	C	ⅦブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	1	口縁	沈線、列点		突起	ナデ				
870	C	ⅦブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	2b	略完形	沈線	LR	刻み	ナデ				内外面炭化物付着
871	C	ⅦブロックⅡd・e層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ				
872	C	ⅦブロックⅡd・e層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)、沈線	LR		ミガキ				
873	C	ⅦブロックⅡd・e層	Ⅶ	浅鉢	3	口縁～底部直上	沈線、列点			ミガキ				内面炭化物付着
874	C	ⅦブロックⅡd・e層	Ⅶ	鉢	4	口縁	沈線、列点	非結束羽状(L・R・RL)	突起	無文				内外面炭化物付着
875	C	ⅦブロックⅡd・e層	Ⅶ	浅鉢	1a	完形	充填縄文(浮彫)、沈線	LR	突起(4単位)、刻み	ミガキ	25.4	5.2	8.3	口縁内面に稜線
876	C	ⅦブロックⅡd・e層	Ⅶ	浅鉢	1b	口縁～底部	沈線			ミガキ				やや揚底

図録番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
877	C	ⅦブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	充填縄文(浮彫)	LR		ミガキ	13.5	3.1	7	
878	C	ⅦブロックⅡd-e層	Ⅶ	浅鉢	3	略完形	磨消縄文(浮彫)、突起(1単位)	LR	突起、刻み	ミガキ	17.2	5.5	4.4	
879	C	ⅦブロックⅡd-e層・法面	Ⅶ	壺	4	口縁~体部	磨消縄文(浮彫)	LR	突起	ナデ	8.9			
880	C	ⅦブロックⅡd-e層	Ⅶ	注口	1	頸部~底部直上	沈線、列点、突起			ナデ				
881	C	ⅦブロックⅡd-e層	Ⅶ	壺	2b	口縁~体部		LR		ナデ				
882	C	ⅦブロックⅡd-e層	Ⅶ	壺	1	口縁~体部	磨消縄文	LR		ナデ	11			内外面赤色顔料付着、補修孔
883	C	ⅦブロックⅡd-e層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁		LR		ナデ				口唇内削ぎ
884	C	ⅦブロックⅡd-e層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		LR	刻み	ナデ				外面炭化物付着
885	C	ⅦブロックⅡd-e層	Ⅶ	深鉢	2b	口縁~体部		L	刻み	ナデ	22.2			口縁内面稜線
886	C	ⅦブロックⅡd-e層	Ⅶ	深鉢	1b	完形		LR	刻み	ナデ	19.4	5	20.7	内外面炭化物付着
887	C	ⅦブロックⅡd-e層	Ⅶ	鉢		口縁	充填縄文、沈線、突起	RL(0段4条)	突起	ミガキ				口縁内面肥厚
888	C	ⅦブロックⅡd-e層	Ⅶ	鉢		口縁	沈線、充填縄文、粘土瘤	RL		ナデ				
889	C	ⅨブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線、列点、突起	LR	突起	ミガキ				
890	C	ⅨブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	2b	口縁~体部	沈線、突起	LR	刻み	ナデ	11.2			内外面炭化物付着
891	C	ⅨブロックⅡe層	Ⅶ	鉢	2b	口縁	沈線、列点、突起	LR	刻み	ナデ				
892	C	ⅨブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	充填縄文、沈線	LR		ミガキ	28.7	7.8	11.7	
893	C	ⅨブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	2	口縁~底部直上	充填縄文(浮彫)、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				
894	C	ⅨブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	沈線、列点		突起	ミガキ				
895	C	ⅨブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	充填縄文(浮彫)、沈線、列点	LR		ミガキ				
896	C	ⅨブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁~底部直上	充填縄文(浮彫)、沈線	LR		ミガキ				
897	C	ⅨブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	浮彫		突起	ミガキ				内外面赤色顔料付着
898	C	ⅨブロックⅡe層	Ⅶ	浅鉢	3	口縁	沈線、列点、口縁内面沈線	LR		ミガキ				
899	C	ⅨブロックⅡe層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		RL(0段3条)		ナデ				
900	C	ⅨブロックⅡe層	Ⅶ	深鉢	1b	口縁		RL		ミガキ				
901	C	盛土	Ⅶ	鉢	3a	口縁~体部	磨消縄文、沈線、隆帯、突起	LR	刻み	ナデ	12.6			内外面炭化物付着
902	C	盛土	Ⅶ	鉢	3a	口縁	磨消縄文、沈線、隆帯、突起、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				
903	C	ⅥブロックⅠ~Ⅲ層	Ⅶ	深鉢	2a	口縁	沈線			ナデ				雑な施文
904	C	ⅥブロックⅠ~Ⅲ層	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点	RL		ミガキ				
905	C	盛土	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	磨消縄文(浮彫)、沈線、口縁内面沈線	LR	突起、刻み、沈線	ミガキ	17.5	10.3	3.8	内面底縁に段
906	C	盛土	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁~体部	磨消縄文(浮彫)、沈線、列点	LR	突起	ミガキ				
907	C	ⅥブロックⅠ~Ⅲ層	Ⅶ	浅鉢	2	口縁~底部	充填縄文(浮彫)、口縁内面沈線	LR	突起	ミガキ				
908	C	盛土	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	充填縄文(浮彫)	LR		ミガキ	19.5	5.9	5.2	
909	C	盛土	Ⅶ	浅鉢	1a	略完形	充填縄文(浮彫)	LR	突起、刻み	ミガキ	20.7	4.3	5.5	揚底
910	C	盛土	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁~体部	充填縄文(浮彫)	LR	刻み	ミガキ	20.3			
911	C	盛土	Ⅶ	浅鉢	1a	口縁~底部	磨消縄文(浮彫)	LR	突起、刻み、沈線	ナデ	13.5	6.2	4.2	

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
912	C	盛土	Ⅶ	注口	口縁～体部	磨消縄文(浮彫)、突起	LR	突起、刻み	ナデ	11.6			
913	C	盛土	Ⅶ	壺	頸部～底部	沈線			ナデ	3.9	2	7.8	
914	C	ⅥブロックⅡe層	Ⅶ	壺	口縁～体部	磨消縄文、沈線、列点	LR		ナデ				
915	C	盛土	Ⅶ	壺	完形		LR	突起	ナデ	6.2	4.5	10.5	
916	C	盛土	Ⅵ	鉢	口縁	充填縄文、粘土瘤	LR		ナデ				
917	C	盛土	Ⅴ	鉢	体部	沈線	LR		ナデ				
918	C	盛土	Ⅴ	鉢	口縁	沈線	LR	突起	ナデ				
919	C	ⅣブロックⅡe層	Ⅰ	深鉢	体部		貝殻復縁文		ナデ				
920	C	ⅤブロックⅡe層	Ⅱ	深鉢	口縁		綾線文		ナデ				繊維混、919と同一個体
921	C	ⅣブロックⅡe層	Ⅱ	深鉢	体部		綾線文、RLR		ナデ				繊維混
922	C	K6オI～Ⅱ層	Ⅱ	深鉢	体部	無文	RL(0段4条)		ナデ				繊維混
923	C	ⅣブロックⅡe層	Ⅱ	深鉢	体部		RLR、LRL		ナデ				繊維混
924	C	ⅣブロックⅢ層	Ⅱ	深鉢	体部		LR		ナデ				繊維混
925	C	K6オⅡ層	Ⅱ	深鉢	体部		RLR		ナデ				繊維混
926	C	XIブロックⅠ層上部	Ⅱ	深鉢	体部		単軸絡条体1類(L燃糸文)		ナデ				繊維混
927	C	K6ウエオⅡ層下部	Ⅱ	深鉢	口縁		単軸絡条体5類		ナデ				繊維混、928・929と同一個体
928	C	K6ウエオⅡ層下部	Ⅱ	深鉢	口縁		単軸絡条体5類		ナデ				繊維混
929	C	K6ウエオⅡ層下部	Ⅱ	深鉢	口縁		単軸絡条体5類		ナデ				繊維混
930	C	盛土	Ⅱ	深鉢	体部		単軸絡条体1A類		ナデ				繊維混
931	C	ⅨブロックⅡb2層	Ⅱ	深鉢	体部		単軸絡条体5類		ナデ				繊維混
932	C	ⅨブロックⅡb2層	Ⅲ	深鉢	口縁	隆帯、半月形原体圧痕(L・R)		突起	ミガキ				
933	C	ⅤブロックⅡa層	Ⅲ	深鉢	口縁	隆帯、原体圧痕(L・R)		突起	ナデ				
934	C	ⅣブロックⅡa層	Ⅲ	深鉢	口縁	隆帯、原体圧痕(R)			ナデ				
935	C	盛土	Ⅲ	深鉢	体部	隆帯、原体圧痕(L・R)			ナデ				
936	C	ⅣブロックⅢ層	Ⅲ	深鉢	体部	隆帯、原体圧痕(L)	LR(0段3条)		ナデ				
1222	A	P2ネⅤ層	Ⅱ	深鉢	口縁		L燃糸文		ミガキ				繊維混
1223	A	O3コソト層位不明	Ⅲ	深鉢	体部	縄文原体圧痕	LR		ミガキ				繊維混
1224	A	P3カキサシⅡ層	Ⅲ	深鉢	口縁	隆帯(剥落)、原体圧痕(L、R)		突起	ナデ				繊維若干混
1225	A	8号墓壙	Ⅲ	深鉢	口縁	隆帯、原体圧痕(LR)			ナデ				繊維若干混
1226	A	P3カⅠ層下部	Ⅲ	深鉢	体部	隆帯、原体圧痕(LR)			ミガキ				繊維若干混
1227	A	O3コソト層位不明	Ⅲ	深鉢	体部	隆帯、原体圧痕(L)			ミガキ				繊維若干混
1228	A	P3キシⅡ層	Ⅲ	深鉢	口縁	隆帯、原体圧痕(LR)		突起	ミガキ				繊維若干混
1229	A	P3カキサシⅡ層下部	Ⅲ	深鉢	口縁	隆帯、原体圧痕(LR)		突起	ナデ				繊維若干混
1230	A	P2Ⅰ層	Ⅲ	深鉢	底部		LR(底面も)		ナデ		6		繊維混

図録番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
1231	A	P 2 I 層	V	深鉢		体部	沈線	LR		ミガキ				
1232	A	O 3 I 層	VI	深鉢		口縁	沈線、突起	LR		ミガキ				
1233	A	O 3 コソト I 層	VI	深鉢		口縁	沈線、粘土瘤	LR		ナデ				
1234	A	P 2 オコソ I 層	VI	深鉢		口縁	沈線、突起、粘土瘤、突起内面沈線	LR	突起	ミガキ				
1235	A	P 2・3 II 層上部	VII	鉢	2a	口縁	充填縄文(浮彫)、列点	LR	突起	ミガキ	17.8			口縁内外面炭化物付着
1236	A	出土地点不明	VII	浅鉢	1a	口縁	沈線(浮彫)	LR	突起、刻み	ミガキ				
1237	A	P 3 ウイキ I 層	VII	浅鉢		底部	充填縄文(浮彫)	LR		ナデ		10		
1238	A	P 2 層位不明	VII	注口?	1	口縁	磨消縄文(浮彫)、隆帯、刻み	LR	突起	ナデ				
1239	A	P 3 ア〜ウ II 層	VII	浅鉢	1a	底部	磨消縄文(浮彫)	LR		ナデ				
1240	A	P 2 II 層	VII	注口	2	口縁	磨消縄文(浮彫)、隆帯、刻み	LR		ミガキ				
1241	A	P 3 ウイキ I 層	VII	壺	1a	口縁	隆帯、突起			ナデ	7.6			内外面赤色顔料付着
1242	A	P 3 キサシ II 層上部	VII	深鉢	2b	口縁~底部 直上	沈線	LR		ミガキ				内面炭化材付着
1243	A	P 3 サ II 層	VII	鉢	3b	口縁	沈線	LR	沈線	ミガキ				
1244	A	6号墓壙	VII	鉢	1a	口縁	磨消縄文、沈線	LR	突起、沈線	ナデ				
1245	A	P2ネ/Q2エオ II 層上部	VII	深鉢	1b	口縁	沈線	RL		ミガキ				
1246	A	P 3 サ II 層	VII	鉢	1b	口縁~体部	沈線	LR		ミガキ				
1247	A	P 3 ア〜ウ II 層	VII	壺	2	口縁	沈線、口縁内面沈線			ナデ				
1248	A	P 3 サ・P 2 ト II 層	VII	鉢	2b	口縁	沈線		突起	ミガキ				
1249	A	P 2 I 層	VII	浅鉢	1d	略完形	無文			ナデ	9.3		3.7	丸底
1250	E	地滑り痕 2' 層	I	深鉢		体部	刺突			ミガキ				
1251	E	I 8 テトネノ II 層	II	深鉢		口縁		綾線文		ナデ				繊維混
1252	E	J 6 I ~ II 層	II	深鉢		口縁		綾線文		ナデ				繊維混
1253	E	J 7 カサタ I 層	II	深鉢		口縁		綾線文、RL		ナデ				繊維混
1254	E	J 6 テ II 層上部	V	鉢	2	口縁	沈線	LR	突起	ミガキ				
1255	E	J 6 ナ・J 5 ノ II 層	VI	鉢	1a	口縁	刺突	LR	突起	ミガキ				
1256	E	J 6 ス・ツ II 層上部	VI	鉢	1a	口縁	沈線	RL	突起	ミガキ				
1257	E	J 6 ネ I 層	VII	注口?	1a	体部	沈線			ナデ				
1258	E	J 6 ソ II 層下部	VII	浅鉢	1a	完形	沈線(浮彫) 4 単位		突起	ミガキ	4.5	4.6	5.1	
1259	E	J 6 ネ I 層	VII	浅鉢		口縁	充填縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				
1260	E	J 6 I 層	VII	浅鉢	1b	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				
1261	E	J 6 I 層	VII	浅鉢	1b	口縁	充填縄文、沈線、口縁内面沈線	LR	突起、刻み	ナデ				
1262	E	J 7 カサタ I 層	VII	鉢	2a	体部	磨消縄文(浮彫)	LR		ナデ				
1263	E	K 6 エオ I 層	VII	深鉢	1c	口縁	沈線	RL		ナデ				口唇内削ぎ
1264	E	I 8 I 層	VII	深鉢		口縁	沈線、口縁内面沈線	RL	小波状	ナデ				
1265	E	J 6 ト II 層	VII	深鉢		口縁	沈線、列点	LR	突起	ミガキ				
1266	E	J 7・8 II 層下部	VII	深鉢		口縁		LR	小波状	ミガキ				
1267	E	J 6 ス II 層下部	VII	深鉢		底部		LR		ナデ		7		やや掲底
1268	H	F 17 ス V 層	II	深鉢		口縁~体部		RL(ループ)	刻目	ナデ	21			繊維混
1269	H	F 15 ト V 層	II	深鉢		口縁~体部		RL		ミガキ	24.9			繊維混

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
1270	H	F17ナニヌⅡ層上部	Ⅱ	深鉢		口縁		LR、RL		ミガキ				繊維混
1271	H	F17Ⅱ層	Ⅱ	深鉢		口縁		RL		ナデ				繊維混
1272	H	H15コⅡ層下部	Ⅱ	深鉢		体部		LR(0段多条)		ミガキ				繊維混
1273	H	F17スセⅢ層下部	Ⅱ	深鉢		口縁～体部		L、R	刻目	ミガキ	34.6			繊維混
1274	H	F16ソトⅤ層	Ⅱ	深鉢		略完形		LR		ナデ	19	6.1	23.2	繊維混
1275	H	H16Ⅱ層上部	Ⅳ	深鉢		口縁	列点	LR(縦位)		ナデ				
1276	H	H16アH15ケⅡ層下部～Ⅲ層上部	Ⅳ	深鉢		口縁	刺突			ミガキ				
1277	H	H15ケⅡ層上部	Ⅳ	深鉢		口縁		RL		ナデ				
1278	H	F17アⅡ層上部	Ⅳ	深鉢		口縁		綾線文、 LR(縦位)		ナデ				
1279	H	F17Ⅱ層	Ⅳ	深鉢		底部		LR(縦位)		ナデ		12.4		
1280	H	F16ツⅡ層下部	Ⅳ	深鉢		底部		LR		ナデ		12.6		底面網代痕
1281	H	G15ノ・G16ナⅡ層	Ⅳ	鉢		口縁	隆線、刺突		突起	ミガキ				
1282	H	F17カキⅡ層上部	Ⅳ	深鉢		底部		L(縦位)		ナデ				底面網代痕
1283	H	G15・16Ⅱ層上部～Ⅲ層上部	Ⅴ	深鉢		口縁	沈線	L		ミガキ				
1284	H	F17Ⅱ層上部	Ⅴ	深鉢		口縁	沈線	L		ナデ				
1285	H	F17Ⅱ層	Ⅴ	深鉢		口縁	沈線		突起	ミガキ				
1286	H	F17Ⅱ層上部	Ⅴ	深鉢		体部	沈線			ミガキ				
1287	H	F17Ⅱ層上部	Ⅴ	深鉢		体部	沈線			ミガキ				
1288	H	H16アイⅠ層	Ⅴ	深鉢		体部	充填縄文	L		ミガキ				
1289	H	F17クスツⅡ層上部	Ⅴ	深鉢		口縁		L(縦位)	折り返し	ミガキ				
1290	H	H15エⅡ層	Ⅴ	深鉢		口縁	沈線、隆帯	R燃糸文		ナデ				
1291	H	F17Ⅱ層	Ⅴ	深鉢		口縁	沈線	RL(0段多条)		ナデ				
1292	H	F17オコⅡ層	Ⅴ	深鉢		口縁		RL	小波状	ミガキ				
1293	H	H15オⅡ層下部	Ⅴ	鉢		口縁	充填縄文	LR		ミガキ				
1294	H	H15オⅡ層下部	Ⅴ	鉢		口縁	充填縄文	LR		ナデ				突起部分
1295	H	H16イウⅡ層	Ⅴ	壺		体部	充填縄文	L		ナデ				
1296	H	F16ソⅡ層下部	Ⅴ	鉢		底部	充填縄文	RL(0段多条)		ナデ		3.1		
1297	H	F16セⅢ層下部	Ⅵ	鉢		口縁	充填縄文、沈線、刻み	RL(0段多条)		ナデ				
1298	H	H15オⅡ層下部	Ⅵ	鉢		体部	充填縄文	RL		ナデ				
1299	H	F17Ⅱ層	Ⅵ	鉢		口縁	刻み			ミガキ				突起部分
1300	H	G15テトⅡ層上部	Ⅵ	壺		体部～底部	充填縄文	LR		ナデ		5		
1301	H	F16ソトⅡ層下部	Ⅵ	鉢		体部～底部	充填縄文	LR		ミガキ		5.6		
1302	H	F17Ⅱ層上部	Ⅵ	鉢		口縁	沈線、粘土瘤			ミガキ				
1303	H	G16タナⅡ層下部	Ⅵ	深鉢		口縁	沈線、刺突	LR		ミガキ				突起部分、1304と同一個体
1304	H	H15エⅡ層上部	Ⅵ	深鉢		口縁	沈線、刺突	LR		ミガキ				
1305	H	F17Ⅰ～Ⅱ層	Ⅵ	鉢		口縁	沈線(浮彫)、粘土瘤			ナデ				
1306	H	F17Ⅱ層上部	Ⅵ	鉢		体部	充填縄文(浮彫)、粘土瘤	LR		ナデ				
1307	H	F17Ⅱ層上部	Ⅵ	鉢		体部	充填縄文(浮彫)、粘土瘤	LR、RL		ミガキ				
1308	H	H16アⅡ層下部～Ⅲ層上部	Ⅵ	注口		体部	沈線			ナデ				

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
1309	H	F17オコⅡ層	VI	鉢		略完形		RL		ミガキ	11.3	5	11.8	
1310	H	F16Ⅲ層下部	VI	鉢		略完形	沈線	RL(0段多条)		ミガキ	13.5	5.5	11.6	
1311	H	H16イウⅡ層下部	VI	鉢		略完形	無文			ナデ	9.3	4.7	6.6	
1312	H	H16コソトⅡ層	VI	鉢		略完形		RL(0段多条)		ミガキ	11.4	4		
1313	H	F17Ⅱ層上部	VI	深鉢		口縁		RL	縄文	ナデ				
1314	H	H15オⅡ層下部	VI	深鉢		口縁		LR		ナデ				
1315	H	F17Ⅱ層上部	VII	鉢	1a	口縁	沈線、列点			ミガキ				
1316	H	F17オコⅡ層	VII	鉢	3a	口縁	沈線			ミガキ				
1317	H	E17Ⅰ層	VII	浅鉢	2	口縁	充填縄文、列点	LR	突起、隆帯、刻み	ミガキ				
1318	H	G16トⅡ層下部	VII	鉢	4	口縁	沈線、列点	非結束羽状(LR・RL)	突起、刻み	ミガキ				
1319	H	G16ネⅡ層下部	VII	浅鉢	1a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点	LR		ミガキ				内外面炭化物付着
1320	H	F17Ⅱ層上部	VII	浅鉢	2	口縁	充填縄文(浮彫)、沈線	LR	突起、刻み	ミガキ				
1321	H	G16トⅡ層下部	VII	深鉢	1c	略完形		LR		ナデ	30.7			
1322	H	F17Ⅱ層上部	VII	鉢	1b	口縁~体部	沈線			ミガキ				
1323	H	G16ナニⅡ層下部	VII	鉢	1a	口縁	沈線			ミガキ				
1324	H	F17Ⅱ層上部	VII	鉢	2a	口縁	磨消縄文(浮彫)、列点	LR	刻み	ナデ				
1325	H	G16キⅡ層上部	VII	鉢	2a	口縁	沈線、列点		刻み	ナデ				
1326	H	H15ケⅡ層上部	VII	深鉢	1a	口縁	沈線	L(縦位)		ナデ				
1327	H	F17Ⅱ層上部	VII	台付		台部	沈線			ナデ				
1328	H	G15ノⅡ層下部	VII	壺		頸部~底部	無文			ナデ	5.3			
1329	J	南側地滑り痕下半	I	深鉢		口縁	刺突		刻み(貝殻復縁)	ナデ				
1330	J	北側包含層Ⅱ層	IV・V	鉢		口縁	沈線(格子状)		突起	ミガキ				
1331	J	北側包含層Ⅱ層上部	IV・V	深鉢		口縁	沈線、刺突、突起	LR		ミガキ				1332と同一個体
1332	J	北側包含層Ⅱ層下部	VI・VII	深鉢		体部	刺突、突起	LR		ミガキ				
1333	J	北側包含層Ⅰ層	VIII	深鉢		体部	沈線、突起	LR		ミガキ				
1334	J	北側包含層Ⅱ層上部	VIII	深鉢		口縁		単軸絡条体5類	波状	ミガキ				
1335	J	北側包含層Ⅱ層上部	VIII	深鉢		体部	沈線	L		ミガキ				
1336	J	北側包含層Ⅱ層上部	VIII	鉢		体部	充填縄文、粘土瘤	LR		ミガキ				
1337	J	北側包含層Ⅰ層	VIII	深鉢		口縁	刺突	RL		ミガキ				
1338	J	北側包含層Ⅱ層		鉢		体部	充填縄文、粘土瘤	LR		ミガキ				内面炭化物付着、1339と同一個体
1339	J	北側包含層Ⅱ層上部		鉢		体部	充填縄文、粘土瘤	LR		ミガキ				
1340	J	C18Ⅱ層		壺		完形	沈線			不明	4.5	4.3	14.2	高台付
1341	J	北側包含層Ⅱ層		壺		体部~底部	無文			ナデ	3.2			
1342	J	北側包含層Ⅰ層		壺		口縁	無文			ミガキ、ナデ	9.8			
1343	J	北側包含層Ⅱ層上部		台付鉢	5a	口縁~底部直上	沈線(浮彫)、列点	LR	突起	ミガキ	15.8			1343と同一個体

図版番号	出土区	出土地点	群	器種	分類	部位	外面文様	地文	口唇装飾	内面調整	口径	底径	器高	備考
1344	J	北側包含層Ⅱ層上部	Ⅶ	台付鉢		台部	沈線、透かし	LR		ナデ		6.7		内面に炭化物付着
1345	J	南側地滑り痕	Ⅶ	深鉢	1c	口縁		非結束羽状 (LR・RL)		ミガキ				補修孔
1346	J	北側包含層Ⅱ層上部	Ⅶ	鉢	3b	口縁	沈線	LR	刻み	ナデ				
1347	J	北側包含層Ⅱ層上部	Ⅶ	注口		体部	無文			ナデ				
1348	J	北側包含層Ⅱ層	Ⅶ	浅鉢	1b	口縁	列点		突起	ミガキ	19.8			
1349	J	北側包含層Ⅱ層	Ⅶ	台付鉢	1b	略完形		LR		ミガキ	8.5	4.3	6.3	
1350	J	北側包含層Ⅰ～Ⅱ層	Ⅶ	壺		底部	無文			ナデ		7.4		四脚
1351	J	北側包含層Ⅱ層上部	Ⅵ・ Ⅶ	異形浅鉢形		略完形		LR		ミガキ	17.2		5.8	口径17.2×8.6cm
1396	H	G16西側Ⅱ層上部	Ⅷ	甕		口縁～体部	沈線、刺突	L燃糸		ミガキ				
1397	H	G16西側Ⅱ層上部	Ⅷ	甕		口縁	沈線、刺突		波状	ミガキ				1398と同一個体
1398	H	G16西側Ⅱ層上部	Ⅷ	甕		口縁	沈線、刺突			ミガキ				
1399	H	F17Ⅰ層	Ⅷ	甕		底部		L燃糸		ミガキ		4.7		
1400	H	F17Ⅱ層上部	Ⅷ	壺?		体部	多重沈線			ミガキ				1401と同一個体
1401	H	F17Ⅱ層上部	Ⅷ	壺?		体部	多重沈線			ミガキ				



第14表 遺物観察表(製塩土器)

単位:cm

図版番号	出土地点	部位	外面調整	内面調整	色調	胎土	付着物	口径	底径	器高	器厚	備考
937	C区IIブロックIIb1層	完形	横位ナデ	縦位ナデ	にぶい黄橙色		内外面帯状に炭化物 内面黒褐色 胎状	22.5	1.9	29.3	0.4	外面に「しわ」
938	A区P3サタII層	略完形	斜位ナデ	斜位ナデ	浅黄橙色		内外面黒褐色胎状	25		29.1	0.5	丸底風
939	C区盛土	口縁	横位ナデ	斜位ナデ	にぶい黄橙色		内外面黒褐色胎状	19.9			0.5	外面に「しわ」一部剥落
940	C区VIブロックIIc1層	口縁	剥落	斜位ナデ	にぶい黄橙色			28			0.4	外面全面剥落
941	C区VIIブロックII d・e・c2 ・3層, IXブロックII d層	口縁	斜位ナデ	斜位ナデ	灰白色		内外面黒褐色胎状	23.8			0.3	外面に「しわ」
942	C区VIIブロックII b2層	底部付近	横位ナデ	斜位ナデ	浅黄橙色						0.5	丸底風 外面一部剥落 粘土帯外傾接合
943	C区VIブロックI~III層	底部	斜位ナデ	斜位ナデ	灰白色				1.8		0.5	平底
944	C区IIIブロックIIc2層	底部	斜位ナデ	斜位ナデ	浅黄橙色				1.5		0.4	平底 粘土帯外傾接合
945	C区VブロックII d層	底部	斜位ナデ	斜位ナデ	浅黄橙色				1.4		0.5	平底 底面凹む
946	C区VIIブロックII d・e層	底部	斜位ナデ	斜位ナデ	浅黄橙色				1.6		0.6	平底 底面凹む
947	C区IVブロックII d層	底部	横位ナデ	縦位・斜位ナデ	橙色	砂粒多	外面黒褐色胎状				1.5	0.6 平底 底面凹む 粘土帯外傾接合
948	C区盛土	底部	斜位ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色							0.5 底部不整形な丸底 粘土板貼り合わせ痕 外面に「しわ」
949	C区IブロックII a層	口縁	斜位ナデ	横位ナデ	にぶい橙色 内面黒褐色	砂粒多						0.5 外面輪積痕
950	C区IブロックII a層	底部付近	横位ナデ	横位ナデ	赤橙色 内面 黒褐色	砂粒多						0.6 949と同一個体
951	C区VIIブロックII b2層	口縁	横位ナデ	横位ナデ	にぶい黄橙色							0.6 外面に「しわ」輪積痕
952	C区VIIブロックII b2層	口縁	横位ナデ	横位・縦位ナデ	橙色	砂粒多	外面吹きこぼれ状黒色付着物					0.6 外面輪積痕
953	C区VIIブロックII b2層	口縁	剥落	斜位ナデ	にぶい黄橙色							0.4 外面剥落
954	C区IXブロックII b2層	口縁	横位ナデ	横位ミガキ	浅黄橙色							0.7 口唇尖る
955	C区IXブロックII b2層	口縁	剥落	横位ミガキ	灰白色		内面黒褐色胎状					0.5 外面剥落 輪積痕顕著
956	C区VIブロックII c1層	口縁	横位ナデ	斜位ナデ	灰白色							0.4 外面に「しわ」
957	C区VブロックII c1・2層	口縁	斜位ナデ	斜位ナデ	浅黄橙色							0.4 外面に「しわ」輪積痕
958	C区VIブロックII c1層	口縁	剥落	斜位ナデ	灰褐色		内外面褐色胎状					0.6 外面剥落
959	C区IIブロックII d層	口縁	斜位ナデ	斜位ナデ	にぶい黄橙色		内外面褐色胎状					0.4 外面に「しわ」輪積痕
960	C区IXブロックII d層	口縁	斜位ナデ	斜位ナデ	灰白色							0.5 口唇丸い
961	C区IXブロックII d層	口縁	横位ナデ	斜位ナデ	にぶい黄橙色		口縁外面吹きこぼれ状黒色付着物 一部剥落					0.4 外面一部剥落
962	C区IIブロック(T)II d・e 層	口縁	斜位ナデ	横位ナデ	にぶい橙色		内外面黒褐色胎状					0.3
963	C区IXブロックII d層	口縁	横位ナデ	横位ミガキ	灰白色							0.3 口唇平坦面
964	C区VIIブロックII d・e層	口縁	不明	斜位ナデ	灰白色		内面褐色胎状					0.5 外面に「しわ」
965	C区VIブロックII e層	口縁	不明	横位ナデ	橙色							0.4 外面剥落
966	C区VIIブロックII d・e層	口縁	横位ナデ	斜位ナデ	にぶい褐色							0.4 外面に「しわ」
967	C区VIIブロックII e層	口縁	横位ナデ	横位ミガキ	にぶい橙色		口縁外面吹きこぼれ状黒色付着物					0.4 外面に「しわ」
968	C区VIIブロックII e層	口縁	横位ナデ	斜位ミガキ	灰白色		内外面黒褐色胎状					0.5
969	C区盛土	口縁	斜位ナデ	斜位ナデ	浅黄橙色	砂粒多	外面黒褐色胎状					0.4 口唇尖る

第15表 遺物観察表(石器)

( ) は残存値

図版番号	登録番号	器種	分類	出土地点	長mm	幅mm	厚mm	重量g	石質	備考
34	731	不定形石器		H区4号住埋土下部	51	33	20	32.2	珪質頁岩	
46	733	石核		H区5号住埋土	69	58	41	145	チャート	
970	63	石鏃	1A	C区VIブロックIIb1層	(35)	15	6	(2.3)	頁岩	先端欠損
971	64	石鏃	1B	C区VIブロックIIb1層	34	17	6	2.4	黒曜石	
972	46	石鏃	1C	C区VブロックIIa層	38	12	6	1.9	頁岩	基部アスファルト付着
973	84	石鏃	1C	C区VIIブロックIIc2層	42	20	5	3.3	珪質頁岩	
974	22	石鏃	1C	C区IIブロックII・e層	45	17	6	4.1	珪質頁岩	
945	25	石鏃	1D	C区IIIブロックIIa層	42	15	5	2.2	珪質頁岩	基部アスファルト付着
976	105	石鏃	1D	C区VIIブロックIIc1層	(38)	19	6	(3.4)	頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
977	112	石鏃	1E	C区IXブロックIIb2層	26	13	5	1	珪質頁岩	基部アスファルト付着、分厚い
978	49	石鏃	2	C区VブロックIIa層	39	17	5	2	珪質頁岩	
979	99	石鏃	3	C区VIIブロックIIb2層	(48)	13	4	(2.4)	珪質頁岩	
980	55	石鏃	4A	C区VブロックII d層	29	18	5	1.8	頁岩	基部欠損
981	68	石鏃	4B	C区VIブロックIIb2層	34	17	5	1.7	頁岩	
982	111	石鏃	4B	C区VIIブロックII d・e層	35	19	5	2.6	珪質頁岩	基部アスファルト付着
983	8	石鏃	4C	C区IIブロックIIb1層	26	12	4	1	頁岩	基部アスファルト付着
984	18	石鏃	4C	C区IIブロックII d層	32	11	5	1.5	珪質頁岩	
985	108	石鏃	4D	C区VIIブロックIIc1層	42	16	4	2	珪質頁岩	先端黒色変色
986	5	石鏃	4D	C区IブロックII d層	33	15	4	2.1	珪質頁岩	
987	133	尖頭器		C区IXブロックI層	37	16	8	3.9	頁岩	
988	129	尖頭器		C区VブロックIIa層	51	30	21	11.6	珪質頁岩	
989	130	尖頭器		C区VIIブロックIIb2層	36	25	65	7.2	頁岩	基部雁又状
990	132	尖頭器		C区VIIブロックIIb2層	51	27	12	15.1	頁岩	1面自然面のまま
991	136	石錐	1	C区IブロックIIa層	30	9	7	1.8	頁岩	
992	158	石錐	1	C区盛土	41	7	5	1.2	珪質頁岩	側縁摩滅
993	145	石錐	2A	C区IVブロックIIa層	39	19	6	2.1	頁岩	
994	149	石錐	2A	C区VブロックIIa層	54	17	9	8	珪質頁岩	
995	146	石錐	2A	C区IVブロックIIc2層	44	20	11	58	珪質頁岩	先端摩滅
996	141	石錐	2B	C区IIブロックII d層	31	22	6	3.3	頁岩	
997	148	石錐	2B	C区IVブロックIIc2層	51	22	12	12.2	珪質頁岩	
998	153	石錐	3	C区VIブロックIIc1層	45	25	7	5.7	珪質頁岩	
999	179	石匙	1A	C区VブロックIIa層	61	23	9	12.4	頁岩	剥片一端利用

図版番号	登録番号	器種	分類	出土地点	長mm	幅mm	厚mm	重量g	石質	備考
1000	174	石匙	1B	C区IVブロックIIb1層	65	37	10	18.8	黒曜石	
1001	176	石匙	1B	C区IVブロックIIc2層	63	17	8	13	珪質頁岩	
1002	182	石匙	1B	C区VブロックIIc1・c2層	83	58	15	60	頁岩	
1003	191	石匙	2A	C区VIブロックIIc1層	47	52	10	22.5	頁岩	
1004	600	石匙	2B	C区K6ウIIa層	50	47	9	18.2	頁岩	摘み部アスファルト付着
1005	177	石匙	2B	C区IVブロックIIc2層	45	61	10	20.5	珪質頁岩	
1006	161	石匙	2B	C区IブロックII d層	49	55	10	13.6	頁岩	
1007	188	石匙	2B	C区VIブロックI～III層	60	65	11	30.2	頁岩	
1008	205	石匙	3A	C区KブロックIIc1層	45	52	9	14.8	珪質頁岩	摘み部アスファルト付着
1009	185	石匙	3B	C区VIブロックIIb1層	37	48	11	16.2	珪質頁岩	
1010	206	石匙	3B	C区KブロックIIc1層	39	67	13	27	珪質頁岩	摘み部2個
1011	164	石匙	3B	C区IIブロックII d層	38	63	10	17.5	黒曜石	
1012	168	石匙		C区IIIブロックIIb1層	54	40	13	17.5	頁岩	未製品?
1013	211	ピエス・エスキュー		C区IブロックIIb1層	41	23	12	16.9	珪質頁岩	
1014	223	ピエス・エスキュー		C区VブロックIIb1層	44	26	17	19.6	珪質頁岩	
1015	228	ピエス・エスキュー		C区VIIブロックIIb1層下部	17	15	9	3.7	珪質頁岩	
1016	234	ピエス・エスキュー		C区VIIブロックIIb2層	35	16	10	6.4	珪質頁岩	
1017	229	ピエス・エスキュー		C区VIIブロックIIb2層	27	15	10	3.8	珪質頁岩	
1018	417	不定形石器		C区VIブロックI層	103	91	20	110	砂岩	
1019	249	不定形石器		C区IブロックIIa層	75	35	9	21.3	頁岩	
1020	297	不定形石器		C区IIIブロックIIb1層	89	68	18	100	砂岩	
1021	579	不定形石器		C区IXブロックIIb2層	61	43	11	27.4	砂岩	
1022	581	不定形石器		C区IXブロックIIb2層	82	64	15	90	珪質頁岩	
1023	582	不定形石器		C区IXブロックIIb2層	44	27	9	12	珪質頁岩	
1024	479	不定形石器		C区VIIブロックIIc1層	45	21	8	7.2	頁岩	
1025	555	不定形石器		C区IXブロックIIc1層	33	23	11	7.8	珪質頁岩	
1026	308	不定形石器		C区IIIブロックIIc2層	41	17	7	4.4	頁岩	
1027	347	不定形石器		C区IVブロックIIc2層	47	18	7	5.9	珪質頁岩	
1028	402	不定形石器		C区VブロックIIc1・c2層	67	41	13	29.7	頁岩	
1029	323	不定形石器		C区IIIブロックII d層	56	29	8	12.5	頁岩	
1030	407	不定形石器		C区VブロックII d層	47	25	6	2.8	珪質頁岩	
1031	408	不定形石器		C区VブロックII d層	54	44	16	33.9	黒曜石	
1032	489	不定形石器		C区VIIブロックII d層	37	30	8	4.1	珪質頁岩	
1033	412	不定形石器		C区VブロックIIe層	65	28	10	16.3	頁岩	

図版番号	登録番号	器種	分類	出土地点	長mm	幅mm	厚mm	重量g	石質	備考
1034	631	不定形石器		C区盛土	59	45	14	24.1	珪質頁岩	
1035	244	石核		C区IIブロックII d層	55	47	24	36.7	頁岩	
1036	246	石核		C区VブロックII d層	41	29	14	21.2	頁岩	
1037	658	磨製石斧		C区VIIブロックII c1層	64	32	12	41.3	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	刃部欠損、小形品
1038	647	磨製石斧		C区IブロックII d層	(34)	23	10	(15.3)	ヒン岩	基部欠損、小形品
1039	656	磨製石斧		C区VIIブロックII d層	87	50	30	180	ヒン岩	刃部欠損
1040	654	磨製石斧		C区VIブロックII c3・d・e層	108	50	24	190	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	
1041	653	磨製石斧		C区VIブロックII e層	140	54	30	390	頁岩	刃部欠損
1042	664	凹石		C区IブロックII c2層	89	73	38	260	石英安山岩	
1043	666	凹石		C区VブロックII c1・c2層	139	63	43	545	花崗閃緑岩(細粒)	2面連痕
1044	655	凹石		C区VブロックI層	76	46	17	80	凝灰岩	
1045	667	凹石		C区VIIブロックII c2・c3層	95	68	28	220	砂岩	石皿片利用、黒色物質付着
1046	687	敲石・磨石類		C区XブロックI層	60	50	47	185	石英安山岩	円礫敲打痕散在
1047	675	敲石・磨石類		C区IVブロックI層	64	78	57	440	花崗閃緑岩	長円礫1端敲打痕、平坦面摩滅、破損品
1048	678	敲石・磨石類		C区VブロックII b1層	95	33	22	120	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	磨製石斧転用
1049	683	敲石・磨石類		C区VIIブロックII b2層	93	39	21	140	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	棒状礫1端敲打痕
1050	686	敲石・磨石類		C区IXブロックII b2層	96	50	27	270	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	磨製石斧転用2端敲打痕
1051	674	敲石・磨石類		C区IIブロックII d・e層	71	53	19	110	アブライト(半花崗岩)	偏平円礫側縁敲打痕
1052	679	敲石・磨石類		C区VブロックII e層	74	68	29	250	花崗閃緑岩	偏平円礫側縁敲打痕、平坦面摩滅
1053	691	礫器		C区IXブロックI層	168	46	19	155	頁岩	半円状偏平打製石器
1054	692	礫器		C区IXブロックII b2層	94	42	8	43.4	頁岩	
1055	695	石皿		C区VブロックII b1層	155	113	73	1195	安山岩	破損品
1056	696	台石		C区IVブロックII d層	195	150	19	785	頁岩	
1352	714	石鏃	1C	E区J6セテII層	31	17	4	1.3	珪質頁岩	
1353	740	石鏃	1C	J区C181層	38	20	9	4.4	チャート	
1354	729	石鏃	1D	H区G16II層上部	29	28	10	5.4	頁岩	基部欠損
1355	717	石鏃	4D	E区J7・8I層	32	18	4	(2.1)	黒曜石	側縁欠損
1356	730	石鏃		H区G16II層下部	34	17	8	3	頁岩	
1357	726	不定形石器		E区J6I層	57	35	15	28.5	珪質頁岩	
1358	738	不定形石器		H区H16AII層下部～III層上部	39	36	11	17.2	珪質頁岩	
1359	718	ピエス・エスキュー		E区J6I層	28	20	10	6.5	黒曜石	
1360	708	磨製石斧		A区P3II層	77	34	14	60	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	
1361	707	磨製石斧		A区1号竪穴状遺構	106	52	31	330	ヒン岩	
1362	712	石皿		A区O3	118	80	39	445	安山岩	

図版番号	登録番号	器種	分類	出土地点	長mm	幅mm	厚mm	重量g	石質	備考
1363	711	敲石・磨石類		A区O3II層	170	70	60	1110	花崗閃緑岩	
1364	710	敲石・磨石類		A区1号竪穴状遺構QNE埋土	125	60	51	570	砂岩	
	1	石鏃	1C	C区IブロックIIa層	(26)	13	5	(1.3)	チャート	基部欠損
	2	石鏃	1C	C区IブロックIIc2層	26	13	2	1	黒曜石	基部アスファルト付着
	3	石鏃	1C	C区IブロックIIc2層	21	11	3	0.6	珪質頁岩	
	4	石鏃	1C	C区IブロックIIc層	21	12	3	0.5	珪質頁岩	基部アスファルト付着
	6	石鏃		C区IIブロックI層	29	18	5	2.1	珪質頁岩	左右不对称
	7	石鏃		C区IIブロックIIa層	27	22	4	2.6	頁岩	未製品
	9	石鏃	1D	C区IIブロックIIb1層	(33)	15	3	(1.7)	珪質頁岩	基部欠損
	10	石鏃	1C	C区IIブロックIIb1層	(32)	18	5	(2.8)	珪質頁岩	先端・基部欠損
	11	石鏃	1C	C区IIブロックIIb1層	40	15	4	1.9	珪質頁岩	
	12	石鏃	2	C区IIブロックIIb1層	32	13	7	2.7	チャート	先端欠損後再調整
	13	石鏃	2	C区IIブロックIIc2層	(17)	14	6	(1.3)	チャート	先端欠損
	14	石鏃	1C	C区IIブロックIIc2層	43	15	6	2.9	珪質頁岩	
	15	石鏃	1C	C区IIブロックIIc2層	28	14	3	0.9	珪質頁岩	
	16	石鏃	1C	C区IIブロックIIc2層	(31)	20	5	(2.3)	チャート	先端・基部欠損
	17	石鏃	1C	C区IIブロックIIc2層	(29)	16	6	(2.5)	珪質頁岩	先端欠損
	19	石鏃	1C	C区IIブロックIIb1・c2層	(40)	17	7	(3.1)	珪質頁岩	基部欠損
	20	石鏃	4B	C区IIブロックIIb1・c2層	26	16	3	1.3	珪質頁岩	
	21	石鏃	1C	C区IIブロックIIb1・c2層	(41)	13	5	(1.8)	珪質頁岩	基部欠損
	23	石鏃	1C	C区IIブロックIIc層	(25)	14	5	(1.3)	珪質頁岩	基部欠損
	24	石鏃	1C	C区IIIブロックIIa層	(39)	14	5	(2.4)	頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
	26	石鏃	2	C区IIIブロックIIb1層	(37)	19	8	(3.4)	珪質頁岩	先端欠損
	27	石鏃	1C	C区IIIブロックIIb1層	34	19	9	4.2	頁岩	分厚い
	28	石鏃		C区IIIブロックIIb1層	(29)	18	5	(1.9)	珪質頁岩	基部欠損
	29	石鏃	1C	C区IIIブロックIIb1層	(31)	15	4	(1.3)	珪質頁岩	基部欠損
	30	石鏃	1D	C区IIIブロックIIb1層	31	14	5	1.8	チャート	
	31	石鏃	1C	C区IIIブロックIIc2層	38	17	5	2.4	珪質頁岩	基部アスファルト付着
	32	石鏃	1C	C区IIIブロックIIc2層	(38)	16	7	(3)	珪質頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
	33	石鏃	1C	C区IIIブロックIIc2層	(38)	17	5	(2.7)	珪質頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
	34	石鏃	1D	C区IIIブロックIIc2層	33	14	4	1.5	珪質頁岩	
	35	石鏃	1C	C区IIIブロックIIc2層	(28)	13	3	(1.1)	黒曜石	基部欠損
	36	石鏃	1D	C区IIIブロックIIc2層	(34)	13	4	(1.6)	珪質頁岩	基部欠損
	37	石鏃	1C	C区IIIブロックIIc2層	(31)	16	6	(2.5)	珪質頁岩	基部欠損、先端極状剥離

図版番号	登録番号	器種	分類	出土地点	長mm	幅mm	厚mm	重量g	石質	備考
	38	石鉢	1D	C区ⅢブロックⅡc2層	44	14	4	1.9	珪質頁岩	基部アスファルト付着
	39	石鉢	1C	C区ⅢブロックⅡc2層	(38)	13	5	(2.1)	珪質頁岩	基部欠損
	40	石鉢	4D	C区ⅢブロックⅡc2層	(37)	19	4	(3)	珪質頁岩	先端欠損
	41	石鉢	2	C区ⅢブロックⅡd層	25	11	5	1	チャート	
	42	石鉢	3	C区ⅣブロックⅡa層	30	10	6	1.5	チャート	分厚い
	43	石鉢	1C	C区ⅢブロックⅡd1層	30	11	3	0.9	珪質頁岩	
	44	石鉢	1C	C区ⅣブロックⅡb1層	(34)	14	4	(1.8)	珪質頁岩	基部欠損
	45	石鉢	1B	C区ⅤブロックⅠ層	23	15	4	1.1	珪質頁岩	
	47	石鉢	1C	C区ⅤブロックⅡa層	46	13	5	2	珪質頁岩	
	48	石鉢	1B	C区ⅤブロックⅡa層	38	15	5	1.9	珪質頁岩	
	50	石鉢	4D	C区ⅤブロックⅡa層	35	17	3	1.7	珪質頁岩	
	51	石鉢	1C	C区ⅤブロックⅡb1層	(39)	16	6	(2.9)	頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
	52	石鉢	1C	C区ⅤブロックⅡb1層	(28)	15	4	(1.4)	珪質頁岩	基部欠損
	53	石鉢	1C	C区ⅤブロックⅡc1・c2層	(35)	19	6	(2.9)	珪質頁岩	基部欠損
	54	石鉢	4C	C区ⅤブロックⅡd層	29	12	4	1.2	珪質頁岩	基部アスファルト付着
	56	石鉢	1C	C区ⅥブロックⅠ層	(29)	15	5	(1.7)	珪質頁岩	基部欠損
	57	石鉢	1C	C区ⅥブロックⅡb1層	29	12	5	1.2	珪質頁岩	
	58	石鉢	1C	C区ⅥブロックⅡb1層	32	17	3	(1.1)	珪質頁岩	側縁欠損
	59	石鉢	1C	C区ⅥブロックⅡb1層	(36)	16	5	(2)	珪質頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
	60	石鉢	1C	C区ⅥブロックⅡb1層	29	11	4	0.9	珪質頁岩	
	61	石鉢	1C	C区ⅥブロックⅡb1層	36	17	5	2	チャート	
	62	石鉢	1B	C区ⅥブロックⅡb1層	(25)	14	4	(1.2)	珪質頁岩	基部欠損
	65	石鉢		C区ⅥブロックⅡb1層	27	12	4	1.2	珪質頁岩	未製品?
	66	石鉢	1D	C区ⅥブロックⅡb2層	37	17	4	2.3	珪質頁岩	基部アスファルト付着
	67	石鉢	1C	C区ⅥブロックⅡb2層	43	14	6	2.3	珪質頁岩	
	69	石鉢	4B	C区ⅥブロックⅡc2層	37	20	5	2.8	頁岩	
	70	石鉢	1D	C区ⅥブロックⅠ～Ⅲ層	(51)	15	6	(3.3)	珪質頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
	71	石鉢	1C	C区ⅥブロックⅠ～Ⅲ層	(27)	14	4	(1.5)	珪質頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
	72	石鉢	1B	C区ⅥブロックⅠ層	(32)	15	5	(1.9)	珪質頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
	73	石鉢	1C	C区ⅥブロックⅡb1層下部	(30)	12	5	(1.8)	珪質頁岩	基部欠損
	74	石鉢	1C	C区ⅥブロックⅡb1層下部	40	16	5	2.3	珪質頁岩	
	75	石鉢	2	C区ⅥブロックⅡb2層	(28)	15	9	(3.1)	珪質頁岩	基部欠損、分厚い
	76	石鉢	1C	C区ⅥブロックⅡb2層	(38)	13	5	(2.1)	珪質頁岩	基部欠損
	77	石鉢	1C	C区ⅥブロックⅡb2層	35	16	6	2.7	珪質頁岩	

図版番号	登録番号	器種	分類	出土地点	長mm	幅mm	厚mm	重量g	石質	備考
	78	石鉢	1D	C区ⅦブロックⅡb2層	(37)	15	6	(2.8)	珩質頁岩	基部欠損
	79	石鉢	1B	C区ⅦブロックⅡb2層	28	17	5	1.5	珩質頁岩	
	80	石鉢	1D	C区ⅦブロックⅡb2層	(33)	16	6	(2.9)	チャート	基部欠損
	81	石鉢	1D	C区ⅦブロックⅡc1層	(31)	16	5	(1.9)	珩質頁岩	基部欠損
	82	石鉢	1D	C区ⅦブロックⅡc1層	(33)	16	7	(3.3)	珩質頁岩	先端・基部欠損
	83	石鉢	1D	C区ⅦブロックⅡc2層	(48)	16	5	(3.5)	珩質頁岩	基部欠損
	85	石鉢	1D	C区ⅦブロックⅡc2層	(37)	13	5	(1.9)	珩質頁岩	基部欠損
	86	石鉢	1D	C区ⅦブロックⅡc2層	(43)	18	5	(3.8)	珩質頁岩	先端・基部欠損、基部アスファルト付着
	87	石鉢	1C	C区ⅦブロックⅡc2層	(21)	15	4	(1.1)	珩質頁岩	基部欠損
	88	石鉢	1C	C区ⅦブロックⅡc2層	(26)	14	4	(1.3)	珩質頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
	89	石鉢	1C	C区ⅦブロックⅡe層	(18)	13	3	(0.7)	珩質頁岩	先端欠損
	90	石鉢	1C	C区ⅦブロックⅠ層	(26)	11	4	(0.6)	珩質頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
	91	石鉢	1C	C区ⅦブロックⅠ層	(33)	12	4	(1.2)	珩質頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
	92	石鉢	3	C区ⅦブロックⅡb2層	38	15	6	2.6	頁岩	分厚い
	93	石鉢	2	C区ⅦブロックⅡb2層	(21)	12	5	(1.2)	珩質頁岩	先端・基部欠損
	95	石鉢	1C	C区ⅦブロックⅡb2層	(20)	14	5	(1.4)	頁岩	先端・基部欠損
	96	石鉢	1D	C区ⅦブロックⅡb2層	36	14	6	(2)	珩質頁岩	側縁欠損
	97	石鉢	1B	C区ⅦブロックⅡb2層	(31)	15	4	(1.2)	珩質頁岩	先端欠損
	98	石鉢	1B	C区ⅦブロックⅡb2層	(33)	15	4	(1.5)	珩質頁岩	基部欠損
	100	石鉢	1C	C区ⅦブロックⅡb2層	(22)	10	4	(0.7)	珩質頁岩	先端・基部欠損
	101	石鉢	1D	C区ⅦブロックⅡb2層	40	11	3	1.3	珩質頁岩	
	102	石鉢	1D	C区ⅦブロックⅡb2層	(28)	13	4	(1.5)	珩質頁岩	先端・基部欠損
	103	石鉢	1C	C区ⅦブロックⅡb2層	29	14	4	1	珩質頁岩	
	104	石鉢	1C	C区ⅦブロックⅡb2層	35	13	5	2.1	珩質頁岩	基部アスファルト付着
	106	石鉢	1D	C区ⅦブロックⅡc1層	(41)	12	4	(2)	珩質頁岩	基部欠損、基部アスファルト付着
	107	石鉢	4D	C区ⅦブロックⅡc1層	38	14	3	1.5	珩質頁岩	先端縁状剥離
	109	石鉢	1D	C区ⅦブロックⅡc1層	(35)	21	7	(4.4)	珩質頁岩	先端欠損
	110	石鉢	1C	C区ⅦブロックⅡc2・c3層	28	13	4	1.1	珩質頁岩	
	113	石鉢	3	C区ⅩブロックⅡb2・c1層	38	14	4	1.7	珩質頁岩	
	114	石鉢	3	C区Ⅵ6エⅡ層上部	(40)	17	9	(4.6)	珩質頁岩	基部欠損、分厚い
	115	石鉢	1C	C区盛土	(28)	19	6	(3.3)	チャート	基部欠損
	116	石鉢	3	C区盛土	(47)	12	5	(3.1)	珩質頁岩	基部欠損、先端縁状剥離
	117	石鉢	1C	C区盛土	35	13	4	1.3	珩質頁岩	
	118	石鉢	1C	C区盛土	40	18	6	3.3	頁岩	

図版番号	登録番号	器種	分類	出土地点	長mm	幅mm	厚mm	重量g	石質	備考
	119	石鏃	1D	C区盛土	42	11	4	1.4	珪質頁岩	
	120	石鏃	2	C区盛土	(35)	14	5	(2.5)	珪質頁岩	基部欠損、先端槌状剥離
	121	石鏃	1D	C区盛土	37	11	5	1.5	珪質頁岩	基部アスファルト付着
	122	石鏃	1B	C区盛土	(19)	15	4	(1.3)	珪質頁岩	先端・基部欠損、基部アスファルト付着
	123	石鏃	1C	C区盛土	30	12	5	1.1	珪質頁岩	
	124	尖頭器		C区IIブロックII d・e層	(3)	28	7	(4.4)	珪質頁岩	基部欠損
	125	尖頭器		C区IIIブロックII a層	29	15	9	3.3	珪質頁岩	
	126	尖頭器		C区IIIブロックII c2層	29	15	8	3.6	珪質頁岩	
	127	尖頭器		C区IIIブロックII c2層	49	25	11	14.1	頁岩	
	128	尖頭器		C区IVブロックII b1層	(28)	23	9	(4.4)	チャート	基部欠損
	131	尖頭器		C区VIIブロックII b2層	36	20	9	6.2	珪質頁岩	
	134	尖頭器		C区IXブロックII c1層	(58)	30	10	(16.7)	チャート	基部欠損
	135	尖頭器		C区XブロックI層上部	(36)	23	12	(9.9)	チャート	基部欠損
	137	石鏃	2A	C区IブロックII a層	(34)	27	7	(4.4)	珪質頁岩	先端欠損
	138	石鏃	2A	C区IブロックII c2層	(26)	15	7	(2.9)	珪質頁岩	基部欠損
	139	石鏃	1	C区IIブロックII b1層	37	10	7	1.9	珪質頁岩	
	140	石鏃	2A	C区IIブロックII c2層	(39)	20	7	(4.4)	珪質頁岩	先端欠損
	142	石鏃	2B	C区IIIブロックI層	(18)	12	6	(0.9)	珪質頁岩	基部欠損
	143	石鏃	3	C区IIIブロックII c2層	29	36	5	3.9	珪質頁岩	剥片一端利用
	144	石鏃	2A	C区IVブロックII a層	(24)	18	4	(1.3)	珪質頁岩	基部欠損
	147	石鏃	2A	C区IVブロックII c2層	(51)	33	11	(16.9)	珪質頁岩	先端欠損
	150	石鏃	2B	C区VブロックII b1層	(33)	19	7	(3)	珪質頁岩	基部欠損
	151	石鏃	2A	C区VブロックII c1・c2層	(46)	23	11	(9.6)	頁岩	基部欠損
	152	石鏃	3	C区VブロックII c1・c2層	30	18	7	2.4	珪質頁岩	剥片一端利用
	154	石鏃	2A	C区VIブロックII c2・c3層	31	13	6	2.1	珪質頁岩	
	155	石鏃	2A	C区VIIブロックII b2層	31	23	8	4.5	珪質頁岩	
	156	石鏃	2B	C区VIIブロックII b2層	37	17	5	3.5	珪質頁岩	
	157	石鏃	1	C区VIIブロックII b2層	36	10	7	1.9	頁岩	
	159	石鏃	2A	C区盛土	47	22	9	4.8	頁岩	
	160	石匙	2B	C区IブロックII b1層	52	42	11	21.7	頁岩	
	162	石匙	2B	C区IIブロックI層	42	6	14	32.3	珪質頁岩	
	163	石匙		C区IIブロックII c2層	28	25	10	7.6	珪質頁岩	破損品
	165	石匙	1A	C区IIブロックII b1・c2層	93	28	14	91	珪質頁岩	
	166	石匙	2A	C区IIブロックII d・e層	38	70	7	13.4	珪質頁岩	



図版番号	登録番号	器種	分類	出土地点	長mm	幅mm	厚mm	重量g	石質	備考
	167	石匙	1B	C区IIブロックII d・e層	48	31	11	14.5	黒曜石	破損品
	169	石匙	3B	C区IIIブロックII c2層	68	79	16	70	頁岩	
	170	石匙	1A	C区IIIブロックII d層	47	14	6	3.3	珪質頁岩	
	171	石匙	1B	C区IIIブロックII d層	42	26	6	6.2	珪質頁岩	
	172	石匙	3B	C区IVブロックI層	30	46	6	5.6	珪質頁岩	
	173	石匙	2B	C区IVブロックII b1層	32	24	7	5.1	頁岩	
	175	石匙	1B	C区IVブロックII b1層	48	28	7	11.3	珪質頁岩	
	178	石匙	1B	C区IVブロックII c2層	53	28	8	13	珪質頁岩	
	180	石匙	1B	C区VブロックII b1層	33	21	5	2.4	珪質頁岩	
	181	石匙	3B	C区VブロックII b1層	28	50	9	7.6	珪質頁岩	
	183	石匙		C区VブロックII d層	42	43	7	11.1	珪質頁岩	破損品
	184	石匙	2B	C区VブロックII d層	57	62	12	22.8	頁岩	
	186	石匙	1B	C区VIブロックII b2層	31	40	12	15.6	珪質頁岩	破損品
	187	石匙	3B	C区VIブロックII c3層	55	45	10	20.9	珪質頁岩	
	189	石匙	1B	C区VIブロックI～III層	66	40	11	27.1	珪質頁岩	
	190	石匙	1B	C区VIIブロックII b2層	59	31	7	14.7	頁岩	
	192	石匙	2B	C区VIIブロックII c1層	56	55	11	25.9	珪質頁岩	
	193	石匙	1B	C区VIIブロックII c3層	53	31	12	15.4	珪質頁岩	
	194	石匙	1B	C区VIIブロックII b2層	63	24	10	16.5	珪質頁岩	摘み部アスファルト付着
	195	石匙		C区VIIブロックII b2層	70	23	10	11.6	珪質頁岩	未製品?
	196	石匙	2B	C区VIIブロックII b2層	68	36	10	24.9	頁岩	
	197	石匙	2B	C区VIIブロックII c1層	40	46	8	13.3	珪質頁岩	摘み部アスファルト付着
	198	石匙	3B	C区VIIブロックII d・e層	38	43	6	9.1	珪質頁岩	
	199	石匙		C区IXブロックI層	65	(50)	7	(19.8)	頁岩	破損品
	200	石匙	3A	C区IXブロックI層	62	(63)	8	(30.6)	頁岩	破損品
	201	石匙	3A	C区IXブロックII b2層	54	(50)	15	(13.4)	頁岩	破損品
	202	石匙	2B	C区IXブロックII b2層	39	52	10	12.1	珪質頁岩	
	203	石匙	2A	C区IXブロックII c1層	48	49	10	13.8	珪質頁岩	
	204	石匙	3B	C区IXブロックII c1層	46	46	10	4	珪質頁岩	破損品
	208	石匙	3A	C区盛土	51	49	11	20.4	珪質頁岩	
	209	石匙	1B	C区盛土	54	43	7	14.4	珪質頁岩	
	210	石匙	1B	C区盛土	66	37	12	26.5	頁岩	
	212	ピエス・エスキーユ		C区IブロックII d層	38	33	8	9.1	珪質頁岩	
	213	ピエス・エスキーユ		C区IIブロックI層	33	21	12	7.9	珪質頁岩	

図版番号	登録番号	器種	分類	出土地点	長mm	幅mm	厚mm	重量g	石質	備考
	214	ピエス・エスキーユ		C区IIブロックIIc2層	31	29	9	7.2	珪質頁岩	
	215	ピエス・エスキーユ		C区IIブロックII d・e層	25	13	7	2.8	黒曜石	
	216	ピエス・エスキーユ		C区IIIブロックIIc2層	28	25	10	5.5	チャート	
	217	ピエス・エスキーユ		C区IVブロックI層	43	27	14	16	頁岩	
	218	ピエス・エスキーユ		C区IVブロックIIb1層	24	13	5	1.9	珪質頁岩	
	219	ピエス・エスキーユ		C区IVブロックIIb1層	35	27	8	7.8	珪質頁岩	
	220	ピエス・エスキーユ		C区IVブロックIIb1層	34	25	11	9.2	珪質頁岩	
	221	ピエス・エスキーユ		C区IVブロックIIa・b1層	24	23	12	6.8	珪質頁岩	
	222	ピエス・エスキーユ		C区VブロックIIa層	31	29	10	10.8	チャート	
	224	ピエス・エスキーユ		C区VブロックIIb1層	40	17	9	4.8	珪質頁岩	
	225	ピエス・エスキーユ		C区VIブロックIIb1層	45	37	13	22.3	珪質頁岩	アスファルト付着
	226	ピエス・エスキーユ		C区VIブロックIIc3層	28	19	8	3.3	頁岩	
	227	ピエス・エスキーユ		C区VIブロックIIa・b1層	38	22	8	9.2	チャート	
	230	ピエス・エスキーユ		C区VIIブロックIIc1層	28	19	8	4.1	珪質頁岩	
	231	ピエス・エスキーユ		C区VIIブロックIIe層	25	23	6	3	珪質頁岩	
	232	ピエス・エスキーユ		C区VIIブロックIIb2層	37	22	10	8.6	頁岩	
	233	ピエス・エスキーユ		C区VIIブロックIIb2層	33	22	10	7.8	珪質頁岩	
	235	ピエス・エスキーユ		C区VIIブロックIIb2層	46	23	15	13.1	頁岩	
	236	ピエス・エスキーユ		C区IXブロックI層	31	39	14	14.2	珪質頁岩	
	237	ピエス・エスキーユ		C区IXブロックIIb2層	34	21	5	3.6	珪質頁岩	
	238	ピエス・エスキーユ		C区IXブロックIIc1層	27	30	11	10.7	珪質頁岩	
	239	ピエス・エスキーユ		C区XIブロックI層下部	19	22	8	3	頁岩	
	240	ピエス・エスキーユ		C区XIブロックII d層	25	22	8	8.8	珪質頁岩	
	241	ピエス・エスキーユ		C区K6ウ1～II層	34	45	11	14.7	頁岩	
	242	ピエス・エスキーユ		C区盛土	28	19	7	4.3	珪質頁岩	
	243	石核		C区IブロックIIb1層	54	27	16	29.5	珪質頁岩	
	245	石核		C区IIブロックIIb1・c2層	36	35	23	30.5	珪質頁岩	
	247	石核		C区VIIブロックIIc2層	35	30	12	15.9	珪質頁岩	
	248	石核		C区盛土	37	36	13	20.1	珪質頁岩	
	648	磨製石斧		C区IブロックII d層	63	39	20	80	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	刃部欠損
	649	磨製石斧		C区IIブロックIIb1・c2層	73	47	31	170	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	刃部欠損
	650	磨製石斧		C区VブロックIIe層	77	49	26	140	ヒン岩	基部・刃部欠損
	651	磨製石斧		C区V・VIブロックI～III層	65	20	9	19.7	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	刃部欠損、小形品
	652	磨製石斧		C区VIブロックIIe層	66	56	26	150	閃緑岩	基部欠損

図版番号	登録番号	器種	分類	出土地点	長mm	幅mm	厚mm	重量g	石質	備考
	657	磨製石斧		C区ⅧブロックⅡb2層	53	23	10	13.6	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	刃部欠損、小形品
	659	磨製石斧		C区ⅨブロックⅡb2層	(87)	47	26	(190)	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	基部欠損
	660	磨製石斧		C区Ⅸ・XブロックⅠ～Ⅲ層	(110)	54	29	(310)	ヒン岩	基部・刃部欠損
	661	磨製石斧		C区K6ウⅡ層上部	70	47	27	145	頁岩	基部・刃部欠損
	662	磨製石斧		C区盛土	112	43	24	(185)	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	刃部欠損
	663	磨製石斧		C区盛土	(130)	45	25	(235)	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	刃部欠損
	668	敲石・磨石類		C区ⅠブロックⅡc2層	55	53	17	85	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	偏平円礫側縁敲打痕
	669	敲石・磨石類		C区ⅠブロックⅡe層	47	40	27	80	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	円礫平坦面摩滅
	670	敲石・磨石類		C区ⅡブロックⅡb1・c2層	36	47	34	80	アブライト(半花崗岩)	長円礫1端敲打痕、1面被熱変色、破損品
	671	敲石・磨石類		C区ⅡブロックⅡb1・c2層	58	55	22	90	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	偏平円礫
	672	敲石・磨石類		C区ⅡブロックⅡb1・c2層	71	38	29	115	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	長円礫1端敲打痕
	673	敲石・磨石類		C区ⅡブロックⅡc2層	73	51	22	125	閃緑岩	偏平円礫側縁敲打痕
	676	敲石・磨石類		C区ⅣブロックⅠ層	78	72	35	340	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	偏平円礫側縁敲打痕
	677	敲石・磨石類		C区ⅤブロックⅡb1層	82	53	32	215	花崗閃緑岩	長円礫平坦面摩滅、破損品
	680	敲石・磨石類		C区ⅤブロックⅡe層	90	42	35	210	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	長円礫1端敲打痕
	681	敲石・磨石類		C区ⅦブロックⅠ層	92	58	36	305	花崗閃緑岩	長円礫平坦面摩滅、2端敲打痕
	682	敲石・磨石類		C区ⅦブロックⅠ層	67	45	14	46.7	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	破損品、摩滅
	684	敲石・磨石類		C区ⅦブロックⅡb2層	111	80	47	580	珪質頁岩～チャート?(蛇紋岩?)	敲打痕散在、器面風化
	685	敲石・磨石類		C区ⅨブロックⅡb2層	91	48	29	250	ヒン岩	磨製石斧転用2端敲打痕
	688	敲石・磨石類		C区盛土	60	57	55	265	石英安山岩	円礫敲打痕散在
	689	敲石・磨石類		C区盛土	75	68	33	245	ヒン岩	長円礫平坦面摩滅
	690	敲石・磨石類		C区盛土	61	59	22	125	砂岩	板状礫、砥石?
	693	礫器		C区盛土	128	56	16	155	頁岩	
	694	石皿		C区ⅠブロックⅡd層	74	78	30	120	安山岩	破損品
	709	磨製石斧		A区N4ナO4アカサⅠ層	107	52	28	275	ヒン岩	
	713	石鏃	IC	E区J7カサタⅠ層	(35)	15	5	(2.3)	珪質頁岩	基部欠損
	715	石鏃		E区J7・8Ⅰ層	39	17	7	3.8	珪質頁岩	未製品
	716	石鏃		E区J6ニチ1号集石南側Ⅱ層上部	(34)	17	5	(2.2)	珪質頁岩	基部欠損
	739	磨製石斧		H区H15クⅡ層下部	(67)	(33)	(29)	(70)	ヒン岩	刃部欠損
	741	ピエス・エスキュー		J区北半包含層Ⅱ層上部	26	22	11	5.5	頁岩	
	744	石鏃		出土地点不明	31	15	5	2.8	珪質頁岩	
	745	石鏃		出土地点不明	21	15	4	1.1	珪質頁岩	
	746	石鏃		出土地点不明	32	15	8	2.7	チャート	
	747	石匙		出土地点不明	41	17	5	3.2	珪質頁岩	

第16表 遺物観察表 (土製品)

図版 番号	種 類	出 土 地 点	特 徴
3	円盤状土製品	J区1号住西半埋土	径39mm厚9mm重16.2g、側縁研磨、後期? (沈線・LR縄文)
1057	土偶	C区VブロックIIe層	長81mm重39.8g、上半身右側
1058	土偶	C区XブロックII d層	長28mm重7g、眼部、赤色顔料付着
1059	土偶	C区IXブロックII d層	長123mm重246.5g、頭部、赤色顔料付着、割れ口アスファルト付着
1060	土偶	C区VブロックII d層	長70mm重109.8g、上半身右側
1061	土偶	C区IXブロックII b 2層	長38mm重28.1g、肩部
1062	土偶	C区IXブロックII c 1層	長65mm重30g、左脇部
1063	土偶	C区VIIブロックI層	長57mm重31.3g、左腹部前面
1064	土偶	C区XブロックII b 2・c 1層	長54mm重28.3g、脇腹部
1065	土偶	C区IIIブロックII d層	長140mm重272g、胴部~左脚部、割れ口アスファルト付着
1066	土偶	C区VブロックII b 1層	長93mm重88.2g、下半身左側
1067	土偶	C区IXブロックII b 2層	長48mm重135.5g、下半身
1068	土偶	C区IXブロックII b 2層	長64mm重105.6g、脚部
1069	土偶	C区XブロックII b 2・c 1層	長27mm重14.2g、腕部、海綿骨針混
1070	土偶	C区IIブロックII a層	長26mm重44g、股部
1071	土偶	C区XブロックII b 2・c 1層	長56mm重21.6g、首部
1072	土偶	C区IブロックII b 1層	長50mm重11.1g、胸部
1073	土偶	C区IVブロックII b 1層	長26mm重5.7g、首部
1074	土偶	C区IIブロックII b 1層	長26mm重4.1g、部位不明
1075	土偶	C区VIブロックII c 3・d・e層	長32mm重13.9g、頭部、赤色顔料付着
1076	土偶	C区IIIブロックII a層	長46mm重10.3g、肩部
1077	土偶	C区IIブロックII a層	長35mm重7.8g、下腹部~脚部
1078	土偶	C区XブロックII b 2・c 1層	長35mm重10.7g、下腹部~脚部
1079	土偶	C区IIIブロックII c 2層上部	長114mm重85.1g、略完形 (右腕先、頭部飾り欠損)、赤色顔料付着
1080	土偶	C区VIIIブロックII b 2層	長80mm重65.9g、上半身~右脚、割れ口アスファルト付着
1081	土偶	C区VIIブロックII d層	長37mm重32.7g、上半身、割れ口アスファルト付着
1082	土偶	C区IXブロックII b 2層	長60mm重23.4g、頭部、右腕欠損
1083	土偶	C区VIIブロックII b 1層下部	長25mm重4.5g、略完形 (頭部欠損)
1084	土偶	C区IIブロックII d・e層	長25mm重3.9g、上半身
1085	土偶	C区VIIIブロックII d・e層	長31mm重13.3g、上半身
1086	土偶	C区XIブロックI層下部	長54mm重57.4g、頭部
1087	土偶	C区IブロックII d層	長35mm重20.6g、頭部
1088	土偶	C区IIブロックII d・e層	長43mm重34.3g、頭部
1089	土偶	C区IXブロックII b 2層	長22mm重8.2g、頭部
1090	土偶	C区VIブロックII c 3層	長33mm重9.1g、顔面
1091	土偶	C区IIブロックII a層	長51mm重27.3g、下半身~右脚
1092	土偶	C区VIIブロックII c 1層	長48mm重25.6g、胴部
1093	土偶	C区IVブロックI層	長43mm重11.9g、下半身~片脚
1094	土偶	C区VIIブロックII c 2層	長53mm重24g、腹部
1095	土偶	C区盛土法面	長42mm重20.3g、胴部
1096	土偶	C区IVブロックII d層	長32mm重8.4g、腕部
1097	土偶	C区IIブロックII a層	長18mm重6.8g、腕部
1098	土偶	C区VブロックII a層	長25mm重5.4g、腕部
1099	土偶	C区XブロックI層下部	長48mm重17.1g、下半身?
1100	土偶	C区IIブロックII c 2層	長41mm重10.2g、完形

図版番号	種類	出土地点	特徴
1101	土偶	C区IブロックIIb1層	長42mm重6.6g、右胸部
1102	土偶	C区盛土	長30mm重13.9g、脚部
1103	土偶	C区IブロックIIb1層	長28mm重15g、腕部
1104	土偶	C区IVブロックIIa層	長38mm重7.8g、足部
1105	中空土製品	C区IVブロックトレンチIIc1・c2・d層	長10mm重117.2g、人面付き、亀形土製品？赤色顔料付着
1106	中空土製品	C区盛土	長110mm重47.4g、亀形土製品？
1107	中空土製品	C区K6オII層	長46mm重6.7g、亀形土製品？
1108	動物形土製品	C区IVブロックIIa層	長56mm重28.7g、完形
1109	内面渦状土製品	C区IブロックII d層	径53mm重28.6g孔径3.8mm、イモガイ形土製品、左巻き
1110	内面渦状土製品	C区IXブロックIIc1層	重15.6g、イモガイ形土製品、右巻き？
1111	内面渦状土製品	C区盛土	重9.2g孔径3.4mm、イモガイ形土製品、右巻き
1112	耳飾	C区IブロックIIc2層	幅11mm厚12mm重3.8g、内面赤色顔料付着
1113	耳飾	C区IIブロックII d・e層	幅11mm厚16mm重8.0g、1面に文様
1114	耳飾	C区VIブロックトレンチ層位不明	幅9mm厚14mm重2.8g、1面に文様
1115	耳飾	C区VIブロックIIb1層	幅10mm厚22mm重15.1g、無文
1116	耳飾	C区XブロックIIb2・c1層	幅11mm厚19mm重12.2g、無文
1117	耳飾	C区VIブロックIIc2層	径13mm重0.9g孔径2.3mm、鼓形、赤色顔料付着
1118	耳飾	C区VIブロックIIc2層	径12mm重0.7g孔径3.5mm、鼓形、赤色顔料付着
1119	耳飾	C区IIIブロックIIc2層	径15mm重1.2g孔径2.1mm、鼓形、赤色顔料付着
1120	耳飾	C区IIIブロックII d層	径13mm重0.7g孔径2.0mm、鼓形、赤色顔料付着
1121	玉類	C区IIIブロックIIb1層	長26mm重2.6g孔径2.7mm、子持勾玉
1122	玉類	C区IIブロックIIb1層下部	長23mm重1.5g、赤色顔料付着
1123	スプーン形土製品	C区VIブロックIIc2・c3層	長49mm重24.2g、柄部
1124	スプーン形土製品	C区盛土	長44mm重14.1g、柄部
1125	スプーン形土製品	C区IIIブロックI層	長32mm重7.4g、柄部
1126	スプーン形土製品？	C区IVブロックII d層	長70mm重25.7g、匙部
1127	不明土製品	C区VIブロックII e層	長87mm重56.7g、袋状
1128	不明土製品	C区XブロックIIb2・c1層	長23mm重8.8g、乳首状
1129	不明土製品	C区IXブロックIIb1層	長28mm重3.7g、土偶足？
1130	不明土製品	C区IXブロックI層	長22mm重14.0g、貫通孔（径3.5mm）
1131	不明土製品	C区IVブロックIIa層	長31mm重9.1g、土偶腕or土器突起部？
1132	不明土製品	C区IVブロックIIb1層	長22mm重4.5g、土偶腕or土器突起部？
1133	不明土製品	C区IVブロックIIa・b1層	長35mm重13.7g、土偶腕or土器突起部？
1134	不明土製品	C区VブロックII d層	長29mm重5.6g、沈線、赤色顔料付着
1135	不明土製品	C区IブロックIIa層	長37mm重9.0g、中空、沈線（三叉文）
1136	不明土製品	C区IIブロックIIb1層	長30mm重15.0g、ウニ形土製品？貫通孔
1137	不明土製品	C区IXブロックII e層	長27mm重29.8g、土器底部？
1138	不明土製品	C区IVブロックIIa層	長33mm重7.8g、棒状
1139	不明土製品	C区IVブロックIIc2層	長34mm重4.2g、棒状
1140	不明土製品	C区IXブロック法面IIb2層以下	長45mm重6.1g、棒状、完形
1141	不明土製品	C区VIIIブロックIIb2層	長28mm重1.9g、棒状
1142	円盤状土製品	C区XIブロックI層上部	径49mm厚8mm重20.8g、側縁打欠、底部破片
1143	円盤状土製品	C区IIIブロックIIb1層	径44mm厚7mm重14.6g、側縁研磨、貫通孔（径5mm）、晩期（L縄文）
1144	円盤状土製品	C区IXブロックIIb1層	径33mm厚7mm重7.3g、側縁一部研磨、晩期（L縄文）
1145	円盤状土製品	C区VIIブロックIIb1層下部	径61mm厚11mm重42.8g、側縁打欠、中央に盲孔（径4mm）晩期（底部破片）
1146	円盤状土製品	C区IXブロックIIb2層	径56mm厚7mm重26.6g、側縁研磨、貫通孔（径5mm）、晩期（LR縄文）

図版 番号	種 類	出 土 地 点	特 徴
1147	円盤状土製品	C区VIブロックII c 1層	径39mm厚7mm重9.6g、側縁一部研磨、晩期中葉（浅鉢底部付近）
1148	円盤状土製品	C区IIIブロックII c 2層	径42mm厚7mm重13g、側縁打欠、晩期（LR縄文）
1149	円盤状土製品	C区VブロックII c 1・c 2層	径51mm厚7mm重13.1g、側縁打欠、晩期（LR縄文）
1150	円盤状土製品	C区VブロックII c 1・c 2層	径48mm厚11mm重23.3g、側縁打欠、前期初頭（LR縄文半置半転？）
1151	円盤状土製品	C区IブロックII d層	径37mm厚8mm重13.9g、側縁一部研磨、晩期（LR縄文）
1152	円盤状土製品	C区IVブロックII c 1・c 2・d層	径51mm厚5mm重17.2g、側縁研磨、後期後葉（非結束羽状縄文LR・RL）
1153	円盤状土製品	C区IVブロックII c 1・c 2・d層	径37mm厚9mm重14g、側縁研磨、晩期（LR縄文）
1154	円盤状土製品	C区IVブロックII c 1・c 2・d層	径37mm厚7mm重5g、側縁打欠、晩期（LR縄文）
1155	円盤状土製品	C区IVブロックII c 1・c 2・d層	径59mm厚7mm重18.2g、側縁一部研磨、晩期（L縄文）
1156	円盤状土製品	C区VIIブロックII d層	径54mm厚8mm重24.6g、側縁打欠、晩期（L縄文）
1157	円盤状土製品	C区VIIブロックII d層	径39mm厚7mm重11.3g、側縁一部研磨、晩期（LR縄文）
1158	円盤状土製品	C区XブロックII d層	径37mm厚7mm重10.5g、側縁研磨、晩期（LR縄文）
1159	円盤状土製品	C区IVブロックII e層	径34mm厚5mm重6.3g、側縁打欠、晩期（磨消、LR縄文）
1160	円盤状土製品	C区IVブロックII e層	径43mm厚5mm重11g、側縁打欠、晩期（無文）
1161	円盤状土製品	C区VブロックII e層	径49mm厚7mm重16.9g、側縁研磨、晩期（L縄文）
1162	円盤状土製品	C区VブロックII e層	径41mm厚12mm重22.3g、側縁研磨、晩期（LR縄文）
1163	円盤状土製品	C区VIIIブロックII e層	径66mm厚7mm重29.8g、側縁打欠、晩期（LR縄文）
1164	円盤状土製品	C区IXブロックII e層	径48mm厚5mm重12.4g、側縁研磨、後期後葉（入組文）
1165	円盤状土製品	C区IXブロックII e層	径44mm厚7mm重16.1g、側縁打欠、晩期（LR縄文）
1166	ミニチュア土器	C区IVブロックII c 1・c 2・d層	口径30mm器高13mm、浅鉢形、突起1単位、LR縄文
1167	ミニチュア土器	C区IIIブロックII b 1層	器高21mm、浅鉢形、沈線、刺突
1168	ミニチュア土器	C区VIIIブロックII c 2・c 3層	口径32mm、深鉢形、沈線、刺突
1169	ミニチュア土器	C区IXブロックII c 1層	口径24mm、深鉢形、沈線
1170	ミニチュア土器	C区VIIIブロックII e層	口径26mm器高33mm、深鉢形、無文
1171	ミニチュア土器	C区VIIIブロックII d・e層	口径46mm器高26mm、鉢形、無文
1172	ミニチュア土器	C区VIブロックII e層	口径37mm器高18mm、鉢形、無文
1173	ミニチュア土器	C区VブロックII d層	口径35mm器高23mm、鉢形、無文
1174	ミニチュア土器	C区IIIブロックII d層	口径29mm器高21mm、鉢形、無文
1175	ミニチュア土器	C区VIIIブロックII c 2・c 3層	口径38mm器高29mm、鉢形、無文、片口状
1176	ミニチュア土器	C区IVブロックII c 2層	口径17mm器高29mm、鉢形、沈線
1177	ミニチュア土器	C区IIIブロックII c 2層	口径37mm器高22mm、鉢形、無文
1178	ミニチュア土器	C区IブロックII b 1層	口径27mm器高20mm、鉢形、無文
1179	ミニチュア土器	C区IXブロックII c 1層	口径32mm器高27mm、鉢形、突起1単位
1180	ミニチュア土器	C区VIIIブロックII c 1層	口径59mm器高26mm、浅鉢形、無文
1181	ミニチュア土器	C区盛土	口径47mm器高35mm、台付鉢形、無文
1182	ミニチュア土器	C区IXブロックII b 2層	口径34mm器高54mm、壺形、沈線
1183	ミニチュア土器	C区IブロックII b 1層	口径32mm器高44mm、壺形、無文
1184	ミニチュア土器	C区IブロックII b 1層	口径24mm器高37mm、壺形、無文
1185	ミニチュア土器	C区IブロックII b 1層	口径24mm器高38mm、壺形、無文
1186	ミニチュア土器	C区IIIブロックベルトII b層	口径15mm器高36mm、壺形、無文
1187	ミニチュア土器	C区IIIブロックII b 1層	残存高77mm、台付壺形、沈線状
1188	ミニチュア土器	C区盛土	残存高40mm注口形、無文
1189	ミニチュア土器	C区VIブロックII d・e層	口径56×43mm器高25mm、片口鉢形、無文
1365	土偶	A区P3イII層下部	長57mm重46.4g、頭部、頭頂部から貫通孔
1366	土偶	J区A19ネII層上部	長46mm重48.9g、頭部、後頭部から穿孔
1367	土偶	A区O3ヌI層	長73mm重58.4g、頭部、腕欠損

図版 番号	種 類	出 土 地 点	特 徴
1368	動物形土製品	H区トレンチT5 II層上部	長95mm重104.7g、頭部?欠損
1369	不明土製品	E区J6 I~II層上部	長30mm重9.0g、土器突起部?
1370	不明土製品	H区H16 コソト I層	長18mm重4.3g、土偶乳房?
1371	不明土製品	H区G16 二II層下部	長21mm重18.1g、土偶片足?
1372	不明土製品	J区北半包含層II層	長26mm重5.4g、球形、貫通孔
1373	不明土製品	H区G16 II層下部	重8.8g、刺突、土偶肩部?
1374	不明土製品	H区H15 オII層下部	長22mm重4.1g、刺突、土偶腹部?1373と同一個体
1375	不明土製品	E区J7 I層	長42mm重13.2g、棒状
1376	ミニチュア土器	J区北半包含層I~II層	鉢形、無文
1377	円盤状土製品	A区P3 カサII層	径25mm厚7mm重4.2g、側縁打欠、晩期(LR縄文)
1378	円盤状土製品	E区J6 I層	径40mm厚7mm重11.7g、側縁研磨、晩期(RL縄文)
1379	円盤状土製品	E区J7・8 I層	径35mm厚7mm重10.5g、側縁研磨、晩期(LR縄文)
1380	円盤状土製品	H区F17 西半II層下部	径28mm厚7mm重4.9g、側縁打欠、晩期(LR縄文)
1381	円盤状土製品	H区F17 イ~ニII層上部	径41mm厚6mm重3g、側縁一部研磨、中期?(LR縄文)
1382	円盤状土製品	J区北半包含層I~II層	径38mm厚5mm重6.5g、側縁一部研磨、四角形整形、無文
1383	円盤状土製品	J区北半包含層II層	径32mm厚6mm重5.9g、側縁研磨、多角形整形、後期(沈線)
1384	円盤状土製品	J区北半包含層II層上部	径27mm厚6mm重4.3g、側縁打欠、無文
1385	円盤状土製品	J区北半包含層II層上部	径36mm厚6mm重6.8g、側縁一部研磨、晩期(RL縄文)
1386	円盤状土製品	J区北半包含層II層上部	径31mm厚7mm重7.2g、側縁打欠、晩期(LR縄文)

第17表 遺物観察表(石製品)

図版 番号	登録 番号	種 類	出 土 地 点	特 徴	長mm	幅mm	厚mm	重g	石 質
1190	3.4	岩版	C区VブロックIIb1層	裏面下描き状	110	58	18	90	凝灰岩
1191	5.7	岩版	C区IXブロック法面IIb2層以下・IIc層	1面下描き	87	52	4	23.7	凝灰岩
1192	47	岩版	C区K6 エII層上部	無文、未製品	70	43	11.5	36.7	凝灰岩
1193	6	岩版	C区IXブロックIIc1層	無文、未製品	47	40	7	17.2	凝灰岩
1194	2	岩版	C区VブロックIIb1層	無文、未製品	71	31	10	26.3	凝灰岩
1195	8	岩版	C区盛土	無文、未製品	36	30	3	3.5	凝灰岩
1196	60	線刻製品	C区盛土	2面下描き状	100	35	17	90	凝灰岩
1197	32	線刻製品	C区IIIブロックIIb1層	球形製品、沈線	26	22	8.5	4.2	凝灰岩
1198	33	線刻製品	C区IVブロックIIa層	1面、1側縁沈線	45	36	7.5	4.3	凝灰岩
1199	34	その他石製品	C区IVブロックIIc1層	研磨調整、貫通孔	58	39	22	10.6	軽石
1200	26	石棒類	C区IIブロック(T)IId・IIe層	完形、頭部彫刻、両刃の石剣状	348	31	24	285	流紋岩
1201	15	石棒類	C区IXブロックIIb2層	頭部彫刻	150	34	14.5	100	雲母片岩
1202	12	石棒類	C区IブロックIIa層	頭部龟头状、節理面破損	97	30	13.5	453	スレート
1203	13	石棒類	C区IIIブロックIIb1層	頭部龟头状	210	33	24	140	ホルンフェルス
1204	20	石棒類	C区XIブロックIId層	先端	164	23	20	100	ホルンフェルス
1205	55	石棒類	C区XブロックI層上部	先端	118	21	13	50	スレート
1206	16	石棒類	C区VIブロック(T)IIc2・IIc3層	先端	120	27	22	90	スレート
1207	48	石棒類	C区IXブロックIIb2層	沈線文	76	29	19	60	スレート
1208	19	石棒類	C区VIIIブロックIIc1層	先端	283	25	19	220	ホルンフェルス
1209	27	石棒類	C区IIIブロックIIc2層	未製品、側縁敲打剥離	238	47	30	470	砂岩(粗粒)
1210	24	石棒類	C区IXブロックI層	断面円形	154	40	30	220	砂岩(中粒-細粒)
1211	52	石棒類	C区盛土	片刃の石刀状	180	42.5	15	120	スレート
1212	31	石棒類	C区ブロック不明IIb2層	片刃の石刀状	103	25	11.5	55	スレート
1213	29	石棒類	C区VIIブロックI層	片刃の石刀状	135	35	11	70	スレート

図版 番号	登録 番号	種 類	出 土 地 点	特 徴	長mm	幅mm	厚mm	重g	石 質
1214	37	ボタン状石製品	C区XブロックⅡb2・Ⅱc1層	全面研磨調整、穿孔2穴	35	35	8	18.9	石英安山岩
1215	36	ボタン状石製品	C区XブロックⅡb2・Ⅱc1層	全面研磨調整、穿孔2穴	41	41	8	20.2	石英安山岩
1216	35	その他石製品	C区ⅦブロックⅡb1層	側縁研磨調整	52	28	4.5	7.7	スレート
1217	56	その他石製品	C区盛土	1面研磨調整、1側縁刃付け	91	75	11	55	砂岩
1218	46	円盤型石製品	C区ⅦブロックⅡd・Ⅱe層	側縁一部研磨調整	50	50	11.5	32.7	砂岩
1219	62	その他石製品	C区ⅢブロックⅡb1層	擦痕	58	31	20	52.1	蛇紋岩
1220	61	その他石製品	C区ⅤブロックⅡe層	全面研磨調整	84	53.5	39	60	軽石
1221	57	異形石器	C区ⅦブロックⅡc1層	先端欠損	34	39	5	4	頁石
1387	40	その他石製品	H区F17タⅡ層上部	1面線刻	153	90	18.5	260	砂岩
1388	41	その他石製品	H区F17タⅡ層上部	研磨調整、貫通孔	86	52	16.5	21.5	軽石
1389	38	その他石製品	E区J6テⅡ層	研磨調整	36.5	36.5	2.5	2.9	スレート
1390	58	石製円盤	A区P3Ⅰ層	側縁一部研磨調整	80	76	17.5	160	砂岩(中粒-細粒)
1391	23	石棒類	J区B19ヌⅠ~Ⅱ層上部	線刻3単位	230	35	27	350	スレート
1392	10	石棒類	A区10号土坑埋土下部東側		88	22.5		75	ホルンフェルス
1393	25	石棒類	A区P2ソⅡ層上部	片刃の石刀状	195	30	13	120	スレート
1394	9	石棒類	A区1号竪穴状遺構QNE		163	37	22	20	流紋岩
1395	54	石棒類	A区5・6号墓壇上部	片刃の石刀状	189	37	17	160	砂岩(中粒-細粒)
1447	1	温石	A区2号墓壇埋土西半	両面擦痕	101	69	16	125	凝灰岩
	17,18	石棒類	C区Ⅶ・ⅧブロックⅡc1・Ⅱc2層		210	23	21	140	ホルンフェルス
	45	石英・原石	C区ⅡブロックⅡc層		150	110	65	755	石英
	22	石棒類	C区盛土		56	22	18	30.5	玉づかい
	59	砥石	C区盛土		91	36	14	60	凝灰岩
	30	石棒類	C区ⅨブロックⅡb2層	石刀	77	31	10	34	スレート
	51	石棒類	C区XブロックⅡb2・Ⅱc1層		153	27	16	100	ホルンフェルス
	11	石棒類	C区ⅡブロックⅡc2層		27	24	9.5	10.3	ホルンフェルス
	50	石棒類	C区ⅨブロックⅡd層		48	36.5	5	14.8	スレート
	28	石棒類	C区ⅤブロックⅡd層	石刀	95	31.5	7.5	38.5	スレート
	42	桂化木	C区ⅢブロックⅡc2層		55	43	28	85	
	14	石棒類	C区ⅣブロックⅡd層		51.5	28	8	17.3	ホルンフェルス
	49	石棒類	C区ⅨブロックⅡd層		74	29	7.5	24.2	砂岩(中粒-細粒)
	21	石棒類	C区盛土		110	20	14	37.4	雲母片岩
	43	桂化木	C区ⅥブロックⅡd・Ⅱe層		148	22	14	54.3	
	44	桂化木	C区ⅦブロックⅡb2層		37	17	9	5.1	
	53	石棒類	A区P3カⅠ層下部		110	32	18	90	スレート



第18表 遺物観察表(陶磁器)

単位:cm

図版番号	出土地点	種別	器種	胎土	釉薬	製作地	年代	口径	底径	器高	備考
47	H区1号土坑最上部	陶器	甕	暗褐色	鉄釉	不明	明治以降				
1402	A区1・2号炉埋土	磁器	瓶	白色	-	肥前	IV期(1690~1780年代)				
1406	E区1号集石南側(K6ア力II層上部)	陶器	皿	暗褐色	-	肥前	17C		4.8		唐津
1407	E区3号炉東側焼成面	陶器	碗	灰色	内面灰釉	瀬戸・美濃	18C		5.6		
1408	E区1号集石南側II層上部	陶器	皿	灰色	内外面灰釉	瀬戸・美濃	18C				
1409	E区3号炉南側焼土中	磁器	皿	白色	染付	肥前	II-2期(1630~1650年代)				
1410	E区3号炉南側焼土上位	磁器	碗	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)				
1411	E区1号集石南側II層上部(K6ア力)	磁器	皿	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)	20.4	11.5	4.2	見込蛇ノ目軸八千
1417	A区1号竪穴状遺構埋土	陶器	皿	灰黄色	灰釉	瀬戸・美濃	18C		6.9		割れ口に釉が浸入
1418	A区1号竪穴状遺構QSE	陶器	鉢	暗褐色	内外面透明釉	肥前	18C前半				
1419	A区1号竪穴状遺構2層	磁器	碗	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)		4		見込ハリ支え痕
1420	A区1号竪穴状遺構2層	磁器	碗	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)	8.8	2.8	5.1	
1421	A区1号竪穴状遺構2層	磁器	皿	白色	染付(緑色)	肥前	IV期(1690~1780年代)		4.5		見込蛇ノ目軸八千
1426	H区G16I層	陶器	皿	灰色	灰釉	肥前	17C初頭	13.4	4.6	3.7	唐津、砂目
1427	H区G16I層	陶器	茶入	灰色	鉄釉	瀬戸・美濃	16C後半		5.5		底部回転糸切り
1428	H区G16II層	陶器	皿	灰黄色	長石釉	美濃	16C末		6.6		志野
1429	H区H15才II層下部	陶器	皿	灰黄色	長石釉	美濃	16C末		5.2		志野、高台内無釉
1430	H区G16I層	磁器	皿	白色	染付	中国	16C		6.1		疊付砂付着
1431	H区H16アII層	磁器	皿	白色	染付	中国	16C		4.7		疊付砂付着
1432	H区G16I層	磁器	皿	白色	染付	肥前	III期(1650~1690年代)		10.2		
1433	H区G16I層	磁器	碗	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)				
1460	A区5号墓	陶器	甕	黄褐色	鉄釉	小久慈焼	19C	9.7	5.7	9.2	
1498	A区O3オコソI層	陶器	碗	暗褐色	透明釉、白化粧土	肥前	18C前半				
1499	E区J6テII層	陶器	碗	灰黄色	透明釉	肥前	18C		6.8		京焼風
1500	A区N4I層	陶器	碗	暗褐色	染付	肥前	18C前半				陶胎染付
1501	C区盛土	陶器	碗	灰色	染付	瀬戸	IV期併行(1690~1780年代)		3.2		陶胎染付筒形碗
1502	E区J6I~II層上部	陶器	碗	灰色	灰釉、鉄釉	瀬戸・美濃	18C				腰鍔碗
1503	E区J6テII層	陶器	碗	灰色	褐釉	瀬戸・美濃	18C				
1504	E区西半I層	陶器	碗	灰色	灰釉、鉄釉	瀬戸・美濃	18C				腰鍔碗
1505	C区盛土	陶器	碗	灰色	灰釉、鉄釉	瀬戸・美濃	18C	10.2			腰鍔碗
1506	E区I9・10I層	陶器	碗	暗褐色	灰釉	瀬戸・美濃	18C				
1507	C区K6I層	陶器	碗	灰色	灰釉、内面鉄釉	瀬戸・美濃	18C		4.2		
1508	E区J7サタI層	陶器	碗	灰色	灰釉	瀬戸・美濃	18C		3.9		
1509	A区O3I層	陶器	碗	灰色	灰釉	瀬戸・美濃	18C		3.3		
1510	C区K6I層	陶器	碗	灰色	灰釉	大堀相馬	19C		4.6		高台内無釉
1511	A区P3II層	陶器	碗	灰色	灰釉	大堀相馬	19C		3.2		高台内無釉
1512	A区P2I層	陶器	碗	灰黄色	灰釉	小久慈焼	19C	11.4	5.3	6.9	
1513	A区P2オコソI層	陶器	碗	暗褐色	灰釉	小久慈焼	19C	9.9			
1514	C区盛土	陶器	碗	暗褐色	灰釉	小久慈焼	19C				

図版番号	出土地点	種別	器種	胎土	釉薬	製作地	年代	口径	底径	器高	備考
1515	C区ⅧブロックⅡb2層	陶器	碗	灰黄色	灰釉	小久慈焼	19C	11.5			
1516	A区O3ナニヌⅡ層	陶器	碗	暗褐色	灰釉	小久慈焼	19C				
1517	E区J6Ⅰ～Ⅱ層	陶器	碗	灰色	灰釉	小久慈焼	19C		3.7		高台内無釉
1518	E区J6Ⅰ～Ⅱ層上部	陶器	碗	灰黄色	灰釉	小久慈焼	19C		4.2		高台内無釉
1519	E区I9・10Ⅰ層	陶器	碗	暗褐色	灰釉	小久慈焼	19C		5.2		類小野相馬
1520	C区ⅧブロックⅠ層	陶器	碗	灰色	灰釉	小久慈焼	19C		4.4		外面貫入
1521	E区I10Ⅱ層	陶器	碗	灰黄色	灰釉	小久慈焼	19C		4		高台内無釉
1522	C区ⅨブロックⅠ層	陶器	碗	黄褐色	灰釉	小久慈焼	19C		4.6		高台内無釉
1523	H区G16Ⅱ層	陶器	碗	黄褐色	灰釉、鉄釉	小久慈焼	19C				
1524	C区盛土	陶器	碗	灰黄色	灰釉	小久慈焼	19C				見込ハリ支え痕
1525	C区XブロックⅠ層上部	陶器	皿	灰色	内面鉄釉	肥前	16C末～17C初頭				唐津、外面無釉
1526	E区J6Ⅰ～Ⅱ層上部	陶器	皿	灰色	外面灰釉、内面銅緑釉	肥前	18C				
1527	E区J7・8Ⅰ層	陶器	皿	灰色	染付	肥前	Ⅳ期(1690～1780年代)	10.6	5.4	2.4	陶胎染付
1528	E区J7カサタⅡ層	陶器	皿	灰色	染付	肥前	Ⅳ期(1690～1780年代)				陶胎染付
1529	A区P3アカサⅠ層	陶器	皿	灰黄色	灰釉	瀬戸・美濃	16C		5.7		
1530	C区ⅨブロックⅠ層	陶器	皿	灰色	長石釉	美濃	16C末				志野 鉄絵
1531	C区XブロックⅠ層	陶器	皿	灰色	灰釉	小久慈焼	19C	13.2			
1532	E区現道法面	陶器	皿	灰色	灰釉	小久慈焼	19C		6.4		見込ハリ支え痕
1533	C区盛土	陶器	皿	灰色	灰釉	小久慈焼	19C		5.5		
1534	E区J6スツⅡ層上部	陶器	鉢	赤褐色	透明釉、白化粧土	肥前	18C前半				内面刷毛目
1535	A区P3カキサシタⅡ層上	陶器	鉢	灰黄色	透明釉	不明	18～19C?		11.2		
1536	F区J10カキク・J9ケコⅠ層	陶器	鉢	灰色	灰釉、鉄釉	小久慈焼	19C	20.5			見込ハリ支え痕
1537	E区J9Ⅰ層	陶器	鉢	灰色	鉄釉	小久慈焼	19C	23.8			
1538	E区J6Ⅰ～Ⅱ層上部	陶器	瓶	灰色	透明釉	肥前	18C				内面無釉
1539	E区J6Ⅰ層	陶器	瓶	灰色	透明釉	肥前	18C				内面一部施釉
1540	E区I8Ⅱ層	陶器	瓶	黄褐色	灰釉	小久慈焼	19C		2.8		底部回転糸切り
1541	C区盛土	陶器	鉢	灰色	鉄釉	東北産	19C				口縁部施釉
1542	E区現道法面	陶器	壺	暗褐色	鉄釉	不明	明治以降		19.2		
1543	E区J6Ⅰ～Ⅱ層上部	陶器	搦鉢	暗赤褐色	—	肥前	17C				唐津、内外面無釉
1544	E区J7・8Ⅰ層	陶器	搦鉢	暗褐色	—	肥前	17C				内外面無釉
1545	C区盛土	陶器	搦鉢	灰色	鉄釉	瀬戸	18C?				
1546	E区J7・8Ⅰ層	陶器	搦鉢	灰色	鉄釉	瀬戸	17～18C				
1547	C区VブロックⅠ層	陶器	搦鉢	暗赤褐色	鉄釉	不明	明治以降	24.4			
1548	E区K6ウエオⅡ層上	磁器	皿	白色	染付	中国	16C				
1549	E区J6ソⅡ層	磁器	皿	白色	染付	中国	16C				
1550	A区P2Ⅰ層	磁器	碗	白色	染付	肥前	Ⅲ期(1650～1690年代)				
1551	E区J5ノⅠ～Ⅱ層上部	磁器	碗	白色	染付	肥前	Ⅳ期(1690～1780年代)	9.8	3.9	5	
1552	C区XブロックⅠ層	磁器	碗	白色	染付	肥前	Ⅳ期(1690～1780年代)				

図版番号	出土地点	種別	器種	胎土	釉薬	製作地	年代	口径	底径	器高	備考
1553	C区X Iブロック I層上部	磁器	碗	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)		3.6		
1554	A区N4ナO4アカサ I層	磁器	碗	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)		4.6		
1555	E区J6 I~II層上部	磁器	碗	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)				
1556	A区N4ナO4アカサ I層	磁器	碗	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)				
1557	A区N4ナO4アカサ I層	磁器	碗	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)		3.8		
1558	C区Xブロック I層	磁器	碗	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)				
1559	A区O3ツヌ I層	磁器	碗	白色	青磁	肥前	IV期(1690~1780年代)				
1560	C区Xブロック I層	磁器	碗	白色	染付	瀬戸	V期相当(19C)		3.1		見込五弁花
1561	E区現道法面	磁器	碗	白色	染付	瀬戸	V期相当(19C)	8.6	3.2	4.6	
1562	E区J5ノI層	磁器	碗	白色	染付	不明	V期相当(19C)		4.4		
1563	E区J6 I~II層上部	磁器	碗	白色	染付	不明	V期相当(19C)		4.6		
1564	A区P3アカサ I層	磁器	碗	白色	染付	不明	V期相当(19C)		6.8		
1565	A区P3サP2トII層	磁器	碗	白色	染付	不明	V期相当(19C)	7			
1566	E区現道法面	磁器	碗	白色	染付	平清水	19C中頃		3.8		
1567	H区H15現道盛土	磁器	碗	白色	染付	平清水?	19C中頃		3.8		
1568	C区盛土	磁器	碗	白色	染付	平清水?	19C中頃				
1569	A区O3オコソ I層	磁器	皿	白色	染付	肥前	III期(1650~1690年代)?				
1570	A区O3コソト I層	磁器	皿	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)				
1571	A区O3オコソ I層	磁器	皿	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)		7.5		
1572	E区J7カサタ I層	磁器	皿	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)		3.8		見込蛇ノ目軸ハギ
1573	E区J6 I層	磁器	皿	白色	—	不明	V期相当(19C)		4.8		壽文皿
1574	E区J6ソII層上部	磁器	皿	白色	—	不明	V期相当(19C)				壽文皿?
1575	A区O3コソト I層	磁器	皿	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)				
1576	A区P2ネノQ2エオ I層	磁器	紅皿	白色	—	不明	V期相当(19C)	4.1	0.8	1.2	
1577	E区J6ソトII層上部	磁器	紅皿	白色	—	不明	V期相当(19C)	4.4	1	1.6	
1578	H区H15エII層上	磁器	瓶	白色	染付	肥前	III期(1650~1690年代)		8.8		内面一部無釉
1579	A区O3 I層	磁器	瓶類	白色	染付	肥前	III期(1650~1690年代)?		6.5		内面無釉
1580	E区J6ソII層	磁器	瓶	白色	染付	肥前	III期(1650~1690年代)				内面一部無釉
1581	A区P3アカサ I層	磁器	瓶	白色	染付	肥前	不明				内面無釉
1582	A区P3イウキ I層	磁器	瓶	白色	染付	肥前	不明				内面無釉
1583	E区J5ノI~II層上部	磁器	火入れ	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)	6.1			内面口縁部施釉
1584	A区P3イウキ I層	磁器	蕎麦猪口	白色	染付	肥前	IV期(1690~1780年代)		3.8		見込五弁花?
1585	C区盛土	磁器	蓋	白色	染付	不明	V期相当(19C)	9	3.7	3.2	
1586	C区盛土	磁器	蓋	白色	染付	不明	明治以降		9.9		コバルト発色
1587	C区VIブロック I層	磁器	鉢	白色	染付	不明	明治以降	13.1			コバルト発色
1588	C区Xブロック I層	磁器	碗	白色	染付	不明	明治以降				
1589	F区J10カキクJ9ケコ I層	磁器	皿	白色	染付	不明	明治以降		9.6		蛇ノ目凹高台
1590	A区P2 I層	磁器	皿	白色	染付	不明	明治以降		4.7		蛇ノ目凹高台
1591	E区I10ナ I層	磁器	皿	白色	染付	不明	明治以降		9.8		

第19表 造物観察表(金属製品)

図版番号	出土地点	材質	種類	特徴	長mm	幅mm	厚mm	重g	備考
1412	E区3号炉南側焼土下位	鉄	分銅	高62mm,径37mm	62	37	38	240	
1413	E区2号集石周辺	鉄	鍋	底部,厚5mm	55	38	5	37.8	
1414	E区3号炉南側焼土上位	鉄	刀子	全長86mm,幅23mm,厚5mm	86	23	5	30	
1422	A区1号竪穴状遺構埋土	鉄	棒状鉄製品	たがね?長140mm,径12mm	140	12	3	29.5	
1423	A区1号竪穴状遺構埋土	鉄	釘	長69mm,径7mm	69	7	7	28	
1424	A区1号竪穴状遺構埋土	鉄	釘	長36mm,径4mm	36		4	5.9	
1434	A区1号墓壙	鉄	火打金	紐通し穴 編物付着 長55mm,厚3mm	21	55	3	12.6	副葬品
1435	A区1号墓壙	銅	煙管吸口	羅字一部残存 長114mm,径9mm	10	12		17.3	副葬品
1436	A区1号墓壙	鉄	釘	木質付着 長41mm,径6mm	41	16	6	2.4	
1437	A区1号墓壙	鉄	釘	木質付着 長50mm,径4mm	50	12	4	2.2	
1438	A区1号墓壙	鉄	釘	木質付着 長40mm,径3mm	40	3	3	2.8	
1439	A区1号墓壙	鉄	釘	木質付着 長41mm,径5mm	41	4	5	3.4	
1440	A区1号墓壙	鉄	釘	木質付着 長40mm,径6mm	40	5	6	2.8	
1446	A区2号墓壙東半埋土	鉄	釘	長34mm,径4mm	34	8	4	2	
1448	F区3号墓壙	鉄	鎌	刃長183mm,刃幅53mm,厚1.5mm	208	53	3	110	
1449	F区3号墓壙	鉄	包丁	全長260mm,刃長191mm,刃幅55mm,厚3mm	260			130	副葬品
1450	F区3号墓壙	銅	煙管吸口	長78mm,径10mm	77.5			11.1	副葬品
1451	F区3号墓壙	銅	煙管雁首	羅字一部残存 火皿径16mm,身径11mm	44			1.2	副葬品
1452	F区4号墓壙	鉄	鍬	全長153mm,厚5mm	153			45	副葬品
1453	F区4号墓壙	銅	煙管吸口	長86mm,身径11mm	86	11	0.5	9.1	副葬品
1461	A区5-6号墓壙上部	鉄	鎌	刃長190mm,刃幅73mm,厚3mm	215			180	
1462	A区5号墓壙	銅	煙管吸口	長64mm,身径11mm	64			8.4	副葬品
1463	A区5号墓壙	銅	煙管吸口	長65mm,身径不明	65			6.7	副葬品
1464	A区5号墓壙	鉄	釘	長88mm,径4mm	88	4	4	10.4	
1467	A区6号墓壙	鉄	釘	長39mm,径4mm	39			3	
1473	A区7号墓壙	鉄	板状鉄製品	木質付着 釘残存 長92mm,厚3mm	92	69	3	58	
1476	A区8号墓壙	鉄	不明鉄製品	断面くの字状 長222mm,幅20mm,厚2mm	222	20	2	35	副葬品
1477	A区8号墓壙	銅	煙管雁首	火皿径15mm,身長58mm,身径11mm	58			8.2	副葬品
1478	A区8号墓壙	鉄	釘	長43mm,径7mm	43	20	7	4.9	
1479	A区8号墓壙	鉄	釘	長69mm,径5mm	69	11	5	6.4	
1480	A区8号墓壙	鉄	釘	長60mm,径6mm	60	11	6	3.5	
1487	A区9号墓壙	鉄	釘	長30mm	30			2.7	
1492	A区10号墓壙	鉄	釘	長39mm	39			2.1	
1496	A区13号墓壙	鉄	鉞	布・木片付着 全長198mm,刃長125mm,刃幅47mm,刃厚5mm	198			245	副葬品
1592	A区P2 I層	鉄	包丁	全長256mm,刃長193mm,刃幅56mm,厚2mm	256			90	副葬品
1593	H区F16 キシII層上	鉄	刀子	長113mm,幅24mm,厚6mm	113	24	6	25	
1594	J区B19 I層	鉄	山刀	全長329mm,刃長232mm,刃幅43mm,刃厚5mm	329			330	

図版番号	出土地点	材質	種類	特 徴	長mm	幅mm	厚mm	重g	備 考
1595	A区P2 I層	鉄	刀子	全長153mm, 刃長125mm, 刃幅23mm, 刃厚2mm	153				
1596	A区P2 オコソ I層	鉄	刀子	全長86mm, 目針長29mm	86	24	4	30	
1597	A区P2 I層	鉄	百万遍	径165mm					
1598	H区E17 I層	鉄	縮鉄	長120mm, 厚4mm			4	130	
1599	F区I層	鉄	縮鉄	長123mm, 厚8mm				190	
1600	H区H15コII層上部	鉄	釘	長96mm, 径7mm	96	10	7	35.2	
1601	A区PP8	鉄	釘	長107mm, 径5mm	107	5	5	26.4	
1602	E区J5ノII層上部	鉄	くさび	長75mm, 幅24mm, 厚11mm	75	24	11	53	
1603	E区J6トII層	鉄	のみ	長75mm, 幅13mm, 厚10mm	75	13	10	15.9	
1604	E区J7・8 I層	鉄	鍋?	厚5mm	57	51	5	55	
1605	E区J5ノII層上部	鉄	鍋	厚5mm	86	44	5	50	
1606	E区J6 I～II層上部	鉄	鍋?	厚6mm	70	49	6	80	
1607	E区J6 I層	鉄	鍋	厚5mm	54	32	5	45	
1608	A区P2 I層	銅	煙管吸口	長92mm, 径13mm	92	13	0.8	14.1	
1609	A区P2 I層	銅	煙管吸口	長99mm, 径11mm	99	11	1	16.7	
1610	C区K6 I層	銅	煙管吸口	長47mm, 径7mm	47			2.7	
1611	A区PP6	銅	煙管吸口	長77mm, 径9mm	77	9	0.5	6.8	
1612	E区K6ウエオII層上部	銅	煙管吸口	長54mm, 径12mm	54	12	0.5	0.8	
1613	E区J6テII層	銅	銅鑄造バリ	長65mm, 厚8mm	65	22	8	32.7	
1614	E区J6層位不明	銅	銅鑄造バリ	長50mm, 厚3mm	50	28	3	8.6	

第20表 遺物観察表 (銭貨)

図版番号	登録番号	出土地点	材質	特 徴	径mm	重g
1425	25	A区1号竪穴状遺構QSE埋土上部	鉄	鉄銭寛永通宝	23.5	1.5
1441	49	A区1号墓壙(下部～底面)	鉄	鉄銭88～90枚 銭銘不明	23	240
1442	57	A区1号墓壙	鉄	鉄銭1枚 銭銘不明	24	2
1443	58	A区1号墓壙	鉄	鉄銭1枚 銭銘不明	24	2.7
1444	59	A区1号墓壙	鉄	鉄銭1枚 銭銘不明	24	2.6
1445	62	A区1号墓壙	鉄	鉄銭7枚 銭銘不明	24	24.6
1454	77	F区4号墓壙	銅, 鉄	銅銭2枚+鉄銭1枚	26	16.9
1455	72	F区4号墓壙	銅	古寛永2枚	24	1.3
1456	73	F区4号墓壙	銅	銭銘不明	23	2.4
1457	74	F区4号墓壙	銅	新寛永1枚	25	2.6
1458	75	F区4号墓壙	銅	新寛永1枚	23	2.2
1459	76	F区4号墓壙	銅	新寛永1枚	23	2.7
1465	79	A区5号墓壙	鉄	新寛永1枚		0.6

図版番号	登録番号	出土地点	材質	特徴	径mm	重g
1466	80	A区5号墓壙	銅	新寛永1枚	23	2.3
1468	84	A区6号墓壙	銅	新寛永6枚	23	16.8
1469	85	A区6号墓壙	銅	銭銘不明1枚 表面種実痕跡	22	2.2
1470	86	A区6号墓壙	銅,鉄	銅銭1枚+鉄銭2枚 表面種実痕跡	22	11.1
1471	87	A区6号墓壙	鉄	鉄銭破片 表面種実痕跡	27	2.1
1472	88	A区6号墓壙	鉄	鉄銭1枚	25	2.7
1474	91	A区7号墓壙	銅,鉄	銅銭1枚+鉄銭1枚	24	7.4
1475	92	A区7号墓壙	銅	新寛永2枚	24	5.8
1481	100	A区8号墓壙	鉄	鉄銭1枚	27	2.4
1482	101	A区8号墓壙	銅,鉄	銅銭2枚+鉄銭2枚	27	11.4
1483	102	A区8号墓壙	鉄	鉄銭2枚 布付着	27	5.4
1484	97	A区8号墓壙	銅	新寛永1枚	24	1.6
1485	98	A区8号墓壙	銅	新寛永1枚	24	2.3
1486	99	A区8号墓壙	銅	新寛永1枚	24	1.9
1488	104	A区9号墓壙	鉄	鉄銭破片	26	1.9
1489	105	A区9号墓壙	鉄	鉄銭1枚	29	3.1
1490	108	A区9号墓壙	銅	新寛永1枚+鉄銭5枚 布付着	25	21.5
1491	107	A区9号墓壙	銅	古寛永1枚	25	2.9
1493	111	A区10号墓壙	鉄	鉄銭2枚	24	6.1
1494	110	A区10号墓壙	銅	新寛永1枚	23	1.2
1495	112	A区12号墓壙	銅鉄	銅銭3枚+鉄銭2枚 種実付着	24	11.7
1497	116	A区13号墓壙	銅	新寛永1枚	25	3.4
1615	24	E区J6ツI層	銅	永楽通宝	22.5	1.5
1616	26	E区J6シII層上部	銅	古寛永	24	3.2
1617	20	A区P2・P3排土	銅	新寛永	24	3.7
1618	29	E区J6ヲII層	銅	新寛永	23	1.9
1619	47	C区K6I層	銅	新寛永		2
1620	41	H区H16アII層下部~III層上部	銅	新寛永		1.1
1621	48	C区K6I層	銅	新寛永		2.2
1622	27	A区P3アカサII層	鉄	銭銘不明	24	2.3
1623	42	H区H15エII層	銅	十銭銅貨(大正十一年)	22	3.2
	53	A区1号墓壙	鉄	鉄銭破片		3.4
	54	A区1号墓壙	鉄	鉄銭破片		1
	55	A区1号墓壙	鉄	鉄銭	25	2.9
	56	A区1号墓壙	鉄	鉄銭破片		1.9
	60	A区1号墓壙	鉄	鉄銭	25	2.5
	61	A区1号墓壙	鉄	鉄銭	22	2
	106	A区9号墓壙	鉄	鉄銭破片		2.2
	115	A区13号墓壙	銅	銅銭破片 銭銘不明		0.6

第21表 遺物観察表 (羽口)

図版番号	出土地点	全長(mm)	直径(mm)	孔径(mm)	厚 (mm)	重量(g)	備 考
1404	A区O3 I層	83	92	40	26	144	
1403	A区O3 I層	67	117	44	29	132	
1405	A区P3 II層	80	100	64	18	112	先端熔着滓附着
1415	E区K6 ウエ I層	70	96	40	28	158	先端熔着滓附着
1416	E区西端 I層	35	80	33	23	76	先端熔着滓附着、 小礫混
1624	H区H14G14法面盛土下	125	105	42	31	453	先端熔着滓附着
1625	H区H14G14法面盛土下	114	110	60	25	269	先端熔着滓附着

第22表 遺物観察表 (ガラス製品)

図版番号	種 類	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備 考
1626	ビール瓶	A区P2 I層	2.4			コルク栓、褐色
1627	ビール瓶	A区P2 I層		6.7		揚底、褐色
1628	ビール瓶	A区1号竪穴状遺構 埋土上部	2.4	6.9	28.6	DAINIPPON BREWERY CO LTD/底面11,15 (陽刻) 褐色、王冠栓
1629	ビール瓶			6.8		DAINIPPON BREWERY CO LTD/底面10(陽刻)褐色
1630	ビール瓶	A区P2 I層		7		製社会式株酒麦本日大(陽刻)揚底、褐色
1631	ビール瓶	A区P2 I層		7.7		社印(陽刻)褐色
1632	ビール瓶	A区P2 I層		6.9		DAINIPPON BREWERY CO LTD/底面4,7(陽刻)褐色
1633	サイダー瓶	A区P2 I層				製社会□□□□本日大(陽刻)透明
1634	薬瓶	A区P2 I層	2.4	5.2	12.8	市川内科医院(陽刻)透明
1635	薬瓶	A区P2・P3排土	1.6	2.9	5.6	納言/ナゴン(陽刻)透明
1636	薬瓶	F区J10・J9 I層		2.1		ホーカー液/堀越/底面十八(陽刻)透明
1637	サイダー瓶	C区盛土	2	6.1	23	底面三ツ矢(陰刻)青色

A区P2 I層

第23表 琥珀観察表

番号	出土地点	種類	特徴	重量(g)	保存処理
1	C区IブロックII d層	原石	非透明 無文鉢形 土器内面に付着		バインダー10%溶液2回含浸
2	C区VIブロックII e層	原石	非透明	13.6	バインダー18処理済3倍希釈8.333% 接合セメダインC7:アセトン3
3	A区P9号墓壇	原石	透明 副葬品	21.3	バインダー18処理済3倍希釈8.333% 接合セメダインC7:アセトン3
4	E区J6ナII層上部	原石	透明	0.5	バインダー18処理済3倍希釈8.333% 接合セメダインC7:アセトン3
5	E区J6トII層上部	原石	非透明	0.6	バインダー18処理済3倍希釈8.333% 接合セメダインC6:アセトン4
6	E区J7サII層上部	原石	透明	1.1	バインダー18処理済3倍希釈1回含浸
7	C区VIブロックII a層	原石	透明	0.3	バインダー18処理済3倍希釈8.333% 接合セメダインC7:アセトン3
8	A区O3ソI層	玉	孔径3mm	0.9	バインダー18処理済3倍希釈8.333% 接合セメダインC7:アセトン3

第24表 動物遺存体観察表

No.	出 土 地 点	種 名	部 位	左右・数	備 考
1	A区1号炉南東部1層	?	肩甲骨	左1	
2	A区1号竪穴状遺構2層	シカ	下顎後臼歯	左2	
3	A区1号竪穴状遺構1層	イノシシ	下顎骨	右2	
4	A区1号竪穴状遺構1層	シカ	角破片	6	
5	A区1号竪穴状遺構	イノシシ	下顎骨	左1	
6	A区1号竪穴状遺構	シカ	中足骨	左1	
7	A区N3I層	イノシシ	下顎前臼歯	左1	
8	A区O3I層	イノシシ	上顎骨	左2、右2	
9	A区O3I層	シカ	中足骨	左2	
10	A区O3I層	シカ	中手骨	左1	
11	A区O3I層	シカ	橈骨	左1	
12	A区O3I層	シカ	前頭骨	右1、左1	
13	A区O3~P3I層	シカ	距骨	右1	
14	A区O3II層上部	シカ	上腕骨	左1	近位端欠
15	A区O3II層上部	シカ	橈骨	右2	遠位端欠
16	A区O3II層上部	イノシシ	下顎骨	右1、左1	
17	A区O3II層上部	イノシシ	橈骨	左1	遠位端
18	A区O3II層上部	イノシシ	寛骨	左1	
19	A区O3II層上部	シカ	下顎骨	右1	
20	A区O3II層上部	シカ	中足骨	左1	
21	A区O3II層	イノシシ	頭頂~側頭骨	左1	
22	A区O3II層	イノシシ	上顎骨	右1	
23	A区P2I層上部	シカ	脛骨	左1	
24	A区P2I層上部	シカ	角破片	1	
25	A区P2I層下部	シカ	角破片	3	
26	A区P2I層	シカ	脛骨	左1	遠位端
27	A区P2I層	シカ	踵骨	左1	
28	A区P2I層	シカ	下顎骨	右1	
29	A区P2II層上部	シカ	中手骨	1	
30	A区P2II層	シカ	角破片	1	
31	C区捨て場I層	シカ	上腕骨	右1	遠位端
32	C区捨て場I層	ウシ	下顎後臼歯	右1	
33	C区捨て場IIe層	イノシシ	後臼歯	1	乳歯
34	C区捨て場IIe層	シカ	前頭骨	右1	
35	C区捨て場IIe層	シカ	角破片	1	
36	C区捨て場盛土	シカ	角破片	2	
37	C区捨て場盛土	シカ	上腕骨	左1、右1	近位端欠
38	C区捨て場盛土	シカ	中手骨	右1	
39	C区捨て場盛土	シカ	踵骨	左1	
40	C区捨て場盛土	シカ	下顎骨	右1、左1	
41	C区捨て場盛土	イノシシ	上顎第2切歯	左1	
42	C区捨て場盛土	シカ	距骨	右1	
43	E区I10I層	シカ	角	右1	
44	E区J6II層上部	ウシ	環椎	1	
45	E区K5I層	ウマ	下顎後臼歯	右1	
46	E区K5I層	ウマ	脛骨	右1	遠位端
47	E区K5I層	シカ	基節骨	1	
48	E区K5I層	シカ	前頭骨	右1、左1	
49	E区K6I層	ウマ	下顎第3後臼歯	右1	
50	E区K6I層	シカ	角破片	1	
51	H区5号住居跡	シカ	距骨	左1	



## VI 鑑定・分析

### 大芦 I 遺跡出土 鉄滓・炉壁の分析・調査

#### 目次

(1) はじめに	236
(2) 調査項目および検査・分析方法	236～237
(3) 外観写真	243～244
(4) 化学成分分析	245
(5) 顕微鏡組織写真	246～248
(6) X線回折	249～255
(7) 調査および考察結果	237～241
(8) まとめ	241
(9) 参考	241～242

# 大芦 I 遺跡出土 鉄滓・炉壁の分析・調査

川鉄テクノリサーチ株式会社  
分析・評価センター  
埋蔵文化財調査研究室  
岡原 正明  
伊藤 俊治

## 1. はじめに

(財)岩手県文化振興事業団殿が発掘調査されました、大芦 I 遺跡から出土した鉄滓の学術的な記録と今後の調査のための一環として、化学成分を含む自然科学的観点での調査の御依頼がありました。

調査の観点として、

①製鉄原料の推定、②製鉄工程上の位置付け、③観察状の特記事項など、を中心に調査しました。

その結果についてご報告いたします。

## 2. 調査項目および試験・検査方法

### (1) 調査項目

資料 No.	資料 の 性 格	出 土 位 置	重 量 g	磁着 度	MC 反応	外観 写真	成分 分析	組織 写真	X線 回折
1	鉄滓⇨ 精錬鍛冶滓	A区 1号炉跡埋土中	226.7	やや 強	なし	○	○	○	○
2	鍛冶滓⇨ 精錬鍛冶滓	A区 1号竪穴状遺構埋土	202.4	やや 強	なし	○	○	○	○
3	流出滓⇨ (製錬滓)	1号集石南側	109.3	中	なし	○	○	○	○
4	鍛冶滓⇨ 精錬鍛冶滓	3号炉周辺	86.7	強	あり	○	○	○	○
5	椀形滓⇨ 椀形精錬鍛冶滓	1号集石南側 3号炉南側上部	590.9	やや 強	なし	○	○	○	○
6	炉壁?⇨ (製錬付着炉 壁)	3号炉南ベルト	400.4	やや 弱	なし	○	○	○	○

註：①資料の性格、出土位置は貴事業団殿の記録に依りました。

②調査・考査の結果、資料の性格付けに変更のあったものは⇨印の後に併記しました。

③MC反応は金属探知器による残存金属の有無の反応を示します。

## (2) 重量計測と着磁度調査

計重は電子天秤を使用して行い、小数点1位で四捨五入してあります。また着磁度調査については、直径30mm・1300 Gauss (0.13テラス) のリング状フェライト磁石を使用し、官能検査により「強・やや強・中・やや弱・弱」の5ランクで個別調査結果の文中に表示しました。

## (3) 外観の観察と写真撮影

上記各種試験用試料を採取する前に、試料の両面をmm単位まであるスケールを同時写し込みで撮影しました。また、試料採取時の特異部分についても撮影を行っております。

## (4) 化学成分分析

化学成分分析はJIS分析法に準じて行いました。分析方法および分析結果は14頁の一覧表に示してありますので、ご参照下さい。

この調査は、化学成分から鉄を作るために使用した原料の推定と、生産工程のどの部分で発生した鉄滓かの判断用データを得るために行いました。

鉄滓の分析項目は18成分です。

## (5) 顕微鏡組織写真

試料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨(鏡面仕上)します。その後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、熔融状況や介在物(鉱物)の存在状態等から加工状況や材質を判断します。鉄滓の場合にも同様に処理・観察をおこない、製鉄・鍛冶過程での状況を明らかにします。原則として100倍と400倍で撮影します。必要に応じ実態顕微鏡による観察も行いました。

## (6) X線回折測定

試料を粉砕して板状に成形し、X線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれの固有の反射(回折)されたX線が検出されることを利用して、試料中の未知の化合物を観察・同定するものです。

多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定されます。装置の仕様や測定条件、測定結果は21頁以降に添付してあります。

## 3. 調査および考察結果

次に調査および考察結果を述べます。

### 試料No.1 鉄滓⇨精錬鍛冶滓

一辺が65mmの礫状の三角形をした資料である。全体が水酸化鉄に覆われた、重量感のある鉄滓である。着磁度がやや強いが、MC反応は認められない、重量は226.7gである。

化学成分分析の結果によると、全鉄(T.Fe)は49.5%、酸化第一鉄(ウスタイト:FeO)は22.5%と相対的に少なく、酸化第二鉄(ヘマタイト:Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)は45.3%と非常に多い。金属鉄(M.Fe)の値は0.34%であるが含まれているとは言えない。滓中の成分の指標となる所謂造滓成分(SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO)は8.25%と非常に少ない。砂鉄に含まれていたと考えられるチタニウム(酸化チタニウムで表示:TiO<sub>2</sub>)

が16.8%、バナジウム (V) も0.242%と多量に存在する。一般に鉱石に含有される成分の一つである銅 (Cu) の値は0.002%で、非常に少ない。したがって、鉄源は砂鉄の可能性が高い。結合水 (C.W.) の値が4.10%と多く、酸化第二鉄と水との化合物で鉄錆の一種であるゲーサイト等のオキシ水酸化鉄 ( $\alpha$ -FeOOH等) が多量に存在するものと推定される。

滓断面を100倍で見た15頁の顕微鏡組織には多数の黒または赤色の空隙が観察される。なお、赤色は滓面を研磨した際に発生したもので特に意味はない。400倍の組織は一面にアモルファス (非結晶) 状の灰白色のオキシ水酸化鉄が存在する。アモルファス部分は緻密な場所と黒い点が混ざった場所がある。前者は金属鉄が酸化錆化し、水と結合した部分で、後者は鉄酸化物が同様に錆化した部分と推定される。緻密な前者のアモルファス部分に白く点在する小粒は残存する金属鉄である。この資料は長期間、水分の多い湿った箇所に保持されていたものと考えられる。

22頁にX線回折結果を示す。ウスボスピネル (鉄とチタニウムの酸化化合物:  $\text{Fe}_2\text{TiO}_4$ ) の強いピークが検出されている。この地中程度のマグネタイト (四三酸化鉄:  $\text{Fe}_3\text{O}_4$ ) とゲーサイトおよび少量のシェードブロッカイト (鉄とチタニウムの酸化化合物:  $\text{Fe}_2\text{TiO}_5$ ) の存在が認められる。化学成分分析で  $\text{TiO}_2$  の含有量が多かったが、その化合物が多く存在することがX線回折でも確認される。なお、金属鉄の存在は確かめられない。

以上の結果を総合すると、残存していた金属鉄が殆ど酸化錆化してしまった精錬鍛冶滓と言える。鉄源には砂鉄が使用されたと考えられる。

## 試料No. 2 鍛冶滓⇒精錬鍛冶滓

長さ90mm幅60mm厚さ45mmで木炭片の噛込みがあり、全体に凸凹が激しく黄褐色の水酸化鉄に覆われ砂が固着している資料である。内部は発泡粗鬆で黒色を呈している。着磁度はやや強いがMC反応はない。重量は202.4gである。

化学成分分析の結果によると、T.Feは52.4%と多く、FeOは27.7%と相対的に少ない。Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は43.9%と非常に多い。M.Feの値は0.19%であるが含有するとは言えない。滓中の造滓成分の値は10.8%と非常に少ない。砂鉄に含まれていたと考えられるTiO<sub>2</sub>が11.3%、Vも0.292%と多量に存在する。鉱石に含有される成分の一つであるCuの値は0.002%で、非常に少ない。したがって、鉄源は砂鉄の可能性が高い。C.W.の値が3.36%と多く、酸化第二鉄と水との化合物で鉄錆の一種であるゲーサイト ( $\alpha$ -FeOOH) 等のオキシ水酸化鉄が多量に存在するものと推定される。

滓断面を400倍で観た顕微鏡組織には多数の赤色部分が観察されるが、赤色は滓面を研磨した際に発生したもので特に意味はない。100倍の組織の空隙部分の回りを取り囲むようにアモルファス状の灰白色のオキシ水酸化鉄が存在する。また、灰白色の角形の結晶はウルボスピネルである。その間を埋めるように短冊形が崩れたファイヤライト (鉄と珪素の酸化化合物:  $\text{Fe}_2\text{TiO}_4$ ) 結晶などが観察される。この資料は長期間、水分の多い湿った箇所に保持されていたものと考えられる。

23頁にX線回折結果を示す。ウルボスピネルとマグネタイトの強いピークが検出される。中程度のマグネタイト、少量のゲーサイトおよびレピッドクロサイト ( $\gamma$ -FeOOH) も存在する。なお、金属鉄の存在は確かめられない。

以上の結果を総合すると、試料No. 1と同種の残存していた金属が酸化錆化してしまった精錬鍛冶滓と言える。鉄源には砂鉄が使用されたと考えられる。

### 試料No.3 流出滓（製錬滓）

経50mm、厚さ25mmで周辺が割欠かれ、水酸化鉄や砂礫の付着が少ない資料である。幅15mm、深さ5mm程度の条痕が付いている。流出時に押し潰されたのか上部は中央がやや陥没し、クラックがある。内部は発砲粗鬆で黒色を呈している。MC反応はなく、着磁度は中程度である。重量は109.3gである。

化学成分分析の結果によると、T.Feは52.7%、FeOは53.2%と高い値を示した。Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は13.6%と非常に多い。M.Feの値は1.84%で金属が残存するものと推定できる。滓中の造滓成分の値は20.2%と中程度であった。砂鉄に含まれていたと考えられるTiO<sub>2</sub>が8.31%、Vも0.302%と多量に存在する。鉱石に含有される成分の一つであるCuの値は0.001%で、非常に少ない。したがって、鉄源は砂鉄の可能性が高い。C.W.の値が0.41%と少なく、ゲーサイト等のオキシ水酸化鉄は殆ど存在しないものと考えられる。

17頁に滓部断面の100倍400倍で観た顕微鏡組織をしめす。不明瞭ではあるが灰白色の繭状のウスタイトと樹枝状のマグネタイト結晶とが観察される。さらに、不定多角形のウルボスピネルが一面に存在する。また、短冊がやや崩れた形状のファイヤライトの結晶も観察される。金属鉄は観察されない。100倍の写真で見ると滓中の空孔の形状が円に近く、溶融していた状態から凝固した滓と考えられる。

X線回析チャートを24頁に示す。ウスタイト、ウルボスピネルとファイヤライトのピークが検出されている。また、残存する金属鉄が認められる。

以上の結果と滓の形状を加味し総合すると、金属鉄が少量残存する製錬後期の流出滓と言える。鉄源には砂鉄が使用されたと考えられる。

### 試料No.4 鍛冶滓⇨精錬鍛冶滓

45mm角の全体に水酸化鉄が固着した小塊ながら重量感がある、礫状資料である。水気の多いところに埋没されていたためか、水酸化鉄に覆われている。弱い部分的にMC反応を示す個所があり、鉄金属の細粒が存在する可能性がある。着磁度は強い。重量は86.7gである。

化学成分分析の結果によると、T.Feは53.1%で多いが、FeOは18.5%と非常に少ない。反対にFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は54.8%と非常に多い。M.Feの値は0.39%であった。滓中の造滓成分の値は7.73%と非常に少ない。砂鉄に含まれていたと考えられるTiO<sub>2</sub>が10.7%、Vも0.302%と多量に存在する。鉱石に含有される成分の一つであるCuの値は0.004%で、非常に少ない。したがって、鉄源は砂鉄の可能性が高い。C.W.の値が4.67%と非常に多く、酸化第二鉄と水との化合物で鉄錆の一種であるゲーサイト等のオキシ水酸化鉄が多量に存在するものと推定される。

18頁の滓断面の100倍の顕微鏡組織に金属鉄粒が酸化錆化したアモルファス状の灰白色のオキシ水酸化鉄が観察される。また、残存する金属鉄がその中心部に白く粒状に点在している。所々に赤く見える介在物（不純物：造滓成分等）が散見される。空隙の形が一定しないので鍛冶加工の過程で生成した滓と推定できる。

25頁にX線回析結果を示す。ウルボスピネルとマグネタイトの強いピークが検出されている。中程度のゲーサイトおよび少量のレピッドクロサイトも存在する。なお、金属鉄のピークは確かめられない。

以上の結果を総合すると、一部に金属鉄が残存するもののその殆どが酸化錆化してしまった精錬鍛冶滓と言える。鉄源には砂鉄が使用されたと考えられる。

### 試料No.5 椀形滓⇨椀形精錬鍛冶滓

長さ110mm幅100mm厚さ45mmで上部はやや中凹ながら平坦で、木炭の繊維痕が観察される大きな椀型を呈する滓資料である。下部は火床材の付着が少なく、椀形に下凸で木炭が包含されている。また、表面には木炭の繊維痕も認められる。周囲の肉薄部に割欠き面があるが、椀型滓の完形品に近い。着磁度はやや強いがMC反応はない。重量は590.0gである。

化学成分分析の結果によると、T.Feは43.0%で多いが、FeOは23.5%と非常に少ない。反対に $\text{Fe}_2\text{O}_3$ は49.3%と非常に多い。M.Feの値は0.27%であった。滓中の造滓成分の値は17.1%と少ない。砂鉄に含まれていたと考えられる $\text{TiO}_2$ が2.74%、Vも0.137%存在する。鉱石に含有される成分の一つであるCuの値は0.004%で、非常に少ない。したがって、鉄源は砂鉄の可能性が高い。C.Wの値が4.05%と非常に多く、酸化第二鉄と水との化合物で鉄錆の一種であるゲーサイト等のオキシ水酸化鉄が多量に存在するものと推定される。

19頁の滓断面の100倍の顕微鏡組織写真の上部には酸化銹化したアモルファス状の灰白色のオキシ水酸化鉄が観察される。さらに、灰白色の繭状のウスタイト結晶と樹枝状のマグネタイト結晶が認められる。また、矢印あるいは不定多角形のウルボスピネルも散見される。

26頁にX線回折結果を示す。ウスタイトの強いピークが検出されている。中程度のマグネタイトとウルボスピネルの存在も認められる。この他ゲーサイトおよび少量のレピッドクロサイトも存在する。なお、金属鉄のピークは確かめられない。

以上の結果と滓の形状を総合すると、椀形精錬鍛冶滓と推定される。鉄源には砂鉄が使用されたと考えられる。

#### 試料No.6 炉壁?⇒製錬滓付着炉壁

長さ90mm幅70mm厚さ25mmの資料上に長さ90mm幅60mm厚さ20mmの資料が溶着した様相を呈する。表面は溶融しているが、裏面には火床材状のものが付着している。上下2層の差を確かめるために両者とも化学成分分析を行う。滓の組織観察とX線回折は上層で行う。着磁度はやや弱く、MC反応もないが分析は鉄滓として進める。重量は400.4gである。

14頁に化学成分分析の結果を示した。上層部のT.Feは16.9%と少なく、FeOは11.5%、 $\text{Fe}_2\text{O}_3$ も11.0%と非常に少ない。シリカ（酸化珪素： $\text{SiO}_2$ ）の値は67.5%と多く、アルミナ（酸化アルミニウム： $\text{Al}_2\text{O}_3$ ）は7.11%も存在する。また、粘土に特徴的な鉱物を構成する元素の一つの酸化カリウム（ $\text{K}_2\text{O}$ ）が1.50%も存在するので、鉄滓とは考えられない。

下層部の化学成分分析値も上層部の分析値とほぼ同様で、粘土であると言える。

20頁の滓断面の100倍と400倍の顕微鏡組織写真には樹枝状のマグネタイト結晶と形状が崩れたウルボスピネルが存在する。また、製錬滓に特徴的な短冊状のファイヤライト結晶が観察される。

27頁にX線回折結果を示す。ファイヤライトの弱いピークが検出される他は主として鉱物質（石英）が存在する。鉄酸化物の存在は確認できない。

以上の結果を総合すると、製錬初期の滓に少々汚染された粘土（炉壁）と推定される。滓の成分から、鉄源には砂鉄が使用されたものと考えられる。

#### 4. まとめ

(1) 鉄滓の鉄源は砂鉄である。なお、炉壁の付着滓の鉄源も砂鉄である。

(2) 鉄滓の性格は次のとおりである。

①製錬滓：資料No.3（流出滓）、および資料No.6（付着滓）の2資料。

②製錬鍛冶滓：資料No.1、2、4、および5（椀形滓）の4資料。

(3) 残存金属鉄（粒）が残っていた資料は次のとおりである。

①顕微鏡による組織観察で確かめられたもの：資料No.1および4の2資料。

②化学成分分析とX線回折で確かめられたもの：資料No.3の1資料。

(4) 精錬鍛冶滓の4資料はいずれも長時間、水分の多い湿潤な場所に保持されていたと推定される。

(5) 資料No.6は製錬滓が付着した炉壁と考えられる粘土である。

## 5. 参考

(1) 鉄滓の発生を鉄の生産工程から大きく分類すると、

①製錬滓 砂鉄や鉄鉱石を木炭等の炭素で還元して、酸素を取り除き、金属鉄を取り出す時に発生するもので、炉内滓や炉底滓および炉外流出滓などがある。

②精錬鍛冶滓（大鍛冶滓） ①で出来た鉄塊から、さらに不純物を取り出して加工しやすい状態の鉄素材（鉄塊）にする時に生成するもので、成分的には①の製錬滓に近い。

③鍛錬鍛冶滓（小鍛冶滓） ②で出来た鉄素材や製品の鉄を加熱・鍛打して、鉄製品を作っていく過程で生成する鉄滓で、その生成過程により椀形鍛冶滓、鍛造剥片や粒状鉄滓（通称湯玉）等の形となる。

④鑄物滓 鉄を溶解し、鑄型に流し込んで鑄物を作る時に生成するもの。

等があります。

鉄は再加工（いわゆるリサイクル）の可能な素材として利用できるもので、鍛冶場には各所で新規に生産された鉄と同時にリサイクル品が持ち込まれてきた可能性もあると、考えるのが妥当であります。

素材である鉄や鉄塊がどこで生産されたものか、製鉄技術の進歩の状況はどうであったか等については、特定製鉄遺跡に付随する鍛冶工房や、製品としての鉄器類の追跡調査研究を進めて行く過程で更に解明出来るものと思います。

(2) 鉄の分析結果について

分析結果表に記載されている全鉄分（Total Fe=T.Feと表示）の量と、その後に記載されている金属鉄（Metalic Fe=M.Fe）、酸化第一鉄（FeO）および酸化第二鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）との関係を簡単に述べると、後者の二つは酸化鉄（鉄と酸素の化合物）を示しており、それらの中の鉄（Fe）の量とM.Feの量とを合計したものが前者のT.Feとなります。

したがって、分析値を合計する場合には全鉄分を除外して集計する必要があります。

また、酸化鉄にはこの他にもいろいろな形態をしたものがあり、鉄滓中の鉄の成分量を見る場合には、全鉄分（T.Fe）が重要になります。

なお、酸化鉄の他の化合物としては四三酸化鉄（FeO・Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>=Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>）がありますが、化学成分分析から直接含有量は求められません。

また、水分との接触が多い鉄器や鉄滓の場合、水分（C.W.）と酸化第二鉄とが結合したオキシ水素化鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>・H<sub>2</sub>O=2FeOOH）が一般的に認められます。その時の鉄錆の形態は、ゲーサイト [Goethite：α-FeOOH]、アカゴナイト [Akagonite：β-FeOOH]、レピッドクロサイト

[Lepidocrocite :  $\gamma$ -FeOOH] の3種であり、生成環境な条件により変化します。

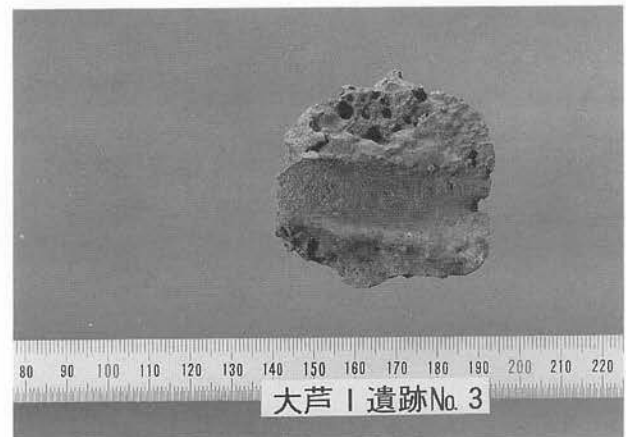
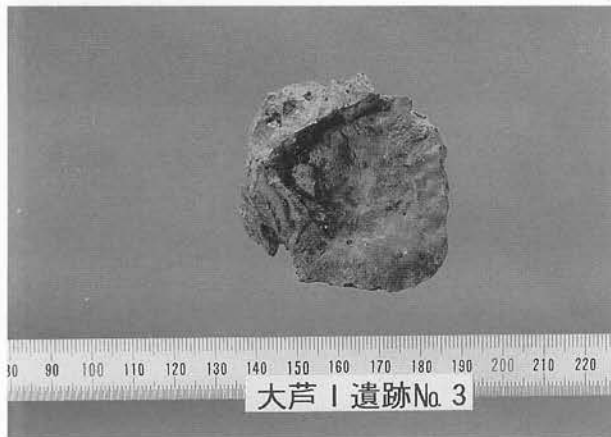
### (3) 鉄滓の化合物について

鉄滓を構成する化合物は一般に次のようなものであり、顕微鏡写真およびX線回折の結果によると、原則としてこれらの存在がいずれかの組み合わせで認められます。なお、このほかにガラス質の化合物も存在します。

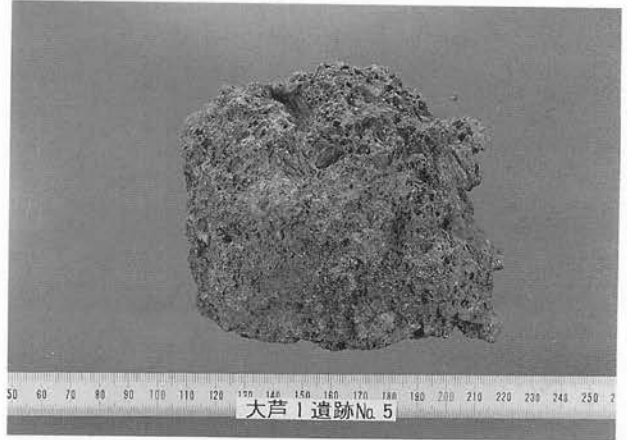
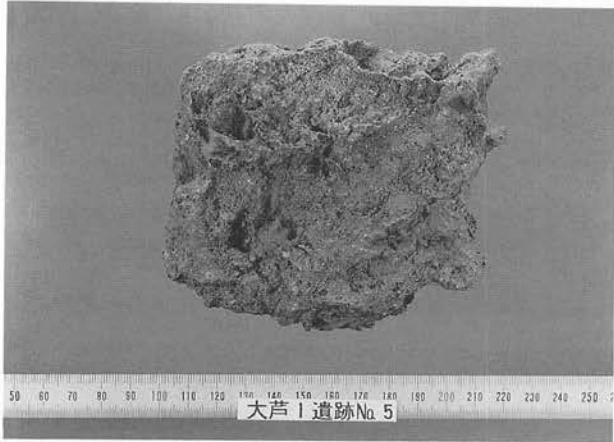
ウスタイト	: Wustite ( $\text{FeO}$ )	白色ノ礫玉又は葡萄の房状の結晶
ファイヤライト	: Fayalite ( $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$ )	短冊状やレース状の長い結晶
マグネタイト	: Magnetite ( $\text{Fe}_3\text{O}_4$ )	白色、多角盤状または樹枝状の結晶
ヘマタイト	: Hematite ( $\alpha\text{-Fe}_2\text{O}_3$ )	赤褐色～赤紫色
マグヘマイト	: Maghemite ( $\gamma\text{-Fe}_2\text{O}_3$ )	赤紫色～黒紫色
ウルボスピネル	: Ulvospinel ( $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ )	淡褐色、角尖状～六角形状結晶
イルメナイト	: Ilmenite ( $\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ )	褐色針状の長い結晶
シュードブルックライト	: Pseudobrookite ( $\text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{TiO}_2$ )	針状または板状結晶
ゲーサイト	: Goethite ( $\alpha\text{-FeOOH}$ )	黄赤色、不定型
アカゴナイト	: Akagonite ( $\beta\text{-FeOOH}$ )	黄色、不定型
レピッドクロサイト	: Lepidocrocite ( $\gamma\text{-FeOOH}$ )	橙赤色、不定型
ヘーシナイト	: Hercynite ( $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$ )	ウスタイト中に多く析出。胡麻粒状

この他、石英＝クオーツ ( $\text{Quartz} : \text{SiO}_2$ )、ルーサイト ( $\text{Leucite} : \text{KAlSi}_2\text{O}_6$ )、プラギオクレーゼ [ $\text{Plagioclase} : (\text{Na}, \text{Ca}) (\text{Al}, \text{Si})_4\text{O}_8$ ]、ドロマイト [ $\text{Dolomite} : \text{CaMg}(\text{CO}_3)_2$ ] 等の鉱物やガラス質のものがあります。なお、色調は前記したものと若干異なる場合があります。





資料 外觀写真(1)



資料 外觀写真(2)

## 化学成分分析結果

岩手（大芦1遺跡） 鉄

滓

単位% (m/m)

成分 資料No.	T.Fe	M.Fe	FeO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	C.W.	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CaO	MgO	TiO <sub>2</sub>	MnO	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	C	V	Cu	—
No.1	49.5	0.34	22.5	45.3	4.10	3.57	3.57	0.00	0.24	1.68	0.63	0.157	0.025	0.04	0.08	0.26	0.242	0.002	
No.2	52.4	0.19	27.7	43.9	3.36	6.96	3.67	1.06	0.29	1.13	0.31	0.189	0.100	0.05	0.19	1.06	0.292	0.002	
No.3	52.7	1.84	53.2	13.6	0.41	14.8	3.34	0.12	0.30	8.31	0.35	0.176	0.110	0.16	0.66	0.12	0.302	0.001	
No.4	53.1	0.39	18.5	54.8	4.67	3.21	2.67	0.46	0.30	1.07	0.41	0.755	0.061	0.04	0.72	0.46	0.302	0.004	
No.5	53.0	0.27	23.5	49.3	4.05	10.5	3.09	0.32	0.14	2.47	0.17	0.514	0.060	0.19	0.84	0.32	0.137	0.004	
No.6 (上)	16.9	0.28	11.5	11.0	0.30	67.5	7.11	0.06	0.08	2.08	0.08	0.104	0.075	0.24	1.50	0.06	0.075	0.001	
No.6 (下)	16.0	0.30	7.07	14.6	0.29	64.9	9.85	0.05	0.05	1.40	0.07	0.186	0.061	0.31	2.24	0.05	0.045	0.002	
No.																			
No.																			

[分析方法] はJISに準拠し、以下の方法で行いました。

T.Fe : 三塩化チタン還元—ニクロム酸カリウム滴定法

M.Fe : 臭素メタノール分解—EDTA滴定法

FeO : ニクロム酸カリウム滴定法

Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> : 計算

C.W. : カールフィッシャー法

C : 燃焼—赤外線吸収法

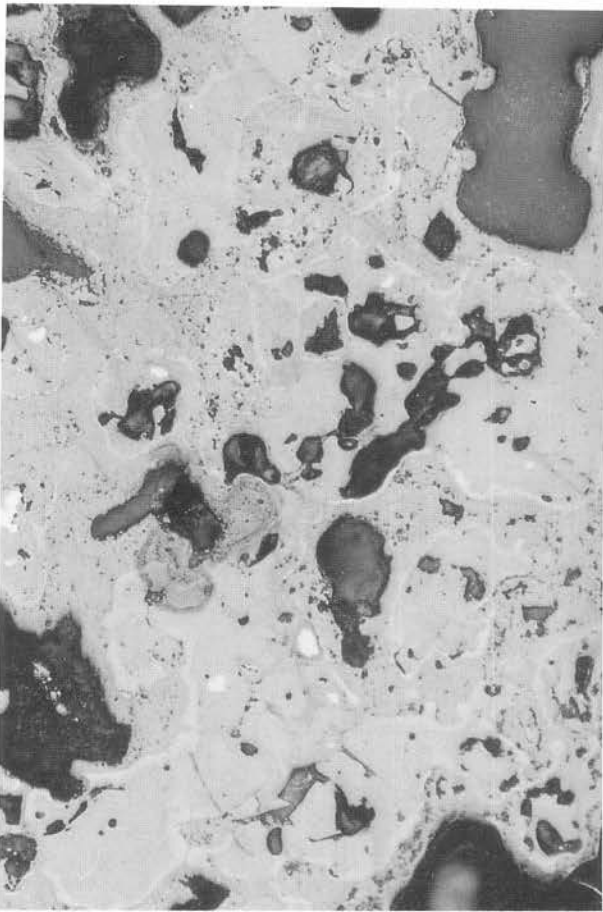
CaO, MgO, MnO : ICP発光分析法

Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, Na<sub>2</sub>O, V, Cu

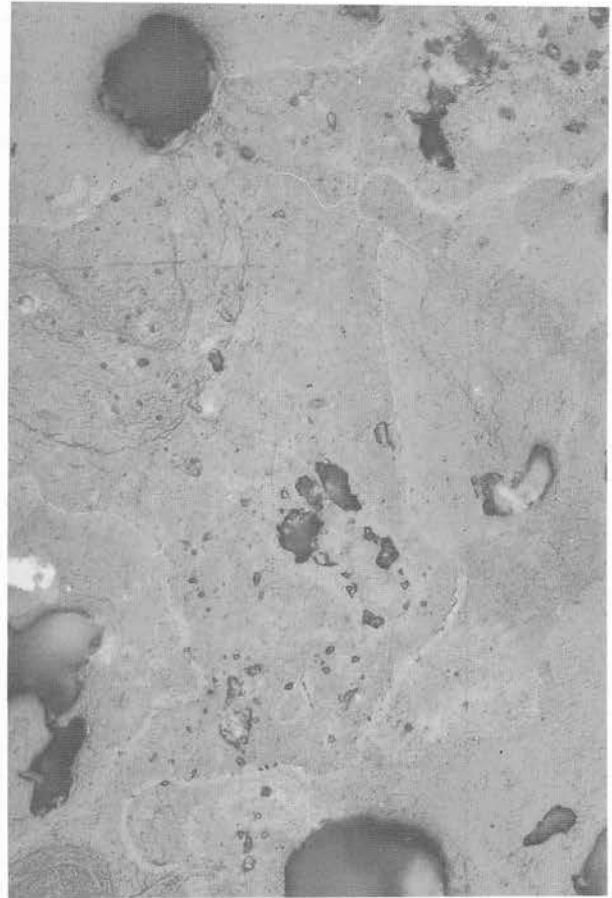
SiO<sub>2</sub>, Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, CaO, : ガラスビート蛍光×線分析法

MgO, TiO<sub>2</sub>, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>, K<sub>2</sub>O

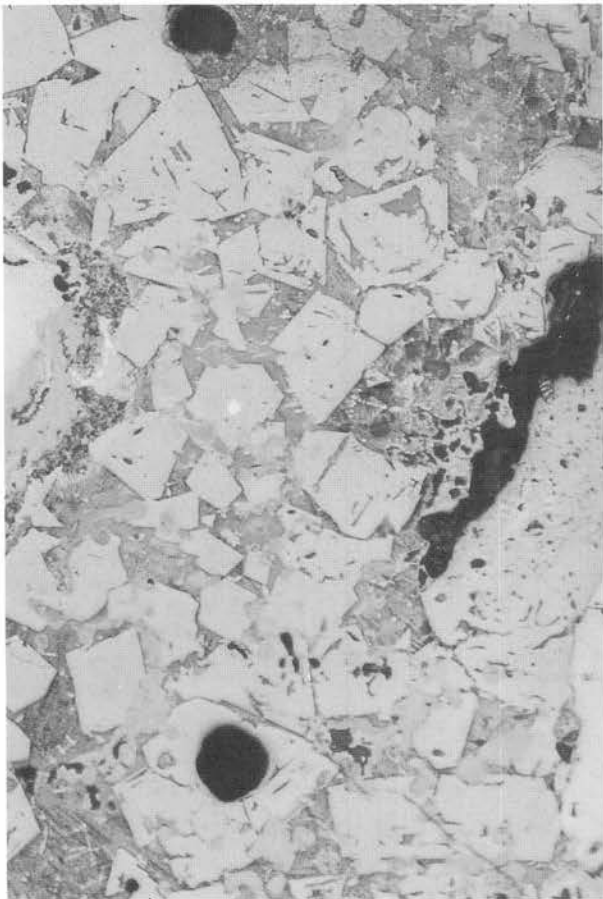
但しCaO, Mg, MnO, は含有率に応じてICP分析法または蛍光×線分析法



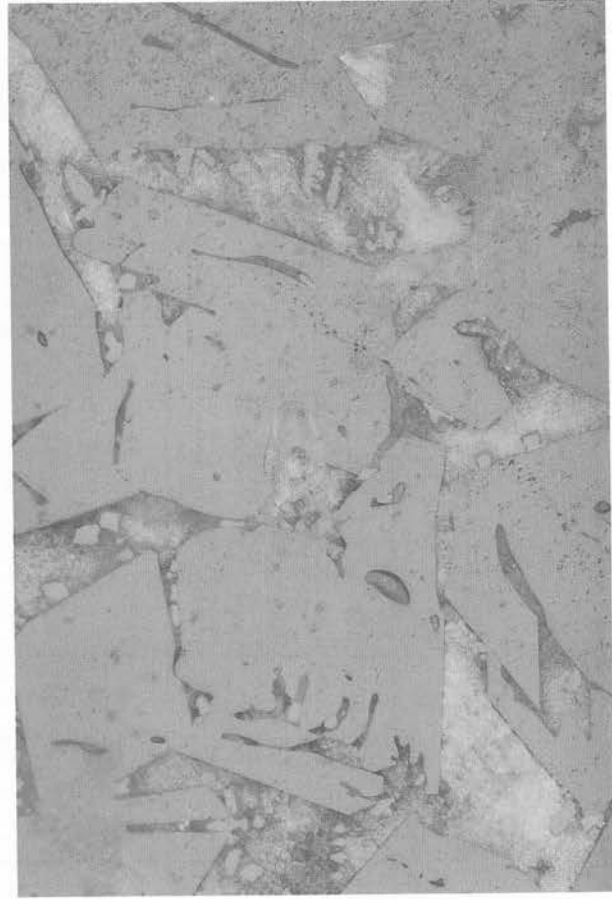
No.1 精鍊鍛冶滓 ×100



No.1 精鍊鍛冶滓 ×400

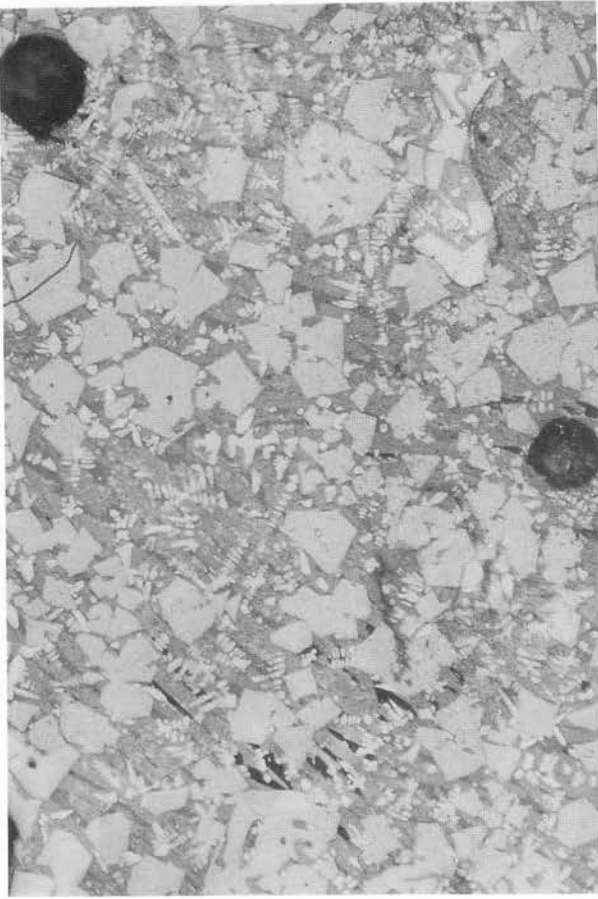


No.2 精鍊鍛冶滓 ×100

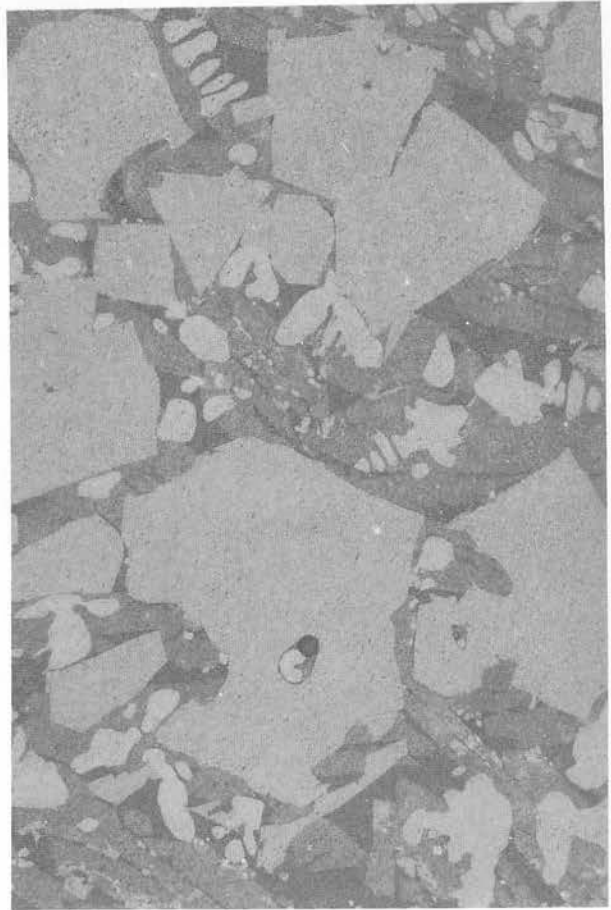


No.2 精鍊鍛冶滓 ×400

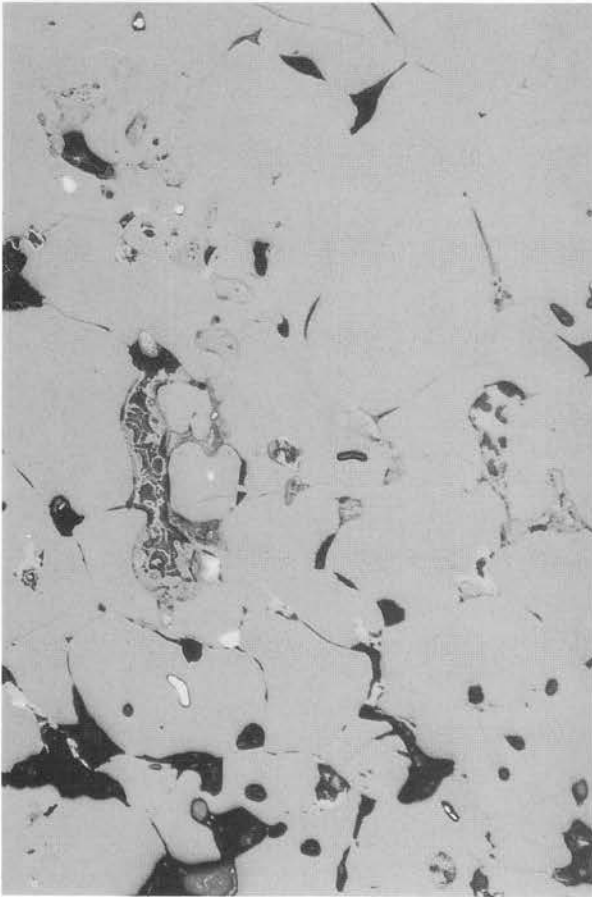
顯微鏡組織写真(1)



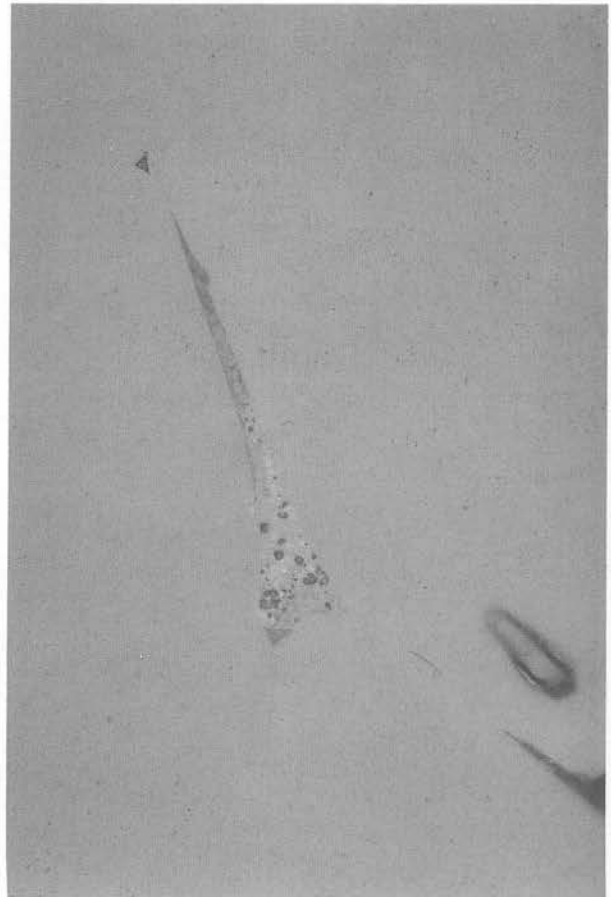
No. 3 精鍊滓 ×100



No. 3 精鍊滓 ×400

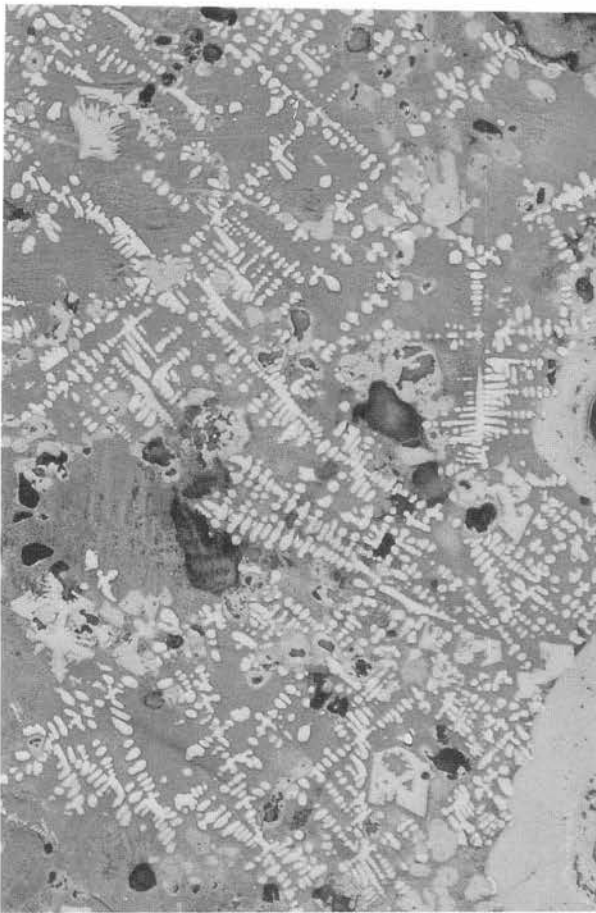


No. 4 精鍊鍛滓 ×100

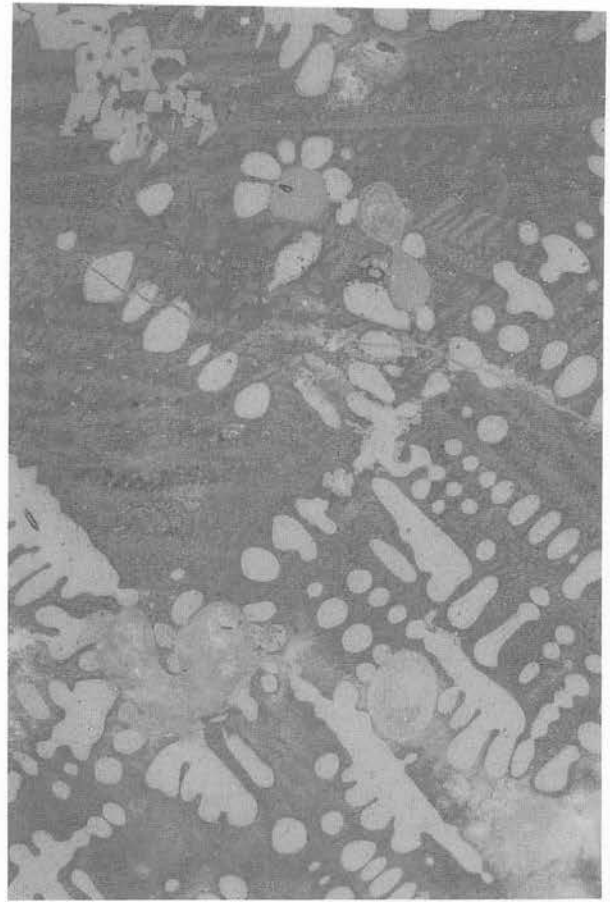


No. 4 精鍊鍛滓 ×400

顕微鏡組織写真(2)



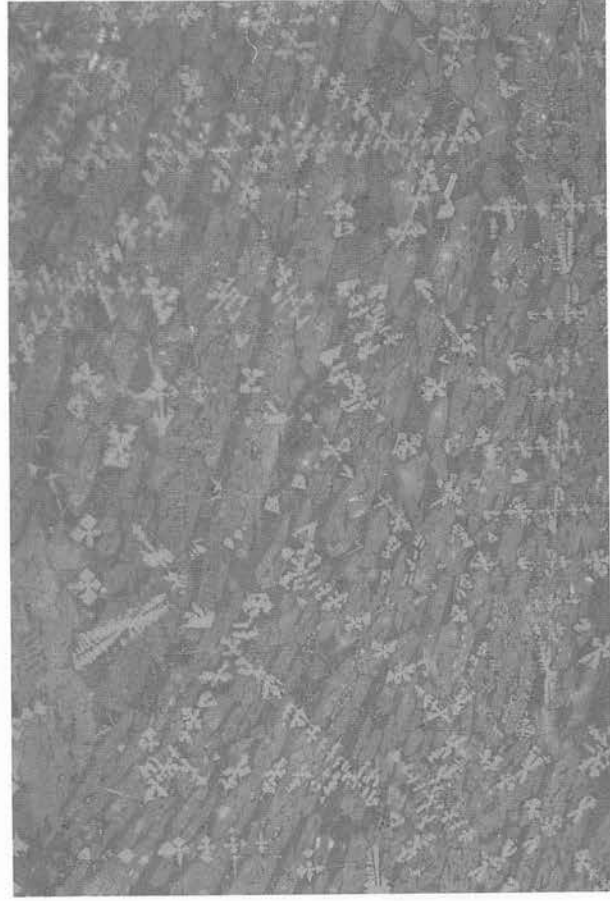
No. 5 梘形精鍊鍛冶滓×100



No. 5 梘形精鍊鍛冶滓×400



No. 6 製鍊付着炉壁 ×100



No. 6 製鍊付着炉壁 ×400

顕微鏡組織写真(3)

整理番号：G19674

1998年1月21日

川鉄テクノロジー株式会社

分析・評価センター

千葉事業所

〒260 千葉市中央区川崎町1番地

TEL 043-262-2313

FAX 043-266-7220

## 試験報告書

### 1. 件名

X線回折による、大芦遺跡出土品の定性分析

### 2. 試料記号

- ① No.1                      ② No.2                      ③ No.3  
④ No.4                      ⑤ No.5                      ⑥ No.6

### 3. 測定装置

理学電機株式会社製外ガイガーフレックス (RAD-II A型)

### 4. 測定条件

① 使用X線	Co-Ka (波長=1.79021 Å)
② Kβ線吸収フィルター	Fe
③ 管電圧・管電流	50kV・35mA
④ スキャンング・スピード	2° /min.
⑤ サンプリング・インターバル	0.020°
⑥ D.S.スリット	1°
⑦ R.S.スリット	0.3mm
⑧ S.S.スリット	1°
⑨ 検出器	シンチレーション・カウンター

### 5. 測定結果

固定された物質は、チャートに記入致しましたので、チャートを御参照下さい。

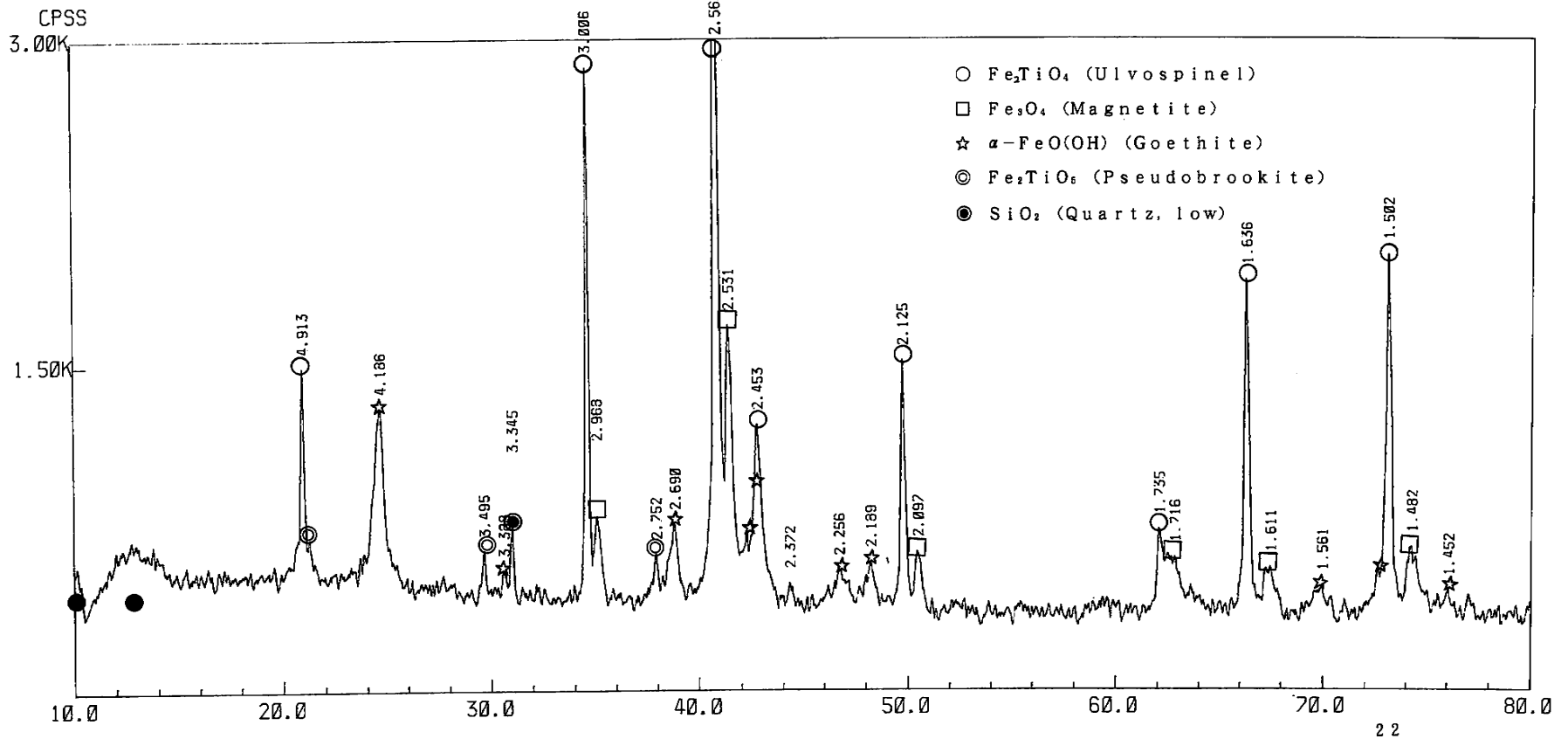
### 6. コメント

●印のピークは、試料ホルダーからのものと思われます。

MEASUREMENT DATE : 98. 1.20  
 FILE NAME : CJ25100  
 TARGET : Co  
 VOL and CUR: 50KV 35mA  
 SLITS : DS 1 RS .3 SS 1  
 SCAN SPEED: 2 DEG/MIN.  
 STEP/SAMPL.: .02 DEG  
 PRESET TIME: 0 SEC  
 SAMPLE NAME: No.1  
 SAMPLE MEMO: 619674  
 OPERATOR :

DATA DRAWING DATE : 01-20-1998  
 SMOOTHING NO.: 11  
 THRESH. INTEN.: 456 CPS  
 2nd DERIV.: 176 CPS/(DEGxDEG)  
 WIDTH: .09 DEG  
 B.G. REDUCTION: EXECUTION  
 OUTPUT FILE :

SAMPLE NAME : No.1

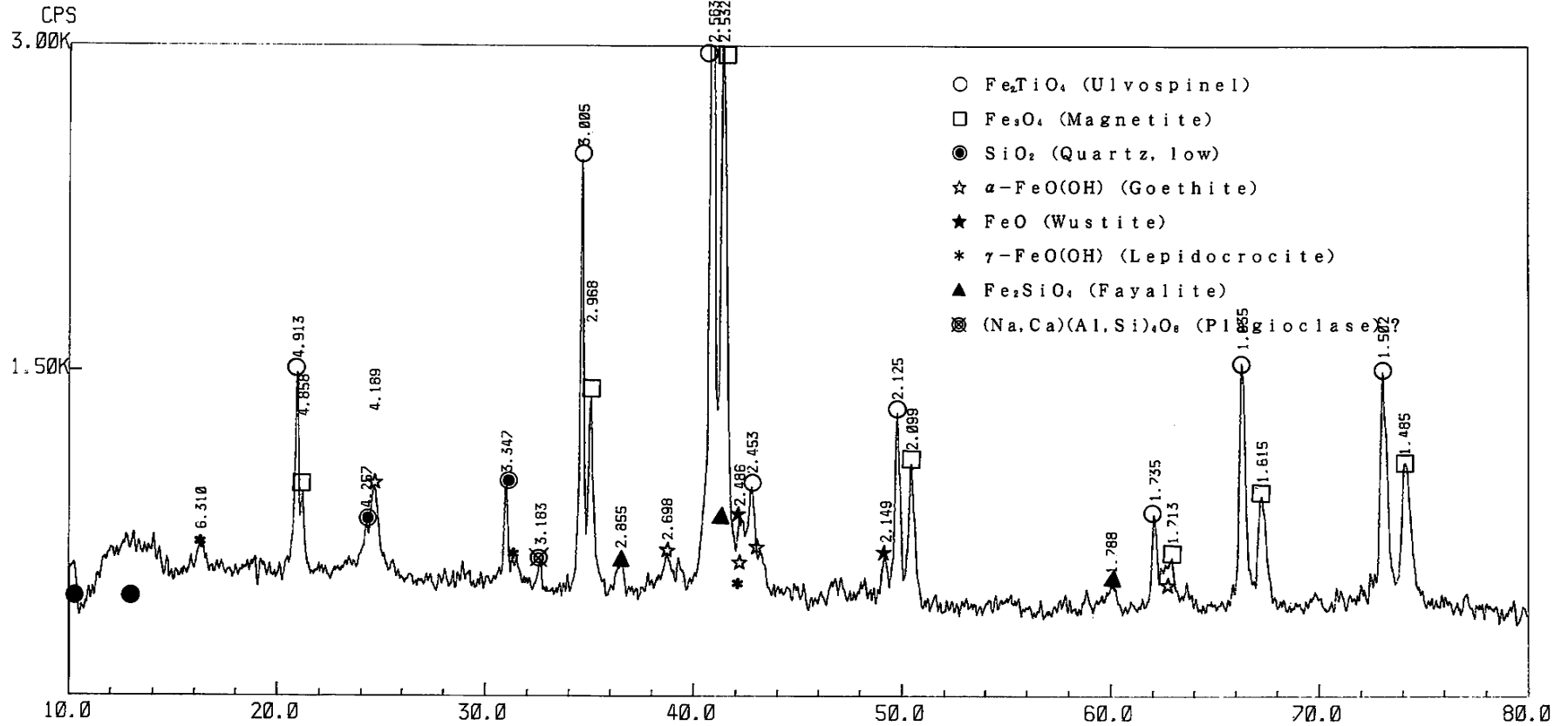




MEASUREMENT DATE : 98. 1.20  
 FILE NAME : CJ26100  
 TARGET : Co  
 VOL and CUR: 50KV 35mA  
 SLITS : DS 1 RS .3 SS 1  
 SCAN SPEED: 2 DEG/MIN.  
 STEP/SAMPL.: .02 DEG  
 PRESET TIME: 0 SEC  
 SAMPLE NAME: No.2  
 SAMPLE MEMO: G19674  
 OPERATOR :

DATA DRAWING DATE : 01-20-1998  
 SMOOTHING NO.: 11  
 THRESH.INTEN.: 466 CPS  
 2nd DERIV.: 176 CPS/(DEGxDEG)  
 WIDTH: .09 DEG  
 B.G.REDUCTION: EXECUTION  
 OUTPUT FILE :

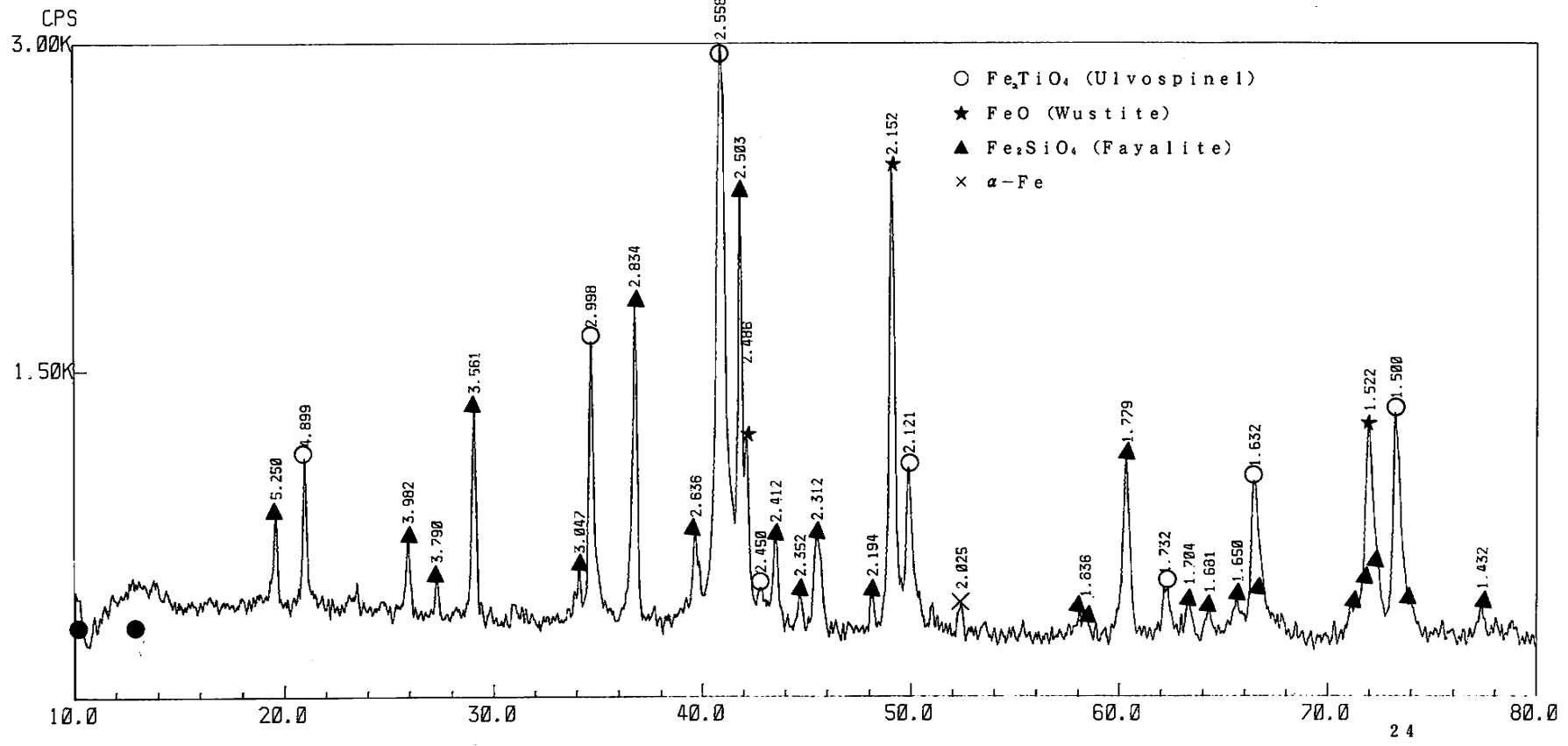
SAMPLE NAME : No.2



MEASUREMENT DATE : 98. 1.20  
 FILE NAME : CJ27100  
 TARGET : Co  
 VOL and CUR : 50KV 35mA  
 SLITS : DS 1 RS .3 SS 1  
 SCAN SPEED : 2 DEG/MIN.  
 STEP/SAMPL. : .02 DEG  
 PRESET TIME : 0 SEC  
 SAMPLE NAME : No.3  
 SAMPLE MEMO : G19674  
 OPERATOR :

DATA DRAWING DATE : 01-20-1998  
 SMOOTHING NO. : 11  
 THRESH. INTEN. : 459 CPS  
 2nd DERIV. : 176 CPS/(DEGxDEG)  
 WIDTH : .09 DEG  
 B.G. REDUCTION : EXECUTION  
 OUTPUT FILE :

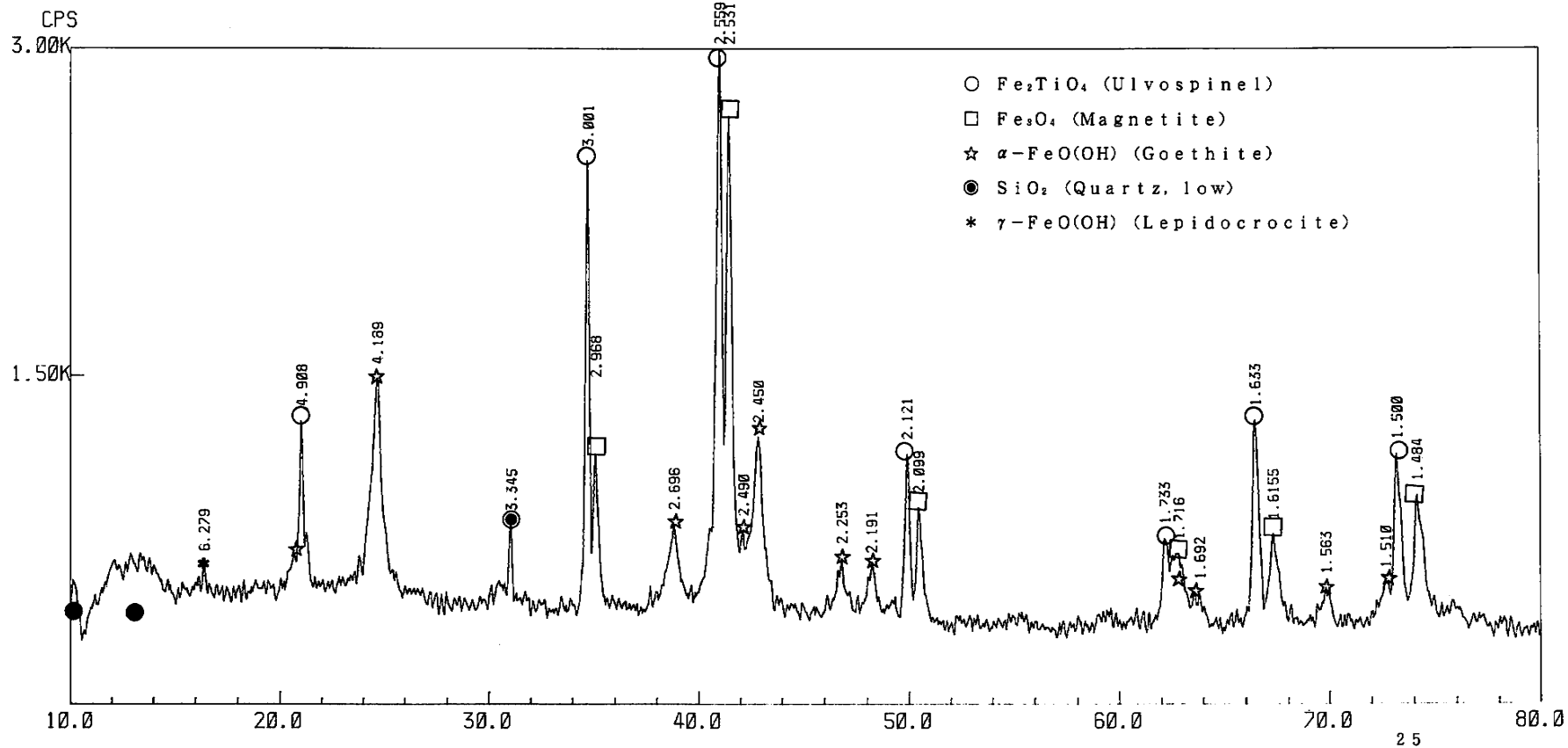
SAMPLE NAME : No.3



MEASUREMENT DATE : 98. 1.20  
 FILE NAME : CJ28100  
 TARGET : Co  
 VOL and CUR: 50KV 35mA  
 SLITS : DS 1 RS .3 SS 1  
 SCAN SPEED: 2 DEG/MIN.  
 STEP/SAMPL.: .02 DEG  
 PRESET TIME: 0 SEC  
 SAMPLE NAME: No.4  
 SAMPLE MEMO: G19674  
 OPERATOR :

DATA DRAWING DATE : 01-20-1998  
 SMOOTHING NO.: 11  
 THRESH. INTEN.: 476 CPS  
 2nd DERIV.: 176 CPS/(DEGxDEG)  
 WIDTH: .09 DEG  
 B.G. REDUCTION: EXECUTION  
 OUTPUT FILE :

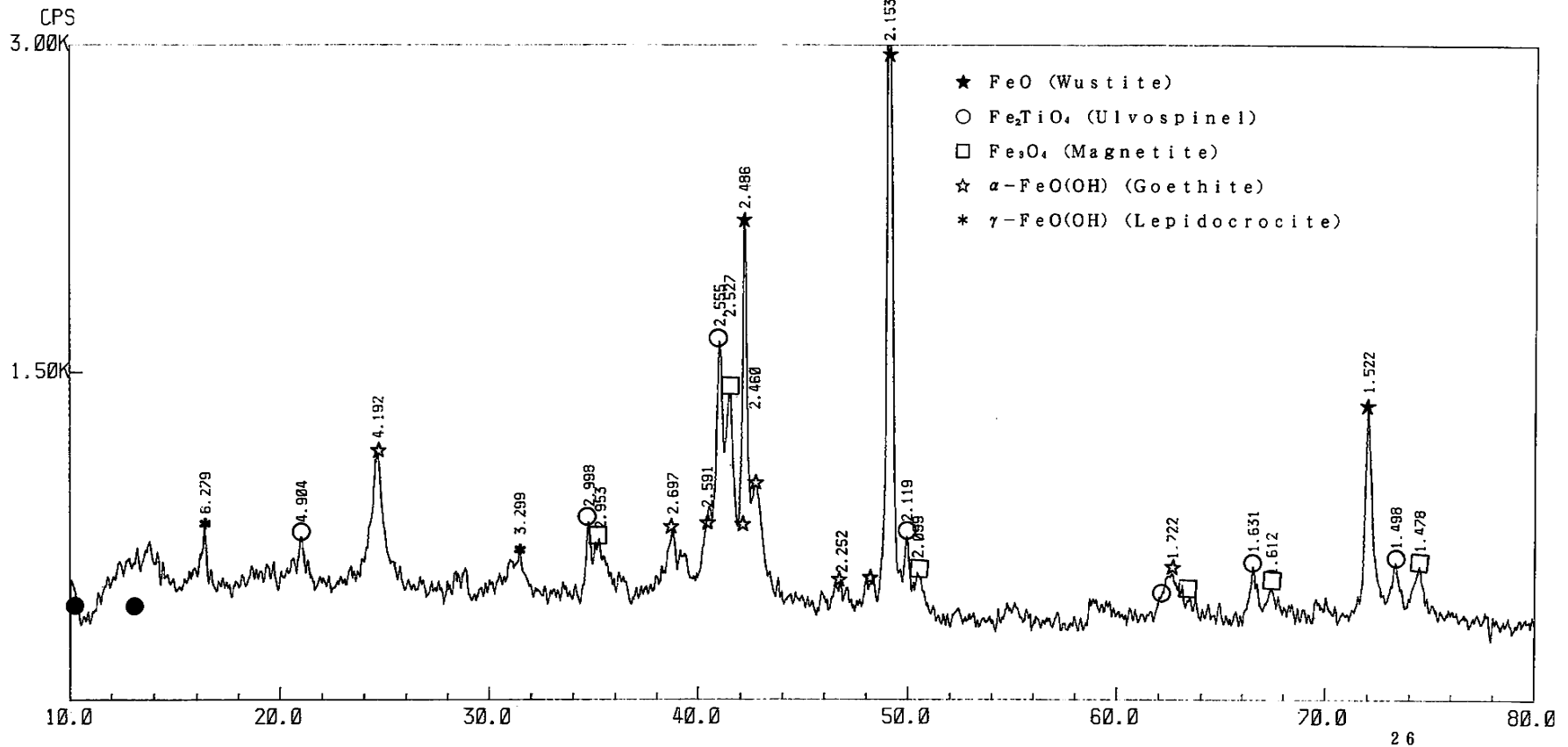
SAMPLE NAME : No.4



MEASUREMENT DATE : 98. 1.20  
 FILE NAME : CJ29100  
 TARGET : Co  
 VOL and CUR: 50KV 35mA  
 SLITS : DS 1 RS .3 SS 1  
 SCAN SPEED: 2 DEG/MIN.  
 STEP/SAMPL.: .02 DEG  
 PRESET TIME: 0 SEC  
 SAMPLE NAME: No.5  
 SAMPLE MEMO: G19674  
 OPERATOR :

DATA DRAWING DATE : 01-20-1998  
 SMOOTHING NO.: 11  
 THRESH. INTEN.: 478 CPS  
 2nd DERIV.: 176 CPS/(DEGxDEG)  
 WIDTH: .09 DEG  
 B.G. REDUCTION: EXECUTION  
 OUTPUT FILE :

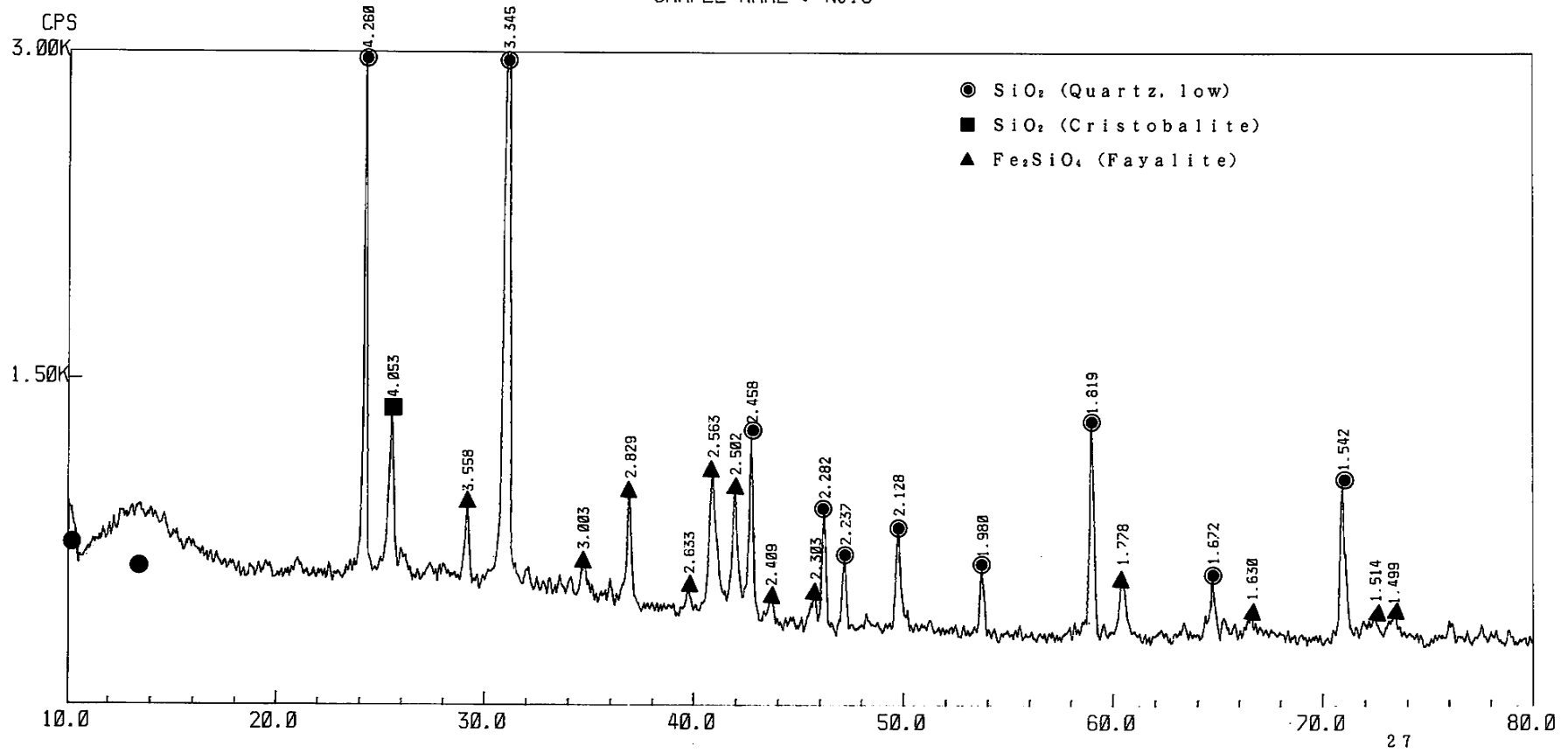
SAMPLE NAME : No.5



MEASUREMENT DATE : 98. 1.20  
 FILE NAME : CJ30100  
 TARGET : Co  
 VOL and CUR: 50KV 35mA  
 SLITS : DS 1 RS .3 SS 1  
 SCAN SPEED: 2 DEG/MIN.  
 STEP/SAMPL.: .02 DEG  
 PRESET TIME: 0 SEC  
 SAMPLE NAME: No.6  
 SAMPLE MEMO: G19674  
 OPERATOR :

DATA DRAWING DATE : 01-20-1998  
 SMOOTHING NO.: 11  
 THRESH. INTEN.: 363 CPS  
 2nd DERIV.: 176 CPS/(DEGxDEG)  
 WIDTH: .09 DEG  
 B.G. REDUCTION: EXECUTION  
 OUTPUT FILE :

SAMPLE NAME : No.6



# 写真図版

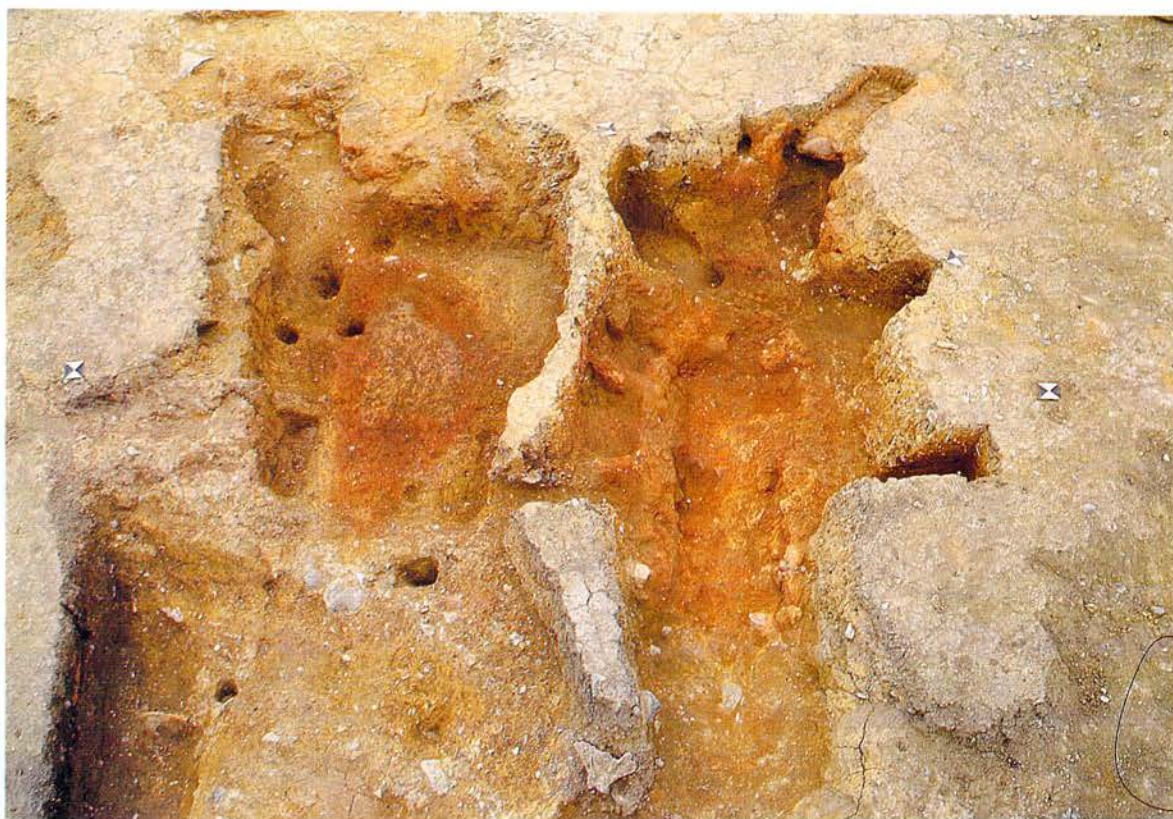


調査状況



調査終了状況・法面

カラー写真図版1 C区捨て場



A区 1・2号炉



E区 3号炉

カラー写真図版2 近世製鉄遺構





C区捨て場 IIb・IIc層出土



C区捨て場 II d・IIe層出土

カラー写真図版3 捨て場出土縄文晩期土器



異系統土器



異系統土器



装身具類



土偶・土製品

カラー写真図版4 捨て場出土縄文晩期土器、土製品



外面

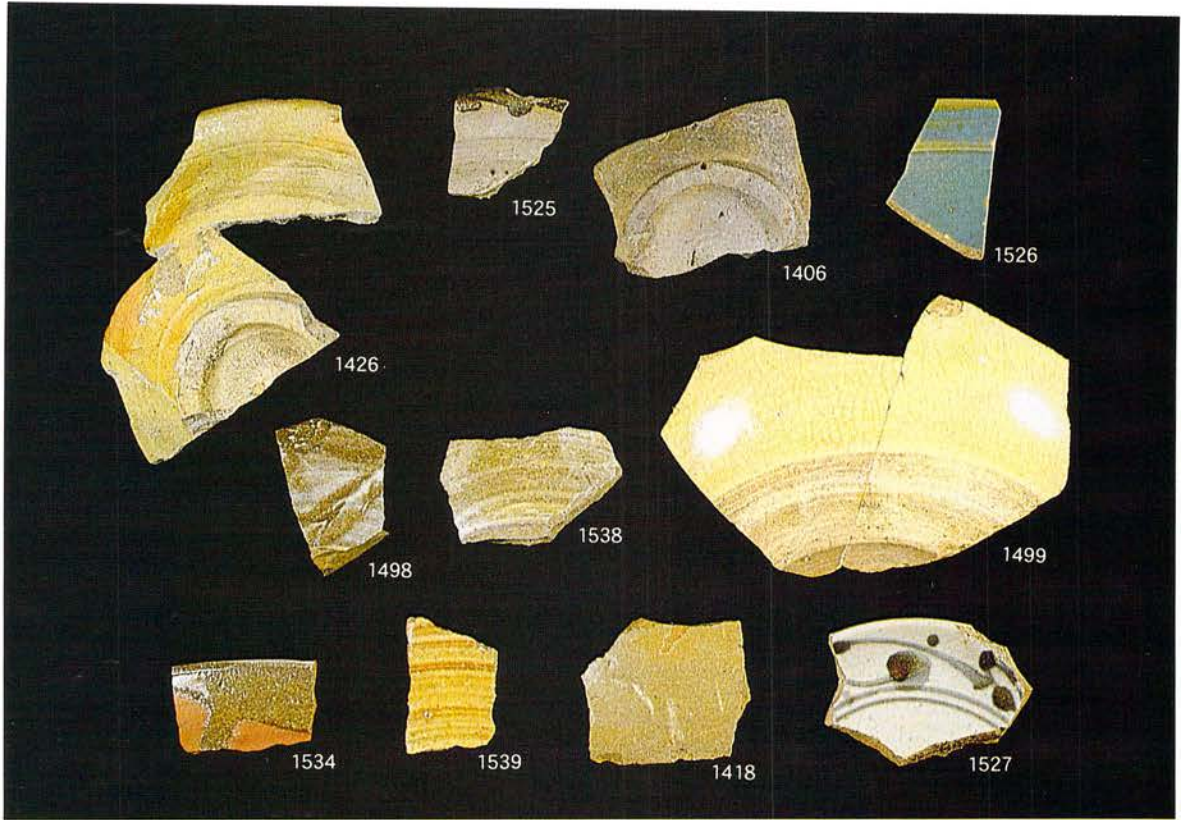


内面

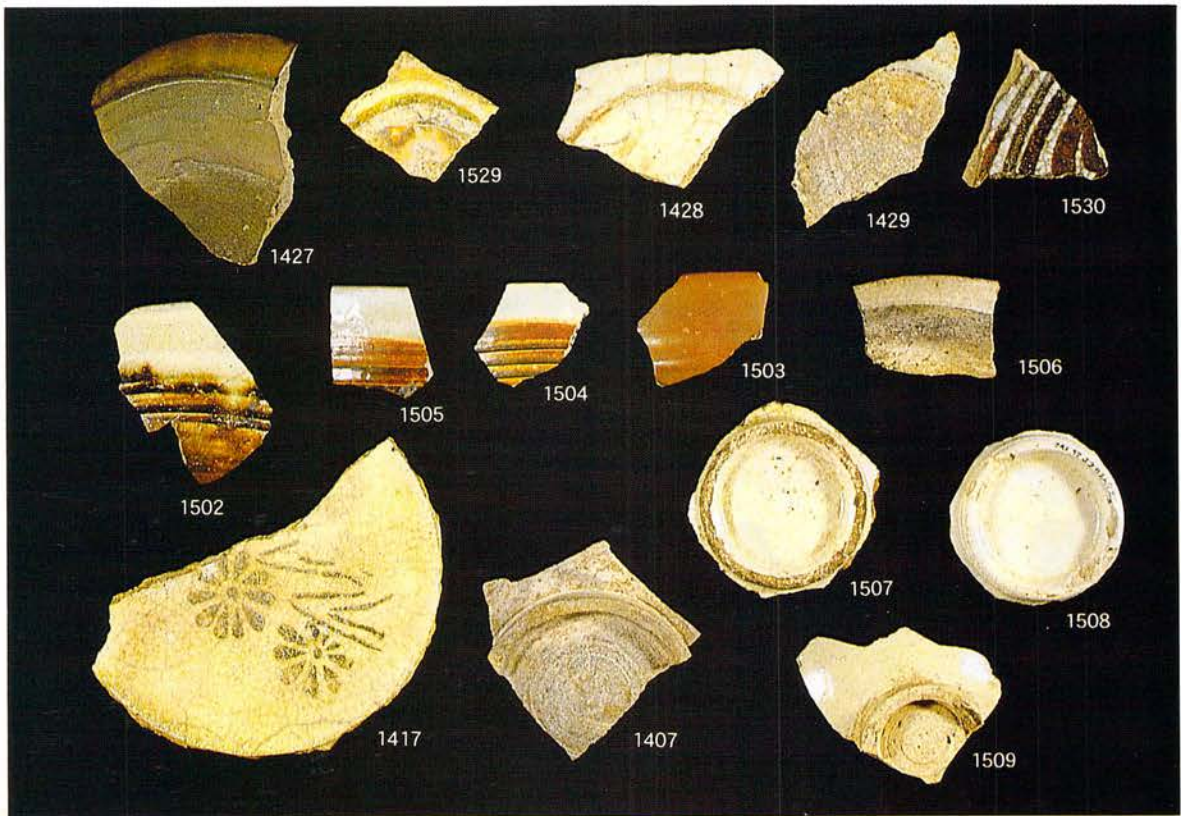


復元個体

カラー写真図版5 製塩土器



唐津・肥前産

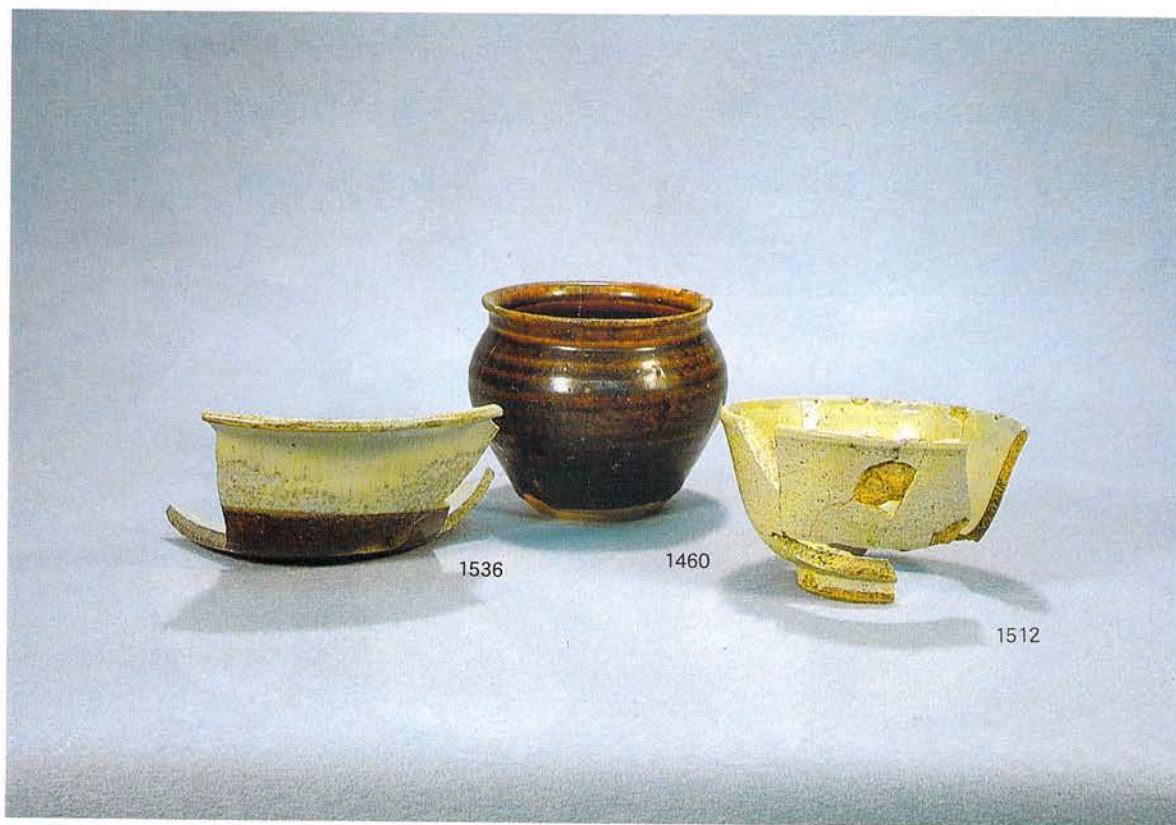


瀬戸・美濃産

カラー写真図版 6 近世陶器

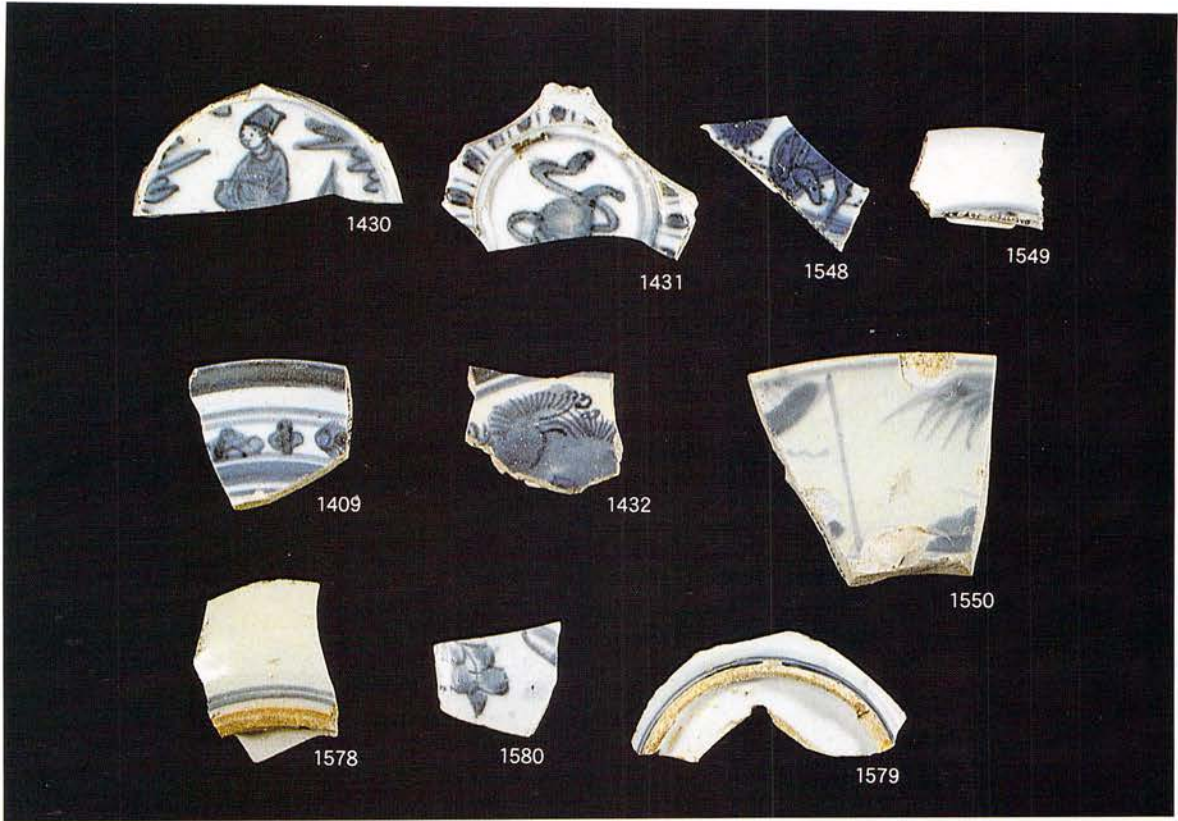


小久慈焼

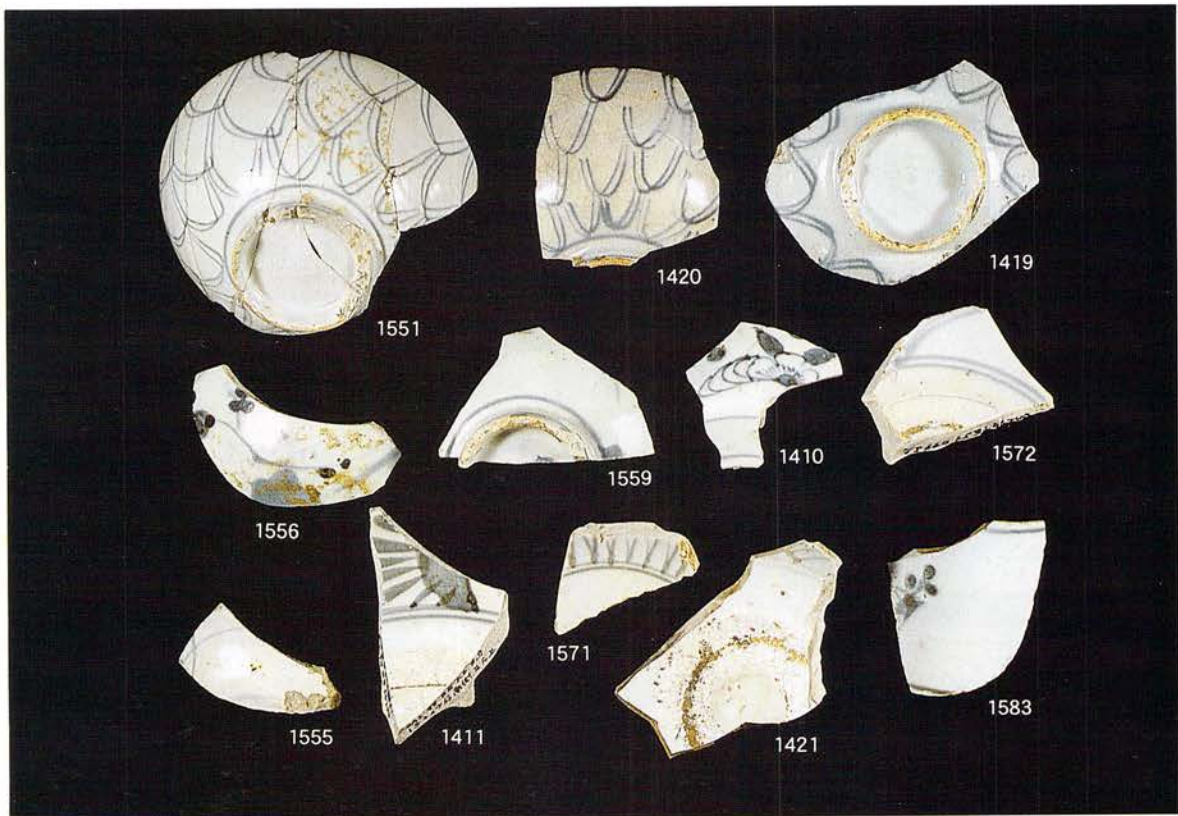


小久慈焼

カラー写真図版7 近世陶器



中国産・肥前産



肥前産

カラー写真図版 8 近世磁器



遺跡周辺遠景（西上空から）

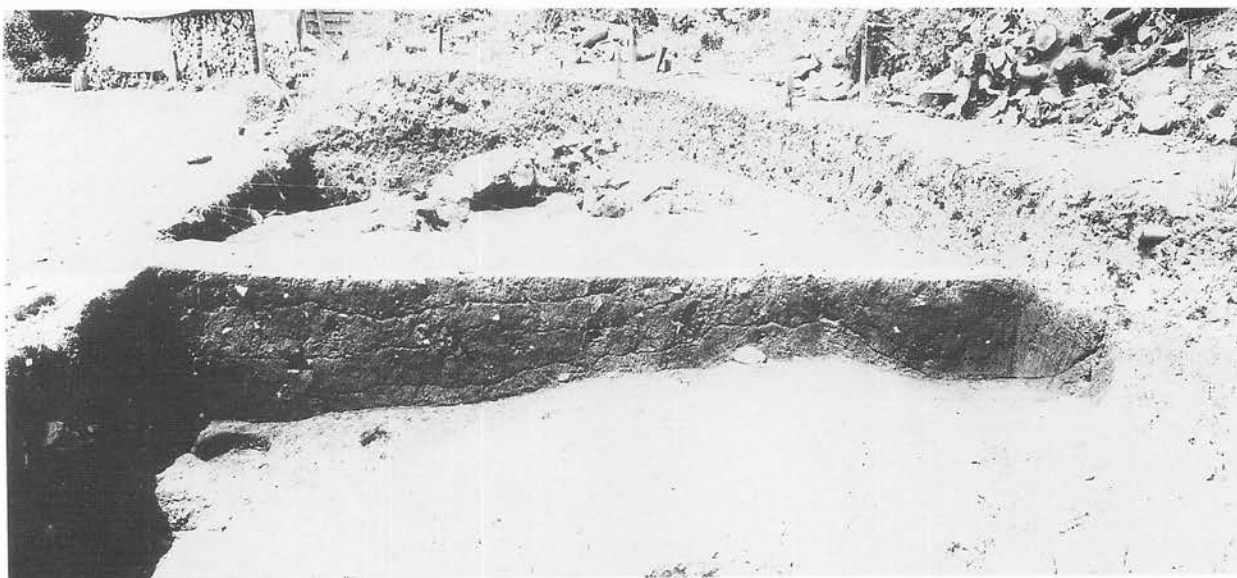


調査区全景

写真図版 1 空撮



A区土層断面



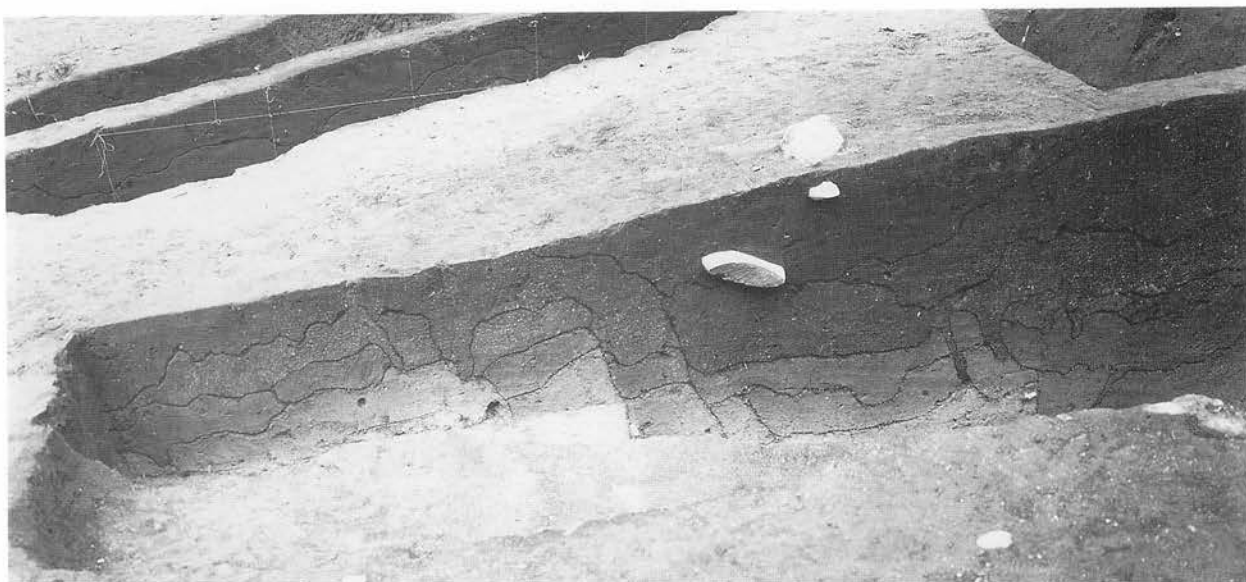
E区土層断面



H区土層断面 (凹地断面)

写真図版2 土層断面(1)

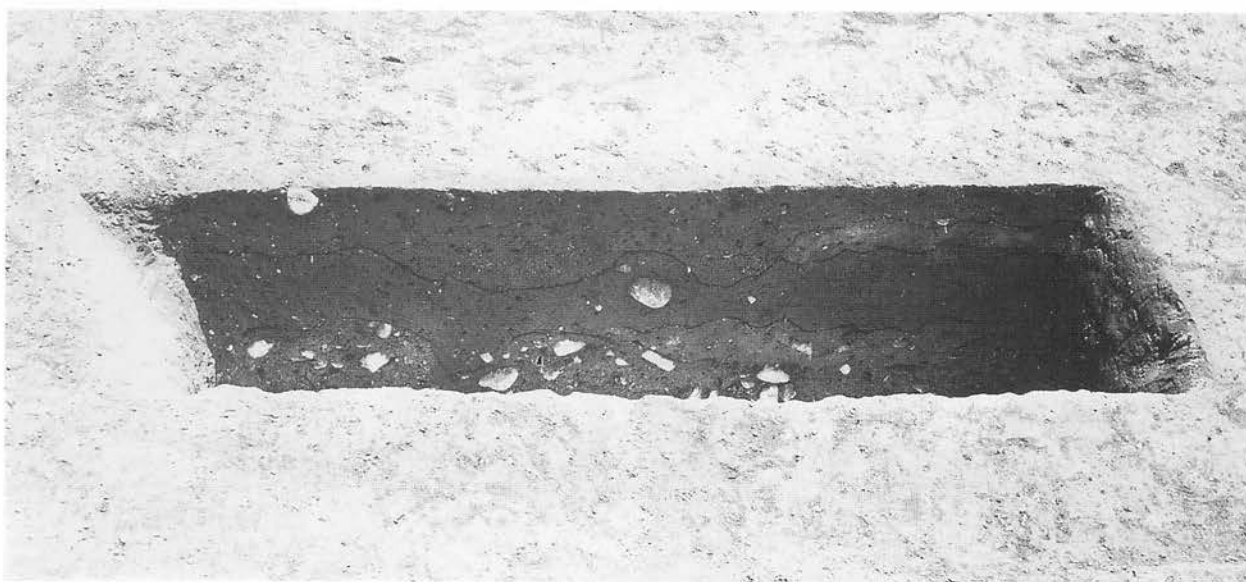




H区土層断面 (断層)



H区土層断面 (断層)



J区土層断面

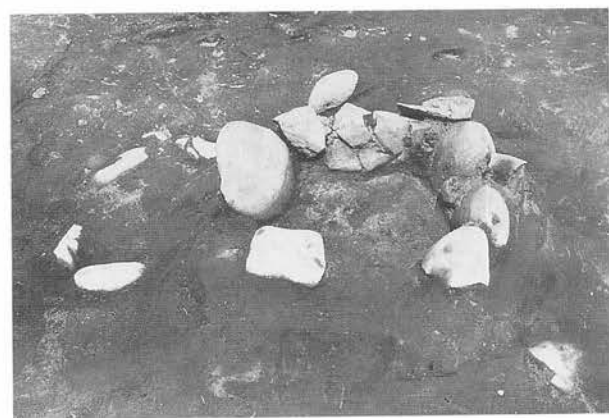
写真図版3 土層断面(2)



1号住居跡完掘



断面



炉



土器出土状況

写真図版4 1号住居跡



2号住居跡完掘

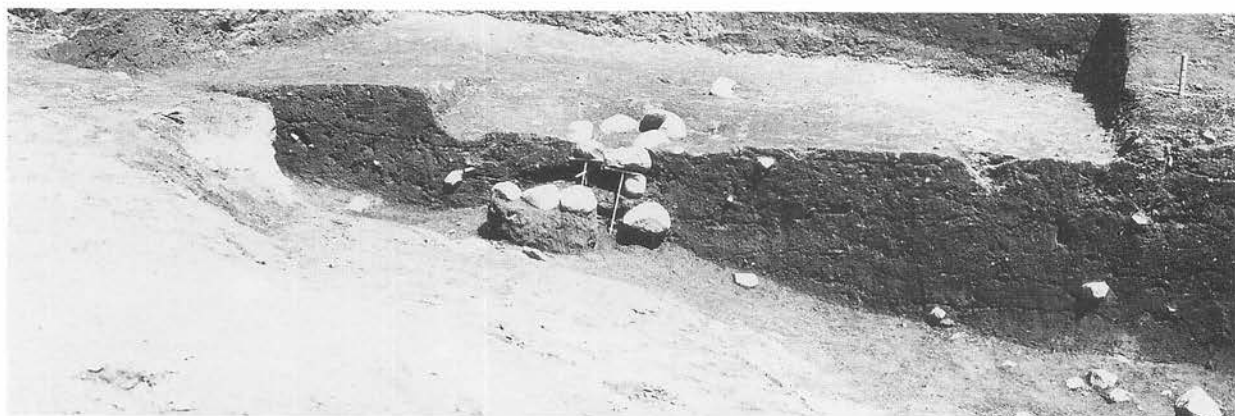


3号住居跡完掘

写真図版5 2・3号住居跡



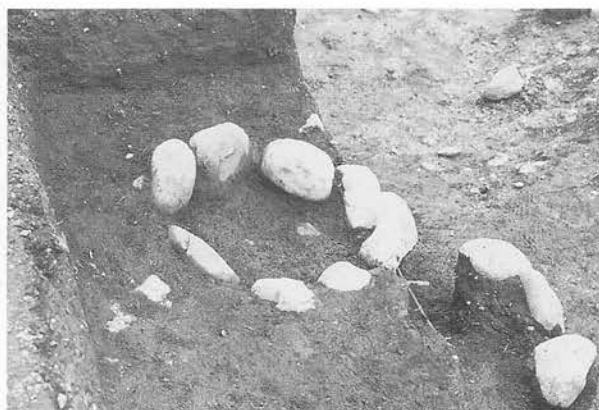
4号住居跡完掘



3・4号住居跡断面



3号住居跡



4号住居跡

写真図版 6 3・4号住居跡



5号住居跡完掘



断面



炉

写真図版7 5号住居跡



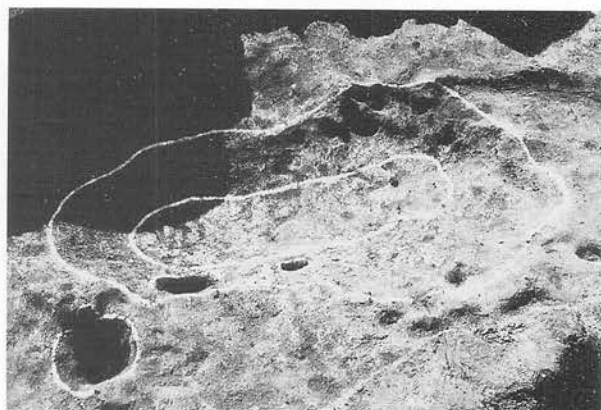
1号土坑完掘



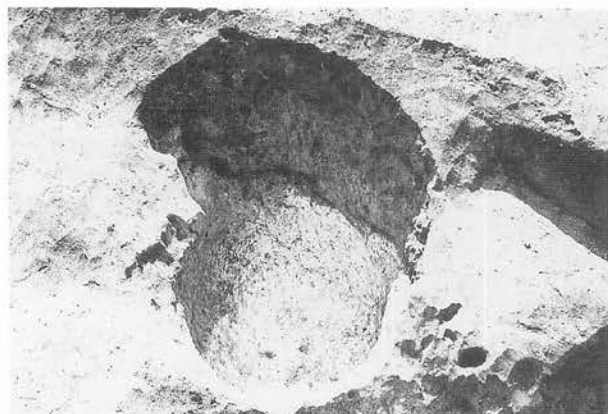
2号土坑完掘



3号土坑完掘



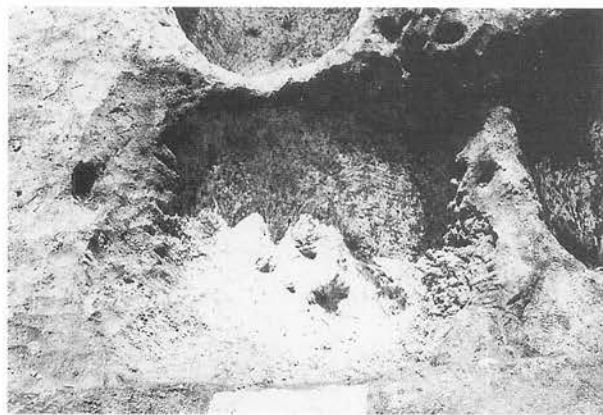
4号土坑完掘



5号土坑完掘



6号土坑完掘

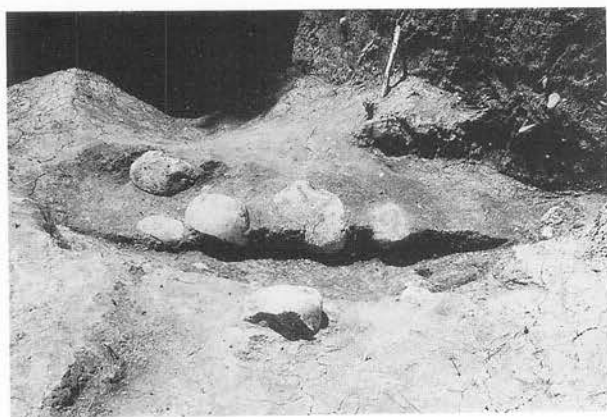


7号土坑完掘



8号土坑完掘

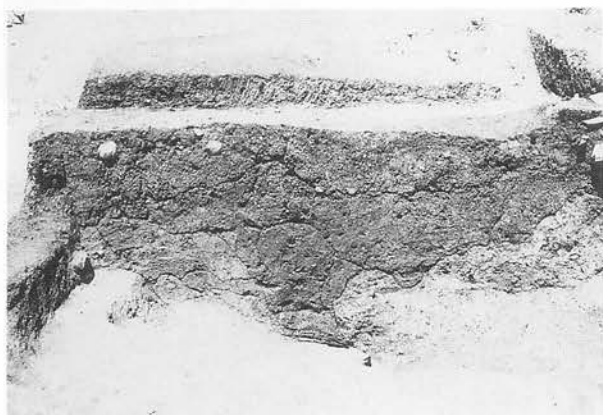
写真图版8 土坑(1)



9号土坑断面



9号土坑完掘



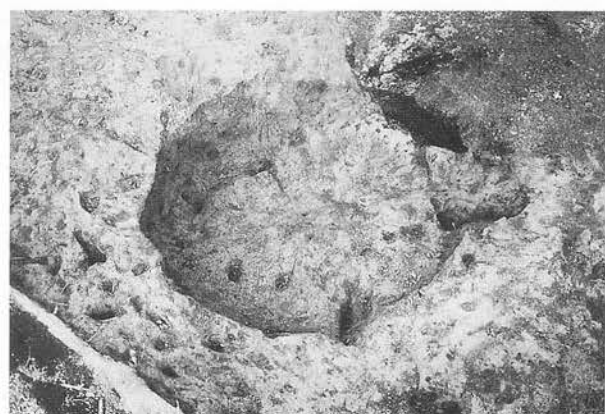
10号土坑断面



10号土坑完掘



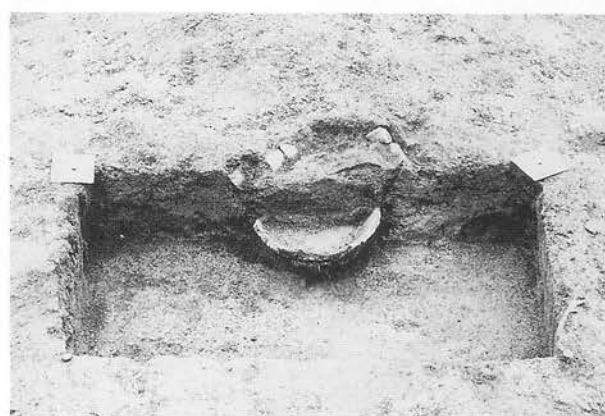
11号土坑完掘



12号土坑完掘



13号土坑完掘



1号土器埋設遺構断面



C区調査前状況



包含層露出状況



調査風景



調査風景

写真図版10 C区捨て場

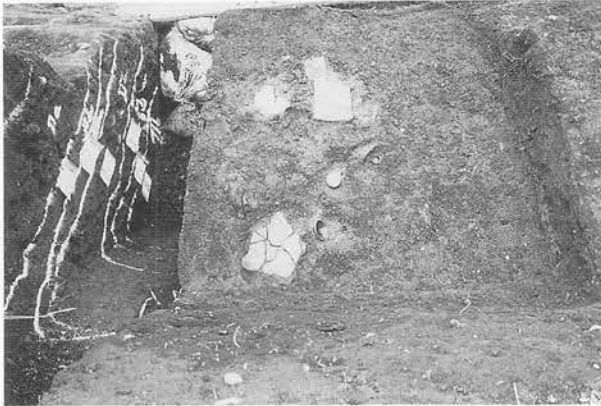




調査風景



土器出土状況



土器出土状況



土器出土状況



土器出土状況



土偶出土状況



土偶出土状況



石棒出土状況

写真図版11 C区捨て場遺物出土状況(1)



獸骨出土状況 (II C3層)



獸骨出土状況 (II d層)



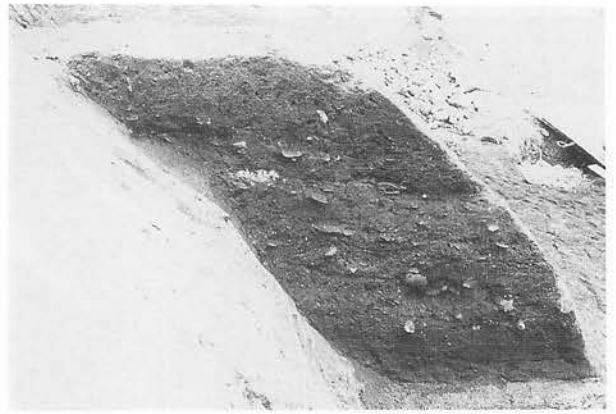
捨て場断面 (IIIブロックベルト)



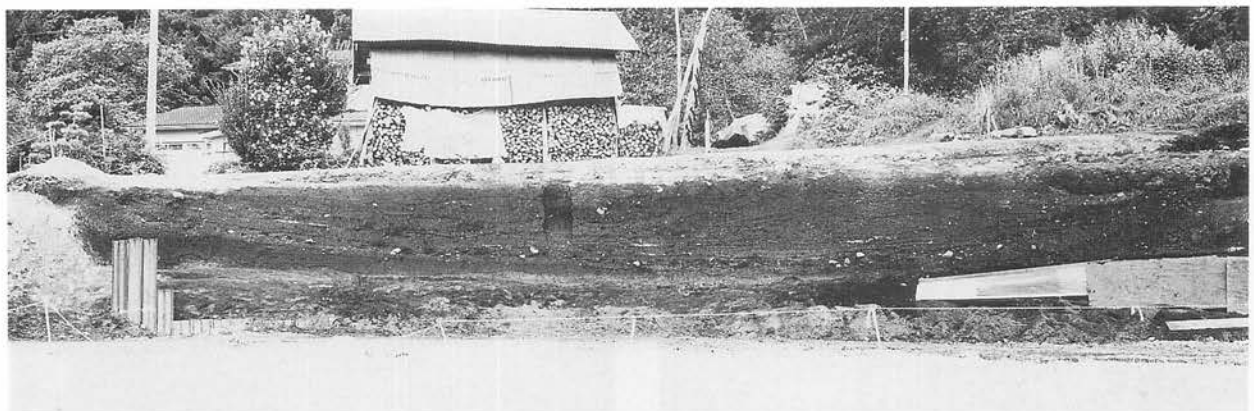
捨て場断面 (Vブロックベルト)



捨て場断面 (VIIブロックベルト)



捨て場断面 (IXブロックベルト)



捨て場断面 (法面)

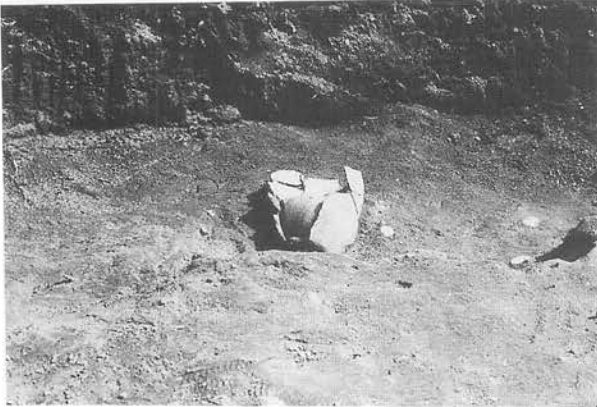
写真図版12 C区捨て場遺物出土状況(2)・土層断面



J区土器出土状況



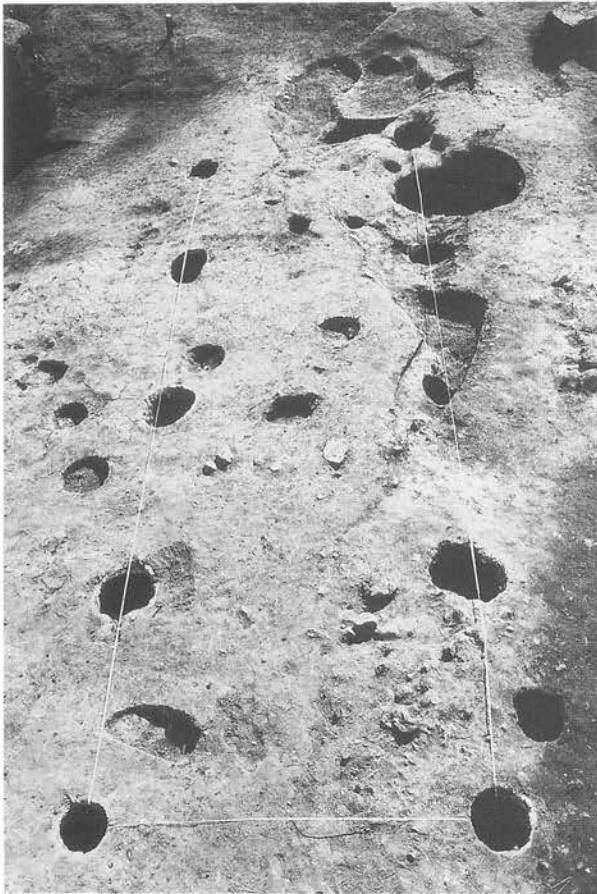
J区土器出土状況



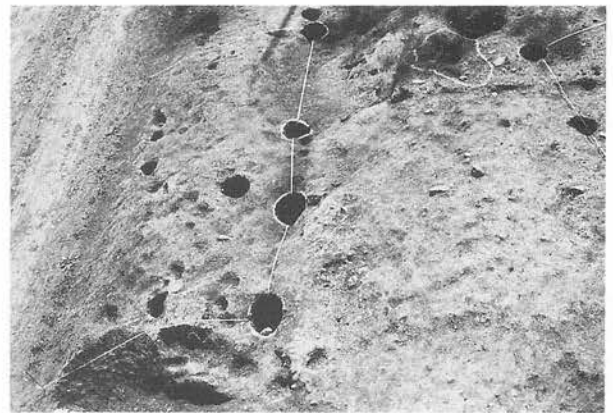
H区土器出土状況



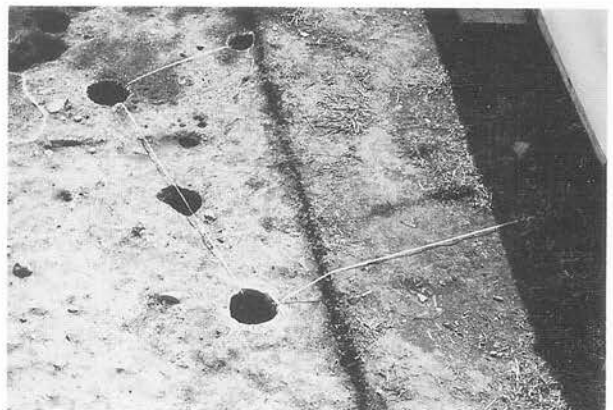
H区線刻罽出土状況



1号掘立柱建物跡



2号掘立柱建物跡

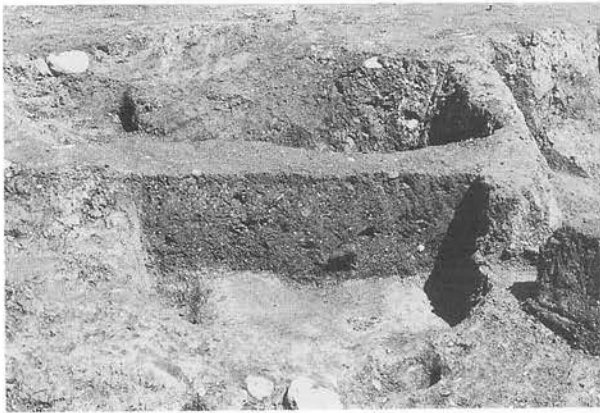


3号掘立柱建物跡

写真図版13 遺構外遺物出土状況・掘立柱建物跡



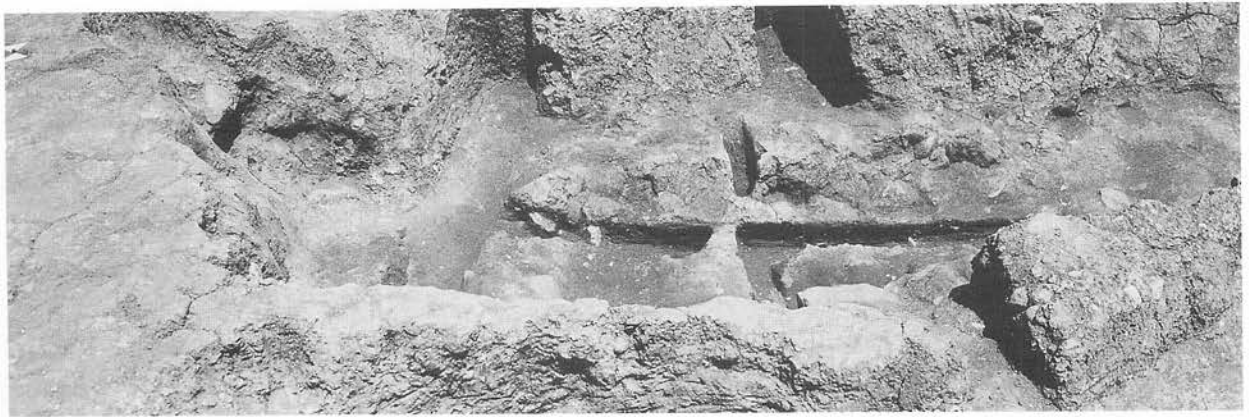
1·2号炉完掘



2号炉断面



1号炉断面



1号炉烧土断面

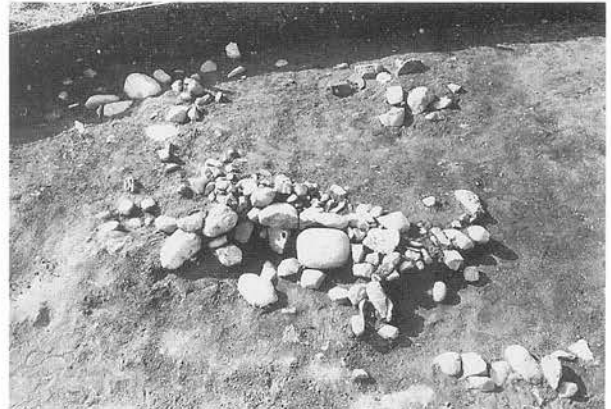
写真图版14 1·2号炉



3号炉烧成面検出



3号炉烧土検出



1・2号集石検出

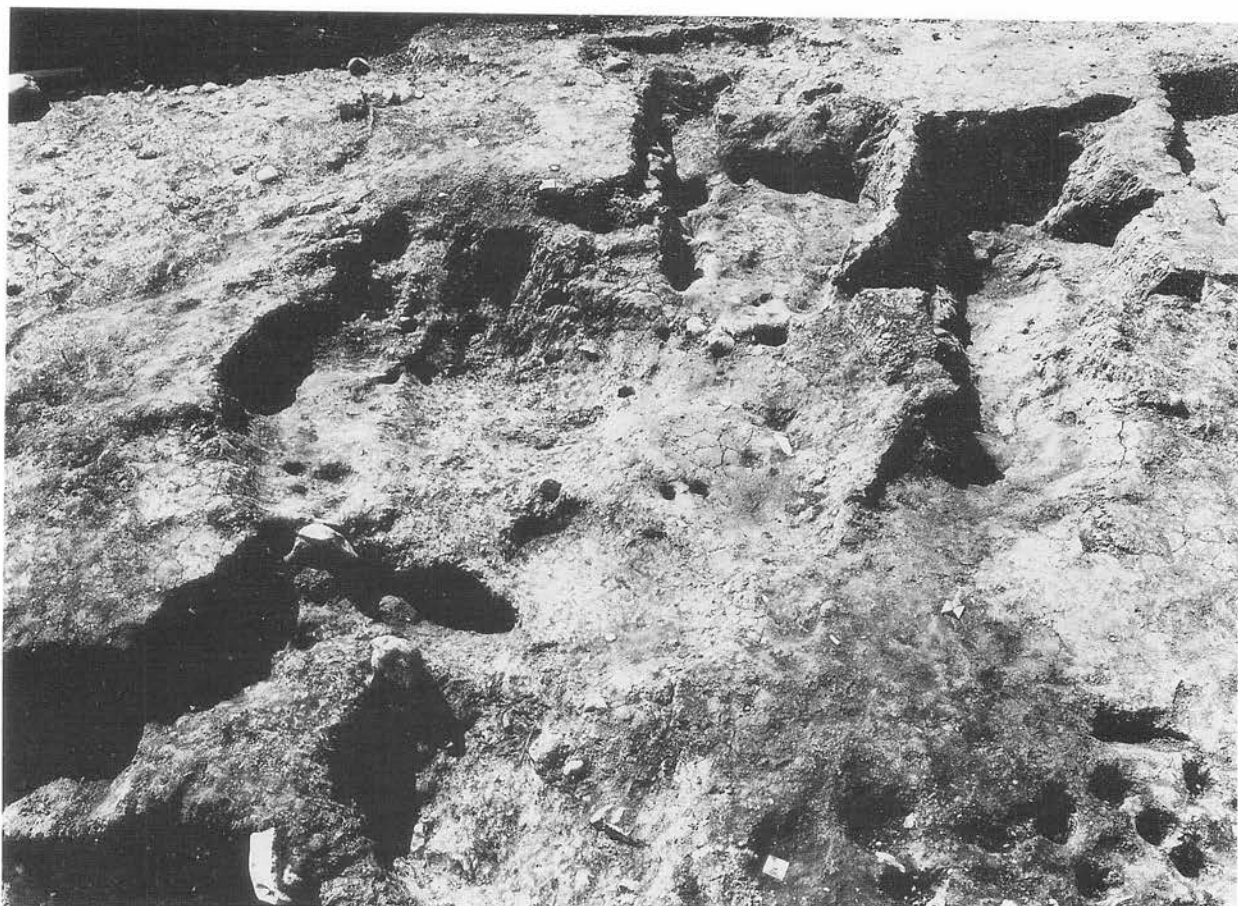


3号炉烧土断面

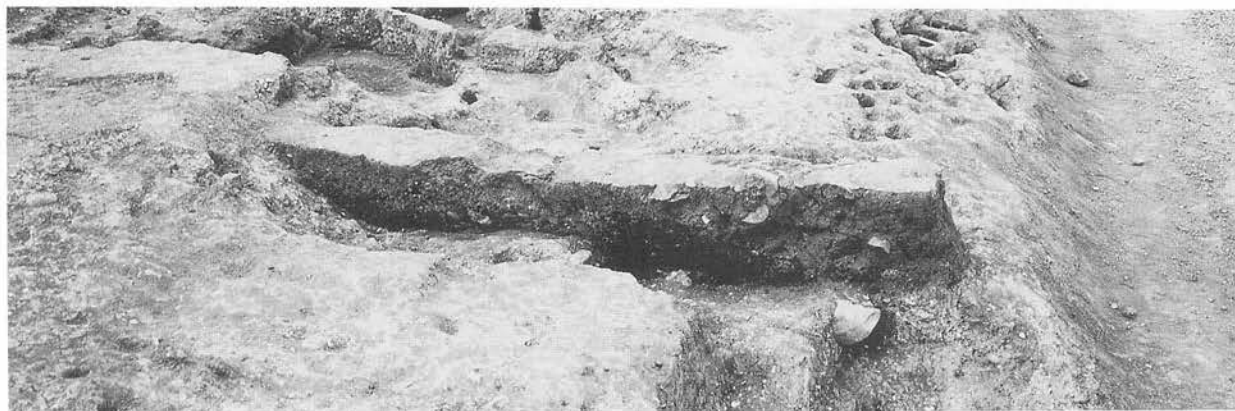


1号集石下位烧土断面

写真図版15 3号炉・1・2号集石



1号竖穴状遺構完掘



1号竖穴状遺構断面

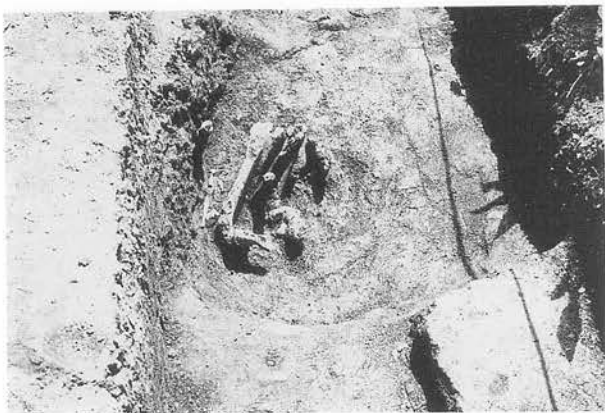


1号墓壙人骨・副葬品出土状況



2号墓壙断面

写真図版 16 竖穴状遺構・墓壙(1)



3号墓壙人骨出土状况



4号墓壙人骨・副葬品出土状况



5~8号墓壙検出状况



5・7号墓壙人骨・副葬品出土状况



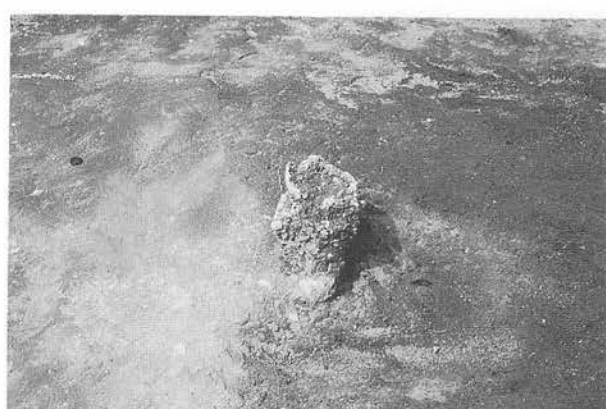
9号墓壙副葬品(琥珀)出土状况



9号墓壙完掘



8・10号墓壙完掘



11号墓壙人骨出土状况

写真図版17 墓壙(2)



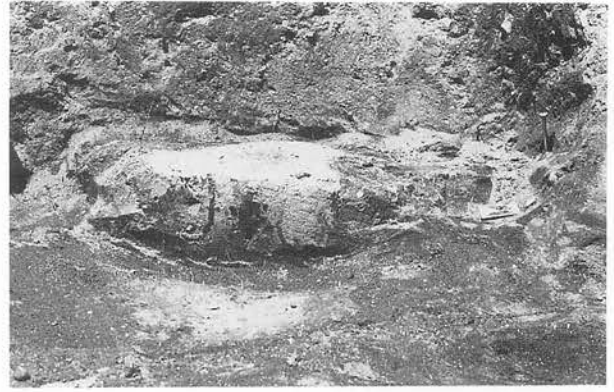
12号墓壙人骨出土状況



13号墓壙人骨・副葬品出土状況



1・2号烧土遺構断面



3号烧土遺構断面



4号烧土遺構断面



J区包含層全景



K区トレンチ終了状況



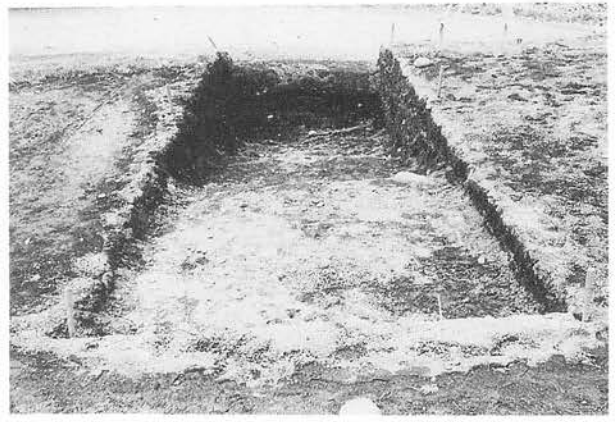
H区斜面部終了状況

写真図版18 墓壙(3)・烧土遺構・各区終了状況





H区平坦部終了状況



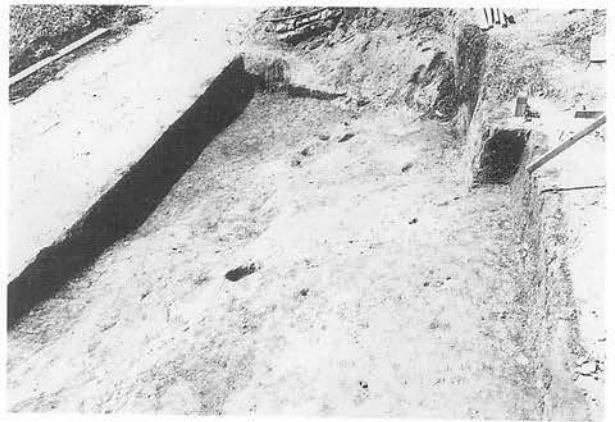
E区東端終了状況



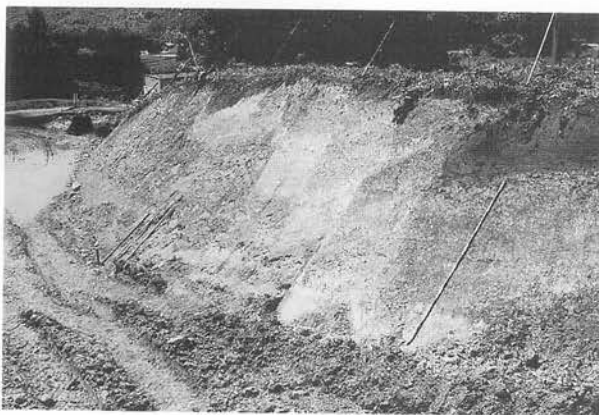
F区トレンチ終了状況



D区終了状況



A区南端終了状況

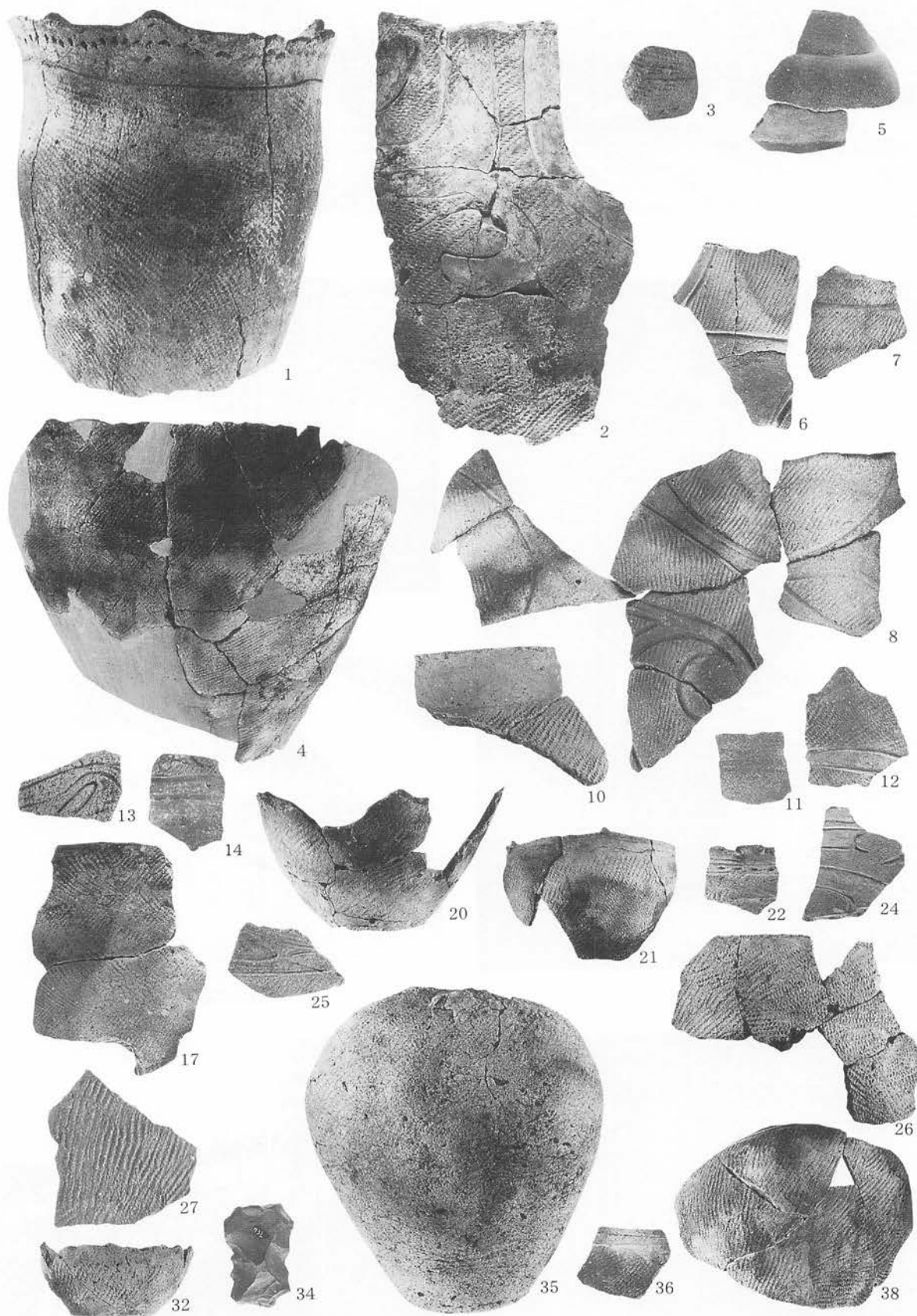


調査区外北の施行区間法面 (断層)

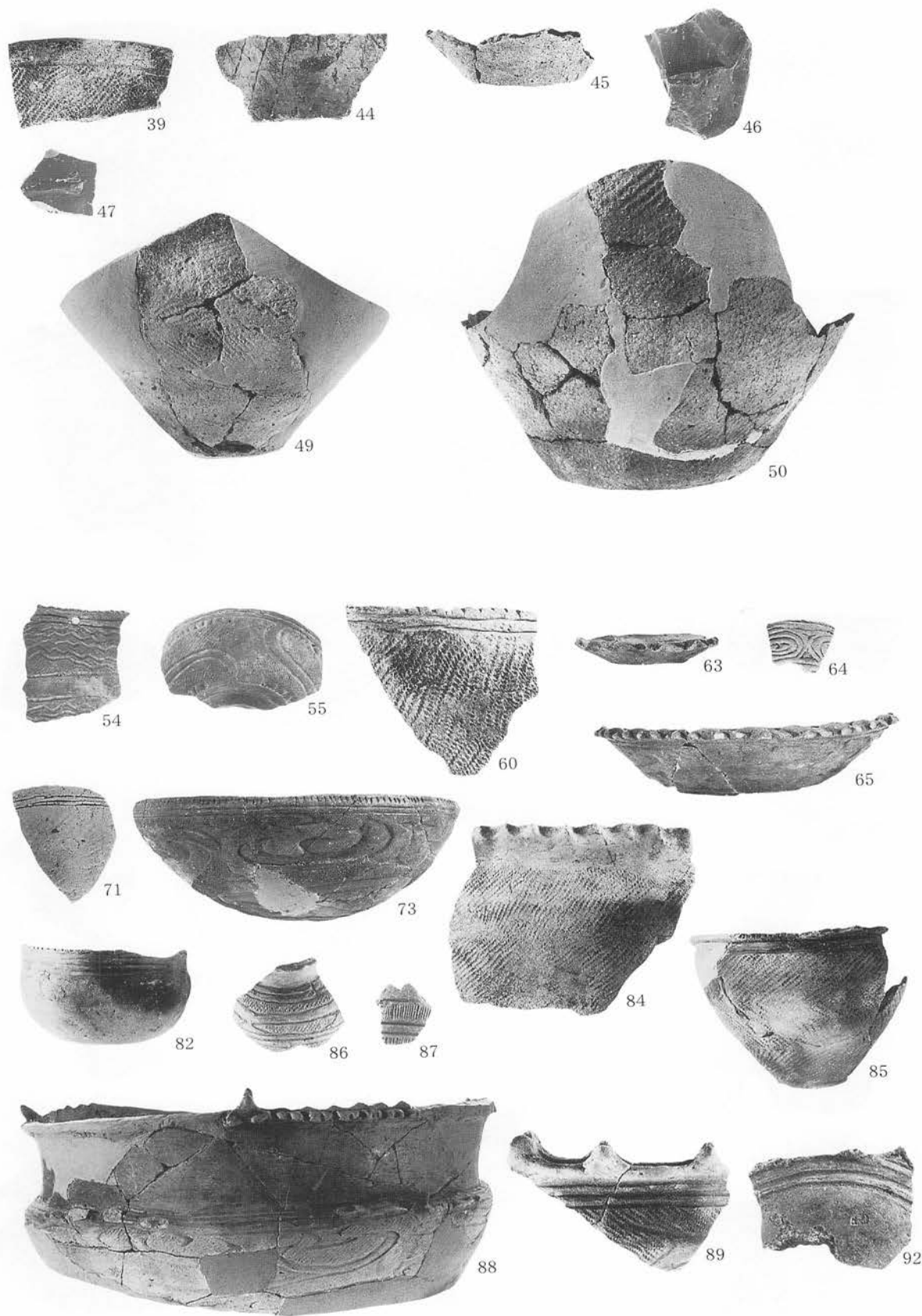


遺跡見学会

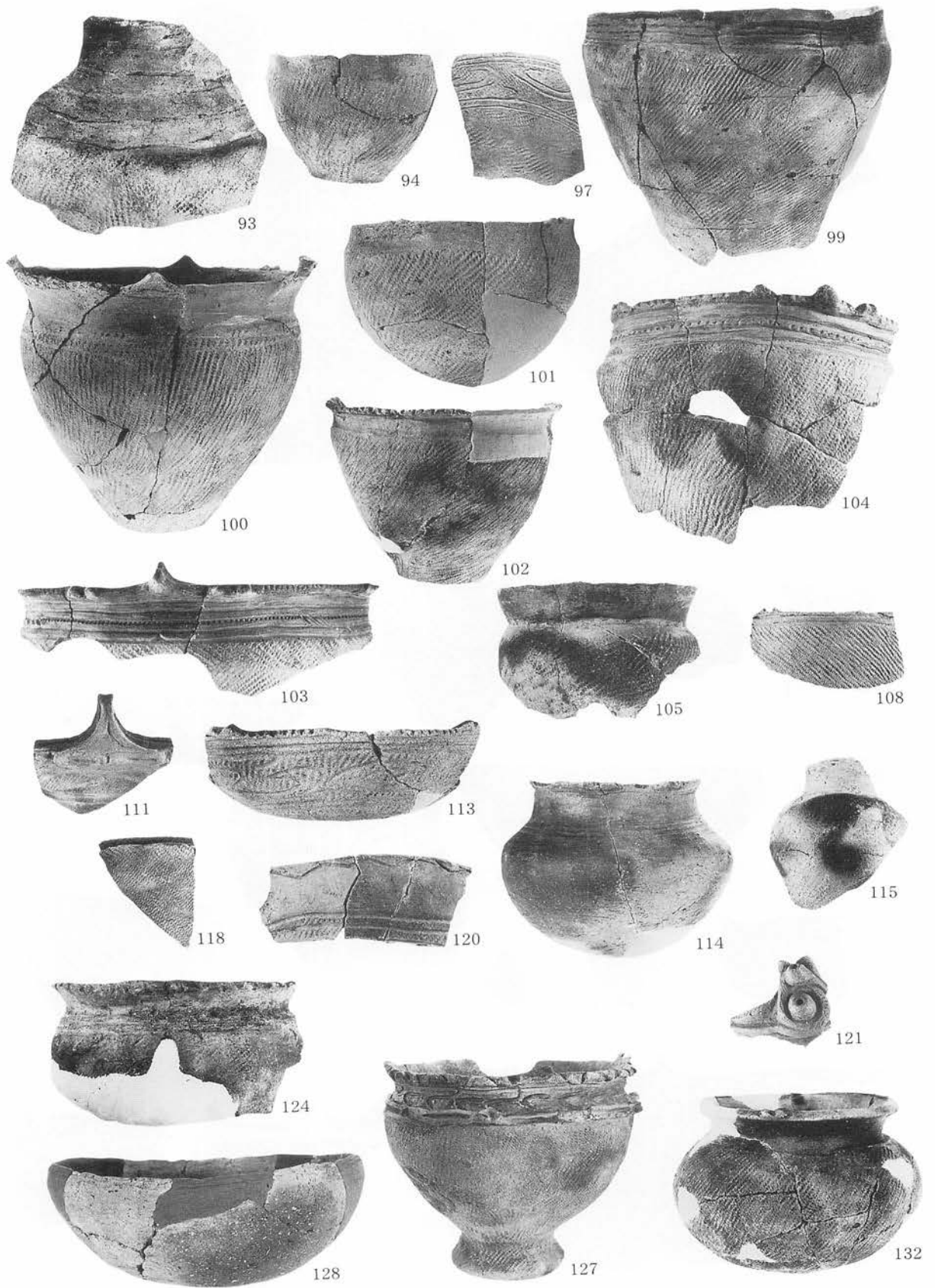
写真図版19 各区終了状況



写真図版20 1・3・5号住居跡出土遺物



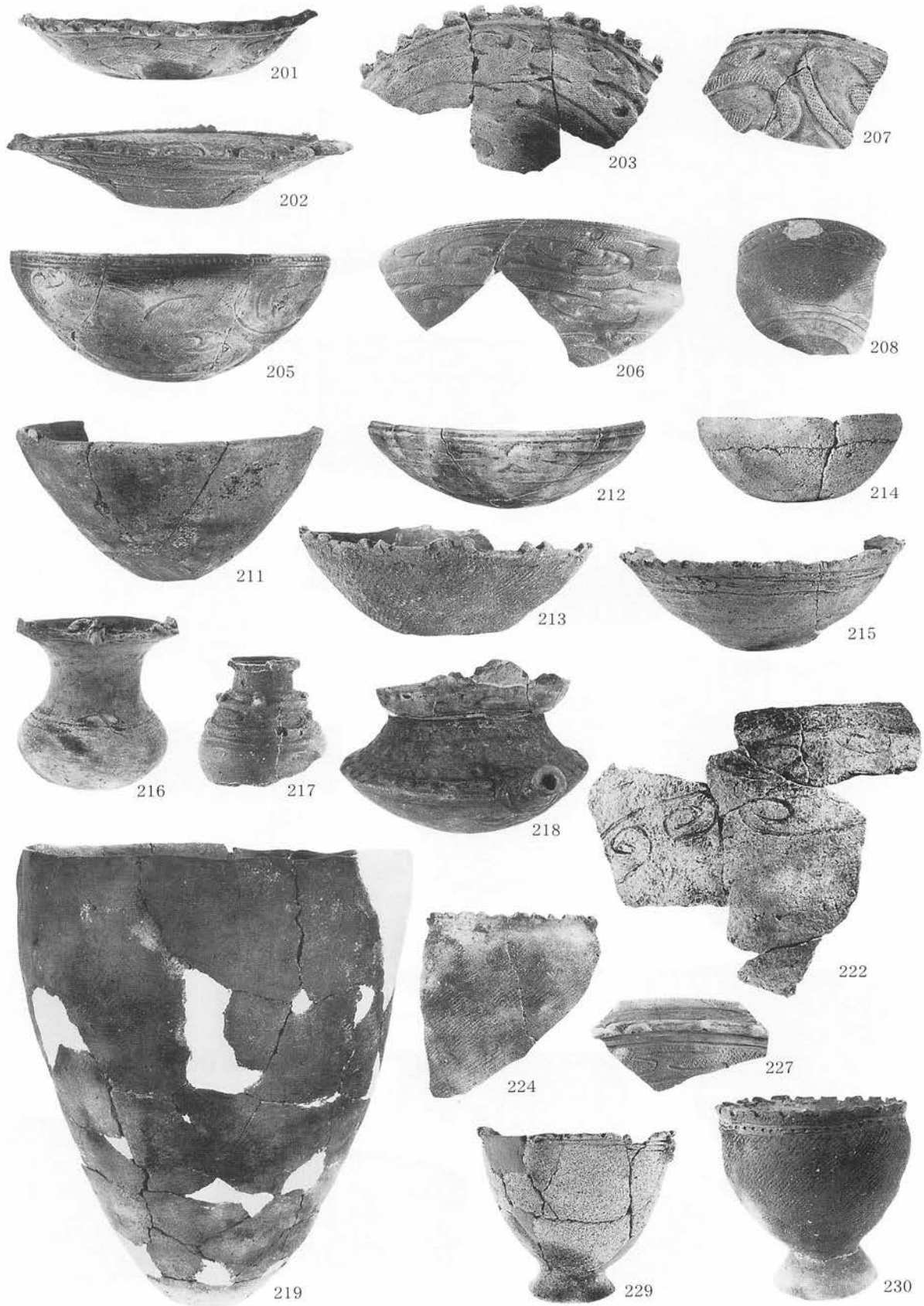
写真図版21 5号住居跡・土坑・土器埋設遺構出土遺物  
C区捨て場出土土器(1)



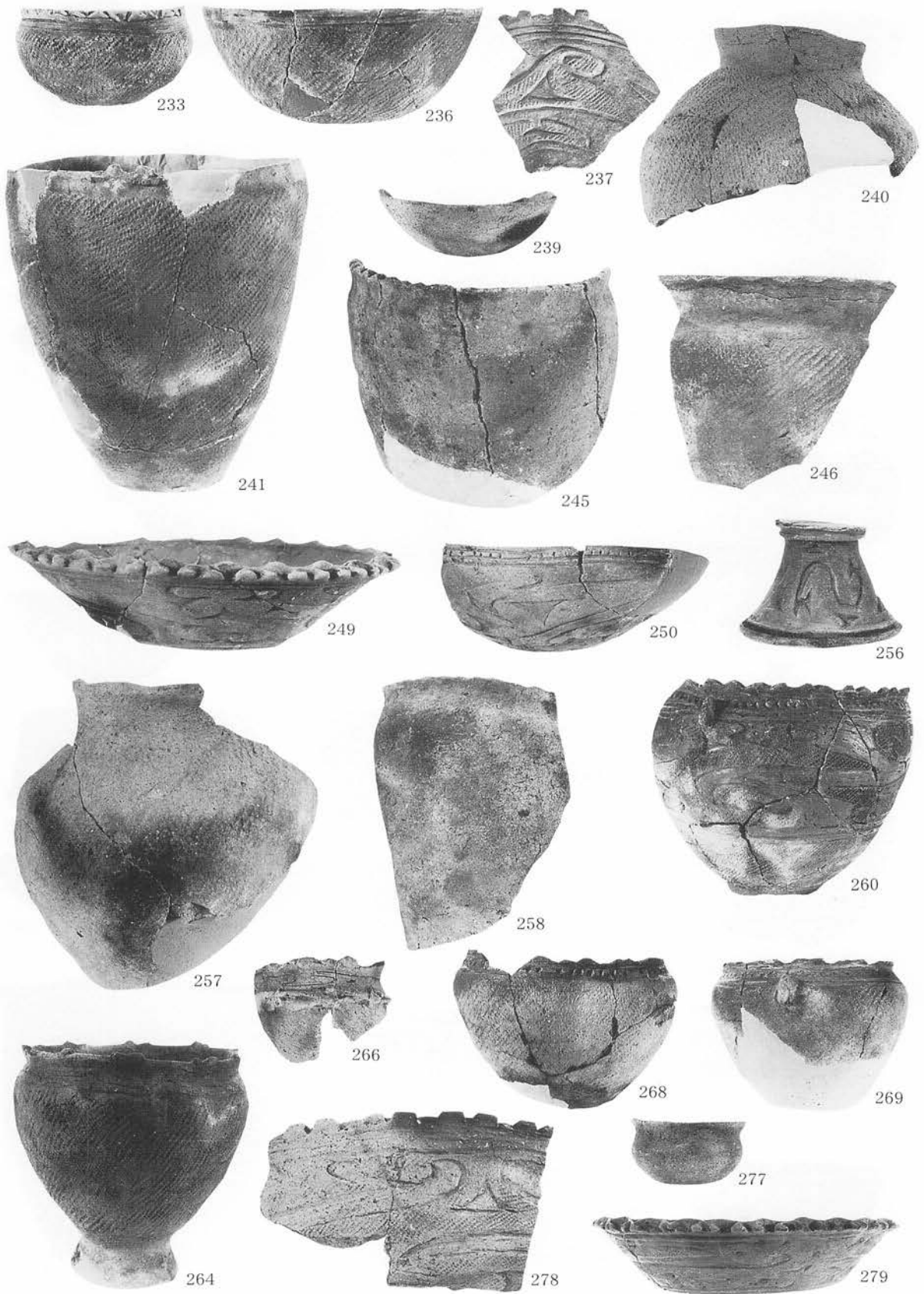
写真図版22 C区捨て場出土土器(2)



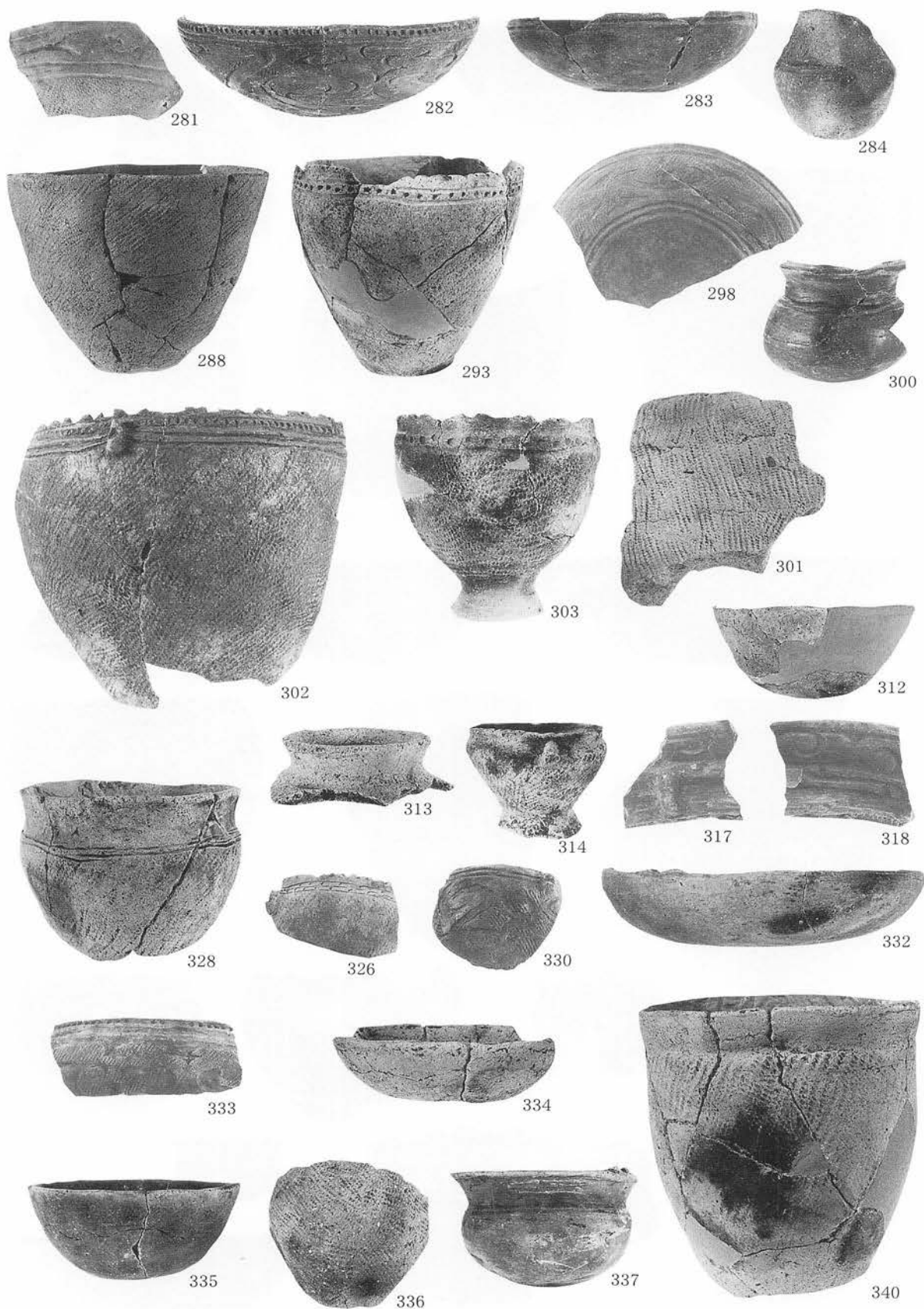
写真図版23 C区捨て場出土土器(3)



写真図版24 C区捨て場出土土器(4)

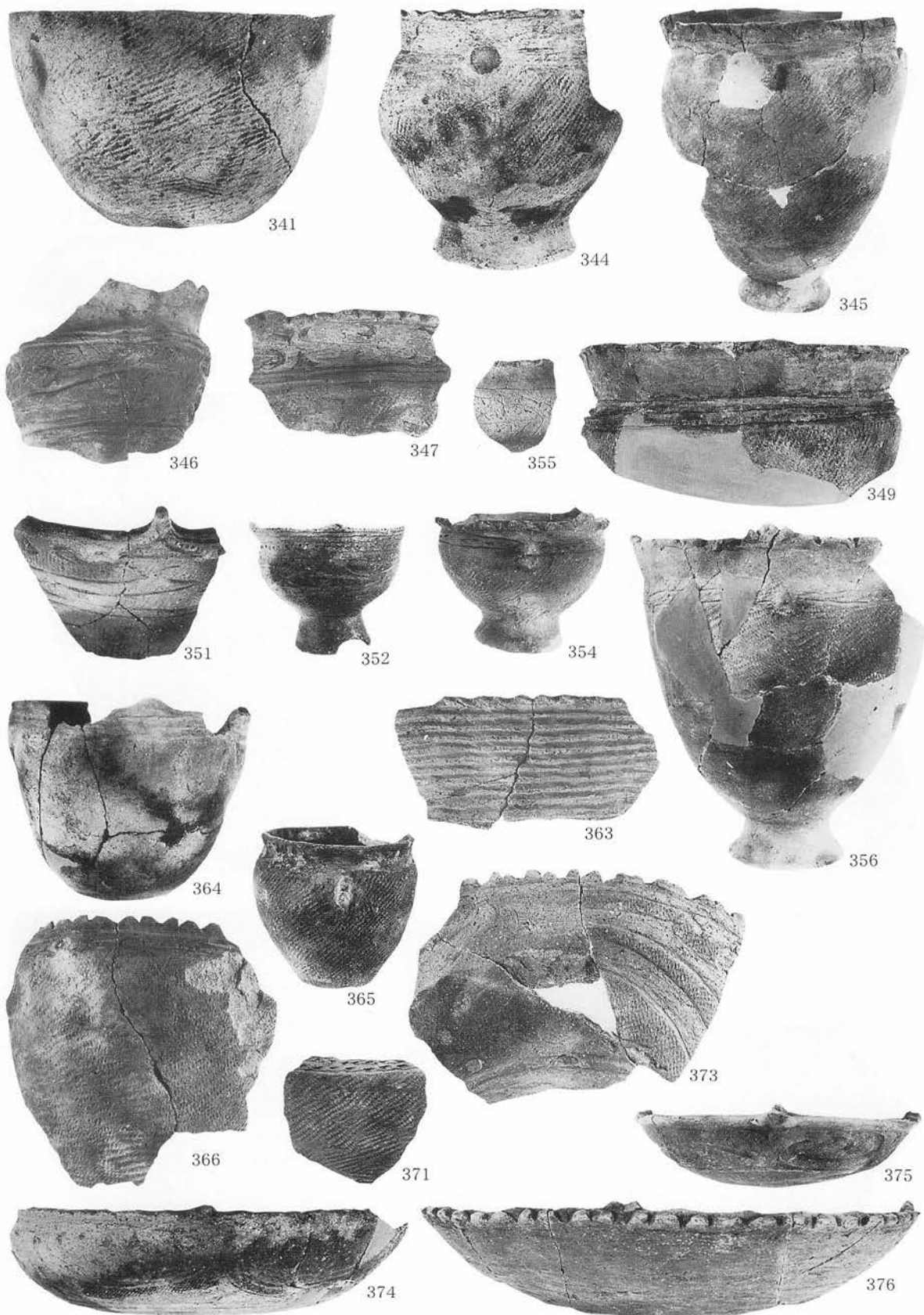


写真図版25 C区捨て場出土土器(5)

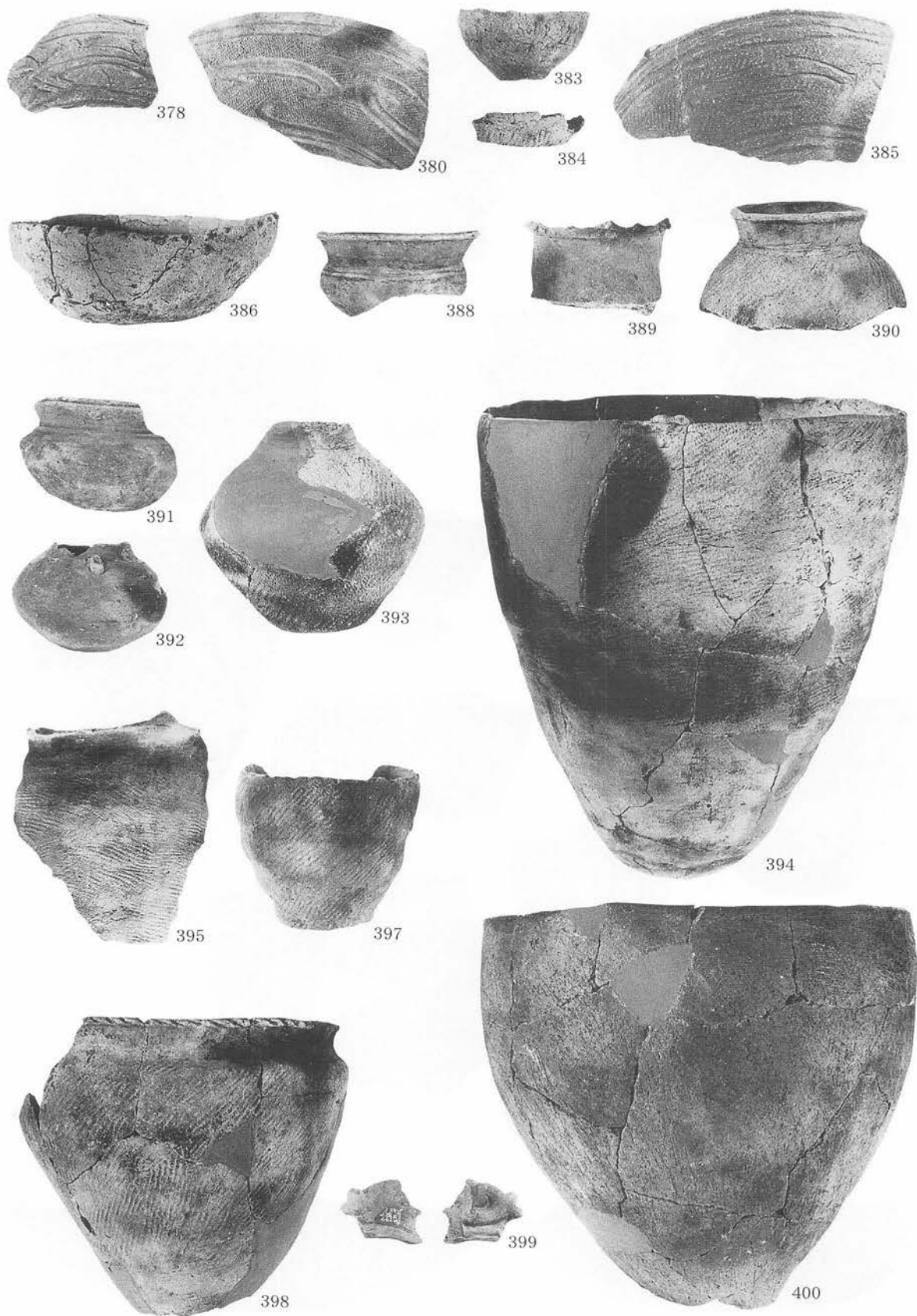


写真図版26 C区捨て場出土土器(6)

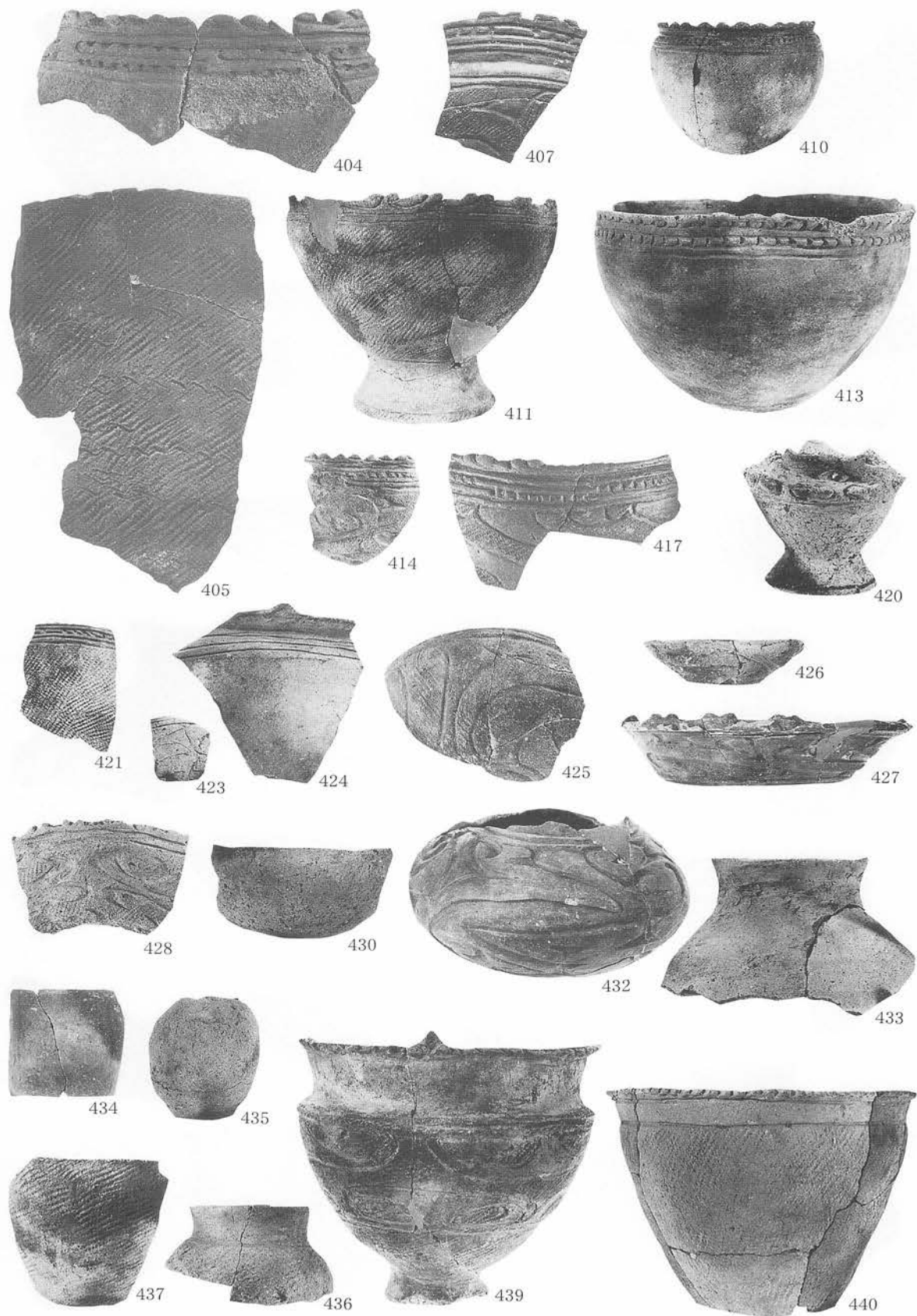




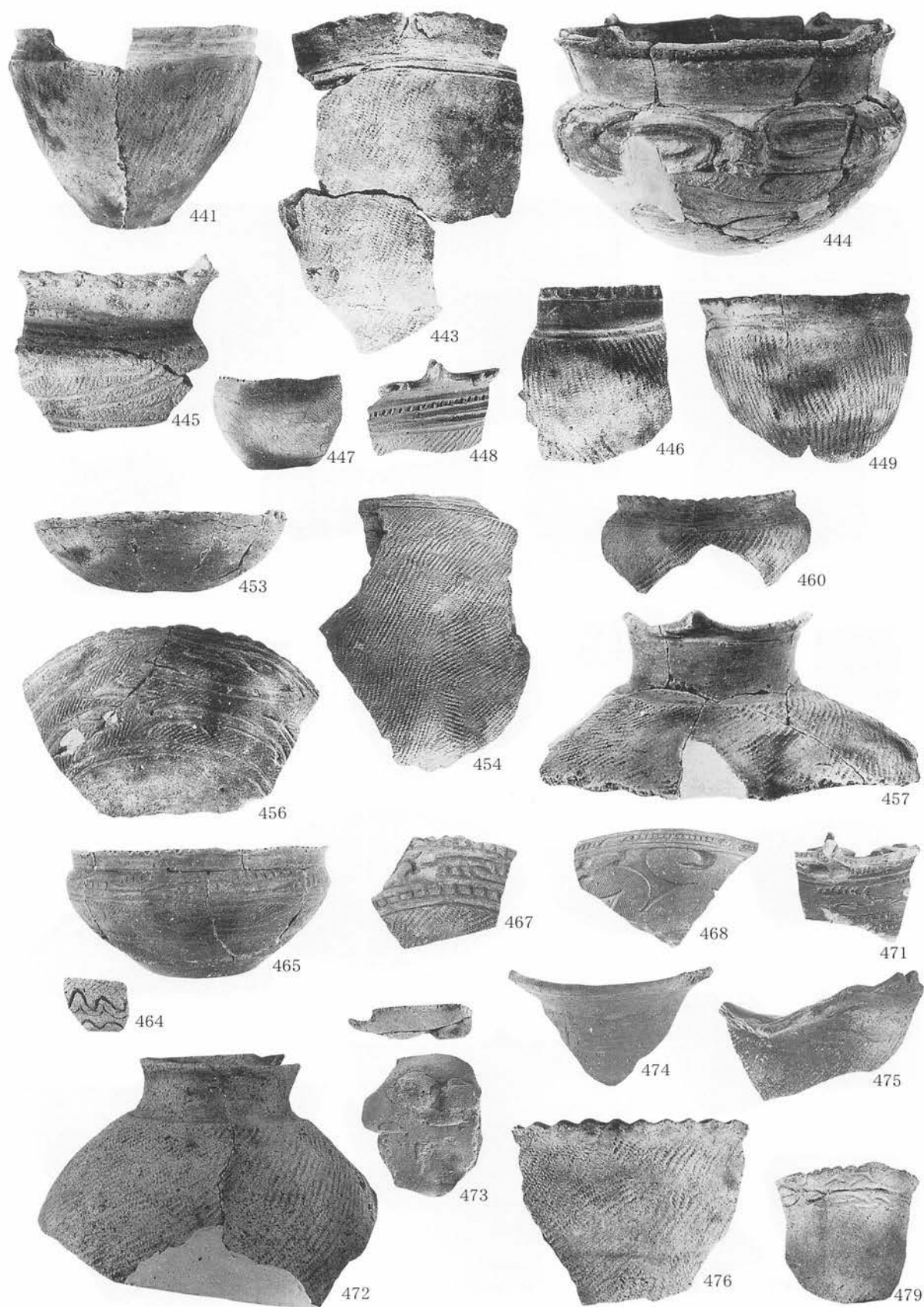
写真図版27 C区捨て場出土土器(7)



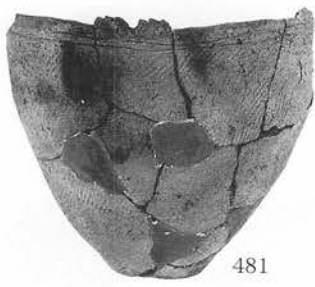
写真図版28 C区捨て場出土土器(8)



写真図版29 C区捨て場出土土器(9)



写真図版30 C区捨て場出土土器(10)



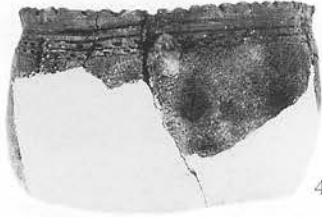
481



482



486



485



487



488



491



492



494



496



497



498



499



501

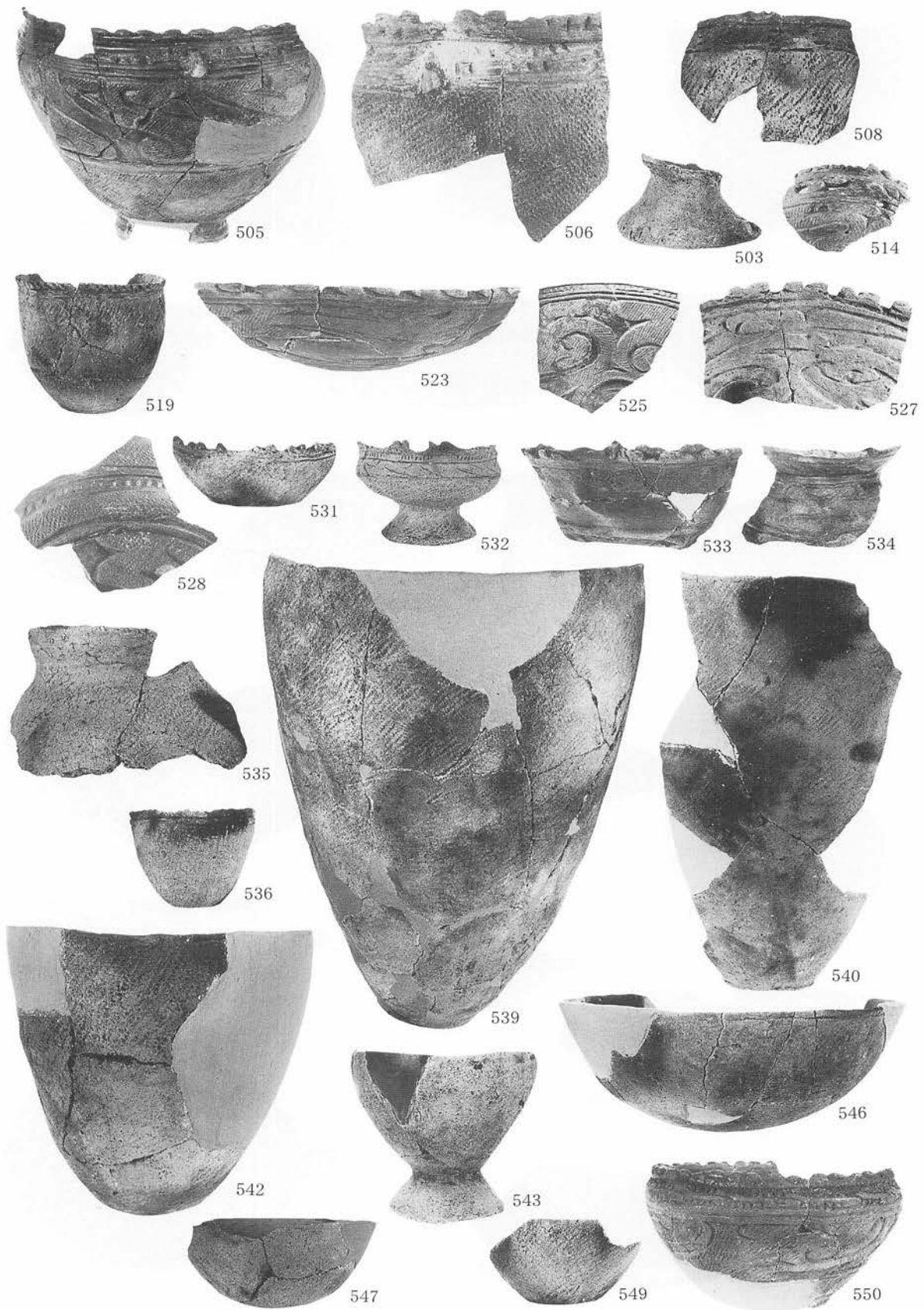


500

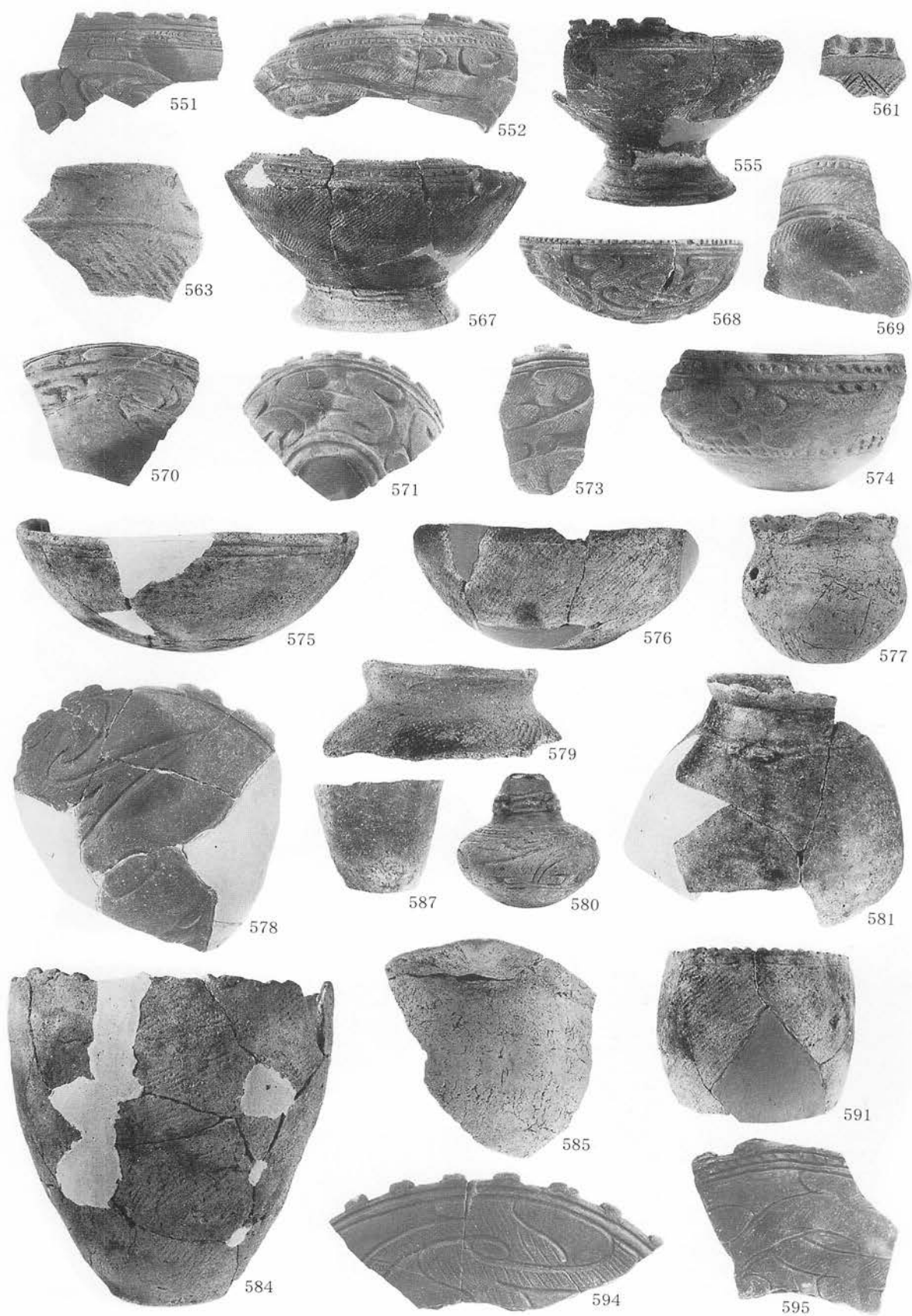


502

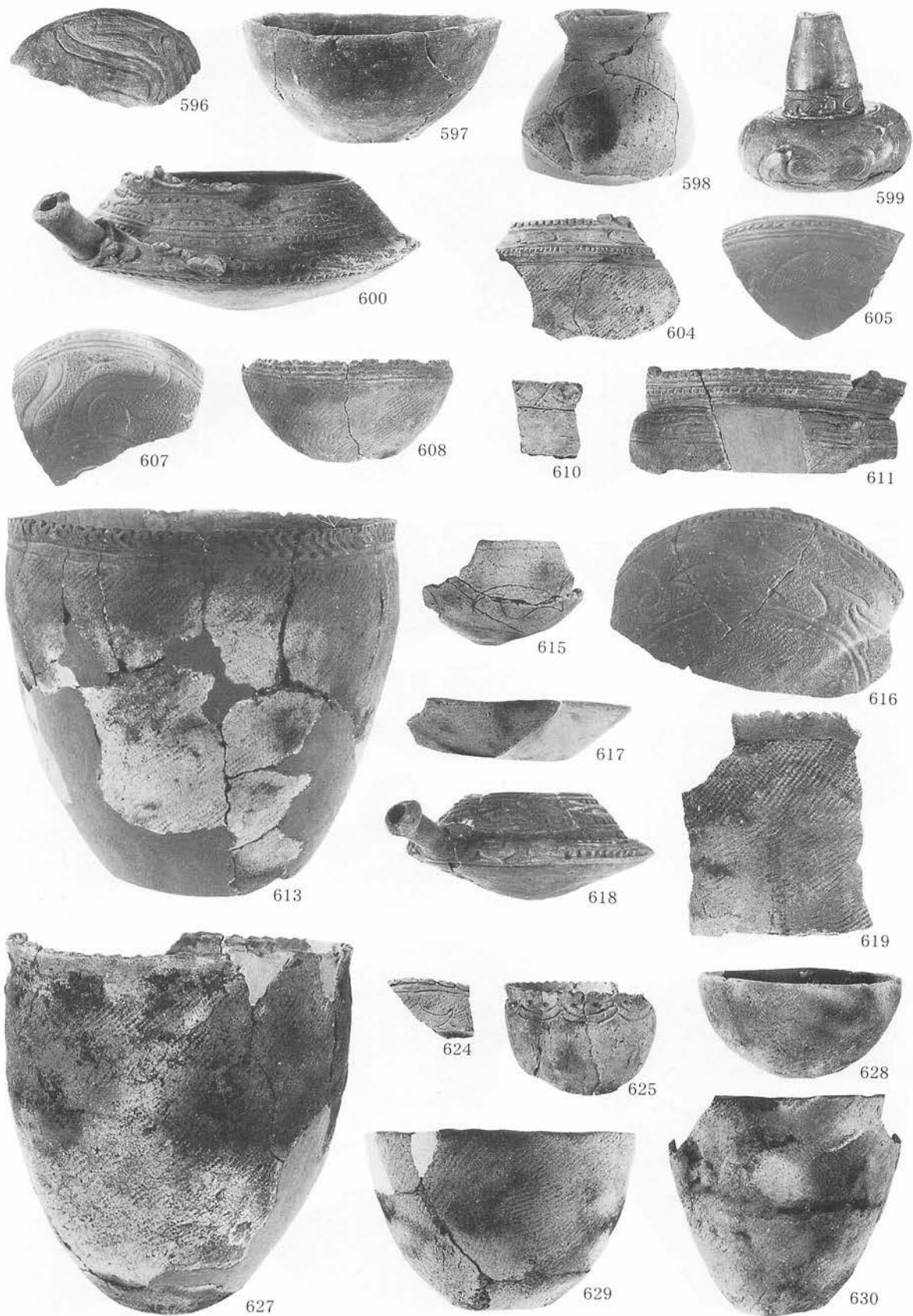
写真図版31 C区捨て場出土土器(11)



写真図版32 C区捨て場出土土器(12)

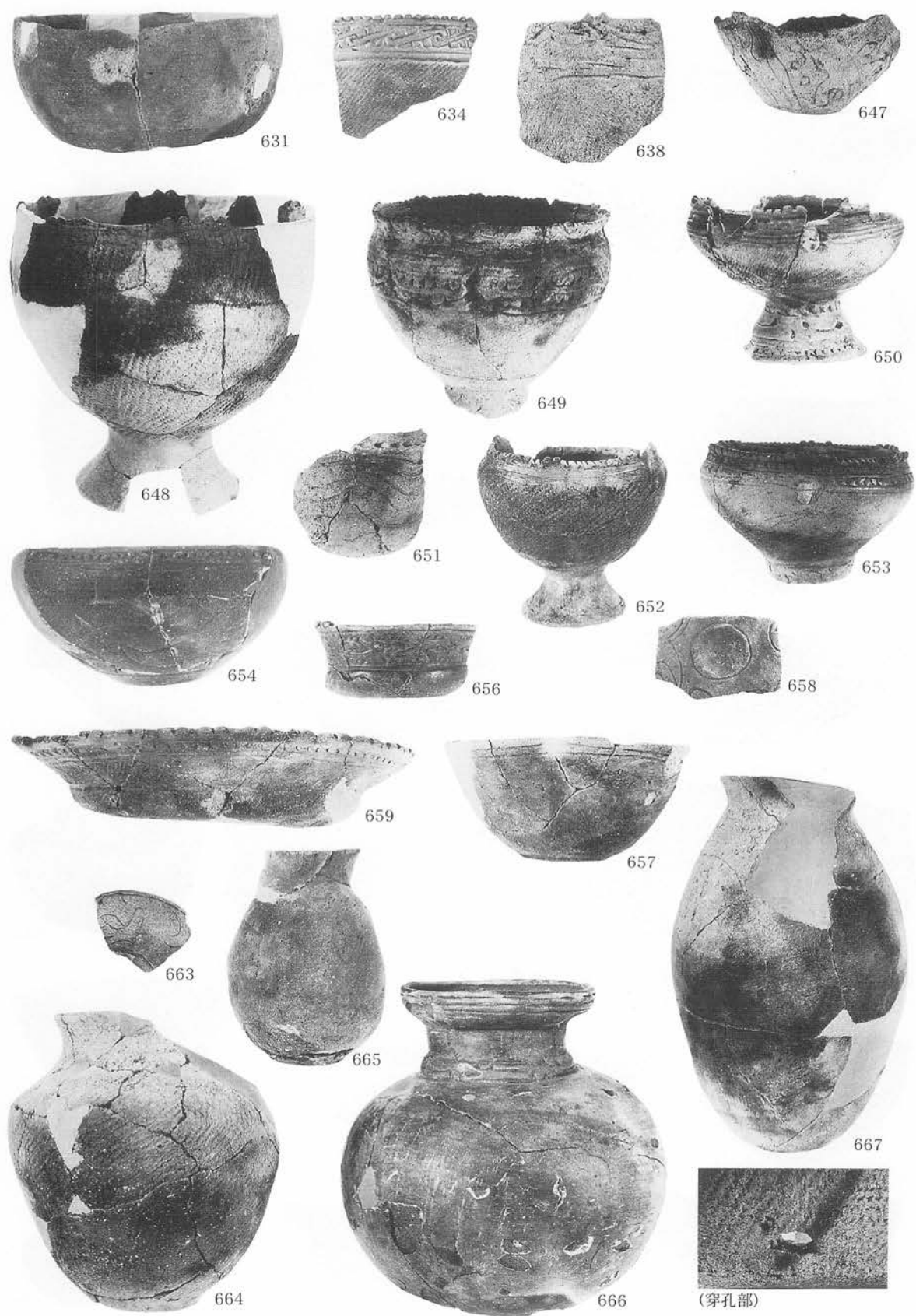


写真図版33 C区捨て場出土土器(13)

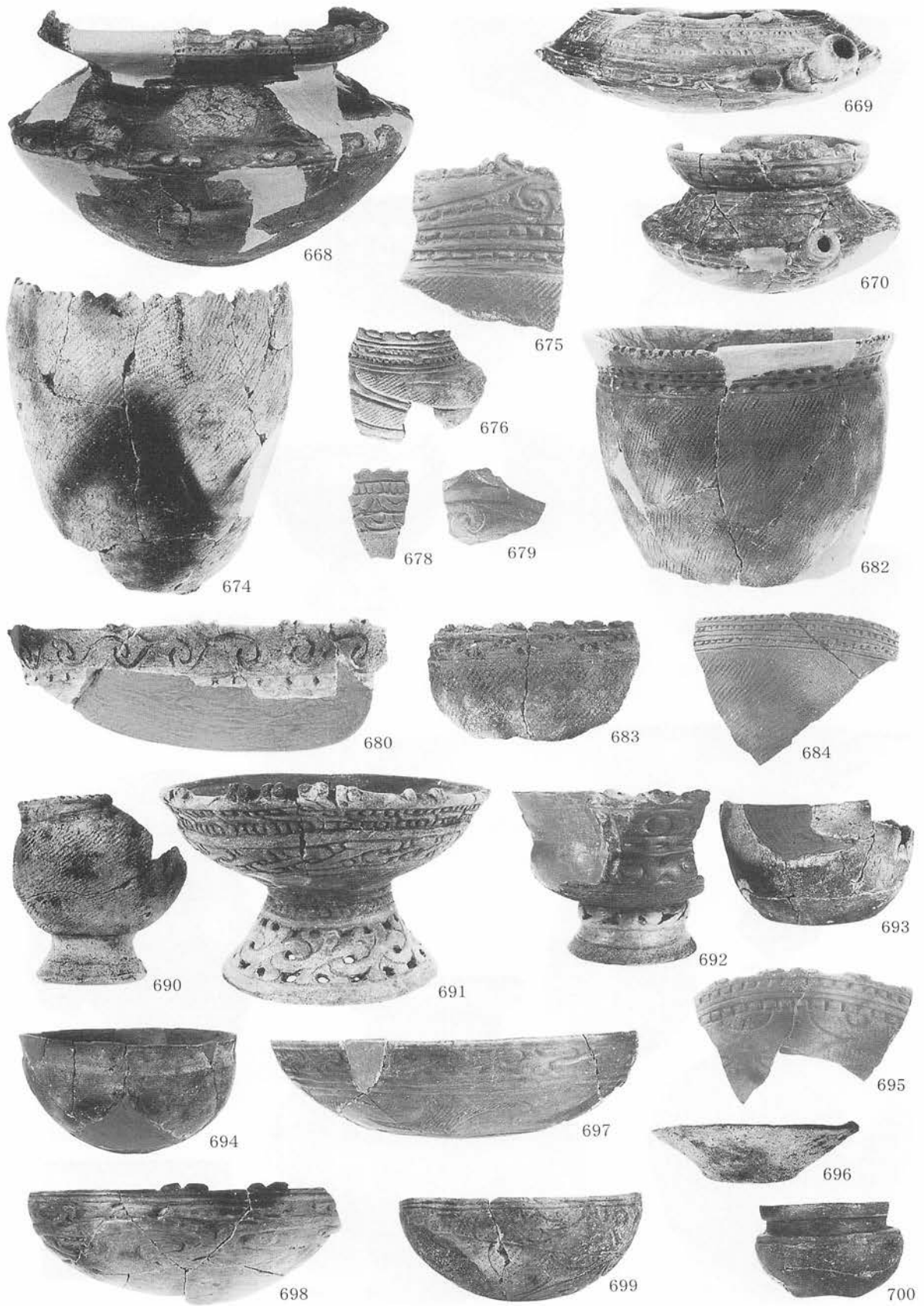


写真図版34 C区捨て場出土土器(14)

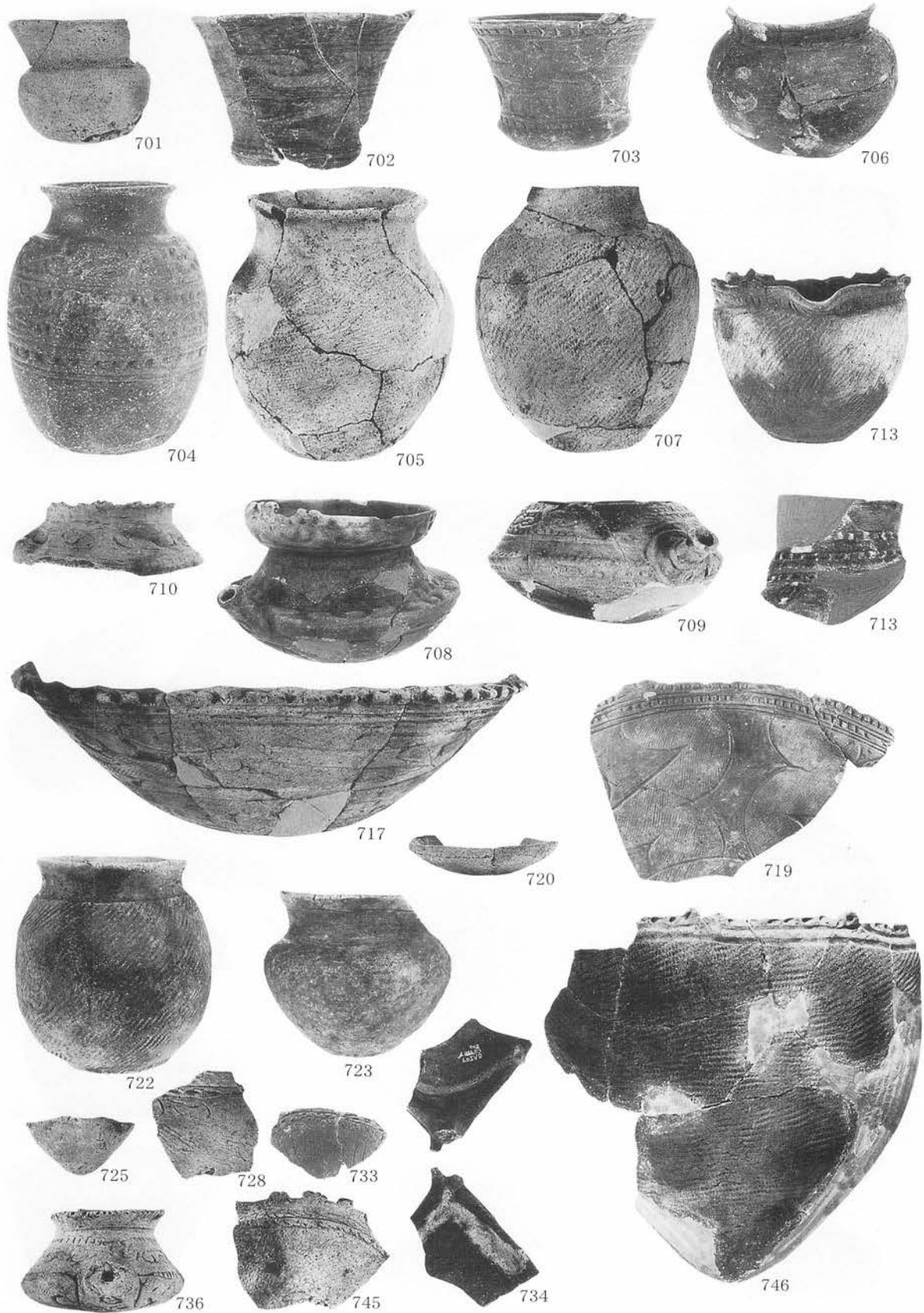




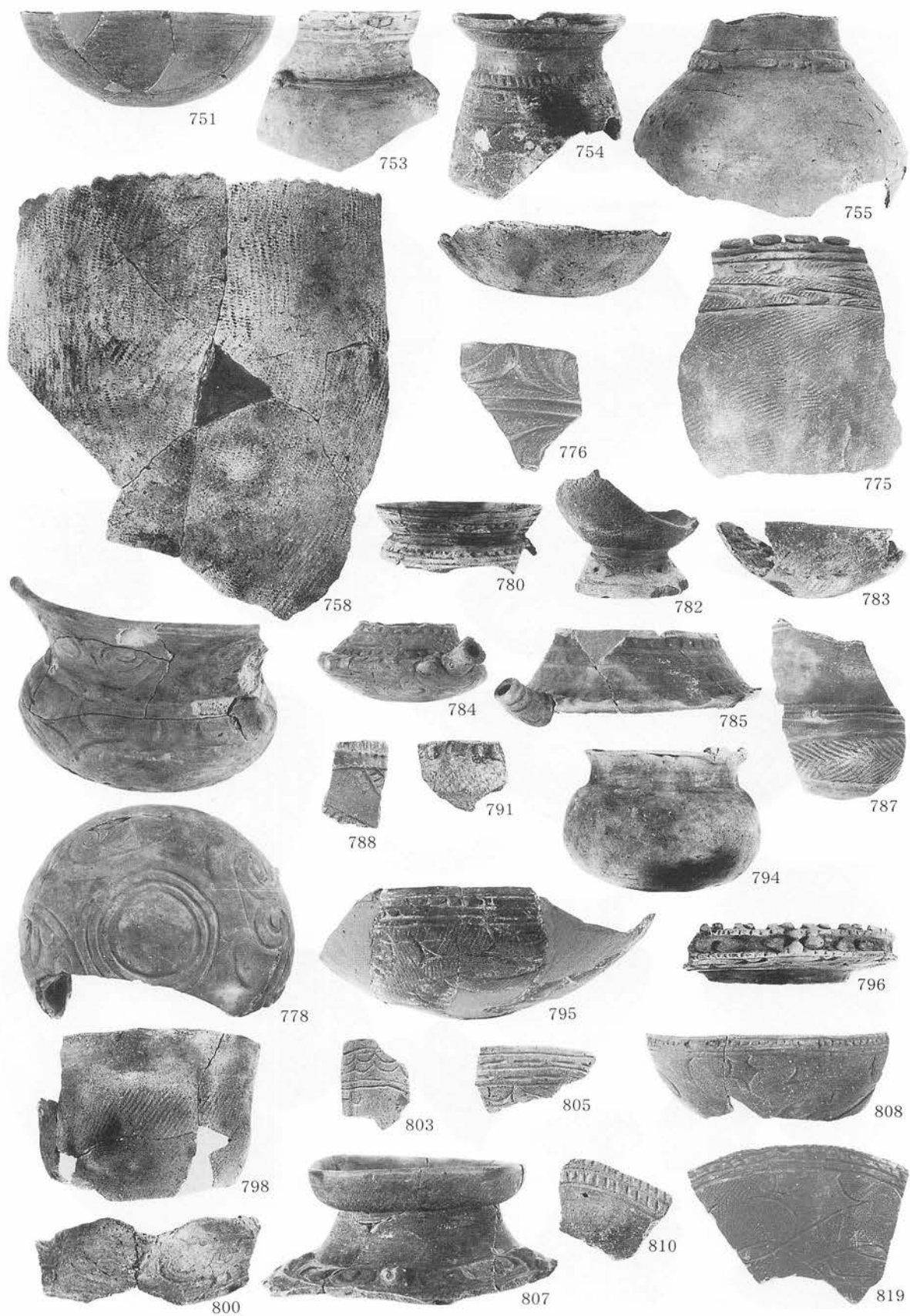
写真図版35 C区捨て場出土土器(15)



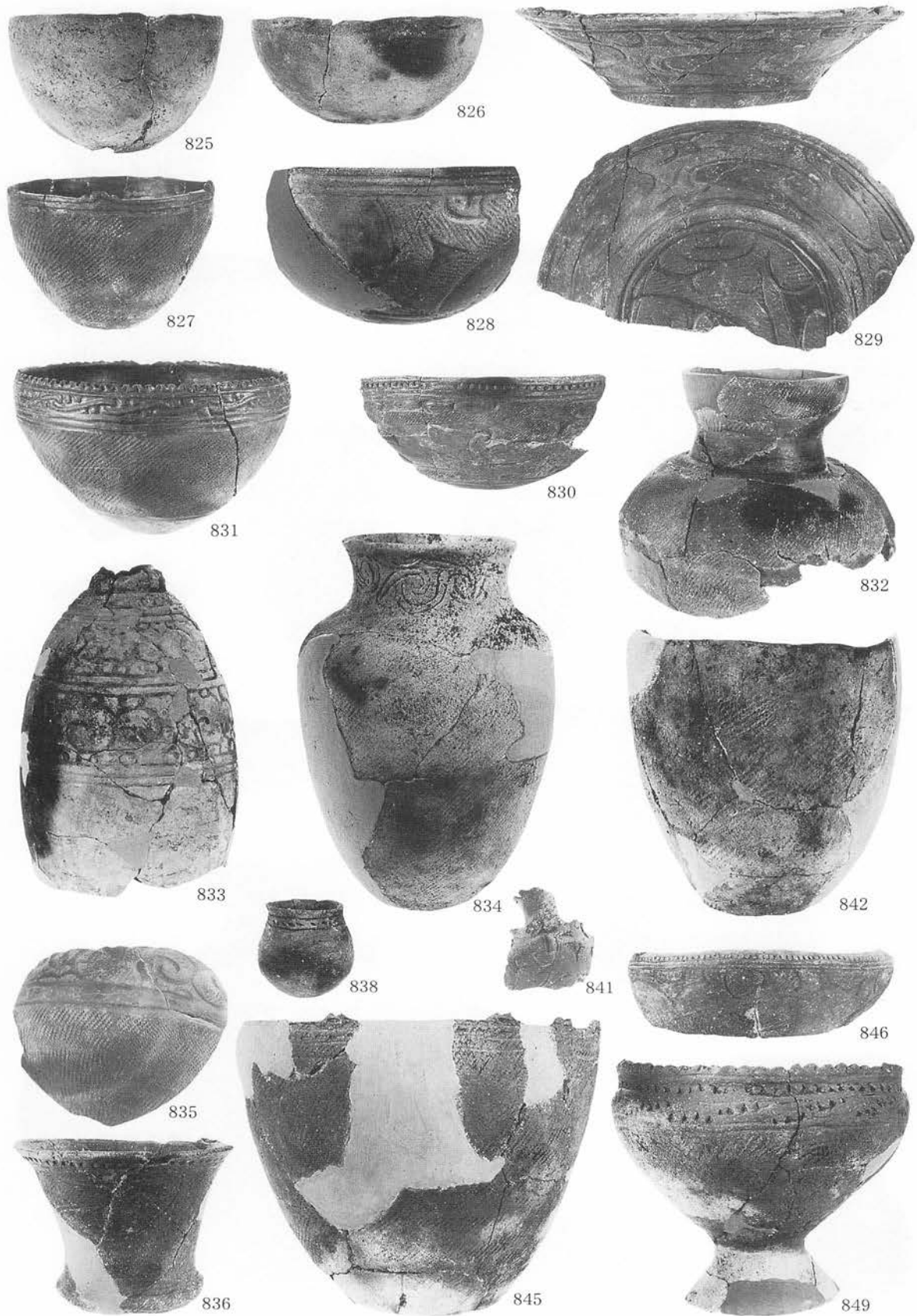
写真図版36 C区捨て場出土土器(16)



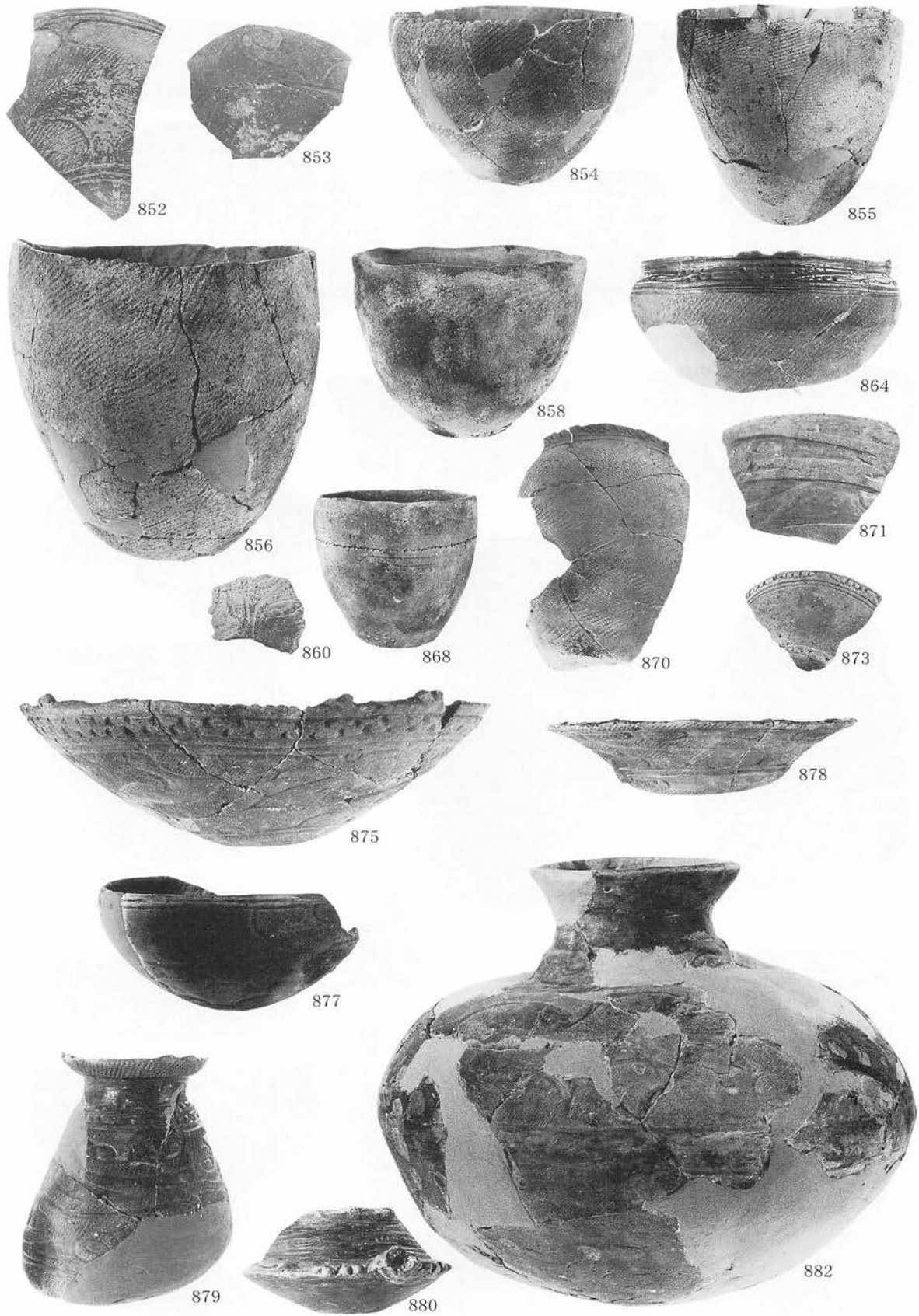
写真図版37 C区捨て場出土土器(17)



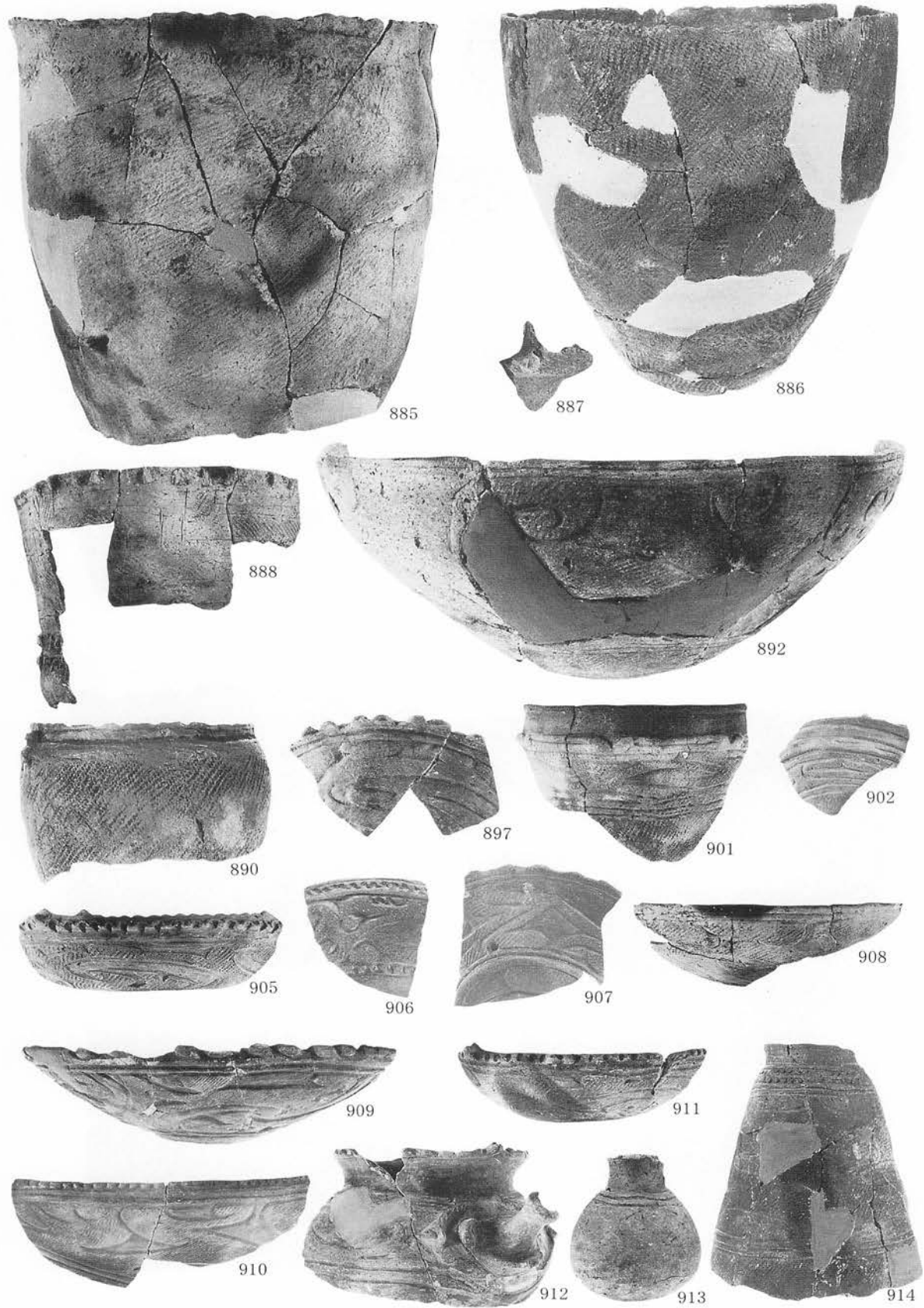
写真図版38 C区捨て場出土土器(18)



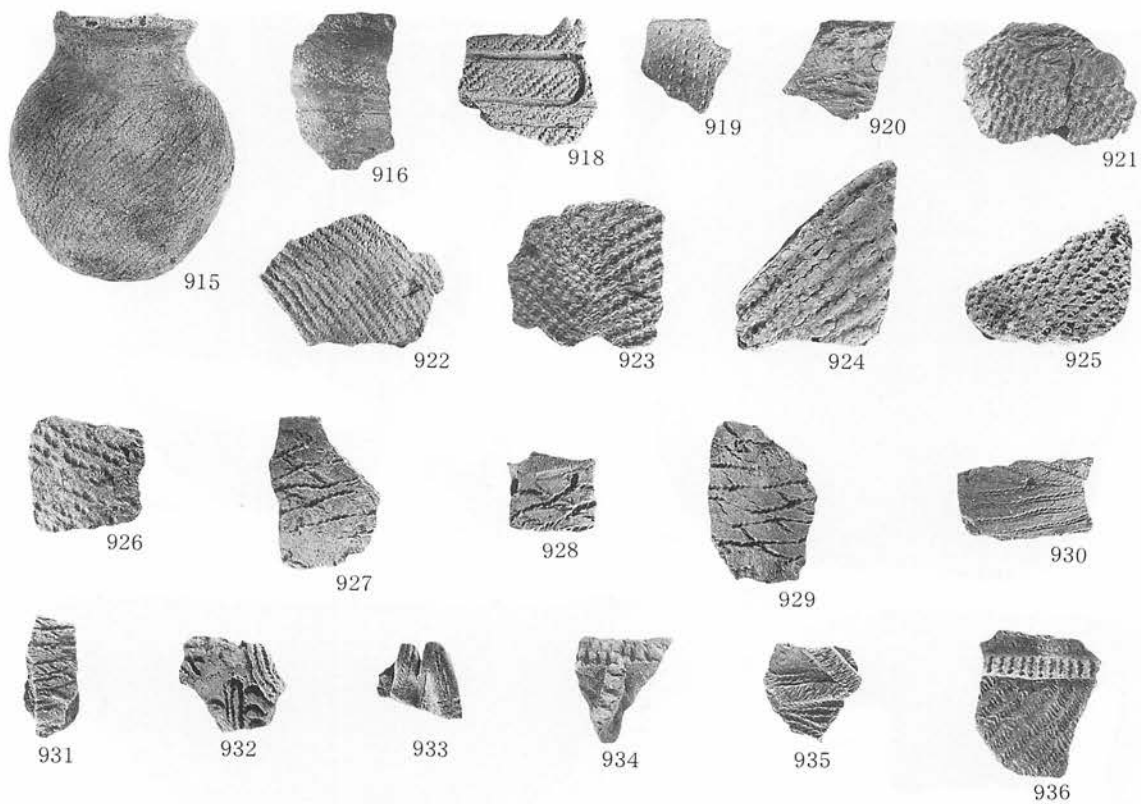
写真図版39 C区捨て場出土土器(19)



写真図版40 C区捨て場出土土器(20)



写真図版41 C区捨て場出土土器(21)



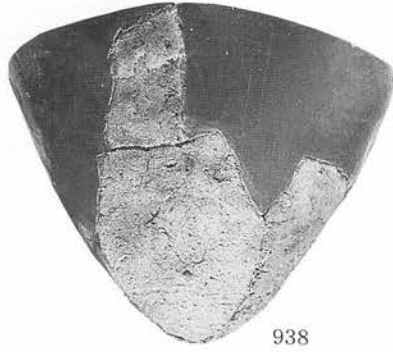
口縁部外面



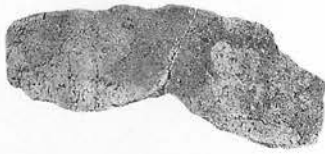
口縁部内面

写真図版42 C区捨て場出土土器(22)・製塩土器(1)





938



939



950



940



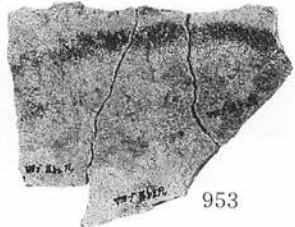
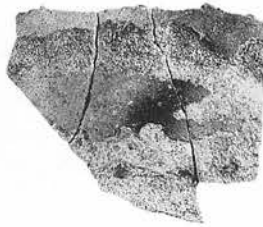
954



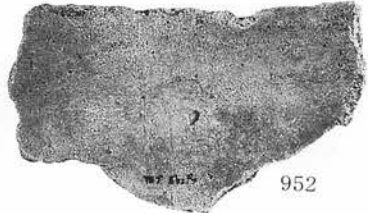
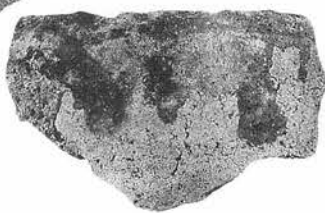
941



949



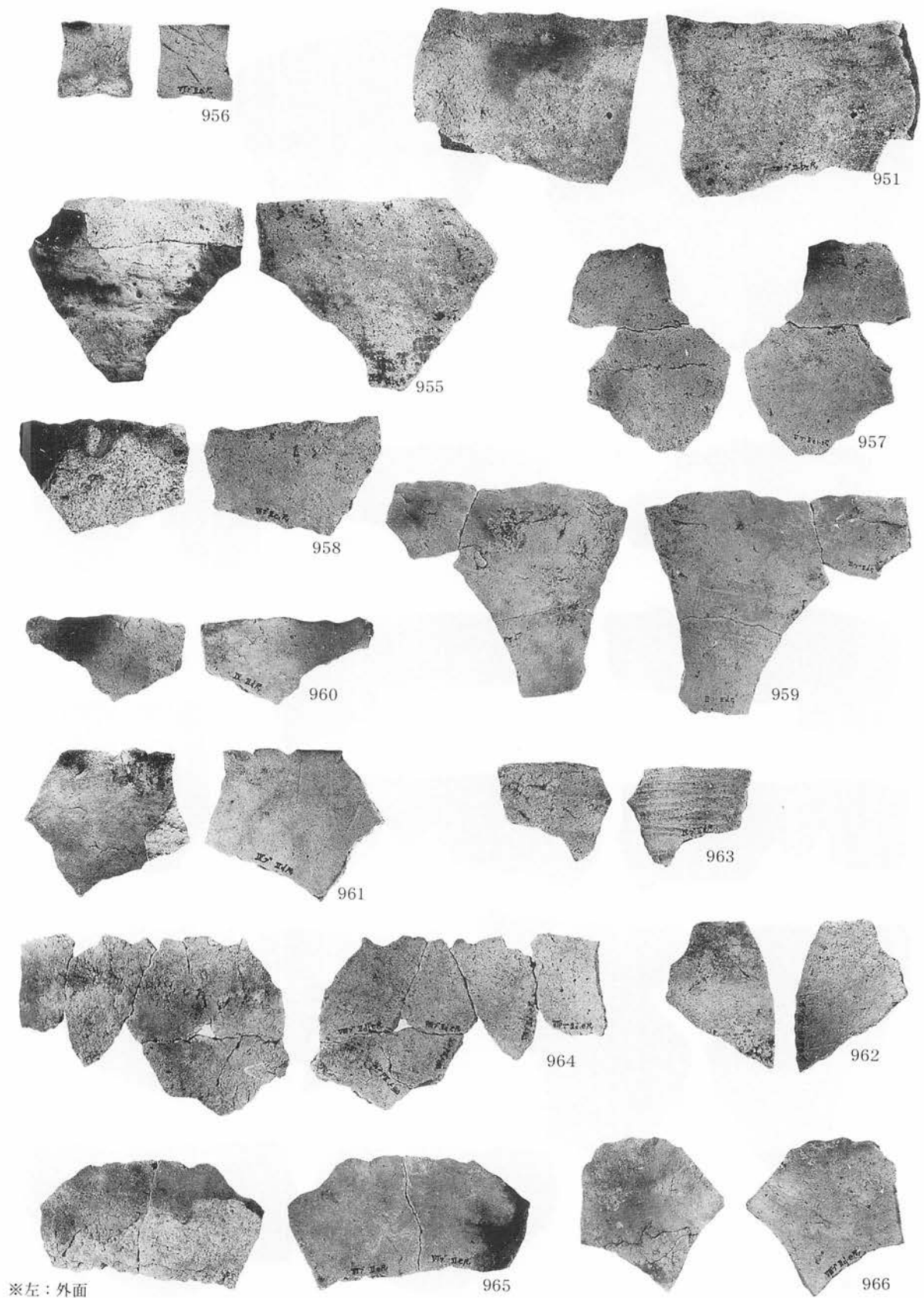
953



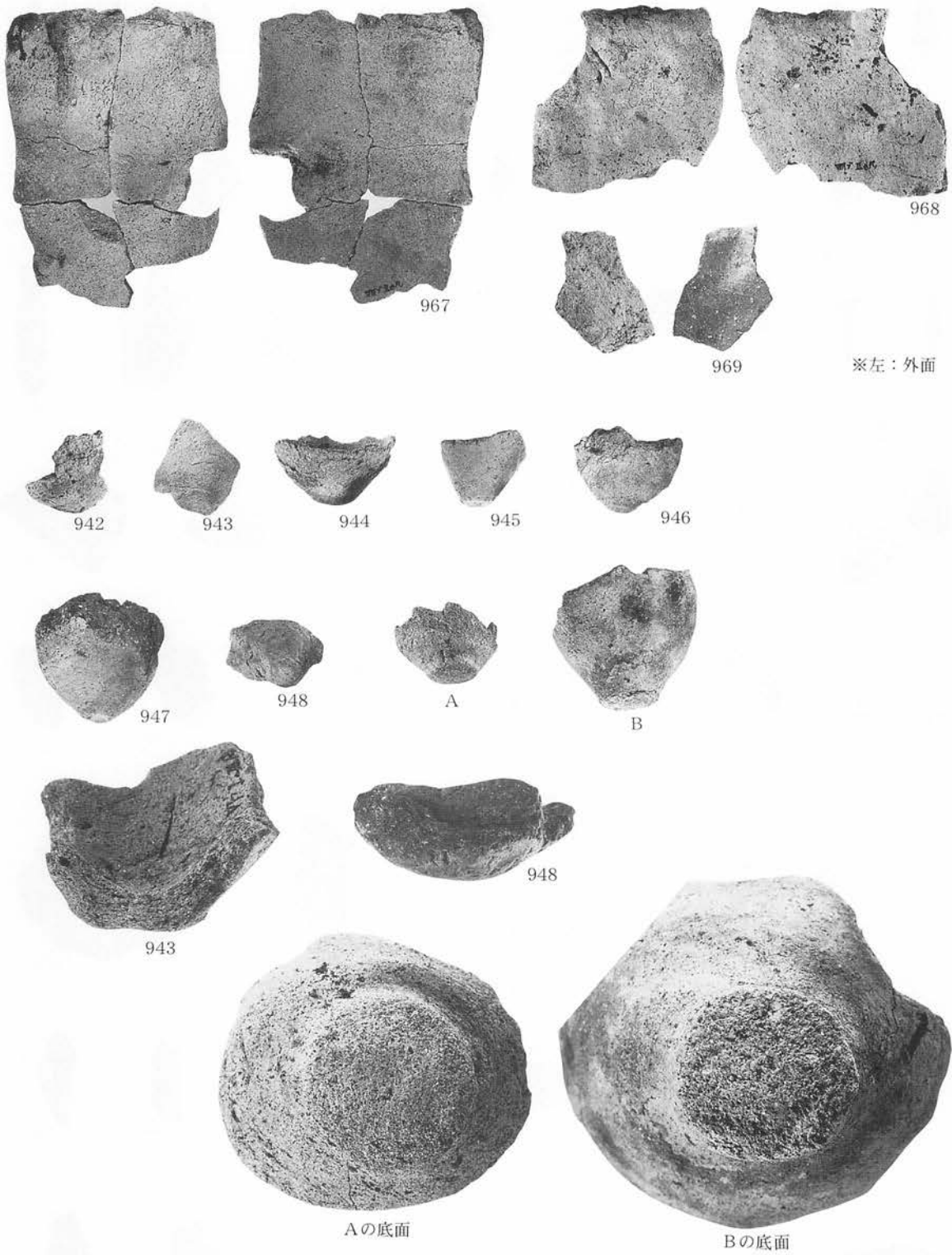
952

※左：外面

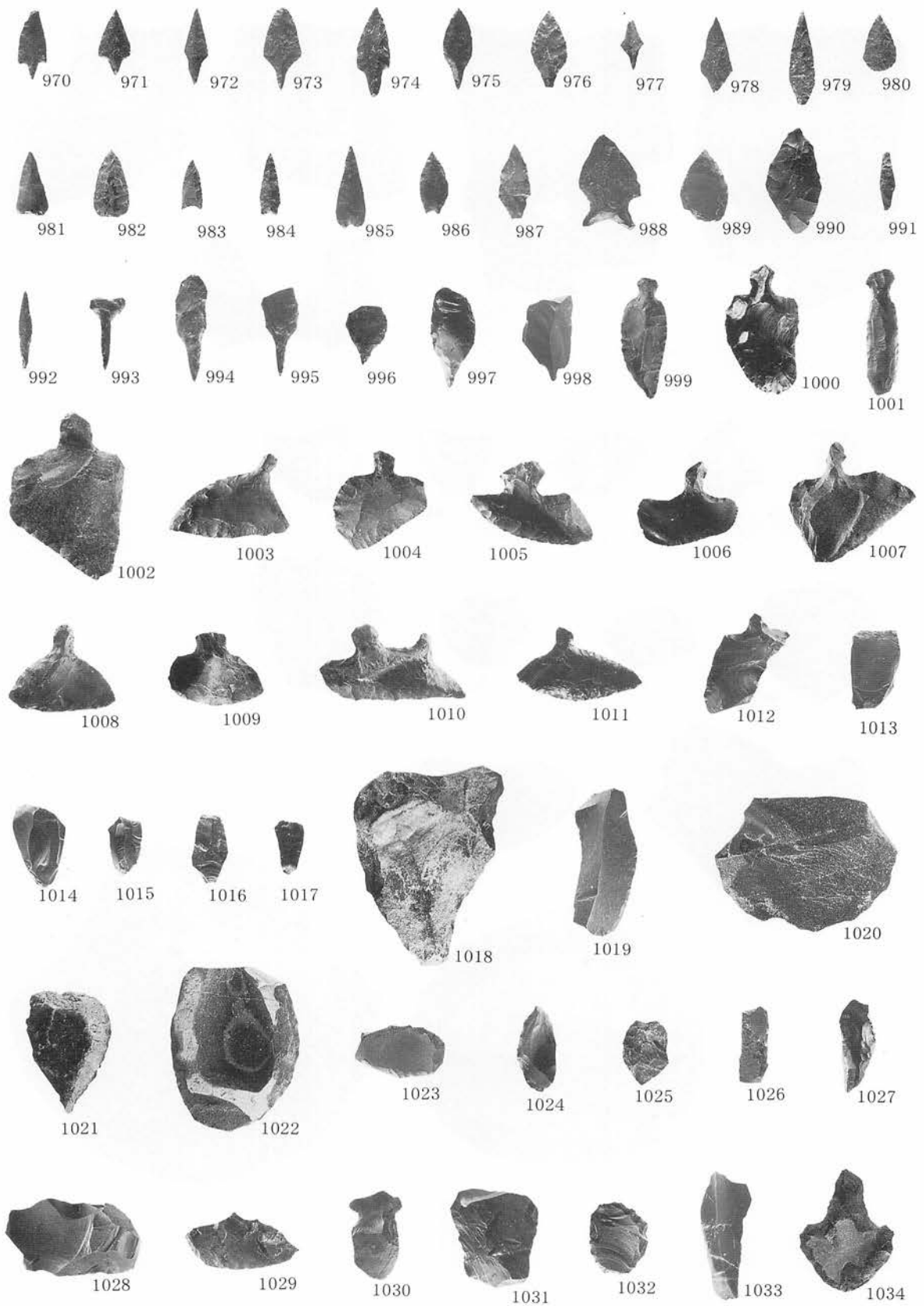
写真図版43 C区捨て場出土製塩土器(2)



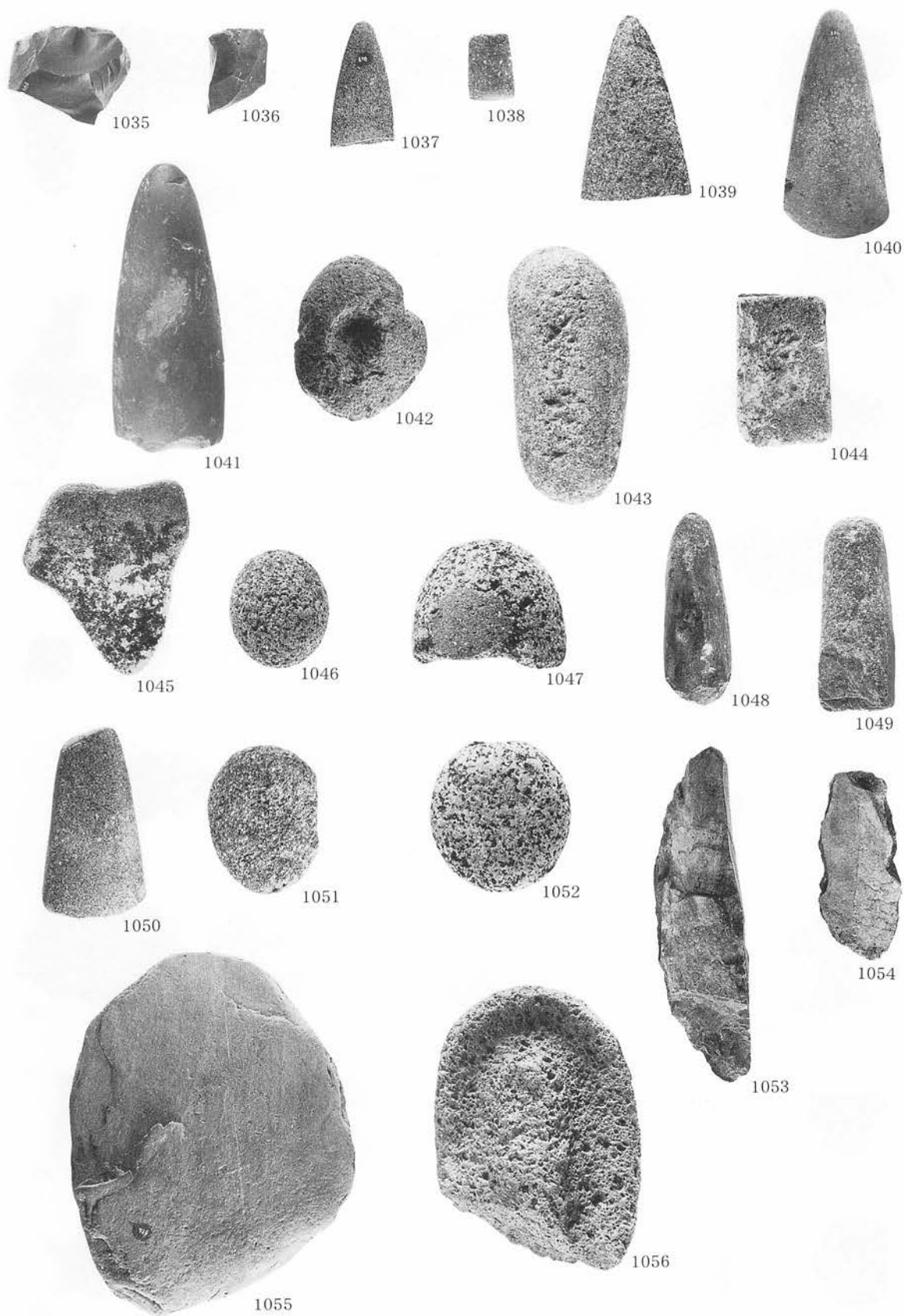
写真図版44 C区捨て場出土製塩土器(3)



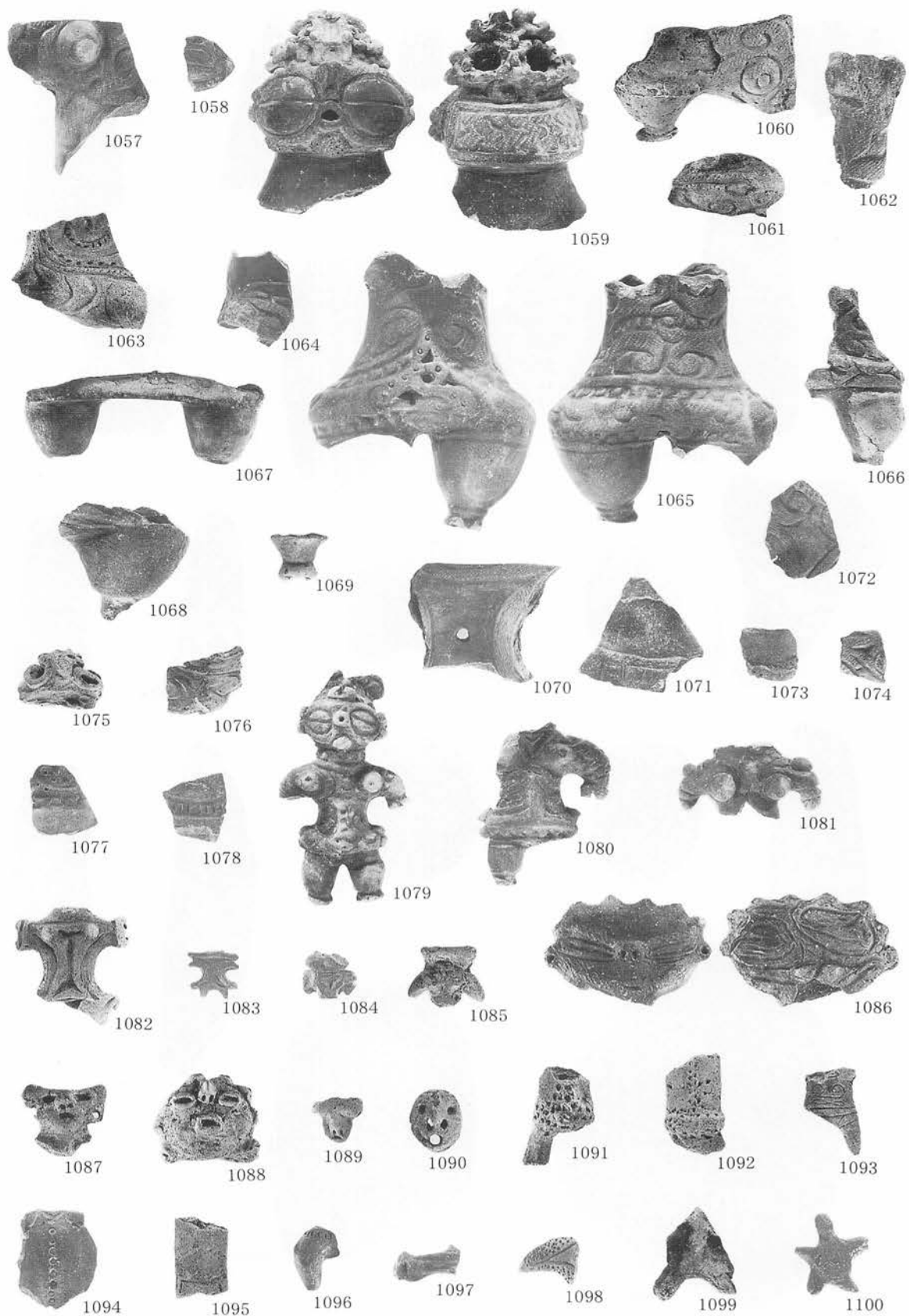
写真図版45 C区捨て場出土製塩土器(4)



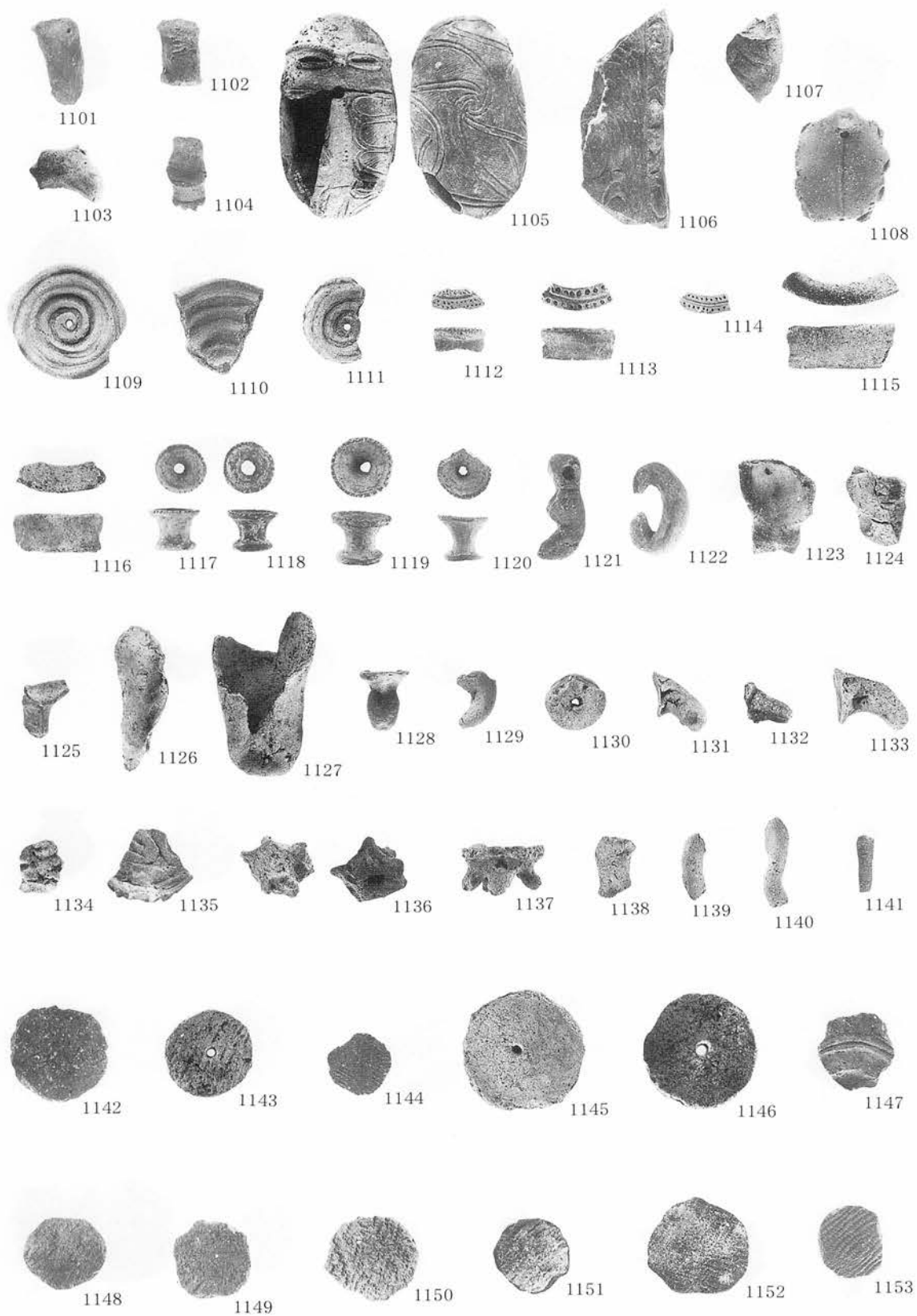
写真図版46 C区捨て場出土石器(1)



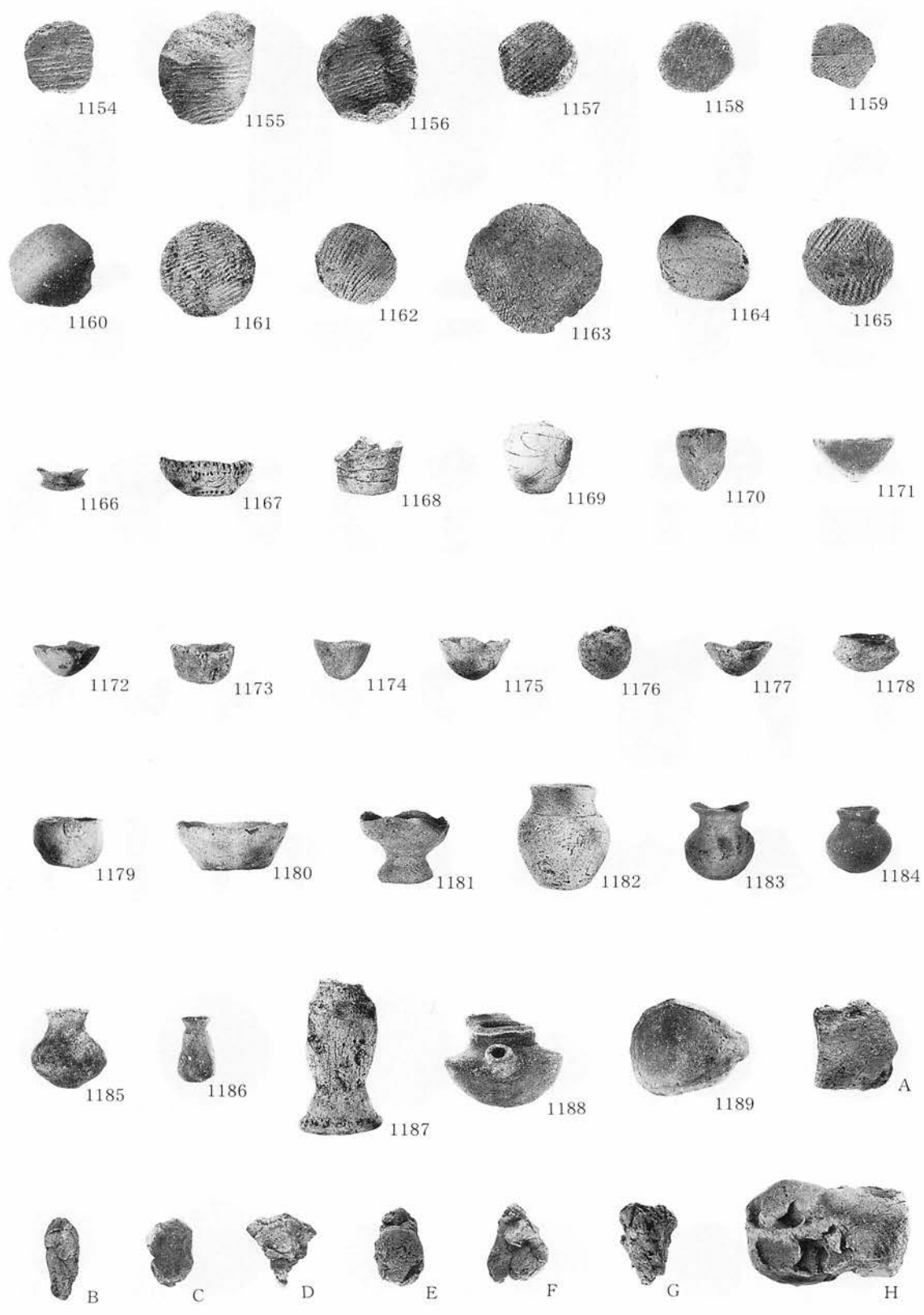
写真図版47 C区捨て場出土石器(2)



写真図版48 C区捨て場出土土製品(1)



写真図版49 C区捨て場出土土製品(2)

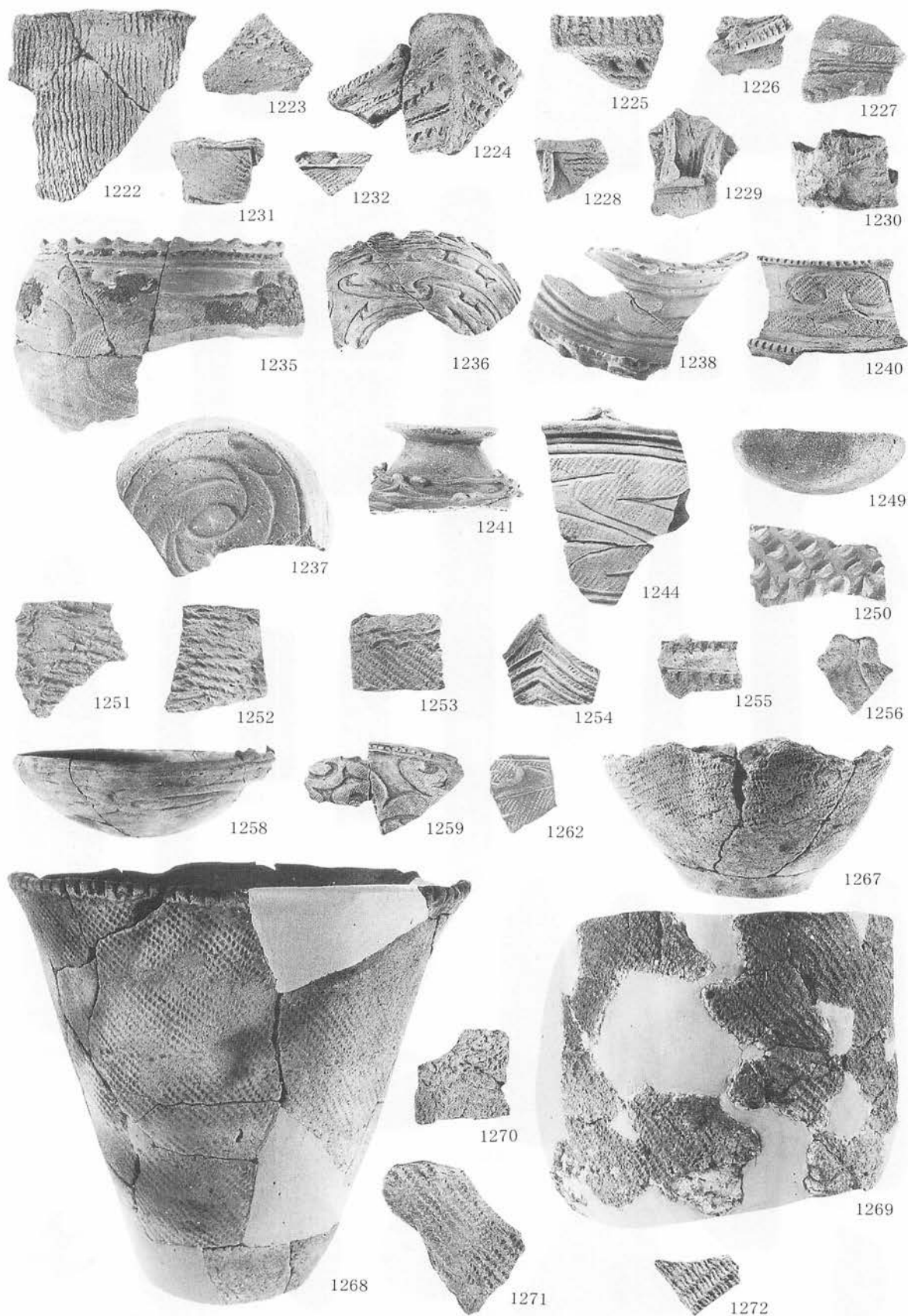


写真図版50 C区捨て場出土土製品(3)

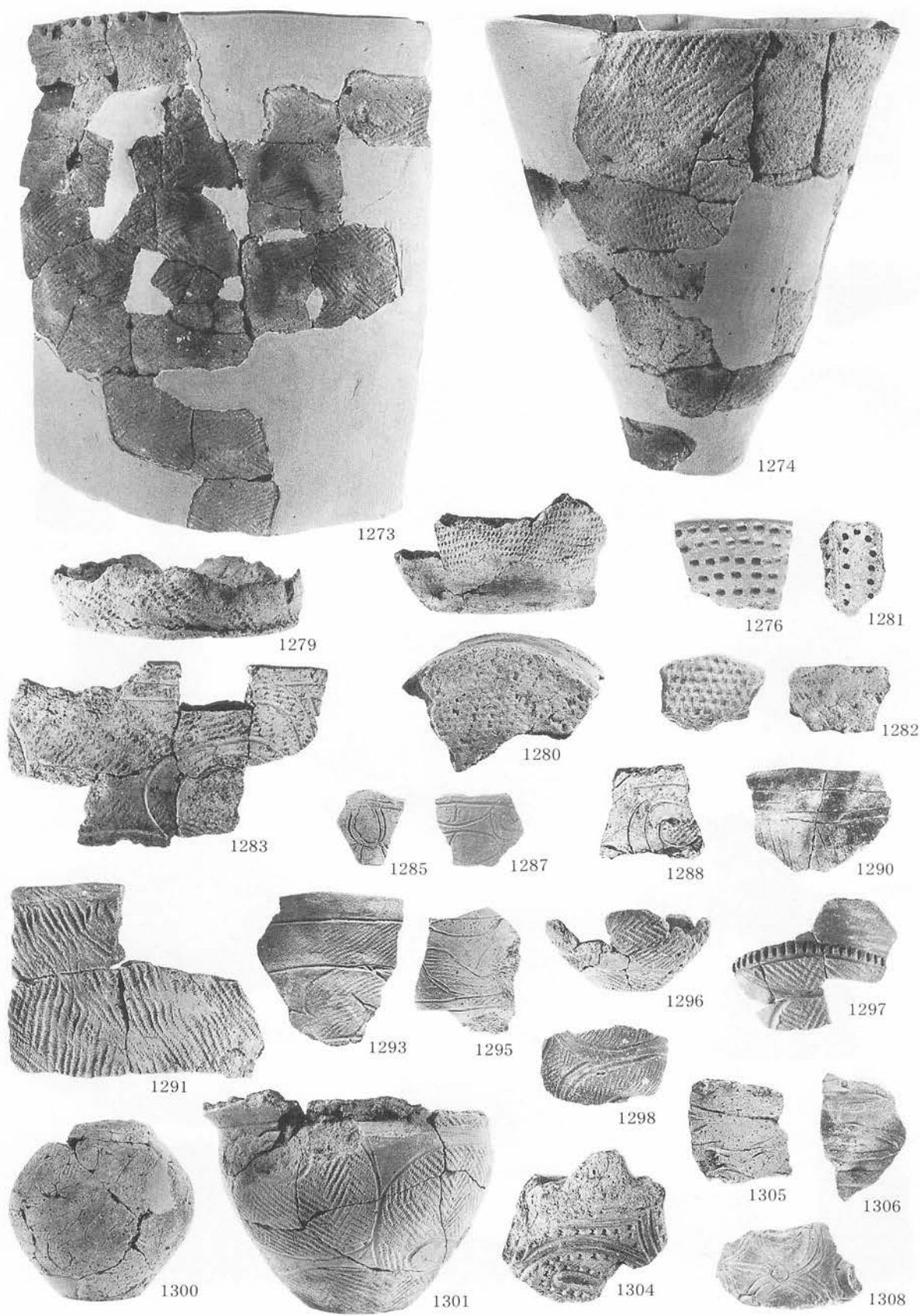




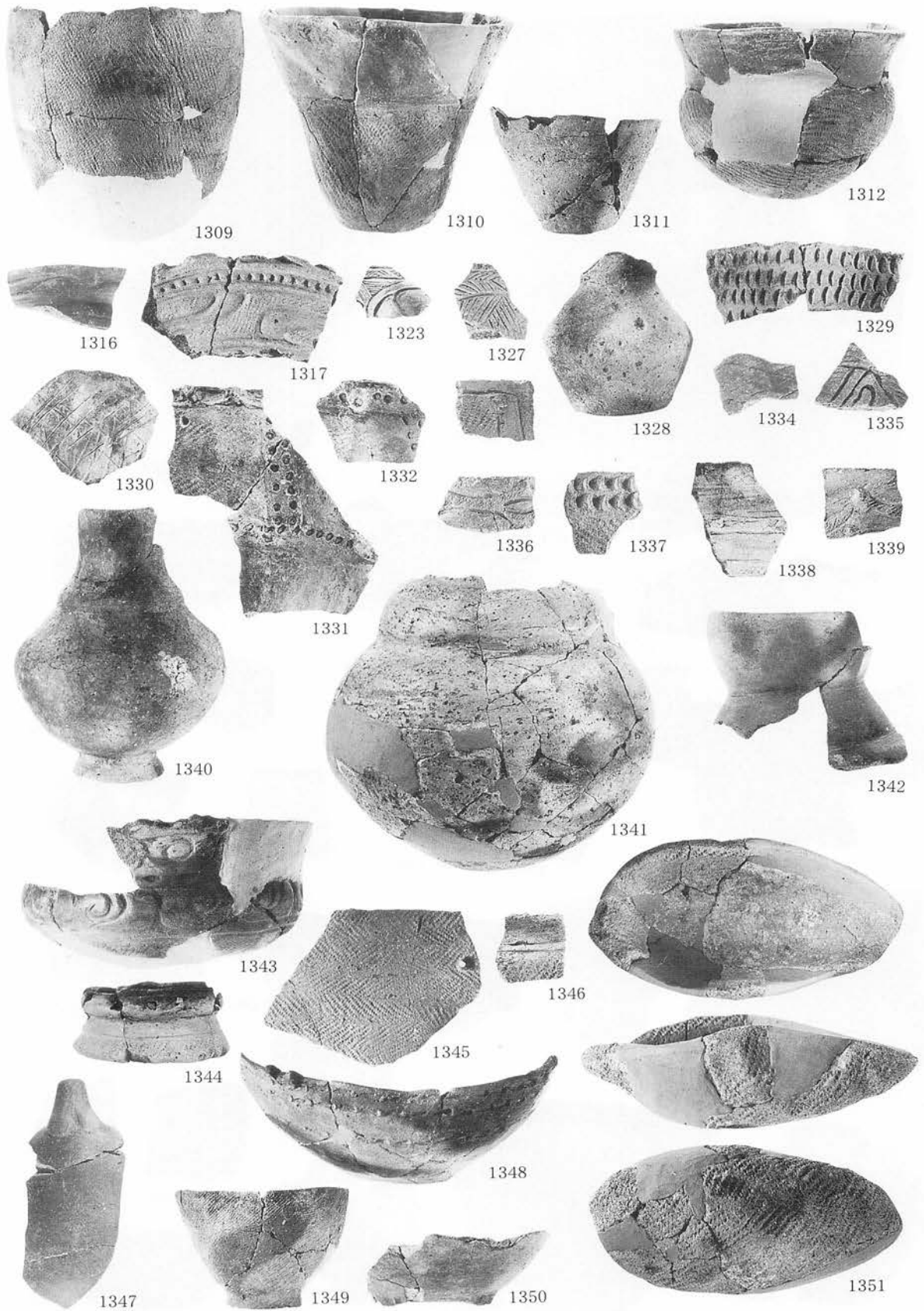
写真図版51 C区捨て場出土石製品



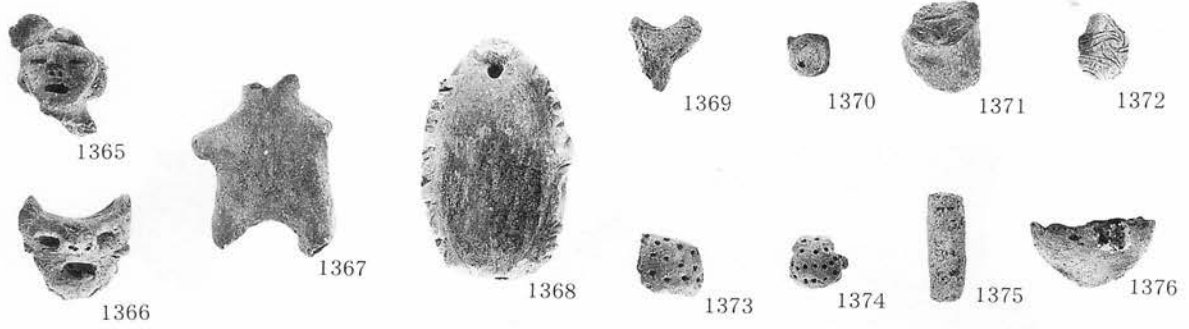
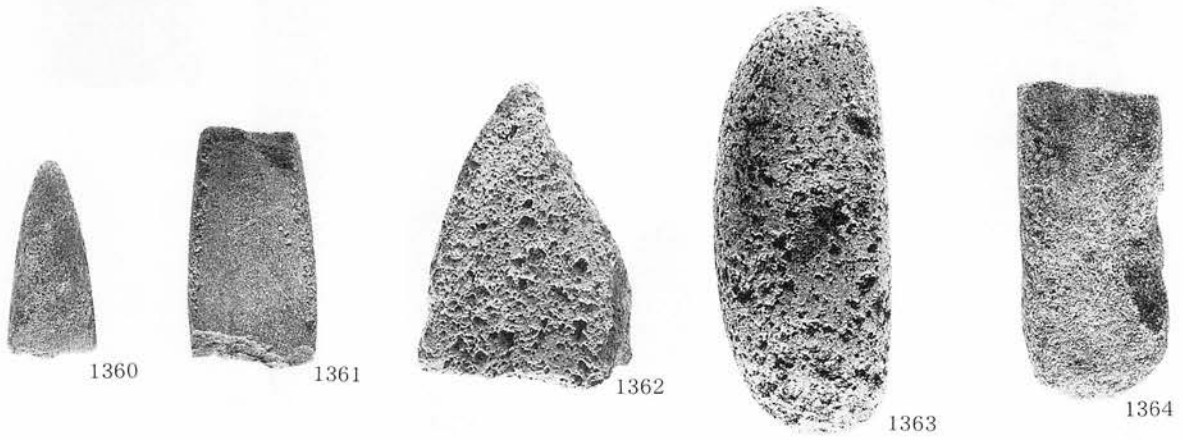
写真図版52 遺構外出土縄文土器(1)



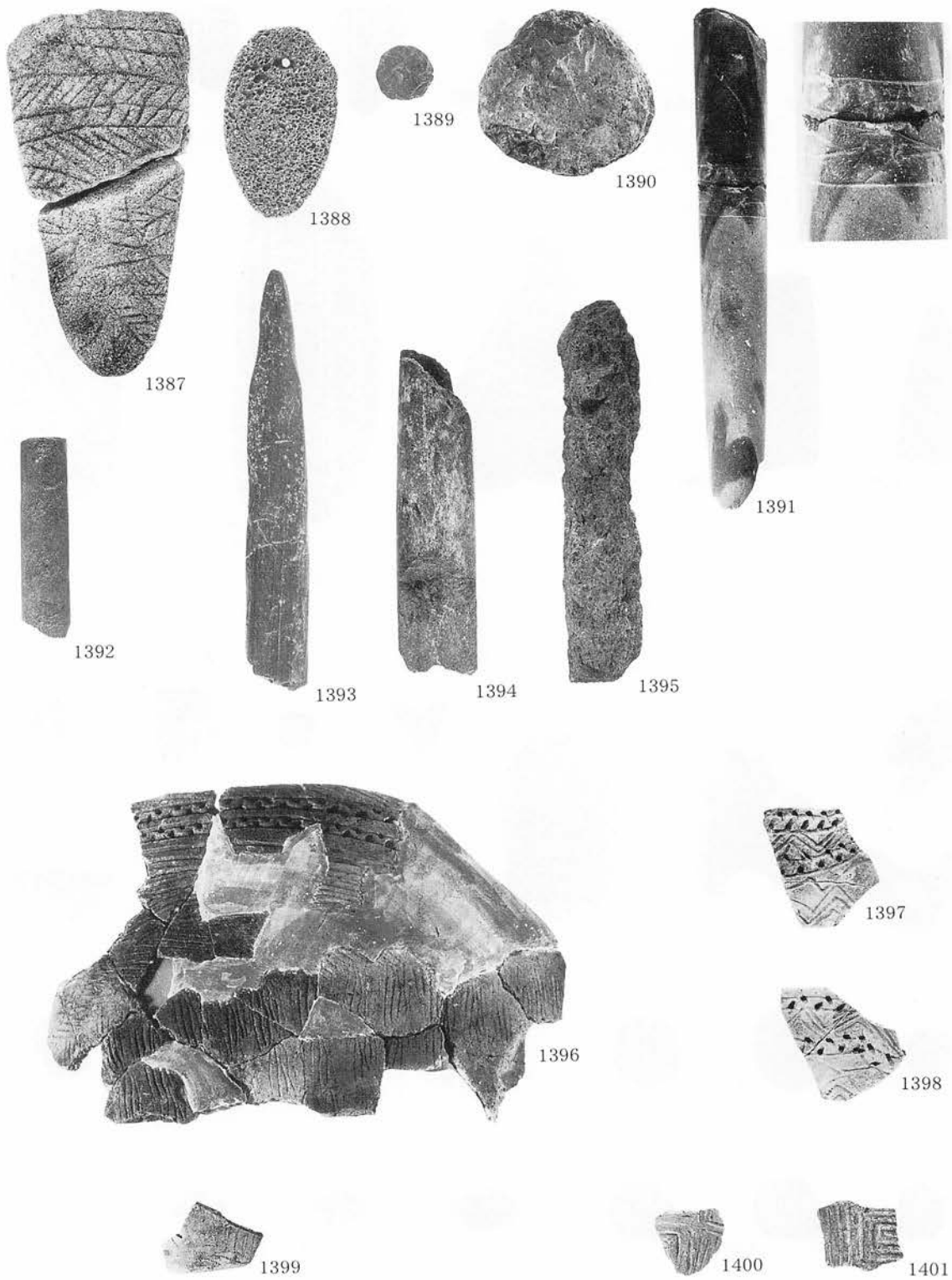
写真図版53 遺構外出土縄文土器(2)



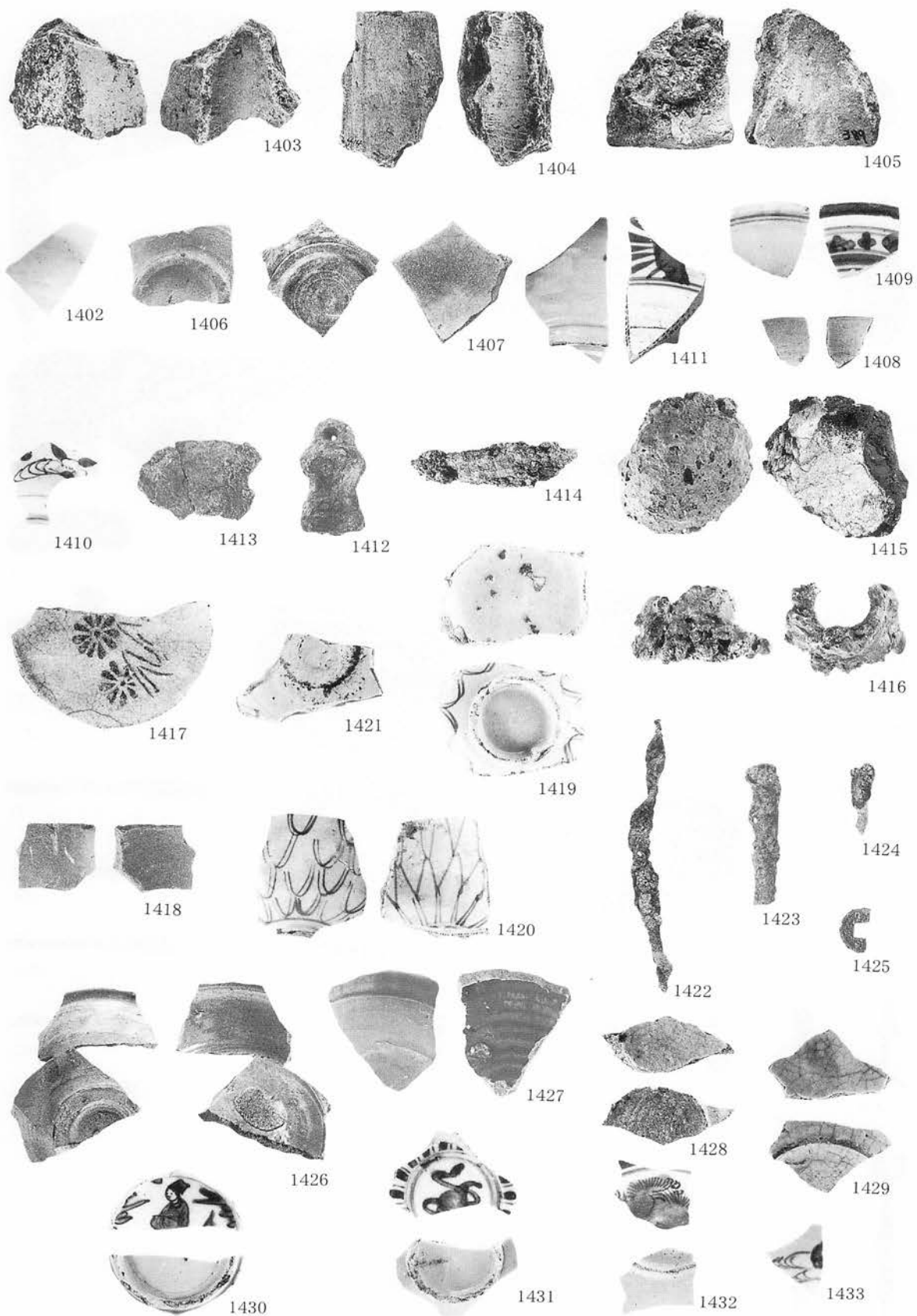
写真図版54 遺構外出土縄文土器(3)



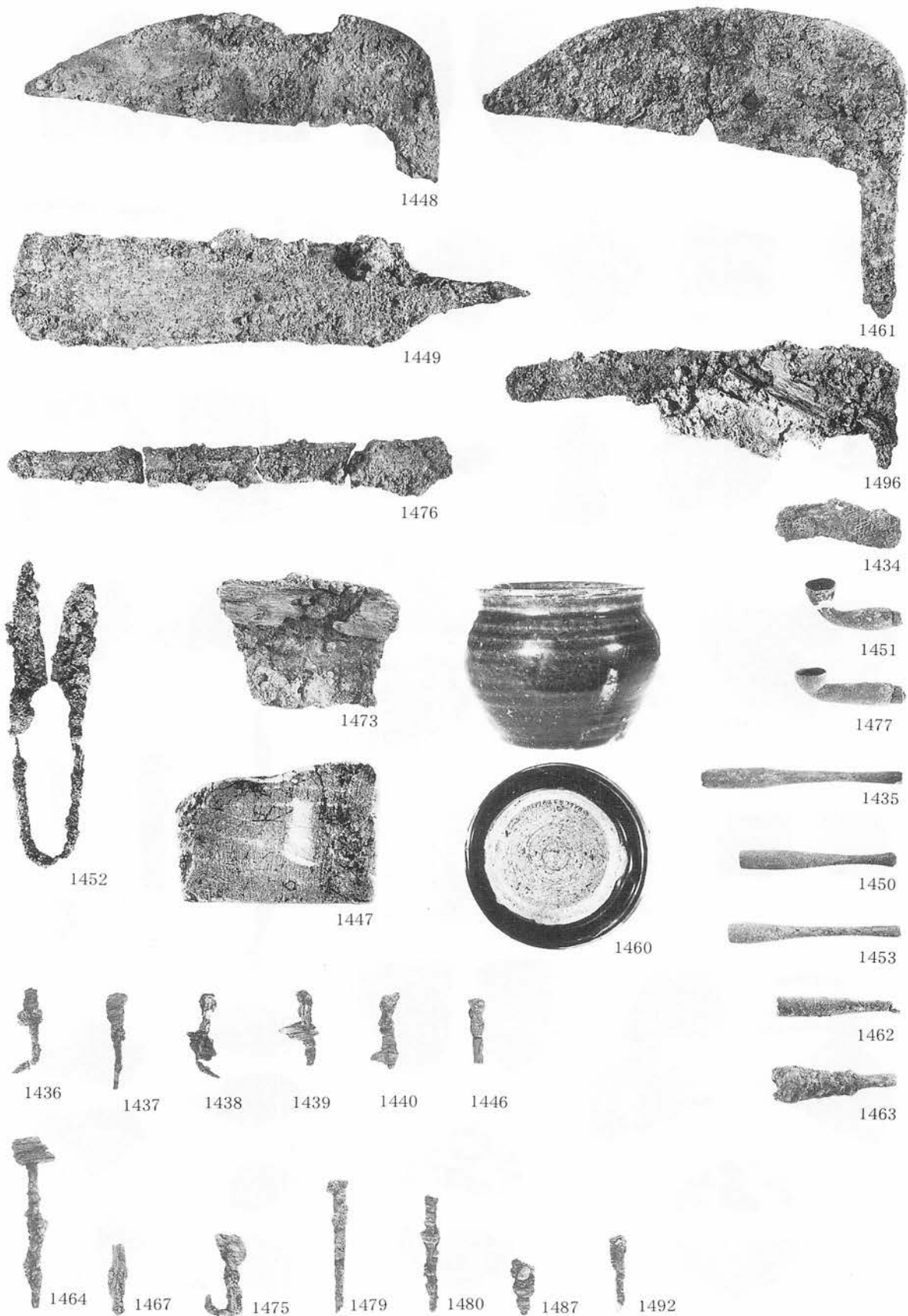
写真図版55 遺構外出土石器・土製品



写真図版56 遺構外出土石製品・弥生土器

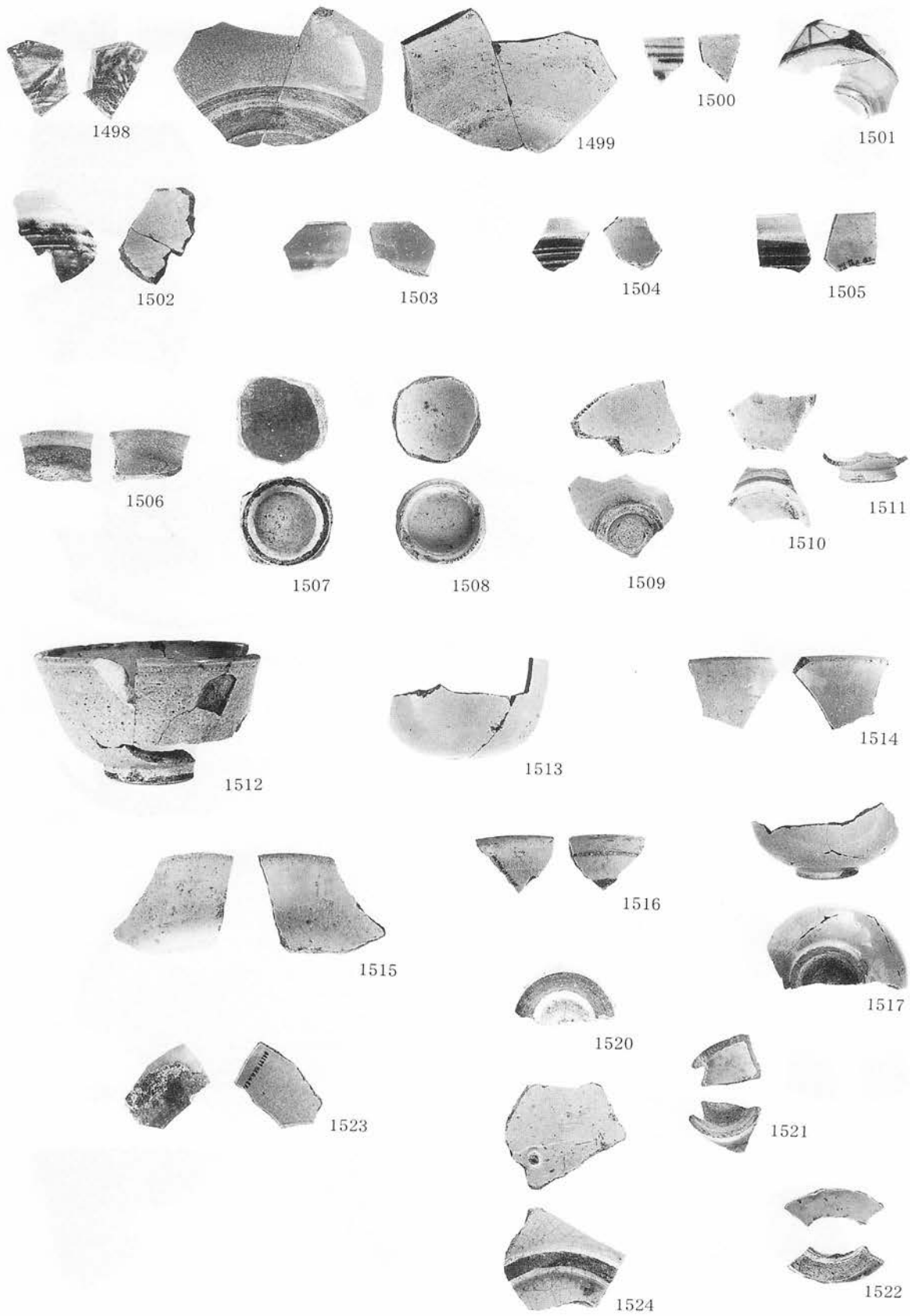


写真図版57 鍛冶炉・竪穴状遺構・掘立柱建物跡出土遺物

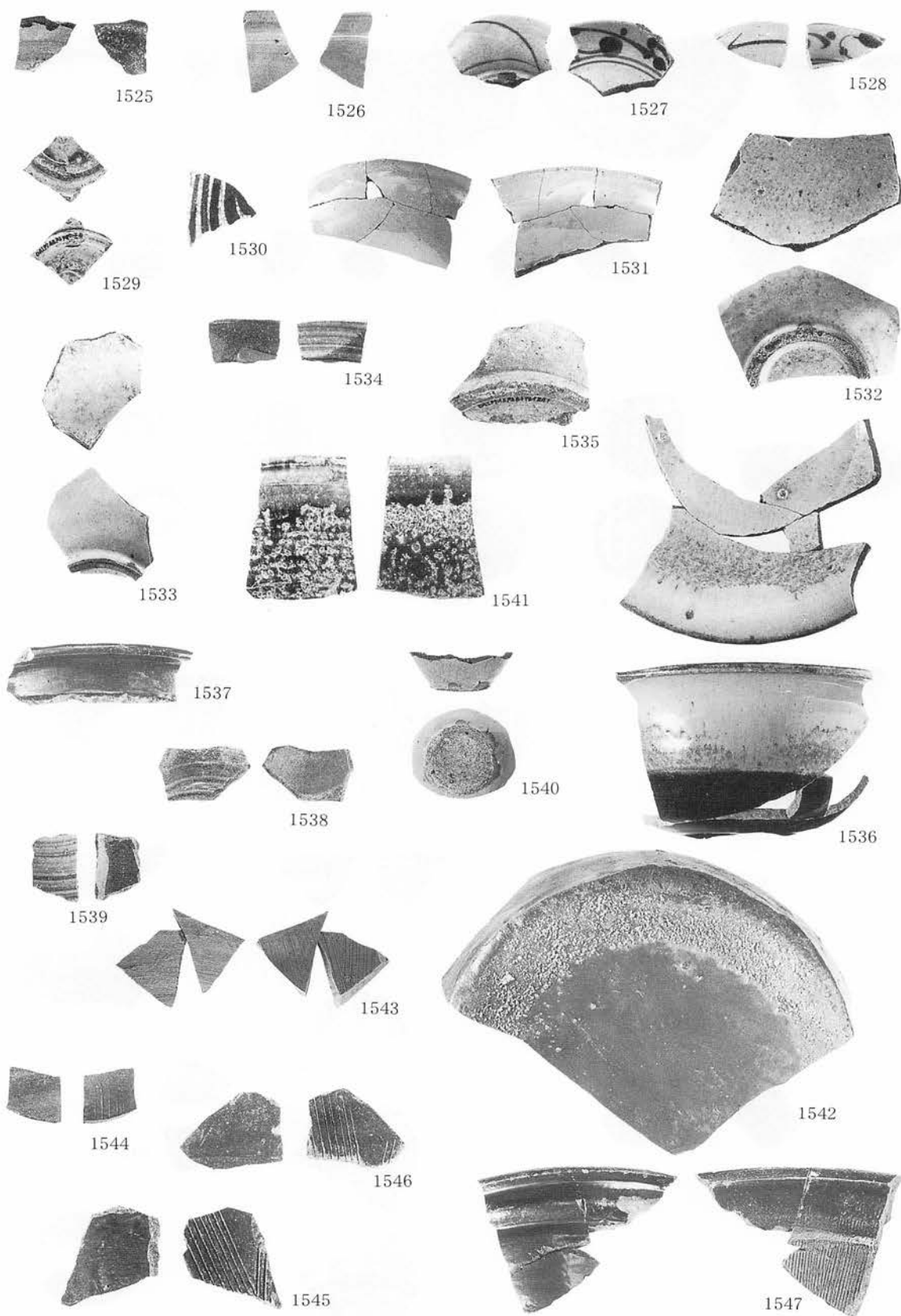


写真図版58 墓壙出土遺物

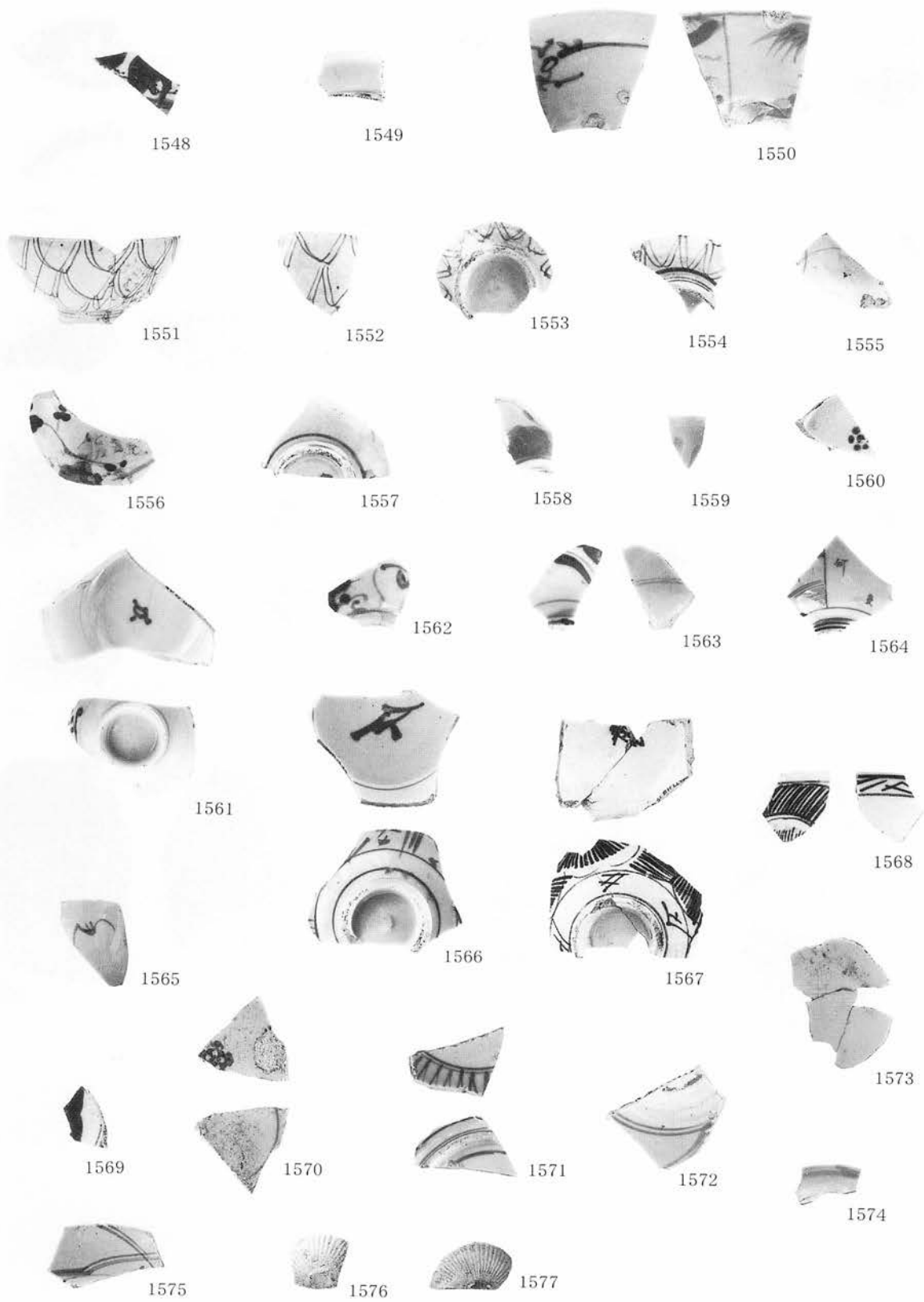




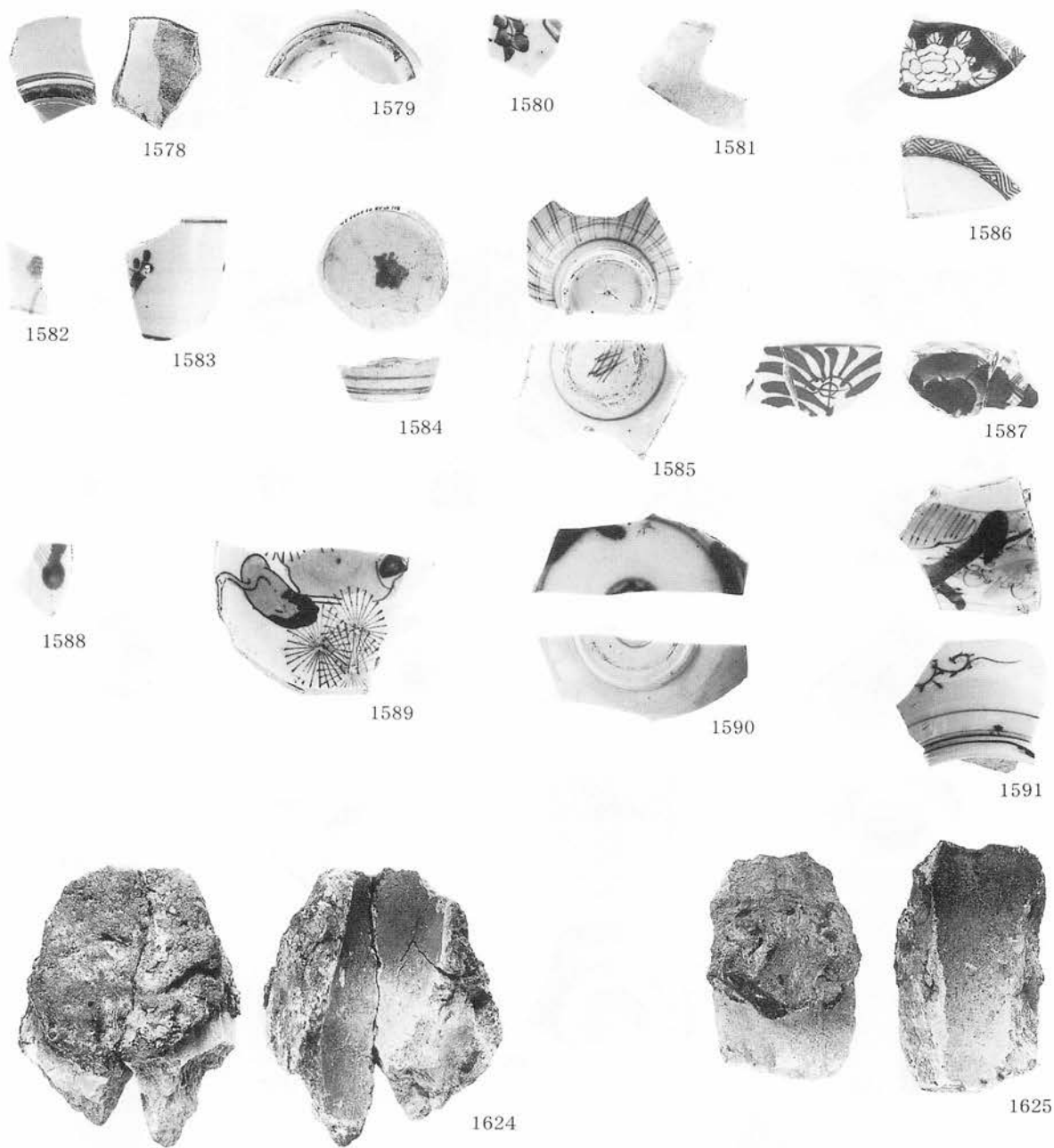
写真図版59 遺構外出土陶器(1)



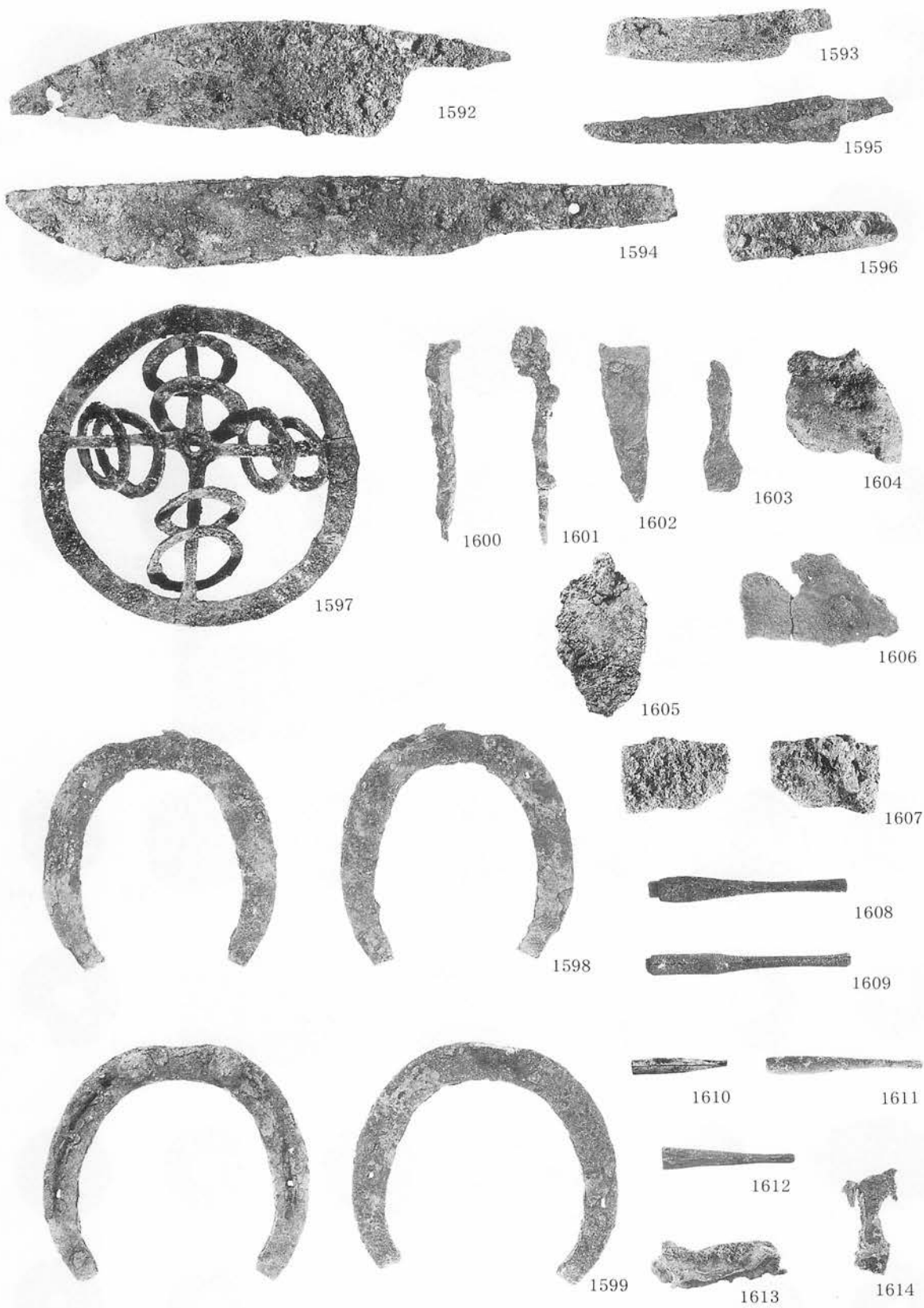
写真図版60 遺構外出土陶器(2)



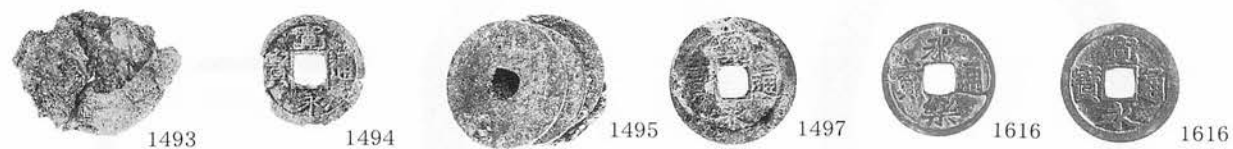
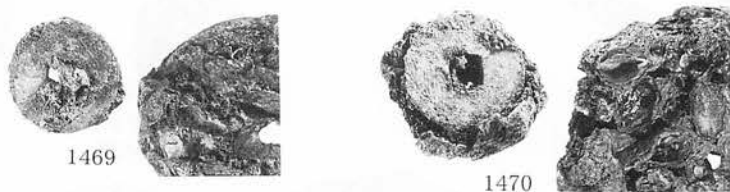
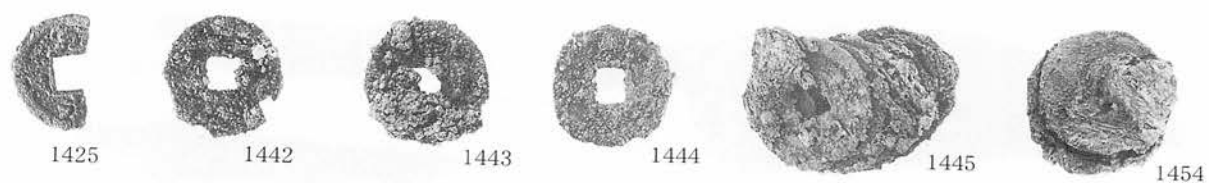
写真图版61 遺構外出土磁器(1)



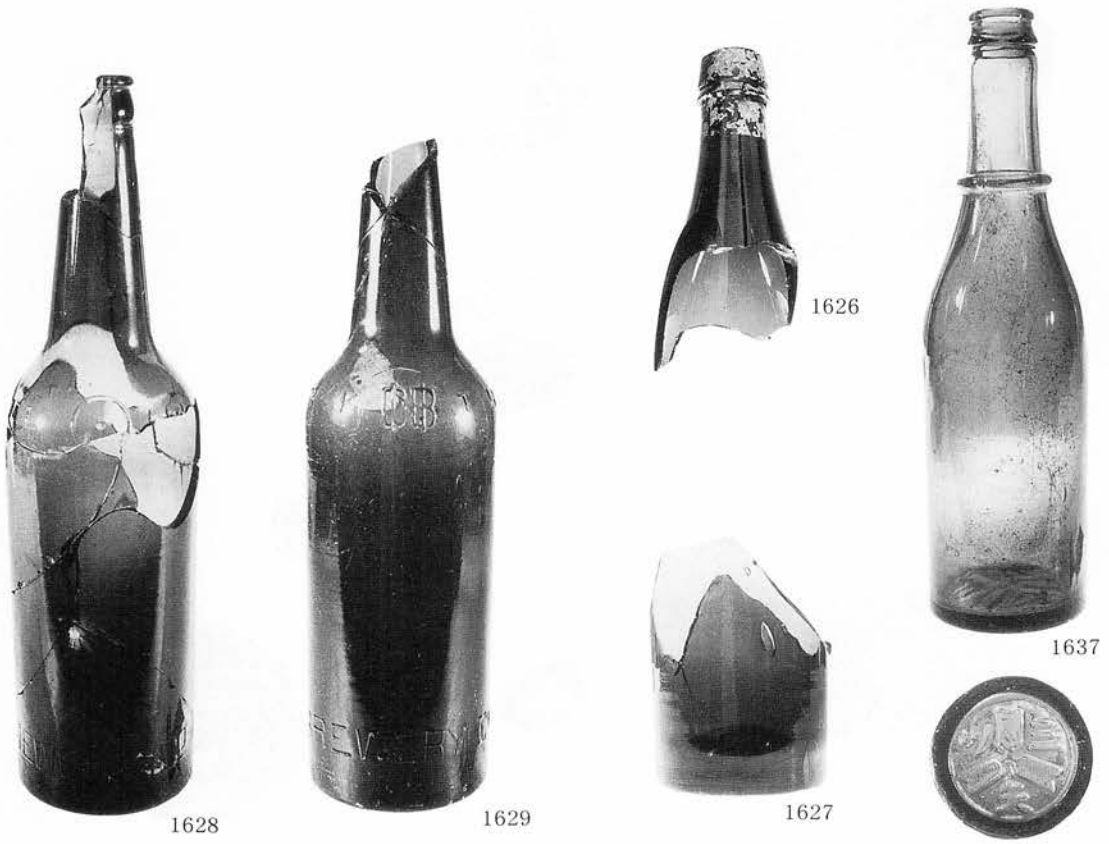
写真図版62 遺構外出土磁器(2)・羽口



写真図版63 遺構外出土金属製品



写真図版64 錢貨



1628

1629

1626

1627

1637



1635



1634



1630



1636



1633

写真図版65 遺構外出土ガラス製品



A



B



C



琥珀玉

琥珀原石



E



F

炭化材



G



H



I

炭化種実



J



K

アスファルト塊



L



M

粘土塊



N

写真図版66 琥珀・炭化材・炭化種実・アスファルト・粘土塊



## 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長	佐 藤 基		
副 所 長	伊 藤 直 司		
〔管理課〕			
管 理 課 長	澤 田 寛	嘱 託	藤 島 恵 子
主 任	立 花 多加志	"	新 田 ト ヨ
主 事	千 葉 勝 彦		
〔調査課〕			
調 査 課 長	小 田 野 哲 憲	文 化 財	星 雅 之
課 長 補 佐	高 橋 與 右 衛 門	專 門 調 査 員	" 高 木 晃
"	中 川 重 紀	"	" 佐 々 木 琢
主任文化財	佐 々 木 清 文	"	" 半 澤 武 彦
專 門 調 査 員	" 高 橋 義 介	"	" 朝 倉 雄 大
"	" 酒 井 宗 孝	"	" 杉 沢 昭 太 郎
文 化 財	古 舘 貞 身	"	" 溜 浩 二 郎
專 門 調 査 員	" 小 笠 原 健 一 郎	"	" 菊 池 貴 広
"	" 中 村 比 呂 志	"	" 村 上 拓
"	" 工 藤 徹	"	" 中 村 直 美
"	" 小 山 内 透	期 限 付	柴 田 慈 幸 (6 月 退 職)
"	" 金 子 佐 知 子	專 門 職 員	" 鈴 木 浩 二
"	" 岩 渕 計	"	" 鈴 木 聡
"	" 菊 地 榮 壽	"	" 平 澤 里 香
"	" 宮 本 節 子	"	" 山 口 俊 規
"	" 下 田 隆 衛	"	" 熊 谷 佳 恵
"	" 早 坂 悟	"	" 佐 々 木 志 麻
"	" 鳥 居 達 人	"	" 佐 藤 綾 子
"	" 濱 田 宏	"	" 玉 山 健 一
"	" 金 子 昭 彦	"	" 中 野 敦 夫
"	" 晴 山 雅 光	"	" 布 谷 義 彦
"	" 木 戸 口 俊 子	"	" 松 川 由 次
"	" 相 津 吉 彦	"	" 七 田 芳 直
"	" 阿 部 勝 則	"	" 鈴 木 見 誌
"	" 羽 柴 直 人	"	" 平 め ぐ み
〔資料課〕			
資 料 課 長	佐 々 木 嘉 直	文 化 財	松 尾 芳 幸
		專 門 調 査 員	

---

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第306集

## 大芦 I 遺跡発掘調査報告書

ふるさと農道緊急整備事業大芦地区関連遺跡発掘調査

印刷 平成10年3月18日

発行 平成10年3月20日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

TEL (019)638-9001

FAX (019)638-8563

印刷 株式会社 杜陵印刷

〒020-0122 盛岡市みたけ2-22-50

電話 (019)641-8000

FAX(019)641-8085